

法学部 政策科学科 (2019年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教育の基礎的理解に関する科目等 ■必修科目	教職論 EDU111M 楠 凡之	1学期	1	2	1
		1年			
	教育原理 EDU110M 見玉 弥生	1学期	1	2	2
		1年			
	教育心理学 PSY120M 山下 智也	2学期	1	2	3
		1年			
	教育社会学 EDU223M 恒吉 紀寿	1学期	2	2	4
		2年			
	教育課程論 EDU260M 見玉 弥生	2学期	2	2	5
		2年			
	道徳教育指導論 EDU264M 船原 将太	2学期	2	2	6
		2年			
	特別活動・キャリア教育論 EDU265M 楠 凡之	2学期	2	2	7
		2年			
	教育の方法と技術・総合的な学習の時間の指導法 EDU160M 下地 貴樹	2学期	1	2	8
		1年			
	生徒指導論 EDU262M 楠 凡之	2学期	2	2	9
		2年			
	教育相談 EDU261M 山下 智也	1学期	2	2	10
		2年			
教育実習 1 EDU380C 休講	2学期	3	2		
	3年				
教育実習 2 EDU480C 休講	1学期	4	2		
	4年				
教育実習 3 EDU481C 休講	1学期	4	2		
	4年				
教職実践演習 (中・高) EDU490C 休講	2学期	4	2		
	4年				
特別支援教育論 EDU263M 楠 凡之	1学期	2	2	11	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■教育の基礎的理解に関する科目等 ■選択科目	発達心理学 PSY220M 税田 慶昭	1学期	2	2	12	
	2年					
	障害児の心理と指導 PSY221M 休講	2学期	2	2		
	2年					
	人権教育論 EDU222M 河嶋 静代	1学期	2	2	13	
	2年					
	生涯学習学 EDU220M 休講	1学期	2	2		
	2年					
	■教科及び教科の指導法に関する科目	社会科教育法I EDU240C 下地 貴樹	1学期	2	2	14
		2年				
		社会科教育法II EDU241C 吉村 義則	2学期	2	2	15
		2年				
社会科教育法III EDU242C 下地 貴樹		1学期	3	2	16	
3年						
社会科教育法IV EDU243C 下地 貴樹		2学期	3	2	17	
3年						
公民科教育法A EDU244C 休講		1学期	3	2		
3年						
公民科教育法B EDU245C 休講		2学期	3	2		
3年						
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	日本史 加藤 絢子	1学期	1	2	18	
	1年					
	東洋史 植松 慎悟	2学期	1	2	19	
	1年					
	西洋史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	20	
	1年					
	人文地理学 美谷 薫	2学期	1	2	21	
	1年					
	土地地理学 野井 英明	1学期	1	2	22	
	1年					

法学部 政策科学科 (2019年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	地誌学 美谷 薫	2学期	1	2	23
		1年			
	教育とコンピューター 浅羽 修丈	1学期	2	2	24
		教職2年			
■地域科目	地域特講A (現代社会と新聞ジャーナリズム) SPL101F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	地域特講B (Innovation and Regional Development) SPL201F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	都市と地域 RDE002F 奥山 恭英	2学期	1	2	25
		1年			
	地域の社会と経済 ECN170F 李 錦東	1学期	1	2	26
		1年			
	地域の文化と歴史 HIS170F 南 博	1学期	1	2	27
		1年			
	地域の達人 CAR212F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	地域のにぎわいづくり RDE270F 南 博	2学期	1	2	28
		1年			
	地域と国際 RDE003F 吉村 英俊	1学期	1	2	29
		1年			
地域防災への招待 SSS001F 加藤 尊秋 他	1学期	1	2	30	
	1年				
地域防災への招待 SSS001F 未定	1学期	1	2	31	
	1年				
北九州市の都市政策 PLC270F 内田 晃	1学期	2	2	32	
	2年				
まなびと企業研究I CAR270F 小林 敏樹	2学期	2	2	33	
	2年				
まなびと企業研究II CAR370F 見館 好隆	1学期	3	2	34	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■環境科目	環境特講A (SDGsの可能性) SPL102F 日高 京子 他	2学期	1	2	35
		1年			
	環境特講B (現代社会とエシカル消費) SPL202F 大平 剛	1学期	1	2	36
		1年			
	環境都市としての北九州 ENV001F 日高 京子 他	2学期	1	2	37
		1年			
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	38
		1年			
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	1学期	1	2	39
		1年			
	未来を創る環境技術 ENV003F 上江洲 一也 他	1学期	1	2	40
		1年			
動物のみかた ZOL001F 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	41	
	1年				
自然学のまなざし ENV002F 竹川 大介 他	1学期	1	2	42	
	1年				
生命科学入門 BIO200F 日高 京子	2学期	1	2	43	
	1年				
環境ESD入門 ENV102F 石川 敬之	2学期	1	2	44	
	1年				
■世界 (地球) 科目	世界 (地球) 特講A (テロリズム論) SPL103F 戸蔭 仁司	1学期	1	2	45
		1年			
	世界 (地球) 特講B (ジェンダー平等 (SDG5) の課題解決) SPL203F 齊藤 園子 他	集中	1	2	46
		1年			
	韓国の社会と文化 ARE010F 金 慶湖	2学期	1	2	47
		1年			
国際学入門 IRL110F 伊野 憲治	2学期	1	2	48	
	1年				
安全保障論 PLS111F 戸蔭 仁司	2学期	1	2	49	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■世界 (地球) 科目	現代の国際情勢 IRL003F 篠崎 香織 他	1学期	1	2	50
		1年			
	国際社会と日本 IRL004F 中野 博文 他	2学期	1	2	51
		1年			
	グローバル化する経済 ECN001F 魏 芳 他	1学期	1	2	52
		1年			
	近代史入門 PLS110F 藤田 俊	2学期	1	2	53
		1年			
	Japanese Culture and Society ARE221F ロジャー・ウィリアムソン	2学期	2	2	54
		2年			
English Speaking Cultures and Societies ARE231F ローズマリー・リーダー	2学期	2	2	55	
	2年				
現代社会と文化 ANT210F 神原 ゆうこ	1学期	2	2	56	
	2年				
可能性としての歴史 HIS200F 藤田 俊	1学期	2	2	57	
	2年				
■知の技法科目	アカデミック・スキルズI GES101F 藤田 俊	1学期	1	2	58
		政 1 - 1			
	アカデミック・スキルズI GES101F 廣渡 栄寿	1学期	1	2	59
		政 1 - 2			
	アカデミック・スキルズI GES101F 中尾 泰士	2学期	1	2	60
		1学期未修得者再履			
	アカデミック・スキルズII (思考と推論) GES102F 浅羽 修丈	2学期	1	2	61
		1年			
アカデミック・スキルズII (レポートを書くために) GES102F 神原 ゆうこ	2学期	1	2	62	
	1年				
アカデミック・スキルズII (論理的に生きる) GES102F 中尾 泰士	2学期	1	2	63	
	1年				
アカデミック・スキルズII (安全保障を哲学する) GES102F 休講	2学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■知の技法科目	アカデミック・スキルズII (論理的思考、批判的思考、対 GES102F 高木 駿	2学期	1	2	64
		1年			
	アカデミック・スキルズII (豊かな大学生活のために) GES102F 永末 康介	2学期	1	2	65
		1年			
	アカデミック・スキルズII (歴史から考える) GES102F 藤田 俊	2学期	1	2	66
		1年			
	知の技法特講A SPL104F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	知の技法特講B SPL204F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	67
		1年			
法への誘い LAW001F 中村 英樹 他	2学期	1	2	68	
	1年				
コンピューターリテラシー INF101F 古川 洋章	2学期	1	1	69	
	1年				
データ分析 INF201F 浅羽 修丈	2学期	2	2	70	
	2年				
データ分析 INF201F 佐藤 貴之	2学期	2	2	71	
	2年				
データ分析 INF201F 池之上 正人	1学期	2	2	72	
	2年				
■知の創造科目	知の創造特講A SPL105F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	知の創造特講B (戦後の日本経済) SPL205F 土井 徹平	2学期	1	2	73
		1年			
社会学的思考 SOC002F 稲月 正	1学期	1	2	74	
	1年				
ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	2学期	1	2	75	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■知の創造科目	現代人のこころ PSY003F 税田 慶昭 他	1学期	1	2	76
	1年				
	企業と社会 BUS001F 山下 剛	1学期	1	2	77
	1年				
	民主主義とは何か PLS002F 中井 遼	2学期	1	2	78
	1年				
	民主主義とは何か PLS002F 中井 遼	1学期	1	2	79
	1年				
	社会哲学入門 PHR110F 高木 駿	1学期	1	2	80
	1年				
	文化を読む LIT001F 河内 重雄 他	1学期	1	2	81
	1年				
	芸術と人間 PHR006F 真武 真喜子	2学期	1	2	82
	1年				
現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	83	
1年					
情報表現 INF230F 廣渡 栄寿	2学期	1	2	84	
1年					
倫理思想史 PHR005F 高木 駿	2学期	1	2	85	
1年					
言語・認知・コミュニケーション LIN210F 漆原 朗子 他	2学期	2	2	86	
2年					
戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期	2	2	87	
2年					
■共生と協働科目	共生と協働特講A SPL106F 休講	1学期	1	2	
	1年				
	異文化理解の基礎 神原 ゆうこ	2学期	1	2	88
1年					
人権論 SOC004F 柳井 美枝	1学期	1	2	89	
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■共生と協働科目	ジェンダー論 GEN001F 高木 駿	1学期	1	2	90
			1年		
	サービスラーニング入門I CAR110F 石川 敬之	1学期	1	2	91
			1年		
	サービスラーニング入門II CAR180F 石川 敬之	2学期	1	2	92
			1年		
	市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	93
			1年		
	地域福祉論 SOW011F 坂本 毅啓	2学期	1	2	94
			1年		
	障がい学 SOW001F 伊野 憲治	1学期	1	2	95
			1年		
	共生社会論 SOW200F 伊野 憲治	2学期	2	2	96
			2年		
	基盤演習I (防衛セミナー) GES201F 戸蔭 仁司	1学期	2	2	97
			2年		
	基盤演習I (発達障がいセミナー) GES201F 伊野 憲治	1学期	2	2	98
			2年		
基盤演習I GES201F 石川 敬之	1学期	2	2	99	
		2年			
基盤演習II GES202F 高木 駿	2学期	2	2	100	
		2年			
基盤演習II GES202F 石川 敬之	2学期	2	2	101	
		2年			
基盤力応用 (日本近代史演習) GES301F 藤田 俊	2学期	3	2	102	
		3年			
基盤力応用 GES301F 神原 ゆうこ	2学期	3	2		
		3年			
■ライフ・デザイン科目	ライフ・デザイン特講A SPL107F 休講	1学期	1	2	
		1年			

法学部 政策科学科 (2019年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・デザイン科目	ライフ・デザイン特講B (海外学習プログラム) SPL207F 友松 史子 他	集中	1	2	103
		1年			
	キャリア・デザイン CAR100F 眞鍋 和博	1学期	1	2	104
		1年			
	キャリア・デザイン CAR100F 石川 敬之	1学期	1	2	105
		1年			
	キャリア・デザイン CAR100F 見館 好隆	1学期	1	2	106
		1年			
	メンタル・ヘルス PSY001F 寺田 千栄子	1学期	1	2	107
		1年			
	自己管理論 HSS003F 日高 京子 他	1学期	1	2	108
		1年			
	フィジカル・ヘルス HSS001F 高西 敏正	1学期	1	2	109
		1年			
	フィジカル・ヘルス HSS001F 柴原 健太郎	1学期	1	2	110
		1年			
	フィジカル・ヘルス HSS001F 豊田 直樹	1学期	1	2	111
		1年			
	フィジカル・ヘルス HSS001F 山本 浩二	2学期	1	2	112
		1年			
フィジカル・ヘルス HSS001F 高西 敏正	2学期	1	2	113	
	1年				
フィジカル・ヘルス HSS001F 柴原 健太郎	2学期	1	2	114	
	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 山本 浩二	1学期	1	1	115	
	1年				
フィジカル・エクササイズI (外種目) HSS081F 徳永 政夫	1学期	1	1	116	
	1年				
フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) HSS081F 倉崎 信子	1学期	1	1	117	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・デザイン科目	フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) HSS081F 小幡 博基	1学期	1	1	118
	1年				
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール) HSS081F 八板 昭仁	1学期	1	1	119
	1年				
	フィジカル・エクササイズII (バasketボール) HSS082F 八板 昭仁	2学期	1	1	120
	1年				
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 徳永 政夫	2学期	1	1	121
	1年				
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	122
	1年				
	フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボー HSS082F 小幡 博基	2学期	1	1	123
	1年				
	フィジカル・エクササイズII (外種目) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	124
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 豊田 直樹	2学期	1	1	125	
1年					
世界での学び方 CAR001F 友松 史子 他	1学期	1	2	126	
1年					
世界での学び方 CAR001F 友松 史子 他	2学期	1	2	127	
1年					
プロフェッショナルの仕事 CAR210F 見館 好隆	1学期	2	2	128	
2年					
企業・団体の課題解決 CAR211F 見館 好隆	2学期	2	2	129	
2年					
■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English I (律政群 1-A) ENG101F 伊藤 晃	1学期	1	1	130
	律政群 1 - A				
	Communicative English I (律政群 1-B) ENG101F 安丸 雅子	1学期	1	1	131
	律政群 1 - B				
	Communicative English I (律政群 1-C) ENG101F 林 裕二	1学期	1	1	132
	律政群 1 - C				

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English I (律政群 1-D)		1学期	1	1	133
	ENG101F	船方 浩子	律政群 1 - D			
	Communicative English I (律政群 1-E)		1学期	1	1	134
	ENG101F	永末 康介	律政群 1 - E			
	Communicative English I (律政群 1-F)		1学期	1	1	135
	ENG101F	團迫 雅彦	律政群 1 - F			
	Communicative English I (律政群 1-G)		1学期	1	1	136
	ENG101F	伊藤 晃	律政群 1 - G			
	Communicative English I (律政群 1-H)		1学期	1	1	137
	ENG101F	木梨 安子	律政群 1 - H			
	Communicative English I (律政群 1-I)		1学期	1	1	138
	ENG101F	下條 かおり	律政群 1 - I			
	Communicative English II (律政群 1-A)		2学期	1	1	139
	ENG111F	相原 信彦	律政群 1 - A			
	Communicative English II (律政群 1-B)		2学期	1	1	140
	ENG111F	永末 康介	律政群 1 - B			
	Communicative English II (律政群 1-C)		2学期	1	1	141
ENG111F	安丸 雅子	律政群 1 - C				
Communicative English II (律政群 1-D)		2学期	1	1	142	
ENG111F	伊藤 晃	律政群 1 - D				
Communicative English II (律政群 1-E)		2学期	1	1	143	
ENG111F	伊藤 晃	律政群 1 - E				
Communicative English II (律政群 1-F)		2学期	1	1	144	
ENG111F	船方 浩子	律政群 1 - F				
Communicative English II (律政群 1-G)		2学期	1	1	145	
ENG111F	團迫 雅彦	律政群 1 - G				
Communicative English II (律政群 1-H)		2学期	1	1	146	
ENG111F	相原 信彦	律政群 1 - H				
Communicative English II (律政群 1-I)		2学期	1	1	147	
ENG111F	木梨 安子	律政群 1 - I				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English VI (律政群 2 C-C) ENG211F 十時 康	2学期	2	1	178
		律政群 2 C - C			
	Communicative English VI (律政群 2 C-D) ENG211F 木梨 安子	2学期	2	1	179
		律政群 2 C - D			
	Communicative English VII (律政群 2 C-A) ENG202F マーニー・セイディ	1学期	2	1	180
		律政群 2 C - A			
	Communicative English VII (律政群 2 C-B) ENG202F ポール・ガラフ・スティール	1学期	2	1	181
		律政群 2 C - B			
	Communicative English VII (律政群 2 C-C) ENG202F クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	182
		律政群 2 C - C			
	Communicative English VII (律政群 2 C-D) ENG202F ケネス・ギブソン	1学期	2	1	183
		律政群 2 C - D			
	Communicative English VII (律政群 2 C-E) ENG202F デビット・ニール・マクレラン	1学期	2	1	184
		律政群 2 C - E			
	Communicative English VII (律政群 2 C-F) ENG202F クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	185
		律政群 2 C - F			
	Communicative English VII (律政群 2 C-G) ENG202F ロバート・マーフィ	1学期	2	1	186
		律政群 2 C - G			
	Communicative English VIII (律政群 2 C-A) ENG212F 村田 希巳子	2学期	2	1	187
	律政群 2 C - A				
Communicative English VIII (律政群 2 C-B) ENG212F 十時 康	2学期	2	1	188	
	律政群 2 C - B				
Communicative English VIII (律政群 2 C-C) ENG212F 下條 かおり	2学期	2	1	189	
	律政群 2 C - C				
Communicative English VIII (律政群 2 C-D) ENG212F 大塚 由美子	2学期	2	1	190	
	律政群 2 C - D				
Communicative English VIII (律政群 2 C-E) ENG212F 酒井 秀子	2学期	2	1	191	
	律政群 2 C - E				
Communicative English VIII (律政群 2 C-F) ENG212F 百武 玉恵	2学期	2	1	192	
	律政群 2 C - F				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English VIII (律政群 2 C-G) ENG212F 薬師寺 元子	2学期	2	1	193
		律政群 2 C - G			
	Intermediate English I (律政 2 I - C) ENG301F 村田 希巳子	1学期	2	2	194
		律政 2 I - C			
	Intermediate English I (律政 2 I - A) ENG301F 薬師寺 元子	1学期	2	2	195
		律政 2 I - A			
	Intermediate English I (律政 2 I - B) ENG301F 船方 浩子	1学期	2	2	196
		律政 2 I - B			
	Intermediate English II (律政 2 I - C) ENG311F マーニー・セイティ	2学期	2	2	197
		律政 2 I - C			
	Intermediate English II (律政 2 I - A) ENG311F ダニー・ミン	2学期	2	2	198
		律政 2 I - A			
	Intermediate English II (律政 2 I - B) ENG311F ロバート・マーフィ	2学期	2	2	199
		律政 2 I - B			
Higher English I (2 H - B) ENG302F 未定	1学期	2	2	200	
	中国済営比人律政 2 年				
Higher English I (2 H - A) ENG302F ダンカン・ウォトリイ	1学期	2	2	201	
	中国済営比人律政				
Higher English II (2 H - B) ENG312F 未定	2学期	2	2	202	
	中国済営比人律政 2 年				
Higher English II (2 H - A) ENG312F ダニー・ミン	2学期	2	2	203	
	中国済営比人律政				
■第二外国語	中国語I (1 - a) CHN101F 野村 和代	1学期	1	1	204
		済営人律政群 1 年			
	中国語I (1 - b) CHN101F 板谷 俊生	1学期	1	1	205
		済営人律政群 1 年			
	中国語II (1 - a) CHN111F 野村 和代	2学期	1	1	206
		済営人律政群 1 年			
	中国語II (1 - b) CHN111F 板谷 俊生	2学期	1	1	207
		済営人律政群 1 年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語III (1 - a) CHN102F 艾文婷	1学期	1	1	208
	济営人律政群 1年				
	中国語III (1 - b) CHN102F 于佳	1学期	1	1	209
	济営人律政群 1年				
	中国語IV (1 - a) CHN112F 艾文婷	2学期	1	1	210
	济営人律政群 1年				
	中国語IV (1 - b) CHN112F 于佳	2学期	1	1	211
	济営人律政群 1年				
	中国語V CHN201F 有働 彰子	1学期	2	1	212
	英济営人律政群 2年				
	中国語VI CHN211F 有働 彰子	2学期	2	1	213
	英济営人律政群 2年				
	中国語VII CHN202F 崔 学森	1学期	2	1	214
	英济営人律政群 2年				
	中国語VIII CHN212F 崔 学森	2学期	2	1	215
	英济営人律政群 2年				
	朝鮮語I (1 - a) KRN101F 呉 香善	1学期	1	1	216
	济営律政群 1年				
	朝鮮語I (1 - b) KRN101F 金 京姫	1学期	1	1	217
	济営律政群 1年				
朝鮮語II (1 - a) KRN111F 金 慶湖	2学期	1	1	218	
济営律政群 1年					
朝鮮語II (1 - b) KRN111F 金 京姫	2学期	1	1	219	
济営律政群 1年					
朝鮮語III (1 - a) KRN102F 金 光子	1学期	1	1	220	
济営律政群 1年					
朝鮮語III (1 - b) KRN102F 呉 珠熙	1学期	1	1	221	
济営律政群 1年					
朝鮮語IV (1 - a) KRN112F 金 光子	2学期	1	1	222	
济営律政群 1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語Ⅳ (1 - b) KRN112F 吳 珠熙	2学期	1	1	223
		済営律政群 1年			
	朝鮮語Ⅴ KRN201F 安 滌珠	1学期	2	1	224
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語Ⅵ KRN211F 安 滌珠	2学期	2	1	225
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語Ⅶ KRN202F 金 惠媛	1学期	2	1	226
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語Ⅷ KRN212F 金 惠媛	2学期	2	1	227
		済営比人律政群 2年			
	ドイツ語Ⅰ GRM101F 古賀 正之	1学期	1	1	228
		済営人律政 1年			
	ドイツ語Ⅱ GRM111F 古賀 正之	2学期	1	1	229
		済営人律政 1年			
	ドイツ語Ⅲ GRM102F 山下 哲雄	1学期	1	1	230
		済営人律政 1年			
	ドイツ語Ⅳ GRM112F 山下 哲雄	2学期	1	1	231
		済営人律政 1年			
	ドイツ語Ⅴ GRM201F 山下 哲雄	1学期	2	1	232
		英中国済営比人律政 2年			
ドイツ語Ⅵ GRM211F 山下 哲雄	2学期	2	1	233	
	英中国済営比人律政 2年				
ドイツ語Ⅶ GRM202F 山下 哲雄	1学期	2	1	234	
	英中国済営比人律政 2年				
ドイツ語Ⅷ GRM212F 山下 哲雄	2学期	2	1	235	
	英中国済営比人律政 2年				
フランス語Ⅰ FRN101F 山下 広一	1学期	1	1	236	
	済営人律政 1年				
フランス語Ⅱ FRN111F 山下 広一	2学期	1	1	237	
	済営人律政 1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語III FRN102F 中川 裕二	1学期	1	1	238
		済営人律政 1年			
	フランス語IV FRN112F 中川 裕二	2学期	1	1	239
		済営人律政 1年			
	フランス語V FRN201F 小野 菜都美	1学期	2	1	240
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語VI FRN211F 小野 菜都美	2学期	2	1	241
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語VII FRN202F 小野 菜都美	1学期	2	1	242
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語VIII FRN212F 小野 菜都美	2学期	2	1	243
		英中国済営比人律政 2年			
	スペイン語I SPN101F 宮城 志帆	1学期	1	1	244
		中国済営人律政 1年			
	スペイン語II SPN111F 宮城 志帆	2学期	1	1	245
		中国済営人律政 1年			
スペイン語III SPN102F 辻 博子	1学期	1	1	246	
	中国済営人律政 1年				
スペイン語IV SPN112F 辻 博子	2学期	1	1	247	
	中国済営人律政 1年				
スペイン語V SPN201F 青木 文夫	1学期	2	1	248	
	英中国済営比人律政 2年				
スペイン語VI SPN211F 青木 文夫	2学期	2	1	249	
	英中国済営比人律政 2年				
スペイン語VII SPN202F 辻 博子	1学期	2	1	250	
	英中国済営比人律政 2年				
スペイン語VIII SPN212F 辻 博子	2学期	2	1	251	
	英中国済営比人律政 2年				
■留学生特別科目	日本語I JSL101F 清水 順子	1学期	1	1	252
		留学生 1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本語II JSL102F 金 元正	1学期	1	1	253
	留学生 1年				
	日本語III JSL103F 小林 浩明	1学期	1	1	254
	留学生 1年				
	日本語IV JSL111F 清水 順子	2学期	1	1	255
	留学生 1年				
	日本語V JSL112F 則松 智子	2学期	1	1	256
	留学生 1年				
	日本語VI JSL113F 小林 浩明	2学期	1	1	257
	留学生 1年				
	日本語VII JSL104F 則松 智子	1学期	2	1	258
	留学生 2年				
	日本語VIII JSL114F 清水 順子	2学期	2	1	259
	留学生 2年				
日本事情 (人文) A JPS101F 清水 順子	1学期	1	2	260	
留学生 1年					
日本事情 (人文) B JPS102F 則松 智子	2学期	1	2	261	
留学生 1年					
日本事情 (社会) A JPS103F 則松 智子	1学期	1	2	262	
留学生 1年					
日本事情 (社会) B JPS104F 清藤 隆春 他	2学期	1	2	263	
留学生 1年					
■専門教育科目 ■選択科目	法史学 LAW310M 梁田 史郎	2学期	3	2	264
	3年				
	刑事訴訟法I LAW235M 水野 陽一	1学期	2	2	265
	2年				
刑事訴訟法II LAW236M 水野 陽一	2学期	2	2	266	
2年					
法哲学 LAW213M 重松 博之	2学期	2	2	267	
2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	刑法各論I LAW231M 大杉 一之	1学期	2	2	268
		2年			
	刑法各論II LAW232M 大杉 一之	2学期	2	2	269
		2年			
	刑事司法政策I LAW233M 藤田 尚	1学期	2	2	270
		2年			
	刑事司法政策II LAW234M 藤田 尚	2学期	2	2	271
		2年			
	犯罪学 LAW330M 藤田 尚	1学期(ペア)	3	4	272
		3年			
	社会法の現代的展開 LAW343M 柴田 滋	2学期	3	2	273
		3年			
	環境法 LAW342M 鬼塚 知	1学期	3	2	274
		3年			
	現代国際関係法 LAW351M 二宮 正人	集中	3	2	275
		3年			
	親族法 LAW265M 矢澤 久純	2学期	1	2	276
		1年			
	相続法 LAW266M 矢澤 久純	2学期	2	2	277
		2年			
企業法総論 LAW270M 今泉 恵子	1学期	2	2	278	
	2年				
国際開発協力論 IRL211M 大平 剛	1学期	2	2	279	
	2年				
平和研究 IRL212M 大平 剛	2学期	2	2	280	
	2年				
国際機構論I IRL215M 政所 大輔	1学期	3	2	281	
	3年				
国際機構論II IRL216M 政所 大輔	2学期	3	2	282	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	地球環境論	1学期	2	2	283
	ENV200M 松本 治彦	2年			
	国際関係の争点	2学期	1	2	284
	IRL101M 大平 剛	1年			
	国際関係の理論	1学期	2	2	285
	IRL201M 阿部 容子	2年			
	倫理学	2学期	2	2	286
	PHR210M 清水 満	2年			
	経済地理学I	1学期	2	2	287
	ECN230M 柳井 雅人	2年			
	経済地理学II	2学期	2	2	288
	ECN231M 柳井 雅人	2年			
	地域政策	2学期	2	2	289
	ECN234M 松永 裕己	2年			
	国際経済論I	1学期	2	2	
	ECN240M 休講	2年			
	国際経済論II	2学期	2	2	
	ECN241M 休講	2年			
	産業組織論	1学期	3	2	290
	ECN322M 佐藤 隆	3年			
産業組織論特講	2学期	3	2	291	
ECN323M 佐藤 隆	3年				
財政学	1学期	3	2		
ECN320M 休講	3年				
財政学特講	2学期	3	2		
ECN321M 休講	3年				
公共経済学	1学期	3	2	292	
ECN226M 牛房 義明	3年				
環境経済学	2学期	3	2	293	
ECN328M 牛房 義明	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	中国経済 ECN331M 園 康寿	1学期	3	2	294
	3年				
	アメリカ経済 ECN332M 立石 剛	2学期	3	2	295
	3年				
	地方財政論 ECN330M 難波 利光	1学期	3	2	296
	3年				
	経営組織論 BUS210M 山下 剛	1学期	2	2	297
	2年				
	経営戦略論 BUS211M 浦野 恭平	2学期	2	2	298
	2年				
人的資源管理論 BUS310M 丸子 敬仁	1学期	3	2	299	
3年					
中小企業論 BUS313M 吉村 英俊	1学期	3	2	300	
3年					
International Trade and Finance ECN201M ブルック 前田	2学期	3	2	301	
3年					
現代法曹論 0 LAW101M 中村 英樹 他	1学期	1	2	302	
1年					
■政策能力形成科目	政策科学入門I PLC100M 檜原 真二 他	1学期	1	2	303
	1年				
	政策科学入門II PLC101M 横山 麻季子 他	2学期	1	2	304
	1年				
	政策入門演習 SEM110M 大澤 津	1学期	1	2	305
	1年				
	政策入門演習 SEM110M 上條 諒貴	1学期	1	2	306
1年					
政策入門演習 SEM110M 休講	1学期	1	2	307	
1年					
政策入門演習 SEM110M 申 東愛	1学期	1	2	307	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■政策能力形成科目	政策入門演習	1学期	1	2	308
	SEM110M 榎原 真二	1年			
	政策入門演習	1学期	1	2	309
	SEM110M 狭間 直樹	1年			
	政策入門演習	1学期	1	2	310
	SEM110M 中井 遼	1年			
	政策入門演習	1学期	1	2	311
	SEM110M 吉田 舞	1年			
	政策入門演習	1学期	1	2	312
	SEM110M 黒石 啓太	1年			
	政策入門演習	1学期	1	2	313
	SEM110M 横山 麻季子	1年			
	政策入門演習	1学期	1	2	314
	SEM110M 田村 慶子	1年			
	政策入門演習	1学期	1	2	
	SEM110M 休講	1年			
	演習I	2学期	2	2	315
	SEM210M 大澤 津	2年			
	演習I	2学期	2	2	316
	SEM210M 中井 遼	2年			
演習I	2学期	2	2		
SEM210M 休講	2年				
演習I	2学期	2	2	317	
SEM210M 申 東愛	2年				
演習I	2学期	2	2	318	
SEM210M 榎原 真二	2年				
演習I	2学期	2	2	319	
SEM210M 狭間 直樹	2年				
演習I	2学期	2	2	320	
SEM210M 上條 諒貴	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■政策能力形成科目	演習I SEM210M 吉田 舞	2学期	2	2	321
		2年			
	演習I SEM210M 黒石 啓太	2学期	2	2	322
		2年			
	演習I SEM210M 横山 麻季子	2学期	2	2	323
		2年			
	演習I SEM210M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	演習I SEM210M 田代 洋久	2学期	2	2	324
		2年			
	演習II SEM310M 大澤 津	1学期	3	2	325
		3年			
	演習II SEM310M 中井 遼	1学期	3	2	326
		3年			
	演習II SEM310M 休講	1学期	3	2	
		3年			
	演習II SEM310M 申 東愛	2学期	3	2	327
		3年			
	演習II SEM310M 橋原 真二	1学期	3	2	328
		3年			
演習II SEM310M 狭間 直樹	1学期	3	2	329	
	3年				
演習II SEM310M 上條 諒貴	1学期	3	2	330	
	3年				
演習II SEM310M 吉田 舞	1学期	3	2	331	
	3年				
演習II SEM310M 黒石 啓太	1学期	3	2	332	
	3年				
演習II SEM310M 横山 麻季子	1学期	3	2	333	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■政策能力形成科目	演習II SEM310M 田代 洋久	2学期	3	2	334
		3年			
	演習II SEM310M 田村 慶子	1学期	3	2	335
		3年			
	演習III SEM311M 大澤 津	2学期	3	2	336
		3年			
	演習III SEM311M 中井 遼	2学期	3	2	337
		3年			
	演習III SEM311M 休講	2学期	3	2	
		3年			
	演習III SEM311M 申 東愛	2学期	3	2	338
		3年			
	演習III SEM311M 楢原 真二	2学期	3	2	339
		3年			
	演習III SEM311M 狭間 直樹	2学期	3	2	340
		3年			
	演習III SEM311M 上條 諒貴	2学期	3	2	341
	3年				
演習III SEM311M 吉田 舞	2学期	3	2	342	
	3年				
演習III SEM311M 黒石 啓太	2学期	3	2	343	
	3年				
演習III SEM311M 横山 麻季子	2学期	3	2	344	
	3年				
演習III SEM311M 田代 洋久	2学期	3	2	345	
	3年				
演習III SEM311M 田村 慶子	2学期	3	2	346	
	3年				
政策実践プロジェクトI SEM280M 申 東愛	2学期	2	1	347	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■政策能力形成科目	政策実践プロジェクトI SEM280M 檀原 真二	2学期	2	1	348
		2年			
	政策実践プロジェクトI SEM280M 休講	2学期	2	1	
		2年			
	政策実践プロジェクトI SEM280M 吉田 舞	2学期	2	1	349
		2年			
	政策実践プロジェクトI SEM280M 黒石 啓太	2学期	2	1	350
		2年			
	政策実践プロジェクトI SEM280M 横山 麻季子	2学期	2	1	351
		2年			
	政策実践プロジェクトI SEM280M 休講	2学期	2	1	
		2年			
	政策実践プロジェクトI SEM280M 田代 洋久	2学期	2	1	352
		2年			
	政策実践プロジェクトII SEM380M 申 東愛	2学期	3	1	353
		3年			
	政策実践プロジェクトII SEM380M 檀原 真二	1学期	3	1	354
		3年			
	政策実践プロジェクトII SEM380M 狭間 直樹	1学期	3	1	355
		3年			
政策実践プロジェクトII SEM380M 休講	1学期	3	1		
	3年				
政策実践プロジェクトII SEM380M 吉田 舞	1学期	3	1	356	
	3年				
政策実践プロジェクトII SEM380M 黒石 啓太	1学期	3	1	357	
	3年				
政策実践プロジェクトII SEM380M 横山 麻季子	1学期	3	1	358	
	3年				
政策実践プロジェクトII SEM380M 田代 洋久	2学期	3	1	359	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■政策能力形成科目	政策実践プロジェクトII SEM380M 田村 慶子	1学期	3	1	360
		3年			
	卒業研究 SEM410M 大澤 津	1・2学期(ペア)	4	4	361
		4年			
	卒業研究 SEM410M 上條 諒貴	1・2学期(ペア)	4	4	362
		4年			
	卒業研究 SEM410M 三宅 博之	1・2学期(ペア)	4	4	363
		4年			
	卒業研究 SEM410M 申 東愛	2学期(ペア)	4	4	364
		4年			
	卒業研究 SEM410M 楢原 真二	1・2学期(ペア)	4	4	365
		4年			
	卒業研究 SEM410M 狭間 直樹	1・2学期(ペア)	4	4	366
		4年			
	卒業研究 SEM410M 中井 遼	1・2学期(ペア)	4	4	367
		4年			
	卒業研究 SEM410M 吉田 舞	1・2学期(ペア)	4	4	368
		4年			
	卒業研究 SEM410M 黒石 啓太	1・2学期(ペア)	4	4	369
		4年			
卒業研究 SEM410M 横山 麻季子	1・2学期(ペア)	4	4	370	
	4年				
卒業研究 SEM410M 田代 洋久	2学期(ペア)	4	4	371	
	4年				
卒業研究 SEM410M 田村 慶子	1・2学期(ペア)	4	4	372	
	4年				
政策実践プロジェクトIII SEM381M 申 東愛	2学期	3	1	373	
	3年				
政策実践プロジェクトIII SEM381M 楢原 真二	2学期	3	1	374	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■政策能力形成科目	政策実践プロジェクトIII SEM381M 狭間 直樹	2学期	3	1	375
		3年			
	政策実践プロジェクトIII SEM381M 休講	2学期	3	1	
		3年			
	政策実践プロジェクトIII SEM381M 吉田 舞	2学期	3	1	376
		3年			
	政策実践プロジェクトIII SEM381M 黒石 啓太	2学期	3	1	377
		3年			
	政策実践プロジェクトIII SEM381M 横山 麻季子	2学期	3	1	378
		3年			
	政策実践プロジェクトIII SEM381M 田代 洋久	2学期	3	1	379
		3年			
	政策実践プロジェクトIII SEM381M 田村 慶子	2学期	3	1	380
		3年			
	卒業論文 STH410M 大澤 津	1・2学期 (ペア)	4	2	381
		4年			
	卒業論文 STH410M 上條 諒貴	1・2学期 (ペア)	4	2	382
		4年			
	卒業論文 STH410M 申 東愛	2学期 (ペア)	4	2	383
		4年			
卒業論文 STH410M 田代 洋久	2学期 (ペア)	4	2	384	
	4年				
卒業論文 STH410M 田村 慶子	1・2学期 (ペア)	4	2	385	
	4年				
卒業論文 STH410M 中井 遼	1・2学期 (ペア)	4	2	386	
	4年				
卒業論文 STH410M 楢原 真二	1・2学期 (ペア)	4	2	387	
	4年				
卒業論文 STH410M 狭間 直樹	1・2学期 (ペア)	4	2	388	
	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策能力形成科目	卒業論文 STH410M 横山 麻季子	1・2学期 (ペア)	4	2	389
		4年			
	卒業論文 STH410M 吉田 舞	1・2学期 (ペア)	4	2	390
		4年			
卒業論文 STH410M 黒石 啓太	1・2学期 (ペア)	4	2	391	
	4年				
卒業論文 STH410M 三宅 博之	1・2学期 (ペア)	4	2	392	
	4年				
■政策理論科目	政治学 PLS100M 上條 諒貴	1学期	1	2	393
		1年			
	政治過程論 PLS210M 上條 諒貴	2学期	1	2	394
		1年			
	西洋政治史 PLS111M 村上 悠	1学期	1	2	395
		1年			
	政党政治論 PLS211M 中井 遼	1学期	2	2	396
		2年			
	現代政治思想 PLS212M 大澤 津	1学期	2	2	397
		2年			
	政策理論特講 PLS213M 森 裕亮	集中	2	2	398
		2年			
	政治思想史 PLS215M 大澤 津	2学期	2	2	399
		2年			
行政学 PAD100M 黒石 啓太	2学期	1	2	400	
	1年				
行政組織論 PAD210M 横山 麻季子	1学期	2	2	401	
	2年				
政策規範論 PLC110M 大澤 津	1学期	1	2	402	
	1年				
比較政策論 PLC210M 休講	1学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策理論科目	公共政策論 PLC211M 榎原 真二	1学期	2	2	403
	2年				
	政策過程論 PLC212M 申 東愛	2学期	2	2	404
	2年				
	政策評価論 PLC310M 榎原 真二 他	2学期	2	2	405
	2年				
	都市環境論 PLC111M 吉田 舞	1学期	1	2	406
	1年				
	都市計画概論 PLC218M 内田 晃	1学期	2	2	407
	2年				
	福祉国家論 PLC112M 狭間 直樹	2学期	1	2	408
	1年				
政策計量分析 PLC223M 横山 麻季子	1学期	2	2	409	
2年					
外国文献研究 A SEM391M 休講	1学期	3	2	410	
3年					
外国文献研究 A SEM391M チョウ ビンビン	1学期	3	2	411	
3年					
政策調査論 PLC225M 吉田 舞	2学期	2	2	412	
2年					
■政策実践科目	政治文化論 PLS110M 上條 諒貴	2学期	1	2	413
	1年				
	地方自治論 PAD211M 黒石 啓太	1学期	2	2	414
	2年				
	地方行政改革論 PAD310M 黒石 啓太	2学期	2	2	415
	2年				
地域統合論 PLS214M 中井 遼	2学期	2	2	416	
2年					
アジア地域社会論 PLC222M 三宅 博之	2学期	2	2	416	
2年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■政策実践科目	応用政策特講 PAD214M 湯川 勇人	集中	2	2	417
		2年			
	対外政策論 PLC213M 李 鍾成	1学期	2	2	418
		2年			
	自治体政策研究 PLC214M 檜原 真二	2学期	2	2	419
		2年			
	都市経済論 PLC113M 田代 洋久	2学期	1	2	420
		1年			
	都市マネジメント論 PAD213M 田代 洋久	2学期	2	2	421
		2年			
	都市政策論 PLC219M 田代 洋久	2学期	2	2	422
		2年			
	環境政策論 PLC216M 申 東愛	2学期	2	2	423
		2年			
	途上国開発論 PLC215M 吉田 舞	1学期	2	2	424
		2年			
	福祉政策論 PLC217M 狭間 直樹	1学期	2	2	425
		2年			
	公共経営論 PAD212M 狭間 直樹	2学期	2	2	426
		2年			
NPO論 PLC114M 檜原 真二 他	1学期	1	2	427	
	1年				
政策実務特講 PLC220M 雪松 直子	1学期	2	2	428	
	2年				
政策実践特講 PLC221M 休講	集中	2	2		
	2年				
外国文献研究B SEM392M 朝倉 拓郎	2学期	3	2	429	
	3年				
アジアのエスニシティ政策 PLC224M 徳安 祐子	2学期	2	2	430	
	2年				

法学部 政策科学科 (2019年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■政策関連法科目	法学総論	1学期	1	2	431
	LAW100M 林田 幸広	1年			
	法社会学	1学期	2	2	432
	LAW211M 林田 幸広	2年			
	法思想史	1学期	2	2	433
	LAW210M 重松 博之	2年			
	日本国憲法原論	1学期	1	2	434
	LAW120M 山本 健人	1年			
	憲法人権論	2学期	1	2	435
	LAW220M 中村 英樹	1年			
	憲法機構論	1学期	2	2	436
	LAW221M 中村 英樹	2年			
	憲法訴訟論	2学期	2	2	437
	LAW320M 山本 健人	2年			
	行政法総論	1学期 (ペア)	2	4	438
	LAW222M 近藤 卓也	2年			
	行政争訟法	2学期	2	2	439
	LAW223M 堀澤 明生	2年			
	国家補償法	1学期	3	2	440
	LAW224M 鈴木 崇弘	3年			
刑法総論	2学期 (ペア)	1	4	441	
LAW230M 富川 雅満	1年				
社会法総論	2学期	1	2	442	
LAW140M 岡本 舞子	1年				
社会サービス法	2学期	2	2	443	
LAW242M 津田 小百合	2年				
所得保障法	2学期	2	2	444	
LAW243M 津田 小百合	2年				
雇用関係法	1学期	2	2	445	
LAW240M 岡本 舞子	2年				

法学部 政策科学科 (2019年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策関連法科目	労使関係法 LAW241M 岡本 舞子	2学期	2	2	446
	2年				
	国際法I LAW250M 二宮 正人	1学期	2	2	447
	2年				
	国際法II LAW251M 二宮 正人	2学期	2	2	448
	2年				
	民法総則 LAW161M 丸山 愛博	2学期 (ヘア)	1	4	449
	1年				
	物権法 LAW260M 清水 裕一郎	1学期	2	2	450
	2年				
	担保物権法 LAW261M 清水 裕一郎	2学期	2	2	451
	2年				
	債権総論 LAW262M 矢澤 久純	1学期 (ヘア)	2	4	452
	2年				
地方自治法 LAW321M 岡本 博志	2学期	3	2	453	
3年					
民法入門 LAW160M 丸山 愛博	1学期	1	2	454	
1年					
債権各論I LAW263M 福本 忍	2学期	2	2	455	
2年					
債権各論II LAW264M 平山 也寸志	1学期	3	2	456	
3年					
■自由科目	人間環境地理学 ENV240M 野井 英明	2学期	2	2	457
	2年				
	生態人類学 ANT200M 竹川 大介	1学期	2	2	458
	2年				
日本の歴史と社会 HIS210M 八百 啓介	1学期	2	2	459	
2年					
Professional English I ENG431M デニス・ジョーンズ	1学期	4	2	460	
4年					

法学部 政策科学科 (2019年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■自由科目	Professional English II	2学期	4	2	461
	ENG432M	リーサ ハンズバーガー			
		4年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教育の基礎的理解に関する科目等 ■必修科目	教職論 EDU111M 楠 凡之	1学期	1	2	462
		1年			
	教育原理 EDU110M 見玉 弥生	1学期	1	2	463
		1年			
	教育心理学 PSY120M 山下 智也	2学期	1	2	464
		1年			
	教育社会学 EDU223M 恒吉 紀寿	1学期	2	2	465
		2年			
	教育課程論 EDU260M 見玉 弥生	2学期	2	2	466
		2年			
	道徳教育指導論 EDU264M 船原 将太	2学期	2	2	467
		2年			
	特別活動・キャリア教育論 EDU265M 楠 凡之	2学期	2	2	468
		2年			
	教育の方法と技術・総合的な学習の時間の指導法 EDU160M 下地 貴樹	2学期	1	2	469
		1年			
	生徒指導論 EDU262M 楠 凡之	2学期	2	2	470
	2年				
教育相談 EDU261M 山下 智也	1学期	2	2	471	
	2年				
教育実習 1 EDU380C 見玉 弥生 他	2学期	3	2	472	
	3年				
教育実習 2 EDU480C 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2	473	
	4年				
教育実習 3 EDU481C 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2	474	
	4年				
教職実践演習 (中・高) EDU490C 楠 凡之 他	2学期	4	2	475	
	4年				
特別支援教育論 EDU263M 楠 凡之	1学期	2	2	476	
	2年				

法学部 政策科学科 (2019年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教育の基礎的理解に関する科目等 ■選択科目	発達心理学 PSY220M 税田 慶昭	1学期	2	2	477
	2年				
	障害児の心理と指導 PSY221M 税田 慶昭	2学期	2	2	478
	2年				
人権教育論 EDU222M 休講	1学期	2	2		
2年					
生涯学習学 EDU220M 恒吉 紀寿	1学期	2	2	479	
2年					
■教科及び教科の指導法に関する科目	社会科教育法I EDU240C 休講	1学期	2	2	
	2年				
	社会科教育法II EDU241C 休講	2学期	2	2	
	2年				
	社会科教育法III EDU242C 休講	1学期	3	2	
	3年				
	社会科教育法IV EDU243C 休講	2学期	3	2	
	3年				
公民科教育法A EDU244C 下地 貴樹	1学期	3	2	480	
3年					
公民科教育法B EDU245C 吉村 義則	2学期	3	2	481	
3年					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■環境科目	自然史へのいざない BIO001F 日高 京子 他	2学期	1	2	482
	1年				
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	483
1年					
生命科学入門 BIO200F 日高 京子	2学期	1	2	484	
1年					
■世界(地球)科目	安全保障論 PLS111F 戸蔭 仁司	2学期	1	2	485
	1年				
国際社会と日本 IRL004F 中野 博文 他	2学期	1	2	486	
1年					

法学部 政策科学科 (2019年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■世界(地球)科目	グローバル化する経済 ECN001F 魏 芳 他	1学期	1	2	487
		1年			
■知の技法科目	アカデミック・スキルズI GES101F 廣渡 栄寿	2学期	1	2	488
		1学期未修得者再履			
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	489
		1年			
■知の創造科目	現代人のこころ PSY003F 福田 恭介	1学期	1	2	490
		1年			
	企業と社会 BUS001F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	社会哲学入門 PHR110F 高木 駿	1学期	1	2	491
		1年			
	文化を読む LIT001F 河内 重雄 他	1学期	1	2	492
		1年			
	現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	493
		1年			
	倫理思想史 PHR005F 高木 駿	2学期	1	2	494
		1年			
	戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期	2	2	495
		2年			
■共生と協働科目	市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	496
		1年			
	地域福祉論 SOW011F 坂本 毅啓	2学期	1	2	497
		1年			
■ライフ・デザイン科目	メンタル・ヘルス PSY001F 中島 俊介	2学期	1	2	498
		1年			
■専門教育科目 ■選択科目	法哲学 LAW213M 休講		2	2	
		2年			
	刑法各論I LAW231M 休講		2	2	
		2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	刑法各論II		2	2	2年
	LAW232M 休講				
	刑事司法政策I		2	2	2年
	LAW233M 休講				
	刑事司法政策II		2	2	2年
	LAW234M 休講				
	犯罪学		3	4	3年
	LAW330M 休講				
	社会法の現代的展開		3	2	3年
	LAW343M 休講				
	環境法		3	2	3年
	LAW342M 休講				
	現代国際関係法		3	2	3年
	LAW351M 休講				
	現代国際関係法 (英語)		3	2	3年
	LAW351M 休講				
	親族法		1	2	1年
	LAW265M 休講				
	相続法		2	2	2年
	LAW266M 休講				
企業法総論		2	2	2年	
LAW270M 休講					
国際開発協力論		2	2	2年	
IRL211M 休講					
平和研究		2	2	2年	
IRL212M 休講					
国際機構論I		3	2	3年	
IRL215M 休講					
国際機構論II		3	2	3年	
IRL216M 休講					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■専門教育科目 ■選択科目	地球環境論		2	2		
	ENV200M 休講	2年				
	国際関係の争点		1	2		
	IRL101M 休講	1年				
	国際関係の理論		2	2		
	IRL200M 休講	2年				
	倫理学		2	2		
	PHR210M 休講	2年				
	ミクロ経済学I		2学期	1	2	499
	ECN112M 朱 乙文	1年				
	ミクロ経済学II		1学期	2	2	500
	ECN210M 朱 乙文	2年				
	マクロ経済学I		2学期	1	2	501
	ECN113M 田中 淳平	1年				
	マクロ経済学II		1学期	2	2	502
	ECN211M 田中 淳平	2年				
	経済地理学I		1学期	2	2	
	ECN230M 休講	2年				
	経済地理学II		2学期	2	2	
	ECN231M 休講	2年				
地域経済		1学期	2	2	503	
ECN232M 田村 大樹	2年					
地域政策			2	2		
ECN234M 休講	2年					
国際経済論I		1学期	2	2	504	
ECN224M 魏 芳	2年					
国際経済論II		2学期	2	2	505	
ECN225M 魏 芳	2年					
産業組織論			3	2		
ECN322M 休講	3年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	産業組織論特講		3	2	
	ECN323M 休講	3年			
	財政学	1学期	3	2	506
	ECN320M 前林 紀孝	3年			
	財政学特講	2学期	3	2	507
	ECN321M 前林 紀孝	3年			
	公共経済学		3	2	
	ECN226M 休講	3年			
	環境経済学	2学期	3	2	
	ECN328M 休講	3年			
	中国経済	1学期	3	2	
	ECN331M 休講	3年			
	アメリカ経済		3	2	
	ECN332M 休講	3年			
	地方財政論		3	2	
	ECN330M 休講	3年			
	経営組織論		2	2	
	BUS210M 休講	2年			
	経営戦略論	2学期	2	2	508
BUS211M 山下 剛	2年				
人的資源管理論	1学期	3	2		
BUS310M 休講	3年				
中小企業論	1学期	3	2		
BUS313M 休講	3年				
International Trade and Finance		3	2		
ECN201M 休講	3年				
■政策能力形成科目	政策科学入門I	1学期	1	2	
	PLC101M 休講	1年			
	政策科学入門II	2学期	1	2	
	PLC115M 休講	1年			

法学部 政策科学科 (2019年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策能力形成科目	政策入門演習	1学期	1	2	
	SEM111M 休講	1年			
	演習I	2学期	2	2	
	SEM210M 休講	2年			
	政策実践プロジェクトI	2学期	2	1	
	SEM280M 休講	2年			
■政策理論科目	政治学	1学期	1	2	
	PLS100M 休講	1年			
	政治過程論	2学期	1	2	
	PLS210M 休講	1年			
	西洋政治史	2学期	1	2	
	PLS111M 休講	1年			
	政党政治論	1学期	2	2	
	PLS211M 休講	2年			
	現代政治思想	1学期	2	2	
	PLS212M 休講	2年			
	政策理論特講	2学期	2	2	
	PLS213M 休講	2年			
	政治思想史	2学期	2	2	
	PLS215M 休講	2年			
	行政学	2学期	1	2	
	PAD100M 休講	1年			
	行政組織論	1学期	2	2	
	PAD210M 休講	2年			
	政策規範論	1学期	1	2	
	PLC110M 休講	1年			
比較政策論	1学期	2	2		
PLC210M 休講	2年				
公共政策論		2	2		
PLC211M 閉講	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策理論科目	政策過程論	1学期	2	2	
	PLC212M 休講	2年			
	政策評価論	2学期	2	2	
	PLC310M 休講	2年			
	都市環境論	1学期	1	2	509
	PLC111M 吉田 舞	1年			
	都市計画概論	1学期	2	2	
	PLC218M 休講	2年			
	福祉国家論	2学期	1	2	
	PLC112M 休講	1年			
政策計量分析	1学期	2	2		
PLC223M 休講	2年				
外国文献研究A	1学期	3	2		
SEM391M 休講	3年				
■政策実践科目	政治文化論	2学期	1	2	
	PLS110M 休講	1年			
	地方自治論	1学期	2	2	
	PAD211M 休講	2年			
	地方行政改革論	2学期	2	2	
	PAD310M 休講	2年			
	地域統合論	2学期	2	2	
	PLS214M 休講	2年			
	アジア地域社会論	2学期	2	2	
	PLC222M 休講	2年			
応用政策特講	2学期	2	2		
PAD214M 休講	2年				
対外政策論	2学期	2	2		
PLC213M 休講	2年				
自治体政策研究	2学期	2	2		
PLC214M 休講	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引		
		クラス					
備考							
■専門教育科目 ■政策実践科目	都市経済論 PLC113M 休講	2学期	1	2	1年		
	都市マネジメント論 PAD213M 休講	2学期	2	2		2年	
	都市政策論 PLC219M 休講	1学期	2	2	2年		
	環境政策論 PLC216M 休講	2学期	2	2		2年	
	途上国開発論 PLC215M 休講	1学期	2	2	2年		
	福祉政策論 PLC217M 休講	1学期	2	2		2年	
	公共経営論 PAD212M 休講	2学期	2	2	2年		
	NPO論 PLC114M 休講	1学期	1	2		1年	
	政策実務特講 PLC220M 休講	1学期	2	2	2年		
	政策実践特講 PLC221M 休講	2学期	2	2		2年	
	外国文献研究B SEM392M 休講	2学期	3	2	3年		
	■政策関連法科目	法学総論 LAW100M 小野 憲昭	1学期	1		2	1年
		法社会学 LAW211M 休講		2	2	2年	
		法思想史 LAW210M 休講		2	2		2年
日本国憲法原論 LAW120M 山本 健人		1学期	1	2	1年		

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策関連法科目	憲法機構論		2	2	2年
	LAW221M 休講				
	憲法訴訟論		2	2	2年
	LAW320M 休講				
	行政法総論	1学期 (ベア)	2	4	2年
	LAW222M 休講				
	行政争訟法		2	2	2年
	LAW223M 休講				
	国家補償法		3	2	3年
	LAW224M 休講				
	刑法総論		1	4	1年
	LAW230M 休講				
	社会サービス法		2	2	2年
	LAW242M 休講				
	所得保障法		2	2	2年
	LAW243M 休講				
	雇用関係法		2	2	2年
	LAW240M 休講				
	労使関係法		2	2	2年
	LAW241M 休講				
国際法I		2	2	2年	
LAW250M 休講					
国際法II		2	2	2年	
LAW251M 休講					
民法総則	2学期 (ベア)	1	4	1年	
LAW161M 休講					
物権法		2	2	2年	
LAW260M 休講					
担保物権法		2	2	2年	
LAW261M 休講					

法学部 政策科学科 (2019年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策関連法科目	債権総論 LAW262M 休講		2	4	2年
	民法入門 LAW160M 休講	1学期	1	2	
■自由科目	人間環境地理学 ENV240M 休講		2	2	2年
	生態人類学 ANT200M 休講		2	2	2年
	日本の歴史と社会 HIS210M 休講		2	2	2年
	Professional English I ENG431M 休講		4	2	4年
	Professional English II ENG432M 休講		4	2	4年

教職論 【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職論は、通常の場合、4年間の教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流、ベテラン教員の講演と意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探求する。
また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類-1 に該当する科目である。

到達目標 教職という仕事に関する基本的な知識を理解している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教育に求められる実践的指導力と学校ボランティア体験の意義(外部講師の報告)
3. 教員に求められる資質 その1 共感的理解と対話力
4. 今日の教員に求められる役割と職務内容について(講師 森恵美先生)
5. 教員に求められる資質その2 生徒指導と学級経営(学級づくり) - 実践報告を手がかりに
6. 教員に求められる資質その3 教科指導と授業づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
7. チーム学校と専門職との連携 その1 「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
8. チーム学校と専門職との連携 その2 被虐待・貧困状況にある子どもと家族への支援
9. 教員に求められる資質その4 特別活動と学級づくり(本学出身の教員の報告と意見交流)
10. 学級づくりに関するグループワーク
11. 現代社会における学校教育の課題 その1 セクシュアルマイノリティの生徒と学校づくり
12. 現代社会における学校教育の課題 その2 部活動・体罰問題を考える。
13. 現代社会における学校教育の課題 その3 「道徳教育」をめぐる問題を考える。
14. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み(本学出身の中学校教員の報告と意見交流)
15. 全体のまとめと課題の説明

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 50点、レポート試験50点
出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
(6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

教職論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席し、毎回のミニレポートを提出してもらうことを前提にして進めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

到達目標

教育に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：教育の関係：教育のモデル・家族・学校
- 2回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 3回 発達課題と教育支援：思春期・青年期
- 4回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 5回 教育思想②：日本の教育思想
- 6回 教育史①：西洋の教育史
- 7回 教育史②：日本の教育史
- 8回 学ぶ意欲と教育指導
- 9回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 10回 学校の制度：学校体系
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小課題等) 40%

最終課題(試験) 60%

* 感染症拡大の状況等によってはレポート課題に切り替えることもある。これについては授業中に改めて指示する。

* 3分の2以上の出席が最終課題(試験)受験資格

* 6回以上欠席した場合や最終課題(試験)を受験しなかった場合は原則評価不能(-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。

発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

教育原理【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子ども理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

<到達目標>

【知識】教育現場に生かすための教育心理の基礎（学習理論や教授法等）を幅広く理解している。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「I類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

適宜レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

教育心理学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。
- 第2回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。
- 第3回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。
- 第4回：【学習③】学習における動機づけについて学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。
- 第5回：【学習④】学習における原因帰属理論について学ぶ。また、原因帰属と動機づけの関連性についても学ぶ。
- 第6回：【学習⑤】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。
- 第7回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。
- 第8回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。
- 第9回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。
- 第10回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。
- 第11回：【教授法①】発見学習や有意義受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。
- 第12回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。
- 第13回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。
- 第14回：【応用②】知能の定義や考え方の変遷について学ぶ。また、教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。
- 第15回：【応用④】教育心理学的観点から、子ども理解を深めるとともに、特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援についても学ぶ。
- 最終試験

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート・・・40%
最終試験・・・60%

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）
（6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能（-）とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワークを行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

教育社会学【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から学校教育と学校教育をめぐる教育について、国内外の動向も紹介しながら、政策・実践課題について考えていきます。あわせて、子どもや子どもをめぐる社会変化についても理解を深めていきます。
日本については近年の様々な課題や政策動向など状況の変化について理解を深めます。
国外については日本との比較を念頭に置きながら、少子化への対応や、教育への考え方、取り組みの違いなどを理解し、社会全体で子どもを育成していく視点の重要性、教育の役割について説明します。
学校教育と家庭教育、社会教育（地域教育）の連携や協働についても具体的事例を取り上げながら理解を深めていきます。また、自然災害に対する子どもの安全を含めた、子どもの安全への対応についても事例を取り上げて考えます。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】

教育に関する社会学的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション ー教育に関する社会学とは
- 第2回学校をめぐる近年の動向 ー初等教育
- 第3回学校をめぐる近年の動向 ー中等教育
- 第4回子どもをめぐる社会の変化 ー少子高齢化、地域・社会の変容
- 第5回諸外国の子ども・子育ての動向 ー家族支援、教育支援
- 第6回諸外国の教育 ー学校教育
- 第7回諸外国の教育 ー青少年の社会参加・参画
- 第8回日本における教育政策・改革の動向
- 第9回子どもの生活の変化と指導の課題 ー家族、少子化
- 第10回子どもの生活の変化と指導の課題 ー孤食、栄養と食育
- 第11回子どもの生活の変化と指導の課題 ーメディアと遊び
- 第12回子どもの生活の変化と指導の課題 ー社会性、自主性
- 第13回学校と地域の連携 ー地域の変化、学校と地域の連携・協働、開かれた学校づくり
- 第14回学校や子ども活動での子どもの安全
- 第15回子どもの生活安全、交通安全、災害安全

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート・・・30%、課題レポート・・・70%
6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

子どもや教育に関する情報収集を行い、統計や社会動向、社会の反応などを踏まえて、予習に関しては授業時の小レポートに、復習に関しては課題レポートに記載すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

教職や社会教育主事資格の関連科目とあわせて受講すると、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実践的な取り組みを視聴覚教材を活用しながら紹介します。

キーワード /Keywords

公教育制度、地域、連携、協働、学校安全

教育課程論 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

概要

教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

到達目標

教育課程に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

- ①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するもの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 教育課程の基本原則 (1) カリキュラムとは
- 第 2回 教育課程の基本原則 (2) カリキュラムの類型
- 第 3回 教育課程の変遷と学習指導要領
- 第 4回 学力と教育課程 (1) 教育課程設計の前提となる「力」
- 第 5回 学力と教育課程 (2) 学習状況調査の影響
- 第 6回 諸外国の教育課程
- 第 7回 教育課程の編成 (1) 教科教育
- 第 8回 教育課程の編成 (2) 教科外教育
- 第 9回 学習環境のデザイン
- 第10回 教育課程の評価
- 第11回 教育課程の開発
- 第12回 カリキュラム・マネジメントと学校改善
- 第13回 今日の課題と教育課程 (1) 異文化理解
- 第14回 今日の課題と教育課程 (2) ESD
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 平常の学習状況 (小課題等) 40%
最終課題 (試験) 60%
- * 感染症拡大の状況等によってはレポート課題に切り替えることもある。これについては授業中に改めて指示する。
 - * 3分の2以上の出席が最終課題 (試験) 受験資格
 - * 6回以上欠席した場合や最終課題 (試験) を受験しなかった場合は原則評価不能 (-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育指導論 【昼】

担当者名 船原 将太 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、それをもとに、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。そのために講義の前半では、私たちが日ごろ行っている些細な「正しさについての判断」を検討し、この判断の妥当性が形成される歴史的過程を追っていくこととなる。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する著名な教材の分析を行うとともに、実際に指導する場面を想定し、学習指導案の作成などを行っていく。このことより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかるものとする。

本科目の到達目標は、道徳教育指導に必要な基本的な知見を身につけているものとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。各回、必要な資料を配布し、これをもとに講義を実施する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の際に、適宜提示するものとする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、道徳とは何か
- 第2回：社会における「正しさの基準」について
- 第3回：道徳教育の変遷①ー戦前
- 第4回：道徳教育の変遷②ー戦後
- 第5回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
- 第6回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
- 第7回：道徳教育の現代的課題①(グループ討論)
- 第8回：道徳教育の現代的課題②(グループ討論)
- 第9回：道徳教育の現代的課題③(グループ討論)
- 第10回：道徳教育の現代的課題④(グループ討論)
- 第11回：道徳科の学習指導案の作成方法
- 第12回：道徳教育の教材研究①
- 第13回：道徳教育の教材研究②
- 第14回：指導案作成
- 第15回：道徳教育の今日的な意義について

成績評価の方法 /Assessment Method

学習指導案：50%
コメントシート：20%
小テスト：30%
出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動・キャリア教育論【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位 / 2学期 /Semester
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業の概要

本講義の主な内容は以下のとおりである。

1. 文科省の中学校及び高等学校の学習指導要領・特別活動の目標と内容について
2. 学級活動や学校行事、生徒会活動を通じた「人間関係形成」「社会参加」「自己実現」の課題と方法
3. 特別活動の取り組みを進めていくための教職員の共同や家庭・地域との連携の課題と方法
4. 学校における進路指導、キャリア教育の位置づけと学校教育全体を通じたキャリア教育の課題
5. 職場体験学習などの体験活動を通じたキャリア教育の意義と進め方
6. キャリアカウンセリングの基本的な課題と方法について

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

到達目標 文科省の学習指導要領「特別活動」の課題と方法についての基本的な知識を修得している。

教科書 /Textbooks

文科省 中学校学習指導要領解説「特別活動編」 東山書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社

○文部科学省 中学校キャリア教育の手引き

○見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店

○キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画

- 1回 特別活動の目標と内容
- 2回 教育課程の中での特別活動の位置づけと各教科との関連
- 3回 学級活動の目標と内容
- 4回 学級活動の実際 その1 中学校の取り組み
- 5回 学級活動の実際 その2 高等学校の取り組み
- 6回 学級活動における対立解決プログラムの取り組み
- 7回 学校行事の目標と内容
- 8回 学校行事の実際
- 9回 生徒会活動の目標と内容
- 10回 生徒会活動の実際
- 11回 キャリア教育の課題について
- 12回 今日の若者の就労問題とキャリア教育の課題
- 13回 北九州キャリア教育研究会 夢授業の取り組み(講師 北九州キャリア教育研究会 木原大助さん)
- 14回 キャリアカウンセリングの課題と方法(ポートフォリオの活用を含む)
- 15回 中学校におけるキャリア教育の取り組み

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30点

キャリア教育に関する学習指導案 15点、対立の調停のシナリオ 15点

期末試験 40点

本授業は原則としてすべての授業回に出席して、課題を提出してもらうことが原則です。

出席について、3分の2以上の出席が最終レポート試験受験資格とします。)

(6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とします。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この授業では多くのグループワークと意見発表の機会を設け、教師としての実践的な指導力の育成を目指します。
大変かと思いますが、よろしくお願いします。

特別活動・キャリア教育論【昼】

履修上の注意 /Remarks

遅刻に対しては厳しく対応するので、十分に注意すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の目標、学級活動、生徒会活動、学校行事、キャリア教育

教育の方法と技術・総合的な学習の時間の指導法【昼】

教育の基礎的理解に関する科目等
必修科目

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）といった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業理論やICT教育の求められる背景を講義する。また学校ごとに特色ある「総合的な学習の時間」について、その内容の取り扱いや目標のあり方を理解し、各教科との関連を踏まえて捉えるようにする。

そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

到達目標

【知識】これからの子ども達に求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、技術、情報機器及び教材の活用に関する基本的知識を身につけている

教科書 /Textbooks

新しい時代の教育方法 改訂版 (2019 有斐閣アルマ)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 (平成29年3月告示 文部科学省)
高等学校学習指導要領 (平成30年告示 文部科学省)
他にも授業内で随時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：西洋における教育思想と教育方法の歴史
 - 第3回：日本における教育改革と教育方法の歴史
 - 第4回：現代教育方法学の論点と課題
 - 第5回：子どもは何を学ぶのか・学習とは何か
 - 第6回：「学力」について考える・学力とは何か
 - 第7回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
 - 第8回：教育の道具・素材・環境を考える
 - 第9回：何をどう評価するのか・評価と評定・基準と規準
 - 第10回：教科外活動を構想する
 - 第11回：授業研究・授業をいかに捉えるか
 - 第12回：総合的な学習の意義と課題
 - 第13回：総合的な学習の指導計画と取り扱い
 - 第14回：教師の専門性・専門職性
 - 第15回：まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ 30%
発表・レジュメ作成・・・ 20%
最終試験・課題レポート・・・ 50%
出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料（レジュメ）を作成してもらう。
また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

講義の3分の2以上の出席が試験受験の前提となる。
欠席の際は、連絡を入れるようにしましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

総合的な学習の時間は、各学校や地域ごとに特色ある活動を行っています。どのような実態があるかを考えるためには、他者との交流や対話的な学びが不可欠です。

能動的・積極的な姿勢を身に着けていきましょう。

キーワード /Keywords

生徒指導論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業の概要

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や発達障害、セクシュアルマイノリティ等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

到達目標 生徒理解と生徒指導に対する基本的な知識を修得している。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」
楠凡之 「虐待・いじめ 悲しみから希望へ」 高文研

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テキスト

参考書・参考資料等

桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画

- 1回 生徒指導の意義と目的 - 子どもたちの自己存在感を育むために
- 2回 生徒指導における個別指導と集団指導、積極的生徒指導と生活指導
- 3回 教育相談と生徒指導、不登校問題と生徒指導
- 4回 教育課程と生徒指導 その1 - 教科教育と生徒指導
- 5回 教育課程と生徒指導 その2 - 総合的な学習の時間、道徳教育と生徒指導
- 6回 教育課程と生徒指導 その3 - 学級づくりを通じた生徒指導
- 7回 生徒指導に関する法制度等(第7章他)
- 8回 生徒指導における規範意識の醸成をめぐる諸問題(ゼロトレランスの問題も含めて)
- 9回 生徒指導における体罰問題を考える - 家父長制的学校観を乗り越えるために
- 10回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と性教育の課題
- 11回 性被害児童・生徒に対する理解と支援
- 12回 生徒指導における関係諸機関の連携
- 13回 青少年の自殺予防の取り組み
- 14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その1 学校での支援
- 15回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その2 関係諸機関との連携

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40点、課題レポート20点、期末レポート40点
出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
(6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」のテキストはしっかり読み込んで内容を修得しておくこと。

生徒指導論【昼】

履修上の注意 /Remarks

全学の教職課程履修学生の必修科目ではありますが、人間関係学科の学生で、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの仕事に関心がある学生にも対応した内容になっているので、積極的に履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活指導、生徒指導の3機能、積極的生徒指導と消極的生徒指導、児童虐待問題

教育相談【昼】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、学校での教育相談の意義、生徒の問題行動の理解、教育相談の理論と技法（積極的傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を習得する。

また、不登校やいじめ、発達障害、非行、自傷・自殺、虐待等、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて検討するとともに、教育相談の組織的な体制づくりや関係諸機関との連携の課題を考察する。

<到達目標>

【知識】教育相談の意義を理解し、関連する専門的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】教育相談に関する知識を元に、適切な支援の道筋を見出すことができる。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「II類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

虐待 いじめ 悲しみから希望へ 楠凡之（著） 高文研
その他、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

生徒指導提要 文部科学省
Next教科書シリーズ 教育相談 津川律子、山口義枝、北村世都（著） 弘文堂
子どものこころの支援 連携・協働ワークブック 前川あさみ（編著） 金子書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：本講義のオリエンテーション、教育相談の歴史
 - 第2回：学校における教育相談の現代的意義と課題
 - 第3回：教育相談とカウンセリング（カウンセリングマインドの理解も含む）
 - 第4回：子どもの問題行動の意味（子ども理解も含む）
 - 第5回：教育相談の実際①（発達障害、不登校、いじめ等）
 - 第6回：教育相談の実際②（非行、自傷・自殺、虐待等）
 - 第7回：教育相談の基本的な理論の修得（来談者中心療法等）
 - 第8回：教育相談の基本的なスキル①（受容、傾聴、共感的理解、開かれた質問等）
 - 第9回：教育相談の基本的なスキル②（感情の明確化、共感的応答、直面化等）
 - 第10回：教育相談に役立つ心理的支援①（アサーション、ブリーフセラピー等）
 - 第11回：教育相談に役立つ心理的支援②（行動療法、認知行動療法等）
 - 第12回：教育相談に役立つ心理的支援③（ストレスコーピング、ストレスマネジメント等）
 - 第13回：教育相談のための連携と協働①（保護者との相談、学内での体制づくり等）
 - 第14回：教育相談のための連携と協働②（関係諸機関との連携）
 - 第15回：本講義全体のまとめ
- 最終試験

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート 40%
最終試験 60%
(出席について、原則として3分の2以上の出席を最終試験受験資格とする。)
(6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

教育相談【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等を行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

教育相談、いじめ、不登校、虐待

特別支援教育論 【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業での概要は以下の通りである。
 ①特別な支援を必要とする子どもの障害特性や心身の発達を理解するとともに、特別な支援を必要とする子どもの教育課程と支援方法について、その背後にあるインクルーシブ教育の理念も踏まえて検討する。
 ②貧困や虐待的な養育環境に置かれている子どもや外国にルーツを持つ子ども、セクシュアルマイノリティの子どもなど、多様な「特別なニーズ」を持つ子どもの抱える問題への理解と支援の課題を考察する。
 ③ 学校での福祉教育や職場体験などで求められる社会福祉施設入所者に対する理解と援助の在り方について、とりわけ認知症の高齢者の問題やその支援の課題について学習する。

到達目標 特別なニーズを持つ子ども、特別支援教育に関する基礎的な知見を修得している。

教科書 /Textbooks

楠 凡之 2012 「自閉症スペクトラム障害の子どもへの援助と学級づくり」 高文研

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文科省特別支援学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画

1. オリエンテーション + 昨年度のテキスト感想レポートの紹介
2. 特別支援教育の教育制度と教育課程
3. 発達障害・軽度知的障害の子どもに対する理解と援助
4. 自閉スペクトラム症の当事者研究
5. 外国にルーツを持つ子どもへの理解と支援 その1 日本語学習支援の取り組み
6. 外国にルーツを持つ子どもへの理解と支援 その2 学力問題とアイデンティティ問題に視点をあてて
7. セクシュアルマイノリティの子ども・青年の抱える生きづらさについて
8. 性の多様性が尊重される学級づくりの課題
9. 肢体不自由・重度心身障害児・者についての理解と支援 (外部講師)
10. 知的障害の特別支援学校での教育実践と支援の留意点(外部講師)
11. 学校における福祉教育の課題 - 高齢者・認知症の問題に視点をあてて(外部講師)
12. 被虐待児に対する理解と指導 - 不安定な愛着の問題に視点をあてて
13. インクルーシブ教育と集団づくり その1 小学校
14. インクルーシブ教育と集団づくり その2 中学校
15. インクルーシブ教育と集団づくり その3 高等学校
全体のまとめ

注 この中の第9回目から第11回目までの授業は「介護等体験事前指導」の授業を兼ねます。
 なお、この4回の事前指導とは別に「介護等体験事前説明会」を7月の中旬に実施します。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート20点(+ボーナス点)、平常点40点(+ボーナス点)、期末レポート 40点
 (6回以上欠席した場合や期末レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とします。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストは早めに読んでレポートにまとめて提出すること。
 介護等体験に行く学生は、9回目から11回目の内容を介護等体験ノートにまとめること。

履修上の注意 /Remarks

特別支援教育論は2019年度入学の学生から、教職課程の学生の必修科目になっています。
 ただし、9回目から11回目の授業については、2018年度以前入学生の「介護等体験事前指導」との合同の授業となる点、ご了解いただきたい。

特別支援教育論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は全学の教職課程の学生の必修授業であると同時に、人間関係学科の専門教育科目、地域創生学群のスクールソーシャルワーカー課程の専門科目を兼ねています。
そのような多様な興味・関心や背景を持つ学生同士の中での学び合いを期待しています。

キーワード /Keywords

特別支援教育、特別なニーズ、自閉スペクトラム症、セクシュアルマイノリティ、外国にルーツを持つ子ども

発達心理学 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】発達心理学に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』 ミネルヴァ書房 ¥2750

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」

その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問か
- 第2回 胎児期・乳児期の赤ちゃんの発達【知覚】
- 第3回 乳児期の赤ちゃんの認知と言語の発達【認知、言語】
- 第4回 赤ちゃんのもつ能力と生後1年間の変化について
- 第5回 乳児期の人との関係のはじまりについて【発達早期のコミュニケーション】
- 第6回 愛着の形成【愛着、内的作業モデル】
- 第7回 愛着の形成【成人の愛着、愛着の世代間伝達】
- 第8回 まとめ と レポート課題1
- 第9回 乳幼児期のコミュニケーション発達【共同注意】
- 第10回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【表象、心の理論】
- 第11回 児童期における思考の深まり【論理的思考、メタ認知】
- 第12回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第13回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第14回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第15回 まとめ と レポート課題2

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 20% レポート課題 ... 80%

6回以上欠席した場合やレポート課題(2回)を提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくること。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / カワシマシズヨ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位 / 2単位
学期 /Semester 1学期 / 1学期
授業形態 /Class Format 講義 / 講義
クラス /Class クラス 2年 / 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生が自らの人権感覚を養い、人権の主体として、人権を守り行動することを通じて、一人ひとりの尊厳と多様性が認められる差別のない社会づくりを目指す。自己や他人の人権を尊重する児童・生徒を育成するための人権教育実践ができるよう、指導方法について学ぶ。「到達目標」は豊かな知識を得ることである。

①文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」を指針として、学校における人権教育の指導方法について学ぶ。②普遍的な人権課題や、「体罰」「いじめ」など、教室の中の人権課題や個別の人権課題について学ぶ。

教科書 /Textbooks

特になし、資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『わたしたちの人権と責任』福岡県人権啓発情報センター
人権教育教材集『新版いのち』北九州市教育委員会
『人権教育ハンドブック』北九州市教育委員会
『教職員のためのLGBT(Q)支援ハンドブック』北九州市教育委員会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 なぜ、教師にとって人権教育は必要か - 人権とは何か、命の尊重、個性の尊重 【世界人権宣言】
- 2回 学校や社会で何が起きているか - 体罰、いじめ、児童虐待、SNS・インターネットによる人権侵害
- 3回 学校における人権教育の目的と方法 - 文部科学省の「人権教育の指導法の在り方」
- 4回 人権教育の枠組み - 教科を通じた人権教育、学級運営、生徒指導、(実践例など)
- 5回 部落差別と人権 【部落差別解消推進法】
- 6回 子どもの人権 【子どもの権利条約】【児童虐待防止法】
- 7回 障がい児・者の人権 【障害者権利条約】【障害者差別解消法】【障害者虐待防止法】
- 8回 「性の多様性」と人権 【SOGI】【性自認】【性的指向】
- 9回 外国人の人権 【ヘイトスピーチ解消法】
- 10回 男性と女性の人権 【デートDV】【セクシュアル・ハラスメント】【ストーカー規制法】
- 11回 性と人権 「性的いじめ」「子どもの性被害と性加害」
- 12回 ホームレスの人々の人権 【ホームレス自立支援法】【社会的排除・社会的包摂】
- 13回 高齢者の人権 【高齢者虐待防止法】
- 14回 コロナ禍中での人権 「エッセンシャルワーカー」「トリアージ」
- 15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。
課題、テストなど総合的に評価する。評価の割合は「テスト」(70%)、課題(20%)、授業への参加度(10%)
遠隔授業に変更になった場合は評価の方法や割合が変わる(テストから課題に)可能性もあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Teamsでの授業の場合は、moodleに示された資料、特にワークシート等は印刷しておいてください。

オンデマンドの授業では、事後学習として課題提出があります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新型コロナウイルス感染拡大の状況によって、対面ではなく、オンデマンド、Teamsなど授業形態が変わります。Moodleでお知らせします。

キーワード /Keywords

人権教育、子どもの人権 人権課題

社会科学教育法I【昼】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、社会科学を担当する教員に必要な基本的知識や資質について、学習指導要領に基づいて解説する。

到達目標

- ・ 学習指導要領に基づき、社会科学の教員に必要な基本的知識や資質について理解している。
- ・ 社会科学の各分野に必要とされる具体的な技能や方法（指導計画、社会科学における資料活用、教材研究の方法、学習指導案の作成）など、社会科学の授業を行っていく上での基礎的な知見を修得している。
- ・ 教師としての使命感について理解している。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領解説社会編」（平成29年告示・文部科学省）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 二谷貞夫・和井田清司編2007『中等社会科学の理論と実践』学文社
- ・ 他に、授業で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 教育の目的と社会科学の役割
 - 第2回：社会科学の目標と内容 社会科学教師としての資質・能力について
 - 第3回：学習指導要領の変遷 新しい学習指導要領について
 - 第4回：地理的分野の目標と内容
 - 第5回：歴史的分野の目標と内容
 - 第6回：公民的分野の目標と内容
 - 第7回：社会科学の授業づくり 教材研究
 - 第8回：社会科学の授業づくり 地図帳・地理の学習について
 - 第9回：社会科学の授業づくり 教科書の変遷や内容の取り扱いについて
 - 第10回：社会科学の授業づくり 実生活との関連や法と政治について
 - 第11回：社会科学の授業づくり 授業研究・授業記録・実践紹介
 - 第12回：社会科学の授業づくり 社会を教えるということ 指導案の作成
 - 第13回：学習指導案の作成と実践 指導観・教材観・生徒観 模擬授業（1）
 - 第14回：学習指導案の作成と実践 授業計画 模擬授業（2）
 - 第15回：まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業への参加度（グループ発表や質疑などへの参加）・・・ 30%
- 最終試験・課題レポート・・・ 40%
- 学習指導案作成・・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：学習指導要領解説の読み込み、指導案の作成など
グループワーク・発表の準備（受講人数によって課題の変更あり）
- 事後学習：学習指導要領に関する理解の確認、講義後に指示を行う

社会科学教育法I【昼】

履修上の注意 /Remarks

課題や発表について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
授業までに、報告者以外も該当箇所・資料を読んでおくこと。

授業後には、報告者以外にも要約・感想などの提出を求める。
なお出席は、3分の2以上している事が定期試験を受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディスカッションをとり入れるため、積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

社会科教育法II 【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 義則 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、社会科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。

◎到達目標

- ・ 学習指導要領に基づき、社会科の教員に必要な知識や資質について十分に理解している。
- ・ 社会科の各分野に必要とされる具体的な技能や方法（指導計画、社会科における資料活用、教材研究の方法、学習指導案の作成）など、社会科の授業を行っていく上で求められる知見を修得している。
- ・ 中等教育における社会科、地理歴史科の特色とそれら各分野の関連を理論的かつ実践的に考えていくことができる。
- ・ 教師としての使命感を自覚している。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領解説 社会編」文部科学省（平成29年告示）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 イン트로ダクション
- 第 2回 学習指導要領における社会科の位置付け
- 第 3回 教育実習を想定した授業実践及びICT活用による教科指導について
- 第 4回 指導案作成上の留意点
- 第 5回 指導案作成と教材研究・教材開発
- 第 6回 資料活用法、オリジナル教材の作成
- 第 7回 社会科におけるアクティブラーニング
- 第 8回 模擬授業（地理的分野①）
- 第 9回 模擬授業（地理的分野②）
- 第 10回 模擬授業（歴史的分野①）
- 第 11回 模擬授業（歴史的分野②）
- 第 12回 模擬授業（公民的分野①）
- 第 13回 模擬授業（公民的分野②）
- 第 14回 模擬授業（授業研究と評価）
- 第 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ◎授業への参加・貢献度（出席・意見発表・質疑等） 70%
- ◎模擬授業の際に提出する指導案 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ◎教材研究、指導案の準備については適宜打ち合わせを行う。

履修上の注意 /Remarks

- ◎積極的な授業参加が望まれる（授業後に感想用紙提出）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科教育法III 【昼】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、社会科教育法I、IIの授業で学習した社会科の知識と教授方法の基礎を前提として、社会科教師としてのより実践的な指導力の育成を目指す。

〈到達目標〉

- ・ 社会科の教員に必要な発展的な知識や資質について、学習指導要領に基づいて解説することができる。
- ・ 社会科の各分野に必要とされる具体的な技能や方法（指導計画、社会科における資料活用、教材研究、学習指導案の作成）を踏まえて、指導計画と学習指導案を作成することができる。
- ・ 社会科における授業の価値について理解し、教師としての使命感を深く自覚している。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領解説 社会編」（平成29年告示・文部科学省）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 二谷貞夫・和田清司編 2007『中等社会科の理論と実践』学文社
 日本教育方法学会編 2009『日本の授業研究 - Lesson Study in Japan - 授業研究の歴史と教師教育〈上巻〉』
 ・他にも、授業で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 授業目標・成績評価の方法・進め方
 第2回：新しい学習指導要領における中学社会科と学問領域との関係
 第3回：個が育つ教育 授業分析の視座（教師・生徒・社会の立場から）
 第4回：「単元」を意識した授業づくり 社会科の持つ連続性
 第5回：授業研究・教材研究 素材から教材・学習材への発展・ICTの活用
 第6回：授業を捉えるために 協働的な学びとアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）
 第7回：授業を捉えるために 授業を評価する（批判的思考とPDCAサイクル・改善の営み）
 第8回：授業のデザイン 指導案および教材の作成（1）
 第9回：授業のデザイン 指導案および教材の作成（2）
 第10回：各自の指導案の相互分析と評価・改善(1) プレゼンテーションと意見交換
 第11回：各自の指導案の相互分析と評価・改善(2) プレゼンテーションと意見交換
 第12回：模擬授業 実践と評価
 第13回：模擬授業 実践と評価
 第14回：模擬授業 実践と評価
 第15回：まとめ 教師としての学び

定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業への参加度（授業デザイン発表や意見交換への参加）・・・ 30％
 最終試験・課題レポート・・・ 30％
 学習指導案の作成および資料作成・・・ 40％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：講義内での配布資料の読み込み、指導案の作成など
 ペアワーク・プレゼン発表の準備（受講人数によって課題の変更あり）
 事後学習：小レポートによる振り返り

社会科教育法III 【昼】

履修上の注意 /Remarks

課題や模擬授業について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
 授業までに、報告者以外も指示された該当箇所・資料を読んでおくこと。
 授業後には、報告者以外にも要約・感想などの提出を求める。
 なお出席は3分の2以上している事が、単位認定試験を受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディスカッションをとり入れるため、積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

社会科教育法Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまでの社会科教育法の内容を踏まえたうえで、模擬授業や授業検討を行い授業の実践力を養っていく。

〈到達目標〉

- ①社会科の教員に必要な基本的知識や資質について、学習指導要領に基づいて詳しく解説することができる。
- ②社会科の各分野に必要なとされる具体的な技能や方法（指導計画、社会科における資料活用、教材研究、学習指導案の作成）を踏まえて模擬授業を行うことができる。
- ③中等教育における社会科、地理歴史科の特色とそれら各分野の関連を理論的かつ実践的に解説することができる。
- ④教師としての使命感を深く自覚して、行動することができる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領解説 社会編」（平成29年告示・文部科学省）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 二谷貞夫・和井田清司編2007『中等社会科の理論と実践』学文社
- ・ 他に、授業で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：社会科教育法Ⅳの目的・進め方・準備に関する説明
 - 第2回：社会科指導案の作成と授業づくり 1
 - 第3回：社会科模擬授業 1
 - 第4回：社会科授業省察会(体験の共有化と省察)・授業検討
 - 第5回：社会科模擬授業 2
 - 第6回：社会科授業省察会(体験の共有化と省察)・授業検討
 - 第7回：社会科模擬授業 3
 - 第8回：社会科授業省察会(体験の共有化と省察)・授業検討
 - 第9回：社会科模擬授業 4
 - 第10回：社会科授業省察会(体験の共有化と省察)・授業検討
 - 第11回：社会科模擬授業 5
 - 第12回：社会科授業省察会(体験の共有化と省察)・授業検討
 - 第13回：社会科模擬授業 6
 - 第14回：社会科授業省察会(体験の共有化と省察)・授業検討
 - 第15回：講義のまとめ
- 学期末試験

成績評価の方法 /Assessment Method

模擬授業の実践および参加・指導案などの授業デザインに関するもの：60%
 期末試験：40%

なお、出席回数10回以上がテストを受ける前提条件とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習指導要領解説の読み込み、指導案の作成など
 模擬授業に必要な教材開発など（受講人数によって課題の変更あり）

事後学習：学習指導要領に関する理解の確認や授業の反省についての確認。講義後に指示する。

社会科教育法Ⅳ【昼】

履修上の注意 /Remarks

模擬授業について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
受講人数によって、日程が多少変わりますが、模擬授業実践⇒検討の流れで展開します。
授業後には、報告者以外にも要約・感想などの提出を求める。

なお出席は、3分の2以上している事がテストを受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでの社会科教育法で学んだことを発揮しつつ、よりよい実践としていくことがねらいとなります。
模擬授業が中心になりますので、いろいろな授業方法の工夫を期待しています。

キーワード /Keywords

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 絢子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

【授業内容】 一口に「日本史」といっても、時代によってその国家形態・領土・領民は異なる。本授業では日本の国家形成過程と、その統治下でどのような人たちが日本の歴史に関わってきたのかについて、構造的かつ空間的に学ぶ。

【到達目標】 歴史学の手法や、日本史研究の重要なトピックを学び、歴史学的視点から日本史をとらえ、教えることができる能力を身に付けることを目標とする。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回の授業でレジュメ・資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：「日本史」とは：歴史学の手法と、隣接学問分野から
- 第2回：稲作文化の伝来と小国家の分立
- 第3回：ヤマト王権による統合
- 第4回：中央集権化と日本の律令制
- 第5回：武家政権と朝廷の併存
- 第6回：中世における多元的支配
- 第7回：「天下統一」から幕藩体制へ：身分・宗教・対外意識
- 第8回：開国と国境画定
- 第9回：明治立憲体制
- 第10回：本国と植民地の関係
- 第11回：敗戦と占領
- 第12回：日本国憲法の制定
- 第13回：境界地域：沖縄と北海道
- 第14回：移動する人々：出稼ぎ・移民・引揚げ・旧植民地出身者
- 第15回：「日本」の歴史を学ぶ意味

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の課題 (30%) と期末試験 (70%) によって評価する。
6回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で配布する資料や、紹介する参考書などを事前・事後学習として読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 植松 慎悟 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。

本講義では、「最初の中華帝国」秦王朝、「最長の中華帝国」漢王朝の歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを中心に論じる。本講義は、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標としたものである。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のガイダンス
 - 2回 古代の中国と日本 -日中交流史-
 - 3回 秦(1) -戦国時代から中国統一へ-
 - 4回 秦(2) -始皇帝の統一政策-
 - 5回 前漢前期(1) -項羽と劉邦-
 - 6回 前漢前期(2) -高祖と冒頓単于-
 - 7回 前漢前期(3) -呂后-
 - 8回 前漢中期(1) -武帝-
 - 9回 前漢中期(2) -昭帝-
 - 10回 前漢中期(3) -宣帝-
 - 11回 前漢後期(1) -元帝-
 - 12回 前漢後期(2) -成帝-
 - 13回 前漢後期(3) -哀帝-
 - 14回 新の王莽 -王莽は「篡奪者」か-
 - 15回 まとめ
- 期末試験(場合によってはレポートなどの課題提出に変更する)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・70% 日常の授業への取り組み・・・30%
*なお、欠席・遅刻・私語など授業態度については、成績評価の際に適宜考慮する。
定期試験を受験しなかった場合、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義では、前回までの内容をふまえ、講義を進めていく。毎回、授業の板書やプリントを見直し、しっかりと復習すること。理解が不十分な部分は、初回で紹介した推薦図書などで確認をとっておくこと。(60分)
予習については、東洋史を含めて書籍・報道などで幅広く知識や教養を身に付けること。特に、大学生として恥ずかしくない読書量を確保すること。(60分)

履修上の注意 /Remarks

本講義は、板書を中心に進めるので、集中して受講すること。初回に講義のガイダンスを行うので、出席すること。
講義の進行具合によって授業計画を変更する場合があります、その際は授業中に指示する。
また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義のテーマは、中国史を中心とした東洋史の概説です。なじみのない学生には少々難易度の高い授業になりますので、高校レベルの世界史を独自に学習しておくこと、理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

中国 歴史 政治 社会 文化 皇帝支配

西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 曠谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【バックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシヤス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)
試験を受けなかった場合には、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

特にありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校時代に世界史が苦手だった方、大歓迎です。

キーワード /Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界

人文地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 美谷 薫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人文地理学は、地表上のさまざまな人文・社会現象を、特に地域的差異という視点から明らかにしようとする学問分野です。そのような定義からすると、研究の対象が極めて広範なものに及ぶことから、科学というよりは「ものの見方」に近いものであるとも言えるかもしれません。本講義では、人文地理学の諸分野における基礎概念や研究事例を取り上げ、地域を見る「ツール」としての「地理学的なものの見方や考え方」を習得することを目的とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しませんが、地図帳（中学・高校で使用したもので構いません）があると理解が深まると思います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介しますが、主なものとして以下の3点を挙げておきます。
上野和彦・椿真智子・中村康子編 2015. 『地理学基礎シリーズ1 地理学概論 [第2版]』朝倉書店。
○浮田典良編 2003. 『最新地理学用語辞典改訂版』原書房。
○中村和郎・手塚 章・石井英也 1991. 『地理学講座4 地域と景観』古今書院。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN：人文地理学の体系と歴史
- 第2回 人文地理学の基礎概念(1)：地域①(地域概念, 等質地域と機能地域)
- 第3回 人文地理学の基礎概念(2)：景観
- 第4回 人文地理学の基礎概念(3)：地域②(地域構造, 認知地域)
- 第5回 人文地理学の基礎概念(4)：環境
- 第6回 人文地理学の基礎概念(5)：分布と伝播
- 第7回 人間と社会の地理学(1)：人口
- 第8回 人間と社会の地理学(2)：村落
- 第9回 人間と社会の地理学(3)：都市①(都市概念, 都市化, 都市システム)
- 第10回 人間と社会の地理学(4)：都市②(都市空間構造, 都市変化)
- 第11回 産業と経済の地理学(1)：農業
- 第12回 産業と経済の地理学(2)：工業
- 第13回 産業と経済の地理学(3)：商業
- 第14回 産業と経済の地理学(4)：流通
- 第15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に実施する作業課題：40点, 学期中に実施する作業レポート：20点, 期末レポート：40点の合計100点満点で評価します。6回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習が中心ですが、授業時間内に作業課題が終わらなかった場合は、次回授業までに各自で作業を行ってもらうことがあります。

履修上の注意 /Remarks

各回の講義で簡単な統計資料の分析や図表の読み取りなどの作業を行いますので、出席に際しては、色鉛筆(12色程度)、定規、電卓(スマートフォンのアプリで構いません)を用意してください。履修条件はありませんが、全体として作業量の多い講義ですので、その点はあらかじめご承知おきください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学の「地理学」の内容を紹介する際に、よく「高等学校までの地理とは違う」というようなことが言われます。その中身については、講義中に説明をしますが、高等学校で地理系の科目を履修されなかった方も歓迎します。

キーワード /Keywords

土地地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究するためには、位置を知るための地図が必須で、地図は「地理学の言語」と言われるほど重要です。この科目では、地図を通じて基礎的な地理学的知見を深めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習を行い、地理学の基礎的研究手法を学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。
人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。
地理学的な考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山本博文監修「古地図から読み解く城下町の不思議と謎」実業之日本社, 2017年, 1650円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力 【地理的情報を整理する働き】
- 3回 地図の歴史 【文字を持たない未開の民族も地図は持っていた】
- 4回 地図にはどのような種類があるか 【地図には様々な種類がある】
- 5回 地図は、どのように作られるか 【地図投影・図法と図式】
- 6回 地図記号と景観1 【地図記号が示す景観】
- 7回 地図記号と景観2 【地図を読む楽しみ】
- 8回 山の地形を地形図から描く1 (講義・実習) 【行ったことのない山の形を地図から描くことができる】
- 9回 山の地形を地形図から描く2 (実習)
- 10回 地図を利用して地表を計測する 【山の堆積を地図から測定できる】
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる1(実習) 【海岸砂丘の環境と土地利用。自然景観を読む】
- 12回 地形図を利用して景観を読みとる2(実習) 【中世の集落の立地。歴史景観を読む】
- 13回 リモートセンシングと空中写真の利用 【直接行けない場所の状態を知る】
- 14回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)
- 15回 衛星データを利用して地表の環境を調べる

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30% 試験...70%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、授業内容に関連する新聞記事やインターネット情報を読む、関連するテレビ番組を見るなどするとより理解が深まります。授業後には、ノートを整理し、配付された資料等をよく読んで理解したうえで、それらを将来的に使えるようファイルボックスなどに整理しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 美谷 薫 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地理学は大きく系統地理学と地誌学（地域地理学）の2分野に分けられることが多いですが、系統地理学（自然地理学や人文地理学）がさまざまな事象の地域的差異とその要因を探求するものであるのに対して、地誌学は、それらの知識を活用しながら、地域ごとの特性を明らかにしようとする学問分野です。

本講義では、身近な地域の事例としての北九州市や福岡県、また、より広域の地域としての九州・沖縄地方、日本の諸地域を取り上げながら、地域の特徴を明らかにするための地誌学的な手法を習得することを目標とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しませんが、地図帳（中学・高校で使用したもので構いません）があると理解が深まると思います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介しますが、主なものとして以下の3点を挙げておきます。

菊池俊夫編 2011. 『世界地誌シリーズ1 日本』朝倉書店.

矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢編 2020. 『地理学基礎シリーズ3 地誌学概論 [第2版]』朝倉書店.

山本正三・谷内 達・菅野峰明・田林 明・奥野隆史編 2006. 『日本総論II(人文・社会編)』, 朝倉書店.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN(1): 地域の見方・考え方
- 第2回 インTRODクシヨN(2): 北九州市を説明する
- 第3回 身近な地域の見方(1): 北九州市と福岡県の自然環境
- 第4回 身近な地域の見方(2): 北九州市と福岡県の歴史・文化環境
- 第5回 身近な地域の見方(3): 北九州市と福岡県の社会・経済環境
- 第6回 広域スケールの地誌(1): 九州・沖縄地方①
- 第7回 広域スケールの地誌(2): 九州・沖縄地方②
- 第8回 広域スケールの地誌(3): 中国・四国地方①
- 第9回 広域スケールの地誌(4): 中国・四国地方②
- 第10回 日本の諸地域(1): 近畿地方
- 第11回 日本の諸地域(2): 中部地方
- 第12回 日本の諸地域(3): 関東地方
- 第13回 日本の諸地域(4): 東北地方
- 第14回 日本の諸地域(5): 北海道地方
- 第15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に実施する作業課題: 40点, 学期中に実施する作業レポート: 20点, 期末レポート: 40点の合計100点満点で評価します。
6回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習が中心ですが、授業時間内に作業課題が終わらなかった場合は、次回授業までに各自で作業を行ってもらうことがあります。

履修上の注意 /Remarks

各回の講義で簡単な統計資料の分析や図表の読み取りなどの作業を行いますので、出席に際しては、色鉛筆(12色程度)、定規、電卓(スマートフォンのアプリで構いません)を用意してください。履修条件はありませんが、全体として作業量の多い講義ですので、その点はあらかじめご承知おきください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「人文地理学」と同様の内容ですが、大学の「地理学」の内容を紹介する際に、よく「高等学校までの地理とは違う」というようなことが言われます。その中身については、講義中に説明をしますが、高等学校で地理系の科目を履修されなかった方も歓迎します。

キーワード /Keywords

教育とコンピューター 【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 教職2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文部科学省は「GIGAスクール構想」を掲げ、全児童・生徒一人一台の学習用コンピューター、全学校での高速・大容量・機密性の高いネットワークの実現を目指している。学校におけるICT環境が整備される中、教師は、情報教育・教科指導における情報通信技術の活用・校務の情報化を3本柱とする「教育の情報化」に適応した能力が求められる。

本授業では、「教育の情報化」に適応するための基礎的スキルの習得を目指す。具体的には、以下の基礎的スキルを習得することが目標である。

- ・ 「教育の情報化」の重要性について説明することができる。
- ・ 文書作成ソフトを用いて、教材や書類を作成することができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、教材作成や校務処理を行うことができる。
- ・ プレゼンテーションソフトを用いて、教材を作成することができる。

教科書 /Textbooks

『情報リテラシー Windows10 /Office2019対応』, FOM出版, 2,000円(税抜)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：教育の情報化とは何か【オリエンテーション】
- 2回目：教育の情報化の重要性と課題
- 3回目：文書作成レッスン(1)【レポートの作成】【図や表の挿入】
- 4回目：文書作成レッスン(2)【表現力アップ】【長文レポートの編集】
- 5回目：文書作成演習
- 6回目：表計算レッスン(1)【データの入力】【表の作成】
- 7回目：表計算レッスン(2)【表の編集】【表の印刷】【グラフ作成】
- 8回目：表計算レッスン(3)【データベースの操作】【複数シートの操作】
- 9回目：表計算レッスン(4)【高度な関数】
- 10回目：表計算レッスン(5)【条件付き書式設定】【高度なグラフ作成】【ピボットテーブル】
- 11回目：表計算演習
- 12回目：プレゼンテーションレッスン(1)【プレゼンテーションの作成】【オブジェクトの挿入】【構成の変更】
- 13回目：プレゼンテーションレッスン(2)【動きの設定】【印刷】【別アプリのデータの利用】【スライド共通のデザイン設定】
- 14回目：プレゼンテーション演習
- 15回目：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

教育の情報化に関するレポート・・・10%, 文書作成演習・・・20%, 表計算演習・・・50%,
 プレゼンテーション演習・・・20%
 課題およびレポートの提出回数が全体の3分の2未満の場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、教科書の内容をよく読み、事前に練習をしておくこと。
 事後学習として、パソコン自習室や自宅のパソコンなどを用いて、授業で習った内容に沿って操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピューターの基本的な操作(タイピングやマウス操作など)が円滑にできるようになっておくことと受講しやすい。「コンピューターリテラシー」を受講しておくこと、受講しやすい。
 この科目は、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、初回の授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピューターを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

教育の情報化, 文書作成ソフト, 表計算ソフト, プレゼンテーションソフト

都市と地域【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE002F	◎		○		○
科目名	都市と地域				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

日本や海外における都市や地域についての紹介や、それらを考察するための概念や枠組み、現状での課題や将来の展望などについて議論する。より幅広く俯瞰的な視点を持つことにより都市や地域を様々な形でまた複眼的に捉え、そこから社会に対する新しい視点が生まれることを促す。

都市と地域という概念の多様さを学びながら実際の事例を通して都市・地域の形状、規模、その成り立ちを考察する。また、その延長として都市・地域間の係わりを社会、経済、交通などの側面から分析する枠組みや手法を紹介する。

「都市と地域」の最終的な目的としては、都市と地域の概念の理解と個々人での定義の形成、それらを基にした柔軟な着想を習得することにある。

【到達目標】

「知識」都市と地域の概念を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
 「思考・判断・表現力」都市と地域の概念を用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力身につけている。
 「自立的行動」都市と地域に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本科目はオンラインにて遠隔開講（オンデマンド方式）される予定である。Office365のStreamによる講義配信とMoodleによる課題実施が行われる。このため各自がこれらへの十分なアクセスを準備ないし確保する必要がある。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 共通 : クラス紹介および注意事項
- 2回 地域 1 : 地域概念: 『地域』とは何か?
- 3回 地域 2 : 地域学と地域科学
- 4回 地域 3 : 地域開発とは
- 5回 地域 4 : 地域間という視点
- 6回 地域 5 : 地域を分析する
- 7回 地域 6 : 地域事例 (LQによる分析)
- 8回 地域 7 : 地域最終クイズ
- 9回 都市 1 : 都市はなぜ存在するか?
- 10回 都市 2 : 都市の理論
- 11回 都市 3 : 都市の構造
- 12回 都市 4 : 都市の変遷・動態
- 13回 都市 5 : 都市を分析する
- 14回 都市 6 : 都市事例
- 15回 都市 7 : 都市最終クイズ

成績評価の方法 /Assessment Method

各週の課題 (合計) ... 40% 最終クイズ (2回合計) ... 60%

地域最終クイズまたは都市最終クイズのいずれか一つでも回答の提出がない場合は最終成績が評価不能 (-) となる。

都市と地域【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃から「都市」や「地域」という言葉がどのように使われているかを注意深く観察・考察して授業に臨むこと。新聞やTVニュース、もしくはインターネットニュースサイトなどで使われている「都市」や「地域」という言葉の意味を吟味することを心がける。授業で紹介した様々な「都市」や「地域」の概念を授業後に自らの考えと照らし合わせて考察し、身近な事例に当てはめて次回の授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

本授業は毎週行われ講義形式で行われます。授業に毎回出席すること、予習・復習等の準備を行うこと、授業内討論への活発な参加を行うことなどに付け加え、毎週の(Moodleによる)課題への回答、および2回の最終クイズへの回答が必須。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

不正行為が発覚した場合は、当該項目だけでなくすべての点数(授業貢献を含む)が0点になる。

キーワード /Keywords

地域科学、地域学、都市構造、都市政策
SDGs 11. まちづくり

地域の社会と経済【昼】

担当者名 李 錦東 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN170F	◎		○		○
科目名	地域の社会と経済				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、北九州地域の社会的・経済的特性について様々な観点から学び、理解を深めることを通じて、地域の課題を発見し、何をすべきか、自ら考えることを目指しています。

本授業では、各トピックに関して現場での経験や造詣が深い方々をゲストとしてお招きし、皆さんの出身地が北九州であってもその他の地域であっても、学生生活を過ごす北九州地域への理解を深め、また、皆さんのキャリア形成等にとってもためになるお話を聞きます。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域の社会と経済を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域の社会と経済について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】地域の社会と経済に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

■要注意！

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※講義の内容及び順番は、ゲストスピーカーの都合などにより変更しますので、あらかじめご理解ください。

第1回：イントロダクション

第2回：北九州の産業と40年周期説

第3回：統計からみる北九州の産業

第4回：地域の企業①【地元企業関係者等による説明】

第5回：地域の企業②【地元企業関係者等による説明】

第6回：地域の企業③【地元企業関係者等による説明】

第7回：地域の企業④【地元企業関係者等による説明】

第8回：地域の企業⑤【地元企業関係者等による説明】

第9回：地域の起業環境【NPO等の専門家による説明】

第10回：地域のコミュニティ【NPO等の専門家による説明】

第11回：地域の取り組み【市役所など行政関係者による説明】

第12回：地域の環境ビジネス【関連活動をしている関係者による説明】

第13回：地域社会を新しく考えるための思考【NPO等の専門家による説明】

第14回：北九州市の人口と未来

第15回：まとめ一住みたいまち 北九州 -

※地域の企業とは今後日程などの調整が必要です。ご参考までに、2021年度にご登壇していただいた企業(の方)は、次の通りです。①プレミアホテル門司港総支配人、②極東ファティ㈱代表取締役社長、③ヤフージャパン株式会社 エリアリーダー、④クラウン製パン株式会社総務部、⑤株式会社井筒屋、⑥シャボン玉石けん株式会社社長、などです。

地域の社会と経済【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

各回ごとのショートレポート(14回):100%

※ ショートレポートのが、授業や講演内容を反映していない・質問などの趣旨とは異なる・内容がチンプンカンプンでよくわからない(理解不能、未提出含む)などと評価された回数が、5回以上だと評価不能になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

北九州地域の社会や経済に関する情報は常にアップデートされ、メディアでも多く扱われています。

平素より地域の現状と変化などについてアンテナを張って、本授業の事前・事後に情報収集に努めましょう。

活字新聞、TV、インターネット等も有効に利用してください。

また、授業中に興味を持った事項については、皆さんのキャリア形成や知見を広めるなどのために、各自調べて理解を深めていきましょう。

履修上の注意 /Remarks

※※ 授業計画及び内容は、ゲストスピーカーの都合等により、トピックの順番・内容を変更しますので、予めご了承ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんの大学時代の4年間を過ごす「北九州」ですが、本科目『(北九州)地域の社会と経済』を受講することで、北九州に対する理解はもちろん、北九州地域への関心や愛着、愛郷心をもてるようになります。また、皆さんの学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識や知恵、刺激などを得ることができるでしょう。ゲストスピーカーは、地域や産業の第一線で活躍活躍している方が多く、彼らの話を聞くことで、皆さんが地域の現状と課題とビジョンを理解し、地域に密着した人材として、地域での活躍ができる切っ掛けやステップを見つけることにつながります。私は、皆さんが大学を卒業した後、4年間過ごしたまちについて、愛着をもって語れる人になってほしいと思っています。

キーワード /Keywords

シビックプライド、地域愛着、グローカル化、地域活性化
SDGs8・働きがい・経済成長、SDGs11・まちづくり

地域の文化と歴史【昼】

担当者名 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HIS170F	◎		○		○
科目名	地域の文化と歴史				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

受講者が学生時代を過ごす北九州・下関地域のあゆみ、及びその過程で生まれた地域における様々な文化に関して基本的な事項を学ぶ。そのことを通じ、自らが関わる地域への関心・愛着を深めるとともに、地域の特長や課題を分析・考察する基礎的な力を得ることを目指す。

授業においては、各トピックに関する北九州・下関地域の第一人者である専門実務家をゲストとしてお招きする回を中心とする。北九州・下関地域出身者のみならず、その他の地域の出身者にとっても、今後の学生生活や就職、社会活動の充実につながる学びを得ることができる内容で構成する。

なお、2022年度において本講義は遠隔（オンデマンド）授業での開講を予定している。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められる。

（到達目標）

【知識】北九州・下関地域の文化と歴史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域の文化と歴史について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】地域の文化と歴史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回： ガイダンス、本授業で対象とする「地域」とは
- 第 2 回： 《歴史》現在の地域
- 第 3 回： 《歴史》古代の地域
- 第 4 回： 《歴史》中世・近世の地域
- 第 5 回： 《歴史》幕末期の地域
- 第 6 回： 《歴史》明治以降の日本の近代化と地域
- 第 7 回： 《歴史》昭和期以降の地域
- 第 8 回： 《文化》北九州市の文化芸術政策の概要
- 第 9 回： 《文化》文芸活動等による地域への政策効果
- 第 10 回： 《文化》地域の漫画文化、ポップカルチャー
- 第 11 回： 《文化》地域の美術、現代アート（北九州市立美術館のコレクション）
- 第 12 回： 《文化》地域の映画文化
- 第 13 回： 《文化》地域の文化財
- 第 14 回： 《文化》地域の文学
- 第 15 回： 《文化》地域の芸術、音楽、演劇

※この授業における「地域」とは、基本的に「北九州・下関地域」を指す。

※ゲスト（各分野の専門実務家）の御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

※参考： 2021年度のゲストの所属組織例（2022年度も概ね同様の予定だが、変更となる可能性がある）（順不同）

《北九州市立いのちのたび博物館、北九州市立美術館、北九州市漫画ミュージアム、北九州フィルム・コミッション、北九州芸術劇場、北九州市立文学館、北九州市文化企画課、下関市立歴史博物館、下関市教育委員会文化財保護課 など》

地域の文化と歴史【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（各回で課す課題への取り組み状況）： 100%

※課題はMoodleで提出することを基本とする。

※正当な理由なく8回以上課題を提出しない場合は、評価不能（-）とする。なお、これはあくまで「評価不能」とする基準であり、7回以下の課題不提出でも単位を取得できない場合はある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。

事後：各回で課す提出課題に取り組むこと。併せて、授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べること。

履修上の注意 /Remarks

授業計画については、ゲストの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんが学生時代を過ごす北九州・下関地域の文化や歴史を学ぶことで、皆さんのこれからの学習やキャリア形成、また教養を深める活動にとってプラスとなる知識を得ることができ、さらに、地域に対する関心が増して有意義な学生生活を送ることにつながる授業にしたい。

北九州市・下関市の博物館等の学芸員や文化行政担当者等が、オムニバス形式で各専門分野に関する北九州・下関地域の文化や歴史について解説し、地域への関心や愛着の醸成を図る。

キーワード /Keywords

北九州・下関地域（関門地域）、歴史、文化、文学、芸術

SDGs 4.質の高い教育を、SDGs 11.まちづくり、SDGs 16.平和と公正

実務経験のある教員による授業

地域のにぎわいづくり【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE270F	◎		○		○
科目名	地域のにぎわいづくり				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

観光やイベントの振興等を通じ北九州・下関地域をにぎわい溢れる地域とするために必要な視点や方策について学ぶ。学生の主体的な学びを重視し、地域のにぎわいづくりに向けた現状と課題を理解し、自らの考えをまとめ、考察すること等を通じ、地域への理解を深め、にぎわいづくりに関する視野を広げることを目指す。

2022年度においては、行政および地域の各種団体等の協力のもと、主にスポーツ・文化芸術関連のイベントや取り組み、観光振興等に着目し、にぎわいづくりの実務に関わっておられるゲストの講話等を通じて、にぎわいづくりの意義や課題、今後求められる視点などについて学んでいく。

(実施方法について)

2022年度において本講義はメディア授業(遠隔授業)での開講を予定している。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められる。

全15回の授業のうち、2ないし3回はリアルタイムのライブ方式(同時双方向型)での実施を予定し、残りの回はオンデマンド方式での実施を予定している。なお、ライブ方式の回においては、リアルタイムでの参加が難しい受講者向けに、授業を収録した動画をオンデマンド方式で配信し課題に取り組むことを可能とする。詳細については第1回授業で説明する。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域におけるにぎわいづくりの可能性や意義を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域におけるにぎわいづくりについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】地域のにぎわいづくりに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

地域のにぎわいづくり【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンス
- 第 2回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性① 【総論】
- 第 3回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性② 【事例研究】
 ※第3回はライブ方式(同時双方向型)を予定
- 第 4回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性③ 【スタジアム・アリーナ整備】
- 第 5回 《スポーツ》プロスポーツとにぎわいづくり① 【地域社会活性化】
- 第 6回 《スポーツ》プロスポーツとにぎわいづくり② 【地域経済活性化】
- 第 7回 《スポーツ》国際スポーツ大会の開催効果
- 第 8回 《文化芸術》文化芸術とにぎわいづくりの関係性
 ※第8回はライブ方式(同時双方向型)を予定
- 第 9回 《文化芸術》文化財を活かしたにぎわいづくり
- 第10回 《文化芸術》MICEによるにぎわいづくり
- 第11回 《観光等》観光振興によるにぎわいづくり
- 第12回 《観光等》港湾をいかしたにぎわいづくり
- 第13回 《観光等》商業振興によるにぎわいづくり
- 第14回 《観光等》食を活かしたにぎわいづくり
- 第15回 企業の視点からみたにぎわいづくり

※ゲスト(にぎわいづくりの実務家)の御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。
 ※ライブ方式(同時双方向型)の回を上記よりも1回増やして計3回とする可能性がある。第1回授業で説明する。なお、ライブ方式の回においては、リアルタイムでの参加が難しい受講者向けに、授業を収録した動画をオンデマンド方式で配信し課題に取り組むことを可能とする。

※参考：2021年度のゲストの所属組織の例(2022年度においては一部変更を行う)
 《北九州市役所(観光課、クルーズ・交流課、東アジア文化都市推進室、世界体操・新体操選手権推進室)、下関市教育委員会、特定非営利活動法人門司赤煉瓦倶楽部、株式会社ギラヴァンツ北九州、福岡北九州フェニックス株式会社、毎日新聞》

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(各回で課す課題への取り組み状況)：100%
 ※課題はMoodleで提出することを基本とする。

※正当な理由なく8回以上課題を提出しない場合は、評価不能(-)とする。なお、これはあくまで「評価不能」とする基準であり、7回以下の課題不提出でも単位を取得できない場合はある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。
 事後：各回で課す提出課題に取り組むこと。併せて、授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べること。

履修上の注意 /Remarks

授業計画については、ゲストの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州を中心とする地域のにぎわいづくりに関し現実に即した視点や取り組み事例等を学ぶことで、学生の皆さんのこれからの多様な学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識を得ることが出来る授業をめざす。

民間シンクタンクでまちづくりのコンサルタント実務経験のある教員が、地域活性化の視点からにぎわいづくりの重要性について論じるとともに、北九州市役所や企業・地域団体等でのにぎわいづくり関連事業に取り組んでおられる実務家をゲストとしてお招きし、学生の地域への関心の醸成や理解の深化等を図る。

キーワード /Keywords

観光、イベント、MICE、集客、スポーツをいかしたまちづくり

SDGs 11.まちづくり、SDGs 12.作る・使う責任

実務経験のある教員による授業

地域と国際【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE003F	◎		○		○
科目名	地域と国際				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

企業は、人口の減少や市場の成熟により国内市場の成長が期待できない中、新たな市場を求めて海外展開を進めています。また労働力人口が減少し、さらに高齢者が増加する中、外国人労働者の受入れを余儀なくされています。さらに外国人観光客も、コロナで途絶えたものの、今後増加するものと思われます。

こういった状況にあって、北九州地域の企業や公的機関（市役所など）が、国際化に向けて、どのような取り組みを行っているのか。

本講義では原則毎回、企業や公的機関で海外事業に携わっている担当者に、国際化の実状についてお話ししていただきます。

なお本講義は遠隔（オンデマンド）で行われます。学生は自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

（到達目標）

【知識】国際化の実情と地域の取り組みを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断】国際化の実情と地域の取り組みの諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】国際化の実情と地域の取り組みに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

原則毎回、講義で使用します資料を、事前にMoodleにアップロードします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 公的機関の国際化の現状（例、北九州市の国際交流・多文化共生）
 - 第3回 公的機関の国際化の現状（例、北九州市の国際環境保全）
 - 第4回 公的機関の国際化の現状（例、北九州市の水ビジネス）
 - 第5回 公的機関の国際化の現状（例、国の国際貢献活動）
 - 第6回 公的機関の国際化の現状（例、国の企業の海外展開支援）
 - 第7回 企業の海外事業の現状（例、製造業）
 - 第8回 企業の海外事業の現状（例、サービス業）
 - 第9回 企業の海外事業の現状（例、金融業）
 - 第10回 企業の海外事業の現状（例、建設業）
 - 第11回 本学における取組み事例①（例、カンボジア：人材育成）
 - 第12回 本学における取組み事例②（例、ベトナム：中小企業振興）
 - 第13回 国際化が進展する中で、いかに生きるか①
 - 第14回 国際化が進展する中で、いかに生きるか②
 - 第15回 まとめ
- ※講師（ゲストスピーカー）の都合により、授業の内容や順番に変更があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則、毎回レポートを課します：100%
（期末テストは行いません）
（レポートの提出回数が、3回以下の場合は、評価不能（-）とします）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞や雑誌、インターネットなどを通じて、国際情勢にかかわる情報の収集に努めて下さい。
北九州地域の企業や公的機関の国際化の実状を理解し説明ができるようにして下さい。さらにこれらの実状に対して、自身の考えを述べる
ことができるようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

授業をつうじて、学生生活の過ごし方や、将来のあるべき姿・生き方を考えて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

海外にかかわっている企業や公的機関の方が、独自の取組み内容を”熱く”語ります。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

地域防災への招待【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~), 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)
 村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室, 城戸 将江 / Masae KIDO / 建築デザイン学科 (19~)
 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SSS001F	◎		○		○

科目名	地域防災への招待	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	----------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

本講義では、防災の基礎知識及び自治体の防災体制・対策等を学ぶことを通じ、学生自身の防災リテラシーと地域での活動能力を向上させることを目的とする。
 地震や風水害などの代表的な災害のメカニズム、自然災害に対する北九州市の防災体制・対策について、本学および北九州市役所を中心とする専門家が全15回にわたって講義し、防災の基礎、自治体の防災、市民・地域主体の防災の3つの知識を身につける。北方・ひびきのの学生同士、また、学生と講師が協力しながら地域防災のあり方を考える。
 ささまざまな分野を担当する北九州市役所の職員が講師として参画するため、防災を軸としつつ地方自治体の業務の実際を幅広く知るためにも役立つ。

到達目標
 地域防災を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
 地域防災の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。
 地域防災に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本科目は、教室とメディア授業の組み合わせで行います。
 北方、ないし、ひびきのの教室で対面授業を行い、これをTeamsで同時配信します。また、録画をMoodleに掲載します。学生は、教室、Teamsによるライブ配信、録画のいずれかで授業に参加してください。
 また、参加が必須となる北九州市防災公開講座（対面形式の予定）が授業に組み込まれています。

教科書 /Textbooks

なし、授業で必要に応じて資料を配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

京都大学防災研究所編(2011)：自然災害と防災の事典、丸善出版
 金吉晴(2006)：心的トラウマの理解とケア、第2版、じほう
 片田敏孝(2012)：人が死なない防災、集英社新書

地域防災への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス：災害についての考え方（北九大：加藤）
- 2 組織連携のための課題と訓練（北九大：加藤）
- 3 気象と地震（北九州市危機管理室）
- 4 防災と河川：降雨を安全に流すために（北九州市建設局）
- 5 大災害と消防：最前線で戦う消防をとりまく環境と現状（北九州市消防局）
- 6 学校における防災教育：災害時に主体的に行動する力を育む取組み（北九州市教育委員会）
- 7 災害時のこころのケア（北九州市保健福祉局）
- 8 都市防災：建物の耐震性とは何か（北九大：城戸）
- 9 ジェンダーと防災：地域での実践（北九大：二宮）
- 10 産官学連携による消防技術の革新（北九大：上江洲）
- 11 大学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：村江）
- 12 北九州市の防災体制と減災への取組み（北九州市危機管理室）
- 13 学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：担当教員一同）
- 14-15 北九州市防災公開講座への参加（外部講師）

北九大講師の回は、オンライン（オンデマンド）講義を予定（教室は使わない）

市派遣講師の回は、北方・ひびきの各キャンパスの教室での実施を予定（来学不能な学生にはTeamsでライブ配信）

14-15回は、北九州市主催の大学生向け防災講座の一環として、通常の講義とは別に、土曜日にオンラインライブ配信を予定（5月中を予定）

成績評価の方法 /Assessment Method

活発な授業参加：20%

レポートおよび小テスト（計6～10回）：80%

成績評価の対象としない場合（北方キャンパス所属者のみ）：レポートないし小テストを6回以上未提出・欠席の場合 ※北方生のみ、ひびきの生除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に関連する社会的・技術的事項について予習をしておくこと。授業の後は、学んだ内容の活かし方について考察を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

5月の土曜日1回（午後2コマ）について、北九州市が市内の会場で行う防災講座を組み込む。

このため、受講人数制限がある。

防災講座の会場（小倉駅周辺を予定）への往復の交通費や昼食代は、学生の負担となる。

講義時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、授業終了後も地域防災について各自が取り組めることを続けて欲しい。そのための学習や活動の機会を北九州市役所と連携して継続的に提供する。

キーワード /Keywords

地域防災、危機管理、大学生の役割、実務経験のある教員による授業

SDGsに関連するゴール（3.健康と福祉を、5.ジェンダー平等、6.水とトイレを、13.気候変動対策）

地域防災への招待【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SSS001F	◎		○		○
科目名	地域防災への招待				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義では、防災の基礎知識及び自治体の防災体制・対策等を学ぶことを通じ、学生自身の防災リテラシーと地域での活動能力を向上させることを目的とする。

地震や風水害などの代表的な災害のメカニズム、自然災害に対する北九州市の防災体制・対策について、本学および北九州市役所を中心とする専門家が全15回にわたって講義し、防災の基礎、自治体の防災、市民・地域主体の防災の3つの知識を身につける。北方・ひびきのの学生同士、また、学生と講師が協力しながら地域防災のあり方を考える。

さまざまな分野を担当する北九州市役所の職員が講師として参画するため、防災を軸としつつ地方自治体の業務の実際を幅広く知るためにも役立つ。

到達目標

地域防災を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

地域防災の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。

地域防災に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本科目は、教室とメディア授業の組み合わせで行います。

北方、ないし、ひびきのの教室で対面授業を行い、これをTeamsで同時配信します。また、録画をMoodleに掲載します。学生は、教室、Teamsによるライブ配信、録画のいずれかで授業に参加してください。

また、参加が必須となる北九州市防災公開講座（対面形式の予定）が授業に組み込まれています。

教科書 /Textbooks

なし、授業で必要に応じて資料を配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

京都大学防災研究所編(2011)：自然災害と防災の事典、丸善出版

金吉晴(2006)：心的トラウマの理解とケア、第2版、じほう

片田敏孝(2012)：人が死なない防災、集英社新書

地域防災への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス：災害についての考え方（北九大：加藤）
- 2 組織連携のための課題と訓練（北九大：加藤）
- 3 気象と地震（北九州市危機管理室）
- 4 防災と河川：降雨を安全に流すために（北九州市建設局）
- 5 大災害と消防：最前線で戦う消防をとりまく環境と現状（北九州市消防局）
- 6 学校における防災教育：災害時に主体的に行動する力を育む取組み（北九州市教育委員会）
- 7 災害時のこころのケア（北九州市保健福祉局）
- 8 都市防災：建物の耐震性とは何か（北九大：城戸）
- 9 ジェンダーと防災：地域での実践（北九大：二宮）
- 10 産官学連携による消防技術の革新（北九大：上江洲）
- 11 大学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：村江）
- 12 北九州市の防災体制と減災への取組み（北九州市危機管理室）
- 13 学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：担当教員一同）
- 14-15 北九州市防災公開講座への参加（外部講師）

北九大講師の回は、オンライン（オンデマンド）講義を予定（教室は使わない）

市派遣講師の回は、北方・ひびきの各キャンパスの教室での実施を予定（来学不能な学生にはTeamsでライブ配信）

14-15回は、北九州市主催の大学生向け防災講座の一環として、通常の講義とは別に、土曜日にオンラインライブ配信を予定（5月中を予定）

成績評価の方法 /Assessment Method

活発な授業参加：20%

レポートおよび小テスト（計6～10回）：80%

成績評価の対象としない場合（北方キャンパス所属者のみ）：レポートないし小テストを6回以上未提出・欠席の場合 ※北方生のみ、ひびきの生除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に関連する社会的・技術的事項について予習をしておくこと。授業の後は、学んだ内容の活かし方について考察を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

5月の土曜日1回（午後2コマ）について、北九州市が市内の会場で行う防災講座を組み込む。

このため、受講人数制限がある。

防災講座の会場（小倉駅周辺を予定）への往復の交通費や昼食代は、学生の負担となる。

講義時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、授業終了後も地域防災について各自が取り組めることを続けて欲しい。そのための学習や活動の機会を北九州市役所と連携して継続的に提供する。

キーワード /Keywords

地域防災、危機管理、大学生の役割、実務経験のある教員による授業

SDGsに関連するゴール（3.健康と福祉を、5.ジェンダー平等、6.水とトイレを、13.気候変動対策）

北九州市の都市政策【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」	
PLC270F	◎		○		○	
科目名	北九州市の都市政策		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			

授業の概要 /Course Description

北九州市の都市政策について、都市づくり、港湾、産業、保健福祉、環境など分野ごとの政策、及び個別プロジェクトに至るまで包括的に学ぶことで、地域への愛着を深めるとともに、地域の課題を考察するきっかけをつかむことを目指す。

本授業においては、各テーマに関して精通している北九州市役所の担当者等をゲストスピーカーとしてお招きし、北九州市出身者のみならず、市外出身者の双方にとって学びとなるお話をさせていただく。

※2022年度はすべてメディア授業（オンデマンド方式）で実施します。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

（到達目標）

【知識】北九州市の都市政策全般を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州市の都市政策の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】都市政策に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス / 北九州市の都市政策の歴史【五市合併、ルネッサンス構想、「元気発進！北九州」プラン】
- 第2回 北九州市の都市計画【都市計画マスタープラン、立地適正化計画】
- 第3回 北九州市の都市交通政策【環境首都総合交通戦略、モビリティマネジメント】
- 第4回 北九州市の空き家対策、空き家活用【空き家、住宅セーフティネット】
- 第5回 公共施設マネジメント【公共施設管理、公共施設集約化】
- 第6回 市民に親しまれる道づくり【バリアフリー、国家戦略特区を活用した賑わいづくり】
- 第7回 北九州市の港湾政策【響灘コンテナターミナル、北九州空港、インバウンド】
- 第8回 北九州市のコミュニティ施策【まちづくり協議会、自治会、市民センター】
- 第9回 門司区のまちづくり【区政、門司港レトロ、観光】
- 第10回 地元就職【就職支援、UIターン】
- 第11回 公害克服と環境協力・環境学習【公害克服、環境国際協力、環境ビジネス、ESD、環境首都検定】
- 第12回 環境保全の幅広い取組み【公害防止法令、環境監視、PCB処理、リスクマネジメント、生物多様性】
- 第13回 ごみの適正処理と資源循環【ごみ分別と有料化、資源循環、北九州エコタウン事業、環境未来助成】
- 第14回 地球温暖化と環境エネルギー対策【地球環境問題、京都議定書、再生可能エネルギー】
- 第15回 まとめ / 期末レポートの説明

※ゲストスピーカーは主に行政施策を担当している北九州市役所の担当部局職員の方を想定しています。なお、ゲストスピーカーの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性があります。

北九州市の都市政策 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・20% 毎回の授業レポート・・・30% 期末レポート・・・50%

- ・ 欠席（毎回レポートの不提出を欠席とみなします）が5回以上の場合は、評価不能（-）とします。
- ・ 期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の資料を事前にMoodleにUPするので予習をすること。（必要な学習時間の目安は60分）
授業内容の復習を行うこと。（必要な学習時間の目安は60分）

講義で習得する都市政策に関する知見や情報は、皆さんが普段から居住、通学している市街地に常に存在しています。普段から都市政策やまちづくりの事を意識しながら、まちを観察してみてください。講義中に興味を持った事は、事後に各自調べて理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

毎回授業に出席することが大前提です。出席せずにレポートだけ提出しても評価できません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市のこれまでの都市づくり、これからの都市づくりを理解する上で、大変参考となる話を聞くことができます。本講義を受けることで、北九州市への愛着が増し、将来的に北九州市に定住する意向を強めてくれることを期待します。

北九州市の都市政策に従事する市職員が、各担当の施策について解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

まなびと企業研究I【昼】

担当者名 /Instructor 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR270F	◎		○		○
科目名	まなびと企業研究 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

北九州・下関地域の企業、団体について現状、課題、展望を認識し、考察することで理解を深めることがねらいです。特に本講義では、地域づくり、まちづくり、都市づくり、地域貢献といった分野についての事業や取り組みに焦点を当てます。本講義で取り上げる業界、分野の視点としては、「経済・産業」、「福祉」、「交通」、「都市計画」、「地域経済」、「まちづくり」、「文化・芸術」、「金融」などを取り上げます。身近な地域企業や地域人材について学ぶことを通じ、働くことの価値、キャリア、幅広い視点から社会動向や自らの将来のビジョンを考える契機になることを期待します。なお、この科目は「主に北九州市や下関市の企業団体を視野に入れた就職活動のプランニング」を目的とした「まなびと企業研究II」（3年次）の準備講座としての役割も果たしています。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域における企業の動向を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域における企業の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】地域企業に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・北九州市立大学地域戦略研究所・キャリアセンター(2019)「学生による学生のための北九州・下関地域 業界MAP」
<https://manabitopia.jp/pdf/businessmap.pdf> から入手可
- 大室悦賀(2016)「サステイナブル・カンパニー入門: ビジネスと社会的課題をつなぐ企業・地域」学芸出版社
- 饗庭伸ほか(2016)「まちづくりの仕事ガイドブック: まちの未来をつくる63の働き方」学芸出版社
- 日本都市計画学会関西支部(2011)「いま、都市をつくる仕事: 未来を拓くもうひとつの関わり方」学芸出版社
- 山崎亮(2015)「ふるさとを元気にする仕事」筑摩書房
- 山崎亮ほか(2014)「ハードワーク! グッドライフ! 新しい働き方に挑戦するための6つの対話」学芸出版社
- ・北九州・下関まなびとぴあホームページ (<https://manabitopia.jp/>)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2～15回 企業・団体等によるプレゼンテーション、質疑、議論(グループワーク)、レポート記述
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 各回の講義で出題されるレポート(全14回)・・・90%
- 質疑応答、議論・・・10%
- レポートを7回以上提出しない場合は、評価不能(-)とします。

まなびと企業研究I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の講義前に、その企業、団体についてホームページ等で調べ、全体像を把握しておく。
毎回の講義後に、その企業、団体についてさらに調べてみる。また、関連する企業や団体についても調べてみる。さらに、講義内で知った取り組み、事業内容を各自が担当してさらに展開すると想定した場合、どういった展開の可能性、方向性があるか検討してみる。

履修上の注意 /Remarks

講義時の途中入室、途中退室は原則禁止とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一般的な企業説明会ではなかなか聞くことができない、業界や企業、団体の地域創生、地域（社会）貢献、まちづくりなどについての事業や取り組みについて重点的に学ぶことができる貴重な機会です。

キーワード /Keywords

企業研究、就職、まちづくり、都市づくり、地域創生、地方創生、地域貢献、社会貢献、CSR、SDGs、地域づくり、地域活性化、関門地域、地域志向

SDGs : Goal11(住み続けられるまちづくりを)

まなびと企業研究II【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR370F	◎		○		○
科目名	まなびと企業研究II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

<目的> 北九州市や下関市および周辺の企業団体を題材にしながら、代表的なキャリアに関する理論やモデルを学び、大学時代の活動を、今後の就職活動を具体的にプランすることが目的です。

2018年9月3日、経団連が従来の「就活」「新卒採用」のルールを廃止すると宣言しました。慌てた政府が引き続きルールを提示していますが、それに拘束力はなく、完全に自由化になりました。みんなと一緒に合同企業説明会に行き進路を選ぶ時代は終わり、自分で進路を見出し、手繰り寄せる時代にすでに変わりました。

そして新型コロナウイルスの流行により、時代の変化は加速しました。コロナ禍における企業倒産は、資金繰り対策や持続化給付金、雇用調整助成金、特別定額給付金などの緊急政策によって抑制できたものの、対人接触業務が前提である「コロナ対人4業種」（宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業）においては、コロナ感染拡大時に採られた「接触7～8割削減」政策は「対人3割経済」となり、売上現状は止まらず、債務が膨大しています。なお「コロナ対人4業種」は地産地消型なので、地域内の他業種への影響も大きく、地域内の小売り・卸売りに携わる中小企業への影響も否定できません。その突破口となるのが、感染拡大予防に加え国民の福祉を向上させ、かつ新たな機会を生み出す「攻めと守りを両立」させた、暮らしや社会のデジタル化（DX）です。DXによって適切な情報提供・支援提供により安心して便利に暮らせる生活を維持（守り）しながら、同時にDXによってピンチをチャンスと捉え新しいビジネスを創造（攻め）することが、ニューノーマル時代のビジネスの基本路線と言えるでしょう。同時に企業団体は、DXを提案できる力はもちろん、人間にしかできない質の高いコミュニケーションスキルや、答えのない課題に果敢に挑戦するマインド、そしてAIには思いつかない創造性を持つ大学生が求められ、逆にDXを提案する力を持たず、低いコミュニケーション能力や指示されたことしかできない低いマインド、本やネットに載っていることを真似ることしかできない大学生は、社会のどこからも求められないでしょう。

では今、何をすべきでしょうか。それは、本学が持つ北九州や下関地域の企業団体のネットワークを活用しつつ、様々な企業団体について可能な限りアクセスし、自らのキャリアの方向性を明確に掴むことです。本授業では、履修者一人一人のキャリア支援のために作られました。様々なキャリア形成の理論を用いて「自分を知る」、そして本学のネットワークを駆使して「相手（企業団体）を知る」、さらに夏のインターンシップなどに向けてどうすればいいのか「キャリアプランを創る」ことを目標とします。

<進め方> 形式は問題基盤型学習（Problem-based-Learning）です。

【通常授業】あらかじめ課題を提示しますので、課題から学びと、その学びを就職活動にどう活かすかについて発表してください。

【最終課題】北九州市や下関市などの企業団体の一つを選び、取材し、取材したからこそ理解したことを、最終授業でプレゼンします。

<目標> 自分を知る（自己分析）、相手を知る（企業団体研究）、就職活動のプランを創る。

（到達目標）【知識】北九州・下関地域における企業の動向を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。【思考・判断・表現力】北九州・下関地域における企業の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。【自立的行動力】地域企業に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。資料を随時配布します。

まなびと企業研究II【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 課題を解く時の参考にしてください。
- 見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会
- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- キャロルS.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
- アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
- リンダ グラットン『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
- リンダ グラットン、アンドリュースコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
- 松尾睦『「経験学習」入門』ダイヤモンド社
- J.D.克蘭ボルツ・A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
- ジェームス W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
- 嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』ディスクヴァー・トウエンティワン
- 大嶋祥誉『マッキンゼー流入社1年目問題解決の教科書』SBクリエイティブ
- 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター『体験の言語化』成文堂
- 茂木健一郎『最高の結果を引き出す質問力：その問い方が、脳を変える!』河出書房新社
- 安斎勇樹、塩瀬隆之『問いのデザイン：創造的対話のファシリテーション』学芸出版社
- 伊藤羊一『1分で話せ 世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』SBクリエイティブ
- 宇田川元一『他者と働く 「わかりあえなさ」から始める組織論』NewsPicksパブリッシング
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス
- 2回 振り返りの仕方
- 3回 マインドセット
- 4回 計画された偶発性
- 5回 企業団体研究事例①DX
- 6回 インターンシップ対策(経験学習)
- 7回 グリット(やり抜く力)
- 8回 企業団体研究事例②グリット
- 9回 問いを立てる力
- 10回 デザイン思考
- 11回 企業団体研究事例③VUCA
- 12回 GD対策(アイデアの作り方)
- 13回 自己分析(アイデンティティ資本)
- 14回 面接対策(インプロビゼーション)
- 15回 最終プレゼンテーション(企業団体研究成果発表会)

成績評価の方法 /Assessment Method

通常授業のプレゼンテーション...39%
最終プレゼンテーション...28%
振り返りレポート...28%
最終レポート...5%
なお、採点対象のプレゼンを行わなかった場合や、レポートを一度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【通常授業】あらかじめ課題を提示しますので、課題から学びと、その学びを就職活動にどう活かすかについて発表してください。
【最終課題】フィールドワーク先のアポイントメントを取り、取材し、グループメンバーとの議論を重ねて、発表の準備をしてください。なお、アポイントメントについては教員がフォローアップしますので、安心してください。

履修上の注意 /Remarks

3年生の場合は、就職活動のブラッシュアップとお考え下さい。4年生の場合は、就職活動中であればそのまま活用できる内容です。すでに内定をお持ちの場合は、残る大学時代をどう過ごすかについて考える機会にしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、就職活動や進学など将来のキャリアについての悩みを払拭し、見通しを立て、自信をもって就職活動などに挑めるように支援します。奮ってご参加ください。また、結果的に北九州市や下関市以外の企業を志望しても問題ありません。

※人事経験を持ち、北九州市や下関市および近郊の企業団体に人脈を持つ教員が、それらの企業団体への訪問を軸とした問題基盤型学習をコーディネート

キーワード /Keywords

キャリア、成長、アイデンティティ、キャリア発達、キャリア形成、キャリアデザイン、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、問題基盤型学習、経験学習
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

環境特講A (SDGsの可能性) 【昼】

担当者名 /Instructor
 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター, 藤田 俊 / 基盤教育センター
 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター, 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター
 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター, 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター
 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター, 中岡 深雪 / Miyuki NAKAOKA / 基盤教育センターひびきの分室
 村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL102F	◎		○		○
科目名	環境特講A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

SDGs (Sustainable Development Goals) は「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包括性のある社会の実現のため、2015年の国連サミットで採択された、2030年までの17の国際目標 (ゴール) である。北九州市はSDGsに関して先進都市であり、本学においてもSDGs推進に積極的に取り組んでいる。SDGsの背景には環境のみならず、社会や経済などの複雑で幅広い分野が含まれるが、そのための基礎となる「教養」を身につけることは、SDGsを先頭に立って実践していくために欠くことのできない第一歩となるだろう。本講義は多彩な専門分野を持つ基盤教育センター教員によるオムニバス講義であり、さまざまな学問分野のそれぞれの扉でもある。本講義をきっかけに、SDGsに向けて、多角的な視点を養い、諸問題に向き合う力を身につけることを目的とする。

到達目標：

- 【知識】 設定されたテーマを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】 設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

※本講義は遠隔 (オンデマンド) 授業で行います。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で (または大学のPC自習室にイヤホンを持参して) 授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし。各回で資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

担当者が必要に応じ紹介する。

環境特講A (SDGsの可能性) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

SDGs基礎

1. ガイダンス・SDGsと大学(中尾)【環境】【社会】【経済】
2. SDGsへの取り組み(真鍋)【人材育成】【教育】【企業経営】
3. 北九州の歴史とSDGs(藤田)【軍都】【鉄鋼】
4. SDGsの考え方(永末)【観点】【視点】

SDGsゴール別

5. SDG1: 貧困をなくそう(稲月)【社会的孤立】【伴走型支援】【生活構造】
6. SDG3: すべての人に健康と福祉を(日高)【感染症】【医薬品】【健康寿命】
7. SDG4: 質の高い教育をみんなに(浅羽・廣渡)【教育の情報化】
8. SDG5: ジェンダー平等を実現しよう(高木)【ジェンダー】【LGBT】【セックス】
9. SDG8: 働きがいも経済成長も(中岡)【ワークライフバランス】【非正規雇用】
10. SDG10: 人や国の不平等をなくそう(神原)【経済格差】【人権】【人身取引】
11. SDG13: 気候変動に具体的な対策を(村江)【災害】【防災】
12. SDG14: 海の豊かさをまもろう(廣川)【漁業権】【コモンス】【地域資源】
13. SDG16: 平和と公正をすべての人に(戸蔭)【平和の概念】
14. SDG17: パートナリシップで目標を達成しよう(伊野)【障がい】【共生】

まとめ

15. まとめ(日高)

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 70%
- ・ 積極的な授業への取り組み(感想・ディスカッション等) 20%
- ・ まとめレポート 10%

上記の提出が全くない場合は、評価不能(一)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業ごとの【 】内のキーワードを元に、適宜情報収集を行うこと
授業後はミニレポート・確認テストにより、授業内容の復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDG1, SDG3, SDG4, SDG5, SDG8, SDG10, SDG13, SDG14, SDG16, SDG17

環境特講B (現代社会とエシカル消費) 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL202F	◎		○		○
科目名	環境特講B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

グローバル化が進むことによって、人、モノ、カネ、情報の流れが加速化し、感覚的に私たちは地球を小さく感じるようになった。また、相互依存が深化したことで、今や遠い土地の出来事を他人事として済ますことはできなくなっている。私たちの豊かな暮らしは誰かの犠牲の上に成り立っているのではないか、そのような不正義は許されるのかという意識、すなわち「グローバルな倫理」が問われる時代になっている。

本講義では、第1部で「衣」、第2部で「食」、第3部で「住」に関わる諸問題を取り上げる。各回ではDVDの鑑賞も通して、どんな事態が進行しているのかを学ぶとともに、クラスでのディスカッションによって、どういった倫理的生活ができるのかを模索する。

この講義を通して、受講生が日々の暮らしを見つめ直し、先進国の大量生産・大量消費活動の裏側でどのような事態が進行しているのかを考え、倫理的な生活を考える契機にしてみたい。

【到達目標】

DP1「知識」設定されたテーマを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
DP3「思考・判断・表現力」設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
DP5「自立的行動力」設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示しますが、次に挙げる文献はとても参考になります。
末吉里花『はじめてのエシカル』山川出版社、2016年。
末吉里花『エシカル革命』山川出版社、2021年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション (講義の目的、進め方、文献案内など)、 「エシカル消費」とは何か？
< 第1部【衣】 >
第2回 『ザ・トゥルー・コスト』 (DVD) 前半の鑑賞
第3回 『ザ・トゥルー・コスト』 (DVD) 後半の鑑賞、論点整理
第4回 ディスカッション (ファストファッション、エシカルファッション)
第5回 綿花栽培と農薬
< 第2部【食】 >
第6回 『種子—みんなのもの？ それとも企業の所有物？』 (DVD) の鑑賞、論点整理、ディスカッション
第7回 『甘いバナナの苦い真実』 (DVD) の鑑賞、論点整理、ディスカッション
第8回 『Food Inc.』 (DVD) 前半の鑑賞
第9回 『Food Inc.』 (DVD) 後半の鑑賞、アニマル・ウェルフェア、論点整理、ディスカッション
第10回 有機農業に関する外部講師講演会
第11回 『0円キッチン』 (DVD) の観賞
< 第3部【住】 >
第12回 『プラスチックごみ—日本のリサイクルの幻想』 (DVD) の鑑賞、論点整理、ディスカッション
第13回 『スマホの真実』 (DVD) の鑑賞、論点整理、ディスカッション
第14回 『もっと！フェアトレード』 (DVD) の鑑賞
第15回 まとめ+全体ディスカッション「～エシカルライフに向けて～」

※外部講師による講演会を予定しています。日程は講師の都合により前後する可能性があります。

環境特講B (現代社会とエシカル消費) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

3回のレポート (75%)、授業への貢献度 (25%)、Formsを使って毎回出席を取ります。5回以上の欠席で「一」 (評価不能) となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、各回のキーワードについてウェブサイトなどで調べておいてください。事後学習としては、各々が終了するたびにレポートを課しますので、必ず振り返りをしてください。

履修上の注意 /Remarks

数多くのDVDを視聴し、理解を深めます。その際、ディスカッションを行いますので、他人と議論するのを恐れずに、積極的に参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

課外活動として、小倉南区合馬での有機農業体験を実施する可能性があります。参加は任意で、成績評価には影響しません。

キーワード /Keywords

フェアトレード、エシカル

「SDGs 1. 貧困をなくそう」「SDGs 3. 健康と福祉を」「SDGs 5. ジェンダーと平等」「SDGs 10. 不平等をなくす」

「SDGs 12. 作る・使う責任」「SDGs 14. 海洋保全」「SDGs 15. 環境保全」「SDGs 16. 平和と公正」

「SDGs 17. パートナーシップ」

環境都市としての北九州【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
石川 敬之 / 地域共生教育センター, 村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室
松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」	
ENV001F	◎		○		○	
科目名	環境都市としての北九州		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぼうか、環境関連施設（環境ミュージアムなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

到達目標

- 【知識】北九州市の環境問題に対する取り組みを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】北九州市の環境問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】北九州市の環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔授業（オンデマンド）です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。一部、ライブで収録する回もありますが、録画したものを後から視聴し、課題に取り組むことができます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 1000円（税込み）
http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kurashi/menu01_0438.html

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（日高）
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～（外部講師）
- 3回 北九州の自然と環境（基盤教育センター・村江）
- 4回 北九州における環境政策（外部講師）
- 5回 環境問題とエネルギー政策（外部講師）
- 6回 環境問題と市民の関わり（外部講師）
- 7回 環境ビジネスとエコタウン事業（大学院マネジメント研究科・松永）
- 8回 施設見学（環境ミュージアム）
- 9回 北九州の環境経済（経済学部・牛房）
- 10回 環境問題とNPO①（都市交通、外部講師）
- 11回 環境問題とNPO②（フードバンク、外部講師）
- 12回 環境問題と企業の取り組み（外部講師）
- 13回 特別講義（外部講師）
- 14回 環境問題と学生の取り組み（地域共生教育センター・石川）
- 15回 まとめ

環境都市としての北九州【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

環境首都検定の成績・・・20%
授業ごとの課題への取り組み(確認テスト・ミニレポート等)・・・70%
期末レポート・・・10%
課題・レポートの提出が全くない場合は評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：北九州市環境首都検定公式テキストで関連する箇所を学習しておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodleで提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

施設見学(環境ミュージアム等)は原則として必須とする。
・見学は授業期間中、レポート提出に間に合うよう、各自で行うこと。
・環境首都検定は12月11日(日)の予定。

*スケジュールは変更の可能性もある。第1回目ガイダンス時に確認すること。
*見学にかかる交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は副専攻「環境ESD」と深く関連しています。この講義をきっかけに副専攻にもトライしてみませんか。
<https://www.kitakyu-u.ac.jp/kankyo-esd>

キーワード /Keywords

環境、ESD、SDGs、北九州市

SDGsとの関連について

7. エネルギーをみんなに 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

生命と環境 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0100F	◎		○		○
科目名	生命と環境				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

到達目標

- 【知識】多様な生命とそれを生み出した環境を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】多様な生命とそれを生み出した環境について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

※本講義は遠隔(オンデマンド)授業で行います。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)990円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-------------------------------|-----------------|
| 1回 ガイダンス(日高・中尾) | |
| 2回 自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾) | 【物質の単位】【自然科学】 |
| 3回 自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾) | 【元素】【原子】【超新星爆発】 |
| 4回 自然科学の基礎(3)生命と分子(日高) | 【DNA】【タンパク質】 |
| 5回 生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高) | 【種】【学名】【系統樹】 |
| 6回 生物の多様性(2)ウイルスは生物か(日高) | 【ウイルス】 |
| 7回 生物の多様性(3)単細胞生物と多細胞生物(日高) | 【細胞膜】【共生説】 |
| 8回 生物の多様性(4)生態系と進化(日高) | 【食物連鎖】【絶滅】【進化】 |
| 9回 生物の多様性(5)多様な生命(日高) | 【生物多様性】 |
| 10回 遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高) | 【突然変異】【遺伝学】 |
| 11回 遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高) | 【有性生殖】【減数分裂】 |
| 12回 科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾) | 【血液型】【星座】 |
| 13回 科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾) | 【太陽活動】【地球温暖化問題】 |
| 14回 科学的な方法とは(3)人類の起源(日高) | 【ミトコンドリア】 |
| 15回 質疑応答とまとめ(日高) | |

生命と環境 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 70%
 - ・ 授業への積極的取り組み（質問・ディスカッション等） 20%
 - ・ まとめレポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能（－）です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

環境問題概論 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV100F	◎		○		○
科目名	環境問題概論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。

また、農林水産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」についての知識を生かし、SDGs（持続可能な開発目標）に関するテーマとして、③食の問題、④捕鯨問題、⑤・⑥山の管理（治水・利水）、そして⑩経済優先の消費活動に関すること等をテーマに、持続可能な社会となるための考え方を模索する授業である。

（到達目標）

【知識】人間と自然の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】人間と自然の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】人間と自然の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 レポート試験の実施（※レポート試験は日程が前後する可能性があります）
- 第9回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第10回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第11回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第12回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第13回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第14回 復習
- 第15回 総括 -おわりに-

成績評価の方法 /Assessment Method

不定期に何回か実施する課題：20%

小レポート試験：20%

最終試験：60%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能（-）とします。
- ・ 最終試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

環境問題概論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

SDGs3.「健康と福祉」、SDGs 6.「安全な水とトイレ」、SDGs12.「作る責任使う責任」、SDGs14.「海の豊かさ」、SDGs15.「森の豊かさ」に強い関連がある、

未来を創る環境技術 【昼】

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~), 永原 正章 / Masaaki NAGAHARA / 環境技術研究所
 松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
 金本 恭三 / Kyoza KANAMOTO / 環境技術研究所, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)
 白石 靖幸 / Yasuyuki SHIRAIISHI / 建築デザイン学科 (19~)

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV003F	◎		○		○

科目名	未来を創る環境技術	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	-----------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

環境問題は、人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する（授業は原則として毎回担当が変わるオムニバス形式）。

具体的には、北九州市のエネルギー政策、特に洋上風力発電に関する取り組みと連動して、本学の特色のある「環境・エネルギー」研究の拠点化を推進するための活動を、様々な学問分野の視点で紹介する。

授業の到達目標は、以下の通りです。

豊かな「知識」：

環境問題や環境技術を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

次代を切り開く「思考・判断・表現力」：

環境問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

社会で生きる「自立的行動力」：

環境問題に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。オンラインでのグループワークを行うので、スマートフォンではなく、パソコンを利用することがのぞましい。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス、社会における環境技術の役割
- 第2回：未来を創る空調技術【建築学からのアプローチ】
- 第3回：都市の環境とエネルギー【環境工学からのアプローチ】
- 第4回：未来を創る経済学【経済学からのアプローチ】
- 第5回：人工知能と超スマート社会【情報学からのアプローチ】
- 第6回：未来を創る植物学【生物学からのアプローチ】
- 第7回：未来を予知する保全技術【機械工学からのアプローチ】
- 第8回：北九州市の温暖化対策について【官】
- 第9回：2050年カーボンニュートラル実現に向けてのグリーン成長戦略【官】
- 第10回：再生可能エネルギーの産業【産】
- 第11回：日本における風力発電【産】
- 第12回：洋上風力発電の産業【産】
- 第13回：地域活性化につながる洋上風力発電事業開発のあり方【学】
- 第14回：エネルギーを“つくる”と“つかう”【学】
- 第15回：再生可能エネルギーのメンテナンスとリスクマネジメント【学】

未来を創る環境技術 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 30%
レポート70%

5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
最終レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。※北方生のみ、ひびきの除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習については担当教員の指示に従うこと。また、新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にできるだけ目を通すようにすること。期末課題に備えるためにも、授業で紹介された技術や研究が、社会・地域・生活などの身の回りの環境問題解決にどのようにつながり、活かされているか、授業後に確認すること。

履修上の注意 /Remarks

必要事項は、moodleに掲載するので、定期的に確認すること。また、都合により、授業のスケジュールを変更することがある。オンラインでのグループワークも行うので、積極的にディスカッションに参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市における環境エネルギー政策、特に、次世代産業『洋上風力発電』について、現状と将来像を理解できます。皆さんのキャリアプランにもつながると思います。文系学生にもわかりやすい授業内容ですので、「ひびきの」および「北方」両キャンパスの多くの学生の受講を期待しています。

環境技術について、外部講師を招き、実践例を交えて学ぶ。

キーワード /Keywords

持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、建築デザイン、環境生命工学、超スマート社会、Society 5.0、人工知能、自動制御、エネルギー経済、環境経済、実務経験のある教員による授業
「SDGs 7. エネルギーをクリーンに、SDGs 9. 産業・技術革命、SDGs 13. 気候変動対策」

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ZOL001F	◎		○		○
科目名	動物のみかた		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

動物園とそのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来の姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

(到達目標)

【知識】

人間と動物の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】

人間と動物の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】

人間と動物の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論1 (動物園の歴史)
- 2回 動物園学概論2 (人と公園の歴史)
- 3回 キーパーの仕事1 (動物の飼育と歴史)
- 4回 キーパーの仕事2 (動物園のみかた)
- 5回 キーパーの仕事3 (動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割)
- 6回 キーパーの仕事4 (どうぶつと人間のくらい)
- 7回 キーパーの仕事5 (動物園とデザイン)
- 8回 キーパーの仕事6 (動物園の植栽)
- 9回・10回 校外実習(到津の森公園)
- 11回 獣医の仕事1 (どうぶつの病気)
- 12回 獣医の仕事2 (どうぶつたちとくらし)
- 13回 動物園学まとめ1 (動物園を振り返る)
- 14回 動物園学まとめ2 (新しい動物園とは)
- 15回 まとめ(外部講師講演)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 80% 平常の学習状況... 20%
・レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め動物園関連の参考書籍をよんでおき、授業終了後にはその日の講義内容をまとめておくこと。

動物のみかた 【昼】

履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

動物のことだけではなく、動物を知ることによって人間のことも考えてみましょう。
自然のことや地球のことも考えてみましょう

動物園の園長・獣医・飼育員らがオムニバス形式で、動物園のあり方、人と動物の関係性について講義をする。

キーワード /Keywords

動物園、実務経験のある教員による授業

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV002F	◎		○		○
科目名	自然学のまなざし				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のまなざし」の講義をつうじて、たくさんの智慧を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

(達成目標) 双方向的な学びを楽しんで下さい。

【知識】

自然の営みを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】

自然の営みについての考え方をを用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】

自然の営みに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『風の谷のナウシカ』 1-7宮崎 駿 徳間書店
- 『イルカとナマコと海人たち』 NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田末寿

自然学のまなざし【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第1講 自然学で学ぶこと
- 第2講 今西錦司という人がいた
- 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
- 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
- 第5講 自然学における日常実践
- 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
- 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
- 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
- 第9講 近世の旅にみる自然の名所性
- 第10講 古民家に求める日本の故郷
- 第11講 山村の伝統的景観と村落社会
- 第12講 森林風景の認識と森林文化論
- 第13講 自然を言語化する曖昧さ
- 第14講 木の文化の伝統と変容
- 第15講 9～14講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
- 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
 - 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
 - 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%
- (岩松)
- 小レポート...25% 試験...25%
- ・すべてのレポート(小論もふくむ)を提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半の講義では、専用のウェブサイトを設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこないます。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。
講義は教室の中だけでは終わりません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、受講してください。
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

生命科学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0200F	◎		○		○
科目名	生命科学入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約37兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで(1)体はどのような物質からできているか、(2)遺伝子は体の何をどのように決めているのか、(3)細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、(4)体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

到達目標

- 【知識】生命科学を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】生命科学の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】生命科学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

※本講義は遠隔（オンデマンド）授業で行います。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|----------------------|---------------------|
| 1回 | ガイダンス | |
| 2回 | 体を作る物質(1)細胞の構成成分 | 【多糖・脂質・タンパク質・核酸】 |
| 3回 | 体を作る物質(2)食物分子と代謝 | 【酵素】【触媒】 |
| 4回 | 体を作る物質(3)遺伝物質DNA | 【二重らせん】 |
| 5回 | 体を作るしくみ(1)遺伝子が働くしくみ | 【RNA】【セントラルドグマ】 |
| 6回 | 体を作るしくみ(2)遺伝子でできること | 【ゲノム】【体質】【遺伝病】 |
| 7回 | 体を作るしくみ(3)発生と分化 | 【転写因子】【クローン】【iPS細胞】 |
| 8回 | 細胞の社会(1)そのとき染色体は | 【細胞周期】【染色体異常】 |
| 9回 | 細胞の社会(2)細胞のコミュニケーション | 【受容体】【シグナル分子】 |
| 10回 | 細胞の社会(3)社会の反逆者・がん | 【がん遺伝子】 |
| 11回 | 関連ビデオ鑑賞 | |
| 12回 | 体を守るしくみ(1)寿命と老化 | 【早老症】【テロメア】 |
| 13回 | 体を守るしくみ(2)免疫とウイルス | 【ウイルス】【抗体】 |
| 14回 | 体を守るしくみ(3)私たちと微生物 | 【腸内細菌】 |
| 15回 | 質疑応答・まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 70%
 - ・ 授業への積極的取り組み(質問・ディスカッション等) 20%
 - ・ まとめレポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能(一)です。

生命科学入門 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodle (e-learning システム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
3. すべての人に健康と福祉を

環境ESD入門【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV102F	◎		○		○
科目名	環境ESD入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現在、地球上の至るところで自然環境が悪化しています。大気汚染、海洋汚染、森林破壊、異常気象、生物多様性の危機など、様々な問題が生じ、我々の生活環境にも影響を与えています。豊かな自然環境を守り、責任をもって次世代に継承していくためには、私たち一人ひとりが自発的に環境保全のための行動をとることが重要になります。本講義では、いま地球上で起こっている環境問題を知り、持続可能な社会の実現に向けて私たちがすべきことを考えていきます。

到達目標

- 【知識】 ESDの諸問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 ESDの諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】 ESDに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

授業内で適宜、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：環境ESDについて
- 第2回 北九州市と環境ESD
- 第3回 路上ゴミについて考える -日本人は果たしてきれい好きなのか-
- 第4回 海洋プラスチックゴミ問題について
- 第5回 経済活動とゴミ問題
- 第6回 ゴミ問題とリサイクル
- 第7回 環境に配慮した生活とは
- 第8回 地球の環境問題と私たちにできること
- 第9回 エネルギー問題から環境を考える
- 第10回 食から考える環境問題
- 第11回 環境問題と国際協力
- 第12回 環境問題とジェンダー問題
- 第13回 環境問題と持続可能な地域開発
- 第14回 北九州市のSDGsとESDの取り組み
- 第15回 まとめ・副専攻環境ESDプログラムの紹介

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の授業において課すレポートにて評価します（100%）
レポートとしての体裁を成していない場合、また内容や分量に著しい不備がある場合は評価不能（-）とします。

環境ESD入門【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃から環境問題に対する関心を持ち、意識して様々な情報に触れるようにしてください。それが大きな事前学習になります。各回の講義テーマに関しては事前に紹介しますので、書籍やインターネットなどで予備知識を得ておいてください（事前学習）。また受講後は、その回の内容に関連した復習用の自習課題（関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー）を提示しますので、次回の講義までに各自行ってください（自習時間の目安は60分程度）。

履修上の注意 /Remarks

本講義では、各回の講義ごとで小レポートの作成と提出を求めています。
講義全体を通じては、相当なボリュームになりますが、しっかり取り組んで頂きたいと思います。
また、対面で実施された場合は、講義内でのディスカッション、および質疑応答に積極的に参加できるように、事前・事後学習を実施しておくことを期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境ESDに関する入門的な講義となります。
本講義を履修したうえで、さらなる発展的な学びとして「副専攻環境ESDプログラム」を受講することを薦めます。

キーワード /Keywords

環境、持続可能性、国際理解、生物多様性

SDGsとの関連について

5. ジェンダー平等 6. 水とトイレを 7. エネルギーをクリーンに 12. 作る・使う責任 13. 気候変動対策 14. 海洋保全 15. 環境保全

世界（地球）特講A（テロリズム論）【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL103F	◎		○		○
科目名	世界（地球）特講A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

2001年の911以降の国際社会を考える上で、テロリズム問題を避けて通ることはできません。しかし、テロは以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

コロナ対応で、動画配信となります。動画は、各回編集カット作業してBGMやテロップ付きのyouTube仕様を心がけます。

到達目標

- 【知識】テロリズムを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】テロリズムについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】テロリズムに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※昨年度に配信した動画タイトルは以下の通りです。部分的に作り替えたり、組み替えたりする場合があります。授業回数は15回で、1回45～60分程度の視聴時間になります。各回の内容は変更する可能性があります。

- ガイダンス / 問題の所在（テロから何を学び取るのか）
- 自由の戦士としてのテロリスト像 / ルクソール事件
- 犯罪としてのテロ / テロに政治目的は必要か。 / テロの定義はたくさんある！
- 911の衝撃 / テロによる社会的動揺 / 対人テロ / 対物テロ
- テロリストとは誰か、残された課題
- 行動によるプロパガンダ（アナキズム） / 近代日本とテロ
- 政治的脅迫としてのテロ（アイルランドのナショナリズム）
- ナショナリズムとテロ（サライェヴォ事件とスラブ主義） / 民族解放（シオニズムとイスラエル建国）
- 爆弾テロという手法
- 国際テロの誕生（パレスチナ人の闘争）
- 学生運動の過激化と日本赤軍（ロッド空港事件）
- 劇場型テロ（ミュンヘン・オリンピック事件）
- 現代テロとテロ対策
- 動機が多様化（右翼・保守テロ、オクラホマシティ連邦ビル爆破テロ）
- 動機が多様化（環境テロ、ユナボマー）

成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に1度、小テストを実施する。最終的に、小テストの合計点数から成績を評価する。

小テスト（6回）100%、ただし、小テストの回数は若干前後する可能性がある。

※「評価不能（-）」は、小テストを一回も受験していない場合、もしくは、総合得点が0点の場合である。

世界（地球）特講A（テロリズム論）【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容についてのフィードバックは、WEB掲示板を用意しますので、不明な点は書き込んでください。メールでも質問受付ます。

事後学習ですが、頻繁に小テストがあるので、何回でもいいので動画を視聴してください。

履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

説明が主体になる講義については、教室での授業や生配信よりも、録画された動画の方が学習効果が高いと考えています。皆様の期待を裏切らないように、可能な限り、魅力的な動画を配信していくつもりです。

キーワード /Keywords

世界（地球）特講B（ジェンダー平等（SDG5）の課題解決型学習）【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
世界（地球）科目

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科, 三宅 博之 / MIYAKE HIROYUKI / 北方キャンパス 非常勤講師
横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科, 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL203F	◎		○		○
科目名	世界（地球）特講B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

SDG5（ジェンダー平等）を実現する方法を、課題解決型学習（PBL）を通じて受講者が主体となって策定する場を提供する授業です。実現可能な方策を協働して考究する過程を経て、理念および実践において革新的なアイデアが生み出されることが期待されます。授業はコミュニケーションの様々な手法を取り入れて学生のアクティブラーニングを促しながら進めます。また授業内の成果は社会に還元できる成果物として残すことを目指します。加えて、実践を積んだ受講者がワークショップや授業実践を通じて他の学生に成果を還元する仕組みの構築を試み、成果のより広範な波及を図ります。

ジェンダー平等は、2030年までの達成を目指す国際目標、持続可能な開発目標（SDGs）の目標5に掲げられています。SDGsの他の目標を達成するためにも、SDG5の達成は急務です。達成に向けた国際社会の取り組みについても理解を深めていく予定です。本授業を通じて、身近な事柄からグローバルな事柄まで、様々なレベルで問題意識を共有しながら、一緒に原因や解決方法について考えましょう。

教科書 /Textbooks

授業内で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○図書館本館3F（SDGsのコーナー）、特にSDG5のコーナーを参照

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第3回 SDG5、ジェンダーおよびジェンダー平等概念の導入、哲学対話を通じたブレインストーミング・意見交換・問題提起、読書課題の提示

- 第1回： ガイダンス、授業計画の説明
- 第2回： ジェンダー平等とは何か
- 第3回： 哲学対話を通じたブレインストーミング

第4回～第6回 学内・国内外のジェンダー平等に関わる現状把握

- 第4回： 行政組織（国内外）におけるポジティブ・アクション
- 第5回： ワークショップ：ロジックモデルをつくってみよう（1）
- 第6回： ワークショップ：ロジックモデルをつくってみよう（2）

第7回～第9回 模擬国連の枠組みによる国際施策の検討

- 第7回： 国連女性の地位委員会（CSW）について、リサーチ開始
- 第8回： 施策案意見交換、二者間交渉、多数者間交渉
- 第9回： 国際施策ワークショップ

第10回～12回 海外の学生との意見交換と成果物作成

- 第10回： 海外の学生との意見交換
- 第11回： ワークショップ：アクティビティシートの作成（1）
- 第12回： ワークショップ：アクティビティシートの作成（2）

第13回～第15回 グループディスカッション、成果物の披露

- 第13回： 成果発表（1）
- 第14回： 成果発表（2）
- 第15回： まとめ

世界（地球）特講B（ジェンダー平等（SDG5）の課題解決型学習）【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
世界（地球）科目

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内の貢献度 50%、 プロジェクト達成度 50%
※授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

本授業に関連する科目としては、「ジェンダー論」（担当：高木駿先生）があります。
本授業活動の一部にはオンラインによる協働活動が含まれる予定です。遠隔参加の方々とオンラインでつなぎ、本授業受講者は対面で活動する形をとる予定です。受講に際してマイクやカメラといった特別なツールを受講者自身が準備する必要はありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では受講者同士の学び合いと学びの連鎖を重視します。主体的に活動や議論に参加してください。
SDGs達成のターゲット年は2030年です。その頃には本授業の受講者の多くが社会の中核を担う世代になっていると思われます。受講者には、当事者としての意識を持ち、主体的にSDG5達成という課題に取り組むことが期待されます。本授業活動が、受講者のキャリア形成に、また長期的には国内外のジェンダー平等実現の加速に寄与するものとなることを願います。

キーワード /Keywords

持続可能な開発目標（SDGs）、SDG5：ジェンダー平等、課題解決型学習（PBL）、対話、コミュニケーション、アクティブラーニング、クリティカルシンキング、ポジティブ・アクション、模擬国連、国連女性の地位委員会（CSW）、グローバル人材、グローバル人材

韓国の社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 金 慶湖 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE010F	◎		○		○
科目名	韓国の社会と文化		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

授業では、適宜映像などを用いながら韓国全般、とりわけ韓国の社会と文化における様々な事象や、歴史を含めた日韓関係のあり方を考えるための幅広い教養的学知を習得し、等身大の韓国について理解を深める。これをベースに異文化理解とは何かについて考えてみる。また、つねに日韓比較的な視点を念頭に入れながら自国文化についても見つけなおす時間としたい。

並行して事前事後学習の一環として、日韓の歴史についても学習を深める。

(到達目標)

【知識】韓国の社会と文化に関する基本的な知識を習得している。

【思考・判断・表現力】文化の多様性や理解を深め、適切な思考・判断力・表現力を習得している。

【自立的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に無し。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業にて提示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 韓国のいろは①【韓国の基本的な知識を知る】
- 3 韓国のいろは②【国を象徴するものを中心に】
- 4 韓国の文字・ハングルの仕組みについて
- 5 韓国人の名字と名前①【苗字について】
- 6 韓国人の名字と名前②【名前について】
- 7 現代韓国社会と文化の特徴I (外部講師)
- 8 ドラマで「植民地時代」を追体験する
- 9 韓国(人)にとって日本(人)とは?
- 10 日本(人)にとって韓国(人)とは?
- 11 韓国における日本大衆文化の受容政策
- 12 グローバル化するK-POP
- 13 現代韓国社会と文化の特徴II (外部講師)
- 14 歴代大統領でみる韓国の社会と文化
- 15 韓国の宗教&詩人・尹東柱

* 上記スケジュール及びテーマはあくまで目安であり、受講生のニーズや進行状況などの都合により変更となる場合もある。

韓国の社会と文化【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
世界(地球)科目

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の視聴レポート 40%
毎回のコメントカード 30%
その他、小レポートなど 30%

* 7回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日韓関係にかかわる歴史や問題点などについて学習できる資料と映像を適宜、提示し、課題を課す。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

韓国 社会 文化 歴史 異文化理解 日韓関係

国際学入門【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL110F	◎		○		○
科目名	国際学入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

（到達目標）

【知識】現代の国際社会で生じる様々な問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断力・表現力】現代の国際社会で生じる諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】現代の国際社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)。

レポートを提出した受講者に対してはS～D評価。未提出者に対しては一評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

国際学入門 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
世界（地球）科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs 「16 . 平和と公正」

安全保障論【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS111F	◎		○		○
科目名	安全保障論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連	

授業の概要 /Course Description

安全保障について多角的に検討する授業です。中盤からは防衛問題が中心となります。安全保障・防衛に関心がある受講者はもちろんですが、もともとあまり関心がない、全く知らない、という受講者でも理解できるように丁寧な解説を心がけます。ぜひ、受講してください。

動画は、各回、編集カットをほどこし、BGMやテロップを付け、youYube仕様で配信します。なるべく楽しく学習できるような動画を作りたいと思っています。

到達目標

- 【知識】安全保障を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】安全保障上の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】安全保障に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は15回で、1回45～60分程度、動画視聴してもらいます。以下は、昨年度配信した動画タイトルですが、今年度は、多少、整理します。(19タイトルありますが、19回授業があるわけではありません)

- ガイダンス / 安全保障の考え方その1(抑止について)
- 安全保障の考え方その2(国際環境について)
- 安全保障とは何か / 専守防衛と日本
- 安全保障と外交
- 自衛隊の海外派遣
- 安全保障の非軍事的な側面
- 日米同盟と自衛隊
- 自衛隊の任務
- 防衛出動 / 存立危機事態と集団的自衛権
- 海上警備行動
- 企画動画
- 安全保障流の地図の読み方
- スクランブル
- 弾道ミサイル防衛(BMD)
- イージス・アショアと代替

成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行います。
小テスト(6回)100%、ただし、小テストの実施回数は若干前後する可能性があります。

※「評価不能(-)」は、小テストを一度も受験していない場合、もしくはその総合得点が0点の場合。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので、質問や感想がある場合、書き込んでください。また、動画のコメント欄も活用できます。

頻繁に小テストがあるので、何回でも動画を視聴して、理解することが事後学習ですが、関連動画の視聴もお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、面白い動画づくりを心がけます。

キーワード /Keywords

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 篠崎 香織 / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科
大平 剛 / 国際関係学科, ロドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科
下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 白石 麻保 / 中国学科
久木 尚志 / 国際関係学科, 柳 学洙 / 国際関係学科
阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科, 政所 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL003F	◎		○		○
科目名	現代の国際情勢				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

到達目標

- 【知識】現代の国際情勢を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】現代の国際情勢について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】現代の国際情勢に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義はメディア授業です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

使用しません。必要に応じてレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回（篠崎）オリエンテーション
- 第2回（北）日系アメリカ人の歴史と今日（1）概況と歴史【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
- 第3回（北）日系アメリカ人の歴史と今日（2）現代のエスニシティ状況への視座【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
- 第4回（阿部）米中の技術覇権争いと日本経済【貿易摩擦】【DX革命】【知的財産権】
- 第5回（政所）国際連合の活動と日本【集団安全保障】【国連中心主義】【多国間外交】
- 第6回（政所）国内紛争と国連平和活動【「新しい戦争」】【平和維持活動】【平和構築】
- 第7回（久木）2010年代以降のイギリス（1）【政権交代】【国民投票】
- 第8回（久木）2010年代以降のイギリス（2）【EU離脱】
- 第9回（篠崎）世界文化遺産ベナン島ジョージタウンを歩こう【マレーシア】【マラッカ海峡】【華人】【イスラム教】【ヒンドゥー教】
- 第10回（大平）東南・南アジアにおける安全保障と開発【一帯一路】【Quad】【債務の罠】
- 第11回（デルガド）Becoming an International Citizen in Japan: Carlos Ghosn success story and experience. 【International, Citizen, Japan】
（※英語での講義です）
- 第12回（白石）中進国としての中国経済【経済成長】【SNA】【投資】
- 第13回（柳）朝鮮半島の冷戦体制と南北分断【朝鮮戦争】【体制競争】【民族主義】
- 第14回（柳）北朝鮮の核開発と北東アジアの安全保障【冷戦体制】【駐留米軍】【対話と圧力】
- 第15回（下野）台湾の多元化社会【民主化】【中国】【移民】

※都合により変更もあり得ます。変更がある場合は授業で指示します。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト（各担当者ごとに最低1回は行います。最少9回、最大14回）100%
小テストを1度も受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。

小テストを実施する際は、授業の最後に行います。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていききっかけにしてください。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連

第4回(阿部) 9. 産業・技術革命

第5回、第6回(政所) 16. 平和と公正

第7回(久木) 3. 健康と福祉を

第8回(久木) 10. 不平等をなくす

第9回(篠崎) 11. まちづくり

第11回(デルガド) 9. Innovation and Infrastructure (産業・技術革命)

第12回(白石) 17. グローバル・パートナーシップ

第15回(下野) 5. ジェンダー平等、10. 不平等をなくす、16. 平和と公正

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL004F	◎		○		○
科目名	国際社会と日本				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

戦後日本政治史を講じる。

[到達目標]

【知識】国際社会と日本の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】国際社会と日本の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】国際社会と日本のあり方に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

この講義はメディア授業です。毎週、決められた時間にMoodleから受講してください。教科書の他、必要な資料をMoodleにアップすることがあります。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)、定価税込み2,160円を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 戦後日本外交の構図
- 3回 占領下日本の外交1【日本国憲法】【占領改革】
- 4回 占領下日本の外交2【サンフランシスコ講和】【日米安保条約】
- 5回 独立国の条件1【自主外交】【二大政党制】
- 6回 独立国の条件2【日米安保条約改定】
- 7回 経済大国外交の原型1【高度経済成長】
- 8回 経済大国外交の原型2【沖縄復帰】
- 9回 自立的協調の模索1【テラント】
- 10回 自立的協調の模索2【石油危機】
- 11回 「国際国家」の使命と苦悩1【日米同盟】
- 12回 「国際国家」の使命と苦悩2【経済摩擦】
- 13回 冷戦後の外交1【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 冷戦後の外交2【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% テスト 50%

・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

・ レポートと試験のどちらか一方でも、受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照合しながら、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN001F	◎		○		○

科目名	グローバル化する経済	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	------------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題に取り組むことが求められます。

（到達目標）

【知識】グローバル化する経済を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断】グローバル化する経済について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【行動力】グローバル化社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション－グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【保護貿易】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【経済連携協定】
- 4回 企業の海外進出と立地（1）【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地（2）【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動の関係について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 グローバル化とファイナンス(1)【金融市場】【外国人投資家】
- 9回 グローバル化とファイナンス(2)【資産運用】【行動ファイナンス】
- 10回 比較文化心理学（1）【文化と認知】
- 11回 比較文化心理学（2）【文化と感情】
- 12回 国際労働移動（1）【日本における外国人労働者の受け入れ】【賃金決定理論の基礎】
- 13回 国際労働移動（2）【移民と所得分配】【移民の移動パターン】【移民の経済的同化】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とする。

グローバル化する経済【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
世界(地球)科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントはMoodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDG 8. 働きがい・経済成長

近代史入門【昼】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS110F	◎		○		○
科目名	近代史入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業では、第一次世界大戦から太平洋戦争終結までの日本近代史を講義します。授業を通して、学校教育や日常生活の中で学んできた「史実」の根拠となっている史料や諸研究に触れ、「史実」の実態をより深く理解すると共に、「史実」を相対化して歴史を多角的に捉える力の修得を目指します。その上で、近代日本の歴史が、現代の政治・外交・軍事・社会・文化・メディア等のあり方にいかなる影響を与えているのかを考え、各履修生が歴史を身近なものとして捉えられるようにします。

・本授業の到達目標

- 「知識」
→日本の近代史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 「思考・判断・表現力」
→日本の近代史について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 「自立的行動力」
→日本の近代史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

指定はありません。授業では、教員作成のレジュメ・画像・映像等を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史・「史実」・歴史学
- 第2回 第一次世界大戦ー「新しい戦争」の衝撃と影響
- 第3回 白虹事件と関東大震災ー「中立」化する言論、台頭する「世論」
- 第4回 政治の大衆化ー二大政党制と劇場型政治
- 第5回 軍事の大衆化ー戦争にまつわる文化、娯楽、記憶
- 第6回 北伐と革命外交ー1920年代の日中関係
- 第7回 ロンドン海軍軍縮会議ー「統帥権干犯」をめぐる政治とメディア
- 第8回 満洲事変ー「生命線」としての満蒙権益と「熱狂」の創出
- 第9回 政党内閣の崩壊ー「協力内閣」運動と五・一五事件
- 第10回 昭和陸軍と二・二六事件
- 第11回 日中戦争の諸相ー謀略と和平工作
- 第12回 第二次欧州大戦と日本
- 第13回 新体制運動
- 第14回 日米開戦への道
- 第15回 太平洋戦争の終結と「聖断」

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験70%、日常の授業への取り組み30%
なお、学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後は、レジュメ等の配布資料や各自が作成したノートを読み返し、授業中に紹介した参考文献にも目を通して置いて下さい。

近代史入門【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
世界(地球)科目

履修上の注意 /Remarks

第1回授業において、授業の進め方や受講する上での注意事項について説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Japanese Culture and Society 【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE221F	◎		○		○
科目名	Japanese Culture and Society				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

知識：日本の文化と社会を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

思考・判断・表現力：日本の文化と社会についての考え方をういて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。

自立的行動力：日本の文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

The objective of this course is to cover and discuss various aspects of Japanese society and culture from the past till present. Topics will include subjects ranging from traditional customs to pop culture and the influence of different religions. One specific goal will be to analyze the way Japan has been influenced by outside cultural influences throughout its long history. Another aspect of this course will be to see Japan from the perspective of non-Japanese students in order to help international students adapt to their new surroundings as well as encourage Japanese students to realize their own cultural identity.

教科書 /Textbooks

Hood, Christopher P. Japan: The Basics, Routledge 2015 ISBN: 978-0-415-62971-3 (pbk) 2657円 or 978-1-315-74568-6 (ebk) 2398円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Ellington, Lucien. Japan: A Global Studies Handbook (ebk)

Other printed materials will be supplied by instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction and Orientation
- 2回 Studying about Japan
- 3回 Demographic challenges
- 4回 Japan on the move
- 5回 Natural Japan
- 6回 Student Led Discussion & Presentations I: Demographic challenges
- 7回 Student Led Discussion & Presentations II: Japan on the move
- 8回 Student Led Discussion & Presentations III: Natural Japan
- 9回 Japanese Core Values
- 10回 Pure Japanese
- 11回 One for all, all for one/ Re)building Japan
- 12回 Student Led Discussion & Presentations IV: Core Values
- 13回 Student Led Discussion & Presentations V: Pure Japanese
- 14回 Student Led Discussion & Presentations VI: One for all, all for one /
- 15回 Student Led Discussion & Presentations VII: Re)building Japan and submission of final paper

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentation and Participation -50%

Final Paper -50%

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能(－)とします。

If you miss more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade.

試験を受験しない場合は、評価不能(－)とします。

Failure to take an exam will result in a failing grade (-).

レポートを提出しなかった場合は、評価不能(－)となります。また、盗用が発覚した場合は、不合格となります。

Failure to submit a report will result in a failing grade (-). Any incidence of plagiarism will also result in a failing grade.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to participate actively in discussion and make presentations on materials presented in this course. Students should read assigned materials before class.

履修上の注意 /Remarks

All coursework will be done in English.
A TOEIC Score of 650 or higher before registration is highly recommended

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Speaking Cultures and Societies 【昼】

担当者名 /Instructor ローズマリー・リーダー / Rosemary Reader / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE231F	◎		○		○
科目名	English Speaking Cultures and Societies				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標
 知識：英語圏の文化と社会を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
 思考・判断・表現力：英語圏の文化と社会についての考え方をを用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。
 自立的行動力：英語圏の文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

This class aims to provide an overview of the English speaking cultures and societies that exist, and provide a springboard for students to research the topics that interest them in particular in greater detail. This covers historical aspects such as British mythology as well as British expansion spreading English all over the globe, a variety of conflicts that have shaped some of the communities in different ways, and religious beliefs that underpin some cultural attitudes. We will also look at topics such as food, sport, and entertainment as well as exploring some well known festivals.

教科書 /Textbooks

None

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Suggestions to be made when necessary in class

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction
- 第2回 Legends and Lore
- 第3回 Three Chords and the Truth
- 第4回 Protest and Politics
- 第5回 Ghost Stories
- 第6回 Empire to Empire
- 第7回 The Clearances and the Troubles
- 第8回 Masters of War
- 第9回 Fusion Culture
- 第10回 Blood † Body
- 第11回 Silly Point
- 第12回 Food
- 第13回 Christmas
- 第14回 A Barrel of Laughs
- 第15回 POP!

成績評価の方法 /Assessment Method

Research-based projects 70%
Contributions 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Instructions to be given in class. Try to pay attention to English media and news, and keep up-to-date with topics that may intersect with those we cover in class to help deepen your understanding of relevant issues.

履修上の注意 /Remarks

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能(－)とします。

English Speaking Cultures and Societies 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
世界（地球）科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 1学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ANT210F	◎		○		○
科目名	現代社会と文化				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

(到達目標)

【知識】現代社会と文化の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】現代社会と文化の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】現代社会と文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。また、講義に関する映画（有料動画の場合もあります）を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂・奥野克巳編 2007『医療人類学のレッスン』学陽書房
- 太田好信編 2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか 2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会
- 塩原良和 2010『変革する多文化主義へ』法政大学出版局

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

現代社会と文化【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部 現代社会において異文化を理解すること

第2回 文化とその認識

第3回 ナショナリズムと文化

第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム

第5回 植民地主義と文化

第6回 マイノリティ文化の保護と多文化主義

第7回 多文化主義の可能性と限界

第8回 国籍・人種などの分類の不明瞭さ

第9回 移動する人々と世界

第10回 中間テスト

第II部 文化の違いを超えて？

第11回 近代・ポスト近代という時代の認識と文化

第12回 身体の近代化

第13回 医療の持つ権力と文化

第14回 癒しの多様性

第15回 中間テストの解説と授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テストおよびそのほか課題 40%、期末テスト 60%

※課題の提出など、加点の対象となる活動が全くない場合は評価不能（－）です。

※受講人数、感染状況によってはテストがレポートになる可能性があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ この授業は中間テストほか学期中にさまざまな課題があります。計画的に取り組みましょう。
- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。
- ・ 提出課題において剽窃などの不正が発覚した場合、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 講義で自分が学んだことを用いて、現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとするのが重要です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
- ・ 「異文化理解の基礎」を受講済み・受講中の学生は理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、植民地主義、グローバリゼーション、近代、身体、SDGs10 不平等をなくす、SDGs 16 平和と公正

可能性としての歴史【昼】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HIS200F	◎		○		○
科目名	可能性としての歴史				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業では、本来はタブーとされる「歴史のif」に注目し、近代日本の政策決定に参画した政治家・官僚・軍人等の行動とその背景や動機に迫り、歴史とは別の選択肢が存在したのか、存在していたとすれば、異なる選択をした日本はいかなる道を行っていたのかについて考えていきます。講義の中で「あり得たかもしれない歴史」を考察することを通して、予測困難で不透明な未来を考える思考力の涵養を目指します。

・本授業の到達目標

「知識」

→歴史的過去の可能性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

「思考・判断・表現力」

→歴史的過去の可能性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

「自立的行動力」

→歴史的過去の可能性を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

指定はありません。授業では、教員作成のレジюме・画像・映像等を使用します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史学とは何か
- 第2回 歴史学にとっての「もしも・・・」
- 第3回 この国のかたち—近代日本の国家構想
- 第4回 国民—「日本人」の形成
- 第5回 言語—「共通語」の創成
- 第6回 国土—変動する「国境」
- 第7回 首都—東京以外の選択肢
- 第8回 学校—戦前期日本の教育と「学歴」
- 第9回 軍隊—徴兵制と通過儀礼、兵営と地域社会、前線と統後
- 第10回 日中関係—和平の可能性
- 第11回 日米開戦— the Point of No Return はどこだったのか
- 第12回 原爆投下—マンハッタン計画、軍都小倉、本土決戦
- 第13回 敗戦と占領—異世界型「戦後日本」
- 第14回 天皇制—「象徴」の起源
- 第15回 まとめ—「可能性」としての歴史

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験70%、日常の授業への取り組み30%

なお、学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後は、レジюме等の配布資料や各自が作成したノートを読み返し、授業中に紹介した参考文献にも目を通して置いて下さい。

可能性としての歴史【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
世界(地球)科目

履修上の注意 /Remarks

第1回授業において、授業の進め方や受講する上での注意事項について説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 政1-1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の2点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。

(到達目標)

- 【技能】 大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】 異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への取り組み（課題・レポートを含む） … 100%
ただし、情報リテラシー（情報モラル、情報セキュリティ、文書作成、表計算、グラフ）の必須課題に合格しなければならない。なお、課題やレポート等の提出が全くない場合は、評価不能（-）です。

アカデミック・スキルズI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 政1-2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の2点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。

(到達目標)

- 【技能】 大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】 異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への取り組み（課題・レポートを含む） … 100%
ただし、情報リテラシー（情報モラル、情報セキュリティ、文書作成、表計算、グラフ）の必須課題に合格しなければならない。なお、課題やレポート等の提出が全くない場合は、評価不能（-）です。

アカデミック・スキルズI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の2点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。

(到達目標)

- 【技能】 大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】 異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への取り組み(課題・レポートを含む) ... 100%
ただし、情報リテラシー(情報モラル、情報セキュリティ、文書作成、表計算、グラフ)の必須課題に合格しなければならない。なお、課題やレポート等の提出が全くない場合は、評価不能(-)です。

アカデミック・スキルズI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

アカデミック・スキルズII (思考と推論) 【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

サブテーマ「思考と推論」

本授業の目的は、アカデミック・スキルズIで身につけた基礎的な考える力を応用して、より深く考えられるようになることである。特に、本授業では、人間が考えるときに重要なはたらきをしている「推論」と、その心理実験を通じて、考える力を総合的に活用できる能力・資質を伸ばすことを目指す。そのことを踏まえて、本授業では、以下のような項目について学ぶ。

- 思考スキルとその活用方法
- 推論を中心とした人間の思考と認知心理
- 心理実験の計画法
- 心理実験の調査方法とデータ分析

本授業の前半は講義による授業内容の解説となるが、後半は課題研究が中心となる。課題研究では、ワークシートを用いながら、心理実験の計画・実施・分析・考察までの一連の流れを実施する。

< 到達目標 >

- 【技能】 大学生活に必要な「考える力」に必要な技能を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。
- 【コミュニケーション力】 異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

市川伸一：考えることの科学～推論の認知心理学への招待～、中公新書、1997年、660円（税抜）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：考える力と推論【ガイダンス】【認知心理学】
- 2回目：形式論理と日常的推論(1)【四枚カード問題】
- 3回目：形式論理と日常的推論(2)【主題材料効果】【全件否定の錯誤】【後件肯定の錯誤】
- 4回目：実用的推論スキーマ(1)【疑う】【問いを立てる】【スキーマとは】
- 5回目：実用的推論スキーマ(2)【検証する】【分析する】
- 6回目：心理実験の流れ(1)～疑う～【批判的思考】
- 7回目：課題演習(1)～疑う～
- 8回目：心理実験の流れ(2)～問いを立てる～【抽象化】【視点図】
- 9回目：課題演習(2)～問いを立てる～
- 10回目：心理実験の流れ(3)～検証する～【仮説】【視点図】【作問】
- 11回目：課題演習(3)～検証する～
- 12回目：心理実験の流れ(4)～分析する～【調査方法】【データ分析】
- 13回目：課題演習(4)～分析する～
- 14回目：提案された心理実験の発表
- 15回目：まとめ

アカデミック・スキルズII (思考と推論) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

心理実験の流れに関する課題・・・40%、課題演習レポート・・・40%、積極的な授業参加・・・20%
課題およびレポートの提出回数が全体の3分の2未満の場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業開始前までに必ず教科書を読んで、その内容を理解しておくこと。
事後学習として、授業内容を反復すること。また、授業時間に課された課題に未到達、または、満足のいく完成度でなかった場合は、授業時間外に積極的に課題の続きに取り組み、次の授業に備えること。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。「アカデミック・スキルズI」を受講し、その内容をしっかり学んでいると受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、各授業回に適した課題や質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。課題は、ワークシートやMoodleを使って取り組んでもらい、その成果は必ず提出してもらう。そのため、積極的に授業に参加してほしい。

キーワード /Keywords

思考力、アクティブラーニング、推論、心理実験

アカデミック・スキルズII (レポートを書くために) 【 昼 】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、アカデミック・スキルズIで身につけた考える力を活用して大学生活に必要なコミュニケーション能力を伸ばし、より深く考えられるようになることです。最終的な目標は、テーマに沿って自分で問いを設定し、文献を読んで考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことです。比較的読みやすいテキストを批判的に読解することを通して、レジユメの作りかた、論点の見つけ方、文献の探し方を学び、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養います。後半では、受講者同士の議論を経て、レポートの作成を目指します。

(到達目標)

【技能】大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている

教科書 /Textbooks

岡岡亮二 2019 『教育格差』ちくま新書 (1000円 + 税)

教育は多様な情報がメディアでもあふれており、みなさん一人ひとりに何らかの経験があるので、イメージで議論されやすい側面があります。大学生になったところで、これまで自分が受けてきた教育を客観的に振り返ってみましょう。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 慶応義塾大学教養研究センター 2014 『ダメレポート脱出法』慶応大学出版会
- 佐渡島沙織ほか編 2015 『レポート・論文をさらによくする書き直しガイド』大修館書店
- 白井利明・高橋一郎2008 『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

そのほかMoodleに参考となる電子書籍のリンクを貼ります。必要に応じて閲覧してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：レポートを書くとは
- 第2回 大学における本の読みかた・探しかた
- 第3回 読んだ本の理解を深めるには・レジユメの作りかた
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論①
- 第5回 議論のしかた
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論②
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論③
- 第8回 テーマの見つけかた
- 第9回 レポート構想報告①
- 第10回 レポートの書きかた
- 第11回 レポート構想報告②
- 第12回 レポート構想報告③
- 第13回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップ
- 第15回 これまで学んだことの総括

※受講者の人数によって内容を若干変更することもある。

アカデミック・スキルズII (レポートを書くために) 【 昼 】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート40%、授業中の活動（課題提出、報告、積極的な発言など）60%
（第13回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。）
※報告者の無断欠席は厳しく減点します。
※学期末レポートの最低文字数は2000字です。
※課題の提出など加点の対象となる活動が全くない場合は履修放棄（－）となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ レジユメの作成、レポートの執筆およびそのための資料収集などはそれなりに時間がかかります。計画的かつ真摯に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 履修を希望する学生は、第1回の授業から必ず出席してください。
- ・ 問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。受講する段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。
- ・ 演習の準備に時間がかかることを嫌がらないでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

・ 大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。レポートをあまり書かない学部の学生も、学期末には2000字以上のレポートを頑張って書いています。レポートに慣れている学部の学生は、この機会に自分の書き方を点検し、より高く評価されるレポートを目指してみましよう。

キーワード /Keywords

思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力、SDGs4 質の高い教育をみんなに

アカデミック・スキルズII (論理的に生きる) 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は「アカデミック・スキルズI」で培ってきた考える力をさらに活用して、大学での学びに必要な論理的思考能力を伸ばすことを目的とします。データ収集からはじめて、それを取捨選択して加工、可視化して、他者に向けて発信するという一連の過程を具体的に実践していきます。

具体的には、以下のような項目を身につけます：

- 情報収集を行い、その情報の信頼性をチェックすることができる
- 表計算ソフトなどを利用し、データを可視化することができる
- プログラミングを基礎から学ぶことで、論理的な思考力を鍛え、現在不足しているといわれるデータサイエンス人材への一歩を踏み出す
- グループ活動を通じて、他者とのコミュニケーションをとることができる

(到達目標)

【技能】 大学生生活に必要な「考える力」に必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】 設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】 異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 データを集める【検索】 【情報の信頼性】 【着眼点】
- 3回 データを加工する(表計算の復習)
- 4回 論理的思考力1(プログラミングの基礎)
- 5回 論理的思考力2(図形の描画)
- 6回 論理的思考力3(変数の利用)
- 7回 論理的思考力4(条件分岐, ループ)
- 8回 論理的思考力5(双方向性)
- 9回 論理的思考力6(配列)
- 10回 データの可視化1(グラフの種類)
- 11回 データの可視化2(棒グラフ)
- 12回 データの可視化3(折れ線グラフ)
- 13回 データの可視化4(円グラフ)
- 14回 現実のデータを活用する
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 90%

積極的な授業参加 ... 10%

以上の観点から評価した結果が「0点」の場合は「評価不能(一)」と表示されます。

アカデミック・スキルズII (論理的に生きる) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料などを提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に提示した課題を次回の授業時に提出したりしてもらいますので、授業時間外の作業が必要となります。特にグループ活動においては、グループメンバーと議論する時間を確保してください。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解度や授業進度、そのほかの社会状況に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現在、ビッグデータやAIなど、ICTスキルやデータを活用できる人材が世の中で求められています。いわゆる「文系」という枠に自分を限定するのではなく、自分の将来に向けてプログラミングを学んでみませんか？

キーワード /Keywords

ロジカルシンキング (論理的な思考) , プログラミング , データの可視化 , コミュニケーション能力 , 思考力 , SDGs 4:質の高い教育をみんなに

アカデミック・スキルズII (論理的思考、批判的思考、対話) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業では、課題図書の本を輪読を通じて、論理的思考・批判的思考・対話の力を鍛えていきます。輪読では、毎回、任意の代表者に発表してもらい、グループでディスカッションを行なってもらいます。
課題図書は、ジェンダー論・フェミニズム論に関わる新書で、合計2冊を読み進める予定です。複数候補を出しますので、参加者の興味関心で初回に決定したいと思います。
なお、毎回1200字程度のレジユメの作成が全員必須となり、課題の量が比較的多い授業となりますので、他の授業との兼ね合いを十分考慮したうえで履修してください。

【到達目標】

《技能》大学生活に必要な「考える力」に必要な技能を身につけている。
《思考・判断・表現力》設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
《コミュニケーション力》異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

初回のイントロダクションのなかで決定します。
* 課題図書は新書に限定しますので、1冊の価格は1,000円ほどです。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション①：この授業について、課題図書の決定
- 第2回 イン트로ダクション②：レジユメの作り方、進め方
- 第3回 輪読 1冊目①
- 第4回 輪読 1冊目②
- 第5回 輪読 1冊目③
- 第6回 輪読 1冊目④
- 第7回 輪読 1冊目⑤
- 第8回 輪読 1冊目⑥
- 第9回 輪読 2冊目①
- 第10回 輪読 2冊目②
- 第11回 輪読 2冊目③
- 第12回 輪読 2冊目④
- 第13回 輪読 2冊目⑤
- 第14回 輪読 2冊目⑥
- 第15回 まとめ：レポートについて

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 各回のレジユメ作成 60%
- ・ 期末レポート 40%

* レジユメを4回以上提出しなかった場合は、評価不能(-)となります。
* レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)となります。

アカデミック・スキルズII (論理的思考、批判的思考、対話) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ レジユメの作成
- ・ 前回範囲の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回は、授業全体の説明に加えて、課題図書を決めるので必ず参加してください。
- ・ この授業では、毎回1200字程度のレジユメの作成が全員必須となり、課題の量が比較的多くなるので、他の授業との兼ね合いを十分考慮したうえで履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

みなさんと同じ本を読み、議論できることを楽しみにしています。

キーワード /Keywords

ジェンダー、フェミニズム、LGBT、SDG 8. ジェンダー平等、論理的思考、批判的思考

アカデミック・スキルズII (豊かな大学生活のために)

【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、アカデミック・スキルズIで身につけた考える力を活用して大学生活に必要なコミュニケーション能力を伸ばし、より深く考えられるようになることである。

身近なことをテーマに考えたり自分の考えを表現したりすることを、様々な学部（学群）の学生と行ってもらおう。

（到達目標）

【技能】大学生活に必要な「考える力」に必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業を通じて紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：オリエンテーション
- 2回：考える力
- 3回：コミュニケーション能力
- 4回：ことばを有効に活用するためのスキル
- 5回：自分を理解する①【大切にもの】
- 6回：自分を理解する②【違和感のあるもの】
- 7回：相手を理解する
- 8回：自分を理解してもらおう
- 9回：個人発表
- 10回：ここまでの振り返り
- 11回：北九大を理解する①【キャンパス探訪】
- 12回：北九大を理解する②【課題設定】
- 13回：北九大を理解する③【表現する】
- 14回：個人発表（または、グループ発表）
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加（事前・事後学習を含む）50%、課題など50%
課題などの提出が全くない場合は、評価不能（－）です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に役立つ活動を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

アカデミック・スキルズII (豊かな大学生活のために)

【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の興味や関心に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。
様々な学部 (学群) の学生と一緒にたくさんのインプットとたくさんのアウトプットをしていただくことを期待しています。
よく考えて、受講してください。

キーワード /Keywords

思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力、レクリエーション

関連するSDGsゴール : 17. 「パートナーシップで目標を達成しよう」

アカデミック・スキルズII (歴史から考える) 【昼】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

サブタイトル：歴史から考える

本授業では、「アカデミック・スキルズI」で身に付けた「考える力」を活用し、現代日本が抱える様々な問題の歴史的経緯を考えていきます。前例を参照することで目の前にある問題や「当たり前」とされている事象をより深く理解し、それらの解決・分析に活かせるようになることを目指します。

(到達目標)

【技能】大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし。適宜、必要な資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜、紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 歴史的思考法とは【“今”の背景を考える】
- 第3回 過去へのアクセス方法①【史料とは何か】
- 第4回 過去へのアクセス方法②【どこから史料に触れられるのか】
- 第5回 「当たり前」の歴史的経緯を探る【異なる「今」を想像する。】
- 第6回 受講者（個人またはグループ）の発表①【例．自由、平等】
- 第7回 受講者（個人またはグループ）の発表②【例．平和、戦争】
- 第8回 受講者（個人またはグループ）の発表③【例．大人、子ども】
- 第9回 受講者（個人またはグループ）の発表④【例．恋愛、婚姻】
- 第10回 社会問題の歴史的経緯を把握する【過去から「今」と「これらか」を考える。】
- 第11回 受講者（個人またはグループ）の発表⑤【例．少子高齢化】
- 第12回 受講者（個人またはグループ）の発表⑥【例．格差社会】
- 第13回 受講者（個人またはグループ）の発表⑦【例．東京一極集中】
- 第14回 受講者（個人またはグループ）の発表⑧【例．教育問題】
- 第15回 まとめ

※受講者の人数や興味・関心事によって、授業計画・内容を変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加（発表、質疑応答、小課題の実施など）60%

学期末レポート40%

なお、学期末レポートが未提出の場合は、評価不能（－）となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

現代日本の様々な問題や身近なことの背景に、日頃から関心を持つように心掛けて下さい。

アカデミック・スキルズII (歴史から考える) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報社会への招待【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF100F		◎	○		
科目名	情報社会への招待		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は【遠隔】授業（オンデマンド配信など）です。授業動画を視聴するための環境を準備するか、大学内施設を利用するようにしてください。

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

(到達目標)

【技能】情報社会を正しく理解するために必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】情報社会の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

情報社会への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどのようにして情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置, 出力装置, 解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU, メモリ, 記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション, 文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換, パケット交換, LAN, IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン, Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権, コンテンツのデジタル化, クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

以上の観点から評価した結果が「0点」の場合は「評価不能(一)」と表示されます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます(必要な学習時間の目安は予習60分, 復習60分)。

その他, ICTに関するニュースを視聴するなど, 日常的, 能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ, SDGs 4. 質の高い教育を, SDGs 8. 働きがい・経済成長, SDGs 9. 産業・技術革命, SDGs 10. 不平等をなくす, SDGs 17. パートナースhip

法への誘い【昼】

担当者名 /Instructor
 中村 英樹 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
 高橋 衛 / 法律学科, 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
 今泉 恵子 / 法律学科, 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科
 水野 陽一 / 法律学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科, 藤田 尚 / 法律学科
 林田 幸広 / 法律学科, 丸山 愛博 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW001F		◎	○		○
科目名	法への誘い				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

(到達目標)
【技能】 法律の世界を正しく理解するために必要な技能を身につけている
【思考・判断・表現力】 法的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている
【自立的行動力】 社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

この授業では、法律学科の教員たちが、社会のさまざまな問題を法というフィルターを通して眺めるとどのように捉えられるのかについて講義する。この講義を通じて、法というツールを用いて問題を読み解く技能を獲得することが本授業の目的であり、あわせて、発見したさまざまな課題への対処を考える思考・判断力、そしてそれらを活かして公共的な問題を解決していく自立的行動力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

特になし。
 各回、必要な資料があれば配布する（事前にMoodleにアップロードされる場合もあるので確認すること）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各種の法学入門書など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 おからはゴミなのか、劇物を輸入規制しなくていいのか-行政法解釈入門
- 第3回 信じる者は救われる?-法治主義と信頼保護原則
- 第4回 自殺や自傷行為を止めさせると犯罪か?
- 第5回 高齢者の罪は許すべき?
- 第6回 人間はAIとどのように向き合うべきか?-AIと法
- 第7回 電気は「物」か?-物に関する法
- 第8回 契約とは何か?-約束と契約の違い・両者の限界等について
- 第9回 あなたを狙う投資マルチ-マルチ商法と消費者法
- 第10回 保険契約制度により自然災害等に対応できるか?
- 第11回 会社の存在意義は何か?
- 第12回 長時間労働はなぜ起きるのか?
- 第13回 自分の臓器を売る自由?-自己所有権の限界
- 第14回 裁判しない法専門家-ADRとそのねらい
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末のレポートによる (100%)。

期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

法への誘い【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回のテーマについて事前に情報を収集し、自分の考えを整理しておくこと。
事前に資料等の配布がある場合は、授業前に目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

受講態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDG 3. 健康と福祉を、SDG 10. 不平等をなくす、SDG 16. 平和と公正

コンピューターリテラシー 【昼】

担当者名 /Instructor 古川 洋章 / 情報総合センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF101F		◎			
科目名	コンピューターリテラシー				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、コンピューターやインターネットを正しく扱うための知識や技術を学習し、情報社会において自らの考えや判断を表現・伝達する手段として利活用する能力を身につけることです。そのため、本授業では実際にコンピューターを操作しながら、以下のような項目を達成できる技能の習得を目指します。

【情報モラル・情報セキュリティ】

- ・ インターネットにおけるリスクを把握し正しい使い方について説明することができる
- ・ 著作権と引用のルールについて説明することができる

【電子メール】

- ・ 電子メールの特性および仕組みについて説明することができる
- ・ ビジスマナーを意識した電子メールの作成・送受信ができる

【文章作成】

- ・ 基礎的な文章の作成ができる
- ・ 文章作成ソフトの機能を活用した文章の装飾ができる
- ・ 長文レポートの作成ができる

【表計算・グラフ作成】

- ・ 基礎的な表の作成ができる
- ・ 数式や関数を用いたデータの集計ができる
- ・ 基礎的なグラフの作成ができる
- ・ 条件に応じて出力結果を変えることができる

なお、本授業は初心者を対象としています。

(到達目標)

【技能】コンピューターを適切に利用する技能を身につけている。

教科書 /Textbooks

『情報リテラシー Windows10 /Office2019対応』 FOM出版、2,000円 (税抜)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介します。

コンピューターリテラシー 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コンピューターの操作方法
- 3回 情報モラル・情報セキュリティ：インターネットにおけるリスクとコミュニケーション
- 4回 電子メール：大学における電子メール
- 5回 文章作成1：文章作成の基本操作
- 6回 文章作成2：文章作成ソフト機能の活用
- 7回 文章作成3：レポート作成
- 8回 文章作成4：文章作成練習
- 9回 演習1：文章作成
- 10回 表計算・グラフ作成1：表作成の基本操作
- 11回 表計算・グラフ作成2：グラフ作成
- 12回 表計算・グラフ作成3：条件に応じた出力
- 13回 表計算・グラフ作成4：表計算・グラフ作成練習
- 14回 演習2：表計算・グラフ作成
- 15回 ふり返り・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ インターネット・情報モラル・情報セキュリティに関する課題...15%
- ・ 電子メールの課題...10%
- ・ 文章作成演習の課題...25%
- ・ 表計算・グラフ作成演習の課題...25%
- ・ 授業支援ツールを用いた授業への積極的な参加...25%
- ・ 課題やレポート等の提出が全くない場合は、評価不能(－)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め授業テーマについて予習してください。また授業終了後には、パソコン自習室や自身のパソコン等で積極的に授業内容を復習してください。

なお予習および復習に必要な学習時間は1時間程度です。

履修上の注意 /Remarks

この科目は、パソコンを使った演習が必須ですので、自由に利用できるパソコンを持っていることが望ましいです。パソコンを持っていない場合は、大学内のパソコン自習室を利用するなど、パソコンが利用できる環境を準備してください。

また、コンピューターの基本的な操作(キーボードによる文字入力、マウス操作など)ができるようになっておく受講しやすいです。

なお、受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

この科目は、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もあります。また、受講者数調整を実施する可能性もあります。詳細は、初回の授業中に説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、初心者を対象に、情報社会においてコンピューターやインターネットを正しく扱うための基本的な知識や技術について学習し、利活用する能力の体得を目指します。実際にコンピューターを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に練習に取り組む姿勢が大切です。わからないことがあれば、随時、質問をしてください。

キーワード /Keywords

文章作成、表作成、グラフ、電子メール、情報モラル、情報セキュリティ

データ分析 【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF201F		◎	△		
科目名	データ分析		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

情報社会と呼ばれる現代では、インターネットを通じて多種多様なデータが常に世界中を行き交っている。ICTの高度化は、分散する端末から高速ネットワークを通じてデータを収集し、収集した大量のデータを瞬時に分析することを可能にした。これらの事実は、社会のあらゆる場面において、データに基づいた意思決定が求められることを意味する。この背景から言えることは、社会は、大量のデータから何らかの意味のある情報や法則、関連性などを導き出し、そこから知識を獲得できる人材を求めているということである。

本授業は、データを分析する基本を学ぶ。具体的には、以下の能力を身につけることが目標である。

- ・ データ分析の必要性について説明することができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータから平均や散らばり度合いなどを明らかにすることができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータからの要素が関連するかを考え、その関係性を明らかにすることができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータから時系列的な変化を明らかにすることができる。

(到達目標)

【技能】データを適切に分析する技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小島寛之：完全独習 統計学入門，ダイヤモンド社，2006年，1,800円（税抜）
- 西内啓：統計学が最強の学問である，ダイヤモンド社，2013年，1,600円（税抜）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.オリエンテーション，データ分析の必要性
- 2.表計算ソフト演習1【表作成】【グラフ作成】
- 3.表計算ソフト演習2【数式を使った計算】【関数を使った計算】
- 4.度数分布表とヒストグラム
- 5.データの平均と散らばり
- 6.正規分布とその特長
- 7.母集団と区間推定
- 8.演習1：分布に関する演習
- 9.質的データの要因比較のための集計
- 10.量的データの2要因間の関係
- 11.量的データの2要因間の関係から予測へ
- 12.演習2：要因比較に関する演習
- 13.時系列的なデータの変遷
- 14.総合演習
- 15.まとめ

データ分析【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

分布に関する演習・・・20%，要因比較に関する演習・・・20%，総合演習・・・40%，レポート・・・20%

6回以上欠席した場合は，評価不能（-）とします．

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として，授業内容・計画に従って予め調べて学習しておくこと．

事後学習として，授業内容を反復すること．

また，データ分析能力の習熟には日々の練習が欠かせないため，正規の授業時間以外に，積極的にデータ分析の練習を行うこと．

履修上の注意 /Remarks

この科目は，パソコンを使った演習が必須なので，自由に使えるパソコンを持っていることが望ましい．パソコンを持っていない場合は，大学内のパソコン自習室を利用するなど，パソコンが使える環境を準備しておくこと．また，表計算ソフトを使った演習が中心となるので，表計算ソフトがある程度使えると，受講しやすくなる．

受講生の興味関心や理解度等に応じて，授業計画や内容を変更することがある．その場合は，授業中に説明する．

この科目は，授業の一部，もしくは，全てを遠隔で実施する可能性もある．また，受講者数調整を実施する可能性もある．詳細は，初回の授業中に説明する．

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画・内容から，難しい数式が出てくる印象を与えるが，本授業では中学校レベルの数学で理解できるように設計している．データサイエンティストの入り口に立つための授業という位置づけであるので，興味のある学生は積極的に受講して欲しい．

キーワード /Keywords

分布，要因比較，時系列分析，統計学，表計算ソフト，データからの知識獲得

データ分析 【昼】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF201F		◎	△		
科目名	データ分析		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

情報社会と呼ばれる現代では、インターネットを通じて多種多様なデータが常に世界中を行き交っている。ICTの高度化は、分散する端末から高速ネットワークを通じてデータを収集し、収集した大量のデータを瞬時に分析することを可能にした。これらの事実は、社会のあらゆる場面において、データに基づいた意思決定が求められることを意味する。この背景から言えることは、社会は、大量のデータから何らかの意味のある情報や法則、関連性などを導き出し、そこから知識を獲得できる人材を求めているということである。

本授業は、データを分析する基本を学ぶ。具体的には、以下の能力を身につけることが目標である。

- ・ データ分析の必要性について説明することができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータから平均や散らばり度合いなどを明らかにすることができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータからの要素が関連するかを考え、その関係性を明らかにすることができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータから時系列的な変化を明らかにすることができる。

(到達目標)

【技能】データを適切に分析する技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小島寛之：完全独習 統計学入門，ダイヤモンド社，2006年，1,800円（税抜）
- 西内啓：統計学が最強の学問である，ダイヤモンド社，2013年，1,600円（税抜）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.オリエンテーション，データ分析の必要性
- 2.表計算ソフト演習1【表作成】【グラフ作成】
- 3.表計算ソフト演習2【数式を使った計算】【関数を使った計算】
- 4.度数分布表とヒストグラム
- 5.データの平均と散らばり
- 6.正規分布とその特長
- 7.母集団と区間推定
- 8.演習1：分布に関する演習
- 9.質的データの要因比較のための集計
- 10.量的データの2要因間の関係
- 11.量的データの2要因間の関係から予測へ
- 12.演習2：要因比較に関する演習
- 13.時系列的なデータの変遷
- 14.総合演習
- 15.まとめ

データ分析【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

分布に関する演習・・・20%，要因比較に関する演習・・・20%，総合演習・・・40%，レポート・・・20%

6回以上欠席した場合は，評価不能（-）とします．

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として，授業内容・計画に従って予め調べて学習しておくこと．

事後学習として，授業内容を反復すること．

また，データ分析能力の習熟には日々の練習が欠かせないため，正規の授業時間以外に，積極的にデータ分析の練習を行うこと．

履修上の注意 /Remarks

この科目は，パソコンを使った演習が必須なので，自由に使えるパソコンを持っていることが望ましい．パソコンを持っていない場合は，大学内のパソコン自習室を利用するなど，パソコンが使える環境を準備しておくこと．また，表計算ソフトを使った演習が中心となるので，表計算ソフトがある程度使えると，受講しやすくなる．

受講生の興味関心や理解度等に応じて，授業計画や内容を変更することがある．その場合は，授業中に説明する．

この科目は，授業の一部，もしくは，全てを遠隔で実施する可能性もある．また，受講者数調整を実施する可能性もある．詳細は，初回の授業中に説明する．

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画・内容から，難しい数式が出てくる印象を与えるが，本授業では中学校レベルの数学で理解できるように設計している．データサイエンティストの入り口に立つための授業という位置づけであるので，興味のある学生は積極的に受講して欲しい．

キーワード /Keywords

分布，要因比較，時系列分析，統計学，表計算ソフト，データからの知識獲得

データ分析 【昼】

担当者名 池之上 正人 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF201F		◎	△		
科目名	データ分析		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

情報社会と呼ばれる現代では、インターネットを通じて多種多様なデータが常に世界中を行き交っている。ICTの高度化は、分散する端末から高速ネットワークを通じてデータを収集し、収集した大量のデータを瞬時に分析することを可能にした。これらの事実は、社会のあらゆる場面において、データに基づいた意思決定が求められることを意味する。この背景から言えることは、社会は、大量のデータから何らかの意味のある情報や法則、関連性などを導き出し、そこから知識を獲得できる人材を求めているということである。

本授業は、データを分析する基本を学ぶ。具体的には、以下の能力を身につけることが目標である。

- ・ データ分析の必要性について説明することができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータから平均や散らばり度合いなどを明らかにすることができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータからの要素が関連するかを考え、その関係性を明らかにすることができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータから時系列的な変化を明らかにすることができる。

(到達目標)

【技能】データを適切に分析する技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小島寛之：完全独習 統計学入門，ダイヤモンド社，2006年，1,800円（税抜）
- 西内啓：統計学が最強の学問である，ダイヤモンド社，2013年，1,600円（税抜）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.オリエンテーション，データ分析の必要性
- 2.表計算ソフト演習1【表作成】【グラフ作成】
- 3.表計算ソフト演習2【数式を使った計算】【関数を使った計算】
- 4.度数分布表とヒストグラム
- 5.データの平均と散らばり
- 6.正規分布とその特長
- 7.母集団と区間推定
- 8.演習1：分布に関する演習
- 9.質的データの要因比較のための集計
- 10.量的データの2要因間の関係
- 11.量的データの2要因間の関係から予測へ
- 12.演習2：要因比較に関する演習
- 13.時系列的なデータの変遷
- 14.総合演習
- 15.まとめ

データ分析【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

分布に関する演習・・・20%，要因比較に関する演習・・・20%，総合演習・・・40%，レポート・・・20%

6回以上欠席した場合は，評価不能（-）とします．

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として，授業内容・計画に従って予め調べて学習しておくこと．

事後学習として，授業内容を反復すること．

また，データ分析能力の習熟には日々の練習が欠かせないため，正規の授業時間以外に，積極的にデータ分析の練習を行うこと．

履修上の注意 /Remarks

この科目は，パソコンを使った演習が必須なので，自由に使えるパソコンを持っていることが望ましい．パソコンを持っていない場合は，大学内のパソコン自習室を利用するなど，パソコンが使える環境を準備しておくこと．また，表計算ソフトを使った演習が中心となるので，表計算ソフトがある程度使えると，受講しやすくなる．

受講生の興味関心や理解度等に応じて，授業計画や内容を変更することがある．その場合は，授業中に説明する．

この科目は，授業の一部，もしくは，全てを遠隔で実施する可能性もある．また，受講者数調整を実施する可能性もある．詳細は，初回の授業中に説明する．

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画・内容から，難しい数式が出てくる印象を与えるが，本授業では中学校レベルの数学で理解できるように設計している．データサイエンティストの入り口に立つための授業という位置づけであるので，興味のある学生は積極的に受講して欲しい．

キーワード /Keywords

分布，要因比較，時系列分析，統計学，表計算ソフト，データからの知識獲得

知の創造特講B (戦後の日本経済) 【昼】

担当者名 /Instructor 土井 徹平 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL205F			◎		
科目名	知の創造特講B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

かつて日本は、今よりずっと活気ある国としてありました。そしてこの時代の日本人は自信に満ちていました。彼らは今年より来年、来年より再来年、自分たちの生活はどんどん「豊か」で「贅沢」なものになっていくと信じていましたし、それが彼らの目標でもありました。

しかし現在、かつての活力は失われ、これとは対称的に、慢性的な不況や「少子高齢化」、地方の「過疎化」など、「衰退」を象徴するような、ネガティブな側面ばかりが目立っています。

そして私たちは「豊かさ」や「贅沢」を追い求めることをやめ、積極的にお金を使い、物を買うことすら控えるようになっていきます。

では、それはなぜなのでしょう？

なぜかつての日本には活力があっただけで今はなく、私たちはかつての「豊かさ」を求めなくなってしまったのでしょうか。そしてそんな中、私たちは今、どんな生活を理想として生きているのでしょうか。

私たちは過去、何を経験し、その結果、今、未来に何を期待しているのでしょうか。

この講義は、私たち日本人が戦後、どのような時代を生き、そこで何を経験し、そのことでどう変わってきたのか、私たち自身の過去と現在、そして未来を客観的に理解するための授業です。

そしてここではそれを、日本人の生活条件の変化、つまり日本経済の歴史をもとに考えていきます。

私たちの生活は、各時代の経済によって規定されています。

したがって、経済が過去からどう変化して来たのか知ることは、私たちの生活がこれまでどう変化して来たのか知ることであります。そして私たちの生活がどう変化して来たのか理解出来れば、上の問いに対する答えを見つけることもできるようになります。

ここではぜひ皆さんに、経済と歴史をもとに現在の私たち自身を理解する、経済学的・歴史学的な思考を実践し、身に付けていただきたいと思っております。

到達目標：

【思考・判断・表現力】

設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

知の創造特講B (戦後の日本経済) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 なぜ「経済史」を学ぶのか
- 第2回 敗戦直後の日本経済
- 第3回 戦後復興の始まり - 「鉄は国家なり」 -
- 第4回 「団塊の世代」
- 第5回 人口の急増と経済危機 - 「人口転換」 -
- 第6回 「人口ボーナス」
- 第7回 産業基盤の整備と「高度経済成長」
- 第8回 「高度経済成長」と人口移動
- 第9回 「団塊の世代」の世帯形成と日本経済
- 第10回 都市的なライフスタイルの希求
- 第11回 「一億総中流」時代 - 「ホワイトカラー」の台頭 -
- 第12回 「高度経済成長」の終焉 - 「オイルショック」と「団塊ジュニア」 -
- 第13回 「安定成長期」 - 産業構造の転換と「鉄冷え」 -
- 第14回 「バブル崩壊」
- 第15回 「失われた20年」と現在

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...80% 日常での授業への取り組み...20%
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジュメを配布します。配布済みのレジュメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジュメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史 戦後史 人口転換 団塊の世代 高度経済成長 オイルショック 安定成長期 団塊ジュニア バブル崩壊 失われた20年 口
ストジェネレーション

社会学的思考 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOC002F			◎	○	
科目名	社会学的思考		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。まず、社会学の基本的な考え方について、E.デュルケム、M.ウエーバーなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。さらに、現代の社会問題を社会学的に考えていく。

上記の内容を踏まえ、授業では以下の4点を目標とする。

- (1) 現代社会とはどのような社会なのか、社会学の基礎を学び、それを踏まえた上で現代社会の特性を理解する。
- (2) 多様な生き方を尊重することが望ましい現代において、生活の多様性における実態について理解する。
- (3) どのような社会構造の中で人が生活をしているのかを理解することを通して、人と社会のあり方を望ましいあり方について考えることができるようになる。
- (4) 社会問題とは何か、どのような背景によって社会問題は形成されるのかを理解し、社会政策等の社会問題への対策のあり方について考えることができるようになる。

なお、本科目は、SDGs1「貧困をなくそう」、SDGs3「すべての人に健康と福祉を」、SDGs10「人や国の不平等をなくそう」、SDGs17「パートナーシップで目標を達成しよう」に関連するものである。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業であるため、学生は自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められる。

到達目標

- 【思考・判断・表現力】現代の社会問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】他者と協働して、現代の社会問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

使用しない。
適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『生活からみる社会のすがた』,稲月正・加来和典・牧野厚史・三隅一人編,学文社,2022年3月刊行予定
 - 『現代の社会学的解読』,山本努・辻正二・稲月正著,学文社,2014年,¥2640(古書)
 - 『最新 社会福祉士養成講座③ 社会学と社会システム』,一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編,中央法規,2021年,¥2,750
- その他、講義の中で、適宜、紹介する

社会学的思考 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 インTRODクシヨン【社会、社会学】
- 2 社会学的な考え方とは【記述、説明、行為、規範、制度、集団、構造】
- 3 社会学の歴史的展開1 - E.デュルケムの方法【集合意識、機能、自己本位的自殺、アノミー的自殺】
- 4 社会学の歴史的展開2 - M.ウェーバーの方法【理解社会学、社会的行為、意図せざる結果】
- 5 復習と課題解説
- 6 変容する家族【近代家族、核家族、夫婦家族、直系家族、定位家族、生殖家族、小家族化と家族の多様化】
- 7 社会集団と組織【ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、第1次集団、第2次集団、準拠集団、官僚制】
- 8 逸脱と社会統制【機能主義、正機能、逆機能、顕在的機能、潜在的機能、アノミー、ラベリング理論】
- 9 都市【産業都市、都市問題、脱工業化、情報化、分極化した都市、世界都市、アーバニズム、下位文化理論】
- 10 社会階層と社会移動【階級、階層、不平等、社会的資源、ジニ係数、社会移動、開放性係数、地位の非一貫性】
- 11 生活困窮（貧困）と社会的排除【経済的困窮、社会的孤立、社会的排除】
- 12 戦後日本の社会変動【高度経済成長、安定成長、戦後日本型循環モデル、性別役割分業】
- 13 大衆社会とファシズム【ナチズム、社会的性格、権威主義的パーソナリティ、機械的画一性への逃げ込み】
- 14 グローバル化と移民【国際労働力移動、移住システム論、顔の見えない定住化、排外主義】
- 15 授業のまとめと振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

確認小テスト... 40%、課題レポート... 60%とし、総合的に判断する。いずれも、メディア授業の際に出す。提出期限を過ぎた課題・小テストは受け付けできない。

確認小テスト、課題レポートを1回も提出しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

キーワード /Keywords

社会的行為、エスノグラフィー、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、ファシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、戦後日本型循環モデル
SDGs1「貧困をなくそう」、SDGs3「すべての人に健康と福祉を」、SDGs10「人や国の不平等をなくそう」、SDGs17「パートナーシップで目標を達成しよう」

ことばの科学 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN110F	○	○	◎		
科目名	ことばの科学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

[到達目標]

DP1 知識：言語の様々な側面を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

DP2 技能：ことばの規則性を正しく理解するために必要な技能を身につけている。

DP3 思考・判断・表現力：言語学に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている

教科書 /Textbooks

漆原 朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。¥2700＋税。

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○大津 由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。

○スティーヴン・ピンカー（著）椋田 直子（訳）『言語を生みだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題・期末試験...90%

定期試験を受験しなかった場合は評価不能(一)となります。

ことばの科学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 石田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科
田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY003F			◎	○	○
科目名	現代人のこころ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】現代人のこころを取り巻く諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自立的行動力】現代人のこころを取り巻く課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 動物のもつ自己意識【自己像認知、マークテスト】
- 第3回 自己の発見【自己意識、自己概念】
- 第4回 他者への気づき【アニマシー、バイオリジカルモーション】
- 第5回 他者の心を読む【共感、心の理論】・まとめと小テスト
- 第6回 青年期の自己観・他者観【エゴグラムテスト】【自己意識】
- 第7回 青年期の親子関係【独自性】【結合性】
- 第8回 青年期の友人関係【チャムシップ】【ふれあい恐怖】
- 第9回 青年期の自己の問題【アイデンティティ】【同一性危機】
- 第10回 まとめと小テスト
- 第11回 こころの科学1【科学としての心理学、統計】
- 第12回 こころの科学2【行動主義、客観性】
- 第13回 こころと行動【本能、生得的プログラム】
- 第14回 こころと他者【愛着、葛藤】
- 第15回 まとめと小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

課題（複数の小テストまたはレポート）・・・100%
各担当教員の指定する課題を提出しなかった場合は、原則評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。
事後学習として、内容の理解を深めるため配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

現代人のこころ【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

臨床心理士としての実務経験のある教員が、日常生活や臨床場面に関わる心理学の理論や各時期の心理的・発達の特徴、人間関係などについてオムニバス形式で解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS001F	○		◎		○
科目名	企業と社会		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また逆にそのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。なお、本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は自宅ないし大学からインターネットに接続して、パソコンやスマートフォン等で授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

(到達目標)

【知識】企業と社会に関する諸問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】企業と社会の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】企業と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第4版』有斐閣アルマ、2018年、2310円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)

三戸公『随伴の結果』文真堂、1994年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業の社会における意味の変遷】【6つの企業観】
- 第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
- 第3回「株式会社」の仕組み① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第4回「株式会社」の仕組み② 【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
- 第5回社会における「大企業」の意味① 【大企業とは何か】【所有と支配】
- 第6回社会における「大企業」の意味② 【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
- 第7回社会における「大企業」の意味③ 【官僚制】【科学的管理の展開】
- 第8回社会における「大企業」の意味④ 【環境問題】【随伴的結果】
- 第9回社会における「大企業」の意味⑤ 【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
- 第10回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第11回「家」としての日本企業② 日本企業特有の組織原理【階級制】【能力主義】【企業別組合】
- 第12回「家」としての日本企業③ 日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第13回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第14回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本的経営 【原理と構造】【家社会】
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・60% 小テスト・・・40%

なお、小テスト・学期末試験をまったく受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

企業と社会【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)
また、適宜、任意のレポート課題を出します。
また該当箇所の参考文献をよく読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス 株式会社 大企業 家の論理 社会的器官

SDGs8.働きがい・経済成長、SDGs12.作る・使う責任、SDGs15.環境保全、等の問題と強く関連する。

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS002F			◎		○
科目名	民主主義とは何か		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。

近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理想的には優れた制度とされていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。独裁とは何か、なぜ権威主義国家でも選挙が行われるのかを知って初めて、民主主義を知ることにもつながる。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間における集合的決定を下すことに理解を深めることができる。

本学DP上の到達目標は「民主主義について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている」「民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している」となっている。これに基づき、成績評価と授業計画では以下の4点を重点とする。履修者が適切に学修を進めた場合、以下4点の知的地平へと到達できることを本科目は約束する。

受講者は本講義を通じて、1) 民主主義を冠する複数の思想や歴史を理解し、特に自由民主主義（リベラルデモクラシー）とそれに付随する基礎的諸概念と効果について、複数の相反する考え方も含め理解し説明できるようになる；2) なぜ民主主義が好ましいのか/好ましくないのか、いかなる状況や領域において民主主義は好ましいのか/あるいは特段優れているわけではないのか、複数の相反する理論や実証結果を整理し説明できるようになる；3) 民主主義下における様々な制度的バリエーションについて説明できるようになり、それが実際の民主政治にいかなる影響を与えるのか、実証的根拠とともに説明できるようになる；4) 非民主主義体制ともいえる独裁制がもつバリエーションも説明でき、それが体制変動・民主化に与える影響を理解し、民主主義体制との違いや独裁制下での選挙がもたらす効果について説明できる。また、これらができているかどうか、成績評価の基準となる。

教科書 /Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 宇野重規 (2019) 『民主主義とは何か』
- 待鳥聡史 (2015) 『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中央公論新社
- マクファーソン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波書店
- ダール, R. (高島・前田訳) 『ポリアーキー』岩波書店
- 坂井豊貴 (2015) 『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波書店
- エリカ・フランツ (2021) 『権威主義：独裁政治の歴史と変貌』白水社

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと投票参加について理解する。授業全体の方針や進め方について受講者との間に共通理解をもつ。しかる後に、民主主義の基礎的な制度と見られる、選挙に関して、なぜ人は選挙にいったり行かなかつたりするのか、ライカ-の投票参加理論をもとに理解する。
2. 民主主義と隣接概念(自由主義・共和主義)を理解する。民主政-独裁政の差異と君主政-共和政の差異は理論的・現代的な意味において別物であることを理解する。本来別物の自由主義と民主主義が歴史的経緯によって結びついてきたことを知り、時には自由主義と民主主義が衝突しうることも理解する。そのため現代的自由民主主義は自由をまもる諸制度(cf司法の独立)が必然的に含まれることを理解し、現在の自由民主主義指標(Freedom House, PolityIV)は実際にそれらを含めて世界の民主主義度を計測していることを知る。
3. 民主主義の多義性を理解し、最小限定義を示したダールのポリアーキー概念を学び、それが重要視する「競争」と「包摂」の2次元を理解する。自由で競争があっても、そこに参加できるメンバーが少なければ民主主義とは言えない。より総合的な民主主義指標であるところのV-dem指標を知り、それを通じて、たとえば、民主主義の場から女性を排除していた時期のスイスがどのように扱われているか、といった問題を検討する。
4. 直接民主主義と間接民主主義の関係性を理解する。現代において標準的な代議制民主主義の思想と対抗言説を理解する。間接民主制を擁護する側の議論として、シムペーターの競争的民主主義観を理解し、他方で強力な対抗言説としての人民民主主義論・ポピュリズム(とそれらはらむ危険性)について理解を深める。
5. この回より理論を離れて歴史や実証を重視する。こんにちの世界が近現代史上はじめて民主政が多数派となっている事を知り、それをもたらした「第3の波」について学ぶ。ラテンアメリカ、旧共産圏、アジア、世界の様々な地域で一斉に起こった民主化の波は、様々な形態を通じて発生したことを知り、それが定着に成功したり失敗したことがある事を知る。
6. 民主政と独裁政(権威主義体制)を比較検討する。独裁政もまた一定の制度的パフォーマンスをもとに体制維持を合理化していることを知り、民主政と独裁政の間に制度的なパフォーマンスの差があるのか、当為の言説からではなく実際のデータに基づいて理解する。経済的成長に関する古典的研究から、ガバナンスに关する最新の研究まで触れることを通じて、民主政はどのような領域において独裁政より優れているのか/あるいは優れていないのかを理解する。
7. 権威主義体制の下位分類について理解する。リンスの全体主義論・権威主義論を元に、民主政とは言えなくとも一定の政治的多元性が許容されている制度があることを理解する。現代の権威主義体制の3分類法(軍・議会/党・個人)を知り、それぞれの特徴と、特に議会を通じた権威主義体制があることを把握する。そこから、選挙は民主主義の専売特許でもなんでもなく、時には独裁体制の強化につながり民主主義を棄損するだけである場合もあることを理解する。
8. 政治体制の変動について理解する。第3の波に限らず、体制変動はいかにして発生するか幅広いデータを通じて理解する。また、権威主義体制下における体制変動とは必ずしも民主主義体制への変動(民主化)を意味しないことや、民主主義を維持することと民主化を達成することは別であることなどを理解する。ムーアの階級構造理論と、経済発展(6055ドル仮説)・格差との関連性についての基礎的な実証分析を理解の補助線とする。
9. 独裁制と民主政を理解したうえで、そもそも民主主義という意味決定手続きがいかにして正当化できるか複数の理論を知る。特に、最大多数最大幸福原理とコンドルセ陪審定理(CJT)について学ぶ。最大多数の最大幸福に基づく正当化は容易に多数派の暴政につながりうること、結果合理性の議論としてはCJTが重要な発想である(一方批判もある)ことを理解する。ただし民主政の維持という観点から見た際、選挙結果の不確実性/戦略性こそが重要だとする議論もあることを紹介する。
10. 民主政下の下位分類としての執政制度について理解する。執政長官をいかにして選ぶかという制度が極めて重要であることを知り、大分類として大統領制と議院内閣制について理解する。この際、日本の教科書的な三権分立の理解には不都合もあることを学ぶ。両執政制度に当てはまらない、半大統領制や首相公選制についても理解する。執政制度の差異は民主主義の維持との関連で非常に激しい議論があり、日本の中央政治と地方政治の理解にも重要であることを把握する。
11. 民主政下の下位分類としての選挙制度について理解する。選挙制度を分類する方法としては、特に定数と議席変換方式が重要であり、多数代表性=小選挙区制と比例代表制=複数選挙区制の基礎的な制度設計ないし制度効果について理解する。実際の選挙結果などをもとにその効果について確認する。特に日本の選挙と民主主義を考える上では、多数代表性&複数選挙区制(いわゆる中選挙区制)の効果の理解は不可欠であり、その制度がもつ理論的な効果と課題について理解する。
12. 民主政下の下位分類としての多数決型とコンセンサス型について理解する。同じリベラルデモクラシーの諸国の中でも、実際の民主政の運用は多様であり、様々な制度や運用の組み合わせによってバリエーションを示している。これを民主政の二つの理念系とその中間とみるLijphartの民主主義理論を学ぶ。実際のデータなどを通じて、世界の民主政のバリエーションがどのような次元で区別でき、どのような位置に置くことができるのか理解する。
13. 多文化社会における民主政の実現可能性について理解する。多数派の政治的意思に基づき政治的な決定と介入を行う民主政が、多文化社会において抱える困難を理解し、そのうえで、現実にも多民族国家でありながら民主政を維持してきた国々の観察から生まれた、コンソシエーション(多極共存型)デモクラシー理論を事例とともに習得する。他方で、本理論も多文化社会の権力分有としては万能ではなく、オルタナティブな議論もあることを理解する。
14. 情報通信技術の発展と民主主義の関連性について考える。広義のE-デモクラシーのうち、主に3つの課題について理解する。1つ目は特にSNSの発展が現在そして未来の民主主義に与える影響であり、楽観論と悲観論の双方を理解する。2つ目はインターネット投票であり、先行事例としてのエストニアの状況の解説とその問題点、日本や世界の状況について知る。3つ目はいわゆるAIと民主主義の問題であり、古典的なテクノロジーと民主主義の緊張関係の延長としてこの問題をとらえる視点を涵養する。

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

15. ここまでの授業の整理として各授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など、イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回(に相当する回)を用いて、調整を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

各授業後の小テスト/アンケート：40%

期末試験：60%

小アンケート回答なし+期末試験未受験の場合、評価不能「一」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示するので、復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、自習にあつては本シラバスも参考にすること(大事なキーワード類はすべて本シラバスに記入済である)

各回授業後に、その授業の振り返りもしくは次回授業の予習となる、1・2問の簡単な小テストもしくはアンケートを出す。これに回答すること。

なお、事前事後学習とは単に座学に限られない。本講義で学習した知見をもとに、現実に自らが生まれたり住んでいる国や地方の政治について考えたり、受講者同士で議論を交わしたり、関連するTV報道・新聞記事・ネットメディア報道などを購読して自分なりの意見形成をすることが、きわめて重要な事前事後学習となる。

履修上の注意 /Remarks

前期と後期で内容は(時事争点への言及を除き)同じである。自らの履修計画に沿って対応されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ゆえ込み入った法学・政治学の知識は必要ない(それがない人を想定して授業を行う)。ただし、高校卒業程度の英語・世界史の知見は必要である。

キーワード /Keywords

SDG5, SDG16

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS002F			◎		○
科目名	民主主義とは何か				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。

近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理念的には優れた制度とされていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。独裁とは何か、なぜ権威主義国家でも選挙が行われるのかを知って初めて、民主主義を知ることにもつながる。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間における集合的決定を下すことに理解を深めることができる。

本学DP上の到達目標は「民主主義について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている」「民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している」となっている。これに基づき、成績評価と授業計画では以下の4点を重点とする。履修者が適切に学修を進めた場合、以下4点の知的地平へと到達できることを本科目は約束する。

受講者は本講義を通じて、1) 民主主義を冠する複数の思想や歴史を理解し、特に自由民主主義（リベラルデモクラシー）とそれに付随する基礎的諸概念と効果について、複数の相反する考え方も含め理解し説明できるようになる；2) なぜ民主主義が好ましいのか/好ましくないのか、いかなる状況や領域において民主主義は好ましいのか/あるいは特段優れているわけではないのか、複数の相反する理論や実証結果を整理し説明できるようになる；3) 民主主義下における様々な制度的バリエーションについて説明できるようになり、それが実際の民主政治にいかなる影響を与えるのか、実証的根拠とともに説明できるようになる；4) 非民主主義体制ともいえる独裁制がもつバリエーションも説明でき、それが体制変動・民主化に与える影響を理解し、民主主義体制との違いや独裁制下での選挙がもたらす効果について説明できる。また、これらができているかどうか、成績評価の基準となる。

教科書 /Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 宇野重規 (2019) 『民主主義とは何か』
- 待鳥聡史 (2015) 『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中央公論新社
- マクファーソン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波書店
- ダール, R. (高島・前田訳) 『ポリアーキー』岩波書店
- 坂井豊貴 (2015) 『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波書店
- エリカ・フランツ (2021) 『権威主義：独裁政治の歴史と変貌』白水社

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと投票参加について理解する。授業全体の方針や進め方について受講者との間に共通理解をもつ。しかる後に、民主主義の基礎的な制度と見られる、選挙に関して、なぜ人は選挙にいったり行かなかつたりするのか、ライカ-の投票参加理論をもとに理解する。
2. 民主主義と隣接概念(自由主義・共和主義)を理解する。民主政-独裁政の差異と君主政-共和政の差異は理論的・現代的な意味において別物であることを理解する。本来別物の自由主義と民主主義が歴史的経緯によって結びついてきたことを知り、時には自由主義と民主主義が衝突しうることも理解する。そのため現代的自由民主主義は自由をまもる諸制度(civil司法の独立)が必然的に含まれることを理解し、現在の自由民主主義指標(Freedom House, PolityIV)は実際にそれらを含めて世界の民主主義度を計測していることを知る。
3. 民主主義の多義性を理解し、最小限定義を示したダールのポリアーキー概念を学び、それが重要視する「競争」と「包摂」の2次元を理解する。自由で競争があっても、そこに参加できるメンバーが少なければ民主主義とは言えない。より総合的な民主主義指標であるところのV-dem指標を知り、それを通じて、たとえば、民主主義の場から女性を排除していた時期のスイスがどのように扱われているか、といった問題を検討する。
4. 直接民主主義と間接民主主義の関係性を理解する。現代において標準的な代議制民主主義の思想と対抗言説を理解する。間接民主制を擁護する側の議論として、シムペーターの競争的民主主義観を理解し、他方で強力な対抗言説としての人民民主主義論・ポピュリズム(とそれらはらむ危険性)について理解を深める。
5. この回より理論を離れて歴史や実証を重視する。こんにちの世界が近現代史上はじめて民主政が多数派となっている事を知り、それをもたらした「第3の波」について学ぶ。ラテンアメリカ、旧共産圏、アジア、世界の様々な地域で一斉に起こった民主化の波は、様々な形態を通じて発生したことを知り、それが定着に成功したり失敗したことがある事を知る。
6. 民主政と独裁政(権威主義体制)を比較検討する。独裁政もまた一定の制度的パフォーマンスをもとに体制維持を合理化していることを知り、民主政と独裁政の間に制度的なパフォーマンスの差があるのか、当為の言説からではなく実際のデータに基づいて理解する。経済的成長に関する古典的研究から、ガバナンスにがんする最新の研究まで触れることを通じて、民主政はどのような領域において独裁政より優れているのか/あるいは優れていないのかを理解する。
7. 権威主義体制の下位分類について理解する。リンスの全体主義論・権威主義論を元に、民主政とは言えなくとも一定の政治的多元性が許容されている制度があることを理解する。現代の権威主義体制の3分類法(軍・議会/党・個人)を知り、それぞれの特徴と、特に議会を通じた権威主義体制があることを把握する。そこから、選挙は民主主義の専売特許でもなんでもなく、時には独裁体制の強化につながり民主主義を棄損するだけである場合もあることを理解する。
8. 政治体制の変動について理解する。第3の波に限らず、体制変動はいかにして発生するか幅広いデータを通じて理解する。また、権威主義体制下における体制変動とは必ずしも民主主義体制への変動(民主化)を意味しないことや、民主主義を維持することと民主化を達成することは別であることなどを理解する。ムーアの階級構造理論と、経済発展(6055ドル仮説)・格差との関連性についての基礎的な実証分析を理解の補助線とする。
9. 独裁制と民主政を理解したうえで、そもそも民主主義という意味決定手続きがいかにして正当化できるか複数の理論を知る。特に、最大多数最大幸福原理とコンドルセ陪審定理(CJT)について学ぶ。最大多数の最大幸福に基づく正当化は容易に多数派の暴政につながりうること、結果合理性の議論としてはCJTが重要な発想である(一方批判もある)ことを理解する。ただし民主政の維持という観点から見た際、選挙結果の不確実性/戦略性こそが重要だとする議論もあることを紹介する。
10. 民主政下の下位分類としての執政制度について理解する。執政長官をいかにして選ぶかという制度が極めて重要であることを知り、大分類として大統領制と議院内閣制について理解する。この際、日本の教科書的な三権分立の理解には不都合もあることを学ぶ。両執政制度に当てはまらない、半大統領制や首相公選制についても理解する。執政制度の差異は民主主義の維持との関連で非常に激しい議論があり、日本の中央政治と地方政治の理解にも重要であることを把握する。
11. 民主政下の下位分類としての選挙制度について理解する。選挙制度を分類する方法としては、特に定数と議席変換方式が重要であり、多数代表性=小選挙区制と比例代表制=複数選挙区制の基礎的な制度設計ないし制度効果について理解する。実際の選挙結果などをもとにその効果について確認する。特に日本の選挙と民主主義を考える上では、多数代表性&複数選挙区制(いわゆる中選挙区制)の効果の理解は不可欠であり、その制度がもつ理論的な効果と課題について理解する。
12. 民主政下の下位分類としての多数決型とコンセンサス型について理解する。同じリベラルデモクラシーの諸国の中でも、実際の民主政の運用は多様であり、様々な制度や運用の組み合わせによってバリエーションを示している。これを民主政の二つの理念系とその中間とみるLijphartの民主主義理論を学ぶ。実際のデータなどを通じて、世界の民主政のバリエーションがどのような次元で区別でき、どのような位置に置くことができるのか理解する。
13. 多文化社会における民主政の実現可能性について理解する。多数派の政治的意思に基づき政治的な決定と介入を行う民主政が、多文化社会において抱える困難を理解し、そのうえで、現実にも多民族国家でありながら民主政を維持してきた国々の観察から生まれた、コンソシエーション(多極共存型)デモクラシー理論を事例とともに習得する。他方で、本理論も多文化社会の権力分有としては万能ではなく、オルタナティブな議論もあることを理解する。
14. 情報通信技術の発展と民主主義の関連性について考える。広義のE-デモクラシーのうち、主に3つの課題について理解する。1つ目は特にSNSの発展が現在そして未来の民主主義に与える影響であり、楽観論と悲観論の双方を理解する。2つ目はインターネット投票であり、先行事例としてのエストニアの状況の解説とその問題点、日本や世界の状況について知る。3つ目はいわゆるAIと民主主義の問題であり、古典的なテクノロジーと民主主義の緊張関係の延長としてこの問題をとらえる視点を涵養する。

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

15. ここまでの授業の整理として各授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など、イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回(に相当する回)を用いて、調整を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

各授業後の小テスト/アンケート：40%

期末試験：60%

小アンケート回答なし+期末試験未受験の場合、評価不能「一」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示するので、復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、自習にあつては本シラバスも参考にすること(大事なキーワード類はすべて本シラバスに記入済である)

各回授業後に、その授業の振り返りもしくは次回授業の予習となる、1・2問の簡単な小テストもしくはアンケートを出す。これに回答すること。

なお、事前事後学習とは単に座学に限られない。本講義で学習した知見をもとに、現実に自らが生まれたり住んでいる国や地方の政治について考えたり、受講者同士で議論を交わしたり、関連するTV報道・新聞記事・ネットメディア報道などを購読して自分なりの意見形成をすることが、きわめて重要な事前事後学習となる。

履修上の注意 /Remarks

前期と後期で内容は(時事争点への言及を除き)同じである。自らの履修計画に沿って対応されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ゆえ込み入った法学・政治学の知識は必要ない(それがない人を想定して授業を行う)。ただし、高校卒業程度の英語・世界史の知見は必要である。

キーワード /Keywords

SDG5, SDG16

社会哲学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR110F			◎		
科目名	社会哲学入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

社会哲学とは、平たく言えば、「社会って何なの？」に答える学問です。哲学の一つのヴァリエーションです。西洋の哲学は、2500年以上も前に始まったと言われます。そのあいだに、社会の形もさまざまに変化してきました。今日の社会は、大戦以前の社会とは違いますよね。社会の変化に応じて、哲学が提示する答え（理論）も変化してきました。それでは、これまでにはどんな社会があり、哲学はそれをどのように説明してきたのでしょうか？この問いを考えていくのが本講義です。

今年度は、まずは、社会の構成要素である「人間」と「共同体」を、西洋哲学の歴史を辿りつつ考えます。これは基礎編ですね。次に、現代に目を移し、現代に特有の社会的な事象とそれに答える哲学的理論（ジェンダー論、フェミニズム論、優生思想、正義論など）を見ていき、私たちが直面する社会のあり方とそこに潜む問題を考察します。こっちは、応用編です。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》哲学的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ ○プラトン『国家』(上下), 岩波文庫
- ・ 重田園江『社会契約論 ホッブズ、ヒューム、ルソー、ロールズ』, ちくま新書
- ・ S. サリー『ジュディス・バトラー』, 青土社
- ・ 米本昌平『優生学と人間社会』, 講談社現代新書
- ・ ○植村邦彦『市民社会とは何か 基本概念の系譜』, 平凡社新書
- ・ 神島裕子『正義とは何か』, 中公新書

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

社会哲学入門 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン：哲学って何？
- 第2回 【古代】人間って何？①：（プラトン、アリストテレス）
- 第3回 【古代】共同体って何？①：（プラトン、アリストテレス）
- 第4回 【中世】人間って何？②：（アウグスティヌス）
- 第5回 【中世】共同体って何？②：（アウグスティヌス）
- 第6回 【近代】共同体って何？③：（ホッブス、ロック、ルソー）
- 第7回 【近代】人間って何？③：（カント）
- 第8回 【近代】資本主義って何？（マルクス）
- 第9回 【現代】公共性って何？（ハーバーマス）
- 第10回 【現代】正義って何？（ロールズ）
- 第11回 【現代】ケアって何？
- 第12回 【現代】優生思想って何？
- 第13回 【現代】フェミニズムって何？
- 第14回 【現代】ジェンダーって何？
- 第15回 確認テスト

*（ ）の中は、その回に扱う主な思想家ですが、それ以外の思想家も扱います。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の小テスト 65%
- ・ 確認テスト 35%

* 小テストを4回欠席した場合は、評価不能（ - ）となります。
* 確認テストを受験しない場合も、評価不能（ - ）となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、小テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクション（導入）ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります（今までそうでしたので）。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学、社会哲学

文化を読む【昼】

担当者名 /Instructor 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科, 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科
生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科, 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター
佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT001F			◎		○
科目名	文化を読む		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

文化を研究するうえで、解釈する＝読む行為は、分野をこえる基本的な営みである。本講義では、さまざまな人間の表現をとりあげて、人文的な知見からどのようにそれが読み解けるのかを示していく。表象研究、宗教研究、異文化間教育、文学研究といった専門的知見から、その基本的な知識と方法を提示してみたい。“いま”、“ここ”にいる“わたし”にとって、異文化は時空をこえてひろがっている。そのことに鋭敏になるための気づきを用意するので、受講者は文化を読み解く柔軟な視点・姿勢を獲得してほしい。

◎表象

人間は情報を共有するために様々なメディアを通じた表現活動をおこなう。本講義ではそれを、表象(representation)とよび、理解と誤解の源泉として位置付けてみよう。本講義では、イメージとして生み出される表象をとりあげて、歴史社会的な文脈のなかで読み解いてみたい。

◎宗教

宗教は文化の重要な構成要素であり、人間社会の価値観と密接な関係にある。我々にとってなじみ深い神道を取り上げ、他宗教との比較の観点を交えながらわかりやすく講義したい。

◎異文化間教育

文化というもの、見える文化と見えない文化があり、本人が自覚しにくい見えない文化に気づくことが異文化理解の始まりである。異文化の理解があつてはじめて、外国語のコミュニケーション能力が育つ。

◎日本近現代文学および出版文化

日本の文学・出版物とはいえ、読めばわかるというものではない。明治・大正・昭和時代ともなれば、もはや異文化である。同時代の文化について学びながらテキストと対話する基本姿勢を身につけてもらいたい。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】文化について多様な考え方を理解し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

特定のテキストは使用しない。授業担当者が必要に応じて資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が適宜指示する。

文化を読む【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 表象概念の説明
- 第3回 表象を読む①描かれた〈日本人〉-明治期風刺画をとりあげて-
- 第4回 表象を読む②描かれた〈日本人〉-ジャポニズムの流行をとりあげて-
- 第5回 表象を読む③演じられた〈日本人〉-オペラ『蝶々夫人』をとりあげて-
- 第6回 異文化を理解することは可能なか？(見えない文化と価値観)
- 第7回 バイリンガルはうらやましい？(「移動する子ども」のライフストーリー)
- 第8回 異文化トレーニング(他者との出会いを捉え直す)
- 第9回 神社の成立① 神社建築成立以前の神社
- 第10回 神社の成立② 神社の成立年代
- 第11回 日本の神 -神教との比較を通して
- 第12回 罪・戒律・禁忌
- 第13回 エー「陽だまりの詩」の解釈
- 第14回 幕末・明治の出版物(西南戦争風刺画を知る)
- 第15回 幕末・明治の出版物(西南戦争風刺画を読み解く)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート=100%(表象、宗教、異文化間教育、文学に関する4つのレポートすべてを提出しなければ、評定不可で成績は「-」とする)
各回において、課題コメントの提出によって出席(視聴)を確認する。提出状況は成績に加味される。なお、成績評価の方法、レポート・課題の提出方法については、担当教員ごとに注意事項など指示が出されることがあるので、それにしたがうこと。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習については、授業担当者が講義中に指示する。
事後学習は、各回の授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

本講義は録画オンデマンドによる遠隔授業を予定している。講義回によっては、講義方法が変更される場合があるが、その際にはmoodleにて告知する。
修正登録による受講者は、必ずさかのぼって講義を視聴してコメントを提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修等に関する質問は、コーディネーターの河内までメールで質問すること。
講義内容に関する質問は、各回の授業担当教員に質問すること。

キーワード /Keywords

表象、メディア、宗教、異文化、日本近現代文学

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 真武 真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR006F			◎		○
科目名	芸術と人間		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

20世紀後半から現在まで、生き存在し活躍する芸術家の人物像に焦点をあて、その活動する時代背景や社会との関係性を浮かび上がらせる。また美術の歴史の中での位置を確認し、同様の主題によって広がる同時代の動きにつなげてみる。毎回一人のアーティストを選び、作品や展覧会活動を追って紹介しながら、美術一般や現代社会との関係を探り、表現の原動力となるものを考察する。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代社会と芸術の関係性について多様な考え方を理解し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで...世界と日本の現代美術用語集」
美術手帖編集部 美術出版社 2009
- 「現代美術史日本篇 1945-2014」著・中ザワヒデキ アートダイバー 2014
- 「アート・パワー」現代企画室 ボリス・グロイス著 石田圭子ほか訳 2017
- 「現代アートとは何か」河出書房新社 2018年 著・小崎哲哉

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 浜田知明 戦争の目撃者 戦争画と現代美術における反戦・反原発主題の作家と作品
2. ボルトンスキー「暗闇のレッスン」で生と死を見つめる
3. ジャン・デュビュッフェ ART BRUTの世界を開いて
4. 寺山修司 劇的想像力について
5. 高松次郎 存在/不在を見つめる芸術表現
6. フランク・ステラ ミニマルからプロジェクトまで
7. ロバート・スミッソン 大地の改造計画
8. 青木野枝 鉄と生きる 鉄と遊ぶ 彫刻のあり方いろいろ
9. ソフィー・カル フィクションとしての写真
10. 白川昌生 生涯にわたるマイナーとして
11. 山口啓介 原発に抗する
12. ヤノベケンジ 失われた遊園地
13. ナデガタ・インスタント・パーティ 人々を巻込むプロジェクト
14. 会田誠 道程
15. Chim↑pom 世界を公共空間として認識すること

芸術と人間【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(2回)・・・50% 毎回moodle上で課題をあげます。15回のうち2回分を選んで回答を送ってください。
レポート・・・40% 13-14回目の授業動画とmoodle アナウンスメントで出題します。学内メール添付で提出してください。
日常の授業への取り組み(出欠、提出物の形式が的確かどうか)・・・10%
課題2回とレポートの提出がそろって評価可能となります。提出ゼロは評価不能、課題のみ、レポートのみではD評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1)自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
- (2)随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したか、また、展開させたいか、を問うものである。
近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

キーワード /Keywords

アートと社会、反戦・反原発、プライベート/パブリック、プロジェクト

現代正義論 【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR003F			◎		
科目名	現代正義論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代社会における正義の問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

(遠隔授業)

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想 第2版』（ミネルヴァ書房、2015年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

現代正義論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ～ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ～ 本講義の概観
- [第3回～第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ～ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ～ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ～ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ～ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ～ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ～ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ～ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ～ ノージックのリパタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ～ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ～ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ～ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ～ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

SDGs10. 不平等をなくす SDGs16. 平和と公正 ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

情報表現【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF230F		○	◎	○	
科目名	情報表現		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、自分自身が伝えたい情報を表現すると共に、他者が表現した情報を理解するための知識や技術等を習得することである。現代社会では、多様な人々と協力して、目標を達成するための力が求められている。自分の想いを一方的に伝えるだけでなく、他者の存在を意識して表現することが重要である。また、他者の意見を丁寧に聞き、その想いや立場を理解して、協調しながら物事を進めていく能力も大切である。このため、本授業では、個人ワークやグループワークなどを行いながら、以下の3点の習得を目指す。

- ・プレゼンテーションやロジカルシンキング、スライドデザインなどに関する学びや疑問などを具体的に表現することができる。
- ・プレゼンテーションソフトを活用して、伝えたい情報を分かりやすく表現することができる。
- ・相手に伝わりやすい表現を用いて、積極的に発表することができる。

(到達目標)

【技能】情報を適切に発信する技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 話し方や書き方1【要約】
- 3回 話し方や書き方2【PREP】
- 4回 考え方：ロジカルシンキング1【課題発見】
- 5回 考え方：ロジカルシンキング2【原因分析】
- 6回 プレゼンテーション1【Power Point】
- 7回 プレゼンテーション2【発表】
- 8回 情報の収集【検索】【信頼性】【ドメイン名】
- 9回 情報の整理【プロット】【ストーリー】
- 10回 情報の表現1【デザイン】【レイアウト】
- 11回 情報の表現2【スライド作成】
- 12回 情報の発信1【発表練習】
- 13回 情報の発信2【発表】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーションソフトPowerPointを用いた課題提出... 40%

積極的な授業への参加(グループワークや発表、振り返りレポートなどを含む)... 60%

課題や振り返りレポートなどの提出が全くない場合は、評価不能(－)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に、それまでの授業内容について振り返っておくこと。授業終了後には、学んだことをノートにまとめて、課題や振り返りレポートなどを提出条件に従って締め切りまでに間に合うように提出すること。課題は、プレゼンテーションソフトを用いて実施するものもある。

情報表現【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を受講する場合は、「アカデミック・スキルズ」を履修しておくことが望ましい。
授業中に、グループワークや発表などを行ってもらおう。グループワークを行う際のグループ分けについては、その都度、授業中に説明する。自由に組んでもらう場合もあれば、指定する場合もある。何れの場合も相手の立場を尊重して、建設的なグループワークを行って欲しい。
授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性がある。詳細は、授業中に説明する。なお、受講希望者多数の場合、受講者数調整を実施し、受講可能な学生を決定する。詳細は、授業開始前に掲示にて説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、振り返りレポートを提出してもらい、受講生の質問や意見を反映させながら、授業を展開する。このため、積極的に授業に参加して欲しい。また、実際にコンピュータを操作して作成する課題もある。その際には、授業時間外にパソコン自習室や自宅のパソコンなどで積極的に取り組むこと。受講生の理解度に応じて、授業計画や授業内容を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、スライドデザイン

倫理思想史 【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR005F			◎		
科目名	倫理思想史		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

倫理学って何でしょうか？倫理学とは、私たちが行為する際の規範や義務、行為の指標となる善悪の指針、あるいは、振る舞いのために身に着けるべき性格などを探究する学問です。みなさんは大切な約束をやぶり罪悪感を覚えたことがあるでしょうか。なぜ約束をやぶることは悪いのか（あるいは、なぜ約束を守るべきなのか）、倫理学はそんな問いに答えようとしています。

倫理学の始まりは、古代ギリシアにあると言われ、その後も西洋を中心に発展してきた学問で、約2500年もの歴史があります。本講義では、その歴史を踏まえた上で、基礎的な倫理学を、いくつかの種類（義務論、功利主義、徳倫理学、メタ倫理学）に分類して紹介します。つづいて、現代社会において私たちが直面している倫理的（道徳的）問題を考察する応用倫理学を紹介します。応用の倫理学は、そのまま「応用倫理学」と呼ばれ、安楽死/尊厳死、中絶、環境破壊、ケアの問題などのより身近な問題を扱います。さまざまな行為の原理を知ってもらい、より善い人生を歩む糧にさせていただくことが、本講義の目的となります。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》倫理思想史における課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 柘植尚則編『入門・倫理学の歴史 24人の思想家』, 梓出版社
- ・ 柘植尚則『プレップ倫理学』, 弘文堂
- ・ ○中島義道『悪について』, 岩波新書
- ・ 品川哲彦『倫理学入門-アリストテレスから生殖技術、AIまで』, 中公新書
- ・ 見玉聡『実践・倫理学: 現代の問題を考えるために』, 勁草書房

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

倫理思想史【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 【基礎】倫理学って何？
- 第3回 【基礎】義務論って何？(カント)
- 第4回 【基礎】功利主義って何？(ベンタム、ミル)
- 第5回 【基礎】徳倫理学って何？(プラトン、アリストテレス、マツキンタイア)
- 第6回 【基礎】メタ倫理学って何？
- 第7回 【確認テスト①】
- 第8回 【応用】討議倫理学って何？(ハーバーマス)
- 第9回 【応用】生命医療倫理学って何？①
- 第10回 【応用】生命医療倫理学って何？②
- 第11回 【応用】環境倫理学って何？(ネス)
- 第12回 【応用】動物倫理学って何？(シンガー、レーガン)
- 第13回 【応用】ケアの倫理って何？(ギリガン、キテイ)
- 第14回 【応用】情報倫理学って何？
- 第15回 【確認テスト②】

* ()の中は、その回に扱う主な思想家です。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 確認テスト① 50%
- ・ 確認テスト② 50%

* いずれかの確認テストを受験しなかった場合は、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクション(導入)ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります(今までそうでしたので)。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学

言語・認知・コミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
木山 直毅 / Naoki KIYAMA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN210F			◎		
科目名	言語・認知・コミュニケーション				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に生成文法理論と認知言語学)、認知科学、心理学、生物学の側面から学際的に考えていきます。

(到達目標)

DP3 思考・判断・表現力

言語と認知、コミュニケーションの課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

(授業形態)

メディア授業（学習マネジメントシステムMoodleによる遠隔授業（オンデマンド））

受講に必要な機器：パーソナルコンピューター、インターネット接続・通信に必要な環境（WiFi、光ファイバー等）

教科書 /Textbooks

Moodle上の配布資料

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序・授業の進め方・担当者紹介（漆原・全員）
- 第2回 ことばはどのように身につけられるのか（言語習得）（漆原）
- 第3回 ことばはどのように処理されるのか（言語脳内処理・失文法）（漆原）
- 第4回 コミュニケーション行動の初期発達過程（税田）
- 第5回 発達の障害とコミュニケーション（税田）
- 第6回 コミュニケーションにおける発達支援（税田）
- 第7回 脳と心のなりたち（脳のはたらきを支配する遺伝子）（日高）
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか（言語と遺伝子）（日高）
- 第9回 ヒューマンエラー（松田）
- 第10回 アフォーダンスとシグニファイアー（松田）
- 第11回 モノの見方と言語表現（認知意味論）（木山）
- 第12回 比喩は文学表現か（メタファー）（木山）
- 第13回 文は語彙の足し算か（構文文法論）（木山）
- 第14回 ことばとジェンダー（漆原）
- 第15回 まとめ：担当者からの課題の講評など（全員）

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% （最終）課題 16% x 5 = 80%

すべての教員の（最終）課題を提出しない限り評価不能（－）となります。
なお、各回の確認クイズ・小課題が最終課題に含まれるかどうかは各担当教員によって異なります。
各担当教員の説明にしたがってください。

言語・認知・コミュニケーション【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：担当教員あるいはコーディネーターが指示した文献等の講読
事後学習：担当教員ごとの確認クイズ・小課題・レポート等の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。
* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS210F	○		◎		○
科目名	戦争論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

人類の歴史にとり、戦争とは何なのかを深く考えるのがテーマです。戦争形態の変化を歴史の進行に沿って考察していきます。

コロナ対応で、完全に動画配信となります。退屈にならないよう、動画作成に当たって、しっかりと編集カットを行い、BGM、テロップ付きのYouTube仕様で配信するつもりです。(シミュールです。)

到達目標

- 【知識】人間と戦争との関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】人間と戦争との関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回45~60分程度(予定)の動画を視聴してもらいます。以下、昨年度に配信した動画タイトルのリストです。今年度は、多少整理したり、よりパワーアップした新作も作りたいです(できれば)。

- 1 ガイダンス / 戦争から何を学ぶのか
- 2 ホモサピエンスと戦争の起源その1(サルからヒトへ)
- 3 ホモサピエンスと戦争の起源その2(ネアンデルタール人、文明化、戦いの始まり)
- 4 「戦争」の始まり(国家の誕生と絶対主義)
- 5 フランス革命と近代戦
- 6 ナショナリズムの時代と戦争
- 7 厭戦感情と世界大戦
- 8 総力化した戦争
- 9 総力化した戦争その2(塹壕戦の恐怖)
- 10 イデオロギー、プロパガンダ、戦争
- 11 アメリカ的戦争観の影響
- 12 全面化した戦争
- 13 企画動画
- 14 原爆開発と投下
- 15 核兵器と抑止

成績評価の方法 /Assessment Method

1~3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行う。
小テスト(6回)100%、ただし、小テスト実施回数は若干前後する可能性がある。

※小テストを一度も受験していない場合、もしくはその総合得点が0点の場合、「評価不能(-)」となります。

戦争論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので質問はそちらに書き込んでください。また動画のコメント欄に書き込むこともできます。

頻繁に小テストがあるので、動画を何度も見てもらえると事後学習になりますし、勝手に授業とは関係なく「関連動画」が表示されますので、それも参考にしてください。

履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、動画内容を工夫したいと思います。

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ANT110F	○		○	◎	
科目名	異文化理解の基礎		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではごくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかり学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

毎回、受講者から事前に提出された課題から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入として広義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既存概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身につける手掛かりを学んでほしい。

なお、本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。受講にあたっては、基本的なPC操作環境が整っていることが望ましいです。

（到達目標）

【知識】異文化を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】異文化理解に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、異文化理解に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画（有料動画の場合もあります）を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書も用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己（編）2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか（編）2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 家族観の変容

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 文化相対主義の考え方

第8回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第9回 レポートの書き方と課題レポート①の説明

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼と世界観

第11回 さまざまな信仰心

第12回 宗教と近代化

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 政教分離と世俗化

第15回 課題レポート①の解説と課題レポート②の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート(2回)60%、毎回の授業課題 40%

※毎回の授業課題は、提出時期や授業への貢献によって得点が変わります。

※一度も課題提出がない場合は評価不能(一)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 毎回何らかの予習・復習のための課題があります。計画的に取り組みましょう。
- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)などの関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 詳しい評価方法や電子書籍の閲覧方法などは第一回の講義で説明します。
- ・ 提出課題において剽窃などの不正が発覚した場合、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ オンデマンド配信となので、時間割通りに受講する必要はありません。ですが、毎週課題があり、その課題は提出時期によって満点が異なります。計画的に受講しましょう。
- ・ 本講義で養われる「コミュニケーション能力」は、今後の実践の機会に向けた考え方を身に着けることを目指しています。授業では、記述を通じたコミュニケーションを実践する機会がありますが、発話を通じた実践機会はないので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

〇〇人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、必要な時に努力すればおそらく入手できます。この授業では、文化が異なるとはそもそもどういうことかについて、もっと根本に立ち戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなた個人の特性を理解しようとする人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、社会関係、SDGs10 不平等をなくす

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOC004F			○	◎	○
科目名	人権論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

「人権問題」といえば特別なものというイメージを抱くかもしれないが、実際には誰にとっても非常に身近なものであって、「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無自覚的に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では「人権」についての基本的な概念や現存する人権問題、その社会的背景を考察した上で、自分にとっての人権とは何か、我々の社会が抱える人権問題とは何かについて共に考えていきたい。

(目標)

【思考・判断・表現力】人権に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につける。

【コミュニケーション力】他者と協同して、人権に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につける。

【自立的行動力】人権に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有する。

※本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は自宅・大学などからインターネットを接続して、自身のPCやスマートフォンで、(または大学のPC自習室でイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められる。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』(横田耕一著/(公社)福岡県人権研究所発行 ¥1000)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」 オリエンテーション / 自分と人権との関わりを考える。
- 2 「人権とは何か」 人権とは何かについて解説する。
- 3 「人権獲得の歴史」 人権獲得の歴史について近代革命を中心に解説する。
- 4 「世界人権宣言と人権条約」 世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
- 5 「平和と人権」 戦争・平和についての解説。
- 6 「ハンセン病について」 ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の状況を解説する。
- 7 「教育と人権～識字問題」 読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
- 8 「教育と人権～夜間中学」 教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
- 9 「部落問題について」 現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
- 10 「部落問題について」 当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
- 11 「在日外国人と人権課題」 在日外国人の現状と人権課題を解説する。
- 12 「在日コリアンについて」 在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
- 13 「障害者と人権」 障害者の立場からみる人権課題を知る。
- 14 「アジアの人権状況」 アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 15 「まとめ」 現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。

※5～14については、状況により順序が入れ替わる場合あり。

人権論【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業に取り組む姿勢（毎回の課題）【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。
- ・ 出席率（課題提出）7割以上の学生のみ前期末試験の受験（またはレポート提出）を認める。
- ・ 出席が7割に満たない場合の評価は（D）、5割に満たない場合は評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 講義配信後、毎回の課題提出有り、締め切りは厳守のこと
- ・ 教科書及び配布資料は熟読すること。
- ・ 新聞、テレビ、ネットなどを通して、私たちの社会で起きている様々な人権問題に関心を持ち、毎回のコメント用紙に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

代筆などを含む不正行為を行った場合は、即座に出席が停止され、単位取得は不可となる。
7割以上の出席が満たされない場合は、単位が取得できない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。
コロナの影響で、昨年に引き続きオンデマンドで講義を行います。何度でも視聴できるなど、オンデマンドの利点をいかして、講義にのぞんで欲しい。質問や問い合わせには個人メールで常時対応します。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」
「SDGs 4 質の高い教育を」「SDGs 10 不平等をなくす」「SDGs 16 平和と公正」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GEN001F			○	◎	○
科目名	ジェンダー論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

「女性はわかまえていべき」、「男性は強くあるべき」、こんな言葉をどこかで耳にしたことはありませんか。みなさんの性自認がどうであれ、これを聞いて、納得した人もいられるかもしれませんし、違和感を覚えた人もいられるでしょう。しかし、どうして納得したり、違和感を覚えたりするのでしょうか。それは、私たちはだれもが、「女性はこういうものだ」「男性はこういうものだ」という性差、知識や規範、すなわち「ジェンダー」を意識しているからです。

本講義では、このジェンダーが何なのかを、思想、歴史、政治、社会運動などとの関係から理解することを目指します。そのなかで、多様な理解を得るためや、現状を知るために、ジェンダー平等やLGBTQをめぐる第一線で活躍する有識者や運動家へのインタビューも行います。

この講義は、遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

《思考・判断・表現力》ジェンダーに関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

《コミュニケーション力》他者と協働して、ジェンダーに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

《自立的行動力》ジェンダーに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中村敏子『女性差別はどう作られてきたか』、集英社新書、2021
- 西井開『『非モテ』からはじめる男性学』、集英社新書、2021
- 森山至貴『LGBTを読みとく：クィア・スタディーズ入門』、ちくま新書、2017
- 千田 有紀ら『ジェンダー論をつかむ』、有斐閣、2013

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション：ジェンダーって何？
- 第2回 ジェンダー規範①：近代国家と家長制
- 第3回 ジェンダー規範②：家族と母性
- 第4回 フェミニズムの変遷
- 第5回 ライフプラン教育と性の管理
- 第6回 ジェンダー規範③：新しいジェンダー規範、モテ
- 第7回 ポストフェミニズムと女子力：
- 第8回 ジェンダー規範④：男らしさ、非モテ
- 第9回 確認テスト①
- 第10回 ジェンダーとセックス
- 第11回 セクシャルマイノリティ
- 第12回 ジェンダーとセクシャリティ：排除の構造
- 第13回 セクシャルマイノリティの排除の実例と包摂の試み
- 第14回 トランスジェンダーバッシング
- 第15回 確認テスト②

ジェンダー論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
共生と協働科目

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 確認テスト① 50%
- ・ 確認テスト② 50%

* いずれかの確認テストを受験しなかった場合は、評価不能 (-) となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクション (導入) ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります (今までそうでしたので)。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。

キーワード /Keywords

ジェンダー、フェミニズム、LGBT、SDG 5. ジェンダー平等、SDG 10. 不平等をなくす

サービスラーニング入門I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR110F	○			◎	○
科目名	サービスラーニング入門I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義は、地域貢献活動（ボランティア活動）に参加するための入門科目として、以下の点を目的としています。

- ・ サービス・ラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービス・ラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動の実践と学び

また、この講義が目指す到達目標は以下のとおりです

- 【知識】 サービス・ラーニングを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【コミュニケーション力】 社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。
- 【自立的行動力】 地域貢献活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

地域貢献活動の経験を自らの学びや成長につなげていくための授業となります。
関心を持たれた方は受講されて下さい。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 サービス・ラーニングの考え方
- 第3回 サービス・ラーニングとボランティア
- 第4回 サービス・ラーニングを行う理由
- 第5回 サービス・ラーニングとしての地域貢献活動（事例紹介）
- 第6回 サービス・ラーニングを通じた自己の学びと成長（先輩登壇）
- 第7回 サービス・ラーニングと地域の変化
- 第8回 これからの社会とサービス・ラーニング
- 第9回 日本における社会貢献活動の歴史
- 第10回 経験学習について
- 第11回 サービス・ラーニングの実践に向けて
- 第12回 良き市民としてのサービス・ラーニング
- 第13回 受講生による実践報告（1）
- 第14回 受講生による実践報告（2）
- 第15回 まとめ

サービスラーニング入門I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」(55%) + 「授業内での小テスト+授業への取り組み」(45%) = 合計100%評価

第一回講義のレポートを未提出の方は評価不能(-)とします。
また、実際の地域活動に参加されなかった場合も評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。
講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題(関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー)を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください(自習時間の目安は60分程度)。
受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は受講者による「サービス・ラーニング」への参加(ボランティア活動の実施)を前提としています。受講生は、自ら「サービス・ラーニング」(ボランティア)を受け入れてくれる団体を探し、受け入れの交渉を行ない、その後、実際に活動をしてもらいます。このような意味から、本講義では受講者の積極性や自発性を必要とします。そのため、授業の第一回目に、本科目を受講する理由や学びに向けた思いなどを「事前レポート」(1500字程度)として書いてもらい、それを第二回目の授業の際に提出してもらいます。このレポートの提出は単位取得のための必須条件としています。このように本科目では受講生の積極的な参加意欲が必要となりますので、履修の際はご留意下さい。

さらに本講義では、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査や面談のためのアポイント、学習計画書の作成や実習に向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことが必要になります。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は第二学期開講の「サービス・ラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

SDGsとの関連について

4. 質の高い教育を 10. 不平等をなくす 16. 平和と公正 17. パートナーシップ

サービスラーニング入門Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR180F	○			◎	○
科目名	サービスラーニング入門Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業の目的は、受講生が実際に地域活動に参加し、その実践をふりかえることでより深い学びを得るところにあります。授業では、各学生が自らの参加が参加した「サービスラーニング」の活動内容とそこでの学びを報告し合い、互いの議論を通じて、学習と理解を深めていきます。この授業を通じて多くの学びと気づきを得られることを期待します。

(到達目標)

- 【知識】 サービスラーニングを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【コミュニケーション力】 社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。
- 【自立的行動力】 地域貢献活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ガイダンス
- サービス・ラーニング概論①(サービスラーニングの理論枠組み)
- サービス・ラーニング概論②(実践としてのサービスラーニングについて)
- サービス・ラーニングの実践と学び①(受入先の探索)
- サービス・ラーニングの実践と学び②(実践にむけての心構えと準備)
- サービス・ラーニングの実践に向けて①(実習先での学習計画の作成・提出)
- サービス・ラーニングの実践に向けて②(学習計画書の修正・提出)
- 計画発表会①
- 計画発表会②
- 実践報告①
- 実践報告②
- 実践報告③
- 実践報告④
- 受講生による振り返り
- まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」(55%) + 「授業内での小テスト+授業への取り組み」(45%) = 合計100点評価

第一回講義のレポートを未提出の方は評価不能(-)とします。
また、実際の地域活動に参加できなかった場合も評価不能(-)となります。

サービスラーニング入門II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題（関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー）を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください（自習時間の目安は60分程度）。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は、前期の「サービス・ラーニング入門I」と連動しています。そのため講義内容も「サービス・ラーニング入門I」を履修した学生を対象にしたものとなります。ですので、受講希望者は、原則、1学期の「サービス・ラーニング入門I」を履修してから本科目を登録するようにしてください。「サービス・ラーニング入門I」の単位を取得していない学生の履修を認めないわけではありませんが、上述のように「サービス・ラーニング入門I」の内容を踏まえた講義になりますので、「サービス・ラーニング入門II」から履修しようとする学生に対しては、授業のはじめに別途課題を課します。そして、その課題+「サービス・ラーニング入門IIの課題」の両方を提出して、初めて単位を認めるかたちとします。以上の点を十分に留意し履修登録して下さい。

また本講義は、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査やアポイント、学習計画書の作成、実習に向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「サービス・ラーニング入門I」で得られた学びをより深めていくことを目的としています。社会への貢献活動を通じて多くの学びと喜びを得てください。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び、ピアディスカッション

SDGsとの関連について

4. 質の高い教育を 10. 不平等をなくす 16. 平和と公正 17. パートナーシップ

市民活動論 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE001F	○			◎	○
科目名	市民活動論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしなが授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。

「SDGs」の目標の中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

（到達目標）

【知識】市民活動を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション】他者と協働して、市民活動に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【行動力】市民活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 50%
期末試験... 50%

最終レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合があります。その際の積極的な参加が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

地域福祉論 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW011F	○			◎	○
科目名	地域福祉論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

- ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂 等を含む）について理解する。
- ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。
- ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

（到達目標）

【知識】 地域福祉を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション力】 他者と協働して、地域福祉に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】 地域福祉に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

坂本毅啓（2022）『地方の地域福祉論』大学教育出版、2,800円＋税（予定価格）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○志賀信夫・ 畠中亨（2016）『地方都市から子どもの貧困をなくす 市民・行政の今とこれから』旬報社 1,400円＋税

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座6 地域福祉と包括的支援体制』中央法規 2,900円＋税

○難波利光・ 坂本毅啓編（2017）『雇用創出と地域-地域経済・福祉・国際視点からのアプローチ-』大学教育出版 2,400円＋税

その他、適宜授業中に紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域福祉の基本的考え方と理念【構造的アプローチ、機能的アプローチ】
- 2回 地域福祉の発展過程1【セツルメント運動、シーボーム報告、グリフィス報告】
- 3回 地域福祉の発展過程2【高齢化、社会福祉八法改正、非貨幣的ニード】
- 4回 地域福祉の理念【人権尊重、社会連帯】
- 5回 地域福祉の理念【ノーマライゼーション、福祉コミュニティ】
- 6回 地域包括ケアと地域共生社会【地域包括ケア、多機関協働、生活困窮者自立支援】
- 7回 地域のとらえ方と福祉圏域【コミュニティ、圏域、アソシエーション】
- 8回 コミュニティソーシャルワークの考え方【チームアプローチ、ニーズ】
- 9回 コミュニティソーシャルワークの方法【地域福祉計画、ケアマネジメント】
- 10回 貧困と地域福祉活動【社会福祉協議会、貧困の連鎖】
- 11回 障害者と地域福祉活動【総合支援法、成年後見制度、QOL】
- 12回 高齢者と地域福祉活動【地域包括支援センター、民生委員、社会福祉法人】
- 13回 女性と地域福祉活動【子育て支援、一人親家庭】
- 14回 子どもと地域福祉活動【児童館、保護司】
- 15回 災害と地域福祉活動【非常時や災害時における法制度、福祉避難所、災害ボランティア】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に指示する課題の提出及び中間試験・・・40% 期末試験・・・60%

期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、教科書や参考文献の講義内容に関する箇所を読み込んだり、関連する情報の収集などを行って下さい。
事後学習としては、講義で学んだことを通して、自分の住んでいる地域について調べたり、新聞等の記事に書かれている地域福祉に関するニュースについて調べて考察をしてください。授業中に課題が出た場合は、必ず取り組むようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

この科目は、基盤教育科目として開講される科目ですが、地域創生学群において社会福祉士養成課程における科目「地域福祉の理論と方法」に含まれる科目のひとつ（もうひとつは地域創生学群専門科目の「コミュニティワーク論」）でもあります。2019年度以降の地域創生学群入学生で、社会福祉士国家試験受験資格取得を希望される場合は、この科目の履修が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これからも地域で生活をしていくための教養として、「福祉のまちづくり」について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

SDGs1.貧困をなくそう、SDGs3.健康と福祉を、SDGs4.不平等をなくす、SDGs11.まちづくり、福祉のまちづくり、少子高齢化、子どもの貧困、コミュニティソーシャルワーク、社会福祉士

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW001F	○		○	◎	
科目名	障がい学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、具体的には発達障害である自閉スペクトラム症（障害）を取り上げながら、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。
障害をテーマとした映画等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。

(到達目標)

【知識】障がいについての様々な捉え方を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】障がいの捉え方に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、障がいに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障害」に対するイメージ【障害イメージ】
- 第3回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉スペクトラム症（障害）とは①自閉症の特性【自閉症】
- 第6回：自閉スペクトラム症（障害）とは②自閉症観の変遷【自閉症】
- 第7回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法①構造化の意味【構造化】
- 第8回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法②コミュニケーション支援【コミュニケーション】
- 第9回：合理的配慮とは【合理的配慮】
- 第10回：文化モデル的作品DVDの視聴①前半【文化モデル的作品】
- 第11回：文化モデル的作品DVDの視聴②後半【文化モデル的作品】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第13回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第14回：共生社会へ向けての課題、自己への問いとしての障がい学【共生社会】【自己への問い】
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)。
レポートを提出した受講者に対してはS～D評価。未提出者に関しては一評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

障害関連の報道等に常に関心をもって接すること。具体的には、授業で、その都度、支持する。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「3.健康と福祉」「16.平和と公正」「17.パートナーシップ」

共生社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW200F	○		○	◎	
科目名	共生社会論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げの中で、この問題に迫っていきたい。

(到達目標)

【知識】共生社会の成立を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】共生社会の成立に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、共生社会に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因①【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因②【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：共生社会から共活社会へ【共生社会】【共活社会】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)。
レポートを提出した受講者に対してはS~D評価。未提出者に関しては一評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」や「障がい学」を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs 「3 . 健康と福祉」 「16 . 平和と公正」 「17 . パートナーシップ」

基盤演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES201F			○	◎	○
科目名	基盤演習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回（ゴールデンウィーク明けから）招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (戸蒔)
- 2回 日本の防衛と自衛隊 (戸蒔)
- 3回 陸海空自衛隊について (戸蒔)
- 4回 自衛隊の任務、総論 (戸蒔)

5回～14回 自衛官の招聘、各論のレクチャー

現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する予定。

15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 50% レポート... 50%

※3回以上の無断欠席、レポート未提出の場合、いずれも「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。

授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

基盤演習I (防衛セミナー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
共生と協働科目

履修上の注意 /Remarks

上記の注意を必ず守ること。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

※授業の運営方法、評価方法、コロナ対応などについて、初回のガイダンスで詳しく話しますので、履修を希望する人は絶対に出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基盤演習I (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES201F			○	◎	○
科目名	基盤演習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

発達障害に対する理解を深め、支援の在り方について考える。特に自閉スペクトラム症(障害)を取り上げ、演習・グループワーク等もとりまぜながら、共生のあり方を探っていく。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、設定されたテーマに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

その都度指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、評価方法の説明【オリエンテーション】
- 第2回：発達障害とは【発達障害】
- 第3回：自閉スペクトラム症(障害)とは【自閉スペクトラム症】
- 第4回：自閉スペクトラム症の理解・対応に関する歴史の変遷【歴史の変遷】
- 第5回：障害の捉え方【文化モデル】
- 第6回：支援の基本(1) 障害特性の理解【障害特性】
- 第7回：支援の基本(2) 構造化の意味と意義【構造化】
- 第8回：構造化演習【演習】
- 第9回：支援の基本(3) コミュニケーション支援の基本的考え方【コミュニケーション支援】
- 第10回：応用行動分析学的アプローチ【応用行動分析学】
- 第11回：支援の基本(4) 行動問題への対応【行動問題、冰山モデル】
- 第12回：支援の基本(5) 自己認知・理解プログラム【自己認知・理解】
- 第13回：支援の基本(6) 余暇支援、QOLの充実【QOL】
- 第14回：支援計画の立て方【支援計画】
- 第15回：まとめ～共生社会から共活社会へむけて～【共生社会、共活社会】

成績評価の方法 /Assessment Method

議論、演習等における参加(貢献)度30%。
課題への対応70%。
出席が全くない受講者に対しては、一(評価不能)評価とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテーマとなることに関しインターネット等で調べてくる。
事後学習としては、学習内容をその都度まとめてみる。

履修上の注意 /Remarks

1年時に「障がい学」を履修済みであることが望ましい。

基盤演習I (発達障がいセミナー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
共生と協働科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs 「3 . 健康と福祉」 「16 . 平和と公正」 「17 . パートナーシップ」

基盤演習I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES201F			○	◎	○
科目名	基盤演習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度(100%)

3回以上無断欠席した場合は、評価不能(-)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておく必要があります。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

基盤演習II【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES202F			○	◎	○
科目名	基盤演習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業では、ゼミ形式で、ジェンダー論・フェミニズム論に関連する1冊の図書を通読していきます。図書は、研究書レベルのものになります。複数図書の候補を出しますので、参加者の興味関心で初回に決定したいと思います。なお、毎回1200字程度のレジюме作成が必須となり、課題の量が比較的多い授業となりますので、他の授業との兼ね合いを十分考慮したうえで履修してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
《コミュニケーション力》他者と協働して、設定されたテーマに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
《技能》設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

初回のイントロダクションのなかで決定します。
*教科書の価格は～4,000円ほどのものを予定しています。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション①：この授業について、課題図書の決定
- 第2回 イントロダクション②：レジюмеの作り方、進め方
- 第3回 演習
- 第4回 演習
- 第5回 演習
- 第6回 演習
- 第7回 演習
- 第8回 演習
- 第9回 授業の中間まとめ
- 第10回 演習
- 第11回 演習
- 第12回 演習
- 第13回 演習
- 第14回 演習
- 第15回 まとめ：レポートについて

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・各回のレジюме作成 100%
- * レジюмеを4回以上提出しなかった場合は、評価不能 (-) となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・レジюмеの作成
- ・前回範囲の復習

基盤演習II【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
共生と協働科目

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回は、授業全体の説明に加えて、課題図書を決定するので必ず参加してください。
- ・ この授業では、毎回1200字程度のレジユメの作成が全員必須となり、課題の量が比較的多くなるので、他の授業との兼ね合いを十分考慮したうえで履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

みなさんと同じ本を読み、議論できることを楽しみにしています。

キーワード /Keywords

ジェンダー、フェミニズム、LGBT、SDG 8. ジェンダー平等

基盤演習Ⅱ【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES202F			○	◎	○
科目名	基盤演習Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

3回以上無断欠席した場合は、評価不能(-)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

基盤力応用 (日本近代史演習) 【昼】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES301F			○	◎	△
科目名	基盤力応用		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

グローバル化が進むにつれて、国内外で歴史の捉え方が議論されることが多くなっています。そうした情勢を踏まえ、本授業では、日本近代史研究（主に明治～昭和戦前期の政治・外交・軍事・社会）の通説の典拠に迫って知識を深め、また、専門書や史料に触れることで通説を相対化し、歴史を多角的に捉える力の修得を目標とします。

上記を通して、資料の分析、研究発表の方法、議論の進め方などを身に付けることを目指します。

(到達目標)

思考・判断・表現力：設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

コミュニケーション力：他者と協働して、設定されたテーマに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身に着けている。

自立的行動力：設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

指定はありません。授業では、教員作成のレジュメ・史料、画像、映像などを使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献、史料などは授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 歴史と歴史学研究－「歴史」の遍在と「史実」の多義性
- 第3回 日本近代史をめぐる近年の情勢
- 第4回 日本近代史研究と史料①－主要な公刊史料と史料保存機関
- 第5回 日本近代史研究と史料②－様々な史料の存在
- 第6回 日本近代史研究と史料③－史料の読解・活用
- 第7回 担当教員による発表
- 第8回 履修者による発表①【例：大正政変、対華二十一箇条要求】
- 第9回 履修者による発表②【例：米騒動、シベリア出兵】
- 第10回 履修者による発表③【例：普通選挙、治安維持法】
- 第11回 履修者による発表④【例：満洲某重大事件、ロンドン海軍軍縮会議】
- 第12回 履修者による発表⑤【例：満洲事変、五・一五事件】
- 第13回 履修者による発表⑥【例：日中戦争、日米開戦】
- 第14回 履修者による発表⑦【例：終戦工作、「聖断」】
- 第15回 総括・まとめ

※授業予定は、履修者の人数、興味・関心、習熟度などに応じて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（授業への取り組み、小課題、発表の内容など）100%
なお、特段の事情なく発表担当回の場合は、評価不能（－）となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に資料に必ず目を通し、議論に参加できる状態で出席してください。

基盤力応用 (日本近代史演習) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
共生と協働科目

履修上の注意 /Remarks

本授業では日本近代史研究に関する専門事項を取り上げます。日本近代史にまつわる国内外の諸問題や研究対象としての歴史に興味・関心がある学生を対象とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ライフ・デザイン特講B (海外学習プログラム) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 友松 史子 / 国際教育交流センター, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL207F					◎

科目名	ライフ・デザイン特講B	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	-------------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

本授業は、国際教育交流センターが主催する教員引率型の海外学修プログラムのための科目です。授業では下記海外学修での各活動で、主体的に学び、積極的に行動を起こすための下地を形成することを目標とします。また、海外の学びや体験からその後、さらなる海外体験へつなげる意欲を高めることも目指します。授業の前半は海外学修で設定されているフィールドワークテーマに関連するトピックについて理解を深め、後半は渡航先で予定している活動の準備を進めます。その他、渡航準備のためのポイントや海外での危機管理なども学び海外学修に向けた心構えを形成していきます。そのため、授業を受講するだけでなく、本授業に付随する短期海外学修にも参加し、座学で学んだことを渡航先の活動に活かし、日本ではできない貴重な体験を得ることを通じ、その後の学修や学内外での活動につなげてください。なお、海外学修の実施に際しては、出国から帰国まで教員が引率し、また渡航準備のための細やかな指導も行います。大学最初のチャレンジとして、海外経験のない学生や海外渡航に不安のある学生も安心して参加できる入門コースです。

○海外学修について

2022年度は次の海外学修の実施を予定しています。

- <学修テーマ> 韓国と世界を結ぶ国際都市仁川の歴史と伝統、そして今後の展望を学ぶ
- <学修活動先> 韓国・仁川広域市他
- <活動連携先> 仁川大学校、仁川市役所など
- <渡航時期・期間> 2022年9月下旬または2023年2月中旬～下旬にかけ1週間程度。(うち現地活動日数は5日間程度)
※履修登録学生には具体的な日程について改めて連絡します。
- <参加費用> 8万8,000円程度(航空費用、宿泊費)
- <募集人数> 16-20名
- <現地での活動内容(予定)>
 - ・仁川市役所訪問、仁川国際空港見学を通して国際港湾都市仁川を知る
 - ・仁川旧市街で日韓の歴史、韓国近代史を学ぶ
 - ・仁川大学校訪問、学生交流
 - ・現地市民団体とのボランティア活動またはフィールドリサーチ
 - ・ソウル近郊視察 など

【留意事項】

- ※韓国の海と空の玄関口である仁川広域市は国内第3番目の都市で、2000年に入ってから市内松島(ソンド)を経済自由区域に指定し、グローバル企業や国際機関、海外大学を誘致し一大国際都市を形成しています。(仁川大学校もその区域の一角にあります)そんな仁川広域市は北九州市とは姉妹都市関係にあり、この関係性を活かした活動を盛り込んでいく予定です。
- なお、上記の活動内容は訪問先の事情やCOVID-19の影響などにより変更となる可能性もありますので、予めご了承ください。活動日程詳細は集中講義時に紹介します。
- ※渡航時期については、COVID-19の感染状況によっては2024年度以降に変更することがあります。見直しについては集中講義の際に説明をします。
- ※海外学修帰国後、活動の振り返りをする時間をもちます。(日程は帰国時に調整)

○韓国・仁川コースの到達目標

- 様々なフィールドでの活動を通じこれまでと異なる視点を得、それぞれの価値観や考え方の幅を広げるとともに自律的に考え、行動する力を伸ばします。
- 各活動での取組みにおいて設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有していること。
- 現地活動において、コミュニケーション力を駆使した現地での交流や経験を通じ、異国や異文化への理解を深めるとともに、自国や自文化、自己のアイデンティティについてもさらに掘り下げて考えるきっかけにします。
- 海外から日本を見る、海外で日本の事柄を説明するといった体験を通じ、日本について改めて知る機会とし、また、アジア地域での日本のプレゼンスや役割について考察し、自分なりの見解を持てるようにします。
- 帰国後の学修において、自己の経験や成長を振り返り、言語化し、他者に適切に発信できるとともに、それらをその後の学生生活に活かしていく積極的な姿勢を養います。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。授業に必要な資料は適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 新城道彦,浅羽祐樹,金香男,春木育美(2019)『知りたくなる韓国』有斐閣.
- ・ 木宮正史(2021)『日韓関係史』岩波書店(岩波新書).
- ・ 伊東順子(2022)『韓国カルチャー隣人の素顔と現在』集英社(集英社新書).
- ・ 鳥飼玖美子(2021)『異文化コミュニケーション学』岩波書店(岩波新書).

上記他、授業でも参考書籍を紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

下記第1-15回の授業を9/5(月)~9/10(金)の日程で1日3コマ行います。各日程と内容は次の通りです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

<1日目> 9/6 (月)

- 第01回 コースガイダンス -韓国スタディーツアーの概要-
- 第02回 講義：歴史から仁川を紐解く
- 第03回 グループリサーチ「韓国と日本の歴史」リサーチと発表資料作成

<2日目> 9/7 (火)

- 第04回 グループリサーチ (続) : 「韓国と日本の歴史」発表資料作成と発表準備
- 第05回 グループリサーチの発表と意見交換
- 第06回 個別リサーチ：朝鮮戦争・北九州市と朝鮮戦争との関連性・北九州市と仁川広域市の関係史・仁川国際空港について

<3日目> 9/8 (水)

- 第07回 個別リサーチ結果の情報交換
- 第08回 グループワーク「北九州市と北九州市立大学を海外でアピールする」(講義とデモンストレーション資料作成)
- 第09回 グループワーク (続) : デモンストレーション資料作成

<4日目> 9/9 (木)

- 第10回 グループワーク (続) : デモンストレーションの準備
- 第11回 デモンストレーション「北九州市と北九州市立大学を海外の人に紹介する」(振り返りと資料のブラッシュアップ)
- 第12回 仁川市内とその他の地域 (ソウル・水原) での視察プラン作成

<5日目> 9/10 (金)

- 第13回 講義：海外危機管理学修
- 第14回 海外学修の“チャレンジシート”作成
- 第15回 “チャレンジシート”の発表、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ リサーチ課題：40% (グループリサーチと個人リサーチ)
- ・ 企画作成課題：30% (グループワークでのデモンストレーション資料作成と視察プラン作成)
- ・ 最終課題：20% (チャレンジシート作成)
- ・ 取り組み姿勢：10% (グループ作業や講義での態度、課題提出状況等)

※最終課題を提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にグループで取り組む課題のための情報収集をしっかりと行い、授業に臨んでください。また授業での学びを定着させるため、海外学修に参加することを事後学修とし、これに参加することを推奨します。なお、詳細は北方Moodleの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業はPC持参のこと
- ・ 韓国での海外学修に参加を希望する人は本授業を履修してください。

※なおこの科目に付随する海外学修はKGEP Challengeコースの「海外体験」分野のメダル付与や本登録のための対象プログラムになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

インターネットやメディアの報道で得た情報ではなく、現地で実際に自分の目で見、耳で聞く、肌で感じる活動は、視野を広げたり、それまでのものの見方を変えたり、知的好奇心を刺激したり、その後の学修やキャリア形成にインパクトを与えたりと自分の中で何かが動き出すのを感じる出来事になると思います。また、現地で様々な活動を行うことで、海外渡航へのハードルも低くなるでしょう。大学は成長の場。4年間をどう過ごすかで、あなたの将来の選択肢は大きく変わります。挑戦なくして成長なし。夢は成長の源。「困難」は成長の糧。「出会い」は成長の礎。世界を舞台に、地球規模の視野で考え、現地の視点で行動できる人材になる、このプログラムではそんなあなたの挑戦をサポートします。

キーワード /Keywords

国際教育交流センター、海外学修、ファカルティレッドプログラム (FLD)、Kiakyushu Global Challenge Program (KGEP)、SDGs 17: パートナリーシップ

キャリア・デザイン 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR100F				○	◎
科目名	キャリア・デザイン		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

大学生生活を実りあるものにするための授業です。その為に、現在の社会、経済、環境を理解し、未来に向けてどのように変化していくのかを考えていきます。そして、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の2点をねらいとしています。

- ①社会、経済、環境の現状と未来について学ぶ
- ②将来のキャリアに向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく

授業はオンデマンド方式で実施します。「働く」ということを第一線で体験、分析されている外部講師からお話を聞きながら、各自感じたことや学んだことをレポート形式でアウトプットしてもらいます。

※この授業はメディア授業(オンデマンド方式)で実施します。Moodle上にコンテンツを提示します。履修方法については第1回目の授業コンテンツで説明をしますので、必ず見てください。

(到達目標)

【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自立的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。オンデマンド形式で動画を配信して授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①全体ガイダンス
- ②学びのアップデート
- ③日本の「キャリアデザイン」
- ④日本が迎える大きな変化
- ⑤情報革命
- ⑥日本の働き方と組織の課題～ジェンダー～
- ⑦中間振り返り
- ⑧お金と情報
- ⑨ビジネスと就活
- ⑩もう一つのキャリアデザイン
- ⑪「働き方」の最新事情
- ⑫日本の潮流、世界の潮流
- ⑬誰もが持つリーダーシップを知る
- ⑭キャリアデザイン全体を総括する
- ⑮全体振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60%

授業内のレポート...20%

まとめのレポート...20%

※授業内レポート、まとめレポートを1度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。※北方生のみ、ひびきの生除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業への積極かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。外部講師と連携しての授業を予定しています。詳細は第1回の講義で説明しますので、必ず参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は学生の皆さん自身のキャリアにかかわるものになりますので、特段正解があるわけではありません。授業の内容を自分なりに咀嚼しながら、授業の内容に加えて読書やWEBサイトを確認するなど、自主的な学習を進めてください。

人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、卒業後に企業等で働く上で必要となる能力や経験等について解説する。

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動、実務経験のある教員による授業

★関連するSDGsゴール

「4. 質の高い教育を」「8. 働きがい・経済成長」「9. 産業・技術革命」「12. 作る・使う責任」

キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR100F				○	◎
科目名	キャリア・デザイン		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

月曜2限の「キャリア・デザイン」では、皆さんの来るべき将来に向けて「いま何をすべきか」ということを考える授業を行います。皆さんの将来は独立して存在しているわけではなく、現在の延長線上にあります。その意味で、大学生としての時間をいかに過ごすのかは、皆さんのキャリアに直接つながってきます。この授業では、大学生として充実した時間を過ごすためのヒントや刺激を受けられるようなコンテンツをたくさん提供したいと思います。

本授業では、ゲストスピーカーによる講演会も数回開催します。各分野で活躍されている人生の先輩方のお話を聞くことで多くを学ぶことができると思います。また様々な資料（映像・新聞記事・映画・webなど）を用い、それらを題材とすることで皆さんの進むべき道ややるべきことなども考えてもらいます。キャリア（人生デザイン）は他人から教えられるものではなく、自分で考えて切り拓いていくものだと思います。授業を通じてそのためのきっかけが提供できればと思います。

（到達目標）

【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自立的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜お伝えします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス キャリアデザインとは
- 第2回 キャリアデザインと大学生活
- 第3回 日本の大学生の姿を通じて
- 第4回 大学生生活の落とし穴とその回避のために
- 第5回 来たるべき未来と皆さんのキャリアデザイン
- 第6回 自分を知る
- 第7回 キャリアは「デザイン」できるのか？
- 第8回 留学とキャリアデザイン
- 第9回 これからの働き方
- 第10回 就職とキャリアデザイン
- 第11回 自分の新たな扉を開く
- 第12回 「幸せ」な人生とは？
- 第13回 作品に学ぶキャリアデザイン
- 第14回 先輩からのメッセージ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の授業で課すレポートにより評価（100%）

レポートとしての体裁を成していない場合は、また内容や分量に著しい不備がある場合は評価不能（-）とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業終了時に次回の授業内容を伝えますので、前もって関連する知識を学習しておいてください。
また、本授業は「答え」のない授業ですので、各回の授業が終わった後は、自分なりの「答え」を探してもらいたいと思います。関連する映像資料や書籍・新聞記事などを紹介しますので、次回の講義までに各自確認し、自習をして授業に臨んでください（自習時間の目安は60分程度）。

履修上の注意 /Remarks

たくさんの問いかけをしますので、自分の頭でしっかりと考える姿勢をもって授業に望んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生だけでなく、2年生以上の学生の受講も歓迎します。

キーワード /Keywords

自分で考え、つくるキャリアデザイン

SDGsとの関連について

3. 健康と福祉を 5. ジェンダー平等 8. 働きがい・経済成長

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR100F				○	◎
科目名	キャリア・デザイン				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

<目的>

本授業の目的は、後述する「経験学習モデル」を体得し、社会が必要としている力を身に付けることです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。日本経済団体連合会（2018年11月）の調査によると、「コミュニケーション能力」が16年連続で第1位、「主体性」が10年連続で第2位となり、「チャレンジ精神」が3年連続第3位となりました。コミュニケーション能力は当然として、主体性・チャレンジ精神といった、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力が求められる時代となりました。よってこれらの資質を卒業までに身に付ける必要があります。さらに、2018年9月3日、経団連が従来の「就活」「新卒採用」のルールを廃止すると宣言しました。慌てた政府が引き続きルールを提示していますが、それに拘束力はなく、完全に自由化になりました。

では、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力を身に付けるにはどうすればいいのか。それは「経験学習モデル」をぐるぐる回し続けることの楽しさを理解し、実践することに尽きます。機会があれば「すぐ試す」→「振り返る」→「体験の言語化」→「仮説を立てる」→「すぐ試す」・・・具体的には大学生の本分である学びの深堀、つまり、自分が興味を持つことにとことん時間とコストを注ぎ込んで、学びまくればよい。そしてその学びは書籍や論文を読むだけでなく、仮説を立てて、すぐ試して、振り返って、体験の言語化を行い、そこで得た教訓をもとにまた仮説を立てて、すぐ試すといったモデルをぐるぐる回し続けることができれば、いつでも自らのキャリアを創り出すことができるのです。近年、大企業や地方公共団体に入社・就職することがベストではなくなりました。社会人になってからも、キャリアチェンジは日常的に起こり得るのです。だからこそ、「経験学習モデル」を主体的に回す力が必要なのです。

<進め方>

- ①一つ前の授業での学びを授業開始までに実践し、振り返っておく。
- ②授業開始前に「大福帳」を入手し、指定された席に着席する（毎回グループはシャッフルされます）。
- ③授業の冒頭に、実践と振り返りを「大福帳」に記述する。
- ④冒頭のグループワークで、先週の課題の実践と振り返りを発表し、共有する。
- ⑤講義
- ⑥授業終了後、大福帳を提出する。
- ⑦次週までに授業での学びを実践しておく。

以上のように、授業での学び実践し、振り返り、メンバーで共有することを繰り返します。授業の内容は第12回「オタクと心理的安全性」以外はすべて教科書「新しいキャリアデザイン」に書かれていますので、該当するページ（数ページです）を授業前に一読しておいてください（第12回のみMoodleに資料をアップしておきます）。

<目標>

経験学習モデル「すぐ試す→振り返る→体験の言語化→仮説を立てる」を理解し、実践できるようになること。よって、本授業の成績は「経験学習モデル」を体得できたかが基本となります。それぞれの授業で提示された課題を実践し、そこからの学びをルーブリックと照らし合わせて採点します。

（到達目標）【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。【自立的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会（税込1,980円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
- アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 渡辺三枝子『新版 キャリアの心理学【第2版】-キャリア支援への発達のアプローチ-』ナカニシヤ出版
- 平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな「自己表現」のために』金子書房
- 中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社
- 香取一昭・大川恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
- 金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
- J.D.克蘭ボルツ、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
- リンダ グラットン『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
- リンダ グラットン、アンドリュースコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
- ポール・R・ドーアティほか『HUMAN+MACHINE 人間+マシン: AI時代の8つの融合スキル』東洋経済新報社
- ジェームズ・E・コテほか『若者のアイデンティティ形成-学校から仕事へのトランジションを切り抜ける』東信堂
- 日向野幹也『高校生からのリーダーシップ入門』筑摩書房
- 松尾睦『職場が生きる人が育つ「経験学習」入門』ダイヤモンド社
- 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター『体験の言語化』成文堂
- 伊藤羊一『1分で話せ 世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』SBクリエイティブ
- ジェームス W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
- エリン・メイヤー『異文化理解力-相手と自分の真意がわかる ビジネスパーソン必須の教養』英治出版
- 安斎勇樹ほか『問いのデザイン: 創造的対話のファシリテーション』学芸出版社
- エイミー・C・エドモンドソン『恐れのない組織-「心理的安全性」が学習・イノベーション・成長をもたらす』英治出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス・アイデンティティ資本
- 2回 経験から学ぶ力
- 3回 マインドセットとグリット
- 4回 コミュニケーション技法①傾聴
- 5回 コミュニケーション技法②アサーション
- 6回 コミュニケーション技法③リーダーシップ
- 7回 ロジカルシンキング
- 8回 問いを立てる力
- 9回 クリエイティブシンキング
- 10回 デジタルトランスフォーメーション
- 11回 新しい企業団体研究
- 12回 オタクと心理的安全性
- 13回 異文化理解力
- 14回 計画された偶発性
- 15回 自らのキャリアをデザインする

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(学びの実践レポート)・・・70%
最終レポート・・・30%
採点対象のレポートを一度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<通常授業> 授業での学びを次の授業までに実践し、言語化しておいてください。
<最終レポート> 提示する課題をもとに、授業を振り返り、Moodleで提出してください。

履修上の注意 /Remarks

<基本事項>
※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくはほかの教員の「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
※曜日や時限を間違っても履修しても出席にはなりませんので注意してください。

<履修者調整について>
※ソーシャルディスタンスを確保するために、受講人数の制限があります。もし、上限を超える時は1年生を優先とします。ただし、上限を超えなければ2年生以上も受講できます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動がほぼ自由化され、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、1年生からの日々の授業はもちろん、アルバイトやクラブ活動など「毎日の過ごし方・課題への取り組み方」が皆さんの将来に大きく左右するようになりました。また、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップや、長期の地域活動・ボランティアなど、大学生だからこそ取り組むことができる「心が震える瞬間」「先入観を吹っ飛ばす機会」が、将来やりたいことを見出すために重要な要素となります。よって、できるだけ早く「大学生活を豊かにする過ごし方」と「自分探しの楽しみ方」を、授業や授業外課題を通して習得できるように設計しました。たくさん学生の履修をお待ちしてお

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ります。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、キャリア形成、大学生生活、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、問題解決、課題解決
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命、SDGs 11.まちづくり、SDGs 15.環境保全
実務経験のある教員による授業

メンタル・ヘルス【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY001F					◎
科目名	メンタル・ヘルス				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

なお、授業は遠隔（オンデマンド）授業で実施します。そのため、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

(到達目標)

【自立的行動力】自分自身の心の健康に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 メンタルヘルスに関する基礎知識（1）【日本における現状と課題】
- 第3回 ライフサイクルとメンタルヘルス（1）【子ども】
- 第4回 ライフサイクルとメンタルヘルス（2）【大人】
- 第5回 精神と行動の異変（1）【精神症状】
- 第6回 精神と行動の異変（1）【精神疾患】
- 第7回 映画から見るメンタルヘルス
- 第8回 大学生とメンタルヘルス（1）【ボディメイクと摂食障害】
- 第9回 大学生とメンタルヘルス（2）【アディクション】
- 第10回 自己分析
- 第11回 セルフケア①【ストレスの仕組み】
- 第12回 セルフケア②【ストレスマネジメント】
- 第13回 セルフケア③【相談の有用性】
- 第14回 セルフケア④【ソーシャルサポート】
- 第15回 まとめ・小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 50% 日常の授業への取り組み（課題の提出） 50%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
- ・ 小テストを受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、授業内で出した課題を Moodle 上で入力することを求めます。また、授業で身につけた知識を活用し、自身の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業は遠隔（オンデマンド）授業で実施します。そのため、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰も精神や行動の異常は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード /Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健福祉学

自己管理論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター, 村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 1年次 / 1 Year 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 1学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS003F					◎
科目名	自己管理論				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、生活に必要な考え方と自己管理に関する正しい知識を身に付けることである。様々な情報が氾濫し、次々と新たな問題が発生する現代社会においては、自分自身の意思で物事を決定しつつ、健康的で自律した生活を送ることは容易ではない。このため、様々な角度からの正しい知識を得て、自分だけでなく周囲の人たちも含めて安全で安心に暮らすための意識を高めることが大切である。本授業では、様々な分野の専門家に講義を展開してもらい、以下の習得をめざす。

到達目標

【自立的行動力】自分自身の生活に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション（基盤教育セ・日高）
- 2回 社会人のマナー（地域連携・木村）
- 3回 身体の健康（保健室看護師）
- 4回 心の健康（相談室・臨床心理士）
- 5回 スポーツと健康（基盤教育セ・山本）
- 6回 災害への備え（基盤教育セ・村江）
- 7回 自転車の交通安全（課題研究）
- 8回 犯罪防止・薬物乱用防止（小倉南警察署・市民文化スポーツ局）
- 9回 消防と救急（消防局予防課・救急課）
- 10回 ブラックバイト（福岡労働局雇用環境）
- 11回 消費者トラブル（消費生活センター）
- 12回 大学生とお金（福岡県金融広報委員会）
- 13回 ハラスメント防止（総務局男女共同参画推進課）
- 14回 市民生活の基本（行政委員会・市民文化スポーツ局・総務課）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業ごとの課題（確認テスト、ミニレポート等）70%
 - ・ 授業への積極的取り組み（質問・ディスカッション等）20%
 - ・ 期末レポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能（－）です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始前までに予め授業テーマについて学習しておくこと。
- ・ 終了後には、授業中に学んだことを振り返り、ミニレポートを締め切りに間に合うように提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

様々な分野の専門家に、それぞれのテーマについて講義を展開してもらう。
毎回の授業は一見すると関係性のないテーマのように見えるが、全体を通じて首尾一貫した狙いがある。毎回の授業に積極的に参加し、授業が目指す考え方を習得して欲しい。

キーワード /Keywords

リスクマネジメント、セルフマネジメント、倫理観、公共性

実務経験のある教員による授業

SDG3 健康と福祉を, SDG5 ジェンダー平等, SDG8 働きがい・経済成長, SDG11 まちづくり, SDG13 気候変動対策

フィジカル・ヘルス【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 運動処方
- 7回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 8回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 9回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 10回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 11回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 12回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 13回 ゲートボール実習(1)(スキルやルールの習得)
- 14回 ゲートボール実習(1)(ゲーム)
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・70% レポート・・・30%

欠席4回以上、レポート未提出の場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルス【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

到達目標

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションワーク(講義)
- 3回 ソフトバレーボール(実技)
- 4回 生活習慣病の予防と対策(講義)
- 5回 生活習慣病の予防と対策(実技)
- 6回 スポーツ実施の心理的効果について(低強度運動)①(実技)
- 7回 スポーツ実施の心理的効果について(低強度運動)②(実技)
- 8回 スポーツ実施の心理的効果について(中高強度運動)①(実技)
- 9回 スポーツ実施の心理的効果について(中高強度運動)②(実技)
- 10回 スポーツ実施の心理的効果について(データ分析)(講義)
- 11回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 12回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン)(実技)
- 13回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン)(実技)
- 14回 自宅でもできるエクササイズ(ストレッチ、自重トレーニング、チューブトレーニング、HIITなど)
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%
4回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実技を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実技)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口のホワイトボードにも記載するので、確認すること。実技の場合は、運動できる服装と体育館シューズを必ず準備して下さい。

フィジカル・ヘルス【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルス【昼】

担当者名 /Instructor 豊田 直樹 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、本授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力や社会で生きる自立的行動力を養うことを目指していく。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) 生涯スポーツ①(バドミントン)
- 10回 (実習) 生涯スポーツ②(アルティメット)
- 11回 (実習) 生涯スポーツ③(卓球)
- 12回 (講義) 身体活動と生活習慣病
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技を伴う科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践していただくこと。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動(ストレッチや体操)を実施し、怪我防止に努めること(ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・ヘルス【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、本授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力や社会で生きる自立的行動力を養うことを目指していく。

<到達目標>

- 【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) レクリエーションスポーツ①(車椅子ソフトボール)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ②(ベタンク)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ③(キンボール)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ④(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%
4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技を伴う科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践していただくこと。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動(ストレッチや体操)を実施し、怪我防止に努めること(ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・ヘルス 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 運動処方
- 7回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 8回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 9回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 10回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 11回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 12回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 13回 ゲートボール実習(1)(スキルやルールの習得)
- 14回 ゲートボール実習(1)(ゲーム)
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・70% レポート・・・30%

欠席4回以上、レポート未提出の場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルス【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

到達目標

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションワーク(講義)
- 3回 ソフトバレーボール(実技)
- 4回 生活習慣病の予防と対策(講義)
- 5回 生活習慣病の予防と対策(実技)
- 6回 スポーツ実施の心理的効果について(低強度運動)①(実技)
- 7回 スポーツ実施の心理的効果について(低強度運動)②(実技)
- 8回 スポーツ実施の心理的効果について(中高強度運動)①(実技)
- 9回 スポーツ実施の心理的効果について(中高強度運動)②(実技)
- 10回 スポーツ実施の心理的効果について(データ分析)(講義)
- 11回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 12回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン)(実技)
- 13回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン)(実技)
- 14回 自宅でもできるエクササイズ(ストレッチ、自重トレーニング、チューブトレーニング、HIITなど)
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%
4回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実技を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実技)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口のホワイトボードにも記載するので、確認すること。実技の場合は、運動できる服装と体育館シューズを必ず準備して下さい。

フィジカル・ヘルス 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

- 【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関しての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習・スキル獲得テスト②
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト③

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%
4回以上欠席した場合は評価不能 (-) とします。 * 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。運動前、運動後には自宅でも体ほぐし運動 (ストレッチや体操) を実施し、怪我防止に努めること (ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テニス(ストロークの基礎練習)
- 3回 テニス(サーブ・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み...70% スキル獲得テスト...30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。
テニスに関してはグラウンドの状況上「バドミントン」に変更の可能性があります。第1回ガイダンスで説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 倉崎 信子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業内で紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (受講上の注意)
- 2回 体幹トレーニング (1)
- 3回 体幹トレーニング (2)
- 4回~7回 バレーボール (ソフトバレーボール)
- 8回~9回 選択種目 (1) 【バドミントン】 【卓球】スキル確認テスト①
- 10回~11回 選択種目 (2) 【バスケットボール】 【トレーニング】スキル確認テスト②
- 12回~13回 選択種目 (3) 【バレーボール】 【バドミントン】スキル確認テスト③
- 14回 女性のためのエクササイズ (1)
- 15回 女性のためのエクササイズ (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%
4回以上欠席した場合は評価不能 (-) とします。 * 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

その種目に関する映像視聴などで、ルールの確認やイメージを持つこと。
運動後のクールダウンは時間を設けて行わないので、各自で主要筋のストレッチをして身体ケアをすること。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。

本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎

科目名	フィジカル・エクササイズ I
-----	----------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトバレーおよびバレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み...70% スキル獲得テスト...30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 八板 昭仁 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み...70% スキル獲得テスト...30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 八板 昭仁 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎

科目名	フィジカル・エクササイズII
-----	----------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1)
- 6回 応用練習(3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ(速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)
- 12回 ゲーム(2) ゾーンディフェンス(2-1-2)
- 13回 ゲーム(3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み...70% スキル獲得テスト...30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼 】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

- 【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習・スキル獲得テスト②
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト③

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%
4回以上欠席した場合は評価不能 (-) とします。 * 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。運動前、運動後には自宅でも体ほぐし運動 (ストレッチや体操) を実施し、怪我防止に努めること (ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

- 【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習・スキル獲得テスト②
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト③

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%
4回以上欠席した場合は評価不能 (-) とします。 * 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動 (ストレッチや体操) を実施し、怪我防止に努めること (ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎

科目名	フィジカル・エクササイズII
-----	----------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトバレーおよびバレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <ソフトバレーボール>
- 12回 ゲーム(2) <ソフトバレーボール>
- 13回 ゲーム(3) <バレーボール>
- 14回 ゲーム(4) <バレーボール>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み...70% スキル獲得テスト...30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。

フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
男女混合および生涯スポーツを意図したソフトバレーボールと競技性を重視したバレーボールの両種目を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズⅡ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テニス(ストローウクの基礎練習)
- 3回 テニス(サービス・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

テニス、サッカー、ソフトボール、SDGs 3. 健康と福祉を

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 豊田 直樹 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関しての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習・スキル獲得テスト②
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト③

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能 (-) とします。* 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動 (ストレッチや体操) を実施し、怪我防止に努めること (ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

世界での学び方【昼】

担当者名 /Instructor 友松 史子 / 国際教育交流センター, 奥山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター
山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR001F					◎
科目名	世界での学び方				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業科目は、「海外での学びを体験することで、国際理解や知識を深めるとともに、語学力の向上につなげ、グローバル社会で活躍する意欲を高め、自ら行動できる人材を育成するための教育プログラム」であるKGEP (Kitakyushu Global Challenge Program) の Challengeコースの入門科目となっています (コース登録のための要件科目 (必修) です) 。

授業を通じ、大学時代に海外での学びを体験したいと考えている学生に、その経験が自己のキャリアにとってどのような意味を持つのかを考え、そして各自が社会で生きるために必要とされる「自律的に考え、自発的に行動できる (自律的行動力) 」人材として自己を確立する力を涵養することを目的としています。また本学の交換留学・派遣留学や短期の海外研修プログラムに参加するにあたっての留学準備科目としての性格も有することから、学生が海外体験を円滑に取り組めるよう、必要な知識を獲得し視座を高めることも意図しています。

なお具体的な本講義の到達目標として、以下の6点を設定しています。

- ① 北九州市立大学がなぜ学生の海外体験を推奨しているのか、大学理念・目的や国際交流の歴史の学修を通じ理解し、説明できる。
- ② 北九州市立大学の海外体験プログラムの種類や特徴を、私費留学との異同も含め理解し、説明できる。
- ③ 海外体験に伴う負担や危機 (リスク) について、一定の予備知識を獲得するとともに、困難に遭遇した際の基本的な対処の仕方を身につけている。
- ④ 海外体験を自己の成長の観点やキャリア設計の観点から位置づけ、その目標を設定することができる。
- ⑤ 外国での学びに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。
- ⑥ 授業内容を踏まえ、最終的に、自身の海外体験計画を策定できる。
 - a) 海外体験の前までにクリアしなければならない要件を明確に把握できている。
 - b) 要件をクリアするために必要なプロセスを理解し、時間軸に沿って計画を立案することができる。
 - c) 段階ごとに適切な目標を立て、それを達成するために必要な取り組みを考えることができる。
 - d) あわせて、それらに積極的に挑戦し、達成しようとする十分な意欲を有している。
 - e) 海外体験中や帰国後の視点を有している。
- ⑦ 海外体験で得た経験を、後輩たちに共有・継承する意欲や社会に還元しようとする高い意欲を有している。

授業は、講義を中心としますが、必要に応じ、グループワークや個人作業 (海外体験を経験した本学学生や海外協定校からの短期留学生への聞き取りやインタビュー)、講演などを組み合わせて進めていきます。この授業を通じ、海外で学ぶことに対する不安や迷いを解消できるように、また皆さんが各自の将来のことをより積極的に考えていけるように、支援したいと考えています。また皆さんの一人でも多くが、KGEP Challengeコースに取り組むことを期待します。

教科書 /Textbooks

指定テキストはありません。
講義資料は、北方Moodleにアップします。各自、印刷して精読してください。

参考書 (図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、講義時に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は、留学を検討、実際に準備する際、また留学時の視点や知識について下のような予定で講義を進めます。なお、授業によって担当者が異なります。そのため、担当者の都合により、講義回の入替えが生じることがあります。具体的な授業日程と担当は、初回授業時に提示します。

- 第1回 オリエンテーション ～世界の学び方ってどんな授業～ 【学生時代の海外体験意義】
- 第2回 キャンパスが世界（北九大の「KGEP」と「海外体験プログラム」の紹介ほか） 【大学の国際的なリソースを活用するために】
- 第3回 北九州市立大学の国際交流の歴史と今 【自分の大学を振り返る】
- 第4回 グローバル化する地域（北九州市の国際化の歩みと環境外交） 【北九州市の国際的なプレゼンスを知る】
- 第5回 世界の中の日本 【グローバルな視点を持つとは】
- 第6回 ショートプログラム（語学研修など）への参加のすすめ 【ショートプログラム参加意義】
- 第7回 「交換留学」や「派遣留学」への挑戦のすすめ 【交換・派遣留学のメリット】
- 第8回 異文化体験と適応 【留学時の予備知識①】
- 第9回 海外体験を将来にどう生かすか考えよう（成長の可視化） 【海外体験とキャリア形成】
- 第10回 海外体験計画を作る 【各自の海外体験とキャリアを考える】
- 第11回 Group 1による海外体験計画の発表
- 第12回 Group 2による海外体験計画の発表
- 第13回 Group 3による海外体験計画の発表
- 第14回 海外渡航に際しての危機管理を考える①～マインドセット編 【留学時の予備知識②】
- 第15回 海外渡航に際しての危機管理を考える②～シミュレーション編 【留学時の予備知識③】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業課題・・・50%（10回実施：各回5%）
 実践課題・・・20%（2回実施：各回10%）
 最終課題・・・30%（「海外体験計画書」の作成：20%+その発表：10%）
 ※最終課題を提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習に取り組み授業に臨むことを求めます。また指示に従い、事後学習（課題）を進め、授業内容の定着を図ってください。詳細は、北方Moodleの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

国際教育交流センターの交換留学・派遣留学及び海外体験プログラムの事前教育の一環となりますので、同センターが募集を行う交換留学・派遣留学、語学研修等への参加を考えている方は、本授業を受講することを強くお勧めします。また、この授業は同センターが実施するKGEP（Kitakyushu Global Education Program）Challengeコース登録のための要件科目でもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学は成長の場。4年間をどう過ごすかで、あなたの将来の選択肢の幅は大きく変わります。挑戦なくして成長なし。「夢」は成長の源。「困難」は成長の糧。「出会い」は成長の礎。世界を舞台に、地球規模の視野で考え、グローバルな視点で行動できる人材になる、そんなあなたの挑戦をサポートします。

キーワード /Keywords

交換留学、派遣留学、語学研修、海外短期研修、海外オンラインプログラム、KGEP (Kitakyushu Global Challenge Program)、SDGs17: パートナリーシップ

世界での学び方【昼】

担当者名 /Instructor 友松 史子 / 国際教育交流センター, 奥山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター
山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR001F					◎
科目名	世界での学び方				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業科目は、「海外での学びを体験することで、国際理解や知識を深めるとともに、語学力の向上につなげ、グローバル社会で活躍する意欲を高め、自ら行動できる人材を育成するための教育プログラム」であるKGEP (Kitakyushu Global Challenge Program) の Challengeコースの入門科目となっています (コース登録のための要件科目 (必修) です) 。

授業を通じ、大学時代に海外での学びを体験したいと考えている学生に、その経験が自己のキャリアにとってどのような意味を持つのかを考え、そして各自が社会で生きるために必要とされる「自律的に考え、自発的に行動できる (自律的行動力) 」人材として自己を確立する力を涵養することを目的としています。また本学の交換留学・派遣留学や短期の海外研修プログラムに参加するにあたっての留学準備科目としての性格も有することから、学生が海外体験を円滑に取り組めるよう、必要な知識を獲得し視座を高めることも意図しています。

なお具体的な本講義の到達目標として、以下の6点を設定しています。

- ① 北九州市立大学がなぜ学生の海外体験を推奨しているのか、大学理念・目的や国際交流の歴史の学修を通じ理解し、説明できる。
- ② 北九州市立大学の海外体験プログラムの種類や特徴を、私費留学との異同も含め理解し、説明できる。
- ③ 海外体験に伴う負担や危機 (リスク) について、一定の予備知識を獲得するとともに、困難に遭遇した際の基本的な対処の仕方を身につけている。
- ④ 海外体験を自己の成長の観点やキャリア設計の観点から位置づけ、その目標を設定することができる。
- ⑤ 外国での学びに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。
- ⑥ 授業内容を踏まえ、最終的に、自身の海外体験計画を策定できる。
 - a) 海外体験の前までにクリアしなければならない要件を明確に把握できている。
 - b) 要件をクリアするために必要なプロセスを理解し、時間軸に沿って計画を立案することができる。
 - c) 段階ごとに適切な目標を立て、それを達成するために必要な取り組みを考えることができる。
 - d) あわせて、それらに積極的に挑戦し、達成しようとする十分な意欲を有している。
 - e) 海外体験中や帰国後の視点を有している。
- ⑦ 海外体験で得た経験を、後輩たちに共有・継承する意欲や社会に還元しようとする高い意欲を有している。

授業は、講義を中心としますが、必要に応じ、グループワークや個人作業 (海外体験を経験した本学学生や海外協定校からの短期留学生への聞き取りやインタビュー)、講演などを組み合わせて進めていきます。この授業を通じ、海外で学ぶことに対する不安や迷いを解消できるように、また皆さんが各自の将来のことをより積極的に考えていけるように、支援したいと考えています。また皆さんの一人でも多くが、KGEP Challengeコースに取り組むことを期待します。

教科書 /Textbooks

指定テキストはありません。
講義資料は、北方Moodleにアップします。各自、印刷して精読してください。

参考書 (図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、講義時に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は、留学を検討、実際に準備する際、また留学時の視点や知識について下のような予定で講義を進めます。なお、授業によって担当者が異なります。そのため、担当者の都合により、講義回の入替えが生じることがあります。具体的な授業日程と担当は、初回授業時に提示します。

- 第1回 オリエンテーション ～世界の学び方ってどんな授業～ 【学生時代の海外体験意義】
- 第2回 キャンパスが世界（北九大の「KGEP」と「海外体験プログラム」の紹介ほか） 【大学の国際的なリソースを活用するために】
- 第3回 北九州市立大学の国際交流の歴史と今 【自分の大学を振り返る】
- 第4回 グローバル化する地域（北九州市の国際化の歩みと環境外交） 【北九州市の国際的なプレゼンスを知る】
- 第5回 世界の中の日本 【グローバルな視点を持つとは】
- 第6回 ショートプログラム（語学研修など）への参加のすすめ 【ショートプログラム参加意義】
- 第7回 「交換留学」や「派遣留学」への挑戦のすすめ 【交換・派遣留学のメリット】
- 第8回 異文化体験と適応 【留学時の予備知識①】
- 第9回 海外体験を将来にどう生かすか考えよう（成長の可視化） 【海外体験とキャリア形成】
- 第10回 海外体験計画を作る 【各自の海外体験とキャリアを考える】
- 第11回 Group 1による海外体験計画の発表
- 第12回 Group 2による海外体験計画の発表
- 第13回 Group 3による海外体験計画の発表
- 第14回 海外渡航に際しての危機管理を考える① ～マインドセット編 【留学時の予備知識②】
- 第15回 海外渡航に際しての危機管理を考える② ～シミュレーション編 【留学時の予備知識③】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業課題・・・50%（10回実施：各回5%）
 実践課題・・・20%（2回実施：各回10%）
 最終課題・・・30%（「海外体験計画書」の作成：20%+その発表：10%）
 ※最終課題を提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習に取り組み授業に臨むことを求めます。また指示に従い、事後学習（課題）を進め、授業内容の定着を図ってください。詳細は、北方Moodleの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

国際教育交流センターの交換留学・派遣留学及び海外体験プログラムの事前教育の一環となりますので、同センターが募集を行う交換留学・派遣留学、語学研修等への参加を考えている方は、本授業を受講することを強くお勧めします。また、この授業は同センターが実施するKGEP（Kitakyushu Global Education Program）Challengeコース登録のための要件科目でもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学は成長の場。4年間をどう過ごすかで、あなたの将来の選択肢の幅は大きく変わります。挑戦なくして成長なし。「夢」は成長の源。「困難」は成長の糧。「出会い」は成長の礎。世界を舞台に、地球規模の視野で考え、グローバルな視点で行動できる人材になる、そんなあなたの挑戦をサポートします。

キーワード /Keywords

交換留学、派遣留学、語学研修、海外短期研修、海外オンラインプログラム、KGEP (Kitakyushu Global Challenge Program)、SDGs17: パートナリーシップ

プロフェッショナルの仕事【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR210F					◎
科目名	プロフェッショナルの仕事		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状 ②仕事の現実 ③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。

<進め方>

- ① 授業が始まる前に講演者の企業団体および仕事について、各団体のwebサイトの読み込みはもちろん、図書館所蔵の書籍や雑誌、新聞などを予習して、質問を用意しておきます。
- ② 授業開始後、指定する席に着席し、グループで本日、特にどんなことを知りたいのかについて議論し、講演者に発表します。
- ③ 講演が始まります。第1セッションは「コロナ禍の影響を踏まえた、事業内容」。終了後、質疑応答の時間を作ります。以下、第2セッション「どんな仕事で、やりがいは何か?」、第3セッション「学生時代の何が、今に繋がっているか?」と続き、すべて質疑応答の時間を取ります。
- ④ ラストメッセージのあと、得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<目標> 様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生生活を過ごせば良いかを理解します。

(到達目標)【自立的行動力】自分自身の成長に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。パワーポイントは後日頂いて、Moodleにアップしておきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

登壇する企業団体にまつわる記事などが載っている書籍や雑誌、新聞を図書館で探して読んでください。
例：日経ビジネス、週刊東洋経済、週刊ダイヤモンド、日経MJなど。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です(敬称略・順不同)。

<2021年度> Men Impossible (オランダのラーメン屋)、SALASUSU、リ・インベンション、井上純子氏(北九州市議会議員)、タカギ、ベンシル、ETIC、サイバーエージェント、日本放送協会、ソニーコンシューマーセールス、アクセンチュア、九州大学出版会、パデコ、スノーピーク
<2020年度> TOTOインフォム、タカギ、日本航空(JAL)、福岡出入国在留管理局、LINE Fukuoka、日本放送協会(NHK)、春日井製菓、杉養蜂園、JR博多シティ、アクセンチュア、田村ビルズ、アイ・ケイ・ケイ、i-plug
<2019年度> サイバーエージェント、RKB毎日放送、テイクアンドグヴ・ニーズ(T&G)、サニーサイドアップ、チームラボキッズ(teamLab)、労働基準監督官(厚生労働省)、カモ井加工紙(mt)、大創産業(ダイソー)、西日本旅客鉄道(JR西日本)、スノーピーク、全日本空輸(ANA)、本田技研工業(HONDA)、ヤッホーブルーイング、サマンサタバサジャパンリミテッド

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(事前課題)・・・35%

毎回の授業での学び(振り返りレポート)・・・35%

最終レポート・・・30%

なお、採点対象の事前課題やレポートを一度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<通常授業> 登壇する企業団体への質問を用意してください。また、Moodleを確認し、授業で用いるレジュメを読んでおいてください。
<最終レポート> 提示する課題をもとに、授業を振り返り、Moodleで提出してください。

履修上の注意 /Remarks

2022年度より、A101の大人数授業からC教室でのグループワーク主体の形式に変更していますのでご注意ください。さらにソーシャルディスタンスを確保するために、受講人数の制限があります。もし、上限を超える時は2年生を優先とします。ただし、上限を超えなければ3年生以上も受講できます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、14団体の人事担当者を招致し、その企業紹介や求める力、そして大学時代の過ごし方についてお話しいただくようにコーディネートする。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生生活、将来の見通し、キャリアデザイン、キャリアプランニング、企業研究
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR211F					◎
科目名	企業・団体の課題解決		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

<目的> 企業団体の現場の課題を題材に、グループで課題解決案を策定・発表し、その企業団体から評価をもらうことで「課題解決スキル」、具体的には、課題にグループで挑戦することを通して、セルフマネジメントおよびリーダーシップを発揮し、試行錯誤を繰り返して、新しい成果を生み出す人材になることを目指します。
本授業の位置づけや狙いは以下の2点です。

1) インターンシップの授業バージョン。企業団体との新しい接点
経団連は2021年3月卒業生から「採用選考に関する指針」を策定しないと発表。つまり、採用活動は自由化・通年化しました。だからこそ3年生は、インターンシップを軸に企業と接点を持ち、吟味し、自分に合う企業はどこか、試行錯誤する必要があります。また、2年生も通年採用だからこそ、3年生同様インターンシップを軸に企業と接点を持ち、吟味し、そのために残りの大学生活をどう過ごせばいいのか、試行錯誤するべきでしょう。しかし、授業期間中に長期のインターンシップに行くのは本末転倒。本授業なら、授業を通してインターンシップ同様の体験ができます。

2) 将来必ず必要となる、答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力
従来のように講義で学ぶだけの授業では、その知識をテストには活用できても、実際の現場で活用することは難しいでしょう。近年のグローバル化した知識基盤社会において、また高度成長時代を終えた現代日本において望まれる力は、多様で複雑な課題に対応しつつ、イノベーションを創出できる力です。答えのある課題ばかりをこなしていた学生よりも、答えのない課題に対し、グループで対話しながら、提案し、フィードバックをもらって修正し、諦めず有意な提案を行おうとする学生を、企業や団体は望んでいます。本授業はその力の修得を目指して設計されています。

<授業の進め方>

- ①第1回にてガイダンスを実施します。課題提供団体の理解を深めます。
- ②第2回にて、課題提供団体からの3つの課題を提示します。この間に挑戦する課題を吟味してください。
- ③第3回までにグループピングと挑戦する課題決定をします。その後第6回まで、課題解決のために役立つスキルについて講義をします。
- ④第7回にて教員への相談会を実施します。そして期日に企画書を提出して頂きます。
- ⑤第8回にて、課題提供団体からのフィードバックを解説します。
- ⑥第9～12回にて、課題解決のために役立つスキルについて講義し、第13回にて教員への相談会を実施します。
- ⑦第14・15回にて、課題提供団体に、最終プレゼンテーションを行い、フィードバックを頂きます。

<目標> 現場で働く社会人から自らがプランした案に対してフィードバックを頂き、修正し、最終評価を頂くことで、企業団体にて実際に働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけます。そして、その経験を糧に、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。(到達目標)【自立的行動力】自分自身の成長に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストはありませんが、企業団体の資料はその都度配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。

また、以下書籍を参考にしてください。

- 見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会
- ジェームス W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
- 嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』ディスカヴァー・トゥエンティワン
- 加藤昌治『考具 - 考えるための道具、持っていますか?』CCCメディアハウス
- 加藤昌治『チームで考える「アイデア会議」 考具 応用編』CCCメディアハウス
- 大嶋祥誉『マッキンゼー流入社1年目問題解決の教科書』SBクリエイティブ
- 大嶋祥誉『マンガで読める マッキンゼー流「問題解決」がわかる本』SBクリエイティブ
- 茂木健一郎『最高の結果を引き出す質問力：その問い方が、脳を変える!』河出書房新社
- 上野千鶴子『情報生産者になる』筑摩書房
- 安斎勇樹、塩瀬隆之『問いのデザイン：創造的対話のファシリテーション』学芸出版社
- 伊藤羊一『1分で話せ 世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』SBクリエイティブ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンス
- 第02回 3つの課題提示と解説 ★ゲスト登壇
- 第03回 課題解決に資する情報提供①ロジカルシンキング
- 第04回 課題解決に資する情報提供②問いを立てる力
- 第05回 課題解決に資する情報提供③クリエイティブシンキング
- 第06回 課題解決に資する情報提供④デジタルトランスフォーメーション
- 第07回 教員への相談会
- 第08回 中間発表に対する評価とフィードバック ★ゲスト登壇
- 第09回 課題解決に資する情報提供⑤課題解決のケーススタディ
- 第10回 課題解決に資する情報提供⑥課題解決のケーススタディ
- 第11回 課題解決に資する情報提供⑦課題解決のケーススタディ
- 第12回 課題解決に資する情報提供⑧プレゼン資料の作り方
- 第13回 教員への相談会
- 第14回 最終発表に対する評価とフィードバック ★ゲスト登壇
- 第15回 最終発表に対する評価とフィードバック ★ゲスト登壇

※参考

<2021年度の企業団体と課題>

■NHK北九州放送局

課題①北九大の学生全員がフォローしなくなる！コンテンツ（ツイッター企画）を考える

課題②コロナ禍でもできる！子ども向けリアルイベント

課題③どう伝える？どう残す？大学生が考える戦争伝承

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み（リフレクション）…56%

最終発表に対する評価（企業団体からの評価と相互評価）…30%

最終レポート…14%

なお、採点対象のリフレクションを一度も提出しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。また、授業終了後は指定するフォームで授業での学びを言語化してください。

履修上の注意 /Remarks

※第3回で挑戦する課題とグループを決めます。

※課題に対する取り組み（授業時間以外でのグループワークやフィールドリサーチ、統計資料収集など）による、最終発表が評価の3割を占めます。企業団体のリアルな課題に対し、企業団体の現役社員（職員）からの生のフィードバックが頂ける企業な経験を積むことができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動のスケジュールが変わり、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。しかし、インターンシップは必ずしも希望する学生全てが参加できません（受け入れ企業団体が少ないため）。ゆえに、「授業の中」に企業団体の課題に取り組む機会を作り込み、現場の仕事を体感することで、多くの学生が働くことをイメージすることを狙って設計した授業です。企業団体の方から、直接フィードバックをもらえる機会はなかなかありません。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、3団体の人事担当者と連携し、課題解決型授業を運営。

キーワード /Keywords

キャリア、成長、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、マーケティング、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、リーダーシップ

SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

Communicative English I (律政群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

successful keys to the TOEIC listening and reading test intro 2nd edition ISBN 978-4-342-55261-8 桐原書店 1980円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Daily Life
- 2回 Places
- 3回 People
- 4回 Travel
- 5回 Business
- 6回 Office
- 7回 Technology
- 8回 Personnel
- 9回 Management
- 10回 Purchasing
- 11回 Finances
- 12回 Media
- 13回 Entertainment
- 14回 Health
- 15回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...90% 授業への取組...10%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- リーディング教材の下調べをしておく。
- リスニングの問題の音声を聞く。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English I (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R) L&Rテストの演習を取り込みます。さらに、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

- ①PROGRESSIVE STRATEGY FOR THE TOEIC® L&R TEST 「600点を目指すTOEIC® L&R TEST へのストラテジー」 松本恵美子著 成美堂 ¥2200(税込)
- ②TOEIC L&R TEST出る単特急 金のフレーズ TEX加藤著 朝日新聞出版 ¥979(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 UNIT 1 Sightseeing / Guided Tour
- 3回 UNIT 2 Restaurant
- 4回 UNIT 3 Hotel / Service
- 5回 UNIT 4 Employment
- 6回 UNIT 5 Entertainment
- 7回 UNIT 6 Shopping / Purchases
- 8回 UNIT 7 Sports / Health
- 9回 UNIT 8 Doctor's Office / Pharmacy
- 10回 UNIT 9 Hobbies / Art
- 11回 UNIT 10 Education / Schools
- 12回 UNIT 11 Technology / Office Supplies
- 13回 UNIT 12 Transportation
- 14回 UNIT 13 Travel / Airport
- 15回 UNIT 14 Housing / Construction

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(30%)、筆記試験(70%)

- ・小テストを8回以上受験しなかった場合、または定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。
- ・最終評価にはTOEICテストのスコアが反映されます。詳しくは初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：単語テストの準備
- 事後学習：学習内容の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回の授業に必ず出席してください。
- ・ 基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
- ・ 受講に際しては、テキストを必ず持参してください。
- ・ 事前に準備が必要な小テストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English I (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 林 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部に TOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

[授業の概要]

- ① 授業開始時に小テスト（5分）を実施。
- ② 教科書のポイントを押さえながら、主に、Listening Section、の練習問題をやる。

[授業のねらい]

- ① 多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
特に、「ビジネス関連の語彙や表現」を習得し、「TOEICの出題形式」そのものに慣れること。
- ② TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、英文法の基礎を強化する。

教科書 /Textbooks

First Time Trainer for the TOEIC® TEST, Revised Edition
著者：Chizuko Tsumatori, Masumi Tahira ¥2,200（税込み）
出版社：センゲージラーニング 2016年1月出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテスト新公式問題集（発行：財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Shopping 買い物
- 3回 Daily Life 日常生活
- 4回 Transportation 交通
- 5回 Jobs 職業
- 6回 Meals 食事
- 7回 Communication コミュニケーション
- 8回 Fun 楽しみ
- 9回 Office Work オフィスワーク
- 10回 Meeting 会議
- 11回 Travel 旅行
- 12回 Finance お金
- 13回 Business ビジネス
- 14回 予備（1）1～13回でできなかったところ
- 15回 予備（2）1～13回でできなかったところとまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 定期試験 (50%)
- ② 小テスト (30%)
- ③ 授業参加、授業貢献度(特に自発的、積極的な発表を評価する) (20%)
最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明する。
- ④ 定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、90分)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

語学は予習が必要です。どこがわかるかわからないかが、わかっていれば予習は成立しています。授業では、文字を見て意味がわかり、音声を聞いて意味がわかり、音読ができるようになっていただきます。受講生の理解度等に応じて、授業内容を変更することもあります。音声はダウンロード形式です。教室では音声は流しません。自分で聞く必要があります。

キーワード /Keywords

Communicative English I (律政群 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC 形式に準拠したテキストを用いて、その形式に慣れると共に、リーディングとリスニングを中心にして英語力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

PROGRESSIVE STRATEGY FOR THE TOEIC L&R TEST (600点を目指すTOEIC L&R TESTへのストラテジー)
(成美堂) (￥2,200)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1 Sightseeing / Guided Tour : Listening
- 3回 U. 1 : Reading
- 4回 Unit 2 Restaurant : Listening、U.1 単語小テスト
- 5回 U. 2 : Reading
- 6回 Unit 3 Hotel / Service : Listening、U.2 単語小テスト
- 7回 U. 3 : Reading
- 8回 Unit 4 Employment : Listening、U.3 単語小テスト
- 9回 U. 4 : Reading
- 10回 Unit 5 Entertainment : Listening、U.4 単語小テスト
- 11回 U. 5 : Reading
- 12回 Unit 6 Shopping / Purchases : Listening、U.5 単語小テスト
- 13回 U. 6 : Reading
- 14回 Unit 7 Sports / Health : Listening、U.6 単語小テスト
- 15回 U. 7 : Reading、まとめ、試験説明

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...70%、日常の授業への取り組み（課題、小テスト）...30%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示した予習課題、小テストの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

Communicative English I (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能の定着を目的とします。法能・語彙に加えて主に読む（リーディング）と聴く（リスニング）の向上を指します。また、授業の部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）をいて、学初級レベルで、常活のニーズを充することができる。

教科書 /Textbooks

学習管理システムMoodle内にある資料や配布プリントをいいる。

（ Moodle上のデータをダウンロードしたりするために、インターネット接続通信費がかかる場合がある。 ）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業時やMoodleにて紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 分の好きな仕事
- 3回 働き改
- 4回 少齢化
- 5回 メディア・リテラシー
- 6回 英語とのつきあい(1)【英語とつきあう前に】
- 7回 TOEIC演習(1)【リスニング問題】
- 8回 環境
- 9回 TOEIC演習(2)【法問題】
- 10回 Internet of Things (IoT)
- 11回 TOEIC演習(3)【問題】
- 12回 読解
- 13回 これからの教育
- 14回 英語とのつきあい(2)【英語とつきあう時に】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（あるいは期末課題）...30%、平常の学習状況（小テストや課題実施状況を含む）...70%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

小テストや課題の提出が全くない場合は、評価不能（－）です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したりMoodle上に情報を掲載したりするので、その指に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

Communicative English I (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 園迫 雅彦 / DANSAKO, Masahiko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

First Time Trainer for the TOEIC® TEST, Revised Edition (センゲージラーニング) (¥2,200 [税込])

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC(R) TEST 英単語 出るとこだけ! (アルク) 小石裕子・Dorey, Paul (著) (¥1,980 [税込])

○TOEIC(R) TEST 英文法 出るとこだけ! (アルク) 小石裕子 (著) (¥1,320 [税込])

○TOEIC(R) TEST リスニング 出るとこだけ! (アルク) 小石裕子 (著) (¥1,760 [税込])

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1: Shopping (動詞)
- 第3回 Unit 2: Daily Life (名詞)
- 第4回 Unit 3: Transportation (代名詞)
- 第5回 Unit 4: Jobs (形容詞と副詞)
- 第6回 Unit 5: Meals (時制)
- 第7回 Unit 6: Communication (受動態・分詞)
- 第8回 Unit 1~6 の振り返り / 腕試し
- 第9回 Unit 7: Fun (動名詞と不定詞)
- 第10回 Unit 8: Office Work (助動詞)
- 第11回 Unit 9: Meeting (比較)
- 第12回 Unit 10: Travel (前置詞)
- 第13回 Unit 11: Finance (接続詞)
- 第14回 Unit 12: Business (関係詞)
- 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：40%、平常の学習状況（小テスト・宿題を含む）：60%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の授業の振り返りとして、小テストを行います。小テスト対策として復習をすること。また、次回の授業のUnitの予習を宿題として提出してもらいます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。

キーワード /Keywords

Communicative English I (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

successful keys to the TOEIC listening and reading test intro 2nd edition ISBN 978-4-342-55261-8 桐原書店 1980円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Daily Life
- 2回 Places
- 3回 People
- 4回 Travel
- 5回 Business
- 6回 Office
- 7回 Technology
- 8回 Personnel
- 9回 Management
- 10回 Purchasing
- 11回 Finances
- 12回 Media
- 13回 Entertainment
- 14回 Health
- 15回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...90% 授業への取組...10%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

リーディング教材の下調べをしておく。

リスニングの問題の音声聞く。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

Communicative English I (律政群 1 - G) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English I (律政群 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

当授業では、基礎的な文法学習を基に、TOEIC問題を中心に扱ったテキストを用いて、リーディングとリスニングの基礎力をつけていきます。指定学習範囲の予習・復習は必ず行ってください。翌授業の最初に前回授業の復習として小テストを実施します。毎回の小テストは70点以上を取るようになってください。当クラスの今学期におけるTOEIC目標スコアは、「400点」です。（このスコアは前年度を参考に出しています）

教科書 /Textbooks

PROGRESSIVE STRATEGY FOR THE TOEIC® L&R TEST
著者 松本 恵美子 他共著 成美堂 ¥2,200 (税込み)

☆授業では TOEIC問題を扱った下記のテキストを教科書として使用し、文法学習については随時プリントを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション&基礎文法(品詞・句・節)
- 2回 Unit 1 Listening & 基礎文法(文型 1)
- 3回 Unit 1 Reading & 基礎文法(文型 2)
- 4回 Unit 2 Listening & 基礎文法(動詞 1)
- 5回 Unit 2 Reading & 基礎文法(動詞 2)
- 6回 Unit 3 Listening & 基礎文法(動詞 3)
- 7回 Unit 3 Reading & 基礎文法(時制 1)
- 8回 Unit 4 Listening & 基礎文法(時制 2)
- 9回 Unit 4 Reading & 基礎文法(時制 3)
- 10回 Unit 5 Listening & 基礎文法(関係詞1)
- 11回 Unit 5 Reading & 基礎文法(関係詞2)
- 12回 Unit 6 Listening & 基礎文法(関係詞3)
- 13回 Unit 6 Reading & 基礎文法(比較)
- 14回 Unit 7 Listening & 基礎文法(比較)
- 15回 Unit 7 Reading & 基礎文法(特殊構文)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50%、平常の学習状況(小テストを含む)・・・50%

※最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回授業で文書を配布して説明します。

※ 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

※欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には、原則として単位取得が難しくなります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の復習としての小テストの範囲、及び次回の学習範囲は授業の最後に告知します。その範囲を予習・復習してください。また、TOEICの多くの問題に取り組むことによって英語力も上がり、結果としてスコアも高くなります。常日頃から教科書以外の問題集に取り組むことを勧めます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画や授業内容は、受講生の理解度を見ながら進めていくため、変更が生じる場合がありますが、基本的に、上記の流れで学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

Communicative English I (律政群 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力(リーディング力)と聴く力(リスニング力)の向上を目指します。また、授業の一部に TOEIC(R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

語彙&文法の復習テスト・ディクテーションテスト・Part 5 テストを実施します。

教科書 /Textbooks

Emiko MATSUMOTO 他、Progressive Strategy for the TOEIC L&R Test、978-4-7819-7233-3、SEIBIDO、2000円(税別)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TEX加藤、TOEIC L&R TEST 出る単特急金のフレーズ、978-4-02-331568-6、朝日新聞出版、890円(税別)

TEX加藤、TOEIC L&R TEST 出る単特急銀のフレーズ、978-4-02-331684-3、朝日新聞出版、890円(税別)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Sightseeing / Guided Tour
- 3回 Restaurant
- 4回 Hotel / Service
- 5回 Employment
- 6回 Entertainment
- 7回 Shopping / Purchases
- 8回 Sports / Health
- 9回 Doctor's Office / Pharmacy
- 10回 Hobbies / Art
- 11回 Education / School
- 12回 Technology / Office Supplies
- 13回 Transportation
- 14回 Travel / Airport
- 15回 Housing / Construction

成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には原則として単位の修得が難しくなります。

試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

小テスト、予習・復習状況、学習への参加度、自主的な発表などから算出した平常点(20%)と筆記試験(80%)に TOEIC® L&R のスコアを加味して総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：わからないことを授業中に質問できるように準備しておきましょう。ディクテーションテスト・Part 5 テストを実施します。

事後学習：学習した語彙と文法を復習しましょう。語彙&文法の復習テストを実施します。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には原則として単位の修得が難しくなります。
試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。
第1回の授業の前に必ず新しい教科書を買ってください。
受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
語彙&文法テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅学習を済ませてテストに臨んでください。
その他詳細は初回講義で説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。
新型コロナウイルスの影響により、リモートクラスに移行することがあります。

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R)L&Rテストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

一步上を目指す TOEIC®LISTENING AND READING TEST: Level 3
北尾泰幸編（朝日出版社、2021）9784255155968
（本体1,700円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方と予習の仕方について説明。
- 第2回 Part 1 Eating Out
- 第3回 Part 2 Travel
- 第4回 Part 3 Amusement
- 第5回 Part 4 Meetings
- 第6回 Part 5 Personnel
- 第7回 Part 6 Shopping
- 第8回 Part 7 Advertisement
- 第9回 Daily Life
- 第10回 Office Work
- 第11回 Business
- 第12回 Traffic
- 第13回 Finance and Banking
- 第14回 Media
- 第15回 授業のまとめと試験について

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30%

定期試験 70%

演習という授業の性格上、出席を重視します。最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習を重視しますが、やり方については第1回の授業で説明します。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

Communicative English II (律政群 1 - A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能の定着を目的とします。法能・語彙に加えて主に読む（リーディング）と聴く（リスニング）の向上を指します。また、授業の部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）をいって、学初級レベルで、常活のニーズを充つことができる。

教科書 /Textbooks

学習管理システムMoodle内にある資料や配布プリントをいいる。（Moodle上のデータをダウンロードしたりするために、インターネット接続通信費がかかる場合がある。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業時やMoodleにて紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 やり抜く
- 3回 分の好きな仕事
- 4回 成功の秘訣
- 5回 メディア・リテラシー
- 6回 英語とのつきあい(1)【英語とつきあう前に】
- 7回 TOEIC演習(1)【リスニング問題】
- 8回 環境問題
- 9回 TOEIC演習(2)【法問題】
- 10回 Internet of things (IoT)
- 11回 TOEIC演習(3)【問題】
- 12回 オンライン教育
- 13回 仕事を創る
- 14回 英語とのつきあい(2)【英語とつきあう時に】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（あるいは期末課題）...30%、平常の学習状況（小テストや課題実施状況を含む）...70%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

小テストや課題の提出が全くない場合は、評価不能（－）です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したりMoodle上に情報を掲載したりするので、その指に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

Communicative English II (律政群 1 - B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R) L&Rテストの演習を取り込みます。さらに、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

SEIZE THE KEYS OF THE TOEIC L&R TEST 「TOEIC L&R テスト攻略の鍵」 安丸雅子 他著 金星堂 ¥2090(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit 1 Daily Life
- 3回 Unit 2 Shopping
- 4回 Unit 3 Parties & Events
- 5回 Unit 4 Traffic & Travel
- 6回 Unit 5 Office Work
- 7回 Unit 6 Marketing & ICT
- 8回 Review Test1
- 9回 Unit 7 Production & Logistics
- 10回 Unit 8 Employment
- 11回 Unit 9 Personnel
- 12回 Unit 10 Business
- 13回 Unit 11 Health & Environment
- 14回 Unit 12 Finance
- 15回 Review Test2

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(30%)、筆記試験(70%)

- ・小テストを8回以上受験しなかった場合、または定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。
- ・最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：単語テストの準備
事後学習：学習内容の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・第1回の授業に必ず出席してください。
- ・基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
- ・受講に際しては、テキストを必ず持参してください。
- ・事前に準備が必要な小テストに関しては、各自自宅にて暗記を済ませてテストに臨んでください。

Communicative English II (律政群 1 - C) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST Level 2 ISBN 9784255155951 朝日出版社 1836円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Travel/Food
- 2回 At the Office/Hotels
- 3回 Office Life/Recreation
- 4回 Advertising/On the Job
- 5回 Business/Restaurants
- 6回 Travel/Office Life
- 7回 Transportation/Culture
- 8回 At Work/Holidays
- 9回 On the Job/Restaurants
- 10回 Weather/Business World
- 11回 Travel/Human Resources
- 12回 Education/Celebrations
- 13回 Office Environment/Restaurants
- 14回 Business World/Shopping
- 15回 Office Meetings/Recreation

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...90% 授業への取組...10%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- リーディング教材の下調べをしておく。
- リスニングの問題の音声を聞く。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

Communicative English II (律政群 1 - D) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST Level 2 ISBN 9784255155951 朝日出版社 1836円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Eating Out
- 2回 Travel
- 3回 Amusement
- 4回 Meetings
- 5回 Personnel
- 6回 Shopping
- 7回 Advertisement
- 8回 Daily Life
- 9回 Office Work
- 10回 Business
- 11回 Traffic
- 12回 Finance and Banking
- 13回 Media
- 14回 Health and Welfare
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...90% 授業への取組...10%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

リーディング教材の下調べをしておく。

リスニングの問題の音声を聞く。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

Communicative English II (律政群 1 - E) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC形式に準拠したテキストを用いて、その形式に慣れると共に、リーディングとリスニングを中心にして英語力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

"STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST : Level 2 - Intermediate -" (一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 2) (朝日出版社) (¥ 1,870)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1 Eating Out : Listening
- 3回 U. 1 : Reading
- 4回 Unit 2 Travel : Listening 、 U. 1単語小テスト
- 5回 U. 2 : Reading
- 6回 Unit 3 Amusement : Listening 、 U. 2単語小テスト
- 7回 U. 3 : Reading
- 8回 U. 4 Meetings : Listening 、 U. 3単語小テスト
- 9回 U. 4 : Reading
- 10回 Unit 5 Personnel : Listening 、 U. 4単語小テスト
- 11回 U. 5 : Reading
- 12回 Unit 6 Shopping : Listening 、 U. 5単語小テスト
- 13回 U. 6 : Reading
- 14回 Unit 7 Advertisement : Listening 、 U. 6単語小テスト
- 15回 U. 7: Reading、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...70%、日常の授業への取り組み（課題、小テスト）...30%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示した予習課題、小テストの準備をすること。

Communicative English II (律政群 1 - F) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 園迫 雅彦 / DANSAKO, Masahiko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

SEIZE THE KEYS OF THE TOEIC L&R TEST-TOEIC L&Rテスト攻略の鍵（金星堂）（¥2,090 [税込]）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC(R) TEST 英単語 出るとこだけ！（アルク）小石裕子・Dorey, Paul（著）（¥1,980 [税込]）

○TOEIC(R) TEST 英文法 出るとこだけ！（アルク）小石裕子（著）（¥1,320 [税込]）

○TOEIC(R) TEST リスニング 出るとこだけ！（アルク）小石裕子（著）（¥1,760 [税込]）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1 Daily Life [文型・品詞]
- 第3回 Unit 2 Shopping [代名詞・疑問詞]
- 第4回 Unit 3 Parties & Events [形容詞・副詞]
- 第5回 Unit 4 Traffic & Travel [前置詞]
- 第6回 Unit 5 Office Work [接続詞]
- 第7回 Unit 6 Marketing & ICT [名詞・主語と動詞の一致]
- 第8回 Unit 1~6 の振り返り / Review Test 1
- 第9回 Unit 7 Production & Logistics [助動詞]
- 第10回 Unit 8 Employment [時制]
- 第11回 Unit 9 Personnel [受動態]
- 第12回 Unit 10 Business [分詞・分詞構文]
- 第13回 Unit 11 Health & Environment [不定詞・動名詞]
- 第14回 Unit 12 Finance [関係詞]
- 第15回 全体のまとめ / Review Test 2

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：40%、平常の学習状況（小テスト・宿題を含む）：60%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の授業の振り返りとして、小テストを行います。小テスト対策として復習をすること。また、次回の授業のUnitの予習を宿題として提出してもらいます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R)L&Rテストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

一歩上を目指すTOEIC®LISTENING AND READING TEST: Level 2

北尾泰幸編（朝日出版社、2021）9784255155951

（本体1,700円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業の進め方と予習の仕方について説明。

第2回 Part 1 Eating Out

第3回 Part 2 Travel

第4回 Part 3 Amusement

第5回 Part 4 Meetings

第6回 Part 5 Personnel

第7回 Part 6 Shopping

第8回 Part 7 Advertisement

第9回 Daily Life

第10回 Office Work

第11回 Business

第12回 Traffic

第13回 Finance and Banking

第14回 Media

第15回 授業のまとめと試験について

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30%

定期試験 70%

演習という授業の性格上、出席を重視します。最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習を重視しますが、やり方については第1回の授業で説明します。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

Communicative English II (律政群 1 - H) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

当授業では、基礎的な文法学習を基に、TOEIC問題を中心に扱ったテキストを用いて、リーディングとリスニングの基礎力をつけていきます。指定学習範囲の予習・復習は必ず行ってください。翌授業の最初に前回授業の復習として小テストを実施します。毎回の小テストは70点以上を取るようになってください。当クラスの今学期におけるTOEIC目標スコアは、「400点」です。（このスコアは前年度を参考に出しています）

教科書 /Textbooks

Tipsで攻略するTOEIC L&Rテスト - Fun and Strategies for TOEIC Listening & Reading Test

著者 Ross Tulloch 他共著 英宝社 ¥2,310(税込み)

☆基礎文法学習として随時プリントを配布する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション&基礎文法(品詞・句・節)
- 2回 Chapter 1 Listening & 基礎文法(文型 1)
- 3回 Chapter 1 Reading & 基礎文法(文型 2)
- 4回 Chapter 2 Listening & 基礎文法(動詞 1)
- 5回 Chapter 2 Reading & 基礎文法(動詞 2)
- 6回 Chapter 3 Listening & 基礎文法(動詞 3)
- 7回 Chapter 3 Reading & 基礎文法(時制 1)
- 8回 Chapter 4 Listening & 基礎文法(時制 2)
- 9回 Chapter 4 Reading & 基礎文法(時制 3)
- 10回 Chapter 5 Listening & 基礎文法(関係詞 1)
- 11回 Chapter 5 Reading & 基礎文法(関係詞 2)
- 12回 Chapter 6 Listening & 基礎文法(関係詞 3)
- 13回 Chapter 6 Reading & 基礎文法(比較)
- 14回 Chapter 7 Listening & 基礎文法(比較)
- 15回 Chapter 7 Reading & 基礎文法(特殊構文)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50%、平常の学習状況(小テストを含む)・・・50%

※最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回授業で文書を配布して説明します。

※ 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

※ 欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には、原則として単位取得が難しくなります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の復習としての小テストの範囲、及び次回の学習範囲は授業の最後に告知します。その範囲を予習・復習してください。また、TOEICの多くの問題に取り組むことによって英語力も上がり、結果としてスコアも高くなります。常日頃から教科書に加えてTOEIC関連の問題集にも取り組んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画や授業内容は、受講生の理解度を見ながら進めていくため、変更が生じる場合がありますが、基本的に、上記の流れで学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

Communicative English III (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力(ライティング力)と話す力(スピーキング力)の向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course should give you many opportunities to use the English you have studied through years of formal study in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 2A 3rd Ed by K. Wilson & T.Healy ISBN 9780194602761 OUP
2592円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary will be useful.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 1 How was your vacation? (A)
Week 3 Unit 1 How was your vacation? (B)
Week 4 Unit 2 I think it's exciting (A)
Week 5 Unit 2 I think it's exciting (B)
Week 6 Unit 3 Do it before you're 30! (A)
Week 7 Unit 3 Do it before you're 30! (B)
Week 8 Review of Units 1-3
Week 9 Unit 4 The best place in the world! (A)
Week 10 Unit 4 The best place in the world! (B)
Week 11 Unit 5 Where's the party? (A)
Week 12 Unit 5 Where's the party? (B)
Week 13 Unit 6 You should try it! (A)
Week 14 Unit 6 You should try it! (B)
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
40% PowerPoint and Reports
45% Class participation and Quizzes

試験 * を受験しなかった場合は、調査不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should check Moodle each week, complete all assigned homework tasks and prepare for any presentation or role-play work assigned.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

Communicative English III (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

English Central (Academic Premium 4-month access) (level 3) 2,750 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Talking about daily life
- 4回 Talking about free time
- 5回 Talking about hometowns
- 6回 Talking about likes and dislikes
- 7回 Talking about where to live in the future
- 8回 Talking about travel
- 9回 Talking about future travel ideas and plans
- 10回 Talking about music
- 11回 Talking about movies
- 12回 Talking about recent meals
- 13回 Talking about eating out
- 14回 Talking about our futures
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

試験を受験しなかった場合は、評価不能（ - ）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.).

履修上の注意 /Remarks

Communicative English III (律政群 1 - F) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English III (律政群 1 - G) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor クリスティン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

The main aim of this course is to consolidate students' basic English skills in writing and speaking.

Additionally, students will use reading, writing, listening, and speaking to meet daily needs of university students at the beginner level.

教科書 /Textbooks

Smart Choice: Level 2 : Multi-Pack A with Online Practice 3rd ed. ISBN 9780194602761

Price ¥2,592

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Recommendations will be made at the beginning of class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 1 How was your vacation? (A)
Week 3 Unit 1 How was your vacation? (B), Unit Quiz #1
Week 4 Unit 2 I think it's exciting (A)
Week 5 Unit 2 I think it's exciting (B) Unit Quiz #2
Week 6 Unit 3 Do it before you're 30! (A)
Week 7 Unit 3 Do it before you're 30! (B) Unit Quiz #3
Week 8 Midterm Speaking Test
Week 9 Unit 4 The best place in the world! (A)
Week 10 Unit 4 The best place in the world! (B) Unit Quiz #4
Week 11 Unit 5 Where's the party? (A)
Week 12 Unit 5 Where's the party? (B) Unit Quiz #5
Week 13 Unit 6 You should try it! (A)
Week 14 Unit 6 You should try it! (B) Unit Quiz #6
Week 15 Review and prepare for final speaking test

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance and Participation 30%

Unit Quizzes 20%

Homework 10%

Midterm Speaking Test 20%

Final Speaking Test 20%

Note: Missing the final test will result in a - grade! 試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします!

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the material before and after class. Students may also be asked to make simple conversation with small groups at the beginning of class.

履修上の注意 /Remarks

Please be on time, and do not miss more than 5 sessions without an explanation.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You don't need a special brain to learn English, but you do need to make a consistent effort both in and out of class. With good attendance, homework, and preparation, you can do well in this class.

キーワード /Keywords

Communicative English III (律政群 1 - H) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor マーニー・セイテイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening, reading, writing and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at an intermediate level of English.

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

World English 2A (3rd ed.), Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase, Cengage Learning, ISBN: 978-0-357-13031-5

¥3,025

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Topic 1: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 3回 Topic 1: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 4回 Topic 1: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 5回 Topic 2: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 6回 Topic 2: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 7回 Topic 2: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 8回 Topic 3: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 9回 Topic 3: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 10回 Topic 3: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 11回 Topic 4: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 12回 Topic 4: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 13回 Topic 4: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 14回 Final Test Preparation/Project Presentation
- 15回 Final Test Preparation/ Project Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 30%, Quizzes and Presentations 20%, Final Exam 20%

Student's not attending the final exam will receive a (-) grade.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build writing skills and prepare for topic related idea sharing activities. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an active learning environment and requires active participation and sharing in an all English setting. Enthusiasm and a willingness to speak out and contribute to a positive classroom environment is expected.

キーワード /Keywords

Communicative English III (律政群 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of writing and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at a low-intermediate level of English. All students will complete assignments to improve vocabulary skills. Students will also improve their listening, discussion, and critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

Pathways 1A: Listening, Speaking, and Critical Thinking, (2nd ed.), Chase, National Geographic Learning, ISBN-13: 978-1-337-56255-3 ¥3,091 [税込]

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus and Orientation
- 2回 Topic 1 – Explore, Listening & Discussion
- 3回 Topic 1 – Video, Listening & Critical Thinking
- 4回 Topic 2 – Explore, Listening & Discussion
- 5回 Topic 2 – Video, Listening & Critical Thinking
- 6回 Topic 2 – Expansion
- 7回 Topic 2 Presentation Preparation
- 8回 Topic 2 Presentation
- 9回 Topic 3 – Explore, Listening & Discussion
- 10回 Topic 3 – Video, Listening & Critical Thinking
- 11回 Topic 4 – Explore, Listening & Discussion
- 12回 Topic 4 – Video, Listening & Critical Thinking
- 13回 Topic 5 – Explore, Listening & Discussion
- 14回 Topic 5 – Video, Listening & Critical Thinking
- 15回 Topic 5 Presentation Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 25%, Participation 20%, Homework 15%, Presentations 20%, Final Test 20%

試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will complete assignments to build vocabulary. Some research will be required both inside and outside of class. Students will make two presentations in class either as an individual or in groups. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 25 minutes.

履修上の注意 /Remarks

none

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English III (律政群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

Communicative EnglishIII・ IV (共通)
 この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の向上を目指します。
 (到達目標)
 【技能】英語 (読む、書く、聞く、話す) を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。
 This course will focus on improving the students' communication skills in English by focusing on speaking and listening skills, improving grammar and building vocabulary. Pair work and group discussions will be used extensively and homework will be required to reinforce the lesson each week.

教科書 /Textbooks

Four Corners 2A (ISBN 9781108570701)
 Cambridge University Press
 About ¥2,420

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

none

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Orientation
Introductions, Class Rules, Textbook, Homework, Grades
2. "My Interests"
Discussing and learning about interests. / Basic communication skills. / Sports and exercise vocabulary.
3. "My Interests"
Unit listening and reading practice.
4. "Descriptions"
Learning to talk about and describe people. / Basic "What" question skills. / Personality adjectives and appearance.
5. "Descriptions"
Unit listening and reading practice.
6. "Rain or shine"
Learning to talk about the weather. / Using adverbs of intensity. / Weather and indoor activities vocabulary.
7. "Rain or shine"
Unit listening and reading practice.
8. Mid-Term Revision
9. "Life at Home"
Learning how to describe your home. / Using "How many, How much" and separable two word phrasal verbs. / Household chores, making requests vocabulary.
10. "Life at Home"
Unit listening and reading practice.
11. Health"
Giving and following instructions, discussing health. / Adverbs of manner. / "How" questions.
12. Health"
Unit listening and reading practice.
13. "What's on TV?"
Learning to talk about TV shows. / Talking about future plans. / Agreeing and disagreeing. / Types of TV shows.
14. "What's on TV?"
Unit listening and reading practice.
15. Final revision for testing.

成績評価の方法 /Assessment Method

- 33.33% - Final Test
- 33.33% - Homework
- 33.33% - Active participation in class

試験を受験しなかった場合は、評価不能(－)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Homework will be given every week to reinforce what was studied in class. Preparation for future lessons will not be necessary.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please relax and enjoy the class. Don't worry about making mistakes, just do your best to communicate!

キーワード /Keywords

Listening, Speaking, Vocabulary Building, Grammar Expansion

Communicative English III (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course aims to consolidate students' basic English skills. The main focus is to improve writing and speaking ability.

教科書 /Textbooks

Becky Tarver Chase, Pathways Listening, Speaking, and Critical Thinking Split 1A with Online Workbook Access Code Second Edition, National Geographic Learning, ISBN 978-1-33-756255-3, ¥3,091

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable. Extra materials, which have been written by the lecturer, will be provided.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Course Introduction / Meeting People
Week 2 Unit 1: Living for Work / Millennials at Work
Week 3 Speaking Skills / The Simple Present vs. the Present Continuous
Week 4 Listing and Video Activities
Week 5 Group Discussion
Week 6 Presentation Preparation
Week 7 Presentation
Week 8 Unit 3: The Marketing Machine / The On-Demand Economy
Week 9 Speaking Skills / Clarifying
Week 10 Listening and Video Activities
Week 11 Group Discussion
Week 12 Presentation Preparation
Week 13 Presentation
Week 14 Unit 4: Wild Weather / Extreme Weather Around the World
Week 15 Speaking Skills / Count and Noncount Nouns

成績評価の方法 /Assessment Method

Unit Quizzes: 20 percent
Presentations: 30 percent
Speaking Examination: 20 percent
Final Examination: 30 percent
試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your lecturer.

履修上の注意 /Remarks

If a student is late for class thirty minutes, that will equal one absence. Therefore, the student who was absent must provide a document to the lecturer as to why said student will be or was late or absent.

試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Due to Covid-19, we may have to do online classes.

キーワード /Keywords

Communicative English III (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This is an "Active Learning" style course.

We will work together and enjoy watching videos and conversations in English.

We will then assess each other and make our own videos.

You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics on paper, in Moodle, and on video.

*Topics range: Social issues (theft, internet, discrimination), brain science (how we learn, memory tips, stress relief), personal growth (empathy vs sympathy, digital addiction, fair assessments)

動画やムードルを多く使うActive Learning授業です。

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、動画作り等でコミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

なし
(see MOODLE)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing in Moodle: WHAT IS ACTIVE LEARNING?
- 第2回 Chapter 1 (社会現象) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第3回 Chapter 1 (社会現象) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第4回 Chapter 1 (社会現象) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第5回 Chapter 1 (社会現象) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
- 第6回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 1: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第7回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 2: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第8回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 3: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第9回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
- 第10回 "BIG Thinking Sheet": Summarizing your learning from Chapters 1 and 2.
- 第11回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第12回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第13回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment. FINALE/BIG Thinking Sheet.
- 第14回 "BIG Advice Week": Learn how to do well on the final essay. Upload to Moodle and peer assess each other.
- 第15回 Writing day: "Final Essay" and "Self-assessments"

Communicative English III (律政群 1 - C) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- (a) Chapter 1 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (b) Chapter 2 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (c) Chapter 3 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (d) 英作文試験：フリップやMoodleフォーラム学習のまとめ (Final Essay) 15%
- (e) 「Active Learning」 自主的な活動の評価(フリップ、動画、投稿等の自主的なアップグレード回数と「深さ」、先生との対話等) 40%

*If you fail to submit the final report, you will be given a (-); you must therefore fully participate in Week 14 and 15.

* 1 4 周目と 1 5 周目の課題をすべて提出しなかった場合は、調査不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎週MOODLEにアクセスをして、(1) 宿題や課題等をアップロード、(2) 変更等の確認をする。

Active Learningに積極的に参加しましょう。

履修上の注意 /Remarks

新型コロナウイルスの影響などにより授業形式が変わる可能性があるので(遠隔〜対面)必ず事前にMOODLEにて確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生が知って得する「脳の秘密」や流行ってる動画等を観て評価する授業です。完全にActive Learning式の授業です。文法や単語のテストはありませんので、多くの方が思う「典型的」な英語の授業とは一味違います。「考えさせられる」英語ベースの動画を観て自分の深い考えが英語で語れるようになる、「深い」&「楽しい」クラスです。グループでの動画作りもあって、お互いに評価しあってレベルアップして行きます。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。

キーワード /Keywords

Active Learning, video-making, Moodle, peer assessment

Communicative English III (律政群 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力(ライティング力)と話す力(スピーキング力)の向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course should give you many opportunities to use the English you have studied through years of formal study in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 2A 3rd Ed by K. Wilson & T.Healy ISBN 9780194602761 OUP
 2592円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary will be useful.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction
- Week 2 Unit 1 How was your vacation? (A)
- Week 3 Unit 1 How was your vacation? (B)
- Week 4 Unit 2 I think it's exciting (A)
- Week 5 Unit 2 I think it's exciting (B)
- Week 6 Unit 3 Do it before you're 30! (A)
- Week 7 Unit 3 Do it before you're 30! (B)
- Week 8 Review of Units 1-3
- Week 9 Unit 4 The best place in the world! (A)
- Week 10 Unit 4 The best place in the world! (B)
- Week 11 Unit 5 Where's the party? (A)
- Week 12 Unit 5 Where's the party? (B)
- Week 13 Unit 6 You should try it! (A)
- Week 14 Unit 6 You should try it! (B)
- Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- 15% Journal
- 40% PowerPoint and Reports
- 45% Class participation and Quizzes

試験 * を受験しなかった場合は、調査不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should check Moodle each week, complete all assigned homework tasks and prepare for any presentation or role-play work assigned.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

Communicative English IV (律政群 1 - E) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

English Central (Academic Premium 4-month access) (level 4) 2,750 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Talking about part-time jobs
- 4回 Talking about daily routines
- 5回 Talking about hometown attractions
- 6回 Talking about hometown likes and dislikes
- 7回 Talking about where to live in the future
- 8回 Talking about travel experiences
- 9回 Talking about future travel ideas and plans
- 10回 Talking about entertainment
- 11回 Talking about music and movies
- 12回 Talking about recent meals
- 13回 Talking about exotic foods and eating out
- 14回 Talking about dream jobs
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

試験を受験しなかった場合は、評価不能（ - ）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.).

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English IV (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor タッド・ジェイ・レオナルド / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This Communicative English course challenges students to analyze and learn the meaning of English words and expressions through carefully designed student-centered activities that primarily focus on listening and speaking; and secondarily on reading (with a writing activity included). A fifth skill--the cultural component of language--is included contextually within a short reading that pinpoints a cultural theme that was mentioned in the DIALOGUE portion of the lesson. The content of each lesson is not only practical in nature, but uses language that is spoken on a daily basis by native English speakers throughout the United States and Canada.

Each lesson is divided into the following sections:

1. DIALOGUE presents the lesson's main text via a recording. In class, students first listen to the dialogue while noting the colloquial expressions; then they read the dialogue individually.
2. VOCABULARY EXPANSION outlines and defines the new words and phrases of the dialogue. Students receive further reinforcement of the vocabulary with additional example usages.
3. COMPREHENSION QUESTIONS require a basic understanding of the dialogue by asking questions that test students' ability to remember and then quickly scan the text to find the appropriate answers.
4. MATCHING allows students to "match" the lesson's vocabulary phrases with appropriate responses. This also tests students' understanding of the material by challenging them to select an answer based on context.
5. MINI-DIALOGUES incorporate the new vocabulary and phrases from the DIALOGUE and VOCABULARY EXPANSION in three mini-conversations. This cloze activity requires the students to first listen to the dialogues while filling in the missing vocabulary, then to role-play the dialogues with a partner.
6. CULTURAL CLOSE-UP focuses on a cross-cultural theme presented in the lesson. Each lesson's reading concentrates on one aspect of culture that was mentioned in the lesson. Two additional tasks are included with each reading: VOCABULARY BUILDER and SHORT ANSWER.

教科書 /Textbooks

Talk Talk Going Places published by Halico Creative Education, Tokyo. ISBN: 978-4-909730-619 by Todd Jay Leonard (author) (2,420 yen)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Any hardcopy or digital English-Japanese dictionary is recommended.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class 1: Teacher and student introductions and course orientation.
 Class 2: Meeting a Friend by Accident. pp. 4-9.
 Class 3: You Wouldn't be Tom Hanley, Would You?. pp. 10-15
 Class 4: Allow Me to Introduce Myself. pp.16-21
 Class 5: In-Class Midterm Speaking Exam: Topic--Self Introductions.
 Class 6: It's a Pleasure to Meet You. pp.22-27
 Class 7: Let's do Lunch. pp.28-33
 Class 8: Making an Appointment. pp.34-39
 Class 9: Let's have a Party. pp.40-45
 Class 10: I Need a Vacation! pp.46-51
 Class 11: I think I'm Lost. pp. 52-57
 Class 12: May I Take a Message. pp. 58-63
 Class 13: Calling and Leaving a Message. pp.64-69
 Class 14: Leaving a Voice Mail Message. pp.70-75
 Class 15: Preparation for Final Speaking Exam

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation and Assignments: 50%

Midterm (25%) and Final Speaking Exam: 25%

試験を受験しなかった場合は、評価不能(－)とします。Students who do not attend the final exam will be awarded (-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

This class is intensive in nature and because it is a skills-based class, attendance is very important. Active participation in class will garner students extra points that will be used to enhance the other grade components of the course. This course is best suited to high-beginner to intermediate level students of English. Because it is based on situational dialogues, it will be especially beneficial for students looking to increase their vocabulary and to learn practical, everyday English that will help them when using English while traveling or working and conversing with other English speakers.

履修上の注意 /Remarks

Students must have their own textbook, a notebook or paper, a highlighter, and a black or blue and a red pen to be prepared for my lessons. The textbook serves as a workbook, so it is very important and necessary for students to bring and use their textbook to every lesson.

If a student must miss class due to a university function or official club activity, I will need an official note from the university organization detailing the event that requires the student from attending the lesson. Also, if a student is ill, and brings a note from the hospital, I will not count that as an absence.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I expect students to be in attendance, attentive, and prepared during my lessons. I don't like it when students are chronically late to class. Please be on time and ready when the class begins. Occasionally, due to weather or other unforeseen circumstances, I understand if a student is late when it can't be helped (e.g. a train is late, etc) as long as it does not become a weekly habit.

キーワード /Keywords

ESL, EFL, Communicative English, Cross-Cultural Understanding

Communicative English IV (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This is an "Active Learning" style course.

We will work together and enjoy watching videos and conversations in English.

We will then assess each other and make our own videos.

You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics on paper, in Moodle, and on video.

*Topics range: Social issues (theft, internet, discrimination), brain science (how we learn, memory tips, stress relief), personal growth (empathy vs sympathy, digital addiction, fair assessments)

動画やムードルを多く使うActive Learning授業です。

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、動画作り等でコミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

なし
(see MOODLE)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし
(see MOODLE)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing in Moodle: WHAT IS ACTIVE LEARNING?
- 第2回 Chapter 1 (社会現象) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第3回 Chapter 1 (社会現象) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第4回 Chapter 1 (社会現象) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第5回 Chapter 1 (社会現象) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
- 第6回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 1: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第7回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 2: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第8回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 3: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第9回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
- 第10回 "BIG Thinking Sheet": Summarizing your learning from Chapters 1 and 2.
- 第11回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第12回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第13回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment. FINALE/BIG Thinking Sheet.
- 第14回 "BIG Advice Week": Learn how to do well on the final essay. Upload to Moodle and peer assess each other.
- 第15回 Writing day: "Final Essay" and "Self-assessments"

Communicative English IV (律政群 1 - G) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- (a) Chapter 1 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (b) Chapter 2 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (c) Chapter 3 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (d) 英作文試験：フリップやMoodleフォーラム学習のまとめ (Final Essay) 15%
- (e) 「Active Learning」 自主的な活動の評価(フリップ、動画、投稿等の自主的なアップグレード回数と「深さ」、先生との対話等) 40%

*If you fail to submit the final report, you will be given a (-); you must therefore fully participate in Week 14 and 15.

* 1 4 周目と 1 5 周目の課題をすべて提出しなかった場合は、調査不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎週MOODLEにアクセスをして、(1) 宿題や課題等をアップロード、(2) 変更等の確認をする。

Active Learningに積極的に参加しましょう。

履修上の注意 /Remarks

新型コロナウイルスの影響などにより授業形式が変わる可能性があるため(遠隔〜対面) 必ず事前にMOODLEにて確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生が知って得する「脳の秘密」や流行ってる動画等を観て評価する授業です。完全にActive Learning式の授業です。文法や単語のテストはありませんので、多くの方が思う「典型的」な英語の授業とは一味違います。「考えさせられる」英語ベースの動画を観て自分の深い考えが英語で語れるようになる、「深い」&「楽しい」クラスです。グループでの動画作りもあって、お互いに評価しあってレベルアップして行きます。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。

キーワード /Keywords

Active Learning, video-making, Moodle, peer assessment

Communicative English IV (律政群 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

Communicative EnglishIII・IV (共通)
この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の向上を目指します。
(到達目標)
【技能】英語 (読む、書く、聞く、話す) を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。
This course will focus on improving the students' communication skills in English by focusing on speaking and listening skills, improving grammar and building vocabulary. Pair work and group discussions will be used extensively and homework will be required to reinforce the lesson each week.

教科書 /Textbooks

Four Corners 2B (ISBN - 9781108627726)
Cambridge University Press
About ¥2,420

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Orientation
Introductions, Class Rules, Textbook, Homework, Grades
2. "Shopping"
Describing and comparing products. Using comparative adjectives, enough and too. / Opposites, adjectives to describe clothing. /
3. Unit listening and reading practice.
4. "Fun in the City."
Learning to talk about what you can do in a city. / Using "should" and adjectives to describe. / Asking for and giving recommendations.
5. Unit listening and reading practice.
6. "People"
Learning to ask about and talk about people from the past. / Personality adjectives, certainty and uncertainty. / Talking about people you admire.
7. Unit listening and reading practice.
8. Mid-Term Revision
9. "In a Restaurant"
Learning to talk about menus and eating out. / Using present perfect to talk about experiences. / Menu items, ordering food, checking information.
10. Unit listening and reading practice.
11. Entertainment"
Learning to talk about movie habits and opinions. / Using so, too, either, neither. / Giving and making suggestions, types of music and movies.
12. Unit listening and reading practice.
13. "Time for a Change"
Learning to talk about reasons for personal changes. / Using infinitives of purpose, will, may, might. / Reacting to good or bad news.
14. Unit listening and reading practice.
15. Final revision for testing.

成績評価の方法 /Assessment Method

- 33.33% - Final Test
- 33.33% - Homework
- 33.33% - Active participation in class.

試験を受験しなかった場合は、評価不能(－)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Homework will be given every week to reinforce what was studied in class. Preparation for future lessons will not be necessary.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please relax and enjoy the class. Don't worry about making mistakes, just do your best to communicate!

キーワード /Keywords

Listening, Speaking, Vocabulary Building, Grammar Expansion

Communicative English IV (律政群 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイテイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening, reading, writing and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at an intermediate level of English.

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

World English 2B (3rd ed.), Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase, Cengage Learning, ISBN: 978-0-357-13032-2

¥3,025

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Topic 1: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 3回 Topic 1: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 4回 Topic 1: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 5回 Topic 2: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 6回 Topic 2: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 7回 Topic 2: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 8回 Topic 3: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 9回 Topic 3: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 10回 Topic 3: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 11回 Topic 4: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 12回 Topic 4: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 13回 Topic 4: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 14回 Final Test Preparation/Project Presentation
- 15回 Final Test Preparation/ Project Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 30%, Quizzes and Presentations 20%, Final Exam 20%

Student's not attending the final exam will receive a (-) grade.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build writing skills and prepare for topic related idea sharing activities. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an active learning environment and requires active participation and sharing in an all-English setting. Enthusiasm and a willingness to speak out and contribute to a positive classroom environment is expected.

キーワード /Keywords

Communicative English IV (律政群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

Basic English skills for everyday spoken and written communication. Clearly stated learning goals and 'can-do' statements for every lesson allow students to track their progress right through the course. This course also includes training for making effective professional and academic presentations.

教科書 /Textbooks

Four Corners 2B (Cambridge University Press)

「税込価格：2,200円」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Orientation
- 第2回：Shopping 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第3回：Shopping 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第4回：Fun in the City 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第5回：Fun in the City 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第6回：People 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第7回：People 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第8回：Presentation 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第9回：In a Restaurant 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第10回：In a Restaurant 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第11回：Entertainment 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第12回：Entertainment 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第13回：Time for a Change 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第14回：Time for a Change 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第15回：Presentation 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (40%), presentations (20%) and homework assignments (40%)

Students that fail to submit the final assignments as directed by the instructor will be assessed as (-) 【評価不能】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for the course and complete any assignments

履修上の注意 /Remarks

Be careful to complete all homework assignments for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Everyday conversation

Communicative English IV (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力(ライティング力)と話す力(スピーキング力)の向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course should give you a chance to use the English you have studied in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 2B 3rd edition by K. Wilson & T.Healy ISBN 9780194602785 2695yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary will be useful.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 7 There are too many stores! (A)
Week 3 Unit 7 There are too many stores! (B)
Week 4 Unit 8 I like people who are smart. (A)
Week 5 Unit 8 I like people who are smart. (B)
Week 6 Unit 9 What were you doing? (A)
Week 7 Unit 9 What were you doing? (B)
Week 8 Review of Units 7-9
Week 9 Unit 10 It must be an earthquake! (A)
Week 10 Unit 10 It must be an earthquake! (B)
Week 11 Unit 11 I used to sing. (A)
Week 12 Unit 11 I used to sing. (B)
Week 13 Unit 12 If you live downtown (A)
Week 14 Unit 12 If you live downtown (B)
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
40% PowerPoint and Reports
45% Class participation and Quizzes

試験 * を受験しなかった場合は、調査不能(－)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should check Moodle each week, complete all assigned homework tasks and prepare for any presentation or role-play work assigned.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you in class. Let's enjoy the class.

キーワード /Keywords

Communicative English IV (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

Communicative EnglishIII・IV (共通)
 この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の向上を目指します。
 (到達目標)
 【技能】英語 (読む、書く、聞く、話す) を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。
 This course will focus on improving the students' communication skills in English by focusing on speaking and listening skills, improving grammar and building vocabulary. Pair work and group discussions will be used extensively and homework will be required to reinforce the lesson each week.

教科書 /Textbooks

Four Corners 2B (ISBN - 9781108627726)
 Cambridge University Press
 About ¥2,420

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

Communicative English IV (律政群 1 - C) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Orientation
Introductions, Class Rules, Textbook, Homework, Grades
2. "Shopping"
Describing and comparing products. Using comparative adjectives, enough and too. / Opposites, adjectives to describe clothing. /
3. Unit listening and reading practice.
4. "Fun in the City."
Learning to talk about what you can do in a city. / Using "should" and adjectives to describe. / Asking for and giving recommendations.
5. Unit listening and reading practice.
6. "People"
Learning to ask about and talk about people from the past. / Personality adjectives, certainty and uncertainty. / Talking about people you admire.
7. Unit listening and reading practice.
8. Mid-Term Revision
9. "In a Restaurant"
Learning to talk about menus and eating out. / Using present perfect to talk about experiences. / Menu items, ordering food, checking information.
10. Unit listening and reading practice.
11. Entertainment"
Learning to talk about movie habits and opinions. / Using so, too, either, neither. / Giving and making suggestions, types of music and movies.
12. Unit listening and reading practice.
13. "Time for a Change"
Learning to talk about reasons for personal changes. / Using infinitives of purpose, will, may, might. / Reacting to good or bad news.
14. Unit listening and reading practice.
15. Final revision for testing.

成績評価の方法 /Assessment Method

- 33.33% - Final Test
- 33.33% - Homework
- 33.33% - Active participation in class.

試験を受験しなかった場合は、評価不能(－)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Homework will be given every week to reinforce what was studied in class. Preparation for future lessons will not be necessary.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please relax and enjoy the class. Don't worry about making mistakes, just do your best to communicate!

キーワード /Keywords

Listening, Speaking, Vocabulary Building, Grammar Expansion

Communicative English IV (律政群 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This is an "Active Learning" style course.

We will work together and enjoy watching videos and conversations in English.

We will then assess each other and make our own videos.

You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics on paper, in Moodle, and on video.

*Topics range: Social issues (theft, internet, discrimination), brain science (how we learn, memory tips, stress relief), personal growth (empathy vs sympathy, digital addiction, fair assessments)

動画やムードルを多く使うActive Learning授業です。

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、動画作り等でコミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

なし
 (see MOODLE)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし
 (see MOODLE)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing in Moodle: WHAT IS ACTIVE LEARNING?
- 第2回 Chapter 1 (社会現象) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第3回 Chapter 1 (社会現象) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第4回 Chapter 1 (社会現象) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第5回 Chapter 1 (社会現象) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
- 第6回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 1: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第7回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 2: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第8回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 3: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第9回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
- 第10回 "BIG Thinking Sheet": Summarizing your learning from Chapters 1 and 2.
- 第11回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第12回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第13回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment. FINALE/BIG Thinking Sheet.
- 第14回 "BIG Advice Week": Learn how to do well on the final essay. Upload to Moodle and peer assess each other.
- 第15回 Writing day: "Final Essay" and "Self-assessments"

Communicative English IV (律政群 1 - D) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- (a) Chapter 1 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (b) Chapter 2 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (c) Chapter 3 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (d) 英作文試験：フリップやMoodleフォーラム学習のまとめ (Final Essay) 15%
- (e) 「Active Learning」 自主的な活動の評価(フリップ、動画、投稿等の自主的なアップグレード回数と「深さ」、先生との対話等) 40%

*If you fail to submit the final report, you will be given a (-); you must therefore fully participate in Week 14 and 15.

* 1 4 周目と 1 5 周目の課題をすべて提出しなかった場合は、調査不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎週MOODLEにアクセスをして、(1) 宿題や課題等をアップロード、(2) 変更等の確認をする。

Active Learningに積極的に参加しましょう。

履修上の注意 /Remarks

新型コロナウイルスの影響などにより授業形式が変わる可能性があるので(遠隔〜対面)必ず事前にMOODLEにて確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生が知って得する「脳の秘密」や流行ってる動画等を観て評価する授業です。完全にActive Learning式の授業です。文法や単語のテストはありませんので、多くの人が思う「典型的」な英語の授業とは一味違います。「考えさせられる」英語ベースの動画を観て自分の深い考えが英語で語れるようになる、「深い」&「楽しい」クラスです。グループでの動画作りもあって、お互いに評価しあってレベルアップして行きます。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。

キーワード /Keywords

Active Learning, video-making, Moodle, peer assessment

Communicative English V (律政群 2 C-E) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主に TOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC形式に準拠したテキストなどを用いて、リスニングとリーディングの英語力向上を目指します。各種練習問題を通してTOEIC問題形式に慣れるとともに、英語力を高めながらTOEICに対応する力をつけていきます。

教科書 /Textbooks

“Level-up Trainer for the TOEIC Test, Revised Edition”
(著者) Ayako Yokogawa, Tony Cook (センゲージ・ラーニング) (¥2,310 [税込])
ISBN: 978-4-86312-294-9

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『TOEIC®テスト新公式問題集』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation (授業の進め方やTOEICスコアの反映方法について説明)
- 2回 Pre-test の実施。
- 3回 Unit 1 テキスト形式を知る
- 4回 Unit 2 基本戦略①
- 5回 Unit 3 基本戦略②
- 6回 Unit 4 英文の基本構造を見抜く
- 7回 Unit 5 解答根拠の登場順
- 8回 Unit 6 正解の言い換えパターンを知る
- 9回 Unit 7 機能疑問文を聞き取る
- 10回 Unit 8 動詞の時制を見極める
- 11回 Unit 9 接続詞 vs. 前置詞
- 12回 Unit 10 複数パッセージの攻略
- 13回 Unit 11 続副詞に強くなる
- 14回 Unit 12 NOT型設問のコツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、期末試験...50%、平常の授業への取組 (小テストを含む)...30%、e-learning 学習状況...20%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。
最終評価にはTOEIC スコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明しますので、その指示に従いましょう。
①音声ファイルを必ずダウンロードして活用しましょう。
②巻末の「頻出語句リスト」を活用し、単語をどんどん覚えていきましょう。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられていますので、第1回の授業に必ず出席して説明を受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。
授業の詳細は、初回の授業で説明します。
授業以外でも英字新聞や英語ニュース等を通して英語にふれるようにしましょう。
予習・復習をしましょう。

キーワード /Keywords

Communicative English V (律政群 2 C-F) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC(R) L&Rテスト）の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

- ① SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST : INTERMEDIATE 「レベル別TOEIC L&Rテスト実力養成コース：中級編」 番場直之 他著 金星堂 ￥2200(税込)
- ② TOEIC L&R TEST出る単特急 銀のフレーズ TEX加藤 著 朝日新聞出版 ￥979(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit 1 Travel
- 3回 Unit 2 Dining Out
- 4回 Unit 3 Media
- 5回 Unit 4 Entertainment
- 6回 Unit 5 Purchasing
- 7回 Unit 6 Clients
- 8回 Unit 7 Recruiting
- 9回 Unit 8 Personnel
- 10回 Unit 9 Advertising
- 11回 Unit 10 Meetings
- 12回 Unit 11 Finance
- 13回 Unit 12 Offices
- 14回 Unit 13 Daily Life
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(30%)、筆記試験(50%)、e-learning学習状況(20%)

- ・小テストを8回以上受験しなかった場合、または定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。
- ・最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：単語テストの準備
- 事後学習：学習内容の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回の授業に必ず出席してください。
- ・ 基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
- ・ 受講に際しては、テキストを必ず持参してください。
- ・ 単語テストなどの事前の準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English V (律政群 2 C-G) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC 形式に準拠したテキストを用いて、リーディングとリスニングを中心にして英語力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

“SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC® L & R TEST : INTERMEDIATE”

(著者) 早川幸治他共著 金星堂 ¥2,200

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1 Travel : Listening
- 3回 U. 1 : Reading
- 4回 Unit 2 Dining Out : Listening 、 U. 1単語小テスト
- 5回 U. 2 : Reading
- 6回 Unit 3 Media : Listening 、 U. 2単語小テスト
- 7回 U. 3 : Reading
- 8回 Unit 4 Entertainment : Listening 、 U. 3単語小テスト
- 9回 U. 4 : Reading
- 10回 Unit 5 Purchasing : Listening 、 U. 4単語小テスト
- 11回 U. 5 : Reading
- 12回 Unit 6 Clients : Listening 、 U. 5単語小テスト
- 13回 U. 6 : Reading
- 14回 Unit 7 Recruiting : Listening 、 U. 6単語小テスト
- 15回 U. 7 : Reading、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
 指定e-learningの学習状況：20%、期末試験：60%、日常の授業への取り組み(小テスト、宿題)：20%
 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示した予習課題、小テストの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

Communicative English V (律政群 2 C-A) 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

The purpose of this course is to enhance students' communicative ability and skills based on a TOEIC®-oriented exercises. In addition to grammar and vocabulary, the course aims at improvement in reading and listening comprehension.

The class is conducted both in English and Japanese.

Students are required to look up a dictionary before the class for any words or phrases in the textbook that they do not know or have forgotten. They are also expected to work on exercises in the textbook before the class.

Active participation in the class is expected.

この授業の目的は、TOEIC®に準拠した演習に基づき、受講生のコミュニケーション能力とスキルを向上させることです。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。

この授業は英語および日本語で行われます。

受講生は教科書で分からない、あるいは忘れてしまった語句の意味は授業前に必ず調べておいて下さい。また、教科書の練習問題も授業前に必ず取り組んでおいて下さい。

授業への積極的な参加を期待します。

教科書 /Textbooks

Bamba, Naoyuki et al. 2019. "Score Booster for the TOEIC® L&R Test Intermediate (レベル別 TOEIC® L&Rテスト実力養成コース：中級編)." Tokyo: Kinseido. (¥2200 (税込))

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Will be introduced in the class. 授業中に適宜紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction Unit 1
2. Units 1 and 2
3. Units 2 and 3
4. Units 3 and 4
5. Units 4 and 5
6. Units 5 and 6
7. Units 6 and 7
8. Units 7 and 8
9. Units 8 and 9
10. Units 9 and 10
11. Units 10 and 11
12. Unit 12
13. Unit 13
14. Unit 14
15. Unit 15

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation in the class 授業への参加度 ...10%
Degree of execution in designated e-learning 指定 e-learning の学習状況...20%
Final examination 期末試験...70%

Note that if you do not take the final examination, the grade will be "unevaluable (-)".
定期試験を受験しなかった場合は評価不能(－)となります。

The TOEIC® score will be reflected onto the final grade. The details will be given in a document to be distributed in the first class, and will be explained.

最終評価にはTOEIC®スコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Before the class:

1. Look up a dictionary for any words or phrases in the textbook that you do not know or have forgotten.
教科書で分からない、あるいは忘れてしまった語句の意味を調べておく。
2. Work on exercises in the textbook.
教科書の練習問題に取り組んでおく。

After the class:

1. Review the textbook and grasp the content, vocabulary and grammar.
教科書を復習し、内容、語彙、文法を把握する。
2. Review the exercises, focusing on the questions that you did not get right.
練習問題を復習し、特に間違えた問題を再確認する。

履修上の注意 /Remarks

No chatting allowed. 私語をしない。
No activities unrelated to the class allowed. 授業に関係ないことをしない。

In accordance with the policy for English education established by the Center for Fundamental Education, students are in principle required to take the TOEIC® once a semester.

Make sure to attend the first class.
基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC® (TOEFL) を受験することが義務づけられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English V (律政群 2 C-B) 【昼】

担当者名 /Instructor 百武 玉恵 / Tamae Hyakutake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC(R) L&R)の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業では、TOEIC形式に準拠したテキストなどを用いて、リスニングとリーディングの英語力向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Score Booster for the TOEIC(R) L&R Test: Intermediate
(著者) 番場直之・小山克明 金星堂 (¥2,200 [税込])

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時やMoodle(学習管理システム)にて適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、プレイズメント・テスト
- 2回 Unit 1 Travel
- 3回 Unit 2 Dining Out
- 4回 Unit 3 Media
- 5回 Unit 4 Entertainment
- 6回 Unit 5 Purchasing
- 7回 Unit 6 Clients
- 8回 Unit 7 Recruiting
- 9回 Unit 8 Personnel
- 10回 Unit 9 Advertising
- 11回 Unit 10 Meetings
- 12回 Unit 11 Finance
- 13回 Unit 12 Offices
- 14回 Unit 13 Daily Life
- 15回 Unit 14 Sales & Marketing

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：30%、平常の授業への取り組み（小テストを含む）：50%、 e-learning学習状況：20%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

評価不能（－）について

期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり、Moodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

Communicative English V (律政群 2 C-C) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主に TOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業では、教科書の TEST 1 を使用して、リスニングとリーディングの英語力向上を目指します。

教科書 /Textbooks

公式 TOEIC (R) Listening & Reading 問題集 7 （国際コミュニケーション協会）(3,300円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

公式 TOEIC (R) Listening & Reading 問題集 1~6、8 （国際コミュニケーション協会）(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Part 1, Part 5 (1)
- 3回 Part 2, Part 5 (2)
- 4回 Part 3, Part 5 (3)
- 5回 Part 4, Part 5 (4)
- 6回 リスニングのまとめ
- 7回 TOEIC 演習
- 8回 Part 6
- 9回 Part 7 : Single passage (1)
- 10回 Part 7 : Single passage (2)
- 11回 Part 7 : Double passage (1)
- 12回 Part 7 : Double passage (2)
- 13回 Part 7 : Triple passage (1)
- 14回 Part 7 : Triple passage (2)
- 15回 リーディングのまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...30%、平常の授業への取り組み（小テスト、課題などを含む）...50%、e-learning 学習状況...20%
最終評価には TOEIC スコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
小テストを一回も受験しなかったら、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり Moodle 上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

Communicative English V (律政群 2 C-D) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験(主に TOEIC (R) L&R)の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

TOEICの学習を通して、単語の覚え方、リスニングのコツ、基礎英文法、トレーニングのしかたなど英語学習を将来的に自力で成し遂げていくために必要なことをお伝えしていきます。TOEICでの受験のポイント、コツだけではなく、英語力自体を高めていけるように授業をデザインしていますので、皆さんも積極的に受講してください。

教科書 /Textbooks

公式TOEIC® Listening & Reading 問題集 7 978-4-906033-61-4
Educational Testing Service 国際ビジネスコミュニケーション協会 2020.1
¥3,300

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 1 - 8』国際ビジネスコミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . ガイダンス (グループ分け、単語学習アプリの紹介とダウンロード手続き、アイスブレイク)
- 2 . Part 2
- 3 . Part 2
- 4 . Part 3
- 5 . Part 3
- 6 . Part 4
- 6 . Part 4
- 7 . Part 5
- 8 . Part 5
- 9 . Part 5
- 1 0 . Part 7 SP (single passage)
- 1 1 . Part 7 SP
- 1 2 . Part 7 DP,TP (double passage, triple passage)
- 1 3 . Part 7 DP,TP
- 1 4 . Part 6
- 1 5 . Part 1 , まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内課題：20%
指定 e-learning の学習状況: 20%
小テスト：10%
期末試験：50%
期末試験を受験しなかった場合は評価不能(－)とします。
最終評価には TOEIC スコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内やMoodle上で指示を出すので必ず確認をしてください。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

TOEICのテキストに収録されている英語はしっかりとトレーニングをすればとても「使える」英語です。英語のトレーニングは個人、ペア、グループでいろいろとあります。楽しんで受講してください。

授業ではアプリ、Moodleを使用しますので、スマートフォン、タブレット、ノートPCなどのデバイスを必ず持参してください。

キーワード /Keywords

Communicative English VI (律政群 2 C-E) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			
科目名	Communicative English VI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験 (TOEIC(R) L&Rテスト) の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

(到達目標)

【技能】英語 (読む、書く、聞く、話す) を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

- ① PERFECT PRACTICE FOR THE TOEIC L&R TEST—Revised Edition—「TOEIC L&R TESTパーフェクト演習—改訂新版—」 石井隆之 他著 成美堂 ¥2420(税込)
- ② TOEIC L&R TEST出る単特急 銀のフレーズ TEX加藤著 朝日新聞出版 ¥979(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit 1 Studying Abroad
- 3回 Unit 2 International Conference
- 4回 Unit 3 Holidays
- 5回 Unit 4 Leisure
- 6回 Unit 5 Restaurant
- 7回 Unit 6 Online Shopping
- 8回 Unit 7 Global Warming
- 9回 Unit 8 Websites
- 10回 Unit 9 Workplace
- 11回 Unit 10 Nursing Care
- 12回 Unit 11 Global Trading
- 13回 Unit 12 Eco-Friendly Economy
- 14回 Unit 13 Business Trips
- 15回 Unit 14 Hybrid Cars

成績評価の方法 /Assessment Method

- 小テストによる平常点(30%)、筆記試験(50%)、e-learning学習状況(20%)
- ・小テストを8回以上受験しなかった場合、または定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。
- ・最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：単語テストの準備
- 事後学習：学習内容の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回の授業に必ず出席してください。
- ・ 基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
- ・ 受講に際しては、テキストを必ず持参してください。
- ・ 事前に準備が必要な小テストに関しては、各自自宅ですべての暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VI (律政群 2 C - F) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			

科目名	Communicative English VI
-----	--------------------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC形式に準拠したテキストを用いて、リーディングとリスニングを中心にして英語力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

ALL-ROUND TRAINING FOR THE TOEIC® LISTENING AND READING TEST”
(TOEIC LISTENING AND READING TEST オールラウンド演習) (著者) 石井隆之他共著 成美堂 ¥2,420

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、語彙演習
- 2回 Unit 1 Restaurant : Listening
- 3回 U. 1 : Reading
- 4回 Unit 2 Department Store : Listening 、 U. 1単語小テスト
- 5回 U. 2 : Reading
- 6回 Unit 3 Train Station : Listening 、 U. 2単語小テスト
- 7回 U. 3 : Reading
- 8回 Unit 4 Transportation : Listening 、 U. 3単語小テスト
- 9回 U. 4 : Reading
- 10回 Unit 5 Post Office : Listening 、 U. 4単語小テスト
- 11回 U. 5 : Reading
- 12回 Unit 6 Bank : Listening 、 U. 5単語小テスト
- 13回 U. 6 : Reading
- 14回 Unit 7 Airport : Listening 、 U. 6単語小テスト
- 15回 U. 7 : Reading 、 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
指定e-learningの学習状況：20%、期末試験：60%、日常の授業への取り組み(小テスト、宿題)：20%
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示した予習課題、小テストの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

Communicative English VI (律政群 2 C-G) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			
科目名	Communicative English VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主に TOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業では、教科書の TEST 2 を使用して、リスニングとリーディングの英語力向上を目指します。

教科書 /Textbooks

公式 TOEIC(R) Listening & Reading 問題集 8 （国際コミュニケーション協会）（3,300円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

公式 TOEIC(R) Listening & Reading 問題集 1～7 （国際コミュニケーション協会）(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Part 1, Part 5 (1)
- 3回 Part 2, Part 5 (2)
- 4回 Part 3, Part 5 (3)
- 5回 Part 4, Part 5, (4)
- 6回 リスニングのまとめ
- 7回 TOEIC 演習
- 8回 Part 6
- 9回 Part 7 : Single passage (1)
- 10回 Part 7 : Single passage (2)
- 11回 Part 7 : Double passage (1)
- 12回 Part 7 : Double passage (2)
- 13回 Part 7 : Triple passage (1)
- 14回 Part 7 : Triple passage (2)
- 15回 リーディングのまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...30%、平常の学習状況（小テスト、課題等を含む）...50%、e-learning 学習状況...20%
最終評価には TOEIC スコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
小テストを一回も受験しなかったら、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり Moodle 上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

Communicative English VI (律政群 2 C - A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			
科目名	Communicative English VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC形式に準拠したテキストを用いて、リーディングとリスニングを中心にして英語力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

- ① “ALL-ROUND TRAINING FOR THE TOEIC® LISTENING AND READING TEST”
（TOEIC LISTENING AND READING TEST オールラウンド演習）（著者）石井隆之他共著 成美堂 ¥2,420
- ② “TOEIC®L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ”（著者）TEX加藤 朝日新聞出版 ¥979

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、語彙演習
- 2回 Unit 1 Restaurant、(金のフレーズ)単語小テスト1
- 3回 Unit 2 Department Store、U.1単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト2
- 4回 Unit 3 Train Station、U.2単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト3
- 5回 Unit 4 Transportation、U.3単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト4
- 6回 Unit 5 Post Office、U.4単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト5
- 7回 Unit 6 Bank、U.5単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト6
- 8回 Unit 7 Airport、U.6単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト7
- 9回 Unit 8 Hotel、U.7単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト8
- 10回 Unit 9 Hospital、U.8単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト9
- 11回 Unit 10 Events and Performances、U.9単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト10
- 12回 Unit 11 College、U.10単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト11
- 13回 Unit 12 Office、U.11単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト12
- 14回 Unit 13 Business Trip、U.12単語小テスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
指定e-learningの学習状況：20%、期末試験：60%、日常の授業への取り組み(小テスト、宿題)：20%
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示した予習課題、小テストの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

Communicative English VI (律政群 2 C - B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 C - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			
科目名	Communicative English VI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

The purpose of this course is to enhance students' communicative ability and skills based on a TOEIC®-oriented exercises. In addition to grammar and vocabulary, the course aims at improvement in reading and listening comprehension.

The class is conducted both in English and Japanese.

Students are required to look up a dictionary before the class for any words or phrases in the textbook that they do not know or have forgotten. They are also expected to work on exercises in the textbook before the class.

Active participation in the class is expected.

この授業の目的は、TOEIC®に準拠した演習に基づき、受講生のコミュニケーション能力とスキルを向上させることです。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。

この授業は英語および日本語で行われます。

受講生は教科書で分からない、あるいは忘れてしまった語句の意味は授業前に必ず調べておいて下さい。また、教科書の練習問題も授業前に必ず取り組んでおいて下さい。

授業への積極的な参加を期待します。

教科書 /Textbooks

Ishii, Takayuki, et al. 2020. "ALL-ROUND TRAINING FOR THE TOEIC® L & R TEST (TOEIC® L&R TEST オールラウンド演習)." Tokyo: Seibido. (¥2420 (税込))

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Will be introduced in the class. 授業中に適宜紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction Unit 1
2. Units 1 and 2
3. Units 2 and 3
4. Units 3 and 4
5. Units 4 and 5
6. Units 5 and 6
7. Units 6 and 7
8. Units 7 and 8
9. Units 8 and 9
10. Units 9 and 10
11. Units 10 and 11
12. Units 11 and 12
13. Unit 12
14. Unit 13
15. Unit 14

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation in the class 授業への参加度 ...10%
Degree of execution in designated e-learning 指定 e-learning の学習状況...20%
Final examination 期末試験...70%

Note that if you do not take the final examination, the grade will be "unevaluatable (-)".
定期試験を受験しなかった場合は評価不能 (-) となります。

The TOEIC® score will be reflected onto the final grade. The details will be given in a document to be distributed in the first class, and will be explained.

最終評価にはTOEIC®スコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Before the class:

1. Look up a dictionary for any words or phrases in the textbook that you do not know or have forgotten.
教科書で分からない、あるいは忘れてしまった語句の意味を調べておく。
2. Work on exercises in the textbook.
教科書の練習問題に取り組んでおく。

After the class:

1. Review the textbook and grasp the content, vocabulary and grammar.
教科書を復習し、内容、語彙、文法を把握する。
2. Review the exercises, focusing on the questions that you did not get right.
練習問題を復習し、特に間違えた問題を再確認する。

履修上の注意 /Remarks

No chatting allowed. 私語をしない。
No activities unrelated to the class allowed. 授業に関係ないことをしない。

In accordance with the policy for English education established by the Center for Fundamental Education, students are in principle required to take the TOEIC® once a semester.

Make sure to attend the first class.
基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC® (TOEFL) を受験することが義務づけられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VI (律政群 2 C - C) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			
科目名	Communicative English VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験(主に TOEIC (R) L&R)の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

TOEICの学習を通して、単語の覚え方、リスニングのコツ、基礎英文法、トレーニングのしかたなど英語学習を将来的に自力で成し遂げていくために必要なことをお伝えしていきます。TOEICでの受験のポイント、コツだけではなく、英語力自体を高めていけるように授業をデザインしていますので、皆さんも積極的に受講してください。

教科書 /Textbooks

公式TOEIC® Listening & Reading 問題集 8 978-4-906033-63-8
Educational Testing Service 国際ビジネスコミュニケーション協会 2021.1
¥3,300

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 1 - 8』国際ビジネスコミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . ガイダンス (グループ分け、単語学習アプリの紹介とダウンロード手続き、アイスブレイク)
- 2 . Part 2
- 3 . Part 2
- 4 . Part 3
- 5 . Part 3
- 6 . Part 4
- 6 . Part 4
- 7 . Part 5
- 8 . Part 5
- 9 . Part 5
- 10 . Part 7 SP (single passage)
- 11 . Part 7 SP
- 12 . Part 7 DP,TP (double passage, triple passage)
- 13 . Part 7 DP,TP
- 14 . Part 6
- 15 . Part 1 , まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内課題：20%
 指定 e-learning の学習状況: 20%
 小テスト：10%
 期末試験：50%
 期末試験を受験しなかった場合は評価不能(－)とします。
 最終評価には TOEIC スコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内やMoodle上で指示を出すので必ず確認をしてください。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

TOEICのテキストに収録されている英語はしっかりとトレーニングをすればとても「使える」英語です。英語のトレーニングは個人、ペア、グループでいろいろとあります。楽しんで受講してください。

授業ではアプリ、Moodleを使用しますので、スマートフォン、タブレット、ノートPCなどのデバイスを必ず持参してください。

キーワード /Keywords

Communicative English VI (律政群 2 C-D) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			
科目名	Communicative English VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験(主にTOEIC L&R)の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

基礎的な文法・語法学習並びにリーディングとリスニングの基礎力をつけていきます。翌授業の最初に前回授業の復習として小テストを実施します。毎回の小テストは70点以上を取るようになしてください。当クラスの今学期におけるTOEIC目標スコアは、「500点」です。(このスコアは前年度を参考に出しています)

教科書 /Textbooks

TOEIC® L&R TEST オールラウンド演習 ALL-ROUND TRAINING FOR THE TOEIC® L&R TEST
著者 石井 隆之 他共著 成美堂 ¥2,420 (税込み)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション&基礎文法(品詞・句・節)
- 2回 Unit 1 Listening & 基礎文法(文型 1)
- 3回 Unit 1 Reading & 基礎文法(文型 2)
- 4回 Unit 2 Listening & 基礎文法(動詞 1)
- 5回 Unit 2 Reading & 基礎文法(動詞 2)
- 6回 Unit 3 Listening & 基礎文法(動詞 3)
- 7回 Unit 3 Reading & 基礎文法(時制 1)
- 8回 Unit 4 Listening & 基礎文法(時制 2)
- 9回 Unit 4 Reading & 基礎文法(時制 3)
- 10回 Unit 5 Listening & 基礎文法(関係詞1)
- 11回 Unit 5 Reading & 基礎文法(関係詞2)
- 12回 Unit 6 Listening & 基礎文法(関係詞3)
- 13回 Unit 6 Reading & 基礎文法(比較)
- 14回 Unit 7 Listening & 基礎文法(比較)
- 15回 Unit 7 Reading & 基礎文法(特殊構文)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50%、平常の学習状況(小テストを含む)・・・30%、e-learning 学習状況・・・20%

※最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回授業で文書を配布して説明します。

※ 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

※欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には、原則として単位取得が難しくなります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の復習としての小テストの範囲、及び次回の学習範囲は授業の最後に告知します。その範囲を予習・復習してください。また、TOEICの多くの問題に取り組むことによって英語力も上がり、結果としてスコアも高くなります。常日頃から教科書に加えてTOEIC関連の問題集にも取り組んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画や授業内容は、受講生の理解度を見ながら進めていくため、変更が生じる場合がありますが、基本的に、上記の流れで学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

Communicative English VII (律政群 2 C - A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			

科目名	Communicative English VII
-----	---------------------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skills in one on one discussion style debate. Students will practice critical thinking and language skills, which will allow them to express their opinions and influence others through logical, reasoned discussion.

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

There is no textbook for this class. Curriculum is based on class handouts and student generated materials

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to Discussion and Debate
- 2回 Critical Thinking Skills: Providing Facts / Opinions / Supporting Ideas
- 3回 Responding to Facts & Opinions: Agreeing, Disagreeing & Giving Reasons
- 4回 Organization & Structure: Starting the Discussion / Matching Ideas / Ending the Discussion
- 5回 Positive Persuasive Discussion: Writing Time
- 6回 Positive Persuasive Discussion: Pair Presentation 1
- 7回 Pro / Con Discussion: Research & Write
- 8回 Pro / Con Debate Discussion: Peer Editing & Practice
- 9回 Pro / Con Debate Discussion: Pair Presentation 2
- 10回 Argumentative Debate: Research & Write
- 11回 Argumentative Debate: Presentation Skills & Practice
- 12回 Argumentative Debate: Pair Presentation 3
- 13回 Spontaneous Debate Challenge
- 14回 Final Test Preparation: Stage 1
- 15回 Final Test Preparation: Stage 2

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 20%, Presentations 30%, Final Exam 20%

Student's not attending the final exam will receive a (-) grade.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to have regular attendance and take part fully in class writing and speaking exercises. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students will be working closely with group members and will have to fulfill many tasks together. As student absence will affect pair and group success, all students are required to be present and active at all times.

キーワード /Keywords

Communicative English VII (律政群 2 C - B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			
科目名	Communicative English VII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

Smart Choice 3A Third Edition, Wilson Oxford University Press Oxford University Press 2592 yen
978-0194602853

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are expected to use a dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Describing hobbies present perfect continuous
- 2回 Personal profiles and drone rodeo
- 3回 I think it's exciting- adjectives in -ing and -ed
- 4回 Describing TV shows and indirect questions
- 5回 Passives and reductions of don't and do
- 6回 A tour of three art museums
- 7回 Review of first three units
- 8回 Describing people and relative clauses
- 9回 Famous friendships and online messaging
- 10回 Infinitives and gerunds
- 11回 An article about robots and auction ad
- 12回 Describing events and the past perfect
- 13回 A travel accident about past events
- 14回 Review of last three units
- 15回 Review for exam

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 80% Peer journal 20%

試験を受験しなかった場合は、評価不能（ - ）とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should prepare a weekly peer journal where they write about weekly activities

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VII (律政群 2 C - C) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			

科目名	Communicative English VII	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	---------------------------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

到達目標 - goals)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course aims to continue to consolidate students' basic English skills. The main focus is to further improve writing and speaking ability.

We will aim to complete units 1-6 of the textbook. All language skills will be taught and used in class.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 3A, (3rd Ed.) by K. Wilson and M. Boyle (2592yen)
ISBN: 978-0-19-460285-3

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 : Course introduction, requirements, grading advice.

第2回 : Unit 1 - 'I've been running' Vocabulary(用語), conversation (会話)(listening and speaking), language practice (文法)(grammar review), pronunciation(発音), and longer listening activity (長いリスニング).

第3回 : Speaking activity(スピーキング練習), reading(読書), and pair work(ペアワーク). Complete the review on pages 1-5 at the back of the book.(ワークブック

第4回: Unit 2: I wonder what it's about. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

第5回: Unit 2: Reading, speaking using pair work, and review of unit p6-10 at the back of the book. Answers given.

第6回: Unit 3: It was painted by Banksy. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

第7回: Unit 3: Reading, speaking using pair work, and review of unit p11-15 at the back of the book. Answers given.

第8回: Mid-term exam, based on units 1-3. 中間テスト (graded - 採点)

第9回: Unit 4: Who's your best friend? Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

第10回: Unit 4 : Reading, speaking using pair work, and review of unit p20-24 at the back of the book. Answers given.

第11回: Unit 5: Gotta have it! Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

第12回: Unit 5: Reading, speaking using pair work, and review of unit p25-29 at the back of the book. Answers given.

第13回: Unit 6: He'd never been abroad. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

第14回: Unit 6: Reading, speaking using pair work, and review of unit p30-34 at the back of the book. Answers given.

第15回: まとめ Final exam based on units 4-6. Exam explanation and how to prepare.

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid-term exam 50%

Final exam 50%

・ 試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

・ If you do not take the final exam, you will receive "—" on your transcript, not "D."

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, I would suggest to anyone to read the contents of the textbook ahead of time.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I look forward to teaching you.

キーワード /Keywords

Communicative English VII (律政群 2 C-D) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			

科目名	Communicative English VII
-----	---------------------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

Communicative EnglishVII (共通)
この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の更なる向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語 (読む、書く、聞く、話す) を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course will focus on improving the students' communication skills in English by focusing on speaking and listening skills, improving grammar and building vocabulary. Pair work and group discussions will be used extensively and homework will be required to reinforce the lesson each week.

教科書 /Textbooks

Four Corners 3A (ISBN - 9781108627726)

Cambridge University Press

About ¥2,420

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Orientation
Introductions, Class Rules, Textbook, Homework, Grades
2. "Education"
Learning to talk about routines. / Using present, present continuous. / Feelings, emotions, expressing prohibition, obligation.
3. "Education"
Unit listening and reading practice.
4. "Personal Stories"
Learning to talk about what happened in the past. / Using past continuous, past. / Using verbs to describe reactions, closing conversations.
5. "Personal Stories"
Unit listening and reading practice.
6. "Style and Fashion"
Learning to talk about and describe fashion. / Using "used to" and defining clauses. / Clothing styles and asking "where" questions.
7. "Style and Fashion"
Unit listening and reading practice.
8. Mid-Term Revision
9. "Interesting Lives"
Learning to talk about life experiences. / Using past present and simple past. / Experiences, checking and clarifying meaning.
10. "Interesting Lives"
Unit listening and reading practice.
11. "Our World"
Learning how to talk about human made structures. / Using comparatives and superlatives. / Expressing disbelief.
12. "Our World"
Unit listening and reading practice.
13. "Organizing Your Time"
Learning to talk about weekend plans. / Using present tense for future. / Taking and leaving messages, favors.
14. "Organizing Your Time"
Unit listening and reading practice.
15. Final Revision for Testing

成績評価の方法 /Assessment Method

- 33.33% - Final Test
- 33.33% - Homework
- 33.33% - Active participation in class.

試験を受験しなかった場合は、評価不能(－)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Homework will be given every week to reinforce what was studied in class. Preparation for future lessons will not be necessary.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please relax and enjoy the class. Don't worry about making mistakes, just do your best to communicate!

キーワード /Keywords

Listening, Speaking, Vocabulary Building, Grammar Expansion

Communicative English VII (律政群 2 C - E) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 C - E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			

科目名	Communicative English VII
-----	---------------------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

Basic English skills for everyday spoken and written communication. Clearly stated learning goals and 'can-do' statements for every lesson allow students to track their progress right through the course. This course also includes training for making effective professional and academic presentations.

教科書 /Textbooks

Four Corners 3A (Cambridge University Press)

「税込価格：2,200円」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Orientation
- 第2回：Education 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第3回：Education 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第4回：Personal Stories 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第5回：Personal Stories 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第6回：Presentation 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第7回：Style and Fashion 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第8回：Style and Fashion 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第9回：Interesting Lives 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第10回：Interesting Lives 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第11回：Presentation 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第12回：Our World 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第13回：Our World 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第14回：Organizing your time [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第15回：Presentation 3 [Speaking Skills] [Writing Skills]

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (45%), presentations (15%) and homework assignments (40%)

Students that fail to submit the final assignments as directed by the instructor will be assessed as (-) 【評価不能】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for the course and complete any assignments

履修上の注意 /Remarks

Be careful to complete all the homework assignments for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Everyday conversation

Communicative English VII (律政群 2 C - F) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			

科目名	Communicative English VII
-----	---------------------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

(到達目標 - goals)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course aims to continue to consolidate students' basic English skills. The main focus is to further improve writing and speaking ability.

We will aim to complete units 1-6 of the textbook. All language skills will be taught and used in class.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 3A, (3rd Ed.) by K. Wilson and M. Boyle (2592yen)
ISBN: 978-0-19-460285-3

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course introduction, requirements, grading advice.

Week 2: Unit 1: I've been running. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 3: Unit 1: Reading, speaking using pair work, and review of unit p1-5 at the back of the book. Answers given.

Week 4: Unit 2: I wonder what it's about. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 5: Unit 2: Reading, speaking using pair work, and review of unit p6-10 at the back of the book. Answers given.

Week 6: Unit 3: It was painted by Banksy. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 7: Unit 3: Reading, speaking using pair work, and review of unit p11-15 at the back of the book. Answers given.

Week 8: Mid-term exam, based on units 1-3. 中間テスト

Week 9: Unit 4: Who's your best friend? Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 10: Unit 4: Reading, speaking using pair work, and review of unit p20-24 at the back of the book. Answers given.

Week 11: Unit 5: Gotta have it! Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 12: Unit 5: Reading, speaking using pair work, and review of unit p25-29 at the back of the book. Answers given.

Week 13: Unit 6: He'd never been abroad. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 14: Unit 6: Reading, speaking using pair work, and review of unit p30-34 at the back of the book. Answers given.

Week 15: まとめ Final exam based on units 4-6. Exam explanation and how to prepare.

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid-term exam 50%

Final exam 50%

- ・ 試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ If you do not take the final exam, you will receive "—" on your transcript, not "D."

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, I would suggest to anyone to read the contents of the textbook ahead of time.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I look forward to teaching you.

キーワード /Keywords

Communicative English VII (律政群 2 C-G) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			

科目名	Communicative English VII	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	---------------------------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This is an "Active Learning" style course.

We will work together and enjoy watching videos and conversations in English.

We will then assess each other and make our own videos.

You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics on paper, in Moodle, and on video.

*Topics range: Social issues (theft, internet, discrimination), brain science (how we learn, memory tips, stress relief), personal growth (empathy vs sympathy, digital addiction, fair assessments)

動画やムードルを多く使うActive Learning授業です。

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、動画作り等でコミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

なし
(see MOODLE)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし
(see MOODLE)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing in Moodle: WHAT IS ACTIVE LEARNING?
- 第2回 Chapter 1 (社会現象) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第3回 Chapter 1 (社会現象) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第4回 Chapter 1 (社会現象) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第5回 Chapter 1 (社会現象) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
- 第6回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 1: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第7回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 2: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第8回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 3: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第9回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
- 第10回 "BIG Thinking Sheet": Summarizing your learning from Chapters 1 and 2.
- 第11回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第12回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第13回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment. FINALE/BIG Thinking Sheet.
- 第14回 "BIG Advice Week": Learn how to do well on the final essay. Upload to Moodle and peer assess each other.
- 第15回 Writing day: "Final Essay" and "Self-assessments"

成績評価の方法 /Assessment Method

- (a) Chapter 1 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (b) Chapter 2 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (c) Chapter 3 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (d) 英作文試験：フリップやMoodleフォーラム学習のまとめ (Final Essay) 15%
- (e) 「Active Learning」 自主的な活動の評価(フリップ、動画、投稿等の自主的なアップグレード回数と「深さ」、先生との対話等) 40%

*If you fail to submit the final report, you will be given a (-); you must therefore fully participate in Week 14 and 15.

* 1 4 周目と 1 5 周目の課題をすべて提出しなかった場合は、調査不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎週MOODLEにアクセスをして、(1) 宿題や課題等をアップロード、(2) 変更等の確認をする。

Active Learningに積極的に参加しましょう。

履修上の注意 /Remarks

新型コロナウイルスの影響などにより授業形式が変わる可能性があるので(遠隔～対面) 必ず事前にMOODLEにて確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生が知って得する「脳の秘密」や流行ってる動画等を観て評価する授業です。完全にActive Learning式の授業です。文法や単語のテストはありませんので、多くの人が思う「典型的」な英語の授業とは一味違います。「考えさせられる」英語ベースの動画を観て自分の深い考えが英語で語れるようになる、「深い」&「楽しい」クラスです。グループでの動画作りもあって、お互いに評価しあってレベルアップして行きます。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。

キーワード /Keywords

Active Learning, video-making, Moodle, peer assessment

Communicative English VIII (律政群 2 C-A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			

科目名	Communicative English VIII	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	----------------------------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力、語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

American Vibes People Places and Perspectives
映像で学ぶアメリカの素顔：都市・人々・視点
by Todd Rucynski 中川洋子 金星堂（2970円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1 . 記事を読む 3 . Discussion

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1 Boston, Massachusetts
- 3回 Chapter 2 Maine
- 4回 Chapter 3 New York City 1
- 5回 Chapter 4 New York City 2
- 6回 Chapter 5 Washington, D.C
- 7回 Chapter 6 Charleston, South Carolina
- 8回 中間テスト 7 課
- 9回 Chapter 7 Savannah, Georgia
- 10回 Chapter 8 Oswego, New York
- 11回 Chapter 9 Austin, Texas
- 12回 Chapter 10 Saint Jo, Texas
- 13回 Chapter 11 Santa Fe, New Mexico
- 14回 Chapter 12 Arizona—Grand Canyon, Route 66
- 15回 Chapter 13 Los Angeles 1
- 15回 Chapter 14 Los Angeles 2

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト 30% 予習点 14点パーセント 単語のテスト 25点 期末試験 31%
中間・期末テストを受験しなかった場合、成績不能（－）とします。
オリエンテーションの時に文書を配布し説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、丁寧に予習を行って、出席すること。

履修上の注意 /Remarks

必ずビデオを見て、CDを聞いて、予習をしてくる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

第1回目のオリエンテーションの時に予習点の説明をします。指定席を決めます。必ず出席してください。

キーワード /Keywords

Communicative English VIII (律政群 2 C - B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力(リーディング力)と聴く力(リスニング力)の更なる向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

VOA (Voice of America)のニュース記事を使って、英語をトレーニングする授業です。毎週短めの記事をピックアップします。VOAの中でも Learning Englishのセクションに上がっている非英語話者向けの記事を使いますので、語彙、文法、読み上げスピードのどれも頑張れば十分に手が届くレベルです。

授業ではピックアップしたニュース記事、レポート記事をじっくりと読みます。単語はクイックレスポンスできるまで繰り返し練習し、登場した単語は正しく発音できるまで徹底練習、文法ルルは分かるまで丁寧に。内容をしっかり理解した後は、動画や音声を使ってシャドーイングやリピーティングの練習を個人、ペア、グループで行います。

ピックアップした記事をいろいろな角度から、いろいろなやり方でモノにしていきます。

教科書 /Textbooks

使用しません。VOAのサイト上に公開されている素材を使います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自、高校時代に使用していた参考書など、しっかり読み返しましょう。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . イントロダクション (授業の進め方、グループわけ、アプリ紹介)
- 2 . VOAニュース記事 教育分野
- 3 . VOAニュース記事 文化分野
- 4 . VOAニュース記事 政治分野
- 5 . VOAニュース記事 医療分野
- 6 . VOAニュース記事 経済分野
- 7 . VOAニュース記事 環境分野
- 8 . 前半のまとめ
- 9 . VOAニュースレポート 国際開発
- 10 . VOAニュースレポート 農業
- 11 . VOAニュースレポート 医療
- 12 . VOAニュースレポート 技術
- 13 . VOAニュースレポート 環境
- 14 . 後半のまとめ
- 15 . 授業全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内課題、ペア / グループワークへの参加度 : 30%
小テスト : 20%
期末試験 : 50%
期末試験を受験しなかった場合は評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内やMoodle上で指示を出すので必ず確認をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

VOA

Communicative English VIII (律政群 2 C-C) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			

科目名	Communicative English VIII
-----	----------------------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

Vocabulary Review Test を実施します。

教科書 /Textbooks

Junko Murao 他、INSIGHTS 2022、978-4-7647-4147-8、KINSEIDO、1900円（税別）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TEX加藤、TOEIC L&R TEST 出る単特急金のフレーズ、978-4-02-331568-6、朝日新聞出版、890円（税別）
TEX加藤、TOEIC L&R TEST 出る単特急銀のフレーズ、978-4-02-331684-3、朝日新聞出版、890円（税別）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction / 英字新聞を知ろう（教科書を必ず買って持ってくること）
- 2回 Chapter 1 Global Competition in the Sky
- 3回 Chapter 2 Library on Wheels
- 4回 Chapter 3 English Subtitles Help Foreign Residents
- 5回 Chapter 4 Olympic Pride
- 6回 Chapter 5 The Big Business of Water
- 7回 Chapter 6 Evacuation Shelters for pets
- 8回 Chapter 7 How to Live a Zero-Waste Lifestyle
- 9回 Chapter 8 Home Is Where the Heart Is
- 10回 Chapter 9 Loss of Ice Increases Global Temperatures
- 11回 Chapter 13 No Teens Allowed
- 12回 Chapter 14 The Truth about the Deer in Nara
- 13回 Chapter 17 We still Don't Have Choices
- 14回 Chapter 18 Urban Farming in Singapore
- 15回 Chapter 20 A New Dream Found in Kyoto

成績評価の方法 /Assessment Method

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には原則として単位の修得が難しくなります。

試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

小テスト、予習・復習状況、学習への参加度、自主的な発表などから算出した平常点（20%）と筆記試験（80%）で総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：該当の Chapter を通読して、わからないことを授業中に質問できるように準備しておきましょう。

事後学習：毎回授業の冒頭に前回の授業内容についての Vocabulary Review Test を実施するので、必ず学習した語彙を復習して授業に臨みましょう。

履修上の注意 /Remarks

第1回の授業に必ず教科書を買って持ってくること。
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には原則として単位の修得が難しくなります。
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。
必ず新しい教科書を買ってください。
受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
Vocabulary Review Test などの準備が必要なテストに関しては、各自自宅学習を済ませてテストに臨んでください。
質問がある場合は、授業中に聞くこと。
受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。
その他詳細は初回講義で説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新型コロナウイルスの影響により、リモートクラスに移行する可能性があります。

キーワード /Keywords

Communicative English VIII (律政群 2 C-D) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

リーディング学習として、現代社会の様々なトピックについて書かれた英文を音読した後、文構造を理解しながら精読して読む力を伸ばします。リスニング学習として各チャプターのリスニング問題に取り組み、聞く力の向上を図ります。

授業では小テストを実施します。

教科書 /Textbooks

Changing Times, Changing Worlds
著者：Joan McConnell & Kiyoshi Yamauchi
成美堂（2,090円 [税込]）
ISBN: 978-4-7919-7207-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation (授業の進め方について説明)
- 2回 Chapter 1 Smokey Bear: A Mascot with a Message
- 3回 Chapter 2 Overtourism is a Problem!
- 4回 Chapter 3 Gender Equality in the Workplace
- 5回 Chapter 4 Changing Definitions of Beauty
- 6回 Chapter 5 Romeo and Juliet: A Tragic Story about Intolerance
- 7回 Chapter 6 Nature and Health
- 8回 Chapter 7 Golden Years and Silver Divorces
- 9回 Chapter 8 Trees: A Gift from Nature
- 10回 Chapter 10 Redefining Gender and Marriage
- 11回 Chapter 11 All the Lonely People
- 12回 Chapter 12 Think before You Talk, Text, or Tweet
- 13回 Chapter 13 Jeans Go Global!
- 14回 Chapter 14 Helping People with Disabilities
- 15回 Chapter 15 A Special Message まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、小テストや授業への貢献度、学期末試験などを考慮に入れ総合的に評価します。
 平素の学習状況と小テスト・・・40% 期末試験・・・60%
 定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明しますので、その指示に従いましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。
 授業の詳細は、初回の授業で説明します。
 授業以外でも英字新聞や英語ニュース等を通してできるだけ英語にふれるようにしましょう。

キーワード /Keywords

Communicative English VIII (律政群 2 C - E) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			

科目名	Communicative English VIII	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	----------------------------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業では、TOEIC テストの公式問題集を用いて、リスニングとリーディングの英語力向上も目指します。

教科書 /Textbooks

Insights 2022 世界を読むメディア英語入門 2022 （金星堂）（2,090円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

公式 TOEIC(R) Listening & Reading 問題集 1~8 （国際コミュニケーション協会）(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Global Competition in the Sky
- 3回 Library on Wheels
- 4回 English Subtitles Help Foreign Residents
- 5回 Olympic Pride
- 6回 The Big Business of Water
- 7回 Evacuation Shelters for Pets
- 8回 TOEIC 演習
- 9回 How to Live a Zero-Waste Lifestyle
- 10回 Home Is Where the Heart Is
- 11回 Loss of Ice Increases Global Temperatures
- 12回 The Historic Red-Planet Mission
- 13回 More Layers Make You Feel Cooler
- 14回 Impossible May Be Possible
- 15回 No Teens Allowed

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...30%、平常の授業への取り組み（小テスト、リスニングテスト、課題等を含む）...70%
小テストを一回も受験しなかったら、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり Moodle 上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

Communicative English VIII (律政群 2 C - F) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 百武 玉恵 / Tamae Hyakutake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業では、毎回250語前後のエッセイを読みながら、文法力・語彙力・聴解力を身に付けていきます。

教科書 /Textbooks

『やさしく読める社会事情』

（著者）Joan McConnell, 山内 圭 成美堂（¥2,090 [税込]）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時やMoodle(学習管理システム)にて適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1 Smokey Bear: A Mascot with a Message
- 3回 Chapter 2 Overtourism is a Problem!
- 4回 Chapter 3 Gender Equality in the Workplace
- 5回 Chapter 4 Changing Definitions of Beauty
- 6回 Chapter 5 Romeo and Juliet: A Tragic Story about Intolerance
- 7回 Chapter 6 Nature and Health
- 8回 Chapter 7 Golden Years and Silver Divorces
- 9回 Chapter 8 Trees: A Gift from Nature
- 10回 Chapter 9 Tattoos
- 11回 Chapter 10 Redefining Gender and Marriage
- 12回 Chapter 11 All the Lonely People
- 13回 Chapter 12 Think Before You Talk, Text, or Tweet
- 14回 Chapter 13 Jeans Go Global!
- 15回 Chapter 14 Helping People with Disabilities

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：50%、平常の授業への取り組み：30%、小テスト：20%

評価不能（－）について

期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり、Moodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

Communicative English VIII (律政群 2 C-G) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。又、この授業は、映像を通して英語圏の文化や人々の考え方を認識すると同時に英語能力を高めることも目的とします。

（到達目標）

[技能]英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初中級レベルで日常生活のニーズを充足できる。

[授業の概要]

- ① 授業開始時に小テスト（10分）を実施する。
- ② 教科書のポイントを押さえながら、Warm-up, Vocabulary Preview, Getting to know the place, Learning More, Listening, Reading, American Voices をやる。

[授業のねらい]

- ① 多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。特に、「ビジネス関連の語彙や表現」を習得し、「TOEICの出題形式」そのものに慣れること。
- ② TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。また、ある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力、及び、他人に自分の考えを発信する力を養成する。

教科書 /Textbooks

『American Vibes-People, Places and Perspectives』
著者：Todd Rucynski, Yoko Nakagawa,
2020年1月 発行、 ¥2,970 (税入)
出版社：金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

公式TOEIC Listening & Reading 問題集 3 (発行：財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会) 等。

授業時やMoodle (学習管理システム) にて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Chapter 1 Boston, Massachusetts
- 3 回 Chapter 2 Maine
- 4 回 Chapter 3 New York City 1
- 5 回 Chapter 4 New York City 2
- 6 回 Chapter 5 Washington, D.C.
- 7 回 Chapter 6 Charleston, South Carolina
- 8 回 Chapter 7 Savannah, Georgia
- 9 回 Chapter 8 Oswego, New York
- 10 回 Chapter 9 Austin, Texas
- 11 回 Chapter10 Saint Jo, Texas
- 12 回 Chapter11 Santa Fe, New Mexico
- 13 回 Chapter12 Arizona—Grand Canyon, Route 66
- 14 回 Chapter13 Los Angeles 1
- 15 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 小テスト、レポート(20%)
- ② 授業参加、授業貢献度(特に自発的、積極的な発表を評価する)(20%)
- ③ 期末考査(60%)

* 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

* 欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には、原則として単位取得が難しくなります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり、Moodle 上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

- ① 授業の準備を毎回十分にやること。
- ② 英和辞典、和英辞典、英英辞典を持参のこと。(電子辞書も可)
- ③ 授業中は、携帯電話等の使用を控えること。
- ④ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ① 日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ多く作ること。
- ② 能動的な勉学に徹すること。
- ③ 少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

受講生の理解度などに応じて授業計画や授業内容を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

Intermediate English I (律政 2 I - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政 2 I - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG301F		◎	△	△	
科目名	Intermediate English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、これまでに身に着けた英語スキルに基づき内容理解を意識しながら英語能力のさらなる向上を目的とします。
(到達目標)
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。
【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。
【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

教科書 /Textbooks

議論伯仲：二つの意見 Pros and Cons: Arguing Different Points of View by Mark Jewel 朝日出版社 (1 8 0 0 円 + 税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1 . 記事を読む 3 . Discussion

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1 単語のテスト Food Additives
- 3回 Chapter 2 単語のテスト Body Image and photoshoping
- 4回 Chapter 3 単語のテスト Undergrounding
- 5回 Chapter 4 単語のテスト Do we need the Olympics?
- 6回 Chapter 5 単語のテスト Mobile Ads
- 7回 Chapter 6 単語のテスト SIM-Free Smart phones
- 8回 中間テスト Chapter 7 100 yen Shops
- 9回 Chapter 8 単語のテスト
- 10回 Chapter9 Barrier-Free Everywhere?
- 11回 Chapter10 Elderly Drives
- 12回 Chapter 11 School Clubs
- 13回 Chapter 12 The Nimby Syndrome
- 14回 Chapter 13 Electronic Voting
- 14回 Chapter 14 Aid in Dying
- 15回 Chapter 15 Biometric Authentication

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト 3 0 % 予習点 1 4 % 単語のテスト 2 5 点 期末試験 3 1 %
中間・期末テストを受験しなかった場合、成績不能 (-) とします。
最終評価に T O E I C スコアが反映される。
反映方法は、オリエンテーションの時に文書を配布し説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、1 課ずつ丁寧に予習を行って、出席すること。

履修上の注意 /Remarks

必ずビデオを見て、CDを聞いて、予習をしてくる。

基盤教育センターの方針で、原則として各学期ごとに1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

第1回目のオリエンテーションの時に予習点の説明をします。指定席を決めるので、必ず出席してください。

キーワード /Keywords

Intermediate English I (律政 2 I - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政 2 I - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG301F		◎	△	△	
科目名	Intermediate English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、これまでに身につけた英語スキルに基づき内容理解を意識しながら英語能力の更なる向上を目的とします。又、ABC放送のニュース映像を繰り返し見ることにより、信頼できる情報を通して英語を学ぶことも目的とします。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。

【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

[授業の概要]

- ①授業開始時に小テスト（10分）を実施。教科書及び新公式問題集より出題
- ②教科書のポイントを押さえながら、Preview Questions、Warm-up Exercises、をやり、News Story をDVDとReadingにより、内容把握、検討する。

[授業のねらい]

- ①多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。特に「ビジネス関連の語彙や表現」を習得し、「TOEICの出題形式」そのものに慣れること。
- ②TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。また、ある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力を養成する。

教科書 /Textbooks

『映像で学ぶABCワールドニュース3 - Broadcast: ABC WORLDNEWSTONIGHT 4』
著者：山根 繁、Cathleen Yamane ¥2,860 (税込価格)
出版社：金星堂 2022年1月発行

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

公式TOEIC Listening & Reading 問題集3 (発行：財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会)等。

授業時やMoodle (学習管理システム)にて適宜紹介する。

Intermediate English I (律政 2 I - A) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 News Story 1 Easter Egg Hunt
- 3回 News Story 2 Youngest Inaugural Poet
- 4回 News Story 3 Reopening Schools
- 5回 News Story 4 Pope's Historic Trip
- 6回 News Story 5 America is Back
- 7回 News Story 6 Coast-to-Coast Storms
- 8回 News Story 7 Hank Aaron: Baseball Legend
- 9回 News Story 8 Turtles Rescues fro the Cold
- 10回 News Story 9 Suez Canal Bottleneck
- 11回 News Story12 Queen: Family Saddened
- 12回 News Story13 First Pilot to Break the Sound Barrier
- 13回 News Story14 Biden's Historic Stimulus Bill
- 14回 News Story15 Crisis at the Border
- 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは、第1回の授業で文書を配布して説明します。

- ① 小テスト、レポート(20%)
- ② 授業参加、授業貢献度(特に自発的、積極的な発表を評価する)(20%)
- ③ 期末考査(60%)+TOEIC受験結果

* 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

* 欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には、原則として単位取得が難しくなります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり、Moodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基礎教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL)を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

- ① 授業の準備を毎回十分にやること。
- ② 英和辞典、和英辞典、英英辞典を持参のこと。(電子辞書も可)
- ③ 授業中は、携帯電話等の使用を控えること。
- ④ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ① 日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ多く作ること。
- ② 能動的な勉学に徹すること。
- ② 少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

受講生の理解度などに応じて、授業計画や授業内容を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

Intermediate English I (律政 2 I - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政 2 I - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG301F		◎	△	△	
科目名	Intermediate English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、これまでに身につけた英語スキルに基づき内容理解を意識しながら英語能力の更なる向上を目的とします。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。

【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

教科書 /Textbooks

- ① “Challenges of Global Enterprises” (海外メディアで読むグローバル企業の挑戦) (著者)塩見佳代子他 金星堂 ¥2,310
- ② “TOEIC®L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ” (著者)TEX加藤 朝日新聞出版 ¥979
- ・ TOEICの回はプリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、語彙演習
- 2回 1 Zara’s Recipe for Success: More Data, Fewer Bosses、(金のフレーズ)単語小テスト1
- 3回 2 Airbnb’s Challenge and New Direction、1 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト2
- 4回 TOEIC演習、(金のフレーズ)単語小テスト3
- 5回 3 Augmented Reality Ecosystem in Facebook、2 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト4
- 6回 4 Adidas Brings the Fast Shoe Revolution One、3 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト5
- 7回 TOEIC演習、(金のフレーズ)単語小テスト6
- 8回 5 At Toyota, the Automation Is Humane-Powered、4 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト7
- 9回 6 How Starbucks Became a Successful Worldwide Brand、5 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト8
- 10回 TOEIC演習、(金のフレーズ)単語小テスト9
- 11回 7 McDonald’s Modern Marketing Methods、6 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト10
- 12回 9 Why Amazon Is the World’s Most Innovative Company、7 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト11
- 13回 10 Sony Comes Back from the Brink、9 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト12
- 14回 12 How Google Has Changed the World、10 単語小テスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

講義評価：期末試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題）：30%

期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業の範囲を予習し、小テストの準備をすること。

Intermediate English I (律政 2 I - B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

Intermediate English II (律政 2 I - C) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政 2 I - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG311F		◎	△	△	
科目名	Intermediate English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening, reading, writing and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at an intermediate level of English.

この授業は、これまでに身につけた英語スキルに基づき内容理解を意識しながら英語能力の更なる向上を目的とします。
(到達目標)

- 【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。
- 【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。
- 【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

教科書 /Textbooks

World English 3A (Third Edition), Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase, Cengage Learning, ISBN: 978-0-357-13033-9

¥3,025

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Topic 1: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 3回 Topic 1: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 4回 Topic 1: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 5回 Topic 2: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 6回 Topic 2: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 7回 Topic 2: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 8回 Topic 3: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 9回 Topic 3: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 10回 Topic 3: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 11回 Topic 4: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 12回 Topic 4: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 13回 Topic 4: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 14回 Final Test Preparation/Project Presentation
- 15回 Final Test Preparation/ Project Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 30%, Quizzes and Presentations 20%, Final Exam 20%

Student's not attending the final exam will receive a (-) grade.

Intermediate English II (律政 2 I - C) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build writing skills and prepare for topic related idea sharing activities. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an active learning environment and requires active participation and sharing in an all-English setting. Enthusiasm and a willingness to speak out and contribute to a positive classroom environment is expected.

キーワード /Keywords

Intermediate English II (律政 2 I - A) 【昼】

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 2年次 / 2学期 / 2単位 / Credits: 2単位 / 授業形態 /Class Format: 講義 / クラス /Class: 律政 2 I - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG311F		◎	△	△	
科目名	Intermediate English II		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、これまでに身につけた英語スキルに基づき内容理解を意識しながら英語能力の更なる向上を目的とします。
 (到達目標)

- 【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。
- 【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。
- 【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

This course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

English Central (Academic Premium 4-month access) (level 5) 2,750 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 People and places
- 4回 The mind
- 5回 Changing planet
- 6回 Money vs. wealth
- 7回 Survival
- 8回 Art
- 9回 Getting around
- 10回 Competition
- 11回 Danger
- 12回 Mysteries
- 13回 Learning
- 14回 Space
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.).

Intermediate English II (律政 2 I - A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Intermediate English II (律政 2 I - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政 2 I - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG311F		◎	△	△	
科目名	Intermediate English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This is an "Active Learning" style course.

We will work together and enjoy watching videos and conversations in English.

We will then assess each other and make our own videos.

You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics on paper, in Moodle, and on video.

*Topics range: Social issues (theft, internet, discrimination), brain science (how we learn, memory tips, stress relief), personal growth (empathy vs sympathy, digital addiction, fair assessments)

動画やムードルを多く使うActive Learning授業です。

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、動画作り等でコミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

なし
(see MOODLE)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし
(see MOODLE)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing in Moodle: WHAT IS ACTIVE LEARNING?
- 第2回 Chapter 1 (社会現象) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第3回 Chapter 1 (社会現象) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第4回 Chapter 1 (社会現象) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第5回 Chapter 1 (社会現象) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
- 第6回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 1: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第7回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 2: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第8回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 3: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第9回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
- 第10回 "BIG Thinking Sheet": Summarizing your learning from Chapters 1 and 2.
- 第11回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第12回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第13回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment. FINALE/BIG Thinking Sheet.
- 第14回 "BIG Advice Week": Learn how to do well on the final essay. Upload to Moodle and peer assess each other.
- 第15回 Writing day: "Final Essay" and "Self-assessments"

Intermediate English II (律政 2 I - B) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- (a) Chapter 1 (Moodleでの対話、学習フリップと動画のアップロード等) 25%
- (b) Chapter 2 (Moodleでの対話、学習フリップと動画のアップロード等) 25%
- (c) Chapter 3 (Moodleでの対話、学習フリップと動画のアップロード等) 25%
- (d) 試験(Final Essay) 25%
- (e) *Active Learning努力点 (± 20%) の変動が加わります。

数式は $[(a+b+c+d)÷4] ±20%$ です。

*If you fail to submit the final report, you will be given a (-)

* 1 4 周目と 1 5 周目の課題をすべて提出しなかった場合は、調査不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎週MOODLEにアクセスをして、(1) 宿題や課題等をアップロード、(2) 変更等の確認をする。

*Active Learning努力点が ± 20% の「変動力」もあるので、Active Learningに積極的に参加しましょう。

履修上の注意 /Remarks

新型コロナウイルスの影響などにより授業形式が変わる可能性があるので (遠隔〜対面) 必ず事前にMOODLEにて確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生が知って得する「脳の秘密」や流行ってる動画等を観て評価する授業です。完全にActive Learning式の授業です。文法や単語のテストはありませんので、多くの人が思う「典型的」な英語の授業とは一味違います。「考えさせられる」英語ベースの動画を観て自分の深い考えが英語で語れるようになる、「深い」&「楽しい」クラスです。グループでの動画作りもあって、お互いに評価しあってレベルアップして行きます。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。

キーワード /Keywords

Active Learning, video-making, Moodle, peer assessment

Higher English I (2 H-B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG302F		◎	○	△	
科目名	Higher English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Higher English I (2 H-A) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営比人律政

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG302F		◎	○	△	
科目名	Higher English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、特定のトピックを通じてより高度な英語能力の向上を目的とします。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。

【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

This course should give you many opportunities to use the English you have studied through years of formal study in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

Materials to be provided by the class teacher on a weekly basis.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 1 Stories from the World (A)
Week 3 Unit 1 Stories from Japan (A)
Week 4 Unit 2 Stories from the World (B)
Week 5 Unit 2 Stories from Japan (B)
Week 6 Unit 3 Stories from the World (C)
Week 7 Unit 3 Stories from Japan (C)
Week 8 Review
Week 9 Unit 4 Stories from the World (D)
Week 10 Unit 4 Stories from Japan (D)
Week 11 Unit 5 Stories from the World (E)
Week 12 Unit 5 Stories from Japan(E)
Week 13 Unit 6 Stories from the World (F)
Week 14 Unit 6 Stories from Japan (F)
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
40% PowerPoint and Reports
45% Class participation and Quizzes

試験 * を受験しなかった場合は、調査不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading up on - and thinking about - the relevant topic in advance.
Each class will be reviewed through reading- and writing-focused assignments.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I am looking forward to meeting you all.

キーワード /Keywords

Higher English II (2 H-B) 【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG312F		◎	○	△	
科目名	Higher English II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Higher English II (2 H-A) 【昼】

担当者名 /Instructor ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営比人律政

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG312F		◎	○	△	
科目名	Higher English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、特定のトピックを通じてより高度な英語能力の向上を目的とします。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。

【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school and university. We will cover a variety of topics while we improve your English ability. The course will be quite demanding as it will require a large amount of reading, writing, speaking, and listening. While it may be relatively demanding, another goal for the course is that it will be intellectually stimulating for students.

教科書 /Textbooks

English Central (Academic Premium 4-month access) (level 6) 2,750 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the class, getting acquainted
- 2回 Conversation strategies, note-taking
- 3回 Assignment 1
- 4回 Discussion 1
- 5回 Assignment 2
- 6回 Discussion 2
- 7回 Assignment 3
- 8回 Discussion 3
- 9回 Assignment 4
- 10回 Discussion 4
- 11回 Assignment 5
- 12回 Discussion 5
- 13回 Assignment 6
- 14回 Discussion 6
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.). We may use a CALL (computer-assisted language learning) classroom. In the CALL room, you will be required to bring your own headset (earphones and microphone).

Higher English II (2 H-A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語I (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN101F		◎			
科目名	中国語 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要な表現ができるようになることを目指します。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を学ぶことにより、中国に対する理解を深めることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

中国語I (1 - a) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

履修上の注意 /Remarks

- 1 . CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
- 2 . 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語I (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN101F		◎			
科目名	中国語 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要な表現ができるようになることを目指します。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を学ぶことにより、中国に対する理解を深めることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

中国語I (1 - b) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

履修上の注意 /Remarks

- 1 . CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
- 2 . 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅱ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN111F		◎			
科目名	中国語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要な表現ができるようになることを目指します。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を学ぶことにより、中国に対する理解を深めることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になるました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・ 60% 小テスト・・ 20% 日常の授業への取り組み・・ 20%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)

事後学習：学習範囲の復習をする

中国語II (1 - a) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、IIIを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN111F		◎			
科目名	中国語II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要な表現ができるようになることを目指します。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を学ぶことにより、中国に対する理解を深めることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になるました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞/形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)

事後学習：学習範囲の復習をする

中国語II (1 - b) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、IIIを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 艾文婷 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN102F		◎			
科目名	中国語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して、場面に応じた中国語会話能力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ知識を得ることが出来ます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

中国語Ⅲ (1 - a) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

1. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
2. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅲ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 于 佳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN102F		◎			
科目名	中国語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して、場面に応じた中国語会話能力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

中国語Ⅲ (1 - b) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

1. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
2. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 艾文婷 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN12F		◎			
科目名	中国語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して、場面に応じた中国語会話能力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする(CDを聞く、分からない単語を調べる、课文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

中国語Ⅳ(1 - a) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅲを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 必ず出席すること。
- 電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 于 佳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN12F		◎			
科目名	中国語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して、場面に応じた中国語会話能力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする(CDを聞く、分からない単語を調べる、课文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅲを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 必ず出席すること。
- 電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN201F		◎			
科目名	中国語Ⅴ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

外国語を学ぶというと相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは、日本についての知識を身につけ、外国語で表現するという能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれませんが、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする（CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など）
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN211F		◎			
科目名	中国語VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

外国語を学ぶという相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは、日本についての知識を身につけ、外国語で表現するという能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれませんが、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...60% 日常の授業への取り組み、小テスト等...40%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする（CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など）
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、II、III、IV、V、VIIを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 崔 学森 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN202F		◎			
科目名	中国語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

外国語を学ぶという相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは、日本についての知識を身につけ、外国語で表現するという能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれませんが、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする（CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など）
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。
4. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 崔 学森 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN212F		◎			
科目名	中国語Ⅶ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

外国語を学ぶという相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは、日本についての知識を身につけ、外国語で表現するという能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれませんが、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関(会話)
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州(会話)
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡(会話)
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀(会話)
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎(会話)
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国(会話)
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道(会話)
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする（CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など）
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、II、III、IV、V、VIIを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。
4. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

朝鮮語Ⅰ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 香善 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN101F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義は韓国語をはじめて学習する学生を対象とするので、文字（ハングル）や単語の発音練習に多くの時間を割く。ハングルの読み書きができるようになることを第一目標とし、自己紹介は勿論のこと、簡単な挨拶表現や初歩的な日常会話表現を学ぶ。また、言葉を通して韓国文化への理解を深めることをねらいとする。

到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠ほか、白水社、2200円）、
適宜資料・プリントなどを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『朝鮮語辞典』（小学館、8000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス / 【ハングルの特徴と構成】
- 2回 文字と発音① 【母音字】とその発音
- 3回 文字と発音② 【子音字】とその発音
- 4回 文字と発音③ 【子音字+母音字】とその発音
- 5回 文字と発音④ 【濃音、激音、平音】の発音比較
- 6回 文字と発音⑤ 【二重母音字】とその発音
- 7回 文字と発音⑥ 【パッチム】の読み方と発音
- 8回 【日本の人名・地名をハングルで表記】する方法の練習
- 9回 【簡単な挨拶】の練習 / 教室用語 文字と発音
- 10回 発音ルール① 【有声音化 / 連音化 / 激音化 / 濃音化】
- 11回 発音ルール② 【鼻音化 / 口蓋音化 / 流音化 / その他】
- 12回 まとめと復習
- 13回 体言の肯定文（自己紹介）【～です】、助詞【～は】
- 14回 体言の否定文（自己紹介）【～ではありません】、助詞【～が】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30%、小テスト・課題... 30%、定期試験... 40%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅰ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN101F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業では、朝鮮語の基礎を学び身につけます。具体的には、朝鮮語の音韻・語彙・発音の基礎を学んだ上で、4技能(話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと)について初級レベルの力を養います。
受講生の殆どは、朝鮮語を本格的に学ぶのは初めてですので、一段一段順を追って学んでいきます。前期の前半は、独特な文字であるハングルの仕組みや、韓国語の音韻を中心に学びます。前期の後半からは、会話文を利用して学習を進めます。
また、韓国・朝鮮の文化についても教科書に沿って学んでいきます。朝鮮語を習得することはもちろん、隣国の異なる文化も学びます。

【到達目標】自己紹介、簡単な挨拶表現、簡単な文章を読み理解することを目標とします。

教科書 /Textbooks

巖基珠・金三順ほか『韓国語初歩(三訂版)』白水社 2019年 2200円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語へ旅しよう』初級 朝日出版社 2014年 2500円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業案内、韓国語の概要、文字の構成、挨拶表現、基本母音字の練習
- 2回 母音字のドリル、基本子音字の練習
- 3回 激音と濃音
- 4回 文字の復習、読み取りテスト
- 5回 複合母音
- 6回 ハングルの終声(パッチム)
- 7回 発音の変化
- 8回 ハングル表記法及び話してみましよう。
- 9回 11課 大学生ですか。
- 10回 12課 会社員ではありません。
- 11回 13課 どこで習いますか。
- 12回 11～13課までの復習、小テスト
- 13回 14課 暑くありませんか。
- 14回 15課 誕生日はいつですか。
- 15回 14～15課までの復習、小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

本授業は、各到達目標の達成度を基準として、下記の方法と割合により成績評価します。

- ・ 定期試験：50%
- ・ 日常の授業への取り組み：40% (小テスト4回)
- ・ レポート：10%

- ※成績評価の対象としない場合(評価不能)について
- ・ 5回以上欠席した場合、欠席6回目からは評価不能とします。
 - ・ 定期試験を受験しなかった場合は評価不能とします。

朝鮮語I (1 - b) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習：次の①と②について計30分程度の予習を行うこと。

①次の回で学習予定の部分について、教科書に目を通し、新出語彙はすべて辞書を使い意味を調べる。

②教科書の各課の練習問題は、予め自宅で取り組んだ上で授業に臨む。

復習：以下の①～③について計60分程度の復習を行うこと

①ダウンロードした音声を利用し、音声のあとをすぐ追って繰り返し音読ができるようにすること(シャドーイング)。

②ダウンロードした音声を利用し、音声からの書き起こしが正確にできるよう、繰り返し練習すること。

③その他、授業で指示された課題

履修上の注意 /Remarks

- ・ 入門レベルの授業になります。朝鮮語の基本的な動詞や形容詞を用いた文を読んだり書いたりすることができるレベルにある人には不向きです。
- ・ 1回の授業に対して、復習・予習を必ず行ってください。
- ・ 学期中に小テストを複数回実施します。進捗状況に応じて、予告を行ったうえで実施します。
- ・ 授業計画に沿った授業運営を心がけますが、状況によって前後することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

朝鮮語は、日本語を知っている者にとって大変学びやすい外国語ではありますが、積み重ねが重要である点は他の外国語と同じです。予習・授業・復習のサイクルを止めずに、着実に学習を積み重ねてください。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 慶湖 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN111F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義は朝鮮語Ⅰで学習したものを再確認しながら、基本的な単語や日常会話に必要な表現を学ぶ。文法的な知識を増やしつつも、それを実際のコミュニケーションの中で使えるように、語彙力をつけて短文を暗記するという作業に重点をおく。また、言葉を通して韓国文化への理解を深めることをねらいとする。

到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠ほか、白水社、2200円）、
適宜資料やプリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『朝鮮語辞典』（小学館、8000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 どこでなってますか①【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 3回 どこでなってますか②【用言の丁寧形】
- 4回 暑くありません【用言の否定形】
- 5回 数詞【漢数字】【固有数字】
- 6回 誕生日はいつですか【体言の打ち解けた丁寧形】
- 7回 どこに住んでいますか①【用言の連用形】
- 8回 どこに住んでいますか②【用言の連用形】の確認と応用
- 9回 先生いらっしゃいますか【電話対応】と【敬語表現】
- 10回 何をお探ですか【買い物】と【敬語表現】
- 11回 何をしましたか①【過去形】
- 12回 何をしましたか②【過去形】の確認と応用
- 13回 何を召し上げますか①【意思・推量形】
- 14回 何時に会いましょうか②【願望・勧誘形】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30%、小テスト・課題... 30%、定期試験... 40%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

朝鮮語II (1 - a) 【昼】

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN111F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業では、朝鮮語の基礎を学び身につけます。具体的には、朝鮮語の音韻・語彙・発音の基礎を学んだ上で、4技能(話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと)について初級レベルの力を養います。
受講生の殆どは、朝鮮語を本格的に学ぶのは初めてですので、一段一段順を追って学んでいきます。前期の前半は、独特な文字であるハングルの仕組みや、韓国語の音韻を中心に学びます。前期の後半からは、会話文を利用して学習を進めます。
また、韓国・朝鮮の文化についても教科書に沿って学んでいきます。朝鮮語を習得することはもちろん、隣国の異なる文化も学びます。

【到達目標】自己紹介、簡単な挨拶表現、簡単な文章を読み理解することを目標とします。

教科書 /Textbooks

『韓国語初歩(三訂版)』巖基珠・金三順ほか 白水社 2019年 2200円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『韓国語へ旅しよう』初級 李昌圭著 朝日出版社 2014年 2500円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 16課 どこに住んでいますか。(打ち解けた丁寧形)
- 3回 17課 先生いらっしゃいますか。(かしこまった尊敬形)
- 4回 18課 何をお探ですか。(打ち解けた尊敬形)
- 5回 16～18課の復習、小テスト
- 6回 19課 何をしましたか。(過去形)
- 7回 20課 何を召し上がりますか。
- 8回 19～20課の復習、小テスト
- 9回 21課 何時にお会いしましょうか。
- 10回 22課 水泳をしています。(進行形)
- 11回 21～22課の復習 我が家に一度遊びに来てください。
- 12回 23課 我が家に一度遊びに来てください。24課 市庁から近いですか。
- 13回 24課 市庁から近いですか。22～24課の復習、小テスト
- 14回 23～24課の復習、小テスト
- 15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

本授業は、各到達目標の達成度を基準として、下記の方法と割合により成績評価します。

- ・ 定期試験：50%
- ・ 授業への取り組み：40点(小テスト4回)
- ・ レポート：10%

成績評価の対象としない場合(評価不能(-))について

- ・ 5回以上欠席した場合、欠席6回目からは評価不能(-)とします。
- ・ 定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

朝鮮語II (1 - b) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習：次の①と②について計30分程度の予習を行うこと。

①次の回で学習予定の部分について、教科書に目を通し、新出語彙はすべて辞書を使い意味を調べる。

②教科書の各課の練習問題は、予め自宅で取り組んだ上で授業に臨む。

復習：以下の①～③について計60分程度の復習を行うこと

①ダウンロードした音声を利用し、音声のあとをすぐ追って繰り返し音読ができるようにすること(シャドーイング)。

②ダウンロードした音声を利用し、音声からの書き起こしが正確にできるよう、繰り返し練習すること。

③その他、授業で指示された課題

履修上の注意 /Remarks

・ 入門レベルの授業になります。朝鮮語の基本的な動詞や形容詞を用いた文を読んだり書いたりすることができるレベルにある人には不向きです。

・ 1回の授業に対して、復習・予習を必ず行ってください。

・ 学期中に小テストを複数回実施します。進捗状況に応じて、予告を行っただけで実施します。

・ 授業計画に沿った授業運営を心がけますが、状況によって前後することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

朝鮮語は、日本語を知っている者にとって大変学びやすい外国語ではありますが、積み重ねが重要である点は他の外国語と同じです。予習・授業・復習のサイクルを止めずに、着実に学習を積み重ねてください。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN102F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまづきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社） 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他（小学館）
『韓国語ビジュアル単語集』 李恩周（高橋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文字と発音【基本母音】
- 2回 文字と発音【基本子音】
- 3回 文字と発音【激音】【濃音】
- 4回 文字と発音【合成母音字】
- 5回 文字と発音【終声①】【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 その他の発音法則
- 9回 【文字の復習】【指定詞の丁寧形】
- 10回 疑問文と応答文【～ですか】【～です】【～ではありません】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現【～といます】
- 12回 存在詞の丁寧形【～があります】
- 13回 場所名、時をあらわす単語【～に】【～があります、います】
- 14回 位置を表す単語と助詞【～に】存在詞の否定文【～がありません、いません】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・ 50% 日常の授業への取り組み・・ 40% レポートや課題・・ 10%
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語は"ハングル"という独自の文字から覚えなければならない言語です。他にも覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張らないと身に付きません。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 珠熙 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN102F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅲ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまづきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社） 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他（小学館）

『韓国語ビジュアル単語集』 李恩周（高橋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文字と発音【基本母音】
- 2回 文字と発音【基本子音】
- 3回 文字と発音【激音】【濃音】
- 4回 文字と発音【合成母音字】
- 5回 文字と発音【終声①】【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 その他の発音法則
- 9回 【文字の復習】【指定詞の丁寧形】
- 10回 疑問文と応答文【～ですか】【～です】【～ではありません】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現【～といいます】
- 12回 存在詞の丁寧形【～があります】
- 13回 場所名、時をあらわす単語【～に】【～があります、います】
- 14回 位置を表す単語と助詞【～に】存在詞の否定文【～がありません、いません】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%

授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%

学期末試験・・・50%

* 以下のような場合は、評価不能（-）とします。

①出席が10回未満の場合

②定期試験を受験しなかった場合

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。

次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

朝鮮語Ⅲ (1 - b) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN112F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅲで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの復習
- 2回 持ち物について尋ねる会話【誰のものですか？】
- 3回 疑問詞を使った表現【～は何/どこですか？】
- 4回 時制や日付【漢数詞①】助詞のまとめ【いつ～しますか？】
- 5回 用言の丁寧形①【へヨ体】【漢数詞②】【電話番号、学年】
- 6回 用言の丁寧形②【へヨ体】【固有数詞①】【何時ですか？】
- 7回 用言の否定形【～しません、～ありません】【一週間の予定】
- 8回 目的表現【～に～しに行きます】好みの表現【～が好きです】
- 9回 数詞まとめ【電話番号、学年、誕生日は？いくらですか？】
- 10回 丁寧形の変則活用
- 11回 用言の尊敬形
- 12回 用言の過去形①【～ました、でした】
- 13回 用言の過去形②【変則活用】
- 14回 意思と推測表現【～するつもりです】動作の進行【～しています】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・ 50% 日常の授業への取り組み・・ 40% レポートや課題・・ 10%
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

朝鮮語Ⅳ(1 - a) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 珠熙 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN112F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅲで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの復習
- 2回 持ち物について尋ねる会話【誰のものですか？】
- 3回 疑問詞を使った表現【～は何/どこですか？】
- 4回 時制や日付【漢数詞①】助詞のまとめ【いつ～しますか？】
- 5回 用言の丁寧形①【へヨ体】【漢数詞②】【電話番号、学年】
- 6回 用言の丁寧形②【へヨ体】【固有数詞①】【何時ですか？】
- 7回 用言の否定形【～しません、～くありません】【一週間の予定】
- 8回 目的表現【～に～しに行きます】好みの表現【～が好きです】
- 9回 数詞まとめ【電話番号、学年、誕生日は？いくらですか？】
- 10回 丁寧形の変則活用
- 11回 用言の尊敬形
- 12回 用言の過去形①【～ました、でした】
- 13回 用言の過去形②【変則活用】
- 14回 意思と推測表現【～するつもりです】動作の進行【～しています】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

* 以下のような場合は、評価不能(-)とします。

- ①出席が10回未満の場合
- ②定期試験を受験しなかった場合

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

朝鮮語Ⅳ (1 - b) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ 【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN201F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅴ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用能力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざ意および漢字語を習得するように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習も行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

崔柄珠 『おはよう韓国語2』朝日出版社 2015年。2400円+税。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、『朝鮮語I・II』の復習
- 2回 第1課 過去形・過去形の縮約形、仮定・条件・希望表現
- 3回 第1課 フランスから来ました【練習問題、スキット】
- 4回 第2課 尊敬形・特殊な尊敬形【名詞・助詞】、家族紹介
- 5回 第2課 家族は何名様ですか【練習問題、スキット】
- 6回 第3課 尊敬形の해요体、丁寧な命令形表現
- 7回 第3課 ㄹ 변則用言ドリル、勧誘・意志・確認、婉曲表現
- 8回 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよ【練習問題、スキット】
- 9回 韓国文化紹介、映画鑑賞
- 10回 第4課 ㄹ 변則用言ドリル、用言 + 아서/어서、意志表現【-을래요/르래요】
- 11回 第4課 野菜が多くて体にもいいです【練習問題、スキット】
- 12回 第5課 意志・推測【을/ㄹ 거예요】、現在連体形
- 13回 第5課 未来意志・推測・婉曲【겠】、~しに・~ために表現。【未来の計画発表】
- 14回 第5課 夏休みに何をするつもりですか【練習問題、スキット】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、 日常の授業への取り組み・課題・小テスト(2回) ...50%
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN211F		◎			
科目名	朝鮮語VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得し、実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習を行う。長文が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

崔柄珠 『おはよう韓国語2』朝日出版社 2015年。2400円＋税。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、『朝鮮語V』の復習
- 2回 第6課 条件【으면/면 돼요】、尊敬形の過去表現
- 3回 第6課 ㄹ変則ドリル、理由表現【用言+으니까/니까、指定詞・名詞+이니까/니까】
- 4回 第6課 どのように行けばいいですか【練習問題、スキット】
- 5回 第7課 名詞+하고/과/와、可能・不可能表現
- 6回 第7課 過去連体形【動詞・形容詞・存在詞・指定詞】、意志・約束表現【用言+을/르게요】
- 7回 第7課 写真を添付しますよ【練習問題、スキット】 【メール文を書く】
- 8回 第8課 未来連体形、決心・意図表現、ㄹ変則
- 9回 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【練習問題、スキット】
- 10回 第9課 ㄱ変則ドリル、義務【用言+아/어야 되다(하다)】
- 11回 第9課 未来形推測【用言+을/르 것 같다】、許可【用言+아/어도 되다】
- 12回 第9課 どんなアルバイトをしていますか【練習問題、スキット】
- 13回 第10課 ㄷ変則ドリル、不可能【못~/~지 못하다】
- 14回 第10課 現在形推測【는 것 같다/은/ㄴ 것 같다/인 것 같다】、経験表現
- 15回 第10課 何にも聞いていませんが【練習問題、スキット】、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、 日常の授業への取り組み・課題・小テスト(2回) ...50%
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 金 恵媛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN202F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅶ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。基礎レベルの範囲で多彩な文型を無理なく駆使できるようになる。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔栄美 『ちょこっとチャレンジ!韓国語 改訂版』白水社 2017年。2400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回．オリエンテーション
- 2回．第1課 打ち解けた尊敬表現【-(으)세요】を使ってインタビューする。条件・仮定表現【-(으)면】
- 3回．第1課意図・計画【-(으)려고 해요】、休暇計画について尋ね合う
- 4回．第2課 説明・紹介【-인데】、期間【-L/은 지】、韓国語を習ってからどのくらい経ったか尋ね合う
- 5回．第2課動作の順序【-L/은 다음에/-기 전에】、自分の日課を順を追って話す
- 6回．第1課と第2課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 7回．第3課 義務【-아/어야 해요】、丁寧な命令・禁止命令【-(으)세요/-지 마세요】
- 8回．第3課 許可・禁止【-아/어도 돼요/-(으)면 안 돼요】、サークルの規則を決めて発表
- 9回．第4課 形容詞の連体形、理由表現【-아서】
- 10回 第4課 決心・約束【-기로 했어요】、約束したことや決心したことについて尋ね合う
- 11回．第3課と第4課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 12回．第5課 位置を表す語、手段【-로/으로】、家から学校までの交通手段と所要時間をインタビューする
- 13回．第5課 動作の順序・連結【-아/어서】、おすすめのスポットを紹介し、道順を教える
- 14回．第6課 動詞・存在詞の現在連体形、試行・経験【-아/어 봤어요】
- 15回．第6課 物や出来事の状態説明・感想【-는데】、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み・小テスト(2回)・課題...50%
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく韓国語で多くのことを話し合しましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅷ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 金 恵媛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN212F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅷ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔榮美 『ちょこっとチャレンジ!韓国語(改訂版)』白水社 2017年。2400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第5・6課 聞き取り、会話文復習
- 2回 第7課 依頼【-아/어 주세요】、勧誘・アドバイス【-아/어 보세요】
- 3回 第7課 より丁寧な依頼【-아/어 주시겠어요?】、買い物している場面を想定して話し合う
- 4回 第8課 理由・根拠【-(으)니까】、感嘆【-네요】、推測【-르/을 것 같아요】
- 5回 第8課 プレゼントをやりとりする場面を想定して話し合う
- 6回 第7・8課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 7回 第9課 がしこまった尊敬、不可能表現【自分ができないことを話し合う】
- 8回 第9課 時間・場合【-(으)ㄴ 때】
- 9回 第10課 傾向【-(으)ㄴ /는 편이에요】、同時・並行動作【-(으)면서】、学習方法をインタビューする
- 10回 第10課 ~するのが【-는 것이(-는게)】、自分の性格・学習スタイルについて話す
- 11回 第9・10課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 12回 韓国文化紹介、映画鑑賞
- 13回 第11課 間接話法、インタビューした内容を間接話法を使って発表する
- 14回 第11課 間接話法の過去、間接話法の縮約形【気になっているニュースを友達に伝える】
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み・課題・小テスト(2回)...50%
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語で多くのことを話し合しましょう。

キーワード /Keywords

ドイツ語I【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM101F		◎			
科目名	ドイツ語 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現代のドイツは拡大したEU（ヨーロッパ連合）の政治、経済、文化の中心として重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に用いているドイツ語を学習することを通じて、ドイツ語圏とヨーロッパへの関心、知識および理解を深めていきます。

* 到達目標は、以下の「基盤教育センター 到達目標」の通りです。

「ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。」

* このシラバスは、対面授業を実施することを前提に作成されています。遠隔授業への変更に伴い、授業方法をはじめ、授業内容、成績評価の方法等が変わることがあります。その際には、改めて Moodle でお知らせします。ただし、教科書の変更はありません。

教科書 /Textbooks

『アプファールト<ノイ> スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書は当分の間不要です。必要に応じて、授業開始後に参考書とともに紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：あいさつ(1) 文法：人称代名詞
- 第2回 テーマ：人と知り合う 文法：動詞の現在人称変化(規則動詞, sein)
- 第3回 テーマ：紹介(名前・出身地・居住地・職業・趣味) 文法：疑問文の種類と答え方
- 第4回 テーマ：時刻 / あいさつ(2) / 時を表す表現 文法：動詞の現在人称変化(haben)
- 第5回 テーマ：人を誘う / アドレスと携帯番号 文法：動詞の現在人称変化(不規則動詞)
- 第6回 テーマ：食べ物と飲み物 / メール 文法：定動詞第2位の原則, 疑問文の語順
- 第7回 テーマ：道の尋ね方・答え方 文法：duとSie / 命令形
- 第8回 テーマ：位置・方向を表す語 / 建物など 文法：名詞の性 / 定冠詞と不定冠詞
- 第9回 テーマ：~してください 文法：冠詞と名詞の格変化(1・4格)
- 第10回 テーマ：持っている? 持っていない? 文法：否定冠詞と所有冠詞(1・4格)
- 第11回 テーマ：買い物 / 値段 文法：名詞と冠詞の3格 / 複数形
- 第12回 テーマ：プレゼント 文法：人称代名詞の格変化
- 第13回 テーマ：気に入った? 文法：前置詞(1)
- 第14回 テーマ：家族・親戚 文法：否定の語を含む疑問文とその答え方
- 第15回 ドイツ語Iのまとめと補足

ドイツ語I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50% 定期試験 50%

- ・ 次のいずれかの条件に該当するときは「評価不能(一)」となります。
 1. 出席回数が全授業回数の3分の2未満の場合。
 2. 正当な理由なく、定期試験を欠席した場合。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業で用いる会話表現の意味を確認し、覚えておくこと。
今回の授業で学んだ単語や基本文法を定着させるための宿題を完了しておくこと。
ETV「旅する(ための)ドイツ語」など、授業の理解に役立つ番組を見ておくこと。

履修上の注意 /Remarks

このクラスはドイツ語を初めて習う学生が対象です。受講開始以前のドイツ語の知識は問いません。
ただし、毎時間必ず出席してください。遠隔授業では毎週 Moodle を参照してください。
担当者への連絡は、通常は Office 365 メールを利用してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な会話中心のテキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。

キーワード /Keywords

ドイツ語への入門 正確な発音と初級文法の習得

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM111F		◎			
科目名	ドイツ語II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

ドイツ語学習を通じてドイツとヨーロッパに対する関心や理解を深めます。具体的にはドイツ語の基礎的な技能（初級文法に関する知識および運用力）の習得を目指します。私が担当するドイツ語Iのシラバスも参照してください。教科書はドイツ語Iで使用したものを継続します。

* 到達目標は、以下の「基盤教育センター 到達目標」の通りです。

「ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。」

* このシラバスは、対面授業の実施を前提に作成されています。遠隔授業の実施に伴い、授業方法をはじめ、授業内容、成績評価の方法等が変わることがあります。その際には、改めて Moodle でお知らせします。ただし、教科書の変更はありません。

教科書 /Textbooks

『アプファールト<ノイ> スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な場合には授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：週末や休暇の予定 文法：分離動詞 / 前置詞と定冠詞の融合形
- 第2回 テーマ：天候 文法：話法の助動詞 / 非人称のes
- 第3回 テーマ：一日の行動・日常生活 文法：分離動詞に似た使い方をする表現 / 形容詞
- 第4回 テーマ：過去のできごと(1) 文法：過去分詞
- 第5回 テーマ：時を表す表現(2) 文法：現在完了
- 第6回 テーマ：過去のできごと(2) 文法：過去基本形 / 過去時制
- 第7回 テーマ：位置の表現 文法：前置詞(2)
- 第8回 テーマ：～がある / 遅刻 / メルヒエン 文法：es gibt...
- 第9回 テーマ：修理 / 家事 文法：受動文
- 第10回 テーマ：開店時間・閉店時間 文法：再帰代名詞と再帰動詞
- 第11回 テーマ：料理 / 比較の表現 文法：比較級・最上級
- 第12回 テーマ：病気 / 色彩 文法：zu不定詞句
- 第13回 テーマ：ふたつの文をひとつにする 文法：従属の接続詞と副文
- 第14回 テーマ：非現実の仮定 文法：接続法2式(非現実話法)
- 第15回 ドイツ語IIのまとめと補足

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50% 定期試験 50%

・ 次のいずれかの条件に該当するときは「評価不能(一)」となります。

1. 出席回数が全授業回数の3分の2未満の場合。
2. 正当な理由なく、定期試験を欠席した場合。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

今回の授業で取り扱うドイツ語表現の意味を教科書で確認し、暗誦できるまでになっていること。
今回の授業で学んだ単語や基本文法を定着させるための宿題を完了しておくこと。
ETV「旅する(ための)ドイツ語」など、授業の理解に役立つ番組を見ておくこと。

ドイツ語II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語IIの授業は、ドイツ語Iで学んだ知識を前提に行われます。
受講開始前にドイツ語Iの学習範囲をもう一度見直しておいてください。
遠隔授業では、毎週 Moodle を参照してください。
担当者への連絡は、通常は Office 365 メールを利用してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ドイツ語Iに続き、日常的な会話中心のテキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。

キーワード /Keywords

ドイツ語への入門 正確な発音と初級文法の習得

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM102F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅲ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

到達目標

日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。
例えば、「君のお父さんの職業は何ですか。」とその答え。
Was ist dein Vater von Beruf?
Mein Vater ist Angestellter.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

ドイツ語Ⅲ【昼】

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツアウン、「垣根」) と town です。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に活かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済嘗人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM112F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

到達目標

日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。
例えば、「君は週末に何をしましたか。」とその答え。

Was hast du am Wochenende gemacht?

Ich habe gejoggt.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

ドイツ語Ⅳ【昼】

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツアウン、「垣根」) と town です。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に活かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM201F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅴ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標

自分の日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。
例えば、「君は昼食に何を食べますか。」とその答え。
Was isst du zu Mittag?
Ich esse Udon.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生日祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

ドイツ語V 【昼】

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM211F		◎			
科目名	ドイツ語VI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標

日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。

例えば、「君はもうクリスマスを楽しみにしていますか。」とその答え。

Freust du dich schon auf Weihnachten?

Ja, schon.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいがですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

ドイツ語VI 【昼】

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM202F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標

スマホのGoogleで「heute logo nachrichten」で検索し、子供ニュース「Kindernachrichten」を字幕と共に見て、理解し、シャドーイングする。

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫げて話しかけると、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探すと、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

ドイツ語Ⅶ【昼】

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM212F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅷ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標

スマホのGoogleで「heute logo nachrichten」を検索し、子供ニュース「Kindernachrichten」を字幕と共に見て、理解し、シャドーイングする。

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くととき、相手の感想を聞くととき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くととき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くととき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くととき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

ドイツ語VIII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN101F		◎			
科目名	フランス語 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

初級文法の習得をととしてフランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

到達目標

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2400+税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則二回で1課進み、1学期は第6課まで終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍・職業をいう
- 3回 主語人称代名詞と動詞 *etre* の使い方
- 4回 名前・持ち物をいう
- 5回 動詞 *avoir* と冠詞の使い方
- 6回 友人・家族を紹介する
- 7回 第一群規則動詞と所有形容詞の使い方
- 8回 疑問文の作り方
- 9回 人・物を説明する
- 10回 形容詞の使い方
- 11回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 12回 指示形容詞、人称代名詞強勢形の使い方
- 13回 人、物、場所、時についてたずねる
- 14回 疑問詞の使い方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文(会話文)を付属CDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること(紙・電子どちらでもよい)

遅くとも2回目の講義までには教科書を用意しておくこと(事情により入手が遅れる場合は、講義開始前に申し出ること)

フランス語I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。
正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN111F		◎			
科目名	フランス語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

到達目標

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2400+税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って2学期は第7課から第12課まで。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 食べ物・飲み物について
- 2回 部分冠詞、数量の表現について
- 3回 時刻・天候について
- 4回 疑問形容詞と命令形
- 5回 非人称構文と第二群規則動詞について
- 6回 人・物を比較する
- 7回 比較級と最上級の表現
- 8回 人を紹介する
- 9回 補語人称代名詞の使い方
- 10回 代名動詞について
- 11回 過去のことを話す
- 12回 複合過去の作り方
- 13回 未来のことを話す
- 14回 単純未来の作り方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文(会話文)を付属のCDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること（紙・電子どちらでもよい）
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。
1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

フランス語を生きた言葉として実感

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN102F		◎			
科目名	フランス語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

初級フランス語学習の常として、基本的な文法事項の説明はしますが、フランス文化に触れつつ、会話や作文に重点を置きたいと考えています。そしてフランス語を正確に読み、発音できるようになってほしいと思います。発音を学ぶにあたっては、調音点・調音法など音声学的な分類をふまえながら、図あるいは映像を使い、目からも耳からも理解できるようにします。そうしてフランス語の音の学習を重ねていく課程で、我々が日常用いる言葉の構成要素である音の、ふだん意識されることのない側面を認識してもらえればとも思います。またフランス映画を何度も鑑賞し、学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

シェ・マドレーヌ

東海麻衣子、ジャン＝ガブリエル サントニ 著、朝日出版社刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本のアニメをフランス語でしてみる(1)
〈文法〉フランス語の子音と母音
- 2回 日本のアニメをフランス語でしてみる(2)
〈文法〉フランス語の読み方
- 3回 自己紹介とあいさつ、フランスという国(1)
〈文法〉名詞の性と数
- 4回 職業について語る、フランスという国(2)
〈文法〉主語人称代名詞、動詞 être、否定形
- 5回 住んでいるところについて語る、世界の中のフランス語(1)
〈文法〉-er 動詞、不定冠詞と定冠詞
- 6回 カフェで注文してみる、世界の中のフランス語(2)
〈文法〉形容詞〔1〕
- 7回 様々な言語について、日本の中のフランス語、フランスの中の日本語(1)
〈文法〉動詞 avoir、疑問文
- 8回 持ち物について語る、日本の中のフランス語、フランスの中の日本語(2)
〈文法〉人称代名詞の強勢形、疑問形容詞、数字 11～20
- 9回 家族について語る、ジャパン・エキスポ(1)
〈文法〉所有形容詞
- 10回 人物を描写してみる、ジャパン・エキスポ(2)
〈文法〉不規則動詞 aller, venir, vouloir、国名につく前置詞
- 11回 インタビュー、フランスの地方の魅力(1)
〈文法〉部分冠詞、指示形容詞
- 12回 さまざまな質問、フランスの地方の魅力(2)
〈文法〉疑問代名詞
- 13回 好きな食べ物について語る、フランスの朝ごはん(1)
〈文法〉疑問副詞、前置詞と定冠詞の縮約
- 14回 服装について語る、フランスの朝ごはん(2)
〈文法〉命令形、-ir 動詞
- 15回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)

フランス語Ⅲ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題 (50%)、学期末試験の結果 (50%)を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には、別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験 5 級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価 C を保証します。
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この講義は復習を前提としています。復習を終えた後、余裕があれば予習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語の一つであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN112F		◎			
科目名	フランス語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

1学期と同じくフランス文化に触れつつ、基本的な文法事項を学びながら、より高いレベルの会話力の取得を目指します。フランス語を前期以上に正確に読み発音できるようになってほしいと思います。前期と同様にフランス映画を鑑賞し、学習の成果を確認します。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

シエ・マドレーヌ
東海麻衣子 ジャン＝ガブリエル サントニ著、朝日出版社刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スポーツについて語る、フランスのヴァカンス(1)
〈文法〉形容詞(2)
- 2回 朝食について語る、フランスのヴァカンス(2)
〈文法〉数量表現、不規則動詞 savoir, voir, mettre
- 3回 人を誘ってみる、フランスの世界遺産(1)
〈文法〉目的補語人称代名詞
- 4回 行き先を聞く、フランスの世界遺産(2)
〈文法〉非人称構文、数字 21～69
- 5回 日常生活について(1)、フランスのホームパーティー(1)
〈文法〉代名動詞(1)
- 6回 日常生活について(2)、フランスのホームパーティー(2)
〈文法〉代名動詞(2)
- 7回 有名人について語る、フランスのスポーツ(1)
〈文法〉形容詞と副詞の比較級(1)
- 8回 アルバイトについて語る、フランスのスポーツ(2)
〈文法〉形容詞と副詞の比較級(2)
- 9回 レストランで(1)、フランス人の余暇(映画・音楽)(1)
〈文法〉複合過去(1)
- 10回 レストランで(2)、フランス人の余暇(映画・音楽)(2)
〈文法〉複合過去(2)、中性代名詞 en
- 11回 過去について語る(1)、フランスの美術館(1)
〈文法〉半過去(1)
- 12回 過去について語る(2)、フランスの美術館(2)
〈文法〉半過去(2)、中性代名詞 y と le
- 13回 メールを書く、フランスの教育制度
〈文法〉命令形
- 14回 近い未来の計画について話す、フランスの大学生生活
〈文法〉近接未来
- 15回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)

フランス語Ⅳ 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題 (50%)と学期末試験の結果 (50%)を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験4級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この講義は復習を前提としています。復習を終えた後、余裕があれば予習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語のひとつであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN201F		◎			
科目名	フランス語Ⅴ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。
1年生で学んだ内容を踏まえ、さらに高度な文法を学んでいきましょう。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

松村博史他『クロワッサン 2』、朝日出版 2300円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

皆さんの質問や必要に応じて、授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：1課Dialogue、自己紹介
 - 第2回：複合過去の復習
 - 第3回：2課Dialogue、直接目的補語と間接目的補語
 - 第4回：強制形、
 - 第5回：小テスト① 3課Dialogue、代名動詞
 - 第6回：代名動詞の複合過去
 - 第7回：4課Dialogue、中性代名詞、
 - 第8回：指示代名詞
 - 第9回：小テスト②、5課Dialogue
 - 第10回：前未来
 - 第11回：現在分詞とジェロンディフ、過去分詞と受動態
 - 第12回：小テスト③、所有代名詞
 - 第13回：6課
 - 第14回：7課Dialogue、複合過去と半過去
 - 第15回：大過去
- ※上記は目安であり、習熟度によって変わる可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト30%
授業中の取り組み20%
期末テスト50%
ただし出席が前提です。
4回以上欠席した場合、または期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習、復習をしっかりと行うこと

フランス語Ⅴ【昼】

履修上の注意 /Remarks

必ず辞書を持参して下さい。紙でも電子辞書でも構いませんが、スマートフォンは不可です。
すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN211F		◎			
科目名	フランス語VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。
1年生で学んだ内容を踏まえ、さらに高度な文法を学んでいきましょう。
VIではLe petit prince (『星の王子さま』) のリーディングも行います。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

村松博史『クロワッサン2』、朝日出版、2300円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Le Petit Prince (Antoine de Saint-Exupéry, Gallimard) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：7課までの復習
- 第2回：8課Dialogue、時を表す接続詞
- 第3回：小テスト①、理由・条件を表す接続詞
- 第4回：長文読解(歌詞)
- 第5回：9課Dialogue、条件法現在
- 第6回：条件法過去
- 第7回：12課
- 第8回：小テスト②、10課Dialogue、関係代名詞
- 第9回：強調構文
- 第10回：11課Dialogue、接続法
- 第11回：小テスト③、リスニング
- 第12回：長文読解(『星の王子さま』狐の話)
- 第13回：長文読解(『星の王子さま』献辞)
- 第14回：長文読解(『星の王子さま』第1章)
- 第15回：長文読解(『星の王子さま』バオバブの話)

※上記はあくまで目安であり、習熟度に合わせて進度が変化する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト30%
授業中の取り組み20%
期末テスト50%
ただし出席が前提です。
4回以上欠席した場合、または期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習復習をしっかりと行うこと。

履修上の注意 /Remarks

必ず辞書を持参して下さい。紙でも電子辞書でもどちらでも構いませんが、スマートフォンは不可です。
すでに一年間フランス語を学んだ学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN202F		◎			
科目名	フランス語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

日常的な場面でのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取りの力をつけることも目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

Albéric DERIBLE他『Rythmes & communication』、朝日出版、税別2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) unité 1: 自己紹介 (前半)
- 2) unité 1: 自己紹介 (後半)
- 3) unité 1: 自己紹介 (総括)
- 4) unité 2: 質問する (前半)
- 5) unité 2: 質問する (後半)
- 6) unité 2: 質問する (総括)、小テスト
- 7) unité 3: 買い物をする (前半)
- 8) unité 3: 買い物をする (後半)
- 9) unité 3: 買い物をする (総括)
- 10) unité 4: いつ (前半)
- 11) unité 4: いつ (後半)
- 12) unité 4: いつ (総括)、小テスト
- 13) unité 5: どこ (前半)
- 14) unité 5: どこ (後半)
- 15) unité 5: どこ (総括)

上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト (2回)・・・40%

期末テスト・・・40%

授業中の取り組み・・・20%

ただし出席が前提です。

4回以上欠席した場合、または期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

必ず辞書を持参すること。紙でも電子辞書でもどちらでも構いませんが、スマートフォンは不可です。すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN212F		◎			
科目名	フランス語Ⅷ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。日常的な場面でのフランス語会話力を養うことを中心に、発音や聞き取りの力をつけることも目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

Albéric DERIBLE他『Rythmes & communication』、朝日出版、税別2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

皆さんからの質問や必要に応じて、授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) 前期の復習、unité 6：誰(前半)
 - 2) unité 6：誰(後半)
 - 3) unité 6：誰(総括)、リスニング
 - 4) unité 7：何(前半)
 - 5) unité 7：何(後半)
 - 6) unité 7：何(総括)、小テスト
 - 7) unité 8：どのように(前半)
 - 8) unité 8：どのように(後半)
 - 9) unité 8：どのように(総括)、読解
 - 10) unité 9：過去について(前半)
 - 11) unité 9：過去について(後半)
 - 12) unité 9：過去について(総括)、小テスト
 - 13) unité 10：仮定、条件(前半)
 - 14) unité 10：仮定、条件(後半)
 - 15) 後期の復習、プレゼンテーション
- 上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の取り組み・・・20%
小テスト(2回)・・・40%
プレゼンテーション・・・20%
レポート・・・20%
ただし出席が前提です。
4回以上欠席した場合、またはプレゼンテーションを行わなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

フランス語VIII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

必ず辞書を持参すること。紙でも電子辞書でもどちらでも構いませんが、スマートフォンは不可です。
すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 宮城 志帆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN101F		◎			
科目名	スペイン語 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

スペイン語を初めて学ぶ学生が対象の授業です。文法事項を中心に練習問題や会話文、文化紹介も扱うテキストを使用し、基礎的なスペイン語文法を学習します。授業で新しく学ぶ内容は次週の学習内容のベースとなり、その繰り返しでスペイン語を身につけていきます。そのため復習と予習を毎週しっかりと行って下さい。授業ではスペイン語圏の文化についても紹介する予定です。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

岡田敦美・那須まどり『改訂版 エスピギーター 一実りのスペイン語一』朝日出版社 2022年 ¥2,530

※初版は2017年ですが、今年改訂版が発行されています。授業では2022年の改訂版を使うので、購入時にしっかり確認して下さい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書を必ず準備して下さい。ただ詳細は初回授業で説明しますので、購入はその後で大丈夫です。

iPhoneやiPadの使用者には「辞書by物書堂」というアプリをお勧めします。アプリ内ストアで、小学館の『西和中辞典』と『和西辞典』がセットになった辞書コンテンツ「小学館 西和中辞典・和西辞典」を買うことができます。Android用としてはLogoVista提供のアプリに白水社『現代スペイン語辞典・和西辞典 改訂版』があります。

代表的な中型辞書として小学館『西和中辞典』、白水社『現代スペイン語辞典』、研究者『プエルタ新スペイン語辞典』、三省堂『クラウン西和辞典』などがあります。小型辞書は小学館『プログレッシブ スペイン語辞典<第2版>カレッジエディション』、『ポケットプログレッシブ 西和・和西辞典』、三省堂『デイリーコンサイス 西和・和西辞典』などがあります。書店や生協で購入可能です。

電子辞書の使用者には、スペイン語辞書の追加コンテンツもあります。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション、文字と発音
- 第2回 音節分け、アクセント
- 第3回 名詞の性数、冠詞、形容詞
- 第4回 主格人称代名詞、ser動詞、文の構造
- 第5回 指示語、estar動詞
- 第6回 小テスト1 (1～3課)、形容詞、hay
- 第7回 現在形規則活用
- 第8回 規則活用の練習、日付、時間
- 第9回 現在形不規則活用 (語幹母音変化)
- 第10回 直接目的格人称代名詞、muyとmucho
- 第11回 小テスト2 (4～6課)、現在形不規則活用 (yo不規則、複合型)
- 第12回 現在形不規則活用 (その他)、間接目的格人称代名詞
- 第13回 gustar型動詞、前置詞格人称代名詞
- 第14回 gustar型動詞の練習、天候
- 第15回 小テスト3 (7・8課)、地図を使った学習、文化演習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70%、小テスト(3回)30%

※定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

スペイン語I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回分の復習と次回分の予習を必ず行って下さい。また教科書やプリントの練習問題について、指定された箇所を解き終えた状態で次の授業を受けて下さい。随時紹介するオンライン資料も次までに確認・視聴しましょう。スペイン放送協会RTVEのWebサイト (<https://www.rtve.es/play/videos/directo/24h/>) やRTVE Noticiasというニュースアプリで、スペイン語のニュースを24時間見ることが出来ます

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語という新しい言語との出会いを楽しみましょう。そのために授業ではスペイン語を使う上での基本ルール (= 文法) を覚えていきます。音楽や映画、書籍、絵画、料理、スポーツなど様々なテーマでスペイン語圏の文化に積極的に触れてみましょう。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン ラテンアメリカ 言語 外国語 初級文法 異文化理解 国際コミュニケーション

スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 宮城 志帆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN111F		◎			
科目名	スペイン語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

1学期の「スペイン語Ⅰ」に引き続き、初級文法の学習を進めます。現在形の再帰動詞及び過去形と完了形を中心に扱います。未来形や接続法も導入することにより、修了後の更なる学習へ繋がるレベルを目指します。スペイン語圏の文化やニュースについても紹介します。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

岡田敦美・那須まどり『改訂版 エスピギーター 一実りのスペイン語Ⅰ』朝日出版社 2022年 ¥2,530

※1学期「スペイン語Ⅰ」と同じテキストの続きを扱います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期で用意した辞書を引き続き使います。その他の参考書は授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 1学期の復習、再帰動詞
- 第2回 無人称文、接続詞que
- 第3回 点過去形規則活用
- 第4回 点過去形規則活用の練習
- 第5回 小テスト1(9・10課)、点過去形不規則活用
- 第6回 点過去形不規則活用の練習、関係代名詞que、所有形容詞後置形
- 第7回 小テスト2(10・11課)、点過去形の練習
- 第8回 現在分詞、不定語・否定語
- 第9回 過去分詞、現在完了形、受動態
- 第10回 小テスト3(12・13課)、比較級
- 第11回 最上級、関係副詞donde
- 第12回 線過去形、過去形の使い分け
- 第13回 小テスト4(14・15課)、過去形の練習、未来形の紹介
- 第14回 過去未来形・命令形・接続法の紹介
- 第15回 2学期の総復習、地図を使った学習、文化演習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70%、小テスト(4回)30%

※定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回分の復習と次回分の予習を必ず行って下さい。また教科書やプリントの練習問題について、指定された箇所を解き終えた状態で次の授業を受けて下さい。随時紹介するオンライン資料も次までに確認・視聴しましょう。スペイン放送協会RTVEのWebサイト

(<https://www.rtve.es/play/videos/directo/24h/>)やRTVE Noticiasというニュースアプリで、スペイン語のニュースを24時間見ることが出来ます

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「スペイン語II」では過去形や完了形など現在形以外の時制も学びます。辞書にも慣れ表現できることの幅が広がるだけでなく、好きな曲の歌詞が理解できるようになったり、憧れのスポーツ選手のプロフィールやインタビューが読めるようになったりします。覚えることはたくさんありますが、自分の「好き」をスペイン語で楽しむ体験を積み重ねて行って欲しいと思います。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン ラテンアメリカ 言語 外国語 初級文法 異文化理解 国際コミュニケーション

スペイン語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN102F		◎			
科目名	スペイン語Ⅲ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、語彙の確認、会話の暗記の後、語彙を増やしながら応用の会話もすぐ口から出てくるように何度も練習します。その後アクティビティを通してペアであるいはクラス内でスペイン語で相手に尋ね、また相手から尋ねられたらスペイン語で答える練習をします。スペイン語の知識が全くない人を対象に、スペイン語の読み方・発音・アクセントの規則からはじめます。スペイン語の発音は日本語話者に易しく、発音しやすいのでどんどん単語や文を発音し慣れていきましょう。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『彩りスペイン語Español Colorido』辻博子、野村明衣著、朝日出版社、2021

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。

西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1課 スペイン語とスペイン語圏について、スペイン語のアルファベット、発音、アクセント
- 2回 スペイン語の発音とアクセントの確認、挨拶、数字「おはよう。」
- 3回 2課 名詞、冠詞「ロス・アンヘレス」
- 4回 名詞・冠詞の確認
- 5回 3課 形容詞、主語、ser動詞「私は学生です」
- 6回 ser動詞の確認「どちらの出身ですか」
- 7回 ser動詞確認テスト、4課 規則活用動詞「スペイン語を話しますか」
- 8回 規則活用動詞と頻度表現「私は週に2度スペイン語を習います」
- 9回 5課 指示詞、所有詞「これはわたしのです」
- 10回 日付、時間表現「今何時ですか」
- 11回 6課 estar動詞、ser動詞との違い「あの人は今日怒っている」
- 12回 hay、estar動詞との違い「今家にいますか」
- 13回 ser、estar、hayのまとめテスト「今日の恰好はとてすてきだね」
- 14回 スペイン語のビデオを見てみよう
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、小テスト 30%、日常の授業への取り組み 20%

定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語I(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初めて接する言語ですから、何度も声を出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。

また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：

<http://www.rtve.es/> (TVE、スペイン国営放送。テレビとラジオを持つ。)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN112F		◎			
科目名	スペイン語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

1学期と同様、この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、語彙の確認、文法事項の確認、会話の暗記の後、語彙を増やしながら応用の会話もすぐ口から出てくるように何度も練習します。その後アクティビティを通してペアであるいはクラス内でスペイン語で相手に尋ね、また相手から尋ねられたらスペイン語で答える練習をします。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『彩りスペイン語Español Colorido』辻博子、野村明衣著、朝日出版社、2021 (1学期と同じ)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。

西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習、7課 不規則活用動詞1、時間表現2「電車は午後3時に出ます」
- 2回 直接目的格人称代名詞、間接疑問文「ルイスがどこに住んでいるか知っていますか」
- 3回 8課 不規則活用動詞2「コーヒーがほしいですか」
- 4回 間接目的格人称代名詞、2つの目的格人称代名詞のまとめ「誰にそれをあげるの」
- 5回 9課 不規則活用動詞3「兄弟はいますか」
- 6回 不規則活用動詞まとめ、前置詞格人称代名詞
- 7回 gustarとgustar型動詞
- 8回 7課～9課 まとめテスト、10課 不定語・否定語、天候表現「今日は寒い」
- 9回 比較表現「私はラウルより背が高い」
- 10回 11課 再帰動詞「私は朝7時に起きます」
- 11回 再帰動詞確認「もう帰っちゃうの」
- 12回 後期まとめ
- 13回 スペイン語のビデオを見てみよう1
- 14回 スペイン語のビデオを見てみよう2
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、小テスト 30%、日常の授業への取り組み 20%

定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語Ⅱ(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：

<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN201F		◎			
科目名	スペイン語Ⅴ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

昨年度（1年次）の続きとして、中級程度以上のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします 授業を通じて随時スペイン語圏の文化に接することができるような教材も紹介します。

（到達目標）

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

昨年のテキストの文法事項の続きをしますが、テキストは用いず、moodleから教材のプリントに文法事項の内容をまとめたものを送るので、それを見ながら、文法事項を積み上げていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：
スペイン語中辞典（小学館）
新スペイン語（研究社）
現代スペイン語辞典（白水社）
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
級スペイン語辞典（白水社）
他多数有。
白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和和辞典：
和和辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
クラウン和和辞典（三省堂）
その他
図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
スペインの歴史（立石、関、中塚著：昭和堂）
スペイン（増田監修：新潮社）
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語Ⅴ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 年次の進度が若干異なるため、最初に復習を多めにやります。
- 1 1年の復習(代名詞を中心に)(1)
- 2 1年の復習(代名詞を中心に)(2)
- 3 1年の復習(代名詞を中心に)(3)
- 4 スペイン語の動詞活用の全体像について
- 5 点過去・線過去・現在完了の用法(1)
- 6 同上(2)
- 7 同上(3)
- 8 動詞の派生形とその用法(進行形、完了形、命令形など)(1)
- 7 同上(2)
- 9 未来形・過去未来・過去完了(1)
- 10 同上(2)
- 11 同上(3)
- 12 上記時制も含め、重要な文法事項：複文(副詞節・形容詞節)(1)
- 13 同上(2)
- 14 同上(3)
- 15 点過去と線過去の違いについてと、ここまでの復習(1)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は下で述べる平常点を一切加味せず定期試験の点数(80%)だけで評価します。その1/3の条件を満たしている範囲での欠席は構いません。なお、クラブ活動など一切欠席届は認めません。

定期試験が60点以上ならば無条件で単位を認定しますが、60点を下回る場合にも授業中評価が優秀な場合は20%を超えて加点して評価します。平常点は普段の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を半期に亘って数値化します。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないとか、授業中答えていないなど)は授業中評価が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

定期試験80% + 授業中評価20% = 100% で 60% で単位を認定します。

出欠について：全体の回数の3分の1以上の欠席については授業中評価を加点できません。

評価不能：定期試験を受験しなかった場合は評価できませんので、注意して下さい。

なお、新型コロナウイルスの状況によって、オンライン授業になった場合には評価の方法を変更しますが、その時点で詳しく説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

動詞の活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかりと準備しましょう(30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

上記文法資料に対するプリントなどの補助教材はポータル(moodle)から送ります。授業時に詳しく説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp(北九大メールではなく、こちらに送って下さい)

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN211F		◎			
科目名	スペイン語VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

スペイン語の中級から上級の文法を理解し使えるようにすることを目標にします。詳しくは授業計画を参照。前期のスペイン語Vに引き続き、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

昨年度のテキストの前期の続きを、moodleから補助教材のプリントにテキストの内容をまとめたものを送るので、それを見ながら、文法事項をまとめていきます。

最後にスペイン語版のアニメ(題材未定)を見ながら、表現の聞き取りの練習を楽しみながらやりましょう。

スペイン語Vのプリントもmoodleに残っているので、スペイン語VIから受講の場合も教材はすべてそろいます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スペイン語中辞典(小学館)

新スペイン語(研究社)

現代スペイン語辞典(白水社)

プログレッシブスペイン語辞典(小学館)

パスポート初級スペイン語辞典(白水社)

他多数有。

白水社の別の西和辞典(高橋編)は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。

和西辞典:

和西辞典(宮城、コントレラス監修:白水社)

クラウン和西辞典(三省堂)

その他

図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編:河出書房新社)

スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著:昭和堂)

スペイン(増田監修:新潮社)

スペインの社会(寿里、原編:早稲田大学出版)

スペインの政治(川成、奥島編:早稲田大学出版)

スペインの経済(戸門、原編:早稲田大学出版)

スペイン語とつきあう本(寿里著:東洋書店)

スペイン語基礎文法(ロポ、大森、広康共訳:ピアソンエデュケーション)

スペイン語VI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 前期を含め、様々な構文のまとめ(受け身、使役、放任、比較など)(1)
 - 2 同上(2)
 - 3 時制の一致
 - 4 再帰動詞(1)
 - 5 同上(2)
 - 6 いくつかの文法事項(感嘆文、比較表現)
 - 7 同上(2)
 - 8 接続法の活用全般について
 - 9 接続法の用法(1)
 - 10 同上(2)
 - 11 同上(3)
 - 12 スペイン語版アニメ(題材未定)による聞き取りと訳
 - 13 同上(2)
 - 14 同上(3)
 - 15 まとめ
- 授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材を随時学びます。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は下で述べる平常点を一切加味せず定期試験の点数(80%)だけで評価します。その1/3の条件を満たしている範囲での欠席は構いません。なお、クラブ活動など一切欠席届は認めません。

定期試験が60点以上ならば無条件で単位を認定しますが、60点を下回る場合にも授業中評価が優秀な場合は20%を超えて加点して評価します。平常点は普通の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を半期に亘って数値化します。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないとか、授業中答えていないなど)は授業中評価が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

定期試験80% + 授業中評価20% = 100% で 60% で単位を認定します。

出欠について: 全体の回数の3分の1以上の欠席については授業中評価を加点できません。

評価不能: 定期試験を受験しなかった場合は評価できませんので、注意して下さい。

なお、新型コロナの状況によって、オンライン授業になった場合には評価の方法を変更しますが、その時点で詳しく説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかり準備しましょう(30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

プリントなどの補助教材はmoodleから送ります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール: faoki@fukuoka-u.ac.jp(北九大メールではなく、こちらに送って下さい)

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう!

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN202F		◎			
科目名	スペイン語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳを更に発展させ、聞き取りを強化していきます。

文法表現ではさらに進んだ時制を学び、聞き取り素材の単語とその使われ方を把握します。そのうえで、ニュースを聞き取っていきましょう。ニュースは難しいと思われがちですが、ニュースとは事実関係をはっきりとシンプルに伝えることが目的であるため、複雑な構文で延々と続く長い文章はあまりありません。使用教科書はさらにニュース本文も短く編集してあり、理解しやすくなっています。ニュースが難しいと思われる理由は語彙力の問題です。語彙と聞き取りを強化し、ネイティブと会話をしていくときの基礎力を養いましょう。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、話すことができる。また、語彙力を発展させ、ネイティブ並みのスピードで聞き取ることができる。

教科書 /Textbooks

『ニュースで学ぶ中級スペイン語[改訂版] La noticia de hoy[edición revisada]』中島聡子、佐藤佐知、David Taranco著、三修社、2022

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。辞書必携です。

西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。前年度使用した辞書がある方は購入する必要はありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語の復習、1課 現在形と再帰動詞
- 2回 1課 SNSと余暇
- 3回 2課 gustarの用法と不定詞を伴う表現
- 4回 2課 スペインのテニス選手
- 5回 3課 過去時制の使い分け 現在完了と点過去
- 6回 3課 世界で最も古いレストラン
- 7回 4課 過去時制の使い分け 線過去
- 8回 4課 ファッション
- 9回 5課 過去時制の使い分け 点過去・線過去・過去完了
- 10回 5課 養子縁組
- 11回 6課 未来と過去未来 不定詞を伴う助動詞的表現
- 12回 6課 風力発電
- 13回 7課 不定詞を伴う助動詞的表現 おいしいコーヒーの入れ方
- 14回 8課 比較級 エラスムス留学制度
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

スペイン語Ⅶ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストを読んでわからない単語を調べてくる、ニュースを聞いて正誤問題に答えてみる。単語の聞き取りができない箇所は前後の箇所から意味を推測してみる。

事後学習：ニュース音声を何度も流し、同じように発音する。テキストを見ずにスペイン語をリピートしていく。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。

スペイン語初級（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、さらに発展した文法内容で、ネイティブのスピードで聞きとれるように訓練していきます。授業の予習は大変ですが、目にする、耳にする単語を引いて覚えること、ネイティブ並みのスピードで繰り返して発音することを繰り返していると、まったく知らないニュース映像を見た際にながしか内容が聞き取れてくるかもしれません。繰り返すことで確実に力が付きます。

インターネット上で見られるスペイン語の映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/>（TVE、スペイン国営放送。テレビとラジオを持つ。）

<http://www.cadena100.es/>（スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。）

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語Ⅷ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN212F		◎			
科目名	スペイン語Ⅷ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳを更に発展させ、聞き取りを強化していきます。

文法表現ではさらに進んだ時制を学び、聞き取り素材の単語とその使われ方を把握します。そのうえで、ニュースを聞き取っていきましょう。ニュースは難しいと思われがちですが、ニュースとは事実関係をはっきりとシンプルに伝えることが目的であるため、複雑な構文で延々と続く長い文章はありません。使用教科書はさらにニュース本文も短く編集してあり、理解しやすくなっています。ニュースが難しいと思われる理由は語彙力の問題です。語彙と聞き取りを強化し、ネイティブと会話をしていくときの基礎力を養いましょう。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、話すことができる。また、語彙力を発展させ、ネイティブ並みのスピードで聞き取ることができる。

教科書 /Textbooks

『ニュースで学ぶ中級スペイン語[改訂版] La noticia de hoy[edición revisada]』(1学期と同じものを使用) 中島聡子、佐藤佐知、David Taranco著、三修社、2022

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。辞書必携です。

西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。前年度使用した辞書がある方は購入する必要はありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期復習 9課 接続法現在1
- 2回 9課 ホンジュラスの交番
- 3回 10課 接続法現在2
- 4回 10課 育休取得
- 5回 11課 接続法現在3
- 6回 11課 アポロフォビア
- 7回 12課 接続法現在4
- 8回 12課 日本語学習のアドバイス
- 9回 13課 接続法過去1
- 10回 13課 スペインの安楽死
- 11回 14課 接続法過去2
- 12回 14課 チュッパチャップスの歴史
- 13回 15課 条件文
- 14回 15課 地中海に沈んだ夢
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

スペイン語VIII 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストを読んでわからない単語を調べてくる、ニュースを聞いて正誤問題に答えてみる。単語の聞き取りができない箇所は前後の箇所から意味を推測してみる。

事後学習：ニュース音声を何度も流し、同じように発音する。テキストを見ずにスペイン語をリピートしていく。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。

スペイン語初級 (I・II・III・IV) の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、さらに発展した文法内容で、ネイティブのスピードで聞きとれるように訓練していきます。授業の予習は大変ですが、目にする、耳にする単語を引いて覚えること、ネイティブ並みのスピードで繰り返して発音することを繰り返していると、まったく知らないニュース映像を見た際にながしか内容が聞き取れてくるかもしれません。繰り返すことで確実に力が付きます。

インターネット上で見られるスペイン語の映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/> (TVE、スペイン国営放送。テレビとラジオを持つ。)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

日本語I【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」に焦点を当てる。日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を学ぶ。さらに、学期最後の1カ月は、チュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『スタディスキルズ・トレーニング改訂版 - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』(佐々木瑞枝他、The Japan Times)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生生活(1)【自己紹介から始めよう】
- 3回 大学生生活(2)【高校と大学の違い/大学について学ぶ】
- 4回 大学生生活(3)【キャンパスツアー】
- 5回 大学生生活(4)【大学教員・職員との付き合い方】
- 6回 大学生生活(5)【図書館ツアー】
- 7回 大学生生活(6)【大学生生活のデザイン】
- 8回 大学生生活(7)【講義の上手な受け方】
- 9回 大学生生活(8)【演習に参加するコツ】
- 10回 大学生生活(9)【大学の定期試験】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 50 %
ポートフォリオ評価 ... 50 % (自己評価30%/ピア評価20%)

- ・ 授業の3分の1以上の欠席及び、未提出の課題がある場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習し、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語Iと日本語II及び日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学生生活を「自分らしく」「楽しく」過ごせるように応援します。

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) チュートリアル

日本語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 元正 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語IIでは、実際に日本語を使う場面で、文字によるコミュニケーション(書く)の能力を伸ばす。「対人性」と「場面性」を理解することで、適切な文章構成・日本語表現ができるようになる。そして、「自己推敲能力」を伸ばすために、自分の書いたものを自己評価し、より良いものに修正する。

教科書 /Textbooks

『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』(由井紀久子他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『日本語Eメールの書き方』(築晶子他、The Japan Times)
『外国人のためのケータイメール@につぼん』(笠井淳子他、アスク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【文のスタイル】【配慮】【負担】【良好な関係】【今後のこと】
- 2回 アポイントをとる【PCメール】
- 3回 アドバイスを求める【PCメール】
- 4回 問い合わせる【PCメール】
- 5回 依頼する【PCメール】
- 6回 依頼される【PCメール】
- 7回 報告する【PCメール】
- 8回 謝る【PCメール】
- 9回 お礼を言う【携帯&PCメール】
- 10回 誘う【携帯メール】
- 11回 誘われる【携帯メール】
- 12回 なぐさめる・一緒に喜ぶ【携帯メール】
- 13回 伝言する【メモ】
- 14回 募集する【チラシ】【掲示】
- 15回 【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...70% 期末テスト...30%
(授業の3分の1以上の欠席及び未提出の課題がある場合は、評価不能(一)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行い、提示された課題はMoodleで提出する。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当することがある。
日本語I、日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連が深いので、同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロフィシエンシー 書く 対人性 場面性

日本語III 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い、日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとって、第二言語である日本語で自己表現を行いながら大学生活を過ごすためには、まず、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『ステップ式質的研究法-TAEの理論と応用』(得丸さと子、海鳴社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
【フェルトセンス】【リラクスのワーク】
- 2回 【色模様のワーク】
- 3回 【オノマトペのワーク】
- 4回 【比喩のワーク】
- 5回 【花束のワーク】
- 6回 【コツのワーク】【共同詩のワーク】
- 7回 【励ます言葉のワーク】
- 8回 【マイセンテンス】
- 9回 【パターンを見つける】
- 10回 【パターンを交差させる】
- 11回 【自己PR文を作ろう】
- 12回 【資料を使って論じよう】
- 13回 【経験から論じよう】
- 14回 【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

三分の一以上の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は、評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、ワークの手順を読んで理解しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定です。
日本語I及び日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払ってください。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。
自主的に練習をすることで、授業内容の理解が深まるので、後日繰り返し練習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

誰かが作った言葉のレパートリーから言葉を選択して使用するのではなく、自分の「身体感覚」から発して言葉を作り上げていくのがTAEです。
TAEを身につけることによって、感受性が豊かになると同時に、言葉で表現する意欲も湧いてきます。

キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ 日本語の私 母語の私

日本語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Ⅳでは、特に口頭でのコミュニケーション力「スピーチ」に焦点を当てる。ともすれば似通った内容になりがちなスピーチから脱却するために、自分なりの興味や考え、相手の興味を「発見」し、協働で学びながら、スピーチの幅を広げる。さらに、日本語Ⅰ同様、学期最後の一月はチュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『協働学習で学ぶスピーチ』(渋谷実希他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『アカデミック・プレゼンテーション』(三浦香苗他、ひつじ書房)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション/聴衆分析と話題選び【戦略】
- 2回 話し手の心得/聞き手の役割【思い込み・相互評価】
- 3回 自己紹介【オリジナリティ】
- 4回 食べたい、あのお昼ご飯【説明力・伝える力】
- 5回 失敗から学ぶ教訓(1)【伝える力】
- 6回 失敗から学ぶ教訓(2)【内容の価値】
- 7回 情報探索【内容の深化・語彙力】
- 8回 質疑応答【内容の深化・聞き手の役割】
- 9回 責任を持って自慢する(1)【責任を伴った発信力】
- 10回 責任を持って自慢する(2)【学びと社会とのつながり】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括【一年間を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...50%
ポートフォリオ評価 ...50%(自己評価...30% ピア評価...20%)

・ 授業の3分の1以上の欠席及び、未提出の課題がある場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習すること、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語Ⅳと日本語Ⅴ、日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

相手が興味を持ってくれるような自分らしいスピーチを目指します。

キーワード /Keywords

相互評価・内容の価値・多様な視点

日本語Ⅴ【昼】

担当者名 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語Ⅴでは、特に「スタディスキル」と「日本語発想力・読解力・表現力」に焦点を当てる。
「スタディスキル」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。
「日本語発想力・読解力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。
(到達目標)
・ 大学生活での学び方を理解し、資料を分析し、発信するなど主体的に学ぶためのスキルを身につけている
・ 仲間と協働し、コミュニケーションし課題解決できる
・ 「論理的思考力」をもとに、自分の意見や主張を相手に伝えることができる

教科書 /Textbooks

『考える・理解する・伝える力が身につく 日本語口ジカルトレーニング 中級』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング改訂版 - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times
○石黒圭『この1冊できちんと書ける! 論文・レポートの基本』日本実業出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション	
2回	スタディスキル(1)アクティブラーニングをやってみよう	論理的思考力(1)リストアップ・マッピング
3回	スタディスキル(2)テーマからトピックを取り出そう	論理的思考力(2)イラストを見て考える
4回	スタディスキル(3)インターネットで情報を探そう	論理的思考力(3)表・グラフの内容を読み取る
5回	スタディスキル(4)本を手にして読んでみよう	論理的思考力(4)マッピングしながら読む
6回	スタディスキル(5)図解で考えよう	論理的思考力(5)登場人物になったつもりで読む
7回	スタディスキル(6)表・グラフを描いてみよう	論理的思考力(6)どちらがいいか考えながら読む
8回	スタディスキル(7)議論の方法を知ろう	論理的思考力(7)理由を考えながら読む
9回	スタディスキル(8)レポートの文章の特徴を知ろう	論理的思考力(8)意味を考えて読んでみる
10回	スタディスキル(9)レジュメを作成してみよう	論理的思考力(9)イラストを見て書いてみる
11回	スタディスキル(10)レポートの基本を知ろう	論理的思考力(10)定義を試してみる
12回	スタディスキル(11)発表の資料を作ろう(テーマ決め・準備)	論理的思考力(11)理由を考えて書いてみる 1
13回	スタディスキル(12)発表をやってみよう(レジュメ作成・準備)	論理的思考力(12)理由を考えて書いてみる 2
14回	スタディスキル(13)発表をやってみよう(発表と自己評価)	
15回	総括 1年間(半期)の学びをふりかえろう(評価)	

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...40% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...60%

・ 三分の一以上の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は、評価不能(一)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に本文を読んで予習し、目標や身につけるスキルを確認しておく。事後学習としては、授業や課題を通してどこまで何を身につけることができたか、まだ何が足りていないかをふりかえり、どうしたら目標を達成できるかなどについて考える。

履修上の注意 /Remarks

日本語Ⅳと日本語Ⅴと日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

日本語Ⅴ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

個人の学びだけでなく、仲間とともに調べ、研究し、発表することでさらに豊かな学びを実感してください。

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

日本語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、学生が学び手として互いに協力し合い、課題達成に向けて取り組めるようになることを目指す。具体的には、「自己目標の明確化」を目指すために活動(1)「自己PR」を行う。そして、「能動的読解」のために活動(2)「ブック・トーク」を行い、「外部から得た情報や知識を適切に配列し、引用表現を用いて自分の意見と区別しながら書く」ことを目指すために活動(3)「ブック・レポート」を行う。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己PR(1)【自分を伝える】
- 3回 自己PR(2)【情報を整理する】
- 4回 自己PR(3)【スピーチの準備をする】
- 5回 自己PR(4)【スピーチをする】
- 6回 自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
- 7回 ブック・トーク(1)【情報を探す】
- 8回 ブック・トーク(2)【情報を読んで伝える】
- 9回 ブック・トーク(3)【アウトラインを書く】
- 10回 ブック・トーク(4)【ポスター発表を準備する】
- 11回 ブック・トーク(5)【発表する】
- 12回 ブック・レポート(1)【書く】
- 13回 ブック・レポート(2)【内容を検討する】
- 14回 ブック・レポート(3)【表現や形式を点検する】
- 15回 総括【全体を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...40%
ポートフォリオ評価 ...60%(自己評価 30% ピア評価 30%)
(授業の3分の1以上の欠席及び未提出の課題がある場合は、評価不能(－)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、日本語エクササイズのワークシートを使って各課に必要な日本語表現を勉強しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
テキストに付属する「日本語エクササイズ」は、授業外での自主学習とする。なお、2つの課題を発表する際、ビジターを交える可能性がある。
また、ポートフォリオを作成して学習の軌跡を保存することで、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・ラーニング 相互リソース化 批判的思考の獲得 社会的関係の構築

日本語VII【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。

日本語VIIでは、日本語で読むことを中心とする。特に大学で必要なクリティカル・リーディング(批判的な読み)ができるようになることを目標とする。書かれたテキストに対して正確に読み取った上で、さらに複眼的な視点から検討するための思考技術を養成する。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聞くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

(到達目標)

- ・ 書かれている内容をさまざまな角度から検討し、批判的に読むことができる
- ・ 書き手の思考の筋道を追いながら問題を探し出し、明確な問いを立て、文章を吟味しながら読む技術を身につけている
- ・ 自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聞きながら仲間と協働的に学ぶことができる

教科書 /Textbooks

『読む力(中上級)』(奥田純子監修、竹田悦子他編著 くろしお出版) ¥1,900

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『ひとりで読むことからピア・リーディングへ:日本語学習者の読解過程と対話的協働学習』(館岡洋子、東海大学出版会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【クリティカル・リーディング、複眼思考レッスン】
- 2回 私のニュースの読み方【主張や論点、問題提起、意図】
- 3回 価値の一様性【主張や論点、問題提起、意図】
- 4回 言葉の起源をもとめて【研究動機と仮説の概要】
- 5回 経済学とは何か【分野の概要】
- 6回 思いやり【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 7回 住まい方の思想【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 8回 決まった道はない。ただ行き先があるのみだ【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 9回 メディアがもたらす環境変容に関する意識調査【研究論文の概要】
- 10回 改定 介護概論【目次から読む】
- 11回 ことばの構造、文化の構造【入門書】
- 12回 観光で行きたい国はどこ
- 13回 化粧する脳【現状、展望、原因、問題点】
- 14回 クリティカル・リーディングを磨こう
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...40% 授業への取り組み(課題を含む)...60%

- ・ 三分の一以上の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は評価不能(一)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、事前に課題の予習をすることを前提として進める。事後学習としては、授業で身につけたスキルを使えるようになったか、自己評価をおこなう。

履修上の注意 /Remarks

日本語VIIおよびVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃からニュースや時事問題に関心を持ち、それに対する自分の意見を持っておいってください。

キーワード /Keywords

クリティカル・リーディング 批判的読み メタ・コンテンツ 全体把握 言語タスク 認知タスク

日本語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 留学生 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIIでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけでなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現(第2版)』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)
- 『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(二通信子他、東京大学出版会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る/課題の条件を確認する】
- 2回 レポートとは何かを考える【論証型レポート/根拠の大切さを知る】
- 3回 レポートのテーマを考える【構想マップ/練る】
- 4回 情報をカード化する【情報の信頼性/調べる】
- 5回 目標を仮に規定する【情報の整理/絞る】
- 6回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 7回 パラグラフライティング【中心文/説明文・指示文】
- 8回 パラグラフライティング【引用/引用文献リスト】
- 9回 文章を点検する【校正/表現の点検】
- 10回 文章を点検する【形式の点検/ピア・レスポンス】
- 11回 レポートの完成【体裁】
- 12回 発表を準備する【発表の意義・レジュメの作成】
- 13回 発表する【話し手/聴き手/司会】
- 14回 発表を踏まえてレポートを修正する【最終稿提出】
- 15回 学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% レポート・発表...40% ピア評価...20%

・ 授業の3分の1以上の欠席及び、未提出の課題がある場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに自己のテーマに関する参考文献の収集や精読を行っておくこと、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えてほしい。

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Aでは、現代日本人に通ずる伝統文化「茶道」「歌舞伎」を通して、「日本社会・日本文化・日本人とは何か」を考える。そして、文化を理解する視点を持つことで、グローバル化した現代社会の中で、時代に流されない生き方を模索する。具体的には、日本の伝統芸能である「茶道」や「歌舞伎」を主たる題材として、体験学習を行う。その過程で立ち昇る日本文化について、クラス内で議論を重ねて行く。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをもう一つのねらいとする。授業では、日本語の古語があまり得意ではない受講者のために、できるだけ視覚的聴覚的に工夫を凝らすことで理解を促進する。

教科書 /Textbooks

毎回レジュメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『茶の湯六ヶ国語会話』(淡交社編集局、淡交社)
- 『「お茶」の学びと人間教育』(梶田勲一、淡交社)
- 『表千家茶道十二月』(千宗左、日本放送出版協会)
- 『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏、雄山閣出版)
- 『歌舞伎登場人物事典』(古井戸秀夫、白水社)
- 『歌舞伎のびっくり満喫図鑑』(君野倫子、小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【伝統文化】【現代生活】
- 2回 茶道(1)茶道の世界をのぞく【茶室】【茶道具】【わびさびの世界】
- 3回 茶道(2)茶道から歴史を学ぶ【千利休】
- 4回 茶道(3)現代に続く伝統【工芸】【作法】
- 5回 茶道(4)体験する【薄茶をいただく】
- 6回 歌舞伎(1)歌舞伎の世界をのぞく【人間国宝】【女形】【大道具】
- 7回 歌舞伎(2)歌舞伎から歴史を学ぶ【江戸の町と町民文化】
- 8回 歌舞伎(3)演じる【竹本・義太夫】【現代に残る名台詞】
- 9回 歌舞伎(4)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵大序・三段目・四段目】
- 10回 歌舞伎(5)現代のサムライ【切腹】【武士道】
- 11回 歌舞伎(6)忠臣蔵と現代社会【世界観】【義】
- 12回 歌舞伎(7)魅力【大衆性】【芸術性】
- 13回 伝統文化と現代社会(1)日本へ与えた影響【文化の伝承】【サブカルチャー】
- 14回 伝統文化と現代社会(2)外国へ与えた影響【文化の融合】【新しい文化】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート...40% ポートフォリオ評価60%(自己評価...20% ピア評価...20% 教師評価...20%)

・ 授業への3分の1以上の欠席及び、未提出の課題がある場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め指定された教材を視聴しておくこと、授業終了後には指示された課題を行い、復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学期の途中ではあるが、希望者を募り6月に博多座へ歌舞伎鑑賞に行く予定である。
日頃から伝統的な文化(日本文化や自国文化を問わず)に興味を持っていると授業を楽しみやすいと思う。
美しい所作(身のこなしや箸の持ち方、茶や菓子の頂き方)についても実践する。

キーワード /Keywords

茶道 歌舞伎 日本文化 自文化 異文化 伝統文化 現代生活 サブカルチャー 文化の伝承

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、「境目」「母性」と「父性」の間をゆれる」「ことばと文化を結ぶために」の3つの読み物を題材とする。これらの題材を、各自の考えをまとめるためのリソースや共通の土台としながら、クラス内で議論していく。最終的には一人ひとりが自分にとっての文化「私にとって文化とは」をレポートとしてまとめていく。

(到達目標)

- ・ 複数のリソースをもとに、自分自身の考えをつくっていくことができる
- ・ クラス内での対話を通して自分の考えをつかみ、相手にわかるように表現できる
- ・ 文化に対する問題意識や価値観を認識し、自分の考えをレポートとしてまとめる

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上弘美『あるようなないような』中公文庫
河合隼雄「『母性』と『父性』の間をゆれる」『国語総論』大修館書店
細川英雄『日本語教育と日本事情—異文化を超える—』明石書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「境目」を読む
- 3回 「境目」について話し合う
- 4回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
- 5回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
- 6回 「ことばと文化を結ぶために」を読む
- 7回 「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
- 8回 文化観を比較する
- 9回 その他の読み物を読む
- 10回 レポートの作成(1)「私にとって文化とは何か」
- 11回 ピア・リーディング クラスメートのレポートを読んでコメントする
- 12回 レポートの作成(2)修正する
- 13回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする
- 14回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングし、相互評価・自己評価する
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...50%

- ・ 三分の一の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は評価不能(一)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は課題の予習を前提として進める。事前に配布された読み物を読み、わからない語句については事前に調べておくこと。また、事後学習として自分自身の考えをもう一度まとめ、深めておく。

履修上の注意 /Remarks

受講者が多数の場合、2年次以上の学生を優先する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化 比較 交換 対話

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「日本事情 (社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の見解を求めるものではなく、「日本社会で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

「日本事情 (社会) A」では、さまざまな文化的背景を持つ人々が生活する日本社会においてどのような問題や課題があるのかを知り、それぞれの事柄を多角的にとらえ、自国の現状と比較しながら自分たちの問題として考えていく。

各テーマやトピックについて主体的に学び、知識を得ることで自分自身の考えや意見を持つ。また、自分自身の体験や生活の中で感じたことについて仲間と意見を交わすことで、分析能力やコミュニケーション能力の育成を図る。

(到達目標)

- ・ 幅広い分野から日本について知る
- ・ 様々なテーマについて主体的に学び、自分自身の意見を持つ
- ・ クラスで意見交換することで、分析能力やコミュニケーション能力を身につける

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『異文化理解入門』(原沢伊都夫、研究社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
- 2回 「異文化を理解する①」(概要・事例・理解)
- 3回 「異文化を理解する②」(比較・考える・表現する)
- 4回 「多文化共生社会①」(概要・事例・理解)
- 5回 「多文化共生社会②」(比較・考える・表現する)
- 6回 「コロナ社会①」(概要・事例・理解)
- 7回 「コロナ社会②」(比較・考える・表現する)
- 8回 「就職活動①」(概要・事例・理解)
- 9回 「就職活動②」(比較・考える・表現する)
- 10回 「日本社会と子ども①」(概要・事例・理解)
- 11回 「日本社会と子ども②」(比較・考える・表現する)
- 12回 「無縁社会①」(概要・事例・理解)
- 13回 「無縁社会②」(比較・考える・表現する)
- 14回 「発表」
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...40% 授業への取り組み・発表...60%

- ・ 三分の一以上の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は評価不能 (-) とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテーマについて調べ、自分の考えをまとめてくること。

事後学習では、クラスメートの考えや新しい情報を知った上で、もう一度自分の考えをまとめ直すようにしておく。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業であるが、言語能力としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められる。必ず初回のオリエンテーションには参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から身の回りの問題や社会に関心を持ち、それに対する自分の考えを持っておいください。

キーワード /Keywords

文化 社会 多様性 課題 分析

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 /Instructor 清藤 隆春 / 国際教育交流センター, 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター
友松 史子 / 国際教育交流センター, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「日本事情(社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。

ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の理解を求めるものではなく、「日本で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

授業では、在日外国人、特に留学生を対象とした研究論文や調査研究を読み進め、単に知識を得るだけでなく、自分自身の過去及び現在を理解し、未来を描くことに繋がられるように、クリティカル・リーディングを行う。そして、留学生や元留学生にまつわる言説を分析し、自分の人生を自分で切り拓けるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岡益巳・深田博己『中国人留学生と日本』白帝社
- 坪谷美欧子『「永続的ソジョナー」中国人のアイデンティティ-中国からの日本留学にみる国際移民システム』有信堂
- 葛文綺『中国人留学生・研修生の異文化適応』溪水社
- 吉沅洪『日中比較による異文化適応の実際』溪水社
- 榎本博明(2002)『<ほんとうの自分>のつくり方-自己物語の心理学』講談社現代新書
- 高松里(2015)『ライフストーリー・レビュー入門』創元社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業オリエンテーション
- 第2回 「研究論文を読む」「調査報告を読む」とは：クリティカル・リーディングの復習
- 第3回 クリティカル・リーディングの実践：研究論文を読む
- 第4回 留学生や元留学生にまつわる言説(1)日本社会の中の外国人という視点から
- 第5回 言説の考察(1)
- 第6回 留学生や元留学生にまつわる言説(2)留学の意義と留学に対する評価の視点から
- 第7回 言説の考察(2)
- 第8回 自己物語とアイデンティティ
- 第9回 自己物語を書こう(1)自己物語の実際
- 第10回 自己物語を書こう(2)自己物語の書き方
- 第11回 自己物語を読もう(1)論理実証モードと物語モード
- 第12回 自己物語を読もう(2)共感から共鳴へ
- 第13回 自己物語を語り直そう
- 第14回 留学生のキャリア発達
- 第15回 「ほんとうの自分」のつくり方

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...30% 課題...30% レポート40%

三分の一以上の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は、評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半は、研究論文、エッセイをリソースとした学習を行うため、予習タスクをします。
事後学習では、各研究論文、エッセイでの学習を統合するための作業をします。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語技能としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められ、かつ、情報リテラシーや批判的思考力に基づく理論構築を目指していくので、初回のオリエンテーションに必ず参加して、履修するかどうかを判断しよう。
授業は課題に対する予習を前提として進めます。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さん一人一人の日本での経験を活かしながら、「日本社会」を学びたいと思います。

キーワード /Keywords

言説 留学生のキャリア発達 自己物語

法史学 【昼】

担当者名 /Instructor 梁田 史郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW310M	○	○	◎		
科目名	法史学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

日本は明治時代に、必要に迫られて西欧法を導入し近代的な法制度を整えました。本講義では、西洋における継受ローマ法と学識的法文化を中心とする「法」の歴史を扱います。日本の現行民法（1898年施行）の体系はパンデクテン体系、ポワソナード民法とも称される旧民法（1890年公布）のそれはインスティテュティオネス体系と呼ばれますが、その名称はどちらも6世紀のユスティニアヌス法典の一部（前者は「学説彙纂」、後者は「法学提要」）に由来するものです。しかし、どちらもローマ法の体系そのものではなく、西欧における中世以来の法学の成果として完成されたものです。

本講義では、ヨーロッパにおけるローマ法継受の歴史を主に扱い、近代法典編纂に至るまでを概観します。この講義を通じて古代ローマ帝国の「法」が、どのような経緯をたどって現在の「法」に姿を変えたかを確認し、我々の「法」がなぜ今あるのか、法学とはどのような営みなのかを考えたいと思います。

（到達目標）

- 【知識】 法史学に関する知識を体系的に身につけている
- 【技能】 法史学の理解に必要な情報を収集・分析・整理することができる
- 【思考・判断】 法史学の理解を通じて課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

ピーター・スタイン『ローマ法とヨーロッパ』（ミネルヴァ書房・2003年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ウルリッヒ・マンテ『ローマ法の歴史』（ミネルヴァ書房・2008年）
- 勝田有恒 / 森征一 / 山内進（編著）『概説西洋法制史』（ミネルヴァ書房・2004年）○
- 碧海純一 / 伊藤正巳 / 村上淳一（編著）『法学史』（東京大学出版会・1976年）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 明治期日本における外国法継受
- 第2回 古代ローマ法
- 第3回 西ローマ帝国の終焉・ユスティニアヌス帝と市民法大全
- 第4回 ユスティニアヌス法典の復活
- 第5回 ポローニャ大学・註釈学派
- 第6回 ローマ法と教会法
- 第7回 ローマ=カノン法訴訟・ローマ法と慣習法
- 第8回 註解学派
- 第9回 人文主義法学
- 第10回 ローマ法の科学化
- 第11回 ローマ法の継受・法源としての裁判慣行
- 第12回 啓蒙主義と法典編纂
- 第13回 ポティエとフランス民法典
- 第14回 サヴィニーとドイツ歴史法学派
- 第15回 パンデクテン法学とドイツ民法典

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート100%で評価します。中間レポート、または期末レポートを提出しなかった場合は評価不能（－）とします。

法史学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習として指定された範囲のテキストを熟読し、言及のある人物・事項をインターネット等で調べる。また復習として講義内容について参考図書などで理解を深めること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

前期開講科目「比較法文化論」も受講することが望ましい。出席が10回に満たない場合は単位を与えない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ローマ法、ゲルマン法、教会法、慣習法、学識的法文化、法典編纂

刑事訴訟法I【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW235M	◎	○	○		
科目名	刑事訴訟法 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義では、具体的事例を中心に刑事訴訟の基本構造、特に捜査の終結までについて概説する。簡潔且つ明瞭な解説を行いながら密度の濃い内容を提供し、未知の問題にも、原理原則に立ち返り、自ら正解を導出できる力を養うことを目標とする。

到達目標

知識：刑事訴訟法学の訴訟構造、捜査手続に関する知識を体系的に身につけている。
 技能：刑事訴訟法（訴訟構造、捜査手続）に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を習得している。
 思考・判断・表現力：刑事訴訟法（訴訟構造、捜査手続）に関する法的問題を発見し、その問題に対する判断を表現する基本的な能力を習得している。

教科書 /Textbooks

講義初回で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「刑事訴訟法判例百選〔第10版〕」（有斐閣、2017年）、○「刑事訴訟法の争点」（有斐閣、2013年）等。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、刑事訴訟法の目的と構造
- 第2回 刑事訴訟の関与者 (1)【法曹三者】
- 第3回 刑事訴訟の関与者 (2)【その他の訴訟参加者】
- 第4回 捜査総説
- 第5回 令状主義と強制処分法定主義
- 第6回 捜査の端緒
- 第7回 証拠の収集保全 (1)【捜索・差押え】
- 第8回 証拠の収集保全 (2)【鑑定、検証等】
- 第9回 逮捕
- 第10回 無令状捜索・差押
- 第11回 勾留
- 第12回 別件逮捕・勾留に関する問題
- 第13回 被疑者の取調べ、自己負罪拒否権
- 第14回 被疑者の防御権、接見交通権に関する問題
- 第15回 捜査の終結後の事件処理、公訴提起に関わる諸問題、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(100%)
 定期試験を受験していない場合、評価不能(－)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業準備として、講義で扱うテーマについて教科書等を用いて内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

刑事訴訟法I【昼】

履修上の注意 /Remarks

刑事訴訟法を学ぶ際に、憲法学に関する議論の理解が前提となる部分が多く、憲法を履修していることが望ましいです。また、刑法上の概念が問題となる場面もあるので、刑法の履修が済んでいる、または平行して履修するとよいでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各自が選択した教科書の該当部分を読んである程度予習してくることをすすめます。授業後の復習はしておいてください。質問等も歓迎です。市民の司法参加が行われる時代です。刑事裁判の基本構造、理念などを十分に理解しておく必要があると思います。

この授業はSDGsの「人や国の不平等をなくそう」、「平和と公平をすべての人に」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

刑事訴訟法、公正な裁判

刑事訴訟法II 【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW236M	◎	○	○		
科目名	刑事訴訟法II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義では、具体的事例を中心に公判の開始（公訴提起）から、裁判の終結（確定判決）までを中心に概説する。法学的思考方法を身につけ、未知の問題にも原理原則に立ち返り、自ら正解を導出できる力を養うことを目標とする。

到達目標

知識：刑事訴訟法学の公判手続、執行手続に関する知識を体系的に身につけている。
 技能：刑事訴訟法（公判手続、執行手続）に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を習得している。
 思考・判断・表現力：刑事訴訟法（公判手続、執行手続）に関する法的問題を発見し、その問題に対する判断を表現する基本的な能力を習得している。

教科書 /Textbooks

講義初回で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「刑事訴訟法判例百選〔第10版〕」（有斐閣、20117年）、○「刑事訴訟法の争点」（有斐閣、2013年）等。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 公訴の提起（起訴便宜主義、起訴状一本主義）
- 第2回 審判対象論
- 第3回 訴因の特定・変更
- 第4回 訴訟条件
- 第5回 公判の諸原則、公判期日の手続
- 第6回 裁判員制度
- 第7回 被害者参加
- 第8回 公判の準備（公判前整理手続、証拠開示）
- 第9回 証拠裁判主義
- 第10回 自由心証主義、証拠能力と証明力
- 第11回 違法収集証拠排除法則
- 第12回 自白法則
- 第13回 伝聞法則
- 第14回 裁判
- 第15回 上訴、再審

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(100%)
 定期試験を受験していない場合、評価不能(－)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業準備として、講義で扱うテーマについて教科書等を用いて内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

刑事訴訟法II【昼】

履修上の注意 /Remarks

刑事訴訟法を学ぶ際に、憲法、刑法の知識が必要となる場合があります。これらの講義を履修済み、平行して履修するのがよいでしょう。また、刑事訴訟法総論で学んだ知識(捜査の終了まで)が前提となります。復習しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各自が選択した教科書の該当部分を読んである程度予習してくることをすすめます。授業後の復習はしておいてください。質問等も歓迎です。市民の司法参加が行われる時代です。刑事裁判の基本構造、理念などを十分に理解しておく必要があると思います。

この授業はSDG sの「人や国の不平等をなくそう」、「平和と公平をすべての人に」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

刑事訴訟法、公正な裁判

法哲学【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW213M	○	○	◎		
科目名	法哲学			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

現代社会が抱える諸問題や実定法学が投げかける具体的な諸問題を考える上で、思考枠組みとしての法理論は不可欠である。人間の共同生活を考える上で不可欠なものとしての法を捉え直すための基本的な視座を探究することが、本講義の目的とするところである。

(到達目標)

- 【知識】法哲学に関する知識を体系的に身につけている。
- 【技能】法哲学の理解に必要な情報を収集・分析・整理することができる。
- 【思考・判断・表現力】法哲学の理解を通じて課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際には、適宜レジュメや資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

下記の参考書のうち、酒匂一郎『法哲学講義』（成文堂、2019年）については、講義の中で適宜言及したいと考えている。入手可能であれば、参考書として理解に役立つと思われる。

- 酒匂一郎『法哲学講義』（成文堂、2019年）
- 深田三徳、濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想 第2版』（ミネルヴァ書房、2015年）
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）
- 森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015年）
- 竹下賢・角田猛之・市原靖久・桜井徹編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）
- 平野仁彦、亀本洋、服部高宏著『法哲学』（有斐閣、2002年）
- 三島淑臣編『法哲学入門』（成文堂、2002年）
- 大橋智之輔、三島淑臣、田中成明編『法哲学綱要』（青林書院、1990年）
- 田中成明『現代法理学』（有斐閣、2011年）
- 田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史』[第2版]（有斐閣、1997年）
- 中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店、2000年）
- レイモンド・ワックス『法哲学』（岩波書店、2011年）

法哲学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 法哲学とは ~ 概要説明
- 第2回 法と道德① ラートブルフの法律を越える法
- 第3回 法と道德② ハート・フラー論争
- 第4回 法と道德③ 悪法論 ~ ドイツの戦後処理をめぐって
- 第5回 法と道德④ ハート・デブリン論争 ~ 法による道德の強制
- 第6回 法と道德⑤ 理論史1 ~ カント
- 第7回 法と道德⑥ 理論史2 ~ ラートブルフ
- 第8回 法と強制① ~ ケルゼンの純粋法学
- 第9回 法と強制② ~ 法と合意形成
- 第10回 法・社会・国家① ~ エールリッヒ・ケルゼン論争
- 第11回 法・社会・国家② ~ M・ヴェーバーと形式法の実質化
- 第12回 法・社会・国家③ ~ ハーバーマースと法化
- 第13回 法と生命 ~ 安楽死・尊厳死
- 第14回 法と正義
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前には、テキストの巻末の索引を利用しながら該当箇所を読み、予習すること。講義後には、各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

「法思想史」を受講していれば、より理解しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの「10.人や国の不平等をなくそう、16.平和と公正をすべての人に」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

法と道德 法と強制 ケルゼン ハート

刑法各論I【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW231M	◎	○	○		
科目名	刑法各論 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

「刑法各論の体系的展開(1)」
この講義が対象とする「刑法各論」は、殺人罪や窃盗罪という個別の具体的な犯罪の成立要件を、個々の犯罪ごとに明らかにする法領域です。刑法各論においては、個人的法益に対する罪のうち人身に対する罪(財産罪を除く。)と国家的法益に対する罪を取り上げます。具体的な事例をもとに、刑法各論の基本概念と各犯罪類型の要件解釈論を検討したうえで、各要件の規範的意義を理解学んでいきます。また、刑法各論における重要問題についての考え方を学んでください。
この講義では、刑法学の学習を通じて、社会科学で要求される問題発見能力、体系的思考力、論理的思考力を身につけていきます。
(到達目標)
【知識】刑法各論に関する基本的な知識を体系的に習得している。
【技能】刑法各論に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を習得している。
【思考・判断・表現力】刑法各論に関する法的問題を発見し、その問題に対する判断を表現する基本的な能力を習得している。

教科書 /Textbooks

講義で用いるPPTスライド資料を配布します。「学習支援システム UKK Moodle」から各自がダウンロードしてください。
初回の講義において、テキストや参考書について説明します。
①六法(2022年版・令和4年版)
『ポケット六法』(有斐閣)や『デイリー六法』(三省堂)、『法学六法』(信山社出版)といった「最新の」六法を必携してください(種類・出版社を問わない。)
②刑法総論のテキスト(基本書)
講義の予習・復習、および自習のため、テキスト(基本書)を必携してください。選択は受講者に委ねます。
推奨...大塚裕史/十河太郎/塩谷毅/豊田兼彦『基本刑法II各論』2版(日本評論社・2018.04)ISBN: 9784535522404、4,290円(税込)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library:○)

- 入門書
井田良『入門刑法学・各論』2版(有斐閣・2018.03)ISBN: 9784641139343、2,200円(税込)。
- 判例を学ぶための判例評釈集
○十河太郎/豊田兼彦/松尾誠紀/森永真綱『START UP刑法各論判例50!』(有斐閣・2017.12)ISBN: 9784641139268、1,980円(税込)。
○山口厚/佐伯仁志(編)『刑法判例百選II各論(別冊ジュリスト)』8版(有斐閣・2020.11)ISBN: 9784641115514、2,750円(税込)。
- 学説を理解するための基本書
○井田良『講義刑法学・各論』2版(有斐閣・2020.12)ISBN: 9784641139473、4,840円(税込)。
○西田典之/橋爪隆(補訂)『(法学講座双書)刑法各論』7版(弘文堂・2018.03)ISBN: 9784335304798、4,400円(税込)。
- 事例の解法を学ぶための参考書
○島伸一(編著)『たのしい刑法II各論』2版(弘文堂・2017.10)ISBN: 9784335357107、3,630円(税込)。
伊藤真(監修)/伊藤塾『予備試験論文5刑法』2版(弘文堂・2021.08)ISBN: 9784335304286、3,080円(税込)。

刑法各論I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ※諸事情により進捗状況が前後することがあります。
- 1回 ガイダンス・刑法各論の基礎
 - 2回 生命に対する罪(1)殺人罪・墮胎罪(人の始期と終期)
 - 3回 生命に対する罪(2)自殺関与罪・囑託同意殺人罪
 - 4回 生命に対する罪(3)遺棄罪(遺棄概念と遺棄罪の種類)
 - 5回 身体に対する罪(1)暴行罪と傷害罪①(暴行行為の性質・傷害概念)
 - 6回 身体に対する罪(2)暴行罪と傷害罪②(傷害罪の故意・同時傷害の特例)
 - 7回 自由に対する罪(1)逮捕監禁罪・脅迫罪・略取誘拐罪
 - 8回 自由に対する罪(2)強制わいせつ罪・強制性交等罪
 - 9回 私生活の平穩に対する罪 住居侵入罪・秘密侵害罪
 - 10回 名誉・信用に対する罪(1)名誉毀損罪と侮辱罪
 - 11回 名誉・信用に対する罪(2)信用毀損罪・業務妨害罪
 - 12回 国家の存立に対する罪 内乱罪・外患誘致罪・私戦予備陰謀罪
 - 13回 国家の作用に対する罪(1)公務執行妨害罪・逃走罪・犯人蔵匿罪・証拠隠滅罪
 - 14回 国家の作用に対する罪(2)偽証罪・虚偽告訴罪・職権濫用罪
 - 15回 国家の作用に対する罪(3)賄賂罪の基礎・収賄罪の諸類型・贈賄罪

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験...20%、期末試験...80%
各試験の形式については、講義の際に説明します。また、感染症等の状況により、試験の実施方法を変更する可能性もあります。定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキスト(基本書)の該当箇所を熟読したうえで、分からない言葉を調べ、疑問点やよく解らない箇所にマーキングをしてください。できれば講義該当箇所の記載内容を要約して講義に臨みましょう(必要な学習時間の目安は60分)。疑問を持って講義に臨むことが重要です。積極的に質問して、それらの疑問を講義の中で解消していきましょう。
講義ではしっかりノートを取りましょう。知らなかった事項や不足していた事項をメモしておいて、講義後にノートを整理して基本書・参考書・判例集等で不足事項を補いましょう(必要な学習時間の目安は60分)。
講義で取り上げた事例について1,000字から1,500字程度の解答を作成することを勧めます。講義をもとに自分の解答を批判的に検討して、解説と自分の解答との論理展開の違いを考えてみましょう。不足していた知識を補足するだけでなく、自分の考え方を修正することを狙っています。
※「論理」:思考や議論の順序や関連性、物事の法則的な結び付き。

履修上の注意 /Remarks

この講義では「刑法総論」を一定程度理解していることを前提に講義を行います。そこで、この科目を受講する前に「刑法総論」を受講していることを推奨します。また、この科目を承継し、刑法各論の中核的問題を扱う「刑法各論II」を受講することを強く推奨します。さらに、「刑事訴訟法I・II」、「犯罪学」および「刑事司法政策I・II」、関連する他の刑事法系科目を受講することも勧めます。
余裕がある方には「法学検定試験」の受験を勧めます(毎年11月下旬から12月初頭に実施、出願は9月から10月)。この試験は法学に関する学力を客観的に評価する試験です。夏季休業期間を活用して問題集に取り組むことで、憲法・民法・刑法といった基本法科目について、基本的な知識や能力を身に付けることができるでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

犯罪の成否とその根拠という共通の関心についても、さまざまな考え方があることを知り、どのようにして問題を説得的に説明して解決していくのか、その方法の一端を学んで頂ければと思います。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 犯罪論 刑罰論 刑法総論 刑法各論

刑法各論II【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW232M	◎	○	○		
科目名	刑法各論II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

「刑法各論の体系的展開（2）」
この講義が対象とする「刑法各論」は、殺人罪や窃盗罪という個別の具体的な犯罪の成立要件を、個々の犯罪ごとに明らかにする法領域です。刑法各論IIにおいては、刑法各論Iに続いて、個人的法益に対する罪のうち財産罪（刑法各論の中核的問題）と社会的法益に対する罪を取り上げます。
具体的な事例をもとに、刑法各論の基本概念と各犯罪類型の要件解釈論を検討したうえで、各要件の規範的意義を理解学んでいきます。また、刑法各論における重要問題についての考え方を学んでください。
この講義では、刑法学の学習を通じて、社会科学で要求される問題発見能力、体系的思考力、論理的思考力を身につけていきます。
(到達目標)
【知識】 刑法各論に関する基本的な知識を体系的に習得している。
【技能】 刑法各論に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を習得している。
【思考・判断・表現力】 刑法各論に関する法的問題を発見し、その問題に対する判断を表現する基本的な能力を習得している。

教科書 /Textbooks

講義で用いるPPTスライド資料を配布します。「学習支援システム UKK Moodle」から各自がダウンロードしてください。
初回の講義において、テキストや参考書について説明します。
①六法（2022年版・令和4年版）
『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法を必携してください（種類・出版社を問わない。）。
②刑法総論のテキスト（基本書）
講義の予習・復習、および自習のため、テキスト（基本書）を必携してください。選択は受講者に委ねます。
推奨...大塚裕史 / 十河太郎 / 塩谷毅 / 豊田兼彦『基本刑法II各論』2版（日本評論社・2018.04）ISBN: 9784535522404、4,290円（税込）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 入門書
井田良『入門刑法学・各論』2版（有斐閣・2018.03）ISBN: 9784641139343、2,200円（税込）。
- 判例を学ぶための判例評釈集
○十河太郎 / 豊田兼彦 / 松尾誠紀 / 森永真綱『START UP刑法各論判例50!』（有斐閣・2017.12）ISBN: 9784641139268、1,980円（税込）。
○山口厚 / 佐伯仁志〔編〕『刑法判例百選II各論（別冊ジュリスト）』8版（有斐閣・2020.11）ISBN: 9784641115514、2,750円（税込）。
- 学説を理解するための基本書
○井田良『講義刑法学・各論』2版（有斐閣・2020.12）ISBN: 9784641139473、4,840円（税込）。
○西田典之 / 橋爪隆〔補訂〕『（法律学講座双書）刑法各論』7版（弘文堂・2018.03）ISBN: 9784335304798、4,400円（税込）。
- 事例の解法を学ぶための参考書
○島伸一（編著）『たのしい刑法II各論』2版（弘文堂・2017.10）ISBN: 9784335357107、3,630円（税込）。
伊藤真（監修） / 伊藤塾『予備試験論文5 刑法』2版（弘文堂・2021.08）ISBN: 9784335304286、3,080円（税込）。

刑法各論II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ※諸事情により進捗状況が前後することがあります。
- 1回 ガイダンス・財産罪(1) 財産罪の基礎と窃盗罪①
 - 2回 財産罪(2) 財産罪の基礎と窃盗罪②
 - 3回 財産罪(3) 毀棄隠匿罪
 - 4回 財産罪(4) 強盗罪
 - 5回 財産罪(5) 強盗罪の諸問題(事後強盗・強盗致死傷罪)
 - 6回 財産罪(6) 詐欺罪・恐喝罪
 - 7回 財産罪(7) 詐欺罪の諸問題
 - 8回 財産罪(8) 横領罪・背任罪
 - 9回 財産罪(9) 盗品関与罪
 - 10回 公共危険罪(1) 騒乱罪・多衆不解散罪・出水罪・水利妨害罪・往来妨害罪
 - 11回 公共危険罪(2) 放火罪・失火罪(放火罪の基礎・焼損)
 - 12回 公共危険罪(3) 放火罪・失火罪(公共危険の発生とその認識)
 - 13回 公共の信用に対する罪(1) 文書偽造罪(文書偽造罪の基礎・文書概念・偽造概念)
 - 14回 公共の信用に対する罪(2) 通貨偽造罪・有価証券偽造罪
 - 15回 風俗に対する罪 わいせつ罪・重婚罪・賭博罪・死体損壊遺棄罪

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験...20%、期末試験...80%
各試験の形式については、講義の際に説明します。また、感染症等の状況により、試験の実施方法を変更する可能性もあります。
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキスト(基本書)の該当箇所を熟読したうえで、分からない言葉を調べ、疑問点やよく解らない箇所にマーキングをしてください。できれば講義該当箇所の記載内容を要約して講義に臨みましょう(必要な学習時間の目安は60分)。疑問を持って講義に臨むことが重要です。積極的に質問して、それらの疑問を講義の中で解消していきましょう。
講義ではしっかりノートを取りましょう。知らなかった事項や不足していた事項をメモしておいて、講義後にノートを整理して基本書・参考書・判例集等で不足事項を補いましょう(必要な学習時間の目安は60分)。
講義で取り上げた事例について1,000字から1,500字程度の解答を作成することを勧めます。講義をもとに自分の解答を批判的に検討して、解説と自分の解答との論理展開の違いを考えてみましょう。不足していた知識を補足するだけでなく、自分の考え方を修正することを狙いとしています。
※「論理」: 思考や議論の順序や関連性、物事の法則的な結び付き。

履修上の注意 /Remarks

この講義では「刑法総論」「刑法各論I」を一定程度理解していることを前提に講義を行います。そこで、この科目を受講する前に「刑法総論」と「刑法各論I」を受講していることを推奨します。さらに、「刑事訴訟法I・II」、「犯罪学」および「刑事司法政策I・II」、関連する他の刑事法系科目を受講することも勧めます。
余裕がある方には「法学検定試験」の受験を勧めます(毎年11月下旬から12月初頭に実施、出願は9月から10月)。この試験は法学に関する学力を客観的に評価する試験です。夏季休業期間を活用して問題集に取り組むことで、憲法・民法・刑法といった基本法科目について、基本的な知識や能力を身に付けることができるでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

犯罪の成否とその根拠という共通の関心についても、さまざまな考え方があることを知り、どのようにして問題を説得的に説明して解決していくのか、その方法の一端を学んで頂ければと思います。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 犯罪論 刑罰論 刑法総論 刑法各論

刑事司法政策I【昼】

担当者名 藤田 尚 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW233M	◎	○	○		
科目名	刑事司法政策 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

刑事政策とは、犯罪の原因を探求し、その原因に基づいて犯罪を防止するための対策を講じるものである。本講義では、刑事政策の総論として刑事司法全体を説明し、刑事司法政策IIでは、各論を中心とする各種犯罪について言及する。講義を通して、統計等に基づき、客観的に犯罪原因を分析した上で対策を考え、自分の見解が述べられることを目標とする。将来、社会へ出た際に、本講義で培った論理的思考を活かし、問題の解決に役立てていただきたい。

(到達目標)

- 【知識】 刑事司法政策に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。
- 【技能】 刑事司法政策の理解に必要な情報を収集・分析・整理することができる。
- 【思考・判断・表現力】 刑事司法政策の課題について、法的思考に基づき、自己の見解を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし。
レジュメを基に講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 川出敏裕 = 金光旭共著『刑事政策(第2版)』成文堂(2018年)。
- 藤本哲也『刑事政策概論(第7版)』青林書院(2015年)。
- 藤本哲也『よくわかる刑事政策』ミネルヴァ書房(2011年)。
- 守山正 = 安部哲夫共著『ビギナーズ刑事政策(第3版)』成文堂(2017年)。
- 大谷實『刑事政策講義(新版)』弘文堂(2009年)。
- 法務省法務総合研究所編『令和3年版 犯罪白書』日経印刷株式会社(2022年)。
- 国家公安委員会・警察庁『令和3年版 警察白書』日経印刷株式会社(2021年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(授業の進め方と刑事政策の学び方について)
- 第2回 刑事政策とは何か
- 第3回 犯罪統計と暗数
- 第4回 刑罰制度の概要
- 第5回 死刑
- 第6回 自由刑
- 第7回 財産刑
- 第8回 猶予制度
- 第9回 保安処分
- 第10回 保護処分
- 第11回 犯罪者処遇の概要
- 第12回 施設内処遇①受刑者の矯正処遇
- 第13回 施設内処遇②受刑者の法的地位
- 第14回 施設内処遇③受刑者処遇の近年の動向
- 第15回 中間処遇制度

* 講義内容は上記の通りであるが、必要に応じて、変更する場合もある。

刑事司法政策I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト30%、定期試験70%の総合評価とする。
ただし、定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】各回のテーマに関する文献に目を通すこと。
【事後学習】レジユメを再度読み直し、わからない用語等があれば教科書等で調べて知識の定着を図り、疑問点があれば、積極的に質問すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、犯罪を減少させるための政策や福祉との連携等を考えることから、SDGsの「16：平和と公平をすべての人に」及び「3：すべての人に健康と福祉を」の目標に関連しています。
犯罪者がどのような刑を受け、どのようにして社会復帰を果たすのかについて学びましょう。

キーワード /Keywords

刑事法、刑事政策

刑事司法政策II 【昼】

担当者名 藤田 尚 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW234M	◎	○	○		
科目名	刑事司法政策II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

刑事政策とは、犯罪の原因を探究し、その原因に基づいて犯罪を防止するための対策を講じるものである。刑事司法政策Iでは、刑事政策の総論として刑事司法全体を説明するが、本講義である刑事司法政策IIでは、各論を中心とする各種犯罪について言及する。講義を通して、統計等に基づき、客観的に犯罪原因を分析した上で対策を考え、自分の見解が述べられることを目標とする。将来、社会へ出た際に、本講義で培った論理的思考を活かし、問題の解決に役立てていただきたい。

(到達目標)

- 【知識】 刑事司法政策に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。
- 【技能】 刑事司法政策の理解に必要な情報を収集・分析・整理することができる。
- 【思考・判断・表現力】 刑事司法政策の課題について、法的思考に基づき、自己の見解を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、レジュメを基に講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 川出敏裕 = 金光旭共著『刑事政策(第2版)』成文堂(2018年)。
- 藤本哲也『刑事政策概論(第7版)』青林書院(2015年)。
- 藤本哲也『よくわかる刑事政策』ミネルヴァ書房(2011年)。
- 守山正 = 安部哲夫共著『ビギナーズ刑事政策(第3版)』成文堂(2017年)。
- 大谷實『刑事政策講義(新版)』弘文堂(2009年)。
- 法務省法務総合研究所編『令和3年版 犯罪白書』日経印刷株式会社(2022年)。
- 国家公安委員会・警察庁『令和3年版 警察白書』日経印刷株式会社(2021年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(刑事司法制度の流れ)
- 第2回 社会内処遇①社会内処遇制度の概要
- 第3回 社会内処遇②更生保護制度
- 第4回 社会内処遇③保護観察
- 第5回 少年非行
- 第6回 高齢者犯罪
- 第7回 女性犯罪
- 第8回 精神障害者の犯罪
- 第9回 暴力団犯罪
- 第10回 来日外国人犯罪
- 第11回 薬物犯罪
- 第12回 交通犯罪
- 第13回 常習犯罪
- 第14回 ファミリー・バイオレンス
- 第15回 犯罪被害者に対する施策

* 講義内容は上記の通りであるが、必要に応じて、変更する場合もある。

刑事司法政策II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト30%、定期試験70%の総合評価とする。
ただし、定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】各回のテーマに関する文献に目を通すこと。
【事後学習】レジユメを再度読み直し、わからない用語等があれば教科書等で調べて知識の定着を図り、疑問点があれば、積極的に質問すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、犯罪を減少させるための政策や福祉との連携等を考えることから、SDGsの「16：平和と公平をすべての人に」及び「3：すべての人に健康と福祉を」の目標に関連しています。

刑事司法政策IとIIは、内容が繋がっているため、併せて受講することが望ましいです。
また、理解を深めるためには、刑法と刑事訴訟法を受講しておくことをお勧めします。

キーワード /Keywords

刑事法、刑事政策

犯罪学 【昼】

担当者名 藤田 尚 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW330M	◎	○	○		
科目名	犯罪学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

犯罪学とは、「なぜ人は犯罪を犯すのか」という犯罪原因を究明し、対策を立てる学問である。広義の犯罪学は、上述の犯罪原因論と犯罪対策論の両方を意味するが、本講義では、狭義の犯罪学である犯罪原因論を取り上げることとする。犯罪学の歴史は長く、近代犯罪学の始まりは19世紀前半といわれている。いつの時代も人間の異常行動をいかに理論付けて説明するかが問題であり、今現在も人間行動を完全に説明できる理論は存在していない。したがって、本講義では、「なぜ人は犯罪を犯すのか」ということを研究してきた古典的な理論から、「なぜその人は犯罪を止めたのか」というような視点が変化した最新の理論を取り上げつつ、犯罪を多角的な視点から分析することによって、論理的思考を身に付け、自己の見解を論じられるようにすることを目標とする。

(到達目標)

【知識】犯罪学に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。

【技能】犯罪学理論の理解に必要な情報を収集・分析することができる。

【思考・判断・表現力】犯罪学の課題について、犯罪学理論に基づき、自己の見解を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし。
レジュメを基に講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 藤本哲也『犯罪学原論』日本加除出版(2003年)。
- 藤本哲也『刑事政策概論(第7版)』青林書院(2015年)。
- 守山正=小林寿一共著『ビギナーズ犯罪学(第2版)』成文堂(2020年)。
- 瀬川晃『犯罪学』成文堂(1998年)。

犯罪学 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(授業の進め方及び犯罪学の学び方について)
- 第2回 犯罪学とは何か
- 第3回 犯罪学の歴史①(古典的犯罪学)
- 第4回 犯罪学の歴史②(近代の犯罪学)
- 第5回 社会解体理論
- 第6回 文化伝播理論
- 第7回 異質的接触理論
- 第8回 異質的同一化理論
- 第9回 文化葛藤理論
- 第10回 下層階級文化理論
- 第11回 アノミー理論
- 第12回 非行副次文化理論
- 第13回 異質的機会理論
- 第14回 非行漂流理論・非行中和技術理論・潜在的価値理論
- 第15回 自己観念論・牽制理論
- 第16回 ラベリング理論
- 第17回 新犯罪学理論
- 第18回 批判的犯罪学理論
- 第19回 急進的犯罪学理論
- 第20回 社会的紐帯理論
- 第21回 合理的選択理論
- 第22回 修復的司法
- 第23回 被害者学理論
- 第24回 環境犯罪学
- 第25回 状況的犯罪予防論
- 第26回 防犯環境設計論
- 第27回 日常活動理論
- 第28回 ライフコース理論
- 第29回 デジスタンス理論
- 第30回 まとめ

* 講義内容は上記の通りであるが、必要に応じて、変更する場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト30%、定期試験70%の総合評価とする。
ただし、定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】各回のテーマに関する文献に目を通すこと。
- 【事後学習】レジユメを再度読み直し、わからない用語等があれば教科書等で調べて知識の定着を図り、疑問点があれば、積極的に質問すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、犯罪の原因は何かを考え、犯罪をなくすためにはどうすべきかを考える政策への懸け橋になることから、SDGsの「16: 平和と公平をすべての人に」の目標に関連しています。

犯罪心理学とは異なり、理論を中心に扱うため、少々、難しい印象を受けますが、なぜ犯罪を犯すのかを自分なりに考えてみましょう。

キーワード /Keywords

刑事法、犯罪学

社会法の現代的展開 【昼】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW343M	○	◎	○		
科目名	社会法の現代的展開				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

労働法、社会保障法、衛生法、経済法などの部門で構成される社会法は、戦後福祉国家に必須の法分野として拡充整備されてきましたが、20世紀末葉以降の経済社会的背景の変貌に伴って新たな課題を抱え、大きな転換期にあります。今日、どのような社会法を選択するかということは、健全な福祉国家を持続するうえで、一つの重大な課題となっています。社会法の現代的展開を題材とするこの授業では、以下の内容と到達目標に基づいて講義を行います。

《講義内容の概要》

第1部「現代社会法の概要」では、社会法の歴史と現代における労働法と社会保障法の基礎的な規律内容について、実定法学的観点から学習します。

第2部「社会法の基本法理」では、人間本性の自由と社会法の理念との関係、資本主義秩序と社会法の現実的目的との関係、市民法による社会統合と社会法の役割・性格との関係といった社会法の多面的な関係について、法哲学や法制史的な観点も踏まえて考察し、社会法の存在意義と基本法理についての総論的な学習を行います。

第3部「社会法思想の現代的展開」では、市民法法理に関する議論や社会法原理に関する議論を踏まえて、社会法の理念・現実的目的・方法に関する現代的な社会法思想の展開について学習します。

第4部「社会法改革の現代的展開」では、経済社会的背景の変貌に対応して進められている実定社会法改革の動向について、その背景、基調および課題を学習します。

《到達目標》

【知識】社会法の体系的知識を修得し、社会法の現代的課題に関する多面的な知識を身につけている。

【技能】社会法の意義、内容、法的性格を理解し、社会法を解釈・適用するための基礎的な技能を身につけている。

【思考・判断】広い視野から社会法の現代的課題を発見し、法的思考に基づいた論理的な判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

柴田滋著「社会法総論—社会法の基本法理とその現代的展開」大学教育出版 ISBN978-4-86429-346-4 2800円
および、パワーポイント資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ジョン・ロック著「市民政府論」、フリードリヒ・ハイエク著「隷属への道」、我妻栄「新憲法と基本的人権」『民法研究VIII憲法と私法』、その他は講義において案内します。

社会法の現代的展開 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は、内容を4部で構成し、各回ごとに以下の内容で講義を行います。

【第1部 現代社会法の概要】

- 第1.回福祉国家における社会法の体系的発展 : 福祉国家の三類型、社会法体系の形成
- 第2.回現代労働法の概要① : 資本主義実体的労働関係法、雇用主の優越権の制限、
- 第3.回現代労働法の概要② : 労働契約自由の制限、労働者の経営・生産物分配への集团的関与の推進
- 第4.回現代社会保障法の概要① : 自立生活に関する市民法の基礎規律、所得保障の社会保険
- 第5.回現代社会保障法の概要② : 費用保障の社会保険、公的扶助と社会手当、社会福祉サービス

【第2部 社会法の基本法理】

- 第6.回社会法の原理論的定義 : 法の原理の三要素と法原理論、社会法の定義的意義
- 第7.回社会法の理念-人間本性の自由と法の理念 : 人間本性の自由、自由実現の条件、J.ロッキの自然の法
- 第8.回社会法の現実的前提-資本主義 : 資本主義の基礎システムと排除・貧困、貧困発生メカニズムと対策
- 第9.回社会法の目的、部門、方法 : 社会法の必然的な部門展開、社会法規分野における法理の分裂

【第3部 社会法思想の現代的展開】

- 第10.回市民法問題に関する諸見解 : 労働契約に関する議論、資本主義的私的所有権に関する議論
- 第11.回社会法思想の現代的展開 : 生存権保障論、自由至上主義、自立支援論、範型論的社会法論

【第4部 社会法改革の現代的展開】

- 第12.回市場原理主義の浸透と構造改革 : 市場原理主義的グローバリゼーション、小さな政府と規制緩和
- 第13.回近年の労働法改革の動向と展望 : 労働力流動化、雇用主の優越権制限、労働法の停滞と個別労働紛争
- 第14.回近年の社会保障法の改革動向と展望 : 社会保障法の基調転換と機能低下、貧困支援の新制度の導入
- 第15.回社会保障財政の現況と課題 : 国民生活と経済との調和、平和で健全な資本主義

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(比重30%)、および定期試験(比重70%)によって評価します。
なお、定期試験を受験しなかった場合は評価不能(一)とします。定期試験は記述式試験(すべて持込み可)で行います。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの内容を補足し解説するパワーポイント資料を配布するので、これらの教材を活用して、講義内容の全体的関連を理解するように心がけて、予習復習をしてください。予習・復習に必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。

履修上の注意 /Remarks

社会法は多岐の部門にわたります。その現代的展開を題材とするこの科目では、社会法総論、労働法、所得保障法、社会サービス法など、社会法に属する他の科目の一つでも履修しているとわかりやすいと思います。
ただし、この講義では、それらの科目を履修していなくても問題なく履修できるように、第1部で社会法の概要を講義することとしています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容は、公法と私法にまたがる内容や法理念論から実定法論にわたる内容を含み、また、経済社会政策と実定社会法改革との関連などを含んでいきますので、やや難易度の高い講義になります。しかし、第1回から第15回目まで、系統的に内容を展開していますので、各回の要点を把握して系統的な内容の関連を把握するようにすれば、わかりやすいと思います。

キーワード /Keywords

非正規雇用、格差と貧困、人間本性の自由とJ.ロッキの「労働所有論」、A.メンガーの全労働収益権・生存権、労務賃貸借 (locatio conductio operarum)、自由至上主義と生存権保障論的社会法論、個人の尊厳と自立支援、市場原理主義的構造改革

環境法 【昼】

担当者名 /Instructor 鬼塚 知 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW342M	○	◎	○		
科目名	環境法				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

一定程度の学力・理解力があることを前提に、法解釈における思考力を鍛えるとともに、いわゆる環境法の考え方を学ぶことを目標とする。受講生の数を踏まえ、授業内容等は考慮するが、小テストをこまめに実施することで知識の定着・応用力を養っていく。

教科書 /Textbooks

各回にて講師作成のレジュメ等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講師が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第4回 法解釈について・基礎的知識の確認
- 第5回～第14回 いわゆる環境法(廃棄物処理法、環境影響評価法など)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業に対する取り組み姿勢 30%
- 定期試験 70%
- ※新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、定期試験はレポートにすることがある。
- ※定期試験ないしレポートを受験しなければ評価不能(-)となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

昨年の講義を踏まえ、基礎的な知識を重点的に理解してほしい。すなわち、環境法においては、民法・行政法における知識が最低限必要となるため、日々、同法についてしっかりと学んでほしい。

履修上の注意 /Remarks

前述のとおり、環境法は民法・行政法の応用科目である。同法について最低限度の講義は行うが、これらの理解が乏しい場合、環境法の内容を理解するためには相応の努力が必要と考える。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生間の文章力について格差が著しい。その原因は、そもそも文章に触れる時間及び文章を書く時間の差にあると思う。文章力は文章を書くことで確実に上達する能力であるとともに、一般社会に出た際に間違いなく必要になる能力である。そのため、これらの能力を講義を通して向上させたいと考えている。

キーワード /Keywords

現代国際関係法【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW351M	○	◎	○		
科目名	現代国際関係法				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、夏休みの集中講義期間に行われます。
難民問題を題材に具体的事例の検討を進めながら、問題となる国際法上の論点を取り上げ、その学習を通じ、国際法の専門知識に関する基本的枠組みの習得を目指します。

到達目標は、

- 国際法の体系的理解に必要な基礎知識を獲得する、
- 難民問題に関する課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける、
- 現代社会が抱える難民問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認することができる、とします。

This class will be offered in summer school session.

In this class, we will examine specific cases relating to refugee issues with be focused on international legal issues. You could learn the basic framework of international law.

The goal of this class is as follows:

- To acquire the basic knowledge necessary for the systematic understanding of international law;
- To develop your competence to judge comprehensively so that you can discover issues related to refugee issues and propose any solutions, based on legal analysis and logical thinking;
- To raise your interest in refugee issues in modern society and reaffirm the link between law and society.

教科書 /Textbooks

ありません。

必要な資料は、適宜、配布します。

No textbooks. Related materials will be distributed as needed.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回授業時に、紹介します。

References will be introduced in the first class.

現代国際関係法 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

『イントロダクション』

Day 1

第01回 コースガイダンス

『難民問題の現状を知る』

Day 1

第02回 UNHCRのデータから、現在の難民の発生状況や受け入れ状況を学ぼう

第03回 担当した、上位の出身国、受入国の現状を調べてみよう

Day 2

第04回 プレゼンとディスカッション「現代の難民問題にはどのような特徴がみられるか」

『法的保護：日本の難民認定制度とその運用について考える』

Day 2

第05回 日本の難民認定者数や難民受入率の現状を学ぼう

第06回 担当した、諸外国の難民認定制度の状況を調べてみよう

Day 3

第07回 プレゼンとディスカッション「日本のこれからの難民認定制度はどうあるべきか」

『物的保護：公平な負担と責任分担について考える』

Day 3

第08回 UNHCR・WFP・UNICEFなどの人道援助活動の現状について学ぼう

第09回 担当した、人道援助の実施上の課題について調べてみよう

Day 4

第10回 プレゼンとディスカッション「活動継続資金の確保と難民問題への国際的な関心の維持」

『恒久的解決としての自発的帰還：難民を生み出す根本原因の解決について考える』

Day 4

第11回 恒久的解決の3つの手法とともに、自発的帰還の現状について学ぼう

第12回 担当した、自発的帰還の実施上の課題について調べよう

Day 5

第13回 プレゼンとディスカッション「軍事的介入による難民を生み出す根本原因の解決」

『まとめ』

Day 5

第14回 難民として日本で暮らす_人権と多文化共生社会

第15回 まとめ

INTRODUCTION

Day 1

Class 01 Orientation

STATUS-QUO OF REFUGEE ISSUES

Day 1

Class 02 Learn about Refugee Situations in the World, REFWORLD

Class 03 Examine top 10 countries, origin and host

Day 2

Class 04 Presentation and Discussion, Some Aspects of Modern Refugee Issues

LEGAL PROTECTION: Refugee Recognition System and its Operation in Japan

Day 2

Class 05 Learn about Current Numbers and Rates of Recognition of Refugee Status in Japan

Class 06 Examine Status-quo of Refugee Recognition Systems in other Countries

Day 3

Class 07 Presentation and Discussion, Desirable Japanese Refugee Recognition System

MATERIAL ASSISTANCE: Burden and Responsibility Sharing

Day 3

Class 08 Learn about the Current Activities of Humanitarian Assistance, UNHCR, WFP, and UNICEF

Class 09 Examine Issues in Implementing Humanitarian Assistance

Day 4

Class 10 Presentation and Discussion, Ensuring Continuation Funds and Maintaining International Interest in Refugee Issues

VOLUNTARY REPATRIATION: Dissolution of the Root Causes of Refugees

Day 4

現代国際関係法 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class 11 Learn about 3 Options of Durable Solutions and Voluntary Repatriation
 Class 12 Examine Issues in Implementing Voluntary Repatriation
 Day 5
 Class 13 Presentation and Discussion, Dissolving the root causes of refugees through military intervention

 CONCLUSION
 Day 5
 Class 14 Living in Japan as a refugee _ Human Rights and Realization of Multicultural Society
 Class 15 Wrap-up

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取組...50% (貢献...10% , プレゼン...20% , ディスカッション...20%)
 レポート...50%

Participation in classes...50% (Contribution to classes...10%, Presentation...20%, Discussion...20%)
 Essay...50%

4回以上欠席した場合には、評価不能 (ー) とします。
 If you are absent more than four times, your grades will be "Hyoka-Funo, 【一】".

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

4回のプレゼンが課されます。担当となった課題について、事前学習を進めてください。また4回のディスカッションが実施されます。事後学習として、授業内容の整理も含め、ディスカッションの振り返りを行ってください。

Four presentations will be given. Please prepare for the assigned task. There will be four discussions class. As a follow-up study, please review the contents of the class and the results of the discussion.

履修上の注意 /Remarks

授業は日本語で実施しますが、英語の資料を積極的に紹介し、受講生にはその活用を求める予定です。受講にあたっては、この点に注意してください。

Classes will be done in Japanese. However, you would be asked to learn by using English materials actively. Please keep this in mind when taking the course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習・復習の時間として2コマ分の時間を確保しています。相応の作業を伴いますので、夏休み中の暑い時期で大変ですが、頑張ってください。

It is necessary to ensure 180 minutes for preparation and review. It will be hard work in the hot season during summer vacation. Please do your best.

キーワード /Keywords

「難民 Refugee」「国境 Border」「領域 Territory」「難民条約 Convention Relating to the Status of Refugees・議定書 Protocol -」「カルタヘナ宣言 Cartagena Declaration on Refugees」「OAU難民条約 OAU Convention Governing the Specific Aspects of Refugee Problems in Africa」「UNHCR規程 Statute of the UNHCR」「法的保護 Legal Protection」「難民認定 Recognition of Refugee Status」「出入国管理 Immigration Control」「裁量 Discretion」「物的保護 Material Assistance」「負担と責任の分担 Burden and Responsibility Sharing」「人道援助アクセス Access to Humanitarian Assistance」「one UN」「恒久的解決 Durable Solutions」「現地定住 Local Integration」「第3国定住 Resettlement」「自発的帰還 Voluntary Repatriation」「軍事介入 Military Intervention」「強制措置 Enforcement Measures」「保護する責任 Right to Protect」「多文化共生社会 Multicultural (simbiotic) Society」「社会統合 Social Integration」

親族法 【昼】

担当者名 /Instructor 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW265M	◎	○	○		
科目名	親族法		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

民法典第四編親族編について学習する。民法総則と同時期の開講となっているため、民法総則の内容にも留意しながら、学習してゆく。近時、民法の改正が続いており、親族法分野については大きな変動はないものの、改正内容に留意しながら、すべての者が関わるであろう親族分野の法的問題の理解を深めることを目指す。

注意事項：この科目は、教室での対面方式ではなく、オンデマンド方式で実施することが決定しています。

到達目標

- 【知識】民法学の相続法に関する知識を体系的に身につけている
- 【技能】民法学の相続法に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
- 【思考・判断・表現力】民法学の相続法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

特定の一書をいわゆる「教科書」として使用することは、ない。従って、特定の書籍の販売は、ない。しかし、学習上、有意義な書籍については、開講時に紹介する。近時、民法の改正が続いており、開講時までに改訂版が発売される可能性もあり、現時点では、特定の書籍の指摘ができない。初回の説明をよく聞くこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋朋子他『有斐閣アルマ 民法7 親族・相続 第6版』、有斐閣、2020年3月、本体価2,400円(上記の事情により、この書籍も開講時までに改訂版が発売される可能性があるため、もしも購入するのであれば、購入時期に注意して下さい。)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、民法典全体の内容確認と親族法の位置づけ
- 第2回 民法総則と親族法、親族法の変遷
- 第3回 家事事件の処理手続、氏名と戸籍、親族の範囲
- 第4回 婚姻の成立、婚約
- 第5回 内縁、婚姻の無効及び取消し
- 第6回 婚姻の効力
- 第7回 離婚の成立
- 第8回 離婚の効力(1) - - 離婚給付
- 第9回 離婚の効力(2) - - 子の看護と養育費
- 第10回 実子(1) - - 嫡出子
- 第11回 実子(2) - - 嫡出でない子
- 第12回 養子
- 第13回 親権
- 第14回 後見、扶養
- 第15回 まとめ、他分野への展望

成績評価の方法 /Assessment Method

新型コロナウイルス問題の終息が見えてこない現時点では未定であるが、レポートになると思います。開講後の決定時に、Moodleに載せるという方法で、必ず通知するので、それをきちんと見ること。
「一」(パー)については、指定された成績評価方法に参加しなかった場合に、「一」(パー)となる。例えば、レポートが成績評価方法として指定された場合に、そのレポートを指定の方法で提出しなかったときに、「-」(パー)となる。指定の方法で提出したが、その内容が不合格と判定される場合に、「D」となる。

親族法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、講じる箇所について、法文と参考書（親族法の本であれば、何でも良い）の該当箇所を読むことが望ましい。予習をすることはもちろん大事ではあるが、むしろ、内容が難しいので、講義で触れられた点についての復習を心がけることをお勧めする。さらに、時間があれば、講義で触れた裁判例の判決原文を読むと良いであろう。目安の時間としては、毎回、予習20分、復習70分である。

履修上の注意 /Remarks

民法が大きく改正されているので、必ず、2022年版以降の六法を用意して下さい。
俗に言うレジユメ等は、一切、配布しない。
この講義では、講義中の写真撮影及び録音は厳禁である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

親族、相続、家族法、身分法、民法、民法典、相続法改正

相続法 【昼】

担当者名 /Instructor 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW266M	◎	○	○		
科目名	相続法			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

民法典第五編相続編について学習する。相続分野については、2018（平成30）年に大きな改正が行われた。相続分野の改正としては約40年ぶりの大きな改正であり、新しい制度も定められている。さらに、2021（令和3）年にも改正が行われた。この講義では、これらの改正内容に留意しながら、ほとんどすべての者が関わるであろう相続というものの理解を深めることを目指す。その際、相続編はあくまでも「民法典」という大きな体系の中の一部（第五編）であるという点を重視する。

到達目標

- 【知識】民法学の相続法に関する知識を体系的に身につけている
- 【技能】民法学の相続法に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
- 【思考・判断・表現力】民法学の相続法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

特定の一書をいわゆる「教科書」として使用することは、ない。従って、特定の書籍の販売は、行われない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋朋子他『有斐閣アルマ 民法7 親族・相続 第6版』、有斐閣、2020年3月、本体価2,400円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、民法典全体の内容確認と相続法の位置づけ
- 第2回 相続の根拠、相続人の種類
- 第3回 内縁の配偶者、代襲相続、相続の順位
- 第4回 相続分、相続欠格、推定相続人の廃除
- 第5回 相続財産の範囲
- 第6回 相続と無権代理、相続と登記
- 第7回 遺産共有、相続分の取戻し
- 第8回 遺産分割、特別受益、寄与
- 第9回 単純承認、限定承認、相続の放棄、財産分離
- 第10回 相続人の不存在、特別縁故者
- 第11回 遺言(1) - - 意義、方式
- 第12回 遺言(2) - - 効力
- 第13回 配偶者居住権
- 第14回 遺留分
- 第15回 まとめ、他分野への展望

成績評価の方法 /Assessment Method

新型コロナウイルス問題の終息が見えてこないため、すべての関係者の安全を特に重視し、レポートとする。レポートの詳細は、開講後にMoodleに載せるので、必ずそれをきちんと見ること。
この科目では、いかなる理由であれ、単位を与えることができない場合はすべて、「D」となる。従って、この科目では、「-」は存在しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、講じる箇所について、法文と参考書（相続法の本であれば、何でも良い）の該当箇所を読むことが望ましい。予習をすることはもちろん大事ではあるが、むしろ、内容が難しいので、講義で触れた点についての復習を心がけることをお勧めする。さらに、時間があれば、講義で触れた裁判例の判決原文を読むと良いであろう。目安の時間としては、毎回、予習20分、復習70分である。

相続法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

民法が改正されているので、もし真面目に学習したいのであれば、2022（令和4）年版以降の六法を用意して下さい。
この授業では、俗に言うレジユメなるものは、一切、配布しない。レジユメがないと受講できないという者がこの授業を履修すれば、その者にとって悪い結果を伴うこととなる。
この講義では、講義中の写真撮影及び録音は厳禁である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

上記

キーワード /Keywords

相続、相続法、家族法、身分法、民法、民法典、相続法改正

企業法総論 【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW270M	○	◎	○		
科目名	企業法総論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのキャリアマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

ビジネスには様々な法律が関係してきます。「商法」は、企業法として、個人であれ、法人であれ、およそビジネスを行う主体やその活動自体を規律する法です。

本講義では、商事に関する基本法である『商法典』中の「商法総則」と「商行為編」の部分、ならびに、『会社法典』中の「会社法総則」の部分でそれぞれ定められている諸規定の中から、最も重要かつ基本的なルールをいくつか取り上げ、それらの立法趣旨、基本構造、解釈適用上の問題点について、具体的事例に即しながら解説します。

また、必要な限りで『不正競争防止法』など、商事に関する特別法上のルールについても適宜、取り上げていきます。

本講義では、受講を通して、受講者が現代型企業ビジネスが抱えている今日的な法律問題や課題に関心を持ち、法解釈や立法でどのような解決が可能であるかについて、自ら考える能力を高めることを目指します。

(到達目標)

- ・ 企業法に関する基礎的な知識を身につけている。
- ・ 企業法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。
- ・ 企業法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

テキストについては、最初の講義で指示します。
六法については、最新版であることが望ましいです(毎回、必ず持参してください)。
Moodleにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、最初の講義時、ならびに、必要に応じて随時、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略、以下の順で進みますが、受講生の関心・理解度等により、進度・順番が変わりうることをご了解願います。

- 第1回 商法の学習法—新聞を読もう！ 民法との関連を見よう！ 条文に立ち返ろう！
- 第2回 商人・商行為とは何か
- 第3回 商法の特徴(1)【営利主義】
- 第4回 商法の特徴(2)【外観主義】
- 第5回 商法の特徴(3)【公示主義】
- 第6回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(1) 【商号・商標】
- 第7回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(2) 商法総則・会社法総則による保護
- 第8回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(3) 不正競争防止法上の保護
- 第9回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(4) 名板貸人の責任
- 第10回 現代型取引と名板貸制度
- 第11回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(1) 【商業使用人とは何か】
- 第12回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(2) 【支配人の権限】【支配人の権限濫用】
- 第13回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(3) 【表見支配人】【支配人の義務】
- 第14回 営業・事業譲渡をめぐる法律問題
- 第15回 総まとめ

企業法総論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

①事後学習課題30%、②中間テストもしくは中間レポート40%、③学期末レポート30%で評価します。
なお、その他のアサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断する場合があります。
一評価不能：上記の必須課題①②③のすべてが未提出だった場合
D評価：1つ以上の必須課題が提出されたが、最低合格点60点に満たなかった場合

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodle上もしくはそこにアップされた講義レジュメ等には、随時、以下の事項が記載されていきます。
①予習すべき教科書の箇所や予習課題、②授業後に取り組むべき復習課題、③レポート提出用の課題など。
予習、復習を前提とした講義を展開します。
指示された事前学習を行い、授業にのぞむとともに、指示された範囲の復習を心がけ、課題に積極的に取り組むことにより、授業の理解を深めるようにしてください。
詳細は、Moodleの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

1、本講義が対象とする「商法」は、応用科目としての性格が非常に強いものです。つまり、私人間の取引活動を規律する基本法としての『民法』を、ビジネス世界により適合するように、補完・修正したものです。従って、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「物権法」「会社法」「民事訴訟法」などの諸科目をすでに受講しているか、または、並行して受講する場合は、本講義の理解がより容易にかつ深いものになります。
2、Moodleにある講義レジュメ等は、各自、印刷して、初回からの分もファイルして授業に持ってくるようにしてください。テキスト・レジュメ・裁判例プリントなどを持参しないで受講すると、授業の理解度が著しく低くなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

商法総則、会社法総則、不正競争防止法

国際開発協力論【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL211M	◎	○			
科目名	国際開発協力論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

国際開発協力はいわゆる南北問題と切り離して論じることはできない。南の途上国と北の先進国との間に存在する格差をいかにして解消するのかが問われ、第2次世界大戦後から今日に至るまで、様々な援助方針が掲げられてきた。ただし、それらの援助方針にはその時代ごとの国際政治経済状況が反映されており、多分に援助国側の論理が優先されてきたといえる。この講義では、そのような援助がもつ政治経済的側面に焦点を当てながら、今日に至るまでの開発援助の歴史を概観し、過去からの延長線上にある現在の国際開発協力の実態把握に努める。

【到達目標】

DP1「知識」国際政治経済の一領域として国際開発協力を捉え、専門的な知識を身につけている。
DP2「技能」国際開発協力分野における情報を収集し、分析や調査ができる。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。第1回目の授業および各回の講義の際に関連の文献を紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 下村恭民他『開発援助の経済学(第4版)』有斐閣、2009年。
- 下村恭民、辻一人、稲田十一、深川由紀子著『国際協力：その新しい潮流(第3版)』有斐閣、2016年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション(講義の目的)、開発援助の基礎知識
- 第2回 WWII後から1960年までの開発援助【ポイント・フォア】
- 第3回 1960年代の開発援助【近代化論】【トリクル・ダウン仮説】
- 第4回 1970年代の開発援助【ベーシック・ヒューマン・ニーズ(BHN)戦略】
- 第5回 1980年代の開発援助【構造調整政策】【ワシントン・コンセンサス】【経済的コンディショナリティ】
- 第6回 冷戦の終結と援助パラダイムの変化【人間開発】【政治的コンディショナリティ】
- 第7回 グローバルな開発目標の設定【MDGs】【SDGs】
- 第8回 日本のODAの歴史(1)援助の開始から1990年代初頭の全盛期にかけて
- 第9回 日本のODAの歴史(2)理念と原則の提示
- 第10回 日本のODAの歴史(3)開発援助から開発協力へ
- 第11回 グローバル・サウスによる開発協力【バンドン会議】【集団的自力更生】【第三世界】【非同盟運動】
- 第12回 新興国の台頭と変容する国際政治経済秩序【AIIB】【一帯一路】【NDB】
- 第13回 開発援助レジームの変容【OECD/DAC】【釜山/ハイレベルフォーラム】【GPEDC】【UNDCF】
- 第14回 中国による開発協力【三位一体型】【債務の罠】
- 第15回 まとめ：国際開発協力と国際政治

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...30%(10%×3回) 学期末試験...70%
小テストはMoodleを用いて授業時間外に行います。
Formsで毎回出席を取り、5回以上欠席した場合には「一」(評価不能)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に第2次世界大戦後の世界史について復習しておくことが望ましい。定期的に小テストを実施しますので、単元毎に復習をしてください。

国際開発協力論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

日頃から国際協力機構（JICA）やOECD（経済協力開発機構）DAC（開発援助委員会）のウェブサイト参照すると、授業理解に役立ちます。この授業では国際政治学の観点から制度としての開発協力を考察します。そのため開発の実務的側面についてはあまり触れません。
【重要】 資料は事前にMoodleにアップしますので、各自ダウンロードして目を通しておくように。望ましい形としては、資料を印刷してノートの左側に貼り付け、右側には授業内で補足した説明などを書き取るなど、独自のノートづくりをお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語厳禁。原則として途中入退室は認めません。

キーワード /Keywords

平和研究【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL212M	◎	○			
科目名	平和研究			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この講義の前半では国連による平和維持活動（PKO）に焦点を当て、いくつかの事例を通して、国連PKOの変容と限界について学習します。後半は、紛争後復興に求められる平和構築活動を取り上げ、総論として全体像を把握するとともに、各論として開発援助による紛争後復興に焦点をあて、紛争問題に開発援助がどのように関わることができるのか、そこにはどんな困難があるのかを学習します。最後の3回はアクターとしてのNGOに焦点をあて、アフガニスタンにおけるベシャワール会の活動を通して、NGOによる活動の可能性と限界について考えます。

【到達目標】

DP1「知識」平和構築における多面的な活動を体系的かつ総合的に理解している。
DP2「技能」国際社会による平和構築活動に関する情報を収集し、分析や調査ができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。随時、関連する文献を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- メアリー・B・アンダーソン『諸刃の援助 - 紛争地での援助の二面性』明石書店、2008年。(絶版のため書店購入不可)
- リンダ・ポルマン『クライシス・キャラバン-紛争地における人道援助の真実』東洋経済新報社、2012年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション 国連PKOの歴史、仕組み、役割
- 第2回 国連による国家建設：カンボジア
- 第3回 UNTAC：日本と国連PKO
- 第4回 紛争当事者としての国連：ソマリア
- 第5回 UNOSOM II
- 第6回 PKO活動におけるマンデートの壁：ルワンダ
- 第7回 UNAMIR
- 第8回 国連PKOの変容
- 第9回 平和構築：総論
- 第10回 平和構築：各論
- 第11回 リベラル・ピースビルディング
- 第12回 Do No Harm原則
- 第13回 アフガニスタンの事例研究（1）：歴史
- 第14回 アフガニスタンの事例研究（2）：国際社会の関与
- 第15回 アフガニスタンの事例研究（3）：中村哲医師とベシャワール会

成績評価の方法 /Assessment Method

課題の提出...30% (10%×3回) 学期末試験...70%
Formsを使って毎回出席を取ります。欠席が5回以上の場合は「一」（評価不能）となります。

平和研究【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にMoodleに掲載される資料に目を通しておくこと。事後学習としては、授業中に視聴するビデオについての課題を出しますので、その課題について学習していただきます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。遅刻や途中退室も他の受講生の迷惑になるので禁止します。ビデオを観た回ではグループでディスカッションをしてもらいます。積極的に発言することを心がけてください。

キーワード /Keywords

国際機構論I【昼】

担当者名 /Instructor 政所 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL215M	◎	○			
科目名	国際機構論 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業（国際機構論I・II）では、以下を目的とする。第一に、国際機構の歴史、また基本的な構造や制度、機能などについて学ぶ。第二に、現実の国際政治において、国際機構がどのような意義を持ち、いかなる役割を果たしているのかを検討する。国際機構の基本的な仕組みについての理解を深めつつ、同時に、国際機構における意思決定のダイナミクス、多様な政策分野のグローバル・ガバナンスにかかわる諸アクターとの関係、ルール設定のあり方など、国際政治との関連も重視する。

国際機構論Iでは、国際機構を理解するための基礎的な情報と視点を提供する。国際機構の歴史的な展開をまず概観したうえで、国際関係における国際機構の意義や課題を説明するための分析視角を学び、理論的な枠組みや見方について理解する。また、地域的な国際機構や非政府間の国際機構の特徴や役割、これらと普遍的な国際機構との違い、さらには国際機構の有する今日的な課題についても学習する。

（到達目標）

【知識】国際機構（主に国際連合）の諸側面について基礎的知識を修得する。

【技能】国際機構（主に国際連合）に関する情報の収集・分析をすることができる。

教科書 /Textbooks

指定しない。授業計画に従って、レジュメや資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 最上敏樹『国際機構論講義』岩波書店、2016年。
 山田哲也『国際機構論入門』東京大学出版会、2018年。
 ○渡部茂己・望月康恵編『国際機構論[総合編]』国際書院、2015年。
 横田洋三監『入門 国際機構』法律文化社、2016年。
 Margaret P. Karns, Karen A. Mingst, and Kendall W. Stiles, International Organizations: The Politics and Processes of Global Governance, 3rd ed., Lynne Rienner Publishers, 2015.
 Ian Hurd, International Organizations: Politics, Law, Practice, 4th ed., Cambridge University Press, 2020.
 Jacob Katz Cogan, Ian Hurd, and Ian Johnstone, eds., The Oxford Handbook of International Organizations, Oxford University Press, 2016.
 Bob Reinalda, ed., Routledge Handbook of International Organization, Routledge, 2019.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション【国際機構は重要か？どのような意義があるか？】
 第2回 歴史①【19世紀～国際連盟】
 第3回 歴史②【国際連合の創設とその後の展開】
 第4回 分析視角①【国際機構の存在論：アクター、フォーラム、リソース】
 第5回 分析視角②【国際機構の創設：パワー、共通利益、合理性、規範】
 第6回 分析視角③【国際機構の存続と消滅：粘着性、正当性、制度的置換】
 第7回 普遍的国際機構①【国際連盟と国際連合】
 第8回 普遍的国際機構②【GATT/WTO】
 第9回 普遍的国際機構③【IMF、世界銀行】
 第10回 映像で見る国際機構の実際
 第11回 地域的国際機構①【EU】
 第12回 地域的国際機構②【ASEAN】
 第13回 地域的国際機構③【AU、OAS】
 第14回 非政府間国際機構【INGO】
 第15回 国際機構の諸課題【機能不全（逸脱行動、縄張り争い）、説明責任】

国際機構論I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ①授業中課題（小レポート） 20%
- ②定期試験 80%

①②ともに未提出 / 未受験の場合は、評価不能（ - ）とする。いずれが一つでも提出 / 受験すれば、成績評価の対象とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業前には、前回までの授業のレジュメや資料、自作のノートを用いて自分の理解を確認すること。また授業後には、その授業のレジュメや資料、自作のノートの内容を整理すること。
- ・ 日頃から新聞の国際面や社会面に目を通すこと。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業で配布するレジュメは書き込むスペースが必ずしも十分ではないため、自分でノートを用意するなど、授業の理解を助ける工夫をしてください。
- ・ 授業を妨害する行為（私語、歩き回るなど）は厳禁です。場合によっては、単位を与えません。
- ・ 授業ではPPTを使用しますが、スマートフォンや携帯電話などで写真に撮ってはいけません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学の授業では、国際連合が設立されたのはいつか、欧州連合から脱退することを決めた国はどこかといった歴史的事実を単に暗記するだけでなく、国際連合はなぜ・どのように設立されたのか、英国はなぜ・どのように欧州連合を脱退することになったのかといった、現実の事象を引き起こした要因やそのメカニズム、プロセスを説明するための理論的な見方を理解することも重要です。本講義を通して、そのような見方を身に付けましょう。

キーワード /Keywords

国際機構論II 【昼】

担当者名 /Instructor 政所 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL216M	◎	○			
科目名	国際機構論 II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

国際機構論IIでは、現在の国際社会において最も普遍的な国際機構である国際連合（国連）を取り上げ、その創設の歴史や仕組み、主要な機関の役割や機能などについて学習する。また、国際社会の現実にそぐわなくなってきた国連の組織構造を改良しようとする、いわゆる国連改革の歴史的な動きやその中身についても理解する。さらに、安全保障や開発、環境、人道支援といった主要な政策分野における国際機構の活動について、諸アクター間の関係性や実際の合意形成などにも着目しながら考察する。

可能であれば、外部講師による講演やディスカッションなどを適宜盛り込み、学生主体の作業を通じて国際機構の現実に触れる機会を設けたい。

(到達目標)

【知識】国際機構（主に地域的機構）の諸側面について基礎的知識を修得する。

【技能】国際機構（主に地域的機構）に関する情報の収集・分析をすることができる。

教科書 /Textbooks

指定しない。授業計画に従って、レジュメや資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

植木安弘『国際連合-その役割と機能』日本評論社、2018年。

○内田孟男編『国際機構論』ミネルヴァ書房、2013年。

吉村祥子・望月康恵編著『国際機構論 [活動編]』国際書院、2020年。

田仁揆『国連を読む-私の政務官ノートから』ジャパンタイムズ、2015年。

○明石康『国際連合-軌跡と展望』岩波書店、2006年。

Thomas G. Weiss and Sam Daws, eds., The Oxford Handbook on the United Nations, 2nd ed., Oxford University Press, 2018.

Thomas G. Weiss, David P. Forsythe, Roger A. Coate, and Kelly-Kate Pease, The United Nations and Changing World Politics, 8th ed., Routledge, 2020.

Karen A. Mingst, Margaret P. Karns, and Alynna J. Lyon, The United Nations in the 21st Century, 6th ed., Routledge, 2022.

Thomas G. Weiss and Rorden Wilkinson, eds., International Organization and Global Governance, 2nd ed., Routledge 2018.

○Jussi M. Hanhimaki, The United Nations: A Very Short Introduction, 2nd ed., Oxford University Press, 2015.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イントロダクション【国連はどのように運営されているか？】

第2回 国連の創設・目的・構造・意思決定

第3回 仕組み①【総会】

第4回 仕組み②【安全保障理事会】

第5回 仕組み③【経済社会理事会】

第6回 仕組み④【国際司法裁判所】

第7回 仕組み⑤【事務総長と事務局】

第8回 国連改革、システム-貫性、多様なアクターの参画

第9回 映像で見る国連の活動

第10回 安全保障①【核軍縮】

第11回 安全保障②【国連平和活動（平和維持、平和構築）】

第12回 人道【難民・国内避難民、人道的介入、保護する責任】

第13回 人権【国際人権章典、人権理事会、人権高等弁務官事務所】

第14回 開発【MDGs、UNDP、世銀グループ、OECD/DAC、AIIB】

第15回 気候変動【SDGs、UNEP、IPCC、パリ協定】

国際機構論II【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ①授業中課題（小レポート） 20%
- ②定期試験 80%

①②ともに未提出 / 未受験の場合は、評価不能（ - ）とする。いずれが一つでも提出 / 受験すれば、成績評価の対象とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業前には、前回までの授業のレジюмеや資料、自作のノートを用いて自分の理解を確認すること。また授業後には、その授業のレジюмеや資料、自作のノートの内容を整理すること。
- ・ 日頃から新聞の国際面や社会面に目を通すこと。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業で配布するレジюмеは書き込むスペースが必ずしも十分ではないため、自分でノートを用意するなど、授業の理解を助ける工夫をしてください。
- ・ 授業を妨害する行為（私語、歩き回るなど）は厳禁です。場合によっては、単位を与えません。
- ・ 授業ではPPTを使用しますが、スマートフォンや携帯電話などで写真に撮ってはいけません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学の授業では、国際連合が設立されたのはいつか、欧州連合から脱退することを決めた国はどこかといった歴史的事実を単に暗記するだけでなく、国際連合はなぜ・どのように設立されたのか、英国はなぜ・どのように欧州連合を脱退することになったのかといった、現実の事象を引き起こした要因やそのメカニズム、プロセスを説明するための理論的な見方を理解することも重要です。本講義を通して、そのような見方を身に付けましょう。

キーワード /Keywords

地球環境論 【昼】

担当者名 /Instructor 松本 治彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV200M	◎	○			
科目名	地球環境論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

最近の新聞で話題となっていること、例えば「ブラックホールに抜け穴」「宇宙旅行時代の到来」「人工光合成で変換効率10%超（実用水準を達成）」「次々世代型蓄電池はナトリウム」「メタバース（仮想空間）」「北極海で有望プランクトンを発見、海の生物から石油代替、世界初、バイオ燃料に期待」「地上の太陽（核融合発電）の商用化を競う日米欧・スタートアップ（ビルゲイツ支援）、グーグルなどが開発、国際熱核融合実験炉プロジェクトは2025年運転開始を目指す」「2050年温暖化ガス排出実質ゼロの切り札としてアンモニアへの注目が高まっている」「手や口を使わず「念じる」ことで意思を伝える技術がAIとの組み合わせで実現できそうだ」「りゅうくろうの石や砂から有機物や水素を確認したと発表」「光によってnm単位で操作できる素子を開発、病気の患部に正確に薬を届けるナノマシン」「コロナ禍、メッセンジャーRNAワクチンがこれまでのワクチンと異なるのは、体の中にウイルスのたんぱく質を作らせること」「二酸化炭素を資源と見るカーボンリサイクル」「2029年に実用的な量子コンピューター（100万量子ビット）の完成を目指すグーグル」「光方式の量子コンピューターを開発」「ホーキング博士最後の論文では近い将来、別の宇宙の存在を示す証拠が見つかる可能性に言及」「海底下2500mに大量の深部生命体の存在が明らかになった！」「日本版GPS本格運用と2025年に自動車の完全自動運転実現？」「偏西風の蛇行による異常気象の多発」などの記事が載っています。また熟語としては「アバター」「パンデミック」「デルタ株とオミクロン株」「新型コロナウイルス感染症」「mRNAワクチン」「3密」「自動運転レベル4」「GAFA」「5G」「IoT」「ビッグデータ」「量子コンピューター」「SDGs（持続可能な開発目標）」「空飛ぶクルマ」「南海トラフ」など。これらの内容をどのように理解すればよいのか？難しい世の中になりました。「理系の人間だからこれくらいのことには理解しているでしょう」とか、「文系の人間だから知らなくて当然です」と言いたくなるかもしれませんが。しかし、今の社会では、これら情報の理解度と真偽の判断が、各人のその後の人生に影響を及ぼすことがあります。

そこで、この授業では、受講する皆さんが地球の現在・過去・未来（地球環境論）について考える際に、知っておくべき自然科学系の話をします（もちろん、社会科学系の話もします。文系・理系の枠を超えた視点にチャレンジしています）。この授業の最も重要なことは「事実と意見」の区別と「時間と空間のスケール」を常に考えながら話を聞いていただくことです。なるべく、数式や化学式を使わないように話していきますが、これらを利用する際には、基本的な話からはじめて、理解しやすいように工夫をしています。この授業の受講後は、新聞で毎日のように取り上げられている自然科学系（地球の環境も含めて）の記事の内容がある程度、理解できるようになることを期待しています。

（到達目標）

【知識】地球環境に関して専門的な知識を身につけている。

【技能】地球環境についての情報を収集し、分析や調査ができる。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しません。資料（ウェブ上より各自ダウンロードしてください）に沿って授業を進めます（パワーポイントを利用します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書については、第1回目の講義で資料を基に説明します。

地球環境論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回「地球の歴史、何がわかっているの？そして、未来は？」【事実と意見の区別】【科学の特徴】【時間と空間のスケール】【基本単位を知る】【授業概要】【参考図書の紹介】
- 2 回「宇宙の始まり」【ビックバンとインフレーション】【自然の大きさ】【質量と重さ】【素粒子】【4つの力】【電磁波】【重力波】
- 3 回「地球の誕生・生物の誕生」【年代測定】【生物の誕生とウイルスとの関係】【光合成生物】【カンブリア爆発】【スノーボール・アースイベント】【恐竜の絶滅】
- 4 回「人間社会の形成」【ヒトの進化】【人間活動】【自然生態系と人工生態系】
- 5 回「熱収支と四季」【太陽放射と地球放射】【温室効果】【1日の最高気温は何時？】【1年で最も寒い月は？】
- 6 回「水と大気の大循環」【大気鉛直構造】【温度とは？】【大気の大循環】【海洋の深層大循環】
- 7 回「森林消失と生物種絶滅」【熱帯林の破壊】【乾燥地帯の農業】【再生への対処法】
- 8 回「オゾン層破壊・PM2.5」【紫外線】【オゾンとフロン】【オゾンホール】【PM2.5とは？】
- 9 回「温暖化モデルとIPCC」【カオス】【IPCCの作業原則】【予防原則】【パリ協定】【カーボンニュートラルとカーボンリサイクル】【私の見解】
- 10 回「周期的変動」【氷期サイクル】【太陽活動の異変】【海洋の周期的変動】【北極振動と偏西風の蛇行】【エルニーニョとMJO】【黒潮の蛇行】
- 11 回「化石燃料から再生可能エネルギーへ」【石油・石炭・天然ガス】【シェールガス】【メタンハイドレート】【水力】【バイオ燃料】【地熱】【太陽電池】【風力】【波力】【原子力】【核融合発電】
- 12 回「炭素社会から水素社会に」【燃料電池】【蓄電池】【アンモニアと水素発電所】【水素ステーション】【人工光合成】
- 13 回「未来予測」【2050年までの取り組みが大事】【宇宙のこと】【イノベーション加速】【人口予測】【遺伝子工学】【量子コンピュータ・ロボット技術】【メタバースと不老不死の世界】【宇宙旅行】【軌道エレベータ】【ナノマシン】【レプリケーター】【テラフォーミング】
- 14 回「天気予報・自然災害への備え」【気象観測】【天気予報とコンピュータ】【火山・地震・津波】【警報の見直し】
- 15 回「まとめ」

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で配布する質問カードへの記入（感想、質問等を記入する）40%、学期末試験60%で総合評価します。なお、欠席が5回を超えた場合は評価不能、また定期試験を受験しなかった場合は評価不能とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

シラバスに沿った授業を実施しています。各回の授業内容を一読して、授業に備えてください。また、授業後は理解できなかった内容については次回までに自分自身で調べておいてください（質問カードに記載した分からないことについては、次回の授業の最初に私のほうから説明します）。

履修上の注意 /Remarks

毎回、授業の終わりに質問カードに質問・感想等を記入する時間を取ります。しかし、5～10分程度の短い時間ですので、皆さんは短時間で疑問点や感想を箇条書きできるように、日頃から心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、概要・授業計画をみると分かるように、広範囲な地球の環境について取り上げています。前半は自然科学系の基本的な知識を中心に理解を深めてもらいます。中ほどでは最近、話題となっている地球環境に影響を与えている自然現象や人間活動などについて「その真偽」を中心に話をします（新型コロナウイルスについて生物の誕生とウイルスの関係、ウイルスが地球全体に与える影響についてもコメントする）。後半は、基礎知識、最近の現象を踏まえて、これから望ましいエネルギー、社会構造、および未来の予測について、私の考えを述べます。なお、受講生の皆さんが高校の時に理系科目をあまり勉強していなくても、この授業を理解できるように工夫（たとえば、質問カードの記入）しています。分からないことは遠慮せずにこのカードに書いてください。次回の授業では、質問に答えることから始めます。

キーワード /Keywords

「事実と意見の区別」「時間・場所的スケール」「地球温暖化予測モデルの精度」「炭素社会から水素社会へ」

国際関係の争点【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL101M	◎	○			
科目名	国際関係の争点		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この講義では、現代の国際社会が抱える様々な課題を取り上げ、その課題を解決するために取り組まれている諸活動を考察します。その際、単に諸問題の表層を捉えるのではなく、解決を困難にしている要因を歴史的文脈からも分析します。また、様々な課題が互いに関連し合っていることを横断的に捉え直すことで、複雑な現代世界の諸相を捉える視点を養います。

【到達目標】

- DP1「知識」国際情勢を理解する上で必要となる幅広い知識を身につけている。
- DP2「技能」国際関係を理解する上で重要となる情報を収集し、分析することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。毎回、レジユメをMoodle上にアップします。また、テーマに関係する文献をその都度、提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

滝田賢治・大芝亮・都留康子『国際関係学-地球社会を理解するために』（第2版）有信堂高文社、2017年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「平和学の基礎」【積極的平和】【消極的平和】
- 第2回 「変化する国際政治経済秩序」【新興国】【BRICS】【G20】
- 第3回 「安全保障のジレンマ」【囚人のジレンマ】【チキン・ゲーム】
- 第4回 「安全保障観の変容」【人間の安全保障】【国家安全保障】
- 第5回 「核兵器を巡る議論と展開」【NPT体制】【核兵器禁止条約】
- 第6回 「エネルギー」【原子力】【再生可能エネルギー】
- 第7回 「気候変動」【地球温暖化】
- 第8回 「食料問題」【遺伝子組み換え作物】【ゲノム編集食品】
- 第9回 「感染症」【HIV/AIDS】【NTD】【マラリア】【新型コロナウイルス】
- 第10回 「移民、難民問題」【社会包摂】【多文化主義】【同化政策】【排外主義】【レイシズム】
- 第11回 「中東、イスラーム」【イスラモフォビア】【スンニ派とシーア派】
- 第12回 「アフリカ」【ガバナンス】【汚職・腐敗】【北京コンセンサス】
- 第13回 「ジェンダー」【ジェンダー・ギャップ・インデックス】
- 第14回 「国際貿易」【WTO】【RCEP】【TPP】【FTA/EPA】
- 第15回 「日本社会」（第1回目から第14回目のテーマをもとに日本社会を考える）

※順番が入れ替わったり、国際情勢によって緊急的にホットな 이슈を取り上げる可能性があります。また、外部講師を招いての特別講演会が行われる可能性もあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(1本)・・・50% 学期末試験・・・50%
毎回Formsを使って出席を取ります。5回以上の欠席で「-」（評価不能）となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布するレジユメを前週の日曜日を目処にMoodleにアップします。受講生は事前に目を通しておくように。事後学習として課題レポートを課します。

国際関係の争点【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業で扱うテーマは限定されています。国際関係について関心を深めるためには、新聞を必ず読みましょう。また、授業で紹介する新書などを数多く読むようにして下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Moodleにレジュメをアップするので、プリントの配布は行いません。黒板を使用せず、ワードのファイルをスクリーンに投影し、そこに書き込むスタイルを取ります。そのため、大教室の後方では見えづらい可能性があります。なるべく前方に着席してください。できればダウンロードしたワードファイルを印刷してノートの左側に貼り付け、右側には授業中に補足した説明をメモするなど、独自にノートを作成してください。授業中の私語は厳禁です。他の受講生の迷惑になりますので、途中入退室は原則として禁止します。

キーワード /Keywords

国際関係の理論【昼】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL201M	◎	○			
科目名	国際関係の理論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

グローバル化の進展は国際関係に大きな変容をもたらしました。それは、グローバル化の進展は国際関係に大きな変容をもたらしました。それは、国際関係の土台をなす「国家」の位置づけ・意義の変容であり、例えば、国際機関や多国籍企業、国際NGOといった国家以外のアクターの影響力が増大したことや、各国が単独では解決しえない「グローバル・アジェンダ」への対応の必要性に注目が集まるようになったこと、紛争の形態が国家間戦争から内戦、テロといった錯綜した状況へと移行したことなどに表れています。

この授業では、このような国際社会の新たな動向と課題を理解するための方法と基礎知識の獲得をめざします。具体的には、第二次世界大戦後の冷戦期からポスト冷戦期である今日に至るまでの国際関係の流れや国際問題に焦点をあてながら、国際関係の主要な理論について学習します。

(到達目標)

- 【知識】 国際関係の理解に必要な基礎的知識を体系的に修得している。
- 【技能】 国際関係の理解に必要な情報の収集・分析をすることができる。

教科書 /Textbooks

テキストは特に指定せず、毎回レジユメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山田高敏、大矢根聡 [編] 『グローバル社会の国際関係論』 [新版] (有斐閣、2011年)。
 - 吉川直人、野口和彦 [編] 『国際関係理論』 [第2版] (勁草書房、2015年)。
 - 原彬久 [編] 『国際関係学講義』 [第4版] (有斐閣、2011年)。
 - 滝田賢治、大芝亮、都留康子 [編] 『国際関係学』 [第2版] (有信堂、2017年)。
 - パスカル・ポニファス『現代地政学 国際関係地図』 (ディスカバー・トゥエンティワン、2019年)
- その他の文献については授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

1. 国際関係学とは何か【理想主義、現実主義】
2. 近代国家の誕生と特質【主権、国民国家】
3. 国際関係の分析視角【自由主義、現実主義、マルクス主義】
4. リアリズム【アナーキー、パワー・ポリティクス、勢力均衡】
5. ネオリアリズム【覇権安定、二極システム】
6. 安全保障体制(1)：冷戦の始まりと終焉【安全保障のジレンマ、CTBT】
7. リベラリズム【相互依存、機能主義】
8. 前半の総括
9. ネオリベラリズム【国際レジーム、制度】
10. コンストラクティヴィズム【アイデア、間主観性】
11. 国際貿易体制の成立と変容【GATT、WTO、FTA】
12. 国際通貨体制の成立と変容【ブレトンウッズ体制、IMF】
13. 安全保障体制(2)：冷戦の終結と人道的介入【強制措置、人道的介入】
14. 人権の国際問題化と多様なアクター【人権、企業の社会的責任】
15. 講義のまとめ【グローバル化と国際社会】

国際関係の理論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。
小テスト：20% ミニレポート：20% 期末試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に参考文献を読んでおくこと。
授業内容の復習を行うこと。
必要に応じてMoodle に文書を UPするので参照し準備すること。（必要な学習時間の目安は、60分。）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から国際関係に関する出来事について関心を持ち、日々新聞を読む習慣を身につけておくこと。

キーワード /Keywords

リアリズム、リベラリズム、認識の共有、国際レジーム、地政学リスク、グローバル・ガバナンス

倫理学 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 満 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR210M	◎	○			
科目名	倫理学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

ヨーロッパの倫理思想史の概説を行うが、三つの部に分けて、第1部は宗教から政治と倫理の区別、すなわち倫理学、法学の成立、第2部は近代の学問の分化独立にもかかわらず、政治と宗教が融合している事態、第3部は、それらの学問と美学、芸術の関係を思想史を見ることで学ぶ。中世・近代・現代ヨーロッパの倫理思想をカバーするものになっている。

- 【DP1 知識】 倫理学について基礎的知識を修得する。
- 【DP2 技能】 倫理に関する情報を収集・分析することができる。

教科書 /Textbooks

なし。
資料を配付。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 清水 満 『フィヒテの社会哲学』 (九大出版会) ○
- ハインリヒ・マイヤー著、中道壽一、清水 満訳 『政治哲学が、政治神学が カール・シュミットの通奏低音』 (風行社) ○

倫理学 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1講 インTRODクシヨN

古代ギリシヤにおいては、真・善・美・聖が融合していたことを理解する。

第2講

第1部 聖と善の分離(1)

中世から近世にかけて、聖と善の分離が分離していく様を、トマス・アクィナス、マキアヴェリ、ルターを通して学ぶ。

第3講 聖と善の分離(2)ホッブズ

ホッブズの「リヴァイアサン」を使い、聖と善の分離、主権概念の誕生を理解する。

第4講 第1部 聖と善の分離(3)スピノザ:宗教と国家の分離

『神学・政治論』を使い、ホッブズを受け継いで、近代の政治と宗教の分離の様を学ぶ。

第5講 聖と善の分離(4)カント

カントの主著『実践理性批判』で、宗教の道德への還元、『理性の限界内における宗教』で理性宗教の確立を理解する。

第6講 聖の善への取り込み(5)フィヒテ:理性宗教の確立

カントをさらに推し進めたフィヒテの思想を学ぶ。

第7講 第2部 法と善と聖の分離とせめぎあい(1):ジャン=ジャック・ルソー

近代において確立した聖と善の分離が、分離しつつも根底では融合している様をルソーを切り口に理解する。

第8講 法と善と聖の分離とせめぎあい (2)カント

カントの「適法性」と「道徳性」の概念を学ぶ。カントは近代法学の定礎者でもあった。

第9講 法と善と聖の分離とせめぎあい (3)フィヒテ

フランス革命の哲学者ともいえるフィヒテの思想を『自然法の基礎』を中心に学ぶ。

第10講 法と善と聖の分離とせめぎあい(4)カール・シュミット

分離・独立したはずの近代の学問が根底では融合して、宗教性を背後にもつことをシュミットを通して学ぶ。「例外状態」「政治神学」を理解する。

第11講 第3部 美と人倫 「美しき共同体」を求めて(1)カント

第3部は美学・芸術の哲学的考察を行う。まずはカントの美の概念と目的論を学ぶ。

第12講 美と人倫 「美しき共同体」を求めて(2)シラーの美と人倫

シラーの美の概念、公共性と芸術の関係を学ぶ。

第13講 美と人倫 「美しき共同体」を求めて(4)マルクス

マルクスの思想が誤解されてきたこと、彼が提唱したのはコミュニケーション主義としてのコミュニズムであることを理解する。

第14講 美と人倫 「美しき共同体」を求めて(5)ウィリアム・モリス

マルクスの継承者としてモダン・デザインの創始者モリスの民衆の芸術の思想を学ぶ。

第15講 美と人倫 「美しき共同体」を求めて(6)ハーバマス

ハーバマスのコミュニケーション的理性を学ぶ。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 59%

小レポート、確認テストの状況 31%

出席 10%

5回以上講義を欠席した場合は、評価不能(-)とします。

試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義レジメに、文献案内をつけるので、その中の一部を自分で読む。

履修上の注意 /Remarks

内容が硬いので、意欲のある学生の参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

わかりやすいプレゼンテーションを心がけます。

質問などは遠慮なくして下さい。

キーワード /Keywords

政治と宗教 政治神学 美と人倫 目的論

経済地理学I【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN230M	◎		○		○
科目名	経済地理学			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識でき、立地論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる課題を発見、分析し、その解決をはかる力を身に付けることができるようになる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

(到達目標)

【知識】立地論に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。

【思考・判断・表現力】企業の立地法則について、論理的に思考して立地行動を探索、判断し論理的に表現することができる。

【自立的行動力】企業立地への関心と就労先としてのキャリア意識を持ち続け、学修に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 産業構造と産業立地 【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
- 3回 企業の立地行動(I)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
- 4回 企業の立地行動(II)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
- 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
- 6回 1～5回の復習と課題 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
- 7回 企業の立地行動(III)・・・最小コストモデル 【ウェーバー】、【輸送費】、【集積】
- 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
- 9回 企業の立地行動(IV)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
- 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
- 11回 6～10回の復習と課題 【輸送費理論】【企業内空間分業】
- 12回 企業の立地行動(V)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
- 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
- 14回 現代の立地行動～オフィスの立地論 【オフィス】【知識の輸送】【対面接触】
- 15回 全体のまとめと課題

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済地理学特講や地域経済、地域経済特講などを受講すると相互理解が深まります。
3、4、7、9、12、14回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

経済地理学I 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、企業立地、産業配置

経済地理学II 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN231M	◎		○		○
科目名	経済地理学特講			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

経済地理学特講は、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学で学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって立地論や都市論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる課題を発見、分析し、その解決をはかる力を身に付けることができるようになる。

都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を発揮することができる能力を身に付けることができる。

なお、今年度は受講者が多くなり、コロナ感染対策からメディア授業となる可能性があります。その際は、Moodleに動画をアップし、オンデマンドで視聴していただくこととなります。

(到達目標)

【知識】都市論および地域論に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。

【思考・判断・表現力】都市の立地法則や地域構造の成り立ちについて、論理的に思考して法則性を探求、判断し論理的に表現することができる。

【自立的行動力】都市の立地や地域の成り立ちへの関心と就労先としてのキャリア意識を持ち続け、学修に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】【都市】【地域】【地域政策】
- 2回 オフィス立地と都市 【オフィス】【本社・支社】【中枢都市】【都市の階層化】
- 3回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】【付け値曲線】【土地利用】
- 4回 都市内システム 【都市】【バージェス】【ホイト】
- 5回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】【プレッド】【地方中枢管理都市】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 企業活動と地域 【企業機能】【地域間システム】【生活圏】【公共施設立地】
- 8回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】【拠点開発方式】
- 9回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】【テクノポリス】
- 10回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】【東京一極集中】【世界都市】
- 11回 6～10回の復習とまとめ
- 12回 産業立地と今後の地域構造・・・ランドデザイン 【多軸型国土構造】【産業創出の風土】
- 13回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【近代化】【産業構造】【国土構造】
- 14回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【発展なき成長】【東京一極集中】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10% 期末試験(オンデマンドの場合は最終課題になります。) ... 90%

経済地理学II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の進度に応じて指定された範囲の予習と、授業内容の整理、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済地理学や地域政策などを受講していると相互理解が深まります。
2、3、4、5、8、9、10、12、14回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、都市システム、立地政策

地域政策【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN234M	◎		○		○
科目名	地域政策		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

日本の地域経済を考える上で、地域政策は大きな役割を果たしてきました。しかし公共投資の見直しや法律・制度の改変など、中央政府（国）を主体としたこれまでの地域政策は大きく転換しています。なぜそうした変化が生じているのでしょうか？またその結果、地域経済にどのような影響があるのでしょうか。この授業では、前半で全国的な視点からの地域政策の手法や特徴、問題点を学び、後半では地域の視点からの新しい政策の姿を探ります。

DPに基づく到達目標

- 《豊かな「知識」》
地域政策に関するニュースや文書を読んで理解することができる。
- 《時代を切り開く「思考・判断・表現力」》
地域課題に対する対策と地域のビジョンを提案することができる
- 《社会で生きる「自立的行動力」》
地域課題や政策を自分自身の生活と関連づけて説明することができる。

教科書 /Textbooks

使用しません。
配布プリントをもとに授業を行います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しません。
講義ごとに読むべき文献があれば授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 地域経済と地域問題
- 3回 日本の地域政策体系と政策手段
- 4回 特定地域総合開発計画
- 5回 全国総合開発計画（第一次、第二次）について
- 6回 全国総合開発計画（第三次、第四次）について
- 7回 国土のグランドデザインと国土形成計画について
- 8回 人口減少のインパクトと地方創生政策
- 9回 地域政策の転換と今後の政策に必要なもの
- 10回 新産業育成と地域政策
- 11回 地域連携と地域政策
- 12回 交流人口、関係人口と移住政策
- 13回 地域問題解決の新たな手法
- 14回 地域政策と地域経営
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストもしくは小レポート（20%）と期末テスト（80%）により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断し、評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業外学習として、1) 講義後に配布プリントを見直し重要なポイントを3つにまとめること、2) 事前課題がある場合には準備をして講義に臨むことを心がけてください。

地域政策【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業の一部には、学生が主体的に参加するワークショップ形式の内容を含みます。積極的に発言してください。
なお、受講人数や新型コロナの状況によっては、ワークショップ形式は実施できない場合があります。また、遠隔授業になった場合には、シラバス掲載内容を一部変更する場合があります。変更についてはmoodleに掲載します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域政策、地域問題、地域間格差、新たな公共、地域経営

産業組織論 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 隆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN322M	◎	○	○		
科目名	産業組織論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

産業組織論とは、産業のあり方を市場の場で捉え、市場の構造、行動、成果の諸側面から検討し、市場をより効率的に機能させるための方策を解明することを目的としている。特に産業組織論では、独占禁止政策（競争政策）に焦点を当て、公正な競争のあり方とは何かについて考える。できるだけ個別に産業・企業をとりあげ、独占禁止法上（競争政策上）の問題をケース・スタディによって具体的にみながら、産業における市場のパフォーマンスを引き上げるためにどのような政策がとられているかについてみていく。到達目標として以下の点を掲げておく。

- ①市場メカニズムを理解し、市場構造、市場行動(企業の戦略的行動)、市場パフォーマンスの関係を理解する。
- ②独占禁止政策を理解する。
- ③独占禁止政策によって産業のパフォーマンスがどのように改善されるかについて理解する。

教科書 /Textbooks

小田切宏之著『競争政策論（第2版）』日本評論社 2017年
小田切宏之著『産業組織論』有斐閣 2019年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

花園誠著『産業組織とビジネスの経済学』有斐閣 2018年
大橋弘『競争政策の経済学』日本経済新聞出版 2021年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義全体の概略の説明
- 2回 競争政策(1) 競争政策とは何か? 独占禁止法入門
- 3回 競争政策(2) 競争政策はなぜ重要か? 独占禁止法の解説(外部講師の招へい)
- 4回 産業組織論的方法論的基礎 SCPパラダイム: 市場構造・市場行動・市場成果
- 5回 市場の諸類型(1) 市場構造と競争形態(完全競争・独占・寡占・独占的競争)
- 6回 市場の諸類型(2) 市場構造と競争形態(ハーフィンダール指数)
- 7回 コンテストアブル・マーケット 航空産業の事例
- 8回 地域独占産業の事例 日本の電力システムの構造改革
- 9回 共謀と暗黙の協調 カルテル(談合)と暗黙の協調
- 10回 M&Aについて(1) M & Aの定義・理論
- 11回 M&Aについて(2) 事例研究
- 12回 垂直的取引制限 再販と二重の限界性、販売サービスただ乗り問題、資生堂による対面販売の義務付け
- 13回 ネット取引とプラットフォーム プラットフォームという考え方、双方向市場の競争政策
- 14回 イノベーションと知的財産権 知的財産権 短期効率性と長期的効率性のトレードオフ、特許制度と競争政策
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義時のリアクションペーパーや出席状況、毎回の確認小テストおよび定期試験(論述問題・計算問題など)で総合的に評価する。
なお、感染状況によっては定期試験の代わりに期末レポートを課すこともある。その場合は、講義時のリアクションペーパーや出席状況、毎回の確認小テストおよび期末レポートで総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、配布プリントなどを読む。事後学習としては、配布プリントなどのわからない点を調べたり、教科書・参考書などでさらに理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

産業組織論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論特講【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 隆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN323M	◎	○	○		
科目名	産業組織論特講				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

産業組織論とは、産業のあり方を市場の場で捉え、市場の構造、行動、成果の諸側面から検討し、市場をより効率的に機能させるための方策を解明することを目的としている。本講義では、現代を代表するさまざまな産業をとりあげ、その産業の歴史的発展に注意しながら、どのようなメカニズムで産業が進化・発展していくのかを産業組織論の観点から探求する。できるだけ個別に企業・産業をとりあげ、各企業の企業戦略をケース・スタディによって具体的にみながら、企業や産業の構造・戦略的行動および政府による政策的効果が市場の成果にどのような影響を及ぼすかを理解することを目標とする。とりあげる産業としては、ビール産業、自動車産業、情報通信産業などである。到達目標として以下の点を掲げておく。

- ①市場メカニズムを理解し、市場構造、市場行動(企業の戦略的行動)、市場パフォーマンスの関係を理解する。
- ②代表的な産業の歴史的な発展のメカニズムを理解する。
- ③政府による産業政策や競争政策、規制のあり方が産業のパフォーマンスにどのような影響を及ぼすかを理解する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊丹敬之『日本産業三つの波』NTT出版
小田切・後藤『日本の企業進化』東洋経済新報社
浅羽茂『競争と協調の戦略』日本評論社
伊丹・加護野・小林・榊原・伊藤『競争と革新 自動車産業の企業成長』東洋経済新報社
丸山恵也・小栗崇資・加茂紀子『自動車産業』大月書店
奥野・南部・鈴村『日本の電気通信-競争と規制の経済学』日本経済新聞社
福家秀紀『情報通信産業の構造と規制緩和-日米英比較研究』
日経ビジネス

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに 講義全体の概略の説明、戦後経済・産業の歩み
- 2回 個別産業の研究 ビール産業(1) ビール産業の歴史、ビール産業のシェアの変動
- 3回 個別産業の研究 ビール産業(2) ドライ戦争：ス・バードライの事例研究
- 4回 個別産業の研究 ビール産業(3) 味覚戦争：製品差別化とは(水平的差別化と垂直的差別化) 味覚地図
- 5回 個別産業の研究 ビール産業(4) 発泡酒戦争の事例研究
- 6回 個別産業の研究 ビール産業(5) ビール産業の価格戦略(カルテルとプライスリーダーシップ)
補論：ドイツ・オランダの価格戦略
- 7回 個別産業の研究 自動車産業(1) 米国の自動車産業の歴史
- 8回 個別産業の研究 自動車産業(2) 日本の自動車産業の歴史、日本の産業政策
- 9回 個別産業の研究 自動車産業(3) 自動車産業の国際戦略・世界的再編
- 10回 個別産業の研究 自動車産業(4) トヨタ生産システムとその進化
- 11回 個別産業の研究 自動車産業(5) CASE戦略：自動車産業の100年に一度の大変革
- 12回 個別産業の研究 自動車産業(6) CASE戦略による産業構造の変化
- 13回 個別産業の研究 情報通信産業(1) 規制改革と民営化の理論
- 14回 個別産業の研究 情報通信産業(2) 電電公社の民営化・規制改革-第1次情報通信改革-
- 15回 個別産業の研究 情報通信産業(3) 第2次情報通信改革 プロードバンド・インターネット時代の規制政策
全体のまとめ

産業組織論特講【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義時のリアクションペーパーや出席状況、毎回の確認小テストおよび定期試験(論述問題・計算問題など)で総合的に評価する。
なお、感染状況によっては定期試験の代わりに期末レポートを課すこともある。その場合は、講義時のリアクションペーパーや出席状況、毎回の確認小テストおよび期末レポートで総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、配布プリントなどを読む。事後学習としては、配布プリントなどのわからない点を調べたり、教科書・参考書などでさらに理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共経済学【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN226M	◎	○	○		
科目名	公共経済学			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 (ねらい・テーマ) >

1. 公的部門（政府、地方自治体、公的企業）の経済活動について学ぶ。
2. 市場の失敗、政府の失敗について学び、その原因を理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 市場の限界、政府の限界を理解して、改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

本講義はアクティブラーニングの手法を活用します。アクティブラーニングは主体的に学習に取り組むための手法です。教員の話をお聴きだけでなく、積極的に発表、質問をしてもらいます。また、講義以外の時間帯も積極的に学習に取り組み、「何のために学ぶのか」、「何を学ぶのか」、「学んだことを現実の社会にどのような形で活用できるのか」を常に意識して、学習します。

(到達目標)

【知識】

公共経済学を（体系的かつ総合的に）理解している。

【技能】

公共経済学で取り扱う課題に対し必要な高度な分析手法を適切に運用できる能力を身につけている。

【思考・判断・表現力】

経済学の観点からの論理的な分析をもとに、公共政策を立案し、その効果を評価できる力を身につけている。

教科書 /Textbooks

寺井公子、肥前洋一（2015）、『私たちと公共経済（有斐閣ストゥディア）』、有斐閣、2,160円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井堀利宏（1998）、『基礎コース 公共経済学』新成社○
 井堀利宏（2005）、『ゼミナール 公共経済学入門』日本経済新聞社○
 マンキュー（2005）、『マンキュー経済学I ミクログ編』（第2版）東洋経済新報社○
 スティグリッツ（2003）、『公共経済学』（上・下）（第2版）○

公共経済学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：公共経済学について
- 2回 経済学の復習（1）【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 経済学の復習（2）【取引】、【市場】
- 4回 需要と供給【需要曲線】、【供給曲線】、【需要・供給曲線のシフト】
- 5回 市場と厚生【均衡】、【不均衡】、【余剰分析】
- 6回 市場の失敗【公共財】、【外部性】、【独占】
- 7回 費用便益分析、政策評価【現在価値】、【割引率】、
- 8回 独占の経済分析【自然独占】、【価格差別】
- 9回 規制の経済分析【価格規制】、【参入規制】
- 10回 政府の失敗【公共選択論】
- 11回 投票行動の経済分析【投票のパラドックス】、【選挙】
- 12回 利益団体、官僚の経済分析【レントシーキング】
- 13回 外部講師による講演 1
- 14回 外部講師による講演 2
- 15回 まとめ

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則 小テスト（12回）...40%、課題...10%、期末試験...50%
一度も出席しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義開始前までに該当する章を予め教科書を読んで下さい。確認テストを行います。また、講義終了後の内容は次回の講義で小テストを行いますので、しっかり復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

経済学入門A・B、統計学、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・IIで学んだことを前提に講義を進めますので、経済学入門A・B、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・IIが履修可能であれば、必ず履修してください。

ただ知識を覚えるだけでなく、問題解決に向けて、理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境経済学 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN328M	◎		○		○
科目名	環境経済学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 (ねらい・テーマ) >

1. 環境問題の原因を経済学の視点から理解する。
2. 経済学が環境問題の解決に向けて有効な手段であることを理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 環境問題を改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような環境問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

本講義はアクティブラーニングの手法を活用します。アクティブラーニングは主体的に学習に取り組むための手法です。教員の話を聴くだけでなく、積極的に発表、質問をしてもらいます。また、講義以外の時間帯も積極的に学習に取り組み、「何のために学ぶのか」、「何を学ぶのか」、「学んだことを現実の社会にどのような形で活用できるのか」を常に意識して、学習します。

(到達目標)

【知識】

環境経済学を (体系的かつ総合的に) 理解している。

【思考・判断・表現力】

経済学の観点からの論理的な分析をもとに、環境・エネルギー政策を立案し、その効果を評価できる力を身につけている。

【自立的行動力】

環境・エネルギー問題への関心とキャリア意識を持ち続け、持続可能な社会に向けて貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

栗山浩一・馬奈木俊介 (2016)、『環境経済学をつかむ 第3版』、有斐閣、2,592円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

栗山・馬奈木 (2008)、『環境経済学をつかむ』有斐閣
 時政・藪田・今泉・有吉編 (2007)、『環境と資源の経済学』勁草書房○
 日引 聡、有村俊秀 (2002)、『入門 環境経済学』、中公新書○
 マンキュー (2005)、『マンキュー経済学! ミクロ経済学編』(第2版) 東洋経済新報社○
 R. K.ターナー他 (2001)、『環境経済学入門』、東洋経済新報社○

環境経済学 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：環境問題と環境経済学
- 2回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(1)、【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(2)、【需要】、【供給】、【市場】
- 4回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(3)、【消費者余剰】、【生産者余剰】
- 5回 なぜ環境問題は発生するのか？(1)【市場の失敗】、【外部性】
- 6回 なぜ環境問題は発生するのか？(2)【ゲーム理論】
- 7回 経済学の視点からの環境政策(1) 【直接規制】
- 8回 経済学の視点からの環境政策(2) 【経済的手段】
- 9回 地球温暖化の経済分析 【温室効果ガス】、【京都議定書】、【排出権取引】
- 10回 廃棄物問題の経済分析 【循環型社会】、【ごみ処理手数料】、【3つのR】
- 11回 資源管理の経済分析 【枯渇性資源】、【再生可能資源】、【コモンズ】
- 12回 経済発展と環境 【成長の限界】、【持続可能な発展】、【環境グズネット曲線】
- 13回 グローバル経済と環境 【国際環境協定】、【比較優位】
- 14回 環境評価 【支払意志額】、【受入補償額】、【費用便益分析】、【仮想評価法】
- 15回 まとめ・復習

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。
また、3回程度、外部講師による講演も行う予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則 小テスト(12回)...40%、課題...10%、期末試験...50%
一度も出席しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義開始前までに該当する章を予め教科書を読んで下さい。確認テストを行います。また、講義終了後の内容は次回の講義で小テストを行いますので、しっかり復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

経済学入門A・B、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・II、統計学I・IIを事前に履修、またはこれらの講義内容を事前に学習していることが望ましい。
経済学を理解して、環境問題を考えます。その際、知識を覚えるだけでなく、環境問題解決に向けて理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国経済【昼】

担当者名 /Instructor 園 康寿 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN331M	◎		○		○
科目名	中国経済				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

授業目標

- ①テキストを通して中国経済の歩みの学び、今日の中国の動向に関してその理由を概説できる。
- ②テキストを通して中国経済に関する基本的な専門語句を説明できる。
- ③テキストを通して中国経済に関する自身の基準値（価値観）を再構築し言語化できる。

受講生の皆さんはテキスト『超大国 - 中国のあゆみ』を輪読（担当箇所の発表）しながら、各テーマの現状・課題の理解を進めていきます。毎週ひとつのテーマを取り扱い、意見交換をしながら、テーマに関する課題を皆さんなりに整理し言語化できるように授業を進めていきたいと考えています。

担当部分の発表にあたってはテキストの内容をまとめるだけでなく、専門語句の意味調べや統計資料の追加調べなど記述をそのまま鵜呑みするのではなく、著者の論調に刺激を受けながら、事実確認していく意識で発表に臨んでいきます。取り扱うテーマについては授業内容を参照してください（なお、毎回一つのテーマを終了し、授業計画に沿ったテーマを扱う予定ですが、計画通りに進まない場合もありますので、ご了承ください）。

また、学習レポートとして「中国に関する動向チェック」（中国ニュースの列挙）と「各章のまとめ」（図解作成：読解力・表現力の養成）を課していく予定です。加えて、発表担当者はテキストに示された原典（主に雑誌）を図書館で探し、それをコピーし一部を提出してもらいます（資料収集能力、事実確認と当時の知的関心のトレーニングの意）。

教科書 /Textbooks

テキスト：巖善平『超大国 中国のあゆみ』見洋書房、2021年、2,800円＋税
ISBN:978 - 4 - 7710 - 3442 - 6

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各テーマの授業進度に従って適宜紹介をする。

中国経済【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業テーマは以下の通りです(字数制限により一部省略。フルバージョンは初回授業時に配布予定)。一回の授業で一つのテーマを取り扱っていく予定ですが、授業進度によっては2回分を使って一つのテーマを扱うこともあります。

- 【1回目】中国の経済大国化と日中関係
1. 世界経済における中国のプレゼンス 2. 日本から見る米・中・アセアンとの経済関係
3. 中国から見る日・米・アセアンとの経済関係 4. アセアンから見る対外貿易の構造変化
5. 中国と日本とアセアンの三者関係 6. 日中関係の今後
- 【2回目】経済成長とそのメカニズム
1. 中国経済はなぜ成長したか：(『PS Journal』第11号、2007年11月) 2. 7%成長の継続は可能：(『日本経済新聞』2012年11月22日)
3. 中国が少子高齢化でも成長し続ける理由：(『プレジデント』2014年、12月29日)
4. 「成長の為に成長」が限界を迎えた中国経済：(『週刊東洋経済』、2012年6月16日)
- 【3回目】経済格差の実態と形成要因
1. 目立ち始めた中国経済の歪み：(『世界週報』、2002年10月1日、『経済セミナー』2005年6月) 2. 個人所得税法の改正、格差解消に踏み込まず：(『週刊東洋経済』、2011年8月27日) 3. 固定化される所得格差、体制内改革は限界に：(『週刊東洋経済』、2013年2月23日)
4. 中国の住宅バブルのトリック：(『東亜』、2019年1月)
- 【4回目】貧困削減の政策と課題
1. 「制度的差別」でとり残される「絶対的貧困」：(『リベラルタイム』、2007年11月) 2. 新たな局面を迎えた中国の農村貧困と経済格差：(『東亜』、2019年10月)
- 【5回目】三農問題と農政の転換
1. 中国の農業と農政：(『農業と経済』、2007年7月) 2. 中国農業、大転換が必要：(『日本経済新聞』、2002年4月12日) 3. 中国における農業組織化の展開プロセス：(『農林業問題研究』、2005年3月) 4. 中国は三農問題を克服できるか：(『公庫月報』、2006年3月) 5. 中国の農業、農村と農民問題：(『経済セミナー』、2010年8・9月)
- 【6回目】農産物貿易と食糧問題
1. どうなる今後の農産物の対中輸出：(『農業山形』、2007年6月) 2. 日中農産物貿易における戦略的互惠関係の構築を急げ：(『地域農業と農協』、2007年12月) 3. 中国農業の基本問題を考える：(『オルタ』、2009年9・10月) 4. 食料は足りているのか、信頼性を欠く農業統計：(『週刊東洋経済』、2011年10月1日)
- 【7回目】新三農問題のゆくえ
1. 中国の新三農問題とその根源：(『東亜』、2018年4月) 2. 中国の二重社会と農村の凋落：(『東亜』、2018年10月) 3. 中国農業の地殻変動と土地制度改革：(『東亜』、2019年4月)
- 【8回目】少子高齢化のいま
1. 高成長といびつな男女比率、功罪半ばの一人っ子政策：(『週刊東洋経済』、2010年11月27日) 2. 国民皆年金がスタート、少子高齢化で前途多難：(『週刊東洋経済』、2011年3月19日) 3. 急ピッチで進む高齢化、一人っ子政策は限界：(『週刊東洋経済』、2011年6月11日) 4. このままで豊かになる前に老いる「未富先老」：(『週刊エコノミスト』、2011年9月27日)
- 【9回目】農民工問題の諸相
1. 大上海の繁栄と民工：(『上海経済交流』、2005年4月) 2. 農民工の人権改善迫られる：(『日本経済研究センター会報』、2006年3月) 3. 中国の労働力不足、主因は農民差別：(『世界週報』、2006年10月24日) 4. 社会を憎悪する農民工2世、数千万人：(『週刊エコノミスト』、2006年10月9日)
- 【10回目】労働市場の変容
1. 変化する中国産業構造と労働市場：(『労働調査』、2016年5月) 2. 中国労働市場における需給動向と賃金事情：(『日中経協ジャーナル』、2019年8月) 3. 中国の雇用政策と社会保障の動向：(『日中経協ジャーナル』、2020年5月)
- 【11回目】大学教育と機会平等
1. 農村と社会格差で沿海部に集まる大卒者：(『週刊東洋経済』、2010年10月23日) 2. 進学率は向上したが、大都市優遇は変わらず：(『週刊東洋経済』、2011年7月16日) 3. 大学も大衆化時代、経営難で自転車操業も：(『週刊東洋経済』、2012年5月12日)
- 【12回目】体制転換の社会問題
1. 社会を混乱させる食肉の高騰：(『週刊エコノミスト』、2007年10月16日) 2. 不平等な一国に戸籍、二重構造の解消を急げ：(『週刊東洋経済』、2011年1月8日) 3. 空回りする「腐敗防止」、高まる国民の不満：(『週刊東洋経済』、2011年4月30日) 4. 「自由と平等」の隣国、中国はインドに学べ：(『週刊東洋経済』、2011年11月5日)
- 【13回目】政治体制の進化と課題
1. 高成長を実現させた共産党の意外な柔軟性：(『週刊東洋経済』、2012年1月21日) 2. 時期指導部は博士の集団、変わる中国の指導者像：(『週刊東洋経済』、2012年9月1日) 3. 絶対権力持つ共産党は自らを改革できるか：(『週刊東洋経済』、2012年11月3日)
- 【14回目】日中関係の視点
1. 2つの被害者意識のはざま：(『諸君!』、2002年5月) 2. 「立場の交換」で相互理解を深めよ：桃山学院大学2006年6月1日、シンポジウム「日本と中国、『共創』の明日を探る - 人・文化・経済の交点 - 」報告 3. 尖閣国有化は中国人の「感情記憶」を刺激した：(『週刊東洋経済』、2012年10月6日)
- 【15回目】全体のまとめ
以上です。

成績評価の方法 /Assessment Method

①担当部分のPPT作成と発表：40%、学習レポート：40%、定期試験：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】
テキストの担当部分をPPTにまとめ発表する(学習時間：2時間程度)
- 【事後学習】
学習レポートの作成：①当日の授業内容を図解まとめ、②新聞やネットニュースなどを眺め、中国経済に関する項目を列挙、③テキストで取り

中国経済【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

扱う中国経済に関する専門用語調べ（学習時間：2時間程度）

履修上の注意 /Remarks

テキストを全員で分担輪読していきますので、担当部分が自己都合で抜け、他の学習者の学びの妨げにならないように注意して授業に臨みましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修者自身がテキストの担当部分をPPTにまとめ発表し、教員が追加コメントをするという授業スタイルをとっていく予定です。発表者が好奇心を持って、テキストの記述内容を鵜呑みすることなく追加調べを積極的に進めていくことで授業内容に深みが出てきます。授業を受講して興味関心が湧かなかったということは学習者自身が積極的に授業に取り組まなかったという裏返しとなります。受講生の皆さんとディスカッションができることを楽しみにしています。

キーワード /Keywords

中国の経済成長メカニズム、中国の経済格差形成要因、中国の三農問題、中国の食糧問題、中国の人口問題

アメリカ経済 【昼】

担当者名 立石 剛 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN332M	◎		○		○
科目名	アメリカ経済				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義では、アメリカ経済がどのような過程で経済大国になったのか、そしてアメリカ経済は世界各国の模範となる経済モデルなのかという問題意識に基づいて、建国から現在までのアメリカ経済の発展の歴史について講義します。

到達目標については、上記問題意識に加えてアメリカ経済の現状及び今後の動向について、基礎的知識を踏まえ、歴史的観点から俯瞰しながら考察し評価することができる能力の形成を目標とします。具体的には以下の到達目標を設定します。

【知識】アメリカ経済に関する専門的な知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】アメリカ経済について総合的に思考し、専門的見地から自分の考えや判断を明確に表現することができる。

【自立的行動力】アメリカ経済への関心とキャリア意識を持ち続け、自ら学修に取り組む意欲を有している。

そのために本講義では、アメリカ経済の歴史を、第I部1492～1790年の建国期、第II部1790～1865年の南北戦争までのアメリカの統一期、第III部1865～1914年のアメリカの対内発展期、第IV部1914～1939年のアメリカの対外膨張期、第V部では1940～のアメリカの覇権国期、第VI部1990～2008年のグローバル化期、そして第VII部2009年以降の長期停滞期に分けて学修します。

教科書 /Textbooks

特定のテキストは使用しません。講義内容に関連した文献、講義レジュメ、その他を配布して講義を行います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書については、講義時に別途示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|------|-----------------|-----------------------|
| 1回目 | 第I部1492～1790年 | インディアンと植民地の経済 |
| 2回目 | 第I部1492～1790年 | アメリカ革命の経済学 |
| 3回目 | 第II部1790～1865年 | 南部奴隷制の経済学 |
| 4回目 | 第II部1790～1865年 | 西部への入植と交通革命 |
| 5回目 | 第II部1790～1865年 | 南北戦争の政治経済学 |
| 6回目 | 第III部1865～1914年 | 西部農業の発展とポピュリスト運動 |
| 7回目 | 第III部1865～1914年 | 大量生産・新移民・海外市場 |
| 8回目 | 第IV部1914～1939年 | 消費者資本主義の発展 |
| 9回目 | 第IV部1914～1939年 | 大恐慌とニューディール政策 |
| 10回目 | 第IV部1914～1939年 | 大恐慌と国際関係 |
| 11回目 | 第V部1940～1989年 | 第二次世界大戦とブレトンウッズ体制の形成 |
| 12回目 | 第V部1940～1989年 | 冷戦下の高度経済成長と限界 |
| 13回目 | 第VI部1990～2008年 | アメリカ経済の自由化と再編 |
| 14回目 | 第VI部1990～2008年 | グローバル化と金融危機 |
| 15回目 | 第VII部2009～2019年 | 長期停滞・経済格差・バクスマリカーナの後退 |

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は小テスト及び定期試験の合計で成績を評価します。

授業ごとに内容の理解を確認するための小テストを実施します（15回実施、計75％）。

到達目標を確認するために定期試験を実施します（25％）。

アメリカ経済 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：Moodleにアップした講義資料を学修しておくこと。(1.5時間)
事後学修：授業内容を踏まえながら、自主学習資料に基づき事後学修を行うこと。(1.5時間)

履修上の注意 /Remarks

現代史に関する科目、アメリカに関する科目、国際関係に関する科目、基礎的な経済学に関する科目、国際経済に関する科目、そして国際金融に関する科目等を先に履修しておくこと、本講義の理解がより深いものになります。
講義資料はMoodleにアップしておきますので、必ず確認し、必要な学修を行ったうえで、講義を受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

質問は対面授業後、メール、Moodleにて受け付けます。
メール：t-tateishi01@kitakyu-u.ac.jp

キーワード /Keywords

アメリカ経済、経済史、経済発展論、比較制度論、国際関係論

地方財政論 【昼】

担当者名 /Instructor 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN330M	◎		○		○
科目名	地方財政論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義では、国と地方の政府間財政関係を中心に現代の自治体問題を明らかにしていきます。第1に、国家財政の基礎的な仕組みを概説します。第2に、地方自治体の財政の仕組みを租税と補助金の2点から述べた後に、現在話題となっている地方分権や地方行財政改革に視点をおき住民自治の在り方を解説します。近年、行政、住民、企業の新たな関係が見直されているなかで、住民として今何ができるのかについて具体的な事例をあげ一緒に考えていきます。

この講義の到達目標は、自治体における財政の在り方は何かであり、財政の役割について理解することです。さらに、住民として自らが納める税や社会保険料がどの様に使われているのかについて知り、今後起こりうる財政問題を考え、それに対する対応策について考える。本講義は、公務員を志望する学生にとって、公務の意義や役割について理解を深めることができる。

(到達目標)

【知識】地域財政に関する専門的な知識を体系的に身につけている。

【思考・判断・表現力】地方財政について論理的に思考し、専門的見地から自分の考えや判断を明確に表現することができる。

【自立的行動力】地方財政への関心とキャリア意識を持ち続け、自ら学修に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本隆・難波利光・森裕亮編著『ローカルガバナンスと現代行財政』ミネルヴァ書房 2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.財政とはなにか
- 2.住民生活と地方財政
- 3.財政の役割と機能
- 4.公共財の理論
- 5.国と地方の財政関係
- 6.租税原則と地方税
- 7.地方財政計画
- 8.財政調整制度
- 9.中間試験
- 10.自治体財政分析
- 11.財政破綻の教訓
- 12.地方財政と地域経済
- 13.地方財政と福祉政策
- 14.財政の自治を考える
- 15.地方財政のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験40% 期末試験60%
試験は、配付資料、手書きノートの持ち込み可能。

地方財政論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として地方財政に関する時事問題に関心をもち講義の内容と重ね合わせることでできるようにしておく。また、事後学習として参考図書等を参考にしながら関心を持った内容についてより深めて学習する。

履修上の注意 /Remarks

新聞等のメディアを通して財政、行政に関しての現状認識を深めておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営組織論 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS210M	◎	○	○		
科目名	経営組織論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

現代は組織社会と呼ばれます。組織なしで生きていくことができる者は一人もいないと言っていい現代において、組織は社会に対して絶大な影響力をもちながら存在しています。本講義では、組織の根本的な性格について考えながら、そうした組織が現代においてどのように成り立ち運営されているか、またどのように運営されることが求められているかについて考えることを目的とします。

(到達目標)

【知識】経営組織に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】経営組織に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】経営組織について、複眼的・論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

山下剛『マズローと経営学—機能性と人間性の統合を求めて—』文真堂、2019年、3850円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- C.I.バーナード『[新版]経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年(○)
- H.A.サイモン『経営行動』ダイヤモンド社、1989年(○)
- 三戸公『随伴の結果』文真堂、1994年(○)
- 三井泉編『フォレット』文真堂、2013年(○)
- 岸田民樹編『組織論から組織学へ—経営組織論の新展開』文真堂、2009年(○)
- M.P.フォレット『創造的経験』文真堂、2017年(○)
- 中野裕治・貞松茂・勝部伸夫・嵯峨一郎編『はじめて学ぶ経営学』ミネルヴァ書房、2007年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 【経営組織論とは?】【現代社会における組織の重要性】
- 第2回 組織とは何か 【組織の概念】【組織の3要素】
- 第3回 管理とは何か① 【プロセス・スクールの考え方】【意思決定論】
- 第4回 管理とは何か② 【関係性への対応】【存在認識】【イナクトメント】
- 第5回 現代社会における組織の問題 【職業人】【現代における自己実現】【組織人格と個人人格】
- 第6回 現代組織の諸特徴① 【支配の3類型】【官僚制の概念】
- 第7回 現代組織の諸特徴② 【法・規則の機能性】
- 第8回 現代組織の諸特徴③ 【科学的管理】
- 第9回 動機づけ理論① 【人間関係論】
- 第10回 動機づけ理論② 【ERG理論】【X-Y理論】【動機づけ - 衛生理論】
- 第11回 組織構造① 【ライン組織の基本原則】
- 第12回 組織構造② 【コンティンジェンシー理論】【職能部門制組織】【事業部制組織】
- 第13回 現代組織における管理① 【随伴の結果の概念】【コンフリクト】【統合】【責任】
- 第14回 現代組織における管理② 【官僚制によって生成する2種の随伴の結果】【責任の組織化】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...60% 小テスト...40%

なお、小テスト・学期末試験をまったく受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

経営組織論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を熟読しておいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習してください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)
また、適宜、任意のレポート課題の提出を求めます。
該当箇所の参考文献もよく読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

「経営学入門」「経営管理論」の内容を復習しておいてください。
状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、授業中にいろいろと質問します。積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

組織の3要素 官僚制 科学的管理 環境適応 随伴的結果 自由と責任

経営戦略論 【昼】

担当者名 /Instructor 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS211M	◎	○	○		
科目名	経営戦略論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解してもらい、それに基づいて経営戦略策定・実行に関する理論及び分析フレームワークを体系的に示すとともに、事例研究を行います。

本講義の受講をつうじて、さまざまな企業経営や社会に関する諸問題を解決するために必要とされる、経営戦略についての知識を身に付けることをねらいとしています。

(到達目標)

【知識】

経営戦略に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】

経営戦略に関する諸問題を体系的に理解することができる。

【思考・判断・表現力】

経営戦略に関連する諸問題について論理的に思考し、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

講義はレジュメを中心に進めますので、テキストとしての指定ではありませんが、科目の性格上、講義中に事例の検討を多く行います。そのため以下の文献を（必携本）として指定しています。

東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学[第3版]』有斐閣、2019年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石井淳三・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎著『経営戦略論(新版)』有斐閣、1996年。(○)

大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智著『経営戦略(新版) - 論理性・創造性・社会性の追求—』有斐閣、1997年。(○)

浅羽茂・牛島辰男著『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年。(○)

網倉久永・新宅純一郎著『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011年。(○)

嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎編著『1からの戦略論(第2版)』碩学舎、2016年。(○)

他、参考となる文献を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび「経営戦略とは」
- 第2回 議論の歴史1 誕生から1970年代 【成熟化とイノベーション】 【多角化の戦略】
- 第3回 議論の歴史2 1980年代以降 【競争戦略論】 【戦略経営論】 【プロセス戦略論】 【RBV】
- 第4回 成長の戦略1 ドメインの定義 【事業構造の転換】 【ドメインギャップ】
- 第5回 成長の戦略2 事業ポートフォリオの選択 【関連・非関連型】 【シナジー効果】 【コアコンピタンス】
- 第6回 成長の戦略3 新規事業創造の戦略 【社内ベンチャー】 【M&A】 【戦略提携】
- 第7回 成長の戦略4 プロダクトポートフォリオマネジメント 【PLC】 【経験曲線】 【マトリックス】
- 第8回 競争の戦略1 構造分析 【5フォース】 【PEST】 【戦略グループ】 【VRIO】
- 第9回 競争の戦略2 基本戦略—事例研究 【コストリーダーシップ】 【差別化】 【集中化】 【顧客価値】
- 第10回 競争の戦略3 市場地位と戦略 【リーダー】 【チャレンジャー】 【ニッチャー】 【フォロアー】
- 第11回 競争の戦略4 製品ライフサイクルと他企業との協力 【PLC】 【ビジネスモデル】
- 第12回 競争の戦略5 事業システム—事例研究 【顧客価値】 【ビジネスモデル】
- 第13回 戦略と組織1 戦略と組織の適合と創造 【組織構造】 【組織文化】 【組織インフラ】
- 第14回 戦略と組織2 戦略と組織の変革 - 事例研究 【イノベーション】 【組織学習】 【知識創造】
- 第15回 まとめ

経営戦略論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果（80％）と学期中の小レポート等提出物の結果（20％）によります。
なお、学期末試験を未受験の場合、（－）評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに次のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジюмеと参考文献を用いて学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。
また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

履修上の注意 /Remarks

「経営管理論」（2018年度生以上は「マネジメント論基礎」）で受講した内容を復習しておいて下さい。
前期に「経営組織論」を履修しておくこと、より学習効果が上がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習・復習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。
授業開始までに次のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジюмеと参考文献を用いて、学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 成長 競争 イノベーション 組織変革

人的資源管理論【昼】

担当者名 /Instructor 丸子 敬仁 / Takahito Maruko / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS310M	◎	○	○		
科目名	人的資源管理論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

昨今、日本では様々な労働に関する問題がニュースで取り上げられています。労働問題に対する切り口は様々あります。この講義では、その多々ある切り口の一つとして、人的資源管理論という視点を学びます。人的資源管理論は、企業内の人々をいかに生き活きと働けるようにするか、人事制度に着目しながら考える研究分野です。この分野を学ぶことで、企業（経営）側の視点から労働問題について考えることができるようになるでしょう。

この講義を通して、巷にあふれる労働に関する問題について、さらに深く思考する力を育みたいと考えています。

以下、各到達目標について

知識：人的資源管理の理論および実践の理解に必要な専門的知識を身につけている。

技能：人的資源管理の制度を設計し運用することができる。

思考・判断・表現力：人的資源管理に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見しその解決策について表現することができる。

教科書 /Textbooks

配布資料をテキストとします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

平野光俊・江夏幾多郎(2018)『人事管理 - 人と企業、ともに生きるために - 』有斐閣ストウディア○

人的資源管理論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
授業スケジュールの確認，教科書や参考文献の使い方，試験やレポートについての注意事項などをご説明します。
- 第2回 人事制度を学ぶとはどういうことか
経営の中での人事制度の役割について学びます。
- 第3回 雇用管理
日本企業における採用・配置・異動・退職までのマネジメントを学びます。
- 第4回 能力開発
企業内の労働者の能力開発について，昇進昇格構造に着目しながら学びます。
- 第5回 ジョブディスクリプションにまつわる課題
人事等級制度の内部には考課制度と賃金制度，そして昇進昇格構造があります。ここではこれら内部のシステムのうち，考課制度について賃金制度と関連付けながら学びます。
- 第6回 人事等級制度
人事等級制度は人事管理の基本システムです。ここでは日本企業において伝統的な人事等級制度である，職能資格制度について，職務等級制度と比較しながら学びます。
- 第7回 考課制度
企業内の労働者をどう評価するか，人事考課制度に着目しながら学びます。
- 第8回 賃金制度
日本企業における賃金を決定するためのルールについて，歴史的変遷に着目しながら学びます。
- 第9回 ジョブ型・メンバーシップ型の議論
日本の人的資源管理論および人事労務管理論の分野ではこの10年「ジョブ型・メンバーシップ型」の議論が活発になっています。第9回ではこの議論について少し見ていくこととします。
- 第10回 日本の労務管理研究は“働き方”をどのように捉えてきたのか
“働き方”といってもいろいろな捉え方があります。第10回では，学術の現場では“働き方”がどのように捉えられてきたのか，またその捉え方についてのどのような問題があるのかを考えていきます。
- 第11回 多様な働き方① - キャリア論から -
近年ダイバーシティ（多様性）という言葉が世界的にも浸透してきています。働き方についても多様性はもちろんあります。第11回ではキャリア論（場合によっては雇用区分の観点から）の視点から様々な働き方について見ていきます。
- 第12回 多様な働き方② - 女性労働者の議論から -
日本の人事制度は性別役割分業を前提として制度設計がなされているということが多々あります。近年ではこの問題は徐々に解消されてきていますが，問題はまだ残っています。したがって，ジェンダーに対する理解が深まっている昨今ですが，敢えて「女性」という言葉を用いて働き方の議論について見ていきます。
- 第13回 多様な働き方実現に向けての課題 - 人事制度の本質的課題から -
11回・12回では多様な働き方について見ていきました。多様な働き方を実現するには様々な障害があります。実のところ，人事制度もその障害のうちの一つです。人事制度にまつわる障害をどのように克服すべきなのか「人事プラクティス」という概念に着目しながら学びます。
- 第14回 人的資源管理論をより高度に理解する
第14回の内容は少し高度です。人的資源管理論を専門とする研究者が今何を大きな課題として捉えているかを把握します。
- 第15回 まとめ
全体を振り返り，ポイントの整理と今後の展望を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 学期末試験50%，中間レポート50%で評価する。
60点以上の者に単位を与える。
レポートを提出しなかった者，定期試験を受験しなかった者はいずれも評価不能（－）とする。
- ※中間レポートについて，優れた内容，興味深い内容は授業内で紹介する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習（第2回以降）：事前に配布する資料を読んで疑問点等をまとめておくこと。
事後学習：配布した資料を見直して授業のポイントを確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中小企業論 【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる「技能」	次代を切り開く「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を促進する「コミュニケーション力」	社会で生きる「自立的行動力」
BUS313M	◎		○		○
科目名	中小企業論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

わが国において、中小企業は圧倒的な存在であり、社会・経済・生活などのあらゆる分野に影響を及ぼしています。とくに中小企業の経営は、雇用や税金など、わが国経済に直結します。

- ・ 企業数の割合 = 99.7%
- ・ 従業員数の割合 = 68.8%
- ・ 付加価値額の割合 = 52.9% (以上、経済センサス(2016)による、個人事業主を含む)

当該授業では、さまざまな観点から、中小企業の現状を把握し展望について検討します。また中小企業の経営者などによる外部講師による講和を予定しています。

(到達目標)

【知識】

中小企業問題及びその経営の理解に必要な専門的知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】

中小企業経営の課題をみずから発見し、その解決策について表現することができる。

【自立的行動力】

中小企業問題及び経営に関心を持ち続け、その解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜、資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 関智宏編著『よくわかる中小企業』ミネルヴァ書房
 渡辺幸男他『21世紀中小企業論』有斐閣アルマ
 安田武彦他『ライフサイクルから見た中小企業論』同友館
 商工組合中央金庫『中小企業の経済学』千倉書房
 中小企業庁編『中小企業白書』行政出版

中小企業論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 中小企業とは
 - 第3回 製造業①…製造業で働きませんか？
 - 第4回 製造業②…現状と展望
 - 第5回 非製造業(卸売業、小売業など)…現状と展望
 - 第6回 外部講師による講和①
 - 第7回 人材の確保と育成
 - 第8回 新事業展開
 - 第9回 海外展開
 - 第10回 スタートアップ
 - 第11回 ベトナムにおける中小企業支援事例
 - 第12回 外部講師による講和②
 - 第13回 資金調達と金融機関の役割
 - 第14回 国及び地方自治体による中小企業支援政策
 - 第15回 まとめ
- ※授業計画・内容に変更があるときは、事前に連絡します。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則、毎回レポートを課します…60%
(期末テストは行いません)
(レポートの提出回数が、3回以下の場合は、評価不能(-)とします)
日常の授業への取り組みも評価の対象にします…40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業の復習を行って下さい。

履修上の注意 /Remarks

日頃から、中小企業にかかる問題や動向などを、新聞やTVなどをつうじて情報収集するようにして下さい。
例えば、コロナ禍の中、中小企業はどういった状況におかれていますか。政府はどういった対策を講じようとしていますか。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- みなさん方は卒業した後、次のような立場で中小企業に係ることになります。
- ・ 中小企業に就職して、業務を遂行する。
 - ・ 企業などに就職して、中小企業と取引きをする。
 - ・ 自ら起業して経営する。
 - ・ 公的機関に就職して、中小企業の成長を支援する。

キーワード /Keywords

International Trade and Finance 【昼】

担当者名 /Instructor ブルック 前田 / Brooke Maeda / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN201M	◎		○		△
科目名	International Trade and Finance				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

知識：国際貿易とファイナンスに関する基礎的な知識を総合的に身につけている。

思考・判断・表現力：国際貿易の観点からの分析をもとに、自分の意見を明確に発現することができる。

自立的行動力：国際貿易への関心とキャリア意識を持ち続け、実践的な知識を有している。

In this course students will learn about the basic concepts in trade and finance from an international perspective. The benefits of foreign trade and trade restrictions will be discussed, followed by a look at exchange rates and the foreign exchange market. This knowledge will be applied to discussions about the current global situation and analysis of case studies.

教科書 /Textbooks

No set textbook. Materials will be distributed during class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Additional references may be recommended during class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. Basic concepts in economics: The production possibility frontier, comparative advantage
3. The costs and benefits of trade
4. Imports, exports and the balance of trade
5. Restrictions on trade
6. The current global trade situation
7. Group presentations: 1
8. Foreign exchange markets and exchange rates
9. Factors which affect exchange rates 1
10. Factors which affect exchange rates 2
11. Exchange rate risk
12. International investment decisions and foreign operations
13. Case studies, vocabulary test
14. Group presentations: 2
15. Group presentations: 2

(Note: Class schedule could be changed)

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation	20%
Group presentation 1	20%
Group presentation 2 & Group report	40%
Vocabulary test	20%

If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (－). 5回以上欠席した場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read the preparation handout, which includes a vocabulary list, before coming to each class.

International Trade and Finance 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Knowledge of economics and finance is not required, as the material will be taught at a beginners level.

キーワード /Keywords

Economics, Finance, Trade.

現代法曹論 0 【昼】

担当者名 /Instructor 中村 英樹 他

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW101M		○		○	◎
科目名	現代法曹論 0			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

(到達目標)

- 【知識】法学部卒業生としての強みを活かしたキャリア形成に必要な情報を収集・分析することができる
- 【コミュニケーション力】他者と協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
- 【自立的行動力】法的問題への関心とキャリア意識を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている

本講義は、法学部の学生に卒業後の進路を意識しながら法律学を学習するきっかけを与えるとともに、法学部卒業生としての強みを活かしてどのような道を進むことができるのか、さまざまなモデルを提供しようとするものである。
 具体的には、国の行政機関・司法機関、地方公共団体の現場、法科大学院教員・実務法曹等の方々、学外講師として各1回の講義を担当し、それぞれの職務内容を紹介しながら、職務経験を通して見えてくる「法を学ぶことの意義」「法を学ぶ者の役割」などについて講義を行う。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業科目です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴することが求められます。
 原則として、Moodleから資料等をダウンロードして、授業動画をオンデマンドで視聴してください。
 毎回、Formsを利用して出席（動画視聴）の確認を行います。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。
 Moodleでレジュメその他の資料を配布して講義を進める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、必要と思われる資料を紹介する。
 『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法（2022年・令和4年版）が手もとにあるとよい（種類・出版社を問わない。）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 憲法を学ぶ社会的意義【法科大学院教員】
- 3回 労働法を学ぶ社会的意義【法科大学院教員】
- 4回 法律関連資格とそのキャリアパス【特定行政書士】
- 5回 税理士の仕事【税理士】
- 6回 公務員の職種と業務・国家資格の取得
- 7回 国家公務員の仕事～税務と法律～【税務署】
- 8回 警察官の仕事【警察官】
- 9回 矯正施設の仕事【刑務官等】
- 10回 実務法曹と法律隣接職、そのキャリアパス【弁護士】
- 11回 裁判官の仕事【裁判官】
- 12回 裁判所の仕事【裁判所職員】
- 13回 地方公務員の仕事と法律（県）【県庁】
- 14回 地方公務員の仕事と法律（市）【市役所】
- 15回 まとめとレポート課題

※講師の都合等で内容や順番が変更となることがあります。

現代法曹論Ⅰ 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート(100%)で評価する。
ただし、5回以上欠席した者にはレポートの提出資格を認めない。

5回以上欠席の場合、または期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【予習】 指定された範囲の資料等に目を通して講義に臨むこと。
- 【復習】 講義終了後は、講義内容をノートに要約するなどして復習すること。

履修上の注意 /Remarks

この科目を履修後に「現代法曹論Ⅰ」や「現代法曹論Ⅱ」、「法律実務論Ⅰ」や「法律実務論Ⅱ」を履修することで、講義内容をさらに発展させることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義は、法科大学院をはじめ、政府諸機関や地方公共団体と連携して開講する講座です。現場の第一線で働く実務家を招聘して現実社会と法学とを結びつけることで、受講者のキャリア形成を促進するものとなることを期待しています。

キーワード /Keywords

法学 法学入門 法律関連職 法律関連資格 国家公務員 地方公務員 特別職公務員 キャリア・デザイン

この授業は、SDGsの16「平和と公平をすべての人に」という目標に関連しています。

政策科学入門Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC100M			○	△	◎
科目名	政策科学入門Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、政策科学科の新入生がこれから政策を考察・研究するうえで必要となる基礎的な知識・視点・方法論を提供することにあります。その際、現代における政治・経済・社会的な変容の具体例を取り上げて、それらの変容が引き起こす社会問題はどのように捉えられて、それらの問題に対処する政策案はどのように研究されているかに焦点を当てます。「政策科学」という響きは極めて難解なものに聞こえるかもしれませんが、政策について考察・研究することはとても重要で面白い活動です。そこでは、いろいろな視点や方法が求められ、知的刺激が満載です。本講義を通じて、政策を考察・研究することのイメージを掴み、その面白さを感じ取ってください。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】政策科学について学際的に思考して解決策を探索し、自分の考えや意見を論理的に表現できる。

【コミュニケーション力】様々なアクターと積極的に議論をしながら、協働して政策課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】公共の問題への関心とキャリア意識を持ち続け、問題解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

今のところ指定するテキストはありません。詳細は第1回目の講義で説明いたします。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクション-政策科学とは？
- 2回～6回 事例から政策を考えてみよう
 - ① 中心市街地の空洞化・衰退-アメリカの都市
 - ② 日本の地方都市における中心市街地の空洞化
 - ③ 中心市街地の活性化の成功例-丸亀町商店街等
 - ④ コンパクト・シティを考える
 - ⑤ 再開発とまちづくり-コムシティ
- 7回 人口減少問題と地方自治体
- 8回 データから政策を考えてみよう
 - 地方自治体の政策の比較, 少子化問題等-
- 9回～11回 国際政治・国際比較から政策を考えよう
 - ① 国際比較による実証政策分析のススメ
 - ② 国際化に伴う政策分析の事例I: 移民政策・社会統合
 - ③ 国際化に伴う政策分析の事例II: 通商政策・自由貿易
- 12回～14回 現代の社会問題を政策的に考えてみよう
 - ① 一億総中流から格差社会へ-日本における貧困を考えてみよう
 - ② 格差社会のなかの日本-日本のセーフティネットを考えてみよう
 - ③ 政策過程と政策研究
- 15回 総括

政策科学入門I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50%；授業貢献度 ...50%。 詳細は第1回目の講義で説明いたします。

期末レポートを提出しなかった場合には「評価不能(－)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ◆予習用の読物として論文や記事等を指定いたしますので、授業前に目を通してきてください。
- ◆授業で配布された資料等を、授業後あらためてじっくり読み込んでください。また、授業内容を十分に復習して次の授業に臨んでください。
- * 資料等は、Moodleに掲載する可能性もありますので、教員の説明をよく聞くようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

◆授業で取り上げる順番を入れ替えることがあります。また、学生の理解度等によって、内容を若干変更することがありますが、全体として内容に大きな変更はありませんのでご了承下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「住み続けられるまちづくりを」「平和と公正をすべての人に」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

政策科学入門Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科, 吉田 舞 / Mai Yoshida / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC101M			○	△	◎
科目名	政策科学入門Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この授業では、社会で起きている様々な現象や問題を分析するための技術の習得を目的とします。人間同士のコミュニケーションが多種多様であるように、現代社会とのコミュニケーション、すなわち社会的な問題や人間がつくった組織や制度、政策、法律といったものへの「近付き方」も様々です。この社会への「近付き方」を知り、変化する「人間がつくったもの」への改善策や解決策を提示するための基礎を構築する、具体的には社会科学的分析手法を体系的に学ぶ授業となります。分析手法を大きく質的な方法と量的な方法に分けて検討していきますが、ひとつの「近付き方」が唯一無二の方法ではないこと、また分析したい対象をいかに明確にするのか、どれだけ客観的に考察するのか、さらに出てきた結果をどう読み解くのか、といったことをそれぞれダイナミックに扱っていきます。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】

社会の諸問題について、複眼的・論理的に思考して解決策を探索し、自分の考えを適切に表現することができる。

【コミュニケーション力】

多様なアクターと協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】

社会の諸問題への関心とキャリア意識を持ち続け、政策分析に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要に応じ、レジュメや資料をMoodleに掲載します。
(SDGs[特に7・12・15など]の観点から、紙媒体でのレジュメ・資料等の配布はいたしません。)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 伊藤公一朗(2017)『データ分析の力：因果関係に迫る思考法』光文社新書
- 伊藤修一郎(2022)『政策リサーチ入門増補版：仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会
- 久米郁男(2013)『原因を推論する：政治分析方法論のすゝめ』有斐閣
- 小池和男(2000)『聞きとりの作法』東洋経済新報社
- 近藤克則(2018)『研究の育て方：ゴールとプロセスの「見える化」』医学書院
- 佐藤郁哉(2008)『質的データ分析法：原理・方法・実践』新曜社
- 名古屋大学教育学部附属中学校・戸田山和久(2014)『はじめよう、ロジカル・ライティング』ひつじ書房
- ヘンリー・ブレイディーほか[泉川泰弘ほか訳](2014)『社会科学の方法論争：多様な分析道具と共通の基準[原著第2版]』勁草書房
- 増山幹高・山田真裕(2004)『計量政治分析入門』東京大学出版会
- 松田憲忠・竹田憲史(2012)『社会科学のための計量分析入門：データから政策を考える』ミネルヴァ書房

その他、適宜指示します。

政策科学入門II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【演繹と帰納】【理論と実証】
- 2回 分析方法を知る前に【リサーチ・クエスチョン】【仮説】【推論】【変数】
- 3回 質的な分析(1) フィールドワークにでかけよう
- 4回 質的な分析(2) 観察結果の比較【参与観察】
- 5回 質的な分析(3) 聞きとりの技法【半構造化インタビュー】
- 6回 質的な分析(4) 分厚い記述・薄い記述
- 7回 質的研究と量的研究の「交差点」
- 8回 量的な分析(1) 数値データの利用と構築I【データの種類】【概念】【尺度水準】
- 9回 量的な分析(2) 数値データの利用と構築II【社会調査】【ワーディング】【選択回答法】
- 10回 量的な分析(3) 計量的なデータ分析I【視覚化】【度数分布】【記述統計量】
- 11回 量的な分析(4) 計量的なデータ分析II【相関関係】【因果関係】
- 12回 「政策を知る」ために(1) 政策と法
- 13回 「政策を知る」ために(2) 条文を理解する
- 14回 分析方法の選択
- 15回 小テスト・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み40%、課題(レポート・小テスト等計3つ)60%
※遅刻厳禁、度重なる場合には減点対象、3つの課題全てが未提出の場合は一評価(評価不能)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習はこのシラバスをよく読むこと、事後学習は(3つの課題[授業時間中の小テストを含む]を出す予定でもありますので)適宜レジュメ・資料・授業のノートを見直すといった復習や、次の授業とのつながりはどこかといった「振り返りの作業」をすることです。

履修上の注意 /Remarks

「政策科学入門I」で学んだことをふまえつつ、本授業では色々な分析方法を扱っていきます(「政策科学入門I」を履修済みであることが受講条件ということではありません)。
現状を把握したいとき、課題を解決するための方策を探りたいとき、その関心や方向性がひとによって多様であるように、分析方法もまた様々です。2013年度以降、1年次の必修となったこの科目は、毎回の出席が大前提の講義となります。2年次の2学期から始まるゼミでの活動の土台をこの授業で作っていきましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習 【昼】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM110M			△	○	◎
科目名	政策入門演習		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この授業では、大学レベルでの学習と研究に必要な「読むこと、書くこと、話すこと、発表すること」に関するスキルの基礎を身に付けることを目指します。実際に討論や発表を準備し、授業中に行い、互いに評価しあうことで、着実にスキルを向上させていきます。加えて、授業レポートを書く際に必要な知識やスキルも学びます。なお、授業の内容は、履修者の要望やスキル習得の状況に合わせて変更することがあります。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】社会の諸問題について、学際的に思考し、自分の考えや意見を論理的に表現できる。

【コミュニケーション力】意見の異なる者と積極的に議論し、協働して結論を導き出す能力を身につけている。

【自立的行動力】公共の問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントなどを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』、松本茂・河野哲也 著、玉川大学出版部、2007年。

『アカデミック・スキルズ-大学生のための知的技法入門 (第2版)』、佐藤望他 著、慶應義塾大学出版会、2012年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 大学で学ぶこと・研究すること
- 第2回 自分に必要なスキルはなにかを考える
- 第3回 討論はなぜ必要か・討論のテーマを考える
- 第4回 討論のスキル
- 第5回 討論の実践I
- 第6回 討論の実践II
- 第7回 レポートとは何かを考える
- 第8回 レポートを書く上で必要な知識
- 第9回 書くために読むI
- 第10回 書くために読むII
- 第11回 レポートの書き方と学術倫理
- 第12回 レポートを相互評価する
- 第13回 発表の基礎
- 第14回 発表の実践
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み、討論・発表などの課題...100%
(出席が一切ない場合には、「評価不能(-)」となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に討論・レポート・発表など課題の準備を行うこと。授業後には各回のテーマについて復習すること。
授業では積極的に疑問・要望を知らせてください。

政策入門演習 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学の学習では、ただ一方的に知識を教えられるだけではなく、自ら問いを発し、それを人々と協力しながら追究していくことが重要です。この入門演習では、スキルはもちろんのこと、大学での学びの姿勢はどうあるべきかを皆で考えていきたいと思ひます。

キーワード /Keywords

政策入門演習 【昼】

担当者名 /Instructor 上條 諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM110M			△	○	◎
科目名	政策入門演習		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習は「なぜ？」という問いに答えるための方法（社会科学方法論）の基礎を皆さんに身に付けてもらうことをその目的とします。高校までのいわゆる「社会科」の学習においては、起こった（とされている）歴史的事実や、現代政治の仕組みに関する知識を学ぶことに重きが置かれていたことと思います。しかし皆さんが大学で学ぶ政治学をはじめとした社会科学においては、「なぜ特定の事象が起こったのか」、「なぜそのような仕組みができているのか」といった“因果（原因と結果）”に関する問いに取り組むことが重要な目的の一つとされています。そのため、入学後の早い段階で基礎的な社会科学の方法について学ぶことは、必ずやその後の大学における学習を豊かにしてくれることでしょう。

より具体的には、まず社会科学方法論についての著作（後掲の久米（2013））を輪読し、担当者を決めてその内容を報告してもらったうえで全員で議論をしていきます。このようにして大学における議論の在り方に慣れた後、皆さんの興味関心に沿った文献をさらに選び、同様に議論をしていきましょう。

併せて、演習全体を通じて、報告の仕方やレジュメの切り方、レポートの書き方など、大学での知的生活における基本的なスキルも身に付けていただきたいと思います。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】社会の諸問題について、学際的に思考し、自分の考えや意見を論理的に表現できる。

【コミュニケーション力】意見の異なる者と積極的に議論し、協働して結論を導き出す能力を身につけている。

【自立的行動力】公共の問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

久米郁男 2013. 『原因を推論する - 政治分析方法論のすゝめ』 有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各回で適宜指示します。

政策入門演習 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(参加人数によって変更する場合があります)

- 第1回 オリエンテーション・自己紹介
- 第2回 文献講読① 久米(2013) 第1章、レジユメの切り方、報告の仕方(見本)
- 第3回 文献講読① 久米(2013) 第2章 レジユメの切り方 練習①
- 第4回 文献講読① 久米(2013) 第3章 レジユメの切り方 練習②
- 第5回 文献講読① 久米(2013) 第4章
- 第6回 文献講読① 久米(2013) 第5章
- 第7回 文献講読① 久米(2013) 第6章
- 第8回 文献講読① 久米(2013) 第7章
- 第9回 文献講読① 久米(2013) 第8章
- 第10回 文献講読① 久米(2013) 第9章
- 第11回 文献講読① 久米(2013) 第10章
- 第12回 レジユメの切り方復習/文献引用とレポートの書き方
- 第13回 文献講読②
- 第14回 文献講読②
- 第15回 文献講読②

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への貢献 50%、担当回における報告・資料の質 50%

*正当な理由なく3回以上欠席した場合は「評価不能(一)」とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告者以外の方も、議論に貢献すべく文献の各回該当部を精読してくることが当然の前提とされます。成績評価の欄の記述に明らかなように、ただ出席してその場にいるというだけでは評価の対象にはなりません。

履修上の注意 /Remarks

無断欠席・遅刻は厳禁です。必ず事前に連絡をしてください。特に、報告担当回に無断欠席した場合、即時落第とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「なあんだ、なんか読んでみんなでお話しするだけかあ」とあなどるなかれ、先人の築いた学識を正しく吸収し、それについて議論をする力は、学問をする上での最重要な基礎体力といえます。報告者は、文中で引かれた関連する文献にも目を通し、同僚たちの疑問に自分が全て答えてやるというくらいの、報告者以外も、わからなかった点はあらかじめ自分で他の文献で調べてやるくらいの心持ちで臨んでみてください。

キーワード /Keywords

政策入門演習 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM110M			△	○	◎
科目名	政策入門演習		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

事実・社会的事実の違い、価値と事実、主観性・客観性など、社会科学の概念、社会科学の方法論と調査方法論、研究対象の捉え方について検討する。また、論理的考え方の向上が狙いである。

演習Iのキーワード：社会科学の概念、社会科学の方法論と調査方法論、研究対象の捉え方。

演習Iの目標：①社会現象や問題を発見し、資料を調べ、レポートを書く。

②人間と社会の関係、政治、政策、経済現象について調べ、プレゼンテーションし、議論する。

③新聞記事を読んできて、それについて話してみる（毎週、約3-4分程度で）。

演習Iの具体的内容：

- ①自我と他人間の関係・自我と社会との関係・事実とデータの関係、そして科学と考えることの意味について知ってもらう
- ②仮説・因果関係・論証の進め方、見方について知ってもらう。
- ③調査方法について勉強し、研究テーマに関するリサーチ・デザインを行う。
- ④新聞記事を読んできて、それについて話してみる（毎週、約3-4分程度で）。
- ⑤以上のことを踏まえ、各自、毎週、1500字位のレポートを書き、それを基に発表する。
発表後、互いにチェックして、返す（考える能力・書く能力・話す能力を高め、また、相手の書いたものをチェックすることで、自分の書き方などの問題点を改善していく。）

演習Iの活動：学生自らの活動が多い（コンパ、よそのまちの探検、学生自らの議論、他大学ゼミとの交流など）

教科書 /Textbooks

『99・9%は仮説-思いこみで判断しないための考え方-』（竹内薫著 光文社新書 2013年 ¥756）

『統計数学を疑う』（門倉貴史著 光文社新書 2006年 ¥777）

その他は、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『自分で調べる技術-市民のための調査入門』（宮内泰介著 岩波書店 2004年 ¥777）

『フィールドワークの技法-問いを育てる、仮説をきたえる』（佐藤郁哉著 新曜社 2002年 ¥3,045）

『参加型ワークショップ入門』（野田直人著 明石書店 2004年 ¥2,940）

『社会学研究法リアリティの捉え方』（今田高俊編 有斐閣アルマ 2000年 ¥2,415）

政策入門演習【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 資料の探し方や読み方
- 3回 社会科学方法と調査方法論I
- 4回 論文の書き方とディベートのやり方
- 5回 ディベートのやり方(司会・ワークショップの進行)
- 6回 新聞記事の3-4分プレゼンテーションとディベートI
- 7回 新聞記事の3-4分プレゼンテーションとディベートII
- 8回 新聞記事の3-4分プレゼンテーションとディベートIII
- 9回 新聞記事の3-4分プレゼンテーションとディベートIV
- 10回 社会問題について各自、司会、コメンテーター、ディベーターとして議論を進めていく
- 11回 社会問題について各自、司会、コメンテーター、ディベーターとして議論を進めていく
- 12回 社会問題について各自、司会、コメンテーター、ディベーターとして議論を進めていく
- 13回 仮説・統計学の問題などの本について議論
- 14回 仮説・統計学の問題などの本について議論
- 15回 まとめと夏休みのレポート作成について

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートと発表(80%)、授業への貢献(20%)
レポート未提出の場合に「評価不能(-)」となります。

レポートの書き方の例

私は「夫婦別姓は正しくない」と思う。なぜならば夫婦別姓は家族間の一体感を低下させる恐れがあると考えられるからである。船橋洋一(朝日新聞コラムニスト)は、夫婦別姓が未婚女性の結婚率を高める方法であると論じている。船橋洋一はここ数年の20-30代女性の結婚忌避現象に関して、結婚による改姓をその主要因としている。具体的には、、、これに対して私は反対する。夫婦別姓は、社会的な安定感を崩壊させるとともに、家族間の同一感を低下させる。これは、、、、、、、、からである。また、夫婦とは、、、家族とは、、社会の中で一番重要な単位であり、基礎でもある。これに関して、、、、福岡太郎は、、、、と論じている。太郎の指摘のとおり、家族の、、社会的、文化的な機能や意味から、私は、、に同感する。反面、船橋洋一は、、面を軽視していると考えられる。従って、私は「夫婦別姓が正しくない」、と思う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

ゼミ生の活動・授業内容・事前課題・事後学習内容については、学習支援フォルダに挙げるので、参照し、準備すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「本を読み、人に会え、旅をしろ」という言葉があります。大学時代はまさにこれでした。数え切れないほどの試行錯誤がありました。いま振り返れば、一番の黄金時代でした。

「大学」という「時」を過ごしている君達に言えることは、まさに、これ、「チャレンジ」です。

キーワード /Keywords

- ・ 考える力 ・ 論理力
- ・ 調査 ・ 仮説 ・ 情報社会とデータ ・ 事実と真実

政策入門演習 【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM110M			△	○	◎
科目名	政策入門演習		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、これから政策科学を研究する学生が1年生の時に学習しておくべき基礎的事項を身につけてもらうことにあります。大学で研究することは高度な内容も当然含んでいますが、基本的には「読み、書き、話す」といったことの延長線上にあります。したがって、本講義では、大学で「読み、書き、話す」にはどうすればよいかということについて、本演習担当者の経験をまじえて演習で学んでいただきます。

また、これをふまえて①社会科学における「仮説」型思考の重要性、②（結果の暗記ではなく）創造するプロセスの重要性、物事を多角的にみることの重要性、などについても基礎的な作業をしたいと考えています。

また、「パブリック・マインド」を涵養することの重要性についても学んでいきたいと考えています。

(到達目標)

- 【思考・判断力・表現力】社会の諸問題について、学際的に思考し、自分の考えや意見を論理的に表現できる。
- 【コミュニケーション力】意見の異なる者と積極的に議論し、協働して結論を導き出す能力を身につけている。
- 【自立的行動力】公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身につけている。

教科書 /Textbooks

刈谷剛彦 (2002) 『複眼的思考法—誰でも持っている創造力のスイッチー』講談社
小笠原喜康 (2018) 『最新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊藤修一郎 (2022) 『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法 (増補版)』東京大学出版会
高根正昭 (1979) 『創造の方法学』講談社
川喜田二郎 (1967) 『発想法—創造性開発のために』中央公論新社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入 - 他者紹介および発声練習?
- 2回 I have a dream ! 大学に来た目的 (キャリア・デザイン) についての討論
- 3回 図書館ツアー及び図書館の使い方 (指示に従って図書館の利用法を学びます)
- 4回 大学で研究するとは? 大学で「読み、書き、話す」
- 5回 プレゼンテーション (1) - 自分の身近なことを時間内に発表する
- 6回 プレゼンテーション (2) - 新聞記事等の話題をまとめて発表する
- 7回 プレゼンテーション (3) - 同上
- 8回 「読んで」「発表する」(1) - 社会科学 (政策科学) の文献の輪読をかねて
- 9回 「読んで」「発表する」(2) - 社会科学 (政策科学) の文献を輪読をかねて
- 10回 「読んで」「発表する」(3) - 社会科学 (政策科学) の文献を輪読をかねて
- 11回 「読んで」「発表する」(4) - 社会科学 (政策科学) の文献を輪読をかねて
- 12回 「読んで」「発表する」(5) - 社会科学 (政策科学) の文献を輪読をかねて
- 13回 レポートを書く (1) - 引用注の付け方等レポートについて
- 14回 レポートを書く (2) - 実際に書いてみる
- 15回 まとめ

* 上記のスケジュールは、受講生の理解度等によって変更することもあります。あくまで予定として考えてください。

政策入門演習 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・授業貢献度... 80 % レポート等 ... 20 %

演習に全く出席しなかった場合には「評価不能(一)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に際しては、割り当てられたところを必ず準備して参加するようにしてください。特に、輪読等の場合は、報告者でなくても必ず全員読んで(事前に準備して)くるようにしてください。また、授業で学んだことは必ずレジユメ等で復習しておくようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習 【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM110M			△	○	◎
科目名	政策入門演習		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この演習では、政治や行政をめぐる様々な問題を対象として、情報収集・整理、分析、プレゼンテーション、討論など、社会科学の分野のみならず実社会でも求められる基本能力のトレーニングを一緒に進めていきます。受講生の関心に合わせて題材はできるだけ広く設定したいと思います。

①「公立図書館と指定管理者制度」、②「学校選択制」、③「首相公選制」などについて報告と議論を行う予定です。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】社会の諸問題について、学際的に思考し、自分の考えや意見を論理的に表現できる。

【コミュニケーション能力】意見の異なる者と積極的に議論し、協働して結論を導き出す能力を身につけている。

【自立的行動力】公共の問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しません。図書・雑誌論文・新聞などを組み合わせて用いたいと思っています。必要部分を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方、成績評価について
- 第2回 資料収集方法(図書館等の利用案内含む)、レジュメの作り方、報告の仕方
- 第3回 報告と議論① 公立図書館と指定管理者制度
- 第4回 報告と議論① 学校選択制
- 第5回 報告と議論① 首相公選制
- 第6回 報告と議論② 公立図書館と指定管理者制度
- 第7回 報告と議論② 学校選択制
- 第8回 報告と議論② 首相公選制
- 第9回 中間まとめ
- 第10回 討論の準備
- 第11回 討論 公立図書館と指定管理者制度
- 第12回 討論 学校選択制
- 第13回 討論 首相公選制
- 第14回 最終報告
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容・討論内容...100% 欠席・遅刻1回につき、最大10点程度減点

* 受講態度が極めて悪い場合、出席を認めない場合があります。また報告内容が一定の水準に達しない場合、再報告や追加課題を求める場合があります。

一度も出席しなかった場合は、評価不能(-)とします。

政策入門演習 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告を担当しない人も、授業前に配付資料をしっかりと読んでください。また、授業終了後に、報告や討論の内容を再検討し、自分の考えを整理してみてください。

履修上の注意 /Remarks

授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。
資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

特になし。

政策入門演習 【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM110M			△	○	◎
科目名	政策入門演習		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

政策・政治分析に必要な、社会科学の方法論的な素養を身に着けるとともに、大学において主体的な学習を行うための作法・技術・ノウハウを指導します。学問の扉を開くにあたっての基礎的な技術や理解の習得と、社会科学の方法論に関する文献の講読を行います。「社会の諸問題について、学際的に思考し、自分の考えや意見を論理的に表現できる。」「意見の異なる者と積極的に議論し、協働して結論を導き出す能力を身につけている」「公共の問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身につけている」ことが単位授与上の公式到達目標（ディプロマポリシー）となります。

教科書 /Textbooks

- ・ 秋吉機雄（2017）『入門 公共政策学』中公新書 ← 購入必須
- ・ 久米郁夫（2013）『原因を推論する』有斐閣 ← 利用箇所コピー配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 中室牧子・津川友介（2017）『「原因と結果の」経済学—データから真実を見抜く思考法』（利用箇所コピー配布します）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 初回イントロダクション・自己紹介・アイスブレイクなど
2. 公共財供給ゲームと議論を通じて政治 / 政策という学問の位相を考える
3. 本学情報検索研修（状況に応じて図書館・研究室・資料室などの学内ツアーもおこないます）
4. 政策過程の基礎知識①：レジュメ作成/書誌の講義と中井による秋吉（2017）1・2章報告と議論
5. 政策過程の基礎知識①：秋吉（2017）3章の学生による報告と議論
6. 政策過程の基礎知識②：秋吉（2017）4章の学生による報告と議論
7. 政策過程の基礎知識③：秋吉（2017）5章の学生による報告と議論
8. 政策過程の基礎知識④：秋吉（2017）6章の学生による報告と議論
9. アカデミックライティングや引用参照の講義・実習 [この回にライティング課題を出します]
10. 政策分析因果推論①：久米（2013）・中室津川（2017）輪読と実習
11. 政策分析因果推論②：久米（2013）・中室津川（2017）輪読と実習
12. 政策分析因果推論③：久米（2013）・中室津川（2017）輪読と実習
13. ライティング指導①：ライティング課題草稿の回覧と修正
14. ライティング指導②：ライティング課題草稿の回覧と修正
15. 予備日：全体進捗遅延時に充。スケジュール通りに進んだ場合はライティング指導。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言・議論・参加：40%，報告担当のパフォーマンス：30%，最終レポートのクオリティ：30%

ディプロマポリシーで重要視されていることは、意見を表明すること、協働・議論すること、主体的に考えること、です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

文献講読の際には、当該箇所を全員事前に読んできている前提で授業を進めます（事前のコメント提出を推奨します）。各回の授業後には、その日に学んだことを復習することで、理解の定着につとめましょう。

履修上の注意 /Remarks

演習科目は参加し、相互に意見を交わしあう事が授業の本旨です。そのため、出席回数が足りない場合には単位を出すことができません（正当な理由がある場合は除く）。遅刻・欠席の場合の連絡は必ず行うようにしましょう。無断欠席が3回以上の場合には評価不能（－）となります。

政策入門演習 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDG4, SDG17

政策入門演習 【昼】

担当者名 吉田 舞 / Mai Yoshida / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM110M			△	○	◎
科目名	政策入門演習		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この授業では、「大学で学ぶ」をテーマに、受講生の皆さんに自分が大学で学んでみたい「自主企画ゼミナール」の企画書を作成し、報告してもらいます。企画書の作成を通じて、今後の大学生活のなかで研究に必要となる「読む、調べる、書く、報告する、議論する」ための技術を習得してもらいます。また、これらの大学での学びの基礎となる技術、手順について、少人数で展開していきたいと思っております。

- { 思考・判断・表現力} 社会の諸問題について、学際的に思考し、自分の考えや意見を論理的に表現できる。
- { コミュニケーション力} 意見の異なる者と積極的に議論し、協働して結論を導き出す能力を身につけている。
- { 自立的行動力} 公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身につけている。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中道寿一編著『政策研究—学びのガイダンス』2011, 福村出版。
- 本多勝一『<新版>日本語の作文技術』2015, 朝日新聞出版。
- 上野千鶴子『情報生産者になる』2018, 筑摩書房。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス：講義紹介&自己紹介
- 第2回学内散策・図書館ツアー
- 第3回オンラインツールの使い方【メール、Zoom等】
- 第4回これが伝えたい！を見つける【テーマ・対象の探し方】
- 第5回図書・論文・新聞記事などの文献検索
- 第6回文献を読む：読書・情報収集の技術
- 第7回統計の“ウラ”を読む
- 第8回企画書作成①【講義名の検討】
- 第9回企画書作成②【講義概要の検討】
- 第10回企画書作成③【講義計画、関連文献の選定】
- 第11回人に伝える①【レジュメの作り方】
- 第12回人に伝える②【プレゼンテーション入門】
- 第13回人に伝える③【企画書の発表と議論】
- 第14回人に伝える④【企画した授業の実施】
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 講義中の質問や討議における積極性・授業への姿勢 (60%)
- (2) レジュメ・プレゼン内容 (40%)

※ 授業を5回以上欠席した場合、期末レポート未提出の場合は「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時間外で、企画書の構想やプレゼンテーションの準備にかかわる文献購読や執筆などが必要となります。

政策入門演習【昼】

履修上の注意 /Remarks

履修者の人数及び関心をふまえ、シラバスの進行を変更して行う場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な授業への参加を期待します！

キーワード /Keywords

主体性、伝える力、ディスカッション

政策入門演習 【昼】

担当者名 黒石 啓太 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM110M			△	○	◎
科目名	政策入門演習		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この演習では、大学での学びに必要な基礎的なスキルや能力の習得をめざします。細かな方法論などは学問分野や科目によって違いがある一方、自ら考え、調べ、議論し、報告することに関する基本的な姿勢は概ね共通するものです。そこで本演習では、履修者が、今後の大学生活において使うことになるツールの活用方法、レジユメの作成方法、プレゼンテーションの基礎作法などを実践しながら習得することをめざします。

(到達目標)

DP5 自立的行動力：公共の問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

DP4 コミュニケーション力：意見の異なる者と積極的に議論し、協働して結論を導き出す能力を身につけている。

DP3 思考・判断・表現力：社会の諸問題について、学際的に思考し、自分の考えや意見を論理的に表現できる。

教科書 /Textbooks

必要に応じて適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【担当教員やメンバーの個性や特徴を知る】
- 2回 キャンパス内探索【大学の施設や設備を知る】
- 3回 図書館を活用した情報収集【本や論文の探し方を知る】
- 4回 インターネットによる情報収集【可能性と留意点を確認する】
- 5回 学術書や学術論文に触れる【基本的な構成と読み方】
- 6回 レジユメ作成のポイント【考え、調べたものを整理する】
- 7回 レジユメ作成練習【実際にレジユメを作成する】
- 8回 レジユメに基づく報告練習【他者のレジユメ・報告と比較する】
- 9回 ニュースにみる地域と社会【社会の動きや課題と自分の関係性を考える】
- 10回 地域・社会と学問【社会の課題にどのような学問的論点があるかを考える】
- 11回 プレゼンテーションチームの編成【複数のチームに分かれ、報告テーマを検討する】
- 12回 報告内容の検討と準備①【報告テーマの決定】
- 13回 報告内容の検討と準備②【報告の方向性を決め、論点を深める】
- 14回 報告内容の検討と準備③【報告会に向けて準備する】
- 15回 報告会【これまでの議論の成果を報告する】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業に臨む姿勢(積極的な発言など) ...50%
 - ・ レジユメ作成練習、プレゼンテーション報告等への取組み...50%
- ※正当と認められる理由なくプレゼンテーションを行わなかった場合には、「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

レジユメ作成練習、プレゼンテーション報告等では、授業時間以外にも、準備やメンバーでの議論をすることが必要となります。

政策入門演習 【昼】

履修上の注意 /Remarks

各回の内容は、いずれも大学生活において欠かすことのできない基礎的な事項の習得をめざすものです。そのため、できるだけ遅刻や欠席はせず、十分な準備をして臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学生活では、皆さんの「主体性」が重要になります。どのように取り組むか次第で、得られるものが大きく変わってきます。せつかくの時間ですから、有意義に使ってみましょう。

また、新しい環境で不安もあるかと思います。楽しみながら、一つ一つの課題に挑戦していきましょう！
この授業はSDGsの「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

政策入門演習 【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM110M			△	○	◎
科目名	政策入門演習		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、大学における講義・演習・実習において必要な技法を習得することです。具体的には、日常生活や社会現象のなかにある問題の発見、情報・資料・データ等の収集・整理、レジユメの作成、プレゼンテーション、議論を受講生が実際に行うことで、これらの技術を身に付けることを目指します。

実際の演習では、情報収集の仕方（図書館の使い方等を含む）と合わせてレポート・論文の書き方を学び、その後、受講生のみなさん自身の興味関心に基づいて政策や制度、地方自治に関する文献を選んでもらい、レジユメを作成し、報告をする、といったことを行う予定です。報告担当以外の受講生も、事前に論文を読み込み、演習に臨むことが前提となります。また、受講生が作成したレジユメや報告の仕方、議論への貢献について等を互いに講評することで、客観的な評価・考察・批評といったスキルのアップもはかりたいと考えています。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】

社会の諸問題について、学際的に思考し、自分の考えや意見を論理的に表現できる。

【コミュニケーション力】

意見の異なる者と積極的に議論し、協働して結論を導き出す能力を身につけている。

【自立的行動力】

公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身につけている。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。

必要に応じて適宜レジユメ・資料をMoodle and/or Teamsに掲載します。

（SDGs[特に7・12・15など]の観点から、紙媒体でのレジユメ・資料等の配布はいたしません。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 石黒圭 (2012) 『論文・レポートの基本』日本実業出版社
 - 荻谷剛彦 (2002) 『知的複眼思考法：誰でも持っている創造力のスイッチ』講談社+α文庫
 - 川崎昌平 (2020) 『大学1年生の君が、はじめてレポートを書くまで。』ミネルヴァ書房
 - 酒井聡樹 (2017) 『これからレポート・卒論を書く若者のために.第2版』共立出版
 - 佐藤雅昭 (2016) 『なぜあなたの研究は進まないのか』メディカルレビュー社
 - 名古屋大学教育学部附属中学校・戸田山和久 (2014) 『はじめよう、ロジカル・ライティング』ひつじ書房
 - 戸田山和久 (2012) 『論文の教室：レポートから卒論まで.新版』NHKブックス
- ほか、議論や発表に必要な文献については適宜指示します。

政策入門演習 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・自己/他己紹介・課題①についての説明
- 2回 課題①プレゼンテーション「みんなにすすめたいこの一冊」
- 3回 図書館ツアー【文献検索・資料収集】【図書館の利用・活用】
- 4回 レポート・論文の書き方(1) 【なぜ書くのか?どうやって書くのか?】【情報収集の方法】
- 5回 課題②プレゼンテーション「気になったニュースの紹介」
- 6回 レポート・論文の書き方(2) 【先行研究】【リサーチクエスト】【レポートの「良し悪し」】
- 7回 レポート・論文の書き方(3) 【参考文献】【引用の仕方】【レジュメの作成】
- 8回 文献を探そう【興味のある政策分野の学術論文を検索・選択する】
- 9回 課題③文献報告(1)
- 10回 文献報告(2)
- 11回 文献報告(3)
- 12回 文献報告(4)
- 13回 文献報告の講評【ゼミ生からのコメント】、学期末レポート(課題⑤)についての説明
- 14回 課題④プレゼンテーション「わたしのまち」or「キャリア・デザイン」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題50%、議論・質疑応答への参加50%
※無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象、無断欠席4回以上の場合には - 評価(評価不能)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては主に文献の読み込み・資料の作成、事後学習としては報告で得られたコメントの整理等を想定しています。

履修上の注意 /Remarks

入門演習を受講するにあたっての特別な準備は必要ありません。ただ、世の中で起きている事件・事象に関心を持ち、それに対して自分はどう考えるのか等、常にアンテナを張った生活をするのが、この演習の目指す「大学における講義・演習・実習において必要な技法の習得」に役立つと思います。また演習の醍醐味は議論です。恥ずかしがらず遠慮せず、積極的に自分の意見や疑問を述べることに是非、慣れて下さい。なお上記スケジュールは受講生の人数等により変更することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎年、ひとつめの課題として、「みんなにすすめたいこの一冊」を発表してもらっています。小説・ノンフィクション・伝記・絵本・漫画など、ジャンルも多様、またその本との出会い方・思い入れも「子どもの時から何度も何度も読み続けている」「部活の先輩から教わった自分のバイブル」「入試の勉強中に読み、続きが知りたくて塾の帰りに本を探した」「辛いことがあったときに泣くために読む」「高校の時、担任の先生が熱く語ってくれた思い出の一冊」「両親の子どもへの気持ちが初めてわかった本」「将来の夢のために読む」...本当に様々で興味深いことこの上ありません。この発表に際し、いつも思うのは「活字の威力」とそれに触れたみなさんの「想像力の豊かさ」「分析・解釈の多様性」。入門演習でも複数の論文・文献を読み、議論をしますが、「活字の威力」の長所と短所、「想像力」「分析・解釈の多様性」の素晴らしさと限界、受講生とともに私も学んでいきたいと思っています。

キーワード /Keywords

政策入門演習 【昼】

担当者名 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM110M			△	○	◎
科目名	政策入門演習		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この授業では、大学レベルでの学習と研究に必要とされる「聞く力」「課題発見力」「情報収集力」「情報整理力」「読む力」「データ分析力」「書く力」「プレゼンテーション力」という、8つの基礎力を習得することを目指します。

授業では、実際に1人あるいは、2-4人からなるグループで討論や発表を行い、互いに評価しあうことで、着実にそれらの力を向上させていきます。同時に、図書館と上手に付き合う方法も学んでいきますので、「図書館の達人」にもなってください。また、フィールドワーク(野外研修)も行い、その体験を議論し、実践力を向上させます。レジュメやレポートの書き方も指導します。

なお、授業の内容は、履修者の要望や基礎力習得の状況に合わせて変更することがあります。

【到達目標】

思考・判断・表現力：社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。

コミュニケーション力：意見の異なる者と積極的に議論し、協働して結論を導き出す能力を身につけている。

自立的行動力：公共の問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身につけている。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず、必要な資料などのコピーを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山田剛史・林創『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房、2011年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 他己紹介、オリエンテーション
- 第2回 「自分の故郷紹介」 プレゼンテーションと評価をしてみよう - 1
- 第3回 「自分の故郷紹介」 プレゼンテーションと評価をしてみよう - 2
- 第4回 「自分の故郷紹介」 プレゼンテーションと評価をしてみよう - 3
- 第5回 図書館と上手に付き合う方法を学ぼう(図書館ツアー)
- 第6回 参考文献と注の付け方を学ぶ
- 第7回 プレゼンテーション力を身に付けよう - 書評を書く - 1
- 第8回 プレゼンテーション力を身に付けよう - 書評を書く - 2
- 第9回 情報収集、情報整理力を習得しよう - 1
- 第10回 フィールドワークに行こう
- 第11回 読んで、調べて、発表しよう - 1
- 第12回 読んで、調べて、発表しよう - 2
- 第13回 読んで、調べて、発表しよう - 3
- 第14回 読んで、調べて、発表しよう - 4
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業での報告や議論、発表などの平常点(60%)と、レポート(40%)で評価します。

なお、期末レポート未提出の場合には「評価不能(-)」となります。

政策入門演習 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習についてはオリエンテーションで指示しますが、輪読する文献や資料は事前にすべて読んでくること、わからない点は調べてくることは当然の義務です。

履修上の注意 /Remarks

無断欠席が2回以上あると単位は出しません。
毎回積極的に授業に参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業を通して、自分の研究テーマや課題を見つけてください。

【SDGs】目標の10、16に主に関連しています。

キーワード /Keywords

演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM210M			△	○	◎
科目名	演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

演習Ⅰでは、政治思想史・現代政治理論に関する文献の輪読・報告と討論を行い、これらの分野に関する深い理解と、高度な問題発見能力・論理展開能力を身に付けることを目指します。テキストは履修者との相談の上で決定し、できる限り履修者の問題関心に沿った研究課題を採用します。また、政治思想史、現代政治理論や社会の政策的諸課題に関する研究課題を各人で決定し、レポートの執筆を行います。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。
- 【コミュニケーション力】意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
- 【自立的行動力】公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

履修者と相談の上、決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

輪読・研究課題に応じて適宜選択します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 政治理論研究の基礎
- 第2回 古代政治思想Ⅰ 【ソクラテス】
- 第3回 古代政治思想Ⅱ 【プラトン】
- 第4回 古代政治思想Ⅲ 【アリストテレス】
- 第5回 研究進展のためのテーマ・ディスカッション
- 第6回 中世政治思想Ⅰ 【アウグスティヌス】
- 第7回 中世政治思想Ⅱ 【トマス】
- 第8回 中世政治思想Ⅲ 【中世末期】
- 第9回 研究進展のためのテーマ・ディスカッション
- 第10回 近代政治思想Ⅰ 【ルネサンスⅠ】
- 第11回 近代政治思想Ⅱ 【ルネサンスⅡ】
- 第12回 近代政治思想Ⅲ 【宗教改革Ⅰ】
- 第13回 近代政治思想Ⅳ 【宗教改革Ⅱ】
- 第14回 近代政治思想Ⅴ 【まとめ】
- 第15回 研究進展のためのテーマ・ディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み、討論への参加、報告、個人研究：100%
(出席が一切ない場合には、「評価不能(-)」となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に輪読テキストを読むこと。授業後には、授業中の討論をもとに、自らの考えをまとめてください。

履修上の注意 /Remarks

演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM210M			△	○	◎
科目名	演習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

大まかには民主政治と政治意識に関わる下記のような各種テーマについて比較政治・国際政治の観点から検討し、様々な政治現象が「どうあるべきか」ではなく「実際どうなっているのか」資料やデータを通じて実証的に明らかにし、論文（ゼミレポート）を執筆します。全体としては読解と執筆の二本柱です。学術論文や書籍を講読し討論や解析を行います（全員参加）。基本的には日本語資料です[稀に英語です]。この他にサブゼミと称して、有志の学生とともに、①英文翻訳・読解の勉強会と②計量分析・計量ソフト運用の勉強会を毎週交互につづけています（自由参加）。このような二層構造で運用しています。複数学年合同で実施しています。

キーワード

選挙 / 政党 / 政治意識 / 世論調査 / 民族問題 / ナショナリズム / 移民 / 極右・極左 / 民主主義 / 独裁 / 政治体制 / 政治暴力 / 内戦 / 統計 / 計量分析 / 資料調査

「政策科学について学際的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を論理的に表現できる」「意見の異なる者と積極的に議論し、協働して結論を導き出す能力を身につけている」「公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身につけている」ことが単位授与上のディプロマポリシーとなります。

教科書 /Textbooks

初回イントロダクション時、もしくはそれ以前の段階で、moodle等を通じて指定・配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回イントロダクション時、もしくはそれ以前の段階で、moodle等を通じて指定・配布します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと前期の総括
2. 夏季業績報告
3. 論文輪読テーマ1：1週目
4. 論文輪読テーマ1：2週目
5. 研究発表【1週目①】
6. 研究発表【1週目②】
7. 論文輪読テーマ2：1週目
8. 論文輪読テーマ2：2週目
9. 研究発表【2週目①】
10. 研究発表【2週目②】
11. 論文輪読テーマ3：1週目
12. 論文輪読テーマ3：2週目
13. レポート草稿への検討【1】
14. レポート草稿への検討【1】
15. 全体の総括および予備回

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への参加貢献度40% 報告の適切性20% 期末課題の品質40%

無断の欠席・遅刻は減点要素であり、報告担当のドタキャンは落第（評価不能一）とします。

演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

論文輪読は(1)当日に複数配布して小グループで討議しながら理解を深め議論を行う回と(2)議論を経て現れて出てきた課題について追加調査を授業外で実施しその成果をシェアする回 の2パターンがあります。

学生による研究報告の際には、事前に論文等を回覧することが通常であるため、その場合には授業前に読んできてコメントを用意することが求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

参加者の関心にも依存しますがSDGs1, 2, 5, 8, 10, 16, 17あたりのテーマが扱われることが多いです。

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM210M			△	○	◎
科目名	演習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

人間活動・経済活動・社会、そして環境の関係を理解、分析する。また、環境問題の原因やその構造を発見しその問題を解決する能力（政策形成能力）を高める。

講義全体のキーワードは、環境、社会的ジレンマ、地域、アジアの環境問題（日本、韓国、中国）、アメリカ、ドイツとEUの環境問題、市民参加とガバナンス、そしてSDGsのエネルギー（原子力、再生エネルギー）・食べ物・水問題・気候危機政策などである。

環境ゼミのテーマは、以下、授業計画・内容通りであるが、これ以外のテーマを決めてもよい。

（到達目標）

【思考・判断】社会の諸問題について、自らの専門から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。

【コミュニケーション力】意見の異なる者と積極的に議論し自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。

【自立的行動力】公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『環境学の技法』（石弘之著 東京大学出版会 ¥3,360）
- 『環境問題の社会史』（飯島伸子著 有斐閣 ¥2,310）
- 『環境社会学』（船橋晴俊著 弘文堂 ¥2,835）

演習【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テーマ：政策形成・政策実施・政策過程の分析・環境

- ①中央省庁、自治体における環境関連の財政、組織、法律、環境への取り組み
- ②環境を通じた地域再生、公共事業と地域再生
- ③環境会計：これは資格証がもらえ、就職しやすい
- ④エコファンドと環境投資ESG：投資者が環境に優しい企業のファンドを買い（投資）、企業の環境活動、取り組みを誘導する方法の研究（欧米では進んでいる）
- ⑤環境コンサルタント：環境紛争、技術に関するコンサルタントとして起業可能な分野で、そのための方法、研究
- ⑥アジアの環境政策（比較研究、日本・韓国・中国：就職機会の多い）
- ⑦SDGsとエネルギー政策（福島事故、原子力と再生エネルギー政策）
- ⑧車リサイクル政策、容器包装リサイクル、家電リサイクル、PCリサイクル
- ⑨エコタウン：全国のエコタウンの実態からエコタウンの可能性と課題の研究
- ⑩地球温暖化問題・CO2問題、京都議定書、これらの問題に関する国際的取り組み、動向
- ⑪エコビジネスと地域活性化
- ⑫環境リスク管理（環境リスク管理資格証がもらえる分野）
- ⑬自治体の環境政策の事例研究（欧米・韓国・日本の自治体比較）
- ⑭環境政策過程の分析
- ⑮環境メディア：環境に関するメディアの報道、実態、問題点、あり方など

ゼミ活動

パワーポイント発表会を行う。

特別講演会を行う。

バスツアーなどフィールドリサーチを行う。

国内大学（西南大学、九大）との共同発表会、外国大学（ソウル市所在のSang Myung University等、中国大連大学）との交流を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートと発表（80%）、授業への貢献（20%）

レポート未提出の場合に「評価不能（-）」となります

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

ゼミ生の活動・授業内容・事前課題・事後学習内容については、学習支援フォルダに挙げるので、参照し、準備すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

18世紀のイギリス産業革命以降、アメリカの急成長と繁栄として象徴された20世紀、しかし、今後、21世紀は、優秀な人材、知識と技術そして文化・多様性・共存といった考え方に基づくアジアの時代とも言われている。この切り口が、まさに、環境である。環境は、大量生産と消費を作り出したアメリカ型の石油文明から、経済活動と人間、社会と文化が共存できるパラダイムである。各社会や経済主体ごとの違いはあれ、今後、人間社会を取り巻くあらゆるシステムが、環境をキーワードにし、再編されることになる。

「環境」について知ることを通じ、自分のライフそして仕事を探る旅に出てみませんか！

キーワード /Keywords

人間生活と環境、環境と経済（構造）、社会的ジレンマ、制度（政策）・知識（技術）・人口（排出者・汚染者・消費者）・資源、産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題、グローバルとローカル。

演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM210M			△	○	◎
科目名	演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

「政策研究を通じて地域(社会)貢献をする」ことをゼミの理念として、公共政策を研究する上で必要となる基本的な分析方法を身につけ、さらに現状分析に基づき政策提言を行う能力を習得することをゼミの目的としています。ゼミでは「個人研究」と「グループ・プロジェクト」の両方を行います。また、学生主体で企画した政策調査も行う予定です。

受講者には、現代日本の公共政策のなかで何が自分にとって問題なのか、そのために自分はどういう研究をするのかという明確な問題意識をもって参加する(あるいは本演習を通じてそれを養う)ことを望みます。特に、本演習では抽象的な政策の議論ではなく、具体的な事例に即して調査・研究し、政策提言する能力を養うことに力を置きたいと考えています。

また、パブリック・マインドの涵養はゼミの中心的なテーマでもあり、パブリック・マインドを涵養するための学生の自主的な活動をゼミでも行いたいと思います。

演習Ⅰでは、おおよそ以下のようなことを中心にゼミを進めます。

- ①政策研究では「問題とは何か」を認識すること、そして「問題」を自らの「問題(課題)」として切り取ってくるのが重要になります。そこで、現代日本における重要な政策課題に関する文献を読み、ディスカッションするなかから「問題とは何か」について考えることにします。
- ②以上のトレーニングと並行して、「政策リサーチ」と「政策提言」について、すなわち、現状分析から政策提言にいたるまでについての基礎固めをします。特に、伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法-』を輪読して政策研究の基礎固めをします。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。

【コミュニケーション能力】意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。

【自立的行動力】公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

伊藤修一郎(2011)『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法-(増補版)』東京大学出版会。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献などの必要な文献も、その都度指示します。

演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

演習Iでは、基礎的な文献を輪読しながらこれから政策研究をするための基礎固めを行います。

- 第1回 導入
- 第2回 各自の研究テーマについて
- 第3回 リサーチ・クエスションとは何か①
- 第4回 リサーチ・クエスションとは何か②
- 第5回 仮説とは何か
- 第6回 仮説のたて方
- 第7回 現状確認型リサーチ、原因探究型リサーチ
- 第8回 政策提言型リサーチ
- 第9回 文献講読①
- 第10回 文献講読②
- 第11回 文献講読③
- 第12回 文献リサーチの方法
- 第13回 文献講読④
- 第14回 文献講読⑤
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加・貢献度・・・80%、レポート等・・・20%

ゼミに全く出席していない場合には「評価不能(一)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

普段のゼミに際しては割り当てられた箇所のプレゼンの準備をしてゼミにのぞんでください。また、輪読を行っている場合には、授業で読んだ箇所の復習も必ず行って、次回以降の授業にのぞんでください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM210M			△	○	◎
科目名	演習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

3年生以降における専門的な研究に備えて、情報収集・整理、分析、プレゼンテーションなど基本能力のトレーニングを進めていきます。資料収集、レジュメ作成、報告、討論などを中心に進めていきます。受講生の関心に合わせて題材はできるだけ広く設定したいと思っています。

①「公立保育所民営化」、②「カジノ解禁」、③「夫婦別姓」について、報告と議論を行う予定です。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。

【コミュニケーション能力】意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。

【自立的行動力】公共の問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しません。図書・雑誌論文・新聞などを組み合わせて用いたいと思っています。必要部分をコピーし配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方、成績評価について
- 第2回 レポートの書き方
- 第3回 報告と議論① 公立保育所民営化
- 第4回 報告と議論① カジノ解禁
- 第5回 報告と議論① 夫婦別姓
- 第6回 報告と議論② 公立保育所民営化
- 第7回 報告と議論② カジノ解禁
- 第8回 報告と議論② 夫婦別姓
- 第9回 中間まとめ
- 第10回 討論の準備
- 第11回 討論 公立保育所民営化
- 第12回 討論 カジノ解禁
- 第13回 討論 夫婦別姓
- 第14回 最終報告
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容・討論内容...100% 欠席・遅刻1回につき、最大10点程度減点

* 受講態度が極めて悪い場合、出席を認めない場合があります。また報告内容が一定の水準に達しない場合、再報告や追加課題を求める場合があります。

一度も出席しなかった場合は、評価不能(-)とします。

演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告を担当しない人も、授業前に配付資料をしっかりと読んでください。また、授業終了後に、報告や討論の内容を再検討し、自分の考えを整理してみてください。

履修上の注意 /Remarks

授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。
資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

特になし。

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 上條 諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 演習 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM210M			△	○	◎
科目名	演習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、現代民主政治の理論的・実証的分析に関する文献を講読することで、民主主義諸国における政治に対する知識、見方を養うとともに、政治学の論文を社会科学の観点から批判的に読む方法を身に付けることを目的とします。演習の最終目標（最終課題）は、各自の関心に則って論文を一本選んでもらい、その内容の要約と評価、すなわち「書評」を書いてもらうことです。ゆくゆく卒業研究等に向かうにあたってこうした先行研究の批判的検討は不可欠になるため、早めにそのトレーニングをしていきましょう。

民主主義諸国の政治に関心のある方なら幅広く歓迎しますが、教員の専門上、民主主義体制における政治エリート（議員、執政長官、官僚など）とその集団（政党など）の分析が中心的なテーマとなります（よくわからなければ、後掲の建林・曾我・待鳥(2008)でカバーされているようなテーマに関心がありなら良いマッチングといえるでしょう）。

具体的には、前半では教員が選んだ日本語及び場合によっては英語の文献について担当を決めて報告をしてもらい、全員で議論をしていきます。後半部は各人が選んだ文献について報告・議論をし、この報告を叩き台に最終課題を執筆してもらいます。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。

【コミュニケーション力】意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。

【自立的行動力】公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

各回で適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史 2008. 『比較政治制度論』有斐閣アルマ

演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(参加人数によって変更する場合があります)
第1回 オリエンテーション・自己紹介・担当決め
第2回 文献講読①
第3回 文献講読①
第4回 文献講読①
第5回 文献講読①
第6回 文献講読①
第7回 文献講読①
第8回 興味関心、講読する文献についての発表
第9回 文献講読②
第10回 文献講読②
第11回 文献講読②
第12回 文献講読②
第13回 文献講読②
第14回 文献講読②
第15回 予備日

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への貢献40%、報告及び資料の質30%、最終課題の質30%

*正当な理由なく3回以上欠席した場合は「評価不能(一)」とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告者以外の方も、議論に貢献すべく文献の各回該当部を精読してくることが当然の前提とされます。成績評価の欄の記述に明らかなように、ただ出席してその場にいるというだけでは評価の対象にはなりません。

履修上の注意 /Remarks

- ・無断欠席・遅刻は厳禁です。必ず事前に連絡をしてください。特に、報告担当回に無断欠席した場合、即時落第とします。
- ・履修“前”に参考書を熟読しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 吉田 舞 / Mai Yoshida / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM210M			△	○	◎
科目名	演習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

大学生の学習方法は暗記中心の受験勉強とは異なります。大学では、入手した情報を無批判に受け入れるのではなく、問いを立て、自分が新たな情報を発信することを目指してください。本授業では、「社会的包摂と排除」をキーワードに、新聞記事やドキュメンタリーなどのメディアや、社会調査にかかわる先行研究を通じて、国内外の政策と人々の暮らしについて考えます。また、各授業で設定されたテーマをもとに、グループワークやディスカッションを行い、コミュニケーション能力やファシリテーション能力を上げます。さらに受講生には、関連文献を、読んで、書いて、議論するプロセスを通して、今後の大学生生活のなかで必要となる研究のための技術を習得してもらいます。

{ 思考・判断・表現力 } 社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。
 { コミュニケーション力 } 意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
 { 自立的行動力 } 公共の問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。必要に応じてレジュメや資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田正美『社会的排除：参加の欠如・不確かな帰属』2008、有斐閣
- 青山薫『セックスワーカーとは誰か』2007、大月書店
- 芹澤健介『コンビニ外国人』2018、新潮社
- 伊藤泰郎・崔博憲ほか『日本で働く』2021、松籟社
- 視聴覚資料：『わたしは、ダニエル・ブレイク』ケン・ローチ監督、2016

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス：演習Iの概要説明
- 第2回「社会的包摂と排除」について考える【包摂と排除】
- 第3回先住民が「汗水たらして働く」意味【グローバル化と文化的包摂】
- 第4回ダイバーシティとインクルージョンについて考える【D&I】
- 第5回アラブと銭湯からみる多文化共生【多文化共生論】
- 第6回セックス・ワークと法体制【人権と労働】
- 第7回露天商とみかじめ料【インフォーマリティ】
- 第8回フィリピンのホームレス【アジアの貧困政策】
- 第9回日本のホームレス【ホームレス自立支援施策】
- 第10回地域における貧困と孤独死【社会的孤立】
- 第11回広島島の牡蠣と技能実習生【地場産業と外国人労働者】
- 第12回日系フィリピン人一家【制度の隙間に生きる人々】
- 第13回コンビニと留学生：「資格外活動」に支えられる日本社会【入管政策と労働市場】
- 第14回外国にルーツを持つ子どもたち【教育政策】
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 講義中の質問や討議における積極性・授業への姿勢 (50%)
- (2) 事前・事後学習に関する課題 (50%)

※ 授業を5回以上欠席した場合、期末レポート未提出の場合は「評価不能(-)」となります。

演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、次回のテーマについて関連する記事や文献を前もって収集すること。
事後学習として、各回の議論が自分の関心テーマにどのように応用可能か考察すること。

履修上の注意 /Remarks

授業計画は、受講生の人数や関心、進捗状況などにより変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会問題の「ウラ」を読むトレーニングをしましょう！

キーワード /Keywords

排除と包摂、多文化共生、多様性、労働、生活、貧困、アジアと日本

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 黒石 啓太 / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM210M			△	○	◎
科目名	演習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この演習では、地方自治をテーマとして多角的な観点から議論を深めていくことを目的とするものである。相次ぐ自然災害や感染症への対応において自治体が重要な役割を担ってきた一方で、近年の超高齢・人口減少社会においては、自治体の行財政運営に様々な工夫が求められている。演習Iでは、基本的文献を選定し、これを精読することをとおして地方自治に関する基本的な構造や実態を理解することをめざす。また、受講生間での議論により、多角的な視座から物事を理解する能力を養うこととしたい。

(到達目標)

DP5 自立的行動力：公共の問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。
DP4 コミュニケーション力：意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
DP3 思考・判断・表現力D：社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。

教科書 /Textbooks

受講生の関心に応じて適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の関心に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【演習の進め方とルール】
- 2回 近年の地方自治を取り巻く環境【地方自治を学ぶ意義の再確認】
- 3回 調査研究アプローチの検討【量的・質的研究の特徴の検討】
- 4回 基本的文献の購読と報告①【地方自治の歴史】
- 5回 基本的文献の購読と報告②【地方自治の制度】
- 6回 基本的文献の購読と報告③【長・議会】
- 7回 基本的文献の購読と報告④【職員】
- 8回 基本的文献の購読と報告⑤【住民・地域コミュニティ】
- 9回 個別テーマに関する文献の購読と報告①【保健・福祉】
- 10回 個別テーマに関する文献の購読と報告②【教育】
- 11回 個別テーマに関する文献の購読と報告③【環境】
- 12回 個別テーマに関する文献の購読と報告④【産業】
- 13回 個別テーマに関する文献の購読と報告⑤【防災・危機管理】
- 14回 個別テーマに関する文献の購読と報告⑥【行政改革】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加意欲、積極的な発言、文献購読の準備...100%
※正当と認められる理由なく自身の担当報告を行わなかった場合には、「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習で理解が難しかった箇所などをメモしておき、授業時間内に質問するなどして疑問を残さないよう努力を行うこと。
事後学習では、授業内容の振り返りを行うこと。

演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

行政学、地方自治論等の関連科目もあわせて履修することを推奨する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

上記の授業計画・内容は予定であり、受講者の関心や希望に柔軟に対応できるよう配慮します。
ぜひ皆さんの関心や問題意識などを教えてください！
この授業はSDGsの「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 演習 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM210M			△	○	◎
科目名	演習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、日常生活で感じる身近な事柄から政策を考え、グループワークにより、問題の背景などの現状を把握する技術を学ぶことを目的とします。また現状を理解し、仮説の検証を行い、政策提言できるまでの分析手法を習得し、さらに調査結果の発表を通じ、他者に伝えるスキルを身に付けるということもゼミの目的となります。

また個人の研究活動としては、評価研究（地方自治体・中央省庁での行政活動に対する評価や、行政と関連する制度・組織の評価など）の観点から探究したいテーマを検討し、それに応じたりサーチクエスチョンを設定するなど、分析を進めるために必要な土台の構築を目指します。受講生の個人研究のテーマが定まるまでの間は、行政・地方自治に関する文献を輪読し、議論を行います。また研究テーマの決定までに、受講生は全員、自身のテーマやそれについて調べたことなど、その経過についての報告をし、これについての議論も行います（報告・議論とも内容・表現が悪い場合にはやり直してもらうことがあります）。演習Iの最後に「研究計画書」を作成し、演習IIIII（3年次）につなげていきます。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】

社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。

【コミュニケーション力】

意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。

【自立的行動力】

公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

適宜指示、また必要に応じてレジュメ・資料等をMoodle and/or Teamsに掲載します。
(SDGs[特に7・12・15など]の観点から、紙媒体でのレジュメ・資料等の配布はいたしません。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 石黒圭 (2012) 『論文・レポートの基本』日本実業出版社
 - 伊藤修一郎 (2022) 『政策リサーチ入門増補版：仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会
 - 久米郁男 (2013) 『原因を推論する：政治分析方法論のすゝめ』有斐閣
 - 近藤克則 (2018) 『研究の育て方：ゴールとプロセスの「見える化」』医学書院
 - 佐藤雅昭 (2016) 『なぜあなたの研究は進まないのか』メディカルレビュー社
 - 酒井聡樹 (2007) 『これから卒論・レポートを書く若者のために』共立出版
 - 戸田山和久 (2012) 『新版論文の教室：レポートから卒論まで』NHKブックス
 - 名古屋大学教育学部附属中学校・戸田山和久 (2014) 『はじめよう、ロジカル・ライティング』ひつじ書房
- その他、適宜指示します。

演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス
2回	調査企画と論文作成のために：テーマの設定、情報収集、計画
3回	文献輪読（1）【社会科学的分析方法とは？】
4回	文献輪読（2）【先行研究の検討はなぜ必要か】
5回	文献輪読（3）【リサーチクエスト】【仮説】
6回	文献輪読（4）【量的分析】
7回	実証分析とは（1）【社会調査】【聞き取り】
8回	実証分析とは（2）【統計的な処理】【事例研究】
9回	調査テーマの検討と議論
10回	調査テーマの決定
11回	研究テーマについての報告と質疑・議論（1）
12回	研究テーマについての報告と質疑・議論（2）
13回	研究テーマの再検討：質疑を受けたうえでテーマの妥当性の検証
12回	調査テーマに関するレビューの報告・整理（1）
13回	調査テーマに関するレビューの報告・整理（2）
14回	研究テーマの決定【研究計画書】
15回	演習IIに向けての調査計画の確認ほか、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告40%、議論への参加・貢献40%、学期末の課題（研究計画書の作成・提出）20%
※無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象、無断欠席4回以上の場合は - 評価（評価不能）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては主に文献の読み込み・資料の作成、事後学習としては報告で得られたコメントの整理等を想定しています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミ全体の活動（調査設計）と個人の活動（ゼミ論文のための研究）の両方が同時進行する慌ただしいゼミですが、両活動に共通する文献を輪読していく予定です。また「現場」にいくことと「机上」でじっくり考えること、どちらも大切だということを是非、実感して欲しいと思っています。

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM210M			△	○	◎
科目名	演習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

演習I、政策実践プロジェクトIは併せて実施するほか、3年生と合同演習を行う予定です。
 本演習は、「地域資源の活用による地域創造と地域（都市）の魅力形成」など都市・地域政策に関するテーマを扱います。
 演習Iでは、研究の進め方の説明、まちづくりや都市政策に関するテキストの輪読、学生が自ら関心のある政策テーマに関する政策研究報告及びディスカッションなどにより構成され、政策を体系的に学びます。
 学生には、テキストの要約にとどまらず、自分の見解や関連情報を付加するなどの主体的な取り組みを求めます。
 さらに、これから研究調査を本格的に行うために必要な「考える力」「探究する力」のレベルアップを重点的に行い、知的方法論の取得を目的とします。
 なお、演習Iは後期から開始されるので、前期は自主研究を行い、7月頃に研究成果を報告する機会を設ける予定です。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】

社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。

【コミュニケーション力】

意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。

【自立的行動力】

公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

- 岩崎美紀子(2008)『「知」の方法論』岩波書店
- 伊藤修一郎(2022)『政策リサーチ入門 増補版 - 仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会
- 石原武政・西村幸夫編(2010)『まちづくりを学ぶ 地域再生の見取り図』有斐閣
(絶版のためコピーして配布します)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 戸田山和久(2012)『新版 論文の教室-レポートから卒論まで』NHK出版
- 石井一成(2011)『大学生のためのレポート・論文の書き方』ナツメ社
- 小笠原喜康(2018)『最新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書
・その他講義の中で適宜紹介します。

演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション
2. 新聞論評①、輪読①(まちづくり・地域政策)
3. 新聞論評②、輪読②(まちづくり・地域政策)
4. 新聞論評③、輪読③(まちづくり・地域政策)
5. 新聞論評④、輪読④(まちづくり・地域政策)
6. 研究の進め方①、地域創造事例研究①
7. 論文・図書紹介①、輪読①(知の方法論)
8. 論文・図書紹介②、輪読②(知の方法論)
9. 論文・図書紹介③、輪読③(知の方法論)
10. 研究の進め方②、地域創造事例研究②
11. 政策研究報告①(各自の研究テーマの検討状況報告)、輪読①(研究方法論)
12. 政策研究報告②(各自の研究テーマの検討状況報告)、輪読②(研究方法論)
13. 政策研究報告③(各自の研究テーマの検討状況報告)、輪読③(研究方法論)
14. 政策研究報告④(各自の研究テーマの検討状況報告)、輪読④(研究方法論)
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ ディスカッションへの参加姿勢、授業への貢献、政策研究レポートの提出 100%
- ・ 演習に一度も参加しない者、政策研究レポートを提出しない者、受講態度がよくなく指導教員の指導に従わない者は単位認定の対象外で、成績評価で「-」と表示します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業外学習として、演習内容に沿って自主的な事前事後学習を行うほか、適宜、課題を与えるので、決められた期日までに準備をしてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンラインに切り替えます。
- ・ 無断欠席、理由のない遅刻、ゼミ中の私語、無関心などの逸脱行動は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。教員の指導に従わない場合は退室を命じる場合があります。
- ・ 授業を受けるという受け身の姿勢ではなく、積極的に学び、他者と協調しながら議論に貢献する姿勢が求められます。
- ・ 政策実践プロジェクトは併せて履修してください。また、3年生との合同ゼミを予定していますので、履修時間に注意してください。
- ・ 授業計画は、政策実践プロジェクトの進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 当科目は、「SDGsの「8 働きがいも 経済成長も」「11 住み続けられるまちづくりを」「17 パートナリーシップで目標を達成しよう」の目標に広く関連しています。

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM310M			△	○	◎
科目名	演習II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

演習Iに引き続き、政治思想史・現代政治理論に関する文献の輪読・報告と討論を行います。またレポートを作成します。必要や要望に応じて合宿を行うこともあります。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。

【コミュニケーション力】意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。

【自立的行動力】公共の問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

履修者と相談の上、決定します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

履修者と相談の上、決定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 研究進展のためのテーマ・ディスカッション
- 第2回 近代政治思想I 【ホブズ】
- 第3回 近代政治思想II 【ロック】
- 第4回 近代政治思想III 【ルソーI】
- 第5回 近代政治思想IV 【ルソーII】
- 第6回 研究進展のためのテーマ・ディスカッション
- 第7回 近代政治思想V 【まとめ】
- 第8回 日本の政治思想I 【幕末I】
- 第9回 日本の政治思想II 【幕末II】
- 第10回 日本の政治思想III 【明治I】
- 第11回 日本の政治思想IV 【明治II】
- 第12回 研究進展のためのテーマ・ディスカッション
- 第13回 日本の政治思想V 【大正から戦後までI】
- 第14回 日本の政治思想VI 【大正から戦後までII】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み、討論への参加、報告、個人研究：100%
(出席が一切ない場合には、「評価不能(-)」となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に輪読テキストを読むこと。授業後には、授業中の討論をもとに、自らの考えをまとめてください。

履修上の注意 /Remarks

演習II【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM310M			△	○	◎
科目名	演習II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

大まかには民主政治と政治意識に関わる下記のような各種テーマについて比較政治・国際政治の観点から検討し、様々な政治現象が「どうあるべきか」ではなく「実際どうなっているのか」資料やデータを通じて実証的に明らかにし、論文（ゼミレポート）を執筆します。全体としては読解と執筆の二本柱です。学術論文や書籍を講読し討論や解析を行います（全員参加）。基本的には日本語資料です[稀に英語です]。この他にサブゼミと称して、有志の学生とともに、①英文翻訳・読解の勉強会と②計量分析・計量ソフト運用の勉強会を毎週交互につづけています（自由参加）。このような二層構造で運用しています。複数学年合同で実施しています。

キーワード

選挙 / 政党 / 政治意識 / 世論調査 / 民族問題 / ナショナリズム / 移民 / 極右・極左 / 民主主義 / 独裁 / 政治体制 / 政治暴力 / 内戦 / 統計 / 計量分析 / 資料調査

「政策科学について学際的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を論理的に表現できる」「意見の異なる者と積極的に議論し、協働して結論を導き出す能力を身につけている」「公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身につけている」ことが単位授与上のディプロマポリシーとなります。

教科書 /Textbooks

初回イントロダクション時、もしくはそれ以前の段階で、moodle等を通じて指定・配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回イントロダクション時、もしくはそれ以前の段階で、moodle等を通じて指定・配布します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと自己紹介・担当決めなど
2. 論文輪読テーマ1：1週目
3. 論文輪読テーマ1：2週目
4. 論文輪読テーマ2：1週目
5. 論文輪読テーマ2：2週目
6. 研究テーマ推進に関する講義など
7. 論文輪読テーマ3：1週目
8. 論文輪読テーマ3：2週目
9. 3回生の論文テーマ相談 / 卒論発表など
10. 論文輪読テーマ4：1週目
11. 論文輪読テーマ4：2週目
12. 3回生の論文テーマ相談 / 卒論発表など
13. ゼミ論文テーマ草稿への検討【1】
14. ゼミ論文テーマ草稿への検討【1】
15. 全体の総括および予備回（夏休みの課題の検討）

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への参加貢献度30% 報告の適切性30% 期末課題の品質40%

無断の欠席・遅刻は減点要素であり、報告担当のドタキャンは落第（評価不能一）とします。

演習II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

論文輪読は(1)当日に複数配布して小グループで討議しながら理解を深め議論を行う回と(2)議論を経て現れて出てきた課題について追加調査を授業外で実施しその成果をシェアする回 の2パターンがあります。

学生による研究報告の際には、事前に論文等を回覧することが通常であるため、その場合には授業前に読んできてコメントを用意することが求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

参加者の関心にも依存しますがSDGs1, 2, 5, 8, 10, 16, 17あたりのテーマが扱われることが多いです。

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM310M			△	○	◎
科目名	演習II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

人間活動・経済活動・社会、そして環境の関係を理解、分析する。また、環境問題の原因やその構造を発見しその問題を解決する能力（政策形成能力）を高める。

講義全体のキーワードは、環境、社会的ジレンマ、地域、アジアの環境問題（日本、韓国、中国）、アメリカ、ドイツとEUの環境問題、市民参加とガバナンス、そしてSDGsのエネルギー（原子力、再生エネルギー）・食べ物・水問題・気候危機政策などである。

環境ゼミのテーマは、以下、授業計画・内容通りであるが、これ以外のテーマを決めてもよい。

（到達目標）

【思考・判断】社会の諸問題について、自らの専門から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。

【コミュニケーション力】意見の異なる者と積極的に議論し自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。

【自立的行動力】公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『環境学の技法』（石弘之著 東京大学出版会 ¥3,360）

○『環境問題の社会史』（飯島伸子著 有斐閣 ¥2,310）

○『環境社会学』（船橋晴俊著 弘文堂 ¥2,835）

演習II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テーマ：政策形成・政策実施・政策過程の分析・環境

- ①中央省庁、自治体における環境関連の財政、組織、法律、環境への取り組み。
- ②環境を通じた地域再生、公共事業と地域再生
- ③環境会計：これは資格証がもらえ、就職しやすい
- ④エコファンドと環境投資ESG：投資者が環境に優しい企業のファンドを買い（投資）、企業の環境活動、取り組みを誘導する方法の研究（欧米では進んでいる）
- ⑤環境コンサルタント：環境紛争、技術に関するコンサルタントとして起業可能な分野で、そのための方法、研究
- ⑥アジアの環境政策（比較研究、日本・韓国・中国：就職機会の多い）
- ⑦SDGsとエネルギー政策（福島事故、原子力と再生エネルギー政策）
- ⑧車リサイクル政策、容器包装リサイクル、家電リサイクル、PCリサイクル
- ⑨エコタウン：全国のエコタウンの実態からエコタウンの可能性と課題の研究
- ⑩地球温暖化問題・CO2問題、京都議定書、これらの問題に関する国際的取り組み、動向
- ⑪エコビジネスと地域活性化
- ⑫環境リスク管理（環境リスク管理資格証がもらえる分野）
- ⑬環境社会アセスメント：環境会計、環境報告書
- ⑭自治体の環境政策の事例研究（欧米・韓国・日本の自治体比較）
- ⑮環境メディア：環境に関するメディアの報道、実態、問題点、あり方など
- ⑯政策過程の分析

ゼミ活動

パワーポイント発表会を行う。

特別講演会を行う。

バスツアーなどフィールドリサーチを行う

国内大学（西南大学、九大）との共同発表会、外国大学（ソウル市所在のSang Myung University等、中国大連大学）との交流を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートと発表（80%）、授業への貢献（20%）

レポート未提出の場合に「評価不能（-）」となります

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

ゼミ生の活動・授業内容・事前課題・事後学習内容については、学習支援フォルダに挙げるので、参照し、準備すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

18世紀のイギリス産業革命以降、アメリカの急成長と繁栄として象徴された20世紀、しかし、今後、21世紀は、優秀な人材、知識と技術そして文化・多様性・共存といった考え方に基づくアジアの時代とも言われている。この切り口が、まさに、環境である。環境は、大量生産と消費を作り出したアメリカ型の石油文明から、経済活動と人間、社会と文化が共存できるパラダイムである。各社会や経済主体ごとの違いはあれ、今後、人間社会を取り巻くあらゆるシステムが、環境をキーワードにし、再編されることになる。

「環境」について知ることを通じ、自分のライフそして仕事を探る旅に出てみませんか！

キーワード /Keywords

人間生活と環境、環境と経済（構造）、社会的ジレンマ、制度（政策）・知識（技術）・人口（排出者・汚染者・消費者）・資源、産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題、グローバルとローカル

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM310M			△	○	◎
科目名	演習II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

「政策研究を通じて地域(社会)貢献をする」ことをゼミの理念として、公共政策を研究する上で必要となる基本的な分析方法を身につけ、さらに現状分析に基づき政策提言を行う能力を習得することをゼミの目的としています。

演習Iを踏まえ、演習IIでは、①政策分析(提言)の仕方について、②政策研究で必要となる基礎的な統計の知識習得に力点を置いて演習をすすめます。

①に関しては、ユージン・バーダック『政策立案の技法-問題解決を「成果」に結び付ける8つのステップ-』を輪読し、具体的に自らが政策提案をするとしたらどのようにしたらよいかについて、政策分析の基礎的内容も含めて学びます。

②に関しては、大谷信介『新・社会調査へのアプローチ』を中心にして、「アンケート調査」(特に、質問票の作成方法)および「インタビュー」の仕方について基礎的な統計等の分析方法を含めて学びます。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。

【コミュニケーション能力】意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。

【自立的行動力】公共の問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

ユージン・バーダック著、白石賢司ほか訳(2012)『政策立案の技法-問題解決を「成果」に結び付ける8つのステップ-』東洋経済新報社。
大谷信介ほか(2013)『新・社会調査へのアプローチ-論理と方法-』ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献等の必要な文献は、その都度指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

演習IIで学ぶ内容はおおよそ以下の通りです。

- 第1回 演習Iの復習と演習IIで学ぶ内容について
- 第2回 政策提言型リサーチ
- 第3回 (政策分析[提言]に関する)文献講読①
- 第4回 (政策分析[提言]に関する)文献講読②
- 第5回 (政策分析[提言]に関する)文献講読③
- 第6回 (政策分析[提言]に関する)文献講読④
- 第7回 量的調査について①
- 第8回 量的調査について②
- 第9回 量的調査について③
- 第10回 質的調査について - インタビューの仕方 -
- 第11回 (政策調査に関する)文献講読①
- 第12回 (政策調査に関する)文献講読②
- 第13回 (政策調査に関する)文献講読③
- 第14回 (政策調査に関する)文献講読④
- 第15回 卒論のテーマについて

演習II【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加・貢献度 ... 80 % レポート等... 20 %

ゼミに全く出席していない場合には「評価不能(一)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

普段のゼミに際しては割り当てられた箇所のプレゼンの準備(予習)をしてゼミにのぞんでください。また、輪読を行っている場合には、授業で読んだ箇所の復習も必ず行って次回以降の授業にのぞんでください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM310M			△	○	◎
科目名	演習II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

年金、医療、保育、障害者福祉といった社会保障関連の政治・行政・政策に関心を持っている人を歓迎します。また、図書館への指定管理者制度導入など、公共サービスの民営化・民間委託に関心を持っている人を歓迎します。演習では受講生が自分で「調べて、考えて、そして発表する」ことを目標とします。演習Iでは「福祉NPO」「社会起業家」をテーマにして、障害者福祉のしくみのあり方を議論します。社会福祉サービスにおける政府と市場の役割を理解するのが目標です。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。

【コミュニケーション能力】意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。

【自立的行動力】公共の問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しません。図書・雑誌論文・新聞などを組み合わせて用いますが、必要部分をコピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方・班分け。課題の提示
- 第2回 障害の定義①
- 第3回 障害学のモデル①
- 第4回 障害者と雇用①
- 第5回 障害者福祉サービス①
- 第6回 福祉NPO①
- 第7回 福祉行政①
- 第8回 障害の定義②
- 第9回 障害学のモデル②
- 第10回 障害者と雇用②
- 第11回 障害者福祉サービス②
- 第12回 福祉NPO②
- 第13回 福祉行政②
- 第14回 福祉事業所見学報告
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容・討論内容...100% 欠席・遅刻1回につき、最大10点程度減点

* 受講態度が極めて悪い場合、出席を認めない場合があります。また報告内容が一定の水準に達しない場合、再報告や追加課題を求める場合があります。

一度も出席しなかった場合は、評価不能(-)とします。

演習II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告を担当しない人も、授業前に配付資料をしっかりと読んでください。また、授業終了後に、報告や討論の内容を再検討し、自分の考えを整理してみてください。

履修上の注意 /Remarks

授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。
資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

特になし。

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 上條 諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM310M			△	○	◎
科目名	演習II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本演習は、近年の社会科学における中心的な分析の方法の一つである計量分析の基礎を身につけることをその目的とします。具体的には、森田(2014)や教員作成の資料を用いながら計量分析の非技術的導入を行い、併せて計量分析を用いた政治学の論文を講読することで、現代的な政治分析を理解する能力を身に着けることを目指します。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。
- 【コミュニケーション力】意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
- 【自立的行動力】公共の問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

森田果 2014. 『実証分析入門-データから「因果関係」を読み解く作法』日本評論社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本勲 2015. 『実証分析のための計量経済学-正しい手法と結果の読み方』中央経済社
浅野正彦・矢内勇生 2018. 『Rによる計量政治学—統計学で政治現象を分析する』オーム社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 計量分析の基礎/文献講読
- 第3回 計量分析の基礎/文献講読
- 第4回 計量分析の基礎/文献講読
- 第5回 計量分析の基礎/文献講読
- 第6回 計量分析の基礎/文献講読
- 第7回 計量分析の基礎/文献講読
- 第8回 計量分析の基礎/文献講読
- 第9回 計量分析の基礎の振り返り
- 第10回 文献講読
- 第11回 文献講読
- 第12回 文献講読
- 第13回 文献講読
- 第14回 文献講読
- 第15回 予備日

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への貢献50%、報告及び資料の質50%

*正当な理由なく3回以上欠席した場合は「評価不能(一)」とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の内容を事前に読むだけでなく、演習で講読した実際の研究と照らし合わせて復習をし、知識の定着を図りましょう。

演習II【昼】

履修上の注意 /Remarks

無断欠席・遅刻は厳禁です。必ず事前に連絡をしてください。特に、報告担当回に無断欠席した場合、即時落第とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 吉田 舞 / Mai Yoshida / 政策科学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM310M			△	○	◎
科目名	演習II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

近年、日本では入管法が改正され、移住労働者やその家族と共に、社会を築いていく方法を模索することが喫緊の課題となっています。本演習では、日本で暮らす外国人労働者とその家族にかかわる様々な社会問題に着目し、都市や地域での貧困や共生、それらにかかわる政策について多面的に考えていきます。文献講読では、国内外の移民に関するテキストや論文を中心に取り上げ、議論をしていきます。受講生には担当箇所のレジュメの準備の他、必要に応じて課外調査もしてもらいます。

{思考・判断・表現力} 社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。
{コミュニケーション力} 意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
{自立的行動力} 公共の問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

授業開始後に受講生と相談の上、決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 竹沢 尚一郎・稲葉奈々子ほか『移住・移民の世界地図』2011、丸善出版
- 高谷幸編『移民政策とは何か：日本の現実から考える』2019、人文書院
- 荒牧重人・櫻井緑・江原裕美・小島祥美・志水宏吉・南野奈津子・宮島喬・山野良一編『外国人の子ども白書』2017年。明石書店。
- 伊藤泰郎・崔博憲 ほか『日本で働く』2021、松籟社
- 鈴木 江理子ほか『アンダーコロナの移民たち-日本社会の脆弱性があらわれた場所』2021、明石書店
- 下地ローレンス吉孝『「混血」と「日本人」-ハーフ・ダブル・ミックスの社会史』2018、"

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス：演習IIの概要説明
- 第2回人の国際移動と現代社会
- 第3回『移住・移民の世界地図』から見える日本社会
- 第4回移住とジェンダー
- 第5回ケアワークと家事支援人材
- 第6回技能実習生の妊娠と支援体制
- 第7回日本における外国人受け入れ政策の実態と課題（文献調査）
- 第8回日本における外国人受け入れ政策の実態と課題（レポート作成）
- 第9回子どもの移住と教育
- 第10回難民申請と非正規滞在
- 第11回日本における移住者支援の実態と課題（調査）
- 第12回日本における移住者支援の実態と課題（レポート作成）
- 第13回研究テーマに関する報告と議論①
- 第14回研究テーマに関する報告と議論②
- 第15回まとめ

演習II【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 講義中の質問や討議における積極性・授業への姿勢 (50%)
- (2) レジюме・プレゼン内容 (50%)

※ 授業を5回以上欠席した場合、期末レポート未提出の場合は「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、次回のテーマについて関連する記事や文献を前もって収集すること。
事後学習として、各回の議論が自分のテーマにどのように応用可能か考察すること。

履修上の注意 /Remarks

・ 授業計画は、受講生の人数や関心、進捗状況などにより変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語の映像資料などを使うことがあります。

キーワード /Keywords

多文化共生、労働者、福祉、貧困、ジェンダー、子ども、移民政策

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 黒石 啓太 / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM310M			△	○	◎
科目名	演習II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この演習では、地方自治をテーマとして多角的な観点から議論を深めていくことを目的とするものである。相次ぐ自然災害や感染症への対応において自治体が重要な役割を担ってきた一方で、近年の超高齢・人口減少社会においては、自治体の行財政運営に様々な工夫が求められている。

演習IIでは、受講者の関心に応じた応用的な文献を選定し、これを精読することとおして地方自治に関する基本的な構造や実態を理解することをめざす。また、受講生間での議論により、多角的な視座から物事を理解する能力を養うこととしたい。「調査報告」では、地方自治に関する近年のテーマについて、受講生からの報告をもとに議論する。

(到達目標)

DP5 自立的行動力：公共の問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

DP4 コミュニケーション力：意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。

DP3 思考・判断・表現力：社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。

教科書 /Textbooks

受講生の関心に応じて適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

受講生の関心に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【演習の進め方とルール】
- 2回 近年の地方自治を取り巻く環境【地方自治をめぐる近年の論点】
- 3回 応用的文献の購読と報告①【地方自治の理論】
- 4回 応用的文献の購読と報告②【政府間関係論】
- 5回 応用的文献の購読と報告③【条例論】
- 6回 応用的文献の購読と報告④【政策法務論】
- 7回 応用的文献の購読と報告⑤【協働論】
- 8回 応用的文献の購読と報告⑥【地域政治論】
- 9回 個別テーマに関する調査報告①【都市内分権】
- 10回 個別テーマに関する調査報告②【公民連携】
- 11回 個別テーマに関する調査報告③【デジタル化・DX】
- 12回 個別テーマに関する調査報告④【観光・ツーリズム】
- 13回 個別テーマに関する調査報告⑤【まちづくり・交通】
- 14回 調査報告のとりまとめ
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加意欲、積極的な発言、文献購読等の準備...100%
※正当と認められる理由なく自身の担当報告を行わなかった場合には、「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習で理解が難しかった箇所などをメモしておき、授業時間内に質問するなどして疑問を残さないよう努力を行うこと。
事後学習では、授業内容の振り返りを行うこと。

演習II【昼】

履修上の注意 /Remarks

行政学、地方自治論等の関連科目もあわせて履修することを推奨する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

上記の授業計画・内容は予定であり、受講者の関心や希望に柔軟に対応できるよう配慮します。
ぜひ皆さんの関心や問題意識などを教えてください！
この授業はSDGsの「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM310M			△	○	◎
科目名	演習II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本演習は、演習Iで決定した各自のテーマに関するリサーチを行い、受講生の研究をさらに磨いていくことが目的です。研究報告を通じ、受講生の報告・質疑応答によってプレゼンテーション能力の向上にも寄与したいと考えています。なお、報告の内容・表現・質疑応答が悪い場合にはやり直してもらうことがあります。また、演習Iから引き続き、ゼミ全体での共通のテーマに関する調査・分析も行う予定です。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】

社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。

【コミュニケーション力】

意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。

【自立的行動力】

公共の問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

適宜指示、また必要に応じてレジюме・資料等をMoodle and/or Teamsに掲載します。

(SDGs[特に7・12・15など]の観点から、紙媒体でのレジюме・資料等の配布はいたしません。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 石黒圭 (2012) 『論文・レポートの基本』日本実業出版社
 - 伊藤修一郎 (2022) 『政策リサーチ入門増補版：仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会
 - 久米郁男 (2013) 『原因を推論する：政治分析方法論のすゝめ』有斐閣
 - 小池和男 (2000) 『聞きとりの作法』東洋経済新報社
 - 近藤克則 (2018) 『研究の育て方：ゴールとプロセスの「見える化」』医学書院
 - 佐藤郁哉 (2002) 『フィールドワークの技法』新曜社
 - 佐藤雅昭 (2016) 『なぜあなたの研究は進まないのか』メディカルレビュー社
 - 酒井聡樹 (2007) 『これから卒論・レポートを書く若者のために』共立出版
 - 戸田山和久 (2012) 『新版論文の教室：レポートから卒論まで』NHKブックス
 - 名古屋大学教育学部附属中学校・戸田山和久 (2014) 『はじめよう、ロジカル・ライティング』ひつじ書房
- その他、受講生の関心や研究テーマに従って、参考となる文献を適宜紹介します。

演習II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス、演習II共通テーマの検討
2回	論文作成のために：仮説の設定、分析方法の検討、根拠の収集
3回	共通テーマの調査・分析について
4回	共通テーマの調査・文献報告
5回	共通テーマの調査・文献報告
6回	研究テーマに基づく報告（各自の研究テーマに関する文献報告・調査報告等）
7回	研究テーマに基づく報告（各自の研究テーマに関する文献報告・調査報告等）
8回	共通テーマの調査・文献報告
9回	共通テーマの調査・文献報告
10回	研究テーマに基づく報告（各自の研究テーマに関する文献報告・調査報告等）
11回	研究テーマに基づく報告（各自の研究テーマに関する文献報告・調査報告等）
12回	研究テーマの再検討：質疑を受けたうえでのテーマの妥当性の検証
13回	研究計画の見直し・修正
14回	研究テーマ・方向性の再確認
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告40%、議論への参加・貢献40%、
※無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象、無断欠席4回以上の場合には - 評価（評価不能）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業外学習については、事前学習としては主に文献の読み込み・資料の作成、事後学習としては報告で得られたコメントの整理等を想定しています。

履修上の注意 /Remarks

本演習では、随時読むべき文献・参考となる資料や論文を示していく予定ですが、受講生には常日ごろから活字を読む習慣をつけておいて欲しいと思います。様々な事象について、ひとの考えを鵜呑みにするのではなく、自分で理解しようと努めること、またそれを自分の言葉で表現することを意識して議論に参加するよう心がけて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目は、特にSDGsの目標11（住み続けられるまちづくりを）と関連しています。

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM310M			△	○	◎
科目名	演習II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

演習II、III、政策実践プロジェクトII、IIIは、併せて実施するほか、2年生と合同演習を行う予定です。
本演習は、「地域資源の活用による地域創造と地域（都市）の魅力形成」など都市・地域政策に関するテーマを扱います。
2022年度前期は、担当教員の研修用務があるので、後期に演習II・IIIをペア科目として実施しますが、前期も必要に応じてオンラインで対応します。
演習IIは、あらかじめ設定された研究テーマや研究計画に基づき、研究調査活動の質と量を高め、論文作成に向けた足場固めを行います。
地域政策に関するテキストや論文の輪読、政策事例研究、研究仮説の設定と研究方法、先行研究レビュー、個人研究テーマの進捗状況の報告とディスカッションなどから構成されます。また、適宜、個別研究指導を行います。
受講生には、いずれのステップにおいても主体的な取り組みを求めます。さらに、「考える力」「探究する力」のレベルアップ、知的方法論に基づいて獲得された知識の体系化と統合化を目的とします。
成果物として、ゼミ中間論文の策定と報告、冬休み終了後に4年次の卒業研究（卒業論文）の骨格となるゼミ論文の提出を求めます。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】

社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。

【コミュニケーション力】

意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。

【自立的行動力】

公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

・ゼミ輪読用図書（別途指定します）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 伊藤修一郎(2022)『政策リサーチ入門 増補版 - 仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会
- 岩崎美紀子(2008)『「知」の方法論』岩波書店(予定)
- 戸田山和久(2012)『新版 論文の教室-レポートから卒論まで』NHK出版
- 石井一成(2011)『大学生のためのレポート・論文の書き方』ナツメ社
- 小笠原喜康(2018)『最新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書
- ・その他講義の中で適宜紹介します。

演習II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション
2. 新聞論評①、各自の研究テーマ・研究計画の発表①
3. 新聞論評②、各自の研究テーマ・研究計画の発表②
4. 新聞論評③、各自の研究テーマ・研究計画の発表③
5. 新聞論評④、各自の研究テーマ・研究計画の発表④
6. 論文紹介①、研究方法論(1)(研究計画の設計、リサーチエスション)
7. 論文紹介②、研究方法論(2):ヒアリング調査、アンケート調査
8. 論文紹介③、研究方法論(3):公的統計データによる地域分析①
9. 論文紹介④、研究方法論(4):公的統計データによる地域分析②
10. 都市政策文献精読①、公的統計データによる地域分析演習①
11. 都市政策文献精読②、公的統計データによる地域分析演習②
12. 都市政策文献精読③、公的統計データによる地域分析演習③
13. 都市政策文献精読④、公的統計データによる地域分析演習④(発表)
14. 政策事例研究(政策実践プロジェクト関連)
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ ディスカッションへの参加姿勢、授業への貢献、ゼミ論文(中間論文含む)の提出 100%
- ・ 演習に一度も参加しない者、ゼミ論文を提出しない者、受講態度がよくなく指導教員の指導に従わない者は単位認定の対象外で、成績評価で「-」と表示します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業外学習として、演習内容に沿って自主的な事前事後学習を行うほか、適宜、課題を与えるので、決められた期日までに準備してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンラインに切り替えます。
- ・ 無断欠席、理由のない遅刻、ゼミ中の私語、無関心などの逸脱行動は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。教員の指導に従わない場合は退室を命じる場合があります。
- ・ 授業を受けるという受け身の姿勢ではなく、積極的に学び、他者と協調しながら議論に貢献する姿勢が求められます。
- ・ 政策実践プロジェクトは併せて履修してください。また、後期は2年生との合同ゼミを予定していますので、履修に注意してください。
- ・ 授業計画は、政策実践プロジェクト等の進捗状況により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM310M			△	○	◎
科目名	演習II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

演習IIと政策実践プロジェクトIIは、併せて実施します。
本演習のテーマは演習Iに引き続き「多文化共生社会を創るには？」で、ジェンダーをテーマとします。文献研究とともにテーマに沿ったフィールドワークも行います。フィールドワークと文献研究を通して、また国際比較もしながら深く議論します。

7月初め（予定）にJICA（国際協力機構）主催の「世界の行政官のジェンダー主流化研修」に参加する世界各国の行政官との交流会を主催・企画し、英語による報告もします。

短いレポートを2回執筆してもらい、最後には4年次に向けての研究テーマの構想発表・質疑を行います。

【到達目標】

思考・判断・表現力：社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。

コミュニケーション力：意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。

自立的行動力：公共の問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

伊藤公雄等『女性学・男性学：ジェンダー論入門（第三版）』有斐閣アルマ、2019年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○国際女性の地位協会編『男女平等はどこまで進んだか』岩波ジュニア新書、2018年

○女子差別撤廃条約研究会編『わかる！使える！女子差別撤廃条約ガイドブック』北九州市立女性センター“ムーブ”、1999年

○佐藤文香監修『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた』明石書店、2019年

演習II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション
2. 文献輪読と議論①
3. 文献輪読と議論②
4. 「ジェンダー」先進事例研究①
5. 「ジェンダー」先進事例研究②
6. 外部ゲストによる講演
7. 研究方法論文献精読①
8. 研究方法論文献精読②
9. フィールドワークの計画と準備、議論
10. フィールドワークの反省、感想、議論
11. JICA交流会の準備
12. JICA交流会
13. 研究テーマと研究計画の構想発表・質疑①
14. 研究テーマと研究計画の構想発表・質疑②
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッションへの参加姿勢と授業 (30%)、交流会への貢献 (30%)、課題レポート (40%)。
なお、期末レポート未提出の場合には「評価不能 (-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業外学習として、演習内容に沿って自主的な事前事後学習を行うほか、適宜、課題を与えるので、決められた期日までに準備してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 無断欠席、理由のない遅刻は減点します
- ・ 授業を受けるという受け身の姿勢ではなく、積極的に学び、他者と協調しながら議論に貢献する姿勢が求められます
- ・ 授業計画は、政策実践プロジェクトなどの進捗状況により変更する場合があります

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

【SDGs】目標の 1、5、10に主に関連しています。

キーワード /Keywords

演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			△	○	◎
科目名	演習Ⅲ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

演習IIに引き続き、政治思想史・現代政治理論に関する文献の輪読・報告と討論を行います。またレポートを作成します。必要や要望に応じてゼミ合宿を行うこともあります。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】社会の諸問題について、自らの専門から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。

【コミュニケーション力】意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。

【自立的行動力】公共の問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

履修者と相談の上、決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

研究課題に応じて適宜選択します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ロールズ正義論の諸課題I 【安定性】
- 第2回 ロールズ正義論の諸課題II 【公共的理性】
- 第3回 ロールズ正義論の諸課題III 【財産所有制民主主義】
- 第4回 ロールズ正義論の諸課題IV 【社会連合】
- 第5回 ロールズ正義論の諸課題V 【グローバルな正義】
- 第6回 研究課題に関する意見交換I
- 第7回 ロールズ正義論の批判者たち
- 第8回 リバタリアニズムの諸課題I 【自己所有権論】
- 第9回 リバタリアニズムの諸課題II 【左派リバタリアニズム】
- 第10回 リバタリアニズムの諸課題III 【ベーシックインカム】
- 第11回 コミュニタリアニズム・共和主義の諸課題I 【アメリカの政治と共同体】
- 第12回 コミュニタリアニズム・共和主義の諸課題II 【キリスト教とアメリカ政治】
- 第13回 コミュニタリアニズム・共和主義の諸課題III 【同性愛と生命倫理】
- 第14回 研究課題に関する意見交換II
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み、討論への参加、報告、個人研究：100%
(出席が一切ない場合には、「評価不能(-)」となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に輪読テキストを読むこと。授業後には、授業中の討論をもとに、自らの考えをまとめてください。

履修上の注意 /Remarks

演習III 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			△	○	◎
科目名	演習Ⅲ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

大まかには民主政治と政治意識に関わる下記のような各種テーマについて比較政治・国際政治の観点から検討し、様々な政治現象が「どうあるべきか」ではなく「実際どうなっているのか」資料やデータを通じて実証的に明らかにし、論文（ゼミレポート）を執筆します。全体としては読解と執筆の二本柱です。学術論文や書籍を講読し討論や解析を行います（全員参加）。基本的には日本語資料です[稀に英語です]。この他にサブゼミと称して、有志の学生とともに、①英文翻訳・読解の勉強会と②計量分析・計量ソフト運用の勉強会を毎週交互につづけています（自由参加）。このような二層構造で運用しています。複数学年合同で実施しています。

キーワード

選挙 / 政党 / 政治意識 / 世論調査 / 民族問題 / ナショナリズム / 移民 / 極右・極左 / 民主主義 / 独裁 / 政治体制 / 政治暴力 / 内戦 / 統計 / 計量分析 / 資料調査

「政策科学について学際的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を論理的に表現できる」「意見の異なる者と積極的に議論し、協働して結論を導き出す能力を身につけている」「公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身につけている」ことが単位授与上のディプロマポリシーとなります。

教科書 /Textbooks

初回イントロダクション時、もしくはそれ以前の段階で、moodle等を通じて指定・配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回イントロダクション時、もしくはそれ以前の段階で、moodle等を通じて指定・配布します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと前期の総括
2. 夏季業績報告
3. 論文輪読テーマ1：1週目
4. 論文輪読テーマ1：2週目
5. 研究発表【1周目①】
6. 研究発表【1周目②】
7. 論文輪読テーマ2：1週目
8. 論文輪読テーマ2：2週目
9. 研究発表【2周目①】
10. 研究発表【2周目②】
11. 論文輪読テーマ3：1週目
12. 論文輪読テーマ3：2週目
13. レポート草稿への検討【1】
14. レポート草稿への検討【1】
15. 全体の総括および予備回

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への参加貢献度30% 報告の適切性30% 期末課題の品質40%

無断の欠席・遅刻は減点要素であり、報告担当のドタキャンは落第（評価不能一）とします。

演習III 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

論文輪読は(1)当日に複数配布して小グループで討議しながら理解を深め議論を行う回と(2)議論を経て現れて出てきた課題について追加調査を授業外で実施しその成果をシェアする回 の2パターンがあります。

学生による研究報告の際には、事前に論文等を回覧することが通常であるため、その場合には授業前に読んできてコメントを用意することが求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

参加者の関心にも依存しますがSDGs1, 2, 5, 8, 10, 16, 17あたりのテーマが扱われることが多いです。

キーワード /Keywords

演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			△	○	◎
科目名	演習Ⅲ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

人間と社会、そして環境の関係を理解、分析する。また、環境問題の原因やその構造を発見しその問題を解決する能力（政策形成能力）を高める。

講義全体のキーワードは、環境、社会的ジレンマ、地域、アジアの環境問題（日本、韓国、中国）、アメリカ、ドイツとEUの環境問題、市民参加とガバナンス、そしてSDGsのエネルギー（原子力、再生エネルギー）・食べ物・水問題・気候危機政策などである。

環境ゼミのテーマは、以下、授業計画・内容通りであるが、これ以外のテーマを決めてもよい。

（到達目標）

【思考・判断】社会の諸問題について、自らの専門から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。

【コミュニケーション力】意見の異なる者と積極的に議論し自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。

【自立的行動力】公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『環境学の技法』（石弘之著 東京大学出版会 ¥3,360）

○『環境問題の社会史』（飯島伸子著 有斐閣 ¥2,310）

○『環境社会学』（船橋晴俊著 弘文堂 ¥2,835）

演習III 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テーマ；政策形成・政策実施・政策過程の分析・環境

- ①中央省庁、自治体における環境関連の財政、組織、法律、環境への取り組み。
- ②環境を通じた地域再生、公共事業と地域再生。
- ③環境会計；これは資格証がもらえ、就職しやすい。
- ④エコファンド；投資者が環境に優しい企業のファンドを買い（投資）、企業の環境活動、取り組みを誘導する方法の研究（欧米では進んでいる）。
- ⑤環境コンサルタント；環境紛争、技術に関するコンサルタントとして起業可能な分野で、そのための方法、研究。
- ⑥アジアの環境政策（比較研究、日本、韓国、中国；特に中国環境問題・市場はかなり可能性がある）。
- ⑦SDGsとエネルギー政策（福島事故、原子力と再生エネルギー政策）。
- ⑧車リサイクル政策、容器包装リサイクル、家電リサイクル、PCリサイクル。
- ⑨エコタウン；全国のエコタウンの実態からエコタウンの可能性と課題の研究。
- ⑩地球温暖化問題・CO2問題、京都議定書、これらの問題に関する国際的取り組み、動向。
- ⑪エコマネーとエコビジネスと環境投資ESG
- ⑫環境リスク管理（環境リスク管理資格証がもらえる分野）
日本では始まったばかりの制度。おススメ；大阪大学環境リスク管理プログラムとの連携も可能である。
- ⑬環境社会アセスメント；環境会計、環境報告書
- ⑭自治体の環境政策の事例研究（欧米・韓国・日本の自治体比較）
- ⑮環境メディア；環境に関するメディアの報道、実態、問題点、あり方など。
- ⑯政策過程の分析。

ゼミ活動

パワーポイント発表会を行う。

特別講演会を行う。

バスツアーなどフィールドリサーチを行う。

国内大学（西南大学、九大）との共同発表会、外国大学（ソウル市所在のSang Myung大学等、中国大連大学）との交流を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートと発表（80％）、授業への貢献（20％）

レポート未提出の場合に「評価不能（-）」となります

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

ゼミ生の活動・授業内容・事前課題・事後学習内容については、
学習支援フォルダに挙げるので、参照し、準備すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

18世紀のイギリス産業革命以降、アメリカの急成長と繁栄として象徴された20世紀、しかし、今後、21世紀は、優秀な人材、知識と技術そして文化・多様性・共存といった考え方に基づくアジアの時代とも言われている。この切り口が、まさに、環境である。環境は、大量生産と消費を作り出したアメリカ型の石油文明から、経済活動と人間、社会と文化が共存できるパラダイムである。各社会や経済主体ごとの違いはあれ、今後、人間社会を取り巻くあらゆるシステムが、環境をキーワードにし、再編されることになる。
「環境」について知ることを通じ、自分のライフそして仕事を探る旅に出てみませんか！

キーワード /Keywords

人間生活と環境、環境と経済（構造）、社会的ジレンマ、制度（政策）・知識（技術）・人口（排出者・汚染者・消費者）・資源、産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題、グローバルとローカル

演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			△	○	◎
科目名	演習Ⅲ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

「政策研究を通じて地域(社会)貢献をする」ことをゼミの理念として、公共政策を研究する上で必要となる基本的な分析方法を身につけ、さらに現状分析に基づき政策提言を行う能力を習得することをゼミの目的としています。
演習Ⅲでは、演習Ⅰ・Ⅱで学んだことを踏まえ、「グループ・プロジェクト」によって、政策調査を企画し、実際に学生中心で調査を行い政策提言を行います。また、論文の書き方やプレゼンテーションの仕方を学びます。どのようなグループ・プロジェクトを行うかはそれぞれの学年の学生で話し合っ決めていきます。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。
- 【コミュニケーション能力】意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
- 【自立的行動力】公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献等の必要な文献はその都度指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

演習Ⅲで学ぶ内容はおよそ以下の通りです。基本的に政策提言をするための調査の企画、実施等が中心になります。

- 第1回 演習Ⅰ・Ⅱで学んだこと確認
- 第2回 質的調査と量的調査
- 第3回 質的調査(1) - フィールドワークとは何か
- 第4回 質的調査(2) - フィールドワークの手法
- 第5回 質的調査(3) - インタビューの方法
- 第6回 質的調査(4) - 参与観察法
- 第7回 質的調査(5) - 質的調査のまとめ
- 第8回 調査票の作成方法Ⅰ
- 第9回 調査票の作成方法Ⅱ
- 第10回 量的調査について
- 第11回 サンプリングの方法
- 第12回 クロス表について
- 第13回 クロス表の作成
- 第14回 統計的検定について
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加・貢献度・・・80% レポート等・・・20%

ゼミに全く出席していない場合には「評価不能(一)」となります。

演習III 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

普通のゼミに際しては割り当てられた箇所について十分準備をしてゼミにのぞんでください。輪読などの場合には、報告者のみでなく参加者全員が読んでくるようにしてください。授業終了後は、必ず学んだ内容については復習するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			△	○	◎
科目名	演習Ⅲ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

年金、医療、保育、障害者福祉といった社会保障関連の政治・行政・政策に関心を持っている人を歓迎します。また、図書館への指定管理者制度導入など、公共サービスの民営化・民間委託に関心を持っている人を歓迎します。演習では受講生が自分で「調べて、考えて、そして発表する」ことを目標とします。演習では受講生が自分で「調べて、考えて、そして発表する」ことを目標とします。演習IIでは、①年金（一元化・税方式）、②医療（混合診療）、③少子化（男女共同参画）についてグループに分かれてより良い政策を討論してもらいます。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。

【コミュニケーション能力】意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。

【自立的行動力】公共の問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しません。図書・雑誌論文・新聞などを組み合わせて用いますが、必要部分をコピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方・グループ分け。課題の提示
- 第2回 報告 年金①
- 第3回 報告 年金②
- 第4回 報告 医療①
- 第5回 報告 医療②
- 第6回 報告 少子化①
- 第7回 報告 少子化②
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 討論 年金①
- 第10回 討論 年金②
- 第11回 討論 医療①
- 第12回 討論 医療②
- 第13回 討論 少子化①
- 第14回 討論 少子化②
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容・討論内容...100% 欠席・遅刻1回につき、最大10点程度減点

* 受講態度が極めて悪い場合、出席を認めない場合があります。また報告内容が一定の水準に達しない場合、再報告や追加課題を求める場合があります。

一度も出席しなかった場合は、評価不能（-）とします。

演習III 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告を担当しない人も、授業前に配付資料をしっかりと読んでください。また、授業終了後に、報告や討論の内容を再検討し、自分の考えを整理してみてください。

履修上の注意 /Remarks

授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。
資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

特になし。

演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 上條 諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			△	○	◎
科目名	演習Ⅲ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本演習では、現代民主政治の理論的・実証的分析に関する文献を講読することで、民主主義諸国における政治に対する知識、見方を養うとともに、自身の関心のある領域の先行研究を収集・整理・批判的に検討し、当該分野に残る問題点・課題を的確に指摘する能力を身に付けることを目的とします。

具体的には、まず先行研究の読み方に関する文章（曾我（2014））を読んだうえで、各人の関心に基づいて選んだ日本語及び英語の文献について担当を決めて報告をしてもらい、全員で議論をしていきます。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】社会の諸問題について、自らの専門から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。

【コミュニケーション力】意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。

【自立的行動力】公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

曾我謙悟 2014. 「先行研究を読むとはいかなる営みなのか（上）（中）（下）」『書齋の窓』635, 636, 637号
その他は各回で適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に無し

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

（参加人数によって変更する場合があります）

第1回 オリエンテーション

第2回 文献講読/曾我（2014）、担当決め

第3回 文献講読

第4回 文献講読

第5回 文献講読

第6回 文献講読

第7回 文献講読

第8回 文献講読

第9回 文献講読

第10回 文献講読

第11回 文献講読

第12回 文献講読

第13回 文献講読

第14回 文献講読

第15回 予備日

演習III 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への貢献50%、報告及び資料の質50%

*正当な理由なく3回以上欠席した場合は「評価不能(一)」とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告者以外の方も、議論に貢献すべく文献の各回該当部を精読してくることが当然の前提とされます。成績評価の欄の記述に明らかなように、ただ出席してその場にいるというだけでは評価の対象にはなりません。

履修上の注意 /Remarks

無断欠席・遅刻は厳禁です。必ず事前に連絡をしてください。特に、報告担当回に無断欠席した場合、即時落第とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 舞 / Mai Yoshida / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			△	○	◎
科目名	演習Ⅲ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本演習では、グループワークで自らの関心に基づき、テーマを決め、最終的には報告書（もしくは論文）の作成まで、受講生のリサーチ力とレポート能力を高めていきます。自分の課題の性格・内容に応じて、必要であれば、グループワーク、インタビューやファシリテーション能力の獲得を行ってまいります。目標を立て、その実現に向かって頑張ってください。本授業では現場での実践や体験も重んじます。

- { 思考・判断・表現力 } 社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。
- { コミュニケーション力 } 意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
- { 自立的行動力 } 公共の問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。必要に応じてレジュメや資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』現代講談社新書、2009年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス
- 第2回研究テーマ・研究対象の検討と設定
- 第3回仮説設定
- 第4回調査対象の検討と選定
- 第5回質問の検討、事前準備
- 第6回調査の方法
- 第7回調査結果の整理と分析について
- 第8回調査についての報告と議論①
- 第9回調査についての報告と議論②
- 第10回調査についての報告と議論③
- 第11回レポート・論文の書き方① 章構成
- 第12回レポート・論文の書き方② 参考文献
- 第13回テーマ学習の成果報告とコメント
- 第14回テーマ学習の成果報告コメントへのリプライ
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 講義中の質問や討議における積極性・授業への姿勢 (50%)
 - (2) レジュメ・プレゼン内容 (50%)
- ※ 授業を5回以上欠席した場合、期末試験未受験者は「評価不能(-)」となります。

演習III 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、次回のテーマについて関連する記事や文献を前もって収集すること。
事後学習として、各回の議論が自分のテーマにどのように応用可能が考察すること。

履修上の注意 /Remarks

・ 授業計画は、受講生の人数や関心、進捗状況などにより変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業研究の事前準備として、積極的に外に出て、しっかり見て、歩いて、聞いて、行動してください。

キーワード /Keywords

調査法、プレゼンテーション、グループディスカッション

演習Ⅲ【昼】

担当者名 黒石 啓太 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			△	○	◎
科目名	演習Ⅲ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この演習では、地方自治をテーマとして多角的な観点から議論を深めていくことを目的とするものである。相次ぐ自然災害や感染症への対応において自治体が重要な役割を担ってきた一方で、近年の超高齢・人口減少社会においては、自治体の行財政運営に様々な工夫が求められている。

演習Ⅲでは、受講者の関心に応じた発展的な文献を選定し、これを精読することとおして地方自治に関する基本的な構造や実態を理解することをめざす。また、受講生間での議論により、多角的な視座から物事を理解する能力を養うこととしたい。「調査報告」では、地方自治に関する近年のテーマについて、受講生からの報告をもとに議論し、卒業論文の作成に向けた準備も行う。

(到達目標)

DP5 自立的行動力：公共の問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

DP4 コミュニケーション力：意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。

DP3 思考・判断・表現力：社会の諸問題について、自らの専門から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。

教科書 /Textbooks

受講生の関心に応じて適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の関心に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【演習の進め方とルール】
- 2回 近年の地方自治を取り巻く環境【地方自治をめぐる近年の論点】
- 3回 発展的文献の購読と報告①【ガバナンス論】
- 4回 発展的文献の購読と報告②【社会関係資本論】
- 5回 発展的文献の購読と報告③【アメリカの地方自治】
- 6回 発展的文献の購読と報告④【イギリスの地方自治】
- 7回 発展的文献の購読と報告⑤【ドイツの地方自治】
- 8回 発展的文献の購読と報告⑥【フランスの地方自治】
- 9回 個別テーマに関する調査報告①【コロナ対策(特別定額給付金)】
- 10回 個別テーマに関する調査報告②【コロナ対策(規制と補償)】
- 11回 個別テーマに関する調査報告③【コロナ対策(ワクチン接種)】
- 12回 個別テーマに関する調査報告④【コロナ対策(都市封鎖)】
- 13回 個別テーマに関する調査報告⑤【コロナ対策(小括)】
- 14回 調査報告のとりまとめ
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加意欲、積極的な発言、文献購読等の準備...100%

※正当と認められる理由なく自身の担当報告を行わなかった場合には、「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習で理解が難しかった箇所などをメモしておき、授業時間内に質問するなどして疑問を残さないよう努力を行うこと。
事後学習では、授業内容の振り返りを行うこと。

演習III 【昼】

履修上の注意 /Remarks

行政学、地方自治論等の関連科目もあわせて履修することを推奨する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

上記の授業計画・内容は予定であり、受講者の関心や希望に柔軟に対応できるよう配慮します。
ぜひ皆さんの関心や問題意識などを教えてください！
この授業はSDGsの「住み続けられるまちづくり」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			△	○	◎
科目名	演習Ⅲ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本演習では、日常生活で感じる身近な事柄から政策を考え、グループワークにより、問題の背景などの現状を把握する技術を学ぶことを目的とします。また現状を理解し、仮説の検証を行い、政策提言できるまでの分析手法を習得し、さらに調査結果の発表を通じ、他者に伝えるスキルを身に付けるということもゼミの目的となります。

また個人の研究活動としては、演習Iで作成した研究計画に従い、受講生各自がそれぞれのテーマに沿って課題の分析・執筆をすすめることを目的とします。学期中、少なくとも2回は研究についての報告を行ってもらいます。また、ゼミ生と相談のうえ、受講生全員のテーマや興味関心と共通する文献の輪読・議論も行う予定です。研究報告を重ね、受講生と議論をするなかで、研究の結論を導き、本演習が終わるまでに、各自のゼミ論文が完成することを目指します。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】

社会の諸問題について、自らの専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。

【コミュニケーション力】

意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。

【自律的行動力】

公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

適宜指示、また必要に応じてレジュメ・資料等をMoodle and/or Teamsに掲載します。
(SDGs[特に7・12・15など]の観点から、紙媒体でのレジュメ・資料等の配布はいたしません。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 石黒圭(2012)『論文・レポートの基本』日本実業出版社
- 伊藤修一郎(2022)『政策リサーチ入門増補版：仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会
- 久米郁男(2013)『原因を推論する：政治分析方法論のすゝめ』有斐閣
- 近藤克則(2018)『研究の育て方：ゴールとプロセスの「見える化」』医学書院
- 酒井聡樹(2007)『これから卒論・レポートを書く若者のために』共立出版
- 佐藤雅昭(2016)『なぜあなたの研究は進まないのか』メディカルレビュー社
- 戸田山和久(2012)『論文の教室：レポートから卒論まで、新版』NHKブックス
- 名古屋大学教育学部附属中学校・戸田山和久(2014)『はじめよう、ロジカル・ライティング』ひつじ書房

その他、受講生の関心や研究テーマに従って、参考となる文献を適宜紹介します。

演習Ⅲ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス
2回	調査の計画(1) テーマ、リサーチクエスト、仮説の設定
3回	調査の計画(2) 調査対象の選定、質問の検討
4回	調査の実習
5回	研究報告(1) 研究テーマに関する分析結果について①
6回	研究報告(2) 研究テーマに関する分析結果について②
7回	研究報告(3) 研究テーマに関する分析結果について③
8回	調査実施
9回	結果の分析(1) 聞き取り調査で得られた情報の把握
10回	結果の分析(2) 仮説の検討
11回	結果の分析(3) 解釈と結論
12回	結論の検討と議論
13回	研究報告(4) 仮説検証の結果、結論の提示①
14回	研究報告(5) 仮説検証の結果、結論の提示②
15回	まとめ・ゼミ論の提出

成績評価の方法 /Assessment Method

報告40%、議論への参加・貢献40%、学期末の課題(ゼミ論文の提出)20%
※無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象、無断欠席4回以上の場合は-評価(評価不能)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業外学習について、事前学習としては主に文献の読み込み・資料の作成、事後学習としては報告で得られたコメントの整理等を想定しています。

履修上の注意 /Remarks

本演習では、随時読むべき文献・参考となる資料や論文を示していく予定ですが、受講生には常日ごろから活字を読む習慣をつけておいて欲しいと思います。様々な事象について、ひとの考えを鵜呑みにするのではなく、自分で理解しようと努めること、またそれを自分の言葉で表現することを意識して議論に参加するよう心がけて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミ全体の活動(調査実施)と個人の活動(ゼミ論文のための研究)の両方が同時進行する慌ただしいゼミですが、両活動に共通する文献を輪読していく予定です。また「現場」にいくことと「机上」でじっくり考えること、どちらも大切だということを是非、実感して欲しいと思っています。

この科目は、特にSDGsの目標11(住み続けられるまちづくりを)と関連しています。

キーワード /Keywords

演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			△	○	◎
科目名	演習Ⅲ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

演習Ⅱ、Ⅲ、政策実践プロジェクトⅡ、Ⅲは、併せて実施するほか、2年生と合同演習を行う予定です。本演習は、「地域資源の活用による地域創造と地域（都市）の魅力形成」など都市・地域政策に関するテーマを扱います。

2022年度の演習Ⅱ・Ⅲは、後期にペア科目として実施します。

演習Ⅲは、個人テーマに沿った研究調査活動を継続していくなかで、地域政策に関する理解や深度を深めていきます。また、個別研究指導も継続するほか、研究報告を実施します。

ゼミ中間論文の策定と報告、演習Ⅲの終了前に4年次の卒業研究（卒業論文）の骨格となるゼミ論文の提出を求めます。

受講生には、いずれのステップにおいても主体的な取り組みを求めます。さらに、研究調査の質を高めるため、「考える力」「探究する力」のレベルアップ、知的方法論にもとづき獲得された知識の体系化と統合化を目的とします。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】

社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。

【コミュニケーション力】

意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。

【自立的行動力】

公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

演習Ⅰと共用分

○岩崎美紀子(2008)『「知」の方法論』岩波書店

○伊藤修一郎(2022)『政策リサーチ入門 増補版 - 仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○戸田山和久(2012)『新版 論文の教室-レポートから卒論まで』NHK出版

○石井一成(2011)『大学生のためのレポート・論文の書き方』ナツメ社

○小笠原喜康(2018)『最新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書

・その他講義の中で適宜紹介します。

演習III 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション
2. 新聞論評、研究報告（ゼミ中間論文の発表、今後の研究計画）①
3. 新聞論評、研究報告（ゼミ中間論文の発表、今後の研究計画）②
4. 新聞論評、研究報告（ゼミ中間論文の発表、今後の研究計画）③
5. 新聞論評、研究報告（ゼミ中間論文の発表、今後の研究計画）④
6. まちづくり政策文献精読①
7. まちづくり政策文献精読②
8. まちづくり政策文献精読③
9. 研究方法論精読①、政策研究報告（2年生）
10. 研究方法論精読②、政策研究報告（2年生）
11. 研究方法論精読③、政策研究報告（2年生）
12. 知の方法論精読①、政策事例研究①（政策実践プロジェクト関連）
13. 知の方法論精読②、政策事例研究②（政策実践プロジェクト関連）
14. 知の方法論精読③、政策事例研究③（政策実践プロジェクト関連）
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ ディスカッションへの参加姿勢、授業への貢献、ゼミ論文（中間論文含む）の提出 100%
- ・ 演習に一度も参加しない者、ゼミ論文を提出しない者、受講態度がよくなり指導教員の指導に従わない者は単位認定の対象外で、成績評価で「-」と表示します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業外学習として、演習内容に沿って自主的な事前事後学習を行うほか、適宜、課題を与えるので、決められた期日までに準備してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンラインに切り替えます。
- ・ 無断欠席、理由のない遅刻、ゼミ中の私語、無関心などの逸脱行動は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。教員の指導に従わない場合は退室を命じる場合があります。
- ・ 授業を受けるという受け身の姿勢ではなく、積極的に学び、他者と協調しながら議論に貢献する姿勢が求められます。
- ・ 政策実践プロジェクトは併せて履修してください。また、2年生との合同ゼミを予定していますので、履修時間に注意をしてください。
- ・ 授業計画は、政策実践プロジェクトなどの進捗状況により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 当科目は、「8 働きがいも 経済成長も」「11 住み続けられるまちづくりを」「17 パートナーシップで目標を達成しよう」の目標に広く関連しています。

キーワード /Keywords

演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			△	○	◎
科目名	演習Ⅲ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

演習IIに引き続き「多文化共生社会」がテーマです。日本に定住する外国人についての文献の輪読、報告や討論を行います。と同時に、卒業論文の作成に向けた準備もします。各人の進捗状況に応じて、合宿などを行うこともあります。

この演習は「政策実践プロジェクトⅢ」とともに実施し、テーマに沿ったフィールドワーク(野外研修)も行います。

【到達目標】

思考・判断・表現力：社会の諸問題について、自らの専門から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。

コミュニケーション力：意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。

自立的行動力：公共の問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

田中宏『在日外国人一法の壁、心の溝 第三版』岩波新書、1995年。

西日本新聞社編『増補新移民時代-外国人労働者と共に生きる社会へ』明石書店、2017年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

毛受敏浩『限界国家：人口減少で日本が迫られる最終選択』朝日新聞社、2017年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業オリエンテーション
- 第2回 『在日外国人』輪読と議論 1
- 第3回 『在日外国人』輪読と議論2
- 第4回 『在日外国人』輪読と議論3
- 第5回 『在日外国人』輪読と議論4
- 第6回 ゲスト招請あるいはフィールドワークと議論
- 第7回 『新移民時代』輪読と議論1
- 第8回 『新移民時代』輪読と議論2
- 第9回 『新移民時代』輪読と議論3
- 第10回 ゲスト招請あるいはフィールドワークと議論
- 第11回 『新移民時代』輪読と議論 4
- 第13回 『新移民時代』輪読と議論 5
- 第14回 レポート評価と返却
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告や議論の姿勢(60%)、レポート(40%)。

なお、期末レポート未提出の場合には「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に文献を精読し、議論や報告の準備をしてください。事後にはレポートなどの課題を出します。

演習III 【昼】

履修上の注意 /Remarks

無断での遅刻、欠席は認めません。
無断欠席を2回以上すると単位はありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

【SDGs】目標の 1、5、10に主に関連しています。

キーワード /Keywords

外国人労働者、外国人居住者、共生、イスラム教、ジェンダー

政策実践プロジェクトI【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM280M		○		△	◎
科目名	政策実践プロジェクト I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

政策が国、市場、地域社会に及ぼす影響、意味、環境、住民とのかかわりなど、幅広い視点から、政策とそのあり方に関して議論・事例の調査を行う。そのための実習調査の方法などを詳しく勉強し、レポートを作成・プレゼンテーションを行う。

政策調査対象の例；低炭素社会関連の取り組み

- スマートシティ・コンパクトシティ政策
- 持続可能なまちづくり（欧米・韓国・日本の比較）
- 企業の環境対策と取り組み
- 自然再生、地域再生事業
- SDGsとエネルギー政策
- 再生エネルギー、文化、観光、国際交流をテーマとした地域活性化政策
- 人口減少問題と都市環境政策
- 地域連携による活性化（島市の大学、地域、企業、自治体の協力体制の事例研究）
- 母子家庭の女性貧困、子供の貧困
- 韓国ソウル所在大学との政策合同発表会、
- 国内大学との政策合同ゼミと発表会など

教科書 /Textbooks

- 『環境学の技法』（石 弘之著 東京大学出版会 2002年 ¥3,360）
- 『社会調査法入門』（盛山和夫著 有斐閣 2004年 ¥2,415）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『フィールドワークの技法-問いを育てる 仮説をきたえる』（佐藤郁哉著 新曜社 2002年 ¥3,045）
- 『考えることの科学』（市川伸一著 中公新書 1997年 ¥693）
- 『公共事業の正しい考え方』（井堀利宏著 中公新書 2001年 ¥735）
- その他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テーマの検討と理解、テーマの決定
- 3回 新聞記事、資料集めと討論
- 4回 調査計画の発表
- 5回 調査計画の発表
- 6回 テーマと問題意識の検討I
- 7回 テーマと問題意識の検討II
- 8回 グループごとの調査方法I
- 9回 グループごとの調査方法II
- 10回 グループごとの調査方法III
- 11回 地域専門家の招待
- 12回 現地調査
- 13回 レポート作成・パワーポイントによるプレゼンテーションI
- 14回 レポート作成・パワーポイントによるプレゼンテーションII
- 15回 まとめ・評価

政策実践プロジェクトI【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートと発表(80%)、授業への貢献(20%)
レポート未提出の場合に「評価不能(-)」となります

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

ゼミ生の活動・授業内容・事前課題については、
学習支援フォルダに挙げるので、参照し、準備すること!
私の開講している「演習I」とあわせて受講すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

調査方法論、価値と科学、個人・市場・国家の関係、制度と行為、変数、説明

政策実践プロジェクトI【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM280M		○		△	◎
科目名	政策実践プロジェクトI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本ゼミにおける政策実践プロジェクトの目的は、①地方公共政策を研究する学生が必要とする基本的なフィールドワーク等の知識や調査方法を身につけること、さらに②実際に調査した内容に基づき政策提言をし、地域社会に貢献することにあります。

そのため、本年度は、第1に、北九州市における超高齢コミュニティ及び町内会・自治会等の調査あるいは商店街の来街者調査を行い、アンケート調査の設計からインタビューの仕方などを身につけてもらいます。特にアンケート調査で重要となるワーディングについては学生相互の話し合いを行いしっかり学んでもらいます。

第2に、政策コンペなどを通して、地域社会の問題を解決するための調査から政策提言へといたる一連の作業を学んでいただきます。そして、具体的な政策提言の手法を習得してもらいます。

(到達目標)

【技能】実践的な政策研究活動・調査活動をするために必要な情報を収集、分析することができる。

【コミュニケーション力】ゼミにおいて積極的に議論をしながら、協働して社会の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動】公共の問題への関心とキャリア意識を持ち続け、社会問題の解決へ向けて取り組む姿勢を有している。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

大谷信介ほか編著(2013)『新・社会調査へのアプローチ-論理と方法-』ミネルヴァ書房。

辻新六・有馬昌宏(1987)『アンケート調査の方法-実践ノウハウとパソコン支援-』朝倉書店。

伊藤修一郎(2022)『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法-(増補版)』東京大学出版会。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 入門
- 第2回 なぜ、調査する必要があるのか考える
- 第3回 調査設計(1)-調査対象を決める
- 第4回 調査設計(2)-調査方法【質的調査】
- 第5回 調査設計(3)-調査方法【量的調査】
- 第6回 調査設計(4)-調査票を作成する
- 第7回 調査設計(5)-サンプリング等
- 第8回 社会調査に関する文献の輪読(1)
- 第9回 社会調査に関する文献の輪読(2)
- 第10回 現地調査
- 第11回 現地調査-補充調査
- 第12回 調査結果の集計
- 第13回 調査結果の分析・検討
- 第14回 調査結果をまとめる
- 第15回 調査報告書の作成

成績評価の方法 /Assessment Method

調査等への参加・貢献度... 100 %

プロジェクトに全く参加していない場合には「評価不能(一)」となります。

政策実践プロジェクトI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず準備（予習）をしてから調査等には参加して下さい。また調査等の終了後には、必ず調査内容等を整理し、報告書作成ができるようしておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

政策実践プロジェクトI【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 舞 / Mai Yoshida / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM280M		○		△	◎
科目名	政策実践プロジェクト I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この授業では社会で起きている様々な現象や問題を分析するための技術の習得を目的とします。本授業では、授業では、「社会的包摂と排除」をキーワードに、受講生の皆さんが関心のある社会の諸問題を取り上げ、各テーマにかかわる政策や地域レベルで行われている取り組みについて実際に調べてもらいます。ここでは、「何が起きているか」という実態報告にとどまらず、「なぜその現象が起きているか」というマクロな構造の分析と、また「当事者はその実態をどのようにとらえているか」というミクロな分析を通して、調査対象の「研究」と政策の評価を検討していきます。基本的に受講生に各テーマの進捗状況を報告してもらい、受講生同士で議論をしてもらいます。

{ 思考・判断・表現力 } 社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。
 { コミュニケーション力 } 意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
 { 自立的行動力 } 公共の問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。必要に応じてレジュメや資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 前田拓也ほか『最強の社会調査入門：これから質的調査をはじめるときのために』2016、ナカニシヤ出版
 北川由紀彦・山口恵子『社会調査の基礎』2019、放送大学教育振興会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス
- 第2回テーマの設定と調査計画
- 第3回調査対象についての事前学習① 文献調査
- 第4回調査対象についての事前学習② 計画報告と議論
- 第5回フィールドワークの実施①
- 第6回フィールドワークの実施②
- 第7回フィールドワークの中間報告
- 第8回フィールドワークの実施③
- 第9回フィールドワークの実施④
- 第10回フィールドワークの振り返り
- 第11回研究の進捗報告と議論(1) レポート執筆：構成および要旨の検討
- 第12回研究の進捗報告と議論(2) レポート執筆および追加調査
- 第13回研究の進捗報告と議論(3) レポート執筆および追加調査
- 第14回最終プレゼンテーション
- 第15回まとめ

政策実践プロジェクトI【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 講義中の質問や討議における積極性・授業への姿勢 (60%)
- (2) レジюме・プレゼン内容 (40%)

※ 授業を5回以上欠席した場合、期末レポート未提出の場合は「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習では、各回に報告するレジюмеを準備すること。

事後学習では、授業のディスカッションを自分のテーマに引き寄せて作業を進めること。

履修上の注意 /Remarks

受講希望者は必ず第一回目のガイダンスに参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業への積極的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

社会的包摂と排除、フィールドワーク、プレゼンテーション

政策実践プロジェクトI【昼】

担当者名 黒石 啓太 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM280M		○		△	◎
科目名	政策実践プロジェクトI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

公共政策は、地域の公共的な課題解決に向けた取組みですが、これを企画・立案したり、分析・評価することには一定の能力が必要です。課題を把握し、その原因を探求し、必要な取組みを体系的に整理して実施しなければなりません。そこで、この授業では、主に身近な地域を事例としながら課題把握のための手法や調査結果の分析について学びます。

(到達目標)

DP5 自立的行動力：公共の問題への関心とキャリア意識を持ち続け、社会問題の解決へ向けて取り組む姿勢を有している。
 DP4 コミュニケーション力：ゼミにおいて積極的に議論をしながら、協働して社会の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
 DP2 技能：実践的な政策研究活動・調査活動をするために必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【演習の進め方とルール】
- 2回 地域の課題と活動主体(「公共私」の特徴と役割分担)
- 3回 証拠に基づく政策立案(EBPM)の考え方と事例
- 4回 調査研究方法の特徴【量的調査と質的調査】
- 5回 調査の設計①【対象と手法の選択】
- 6回 調査の設計②【問題意識の整理と調査項目の検討】
- 7回 調査の準備①【問題意識の整理】
- 8回 調査の準備②【対象・内容の整理】
- 9回 調査の実施①【前半】
- 10回 調査の実施②【後半】
- 11回 調査研究レポートの作成①【調査結果の精査】
- 12回 調査研究レポートの作成②【論点の抽出・一般化の検討】
- 13回 実施報告①【前半】
- 14回 実施報告②【後半】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加意欲、積極的な発言...60%
 調査研究レポート...40%
 ※正当と認められる理由なく自身の担当報告を行わなかった場合には、「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習で理解が難しかった個所などをメモしておき、授業時間内に質問するなどして疑問を残さないようにする努力を行うこと。
 事後学習では、授業内容の振り返りを行うこと。

政策実践プロジェクトI【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業はSDGsの「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

政策実践プロジェクトI【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM280M		○		△	◎
科目名	政策実践プロジェクト I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本実習は、横山担当の演習Iとペアで行います。動物行政・動物政策の分野から研究したいテーマを設定し、リサーチクエストに従って聞き取り、アンケートなどの実践的な調査を行い、分析し、結果・結論を報告することを目的とします。受講生の希望・関心によって、公的な機関の視察や現地調査といった活動も視野に入れ、適宜、必要となる調査方法・分析方法の講義を盛り込んでいく予定です。調査実習そのものの重要性もさることながら、得られた生のデータを分析し、自分たちで設定した疑問に答えを出し、それを報告する、という一連の作業過程を通じて、リサーチに関するスキルのアップをはかりたいと考えています。

(到達目標)

【技能】

実践的な政策研究活動・調査活動をするために必要な情報を収集、分析することができる。

【コミュニケーション力】

ゼミにおいて積極的に議論をしながら、協働して社会の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

公共的問題への関心とキャリア意識を持ち続け、社会問題の解決へ向けて取り組む姿勢を有している。

教科書 /Textbooks

テーマに従って適宜指示、また必要に応じてレジュメ・資料等をMoodle and/or Teamsに掲載します。
(SDGs[特に7・12・15など]の観点から、紙媒体でのレジュメ・資料等の配布はいたしません。)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

テーマに従って、適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 グループでの調査テーマの検討・設定
- 3回 グループでの調査テーマの検討・設定
- 4回 調査計画の作成・調査にむけての準備(事前調査・先行研究の検討など)
- 5回 調査計画の作成・調査にむけての準備(事前調査・先行研究の検討など)
- 6回 調査の実施
- 7回 調査結果の報告と議論
- 8回 追加・補足調査
- 9回 追加・補足調査
- 10回 調査結果の分析
- 11回 結論と課題の検討
- 13回 調査結果のまとめ
- 14回 調査結果の報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

調査・議論への参加度合い70%、調査結果の報告30%

※無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象、調査結果の報告がない場合は一評価(評価不能)とします。

政策実践プロジェクトI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては分析方法の確認（社会調査・統計分析・聞き取りの作法など）や報告資料の作成等、事後学習としては分析結果の報告に対するコメント整理等を想定しています。

履修上の注意 /Remarks

受講生の人数にもよりますが、忙しい日程で調査を行うことが予想されます。時間外での下調べや準備等を厭わないという覚悟を持った参加者を歓迎します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目は、特にSDGsの目標11（住み続けられるまちづくりを）と関連しています。

キーワード /Keywords

政策実践プロジェクトI【昼】

担当者名 /Instructor 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM280M		○		△	◎
科目名	政策実践プロジェクト I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習は、演習Iと併せて実施します。政策実践プロジェクトには、学生の自主的なテーマ設定に基づく調査活動と、教員による指定プロジェクトがありますが、いずれもフィールド調査を基本に考えています。

プロジェクトの推進は、グループワークにより行いますが、3年生と合同実施する場合があります。対象地が遠距離の場合、宿泊を伴う場合がありますので留意してください。また、飲食費などフィールドワークにかかる経費の一部は負担いただきます。

教員指定プロジェクトを実施する際は、連携する地方自治体に対して政策提案を伴う成果報告会を行うことがあります。フィールドワーク前は、資料収集に基づく仮説設定を行い、フィールドワーク後は、振り返りと獲得された知見の整理を行うことで政策研究の拡がりや深度を深めます。成果報告会の前などは時間外にグループワークを伴う場合があります。

2022年度は、前期に担当教員が研修のため不在となることや新型コロナウイルスの影響等によりフィールド活動が円滑に実施できない場合は、プログラムを簡素化するが政策事例研究や政策分析などの机上検討に変更します。

実践的なプロジェクト活動を行うことで、地域政策の現状と課題を知り、洞察力と実践的な政策提案能力を涵養することを目的とします。

(到達目標)

【技能】

実践的な政策研究活動・調査活動をするために必要な情報を収集、分析することができる。

【コミュニケーション力】

ゼミにおいて積極的に議論をしながら、協働して社会の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】

公共の問題への関心とキャリア意識を持ち続け、社会問題の解決へ向けて取り組む姿勢を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で、適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

フィールド活動を実施する場合の標準的な推進プロセスを示します。

1. オリエンテーション
2. プロジェクトの企画設計① - 目的と方法
3. プロジェクトの企画設計② - 政策テーマ、対象地域に関する検討
4. プロジェクトの企画設計③ - プロジェクト企画の決定、グループ分け
- 5-6. 事前学習 - 地域研究、調査仮説の設定等
- 7-8. フィールド調査の準備、役割分担
- 9-10. フィールド調査の実施
- 11-12. フィールド調査の振り返り (記録作成、ディスカッション)
- 13-14. 政策提案の検討
15. 政策提案の発表、振り返りレポートの作成

政策実践プロジェクトI【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 調査活動、ディスカッションへの主体的参画、役割分担、成果達成への貢献 100%
- ・ 活動に参加しない者(フィールド活動当日に体調不良により欠席する場合を除く)、受講態度がよくなく指導教員の指導に従わない者は単位認定の対象外で、成績評価で「-」と表示します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業外学習として、演習内容に沿って自主的な事前事後学習を行うほか、適宜、課題を与えるので、決められた期日までに準備してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンラインに切り替えます。
- ・ 無断欠席、理由のない遅刻、ゼミ中の私語、無関心などの逸脱行動は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。教員の指導に従わない行動や受講態度が良くない場合は、参加を認めません。
- ・ 地域活性化やまちづくりに興味をもち、前向きに取り組む学生を歓迎します。
- ・ フィールド調査前後や成果発表会を伴う場合は、準備分担に相応の時間と負担がかかることをご承知ください。
- ・ なお、授業計画はプロジェクトの内容や進捗により柔軟に対応します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 当科目は、SDGsの「8 働きがいも 経済成長も」「11 住み続けられるまちづくりを」「17 パートナリーシップで目標を達成しよう」の目標に広く関連しています。

キーワード /Keywords

政策実践プロジェクトII 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM380M		○		△	◎
科目名	政策実践プロジェクトII				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

政策が国、地域社会に及ぼす影響、意味、環境、住民とのかかわりなど、幅広い視点から、政策とそのあり方に関して議論・事例の調査を行う。そのための実習調査の方法などを詳しく勉強し、レポートを作成・プレゼンテーションを行う

政策調査対象の例；低炭素社会関連の取り組み

- スマートシティ・コンパクトシティ政策
- 持続可能なまちづくり（欧米・韓国・日本の比較）
- 水俣市の環境モデル都市関連の聞き取り調査
- 自然再生、地域再生事業、公害防止協定
- SDGsとエネルギー政策
- 再生エネルギー、文化、観光、国際交流をテーマとした地域活性化政策
- 人口減少問題と都市環境政策
- 地域連携による活性化（島市の大学、地域、企業、自治体の協力体制の事例研究）
- 母子家庭の女性貧困、子供の貧困
- 企業の環境対策と取り組み
- 韓国ソウル所在大学との政策合同発表会
- 国内大学との政策合同ゼミと発表会など

教科書 /Textbooks

- 『環境学の技法』（石弘之著 東京大学出版会 2002年 ¥3,360）
- 『社会調査法入門』（盛山和夫著 有斐閣 2004年 ¥2,415）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『フィールドワークの技法-問いを育てる 仮説をきたえる』（佐藤郁哉著 新曜社 2002年 ¥3,045）
- 『考えることの科学』（市川伸一著 中公新書 1997年 ¥693）
- 『公共事業の正しい考え方』（井堀利宏著 中公新書 2001年 ¥735）
- その他

政策実践プロジェクトII【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テーマの検討と理解、テーマの決定
- 3回 新聞記事、資料集めと討論
- 4回 調査計画の発表
- 5回 調査計画の発表
- 6回 テーマと問題意識の検討I
- 7回 テーマと問題意識の検討II
- 8回 グループごとの調査方法I
- 9回 グループごとの調査方法II
- 10回 グループごとの調査方法III
- 11回 地域専門家の招待
- 12回 現地調査
- 13回 レポート作成・パワーポイントによるプレゼンテーションI
- 14回 レポート作成・パワーポイントによるプレゼンテーションII
- 15回 まとめ・評価

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートと発表(80%)、授業への貢献(20%)
レポート未提出の場合に「評価不能(-)」となります

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

ゼミ生の活動・授業内容・事前課題については、
学習支援フォルダに挙げるので、参照し、準備すること。
私の開講している「演習II」とあわせて受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

調査方法論、価値と科学、個人・市場・国家の関係、制度と行為、変数、説明

政策実践プロジェクトII 【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM380M		○		△	◎
科目名	政策実践プロジェクトII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本ゼミにおける政策実践プロジェクトの目的は、①地方公共政策を研究する学生が必要とする基本的なフィールドワーク等の知識や調査方法を身につけること、さらに②実際に調査した内容に基づき政策提言をし、地域社会に貢献することにあります。

そのため、本年度は、第1に、北九州市における超高齢コミュニティ及び町内会・自治会等の調査あるいは商店街の来街者調査を行い、アンケート調査の設計からインタビューの仕方などを身につけてもらいます。特にアンケート調査で重要となるワーディングについては学生相互の話し合いを行いしっかり学んでもらいます。

第2に、政策コンペなどを通して、地域社会の問題を解決するための調査から政策提言へといたる一連の作業を学んでいただきます。そして、具体的な政策提言の手法を習得してもらいます。

(到達目標)

【技能】実践的な政策研究活動・調査活動をするために必要な情報を収集、分析することができる。

【コミュニケーション力】ゼミにおいて積極的に議論をしながら、協働して社会の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動】公共の問題への関心とキャリア意識を持ち続け、社会問題の解決へ向けて取り組む姿勢を有している。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大谷信介ほか編著(2013)『新・社会調査へのアプローチ論理と方法一』ミネルヴァ書房。

辻新六・有馬昌宏(1987)『アンケート調査の方法一実践ノウハウとパソコン支援一』朝倉書店。

伊藤修一郎(2022)『政策リサーチ入門一仮説検証による問題解決の技法一(増補版)』東京大学出版会。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 入門
- 第2回 なぜ、調査する必要があるのか考える
- 第3回 調査設計(1)-調査対象を決める
- 第4回 調査設計(2)-調査方法【質的調査】
- 第5回 調査設計(3)-調査方法【量的調査】
- 第6回 調査設計(4)-調査票を作成する
- 第7回 調査設計(5)-サンプリング等
- 第8回 社会調査に関する文献の輪読(1)
- 第9回 社会調査に関する文献の輪読(2)
- 第10回 現地調査
- 第11回 現地調査-補充調査
- 第12回 調査結果の集計
- 第13回 調査結果の分析・検討
- 第14回 調査結果をもとめる
- 第15回 調査報告書の作成

成績評価の方法 /Assessment Method

調査・報告書作成等への貢献度... 100 %

プロジェクトに全く参加していない場合には「評価不能(一)」となります。

政策実践プロジェクトII 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず準備（予習）をしてから調査等には参加して下さい。また調査等の終了後には、必ず調査内容等を整理し、報告書作成ができるようしておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

政策実践プロジェクトII【昼】

担当者名 狭間 直樹 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM380M		○		△	◎
科目名	政策実践プロジェクトII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

年金、医療、介護、保育、障害者福祉（就労支援・作業所）といった社会保障関連の政治・行政・政策に関心を持っている人を歓迎します。「福祉経営」「福祉ビジネス」をテーマにして、実践的な活動を行います。政策実践プロジェクトIIでは、市内の福祉NPO団体（障害者福祉事業所）の活動支援に参加してもらいます。福祉NPOの経営の現状を調査し、活動支援のための企画を行ってください。

事前に担当教員としっかり相談し、承諾を得たうえで、受講してください。

（到達目標）

【技能】実践的な政策研究活動・調査活動をするために必要な情報を収集、分析することができる。

【コミュニケーション能力】ゼミにおいて積極的に議論をしながら、協働して社会の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】公共の問題への関心とキャリア意識を持ち続け、社会問題の解決へ向けて取り組む姿勢を有している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 障害者福祉事業所の文献研究
- 第2回 福祉NPOの文献研究
- 第3回 調査の計画
- 第4回 訪問調査①
- 第5回 訪問調査②
- 第6回 訪問調査③
- 第7回 訪問調査④
- 第8回 訪問調査⑤
- 第9回 訪問調査⑥
- 第10回 企画の検討①
- 第11回 企画の検討②
- 第12回 関係団体との調整
- 第13回 事業の実施①
- 第14回 事業の実施②
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

調査・活動における貢献度・・・80% 調査・活動に関する報告・・・20%

教員が指定する調査・活動（もしくは受講生自身が企画した調査・活動）への一定時間以上の参加が単位認定の要件となる。一定時間以上参加しない受講生については、レポート提出等による救済措置を行わない。調査・活動に参加する意思がない人は受講しないように。

活動実績がまったくない場合は、評価不能（-）とします。

政策実践プロジェクトII 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

障害者福祉や福祉NPOなどに関心をもっておいください。調査・活動終了後、その内容をなるべく早い段階で詳細に記録しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。
グループでの調査・活動にあたっては、日程の調整が必要になる。日頃からスケジュールの管理を適切に行っておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

特になし。

政策実践プロジェクトII【昼】

担当者名 吉田 舞 / Mai Yoshida / 政策科学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM380M		○		△	◎
科目名	政策実践プロジェクトII				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

この授業では、北九州市の外国人住民にかかわる政策や、市民レベルの取り組みについて学びます。前半は、マクロな観点から、グローバルな人の移動と、日本における外国人受け入れ政策の歴史から現状について、関連文献を講読します。新型コロナウイルスの感染状況によりますが、後半は、実際に北九州市および福岡県内の政策や取り組みについて、関連組織・団体でのインタビュー調査や、フィールドワークを行います。また、日本で働く技能実習生や、介護福祉士などアジアからの労働者との交流も予定しています。

{技能} 実践的な政策研究活動・調査活動をするために必要な情報を収集、分析することができる。
{コミュニケーション力} ゼミにおいて積極的に議論をしながら、協働して社会の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
{自立的行動力} 公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。必要に応じてレジュメや資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 伊藤泰郎・崔博憲 ほか『日本で働く』2021, 松籟社。
- 岩淵 功一『多様性との対話－ダイバーシティ推進が見えなくするもの』2021, 青弓社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回政策実践プロジェクトIIの概要説明～参加型実践調査
- 第2回グループ・ワーク：メディアからみる在日外国人
- 第3回はなぜ移動するのか？グローバルな人の移動
- 第4回滞日外国人に関する入管政策・先行研究の検討
- 第5回日本における入管政策の検討
- 第6回日本で働く① 技能実習生
- 第7回日本で働く② 日系人と留学生
- 第8回日本で働く③ 外国人労働者との交流
- 第9回 「多文化共生」にかかわる政策・先行研究の検討
- 第10回日本で暮らす① 移住者支援との意見交換
- 第11回日本で暮らす② 外国人支援現場へのフィールドワーク
- 第12回グループ・ワーク① 北九州市における政策と取り組み：リサーチ
- 第13回グループ・ワーク② 北九州における政策と取り組み：レポート作成
- 第14回グループ・ワーク③ 北九州における政策と取り組み：課題の検討
- 第15回調査結果についての報告

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 講義中の質問や討議における積極性・授業への姿勢 (60%)
- (2) レジュメ・プレゼン内容 (40%)

※ 授業を5回以上欠席した場合、期末レポート未提出の場合は「評価不能(-)」となります。

政策実践プロジェクトII 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各種メディアを通じて提供される国内外の時事問題に関する情報に関心に向け、その概要を把握すること。
事前学習として、次回授業に関する文献およびリサーチを課すことがある。

履修上の注意 /Remarks

授業内容は、受講生の人数や問題関心によって変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業への積極的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

多文化共生、フィールドワーク、インタビュー

政策実践プロジェクトII 【昼】

担当者名 /Instructor 黒石 啓太 / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM380M		○		△	◎
科目名	政策実践プロジェクトII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

公共政策は、地域の公共的な課題解決に向けた取組みですが、これを企画・立案したり、分析・評価することには一定の能力が必要です。課題を把握し、その原因を探求し、必要な取組みを体系的に整理して実施しなければなりません。そこで、この授業では、主に身近な地域を事例としながら課題把握のための手法や調査結果の分析について学びます。

(到達目標)

- DP5 自立的行動力：公共の問題への関心とキャリア意識を持ち続け、社会問題の解決へ向けて取り組む姿勢を有している。
- DP4 コミュニケーション力：ゼミにおいて積極的に議論をしながら、協働して社会の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- DP2 技能：実践的な政策研究活動・調査活動をするために必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【演習の進め方とルール】
- 2回 地域の課題と活動主体(「公共私」の特徴と役割分担)
- 3回 証拠に基づく政策立案(EBPM)の考え方と事例
- 4回 調査研究方法の特徴【量的調査と質的調査】
- 5回 調査の設計①【対象と手法の選択】
- 6回 調査の設計②【問題意識の整理と調査項目の検討】
- 7回 調査の準備①【問題意識の整理】
- 8回 調査の準備②【対象・内容の整理】
- 9回 調査の実施①【前半】
- 10回 調査の実施②【後半】
- 11回 調査研究レポートの作成①【調査結果の精査】
- 12回 調査研究レポートの作成②【論点の抽出・一般化の検討】
- 13回 実施報告①【前半】
- 14回 実施報告②【後半】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加意欲、積極的な発言...60%
調査研究レポート...40%
※正当と認められる理由なく自身の担当報告を行わなかった場合には、「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：各回の授業で次回取り扱う内容を説明するので、これに関する基本的な準備を行ってきてください。
事後学習：調査等終了後には、メモ等を整理し記録をつけ、報告のための準備を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

政策実践プロジェクトII 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業はSDGsの「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

政策実践プロジェクトII【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM380M		○		△	◎
科目名	政策実践プロジェクトII				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

本実習は、横山担当の演習IIとペアで行います。動物行政・動物政策の分野から研究したいテーマを設定し、リサーチクエストに従って聞き取り、アンケートなどの実践的な調査を行い、分析し、結果・結論を報告することを目的とします。受講生の希望・関心によって、公的な機関の視察や現地調査といった活動も視野に入れ、適宜、必要となる調査方法・分析方法の講義を盛り込んでいく予定です。調査実習そのものの重要性もさることながら、得られた生のデータを分析し、自分たちで設定した疑問に答えを出し、それを報告する、という一連の作業過程を通じて、リサーチに関するスキルのアップをはかりたいと考えています。

(到達目標)

【技能】

実践的な政策研究活動・調査活動をするために必要な情報を収集、分析することができる。

【コミュニケーション力】

ゼミにおいて積極的に議論をしながら、協働して社会の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

公共的問題への関心とキャリア意識を持ち続け、社会問題の解決へ向けに取り組む姿勢を有している。

教科書 /Textbooks

テーマに従って適宜指示、また必要に応じてレジュメ・資料等をMoodle and/or Teamsに掲載します。
(SDGs[特に7・12・15など]の観点から、紙媒体でのレジュメ・資料等の配布はいたしません。)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

テーマに従って、適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 グループでの調査テーマの検討・設定
- 3回 グループでの調査テーマの検討・設定
- 4回 調査計画の作成・調査にむけての準備(事前調査・先行研究の検討など)
- 5回 調査計画の作成・調査にむけての準備(事前調査・先行研究の検討など)
- 6回 調査の実施
- 7回 調査結果の報告と議論
- 8回 追加・補足調査
- 9回 追加・補足調査
- 10回 調査結果の分析
- 11回 結論と課題の検討
- 13回 調査結果のまとめ
- 14回 調査結果の報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

調査・議論への参加度合い70%、調査結果の報告30%

※無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象、調査結果の報告がない場合は - 評価(評価不能)とします。

政策実践プロジェクトII 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては分析方法の確認（社会調査・統計分析・聞き取りの作法など）や報告資料の作成等、事後学習としては分析結果の報告に対するコメント整理等を想定しています。

履修上の注意 /Remarks

受講生の人数にもよりますが、忙しい日程で調査を行うことが予想されます。時間外での下調べや準備等を厭わないという覚悟を持った参加者を歓迎します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目は、特にSDGsの目標11（住み続けられるまちづくりを）と関連しています。

キーワード /Keywords

政策実践プロジェクトII 【昼】

担当者名 /Instructor 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM380M		○		△	◎
科目名	政策実践プロジェクトII				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

本演習は、演習IIと併せて実施します。政策実践プロジェクトには、学生の自主的なテーマ設定に基づく調査活動と、教員による指定プロジェクトがありますが、いずれもフィールド調査を基本に考えています。

プロジェクトの推進は、グループワークにより行いますが、2年生と合同実施する場合があります。対象地が遠距離の場合、宿泊を伴う場合がありますので留意してください。また、飲食費などフィールドワークにかかる経費の一部は負担いただきます。

教員指定プロジェクトを実施する際は、連携する地方自治体に対して政策提案を伴う成果報告会を行うことがあります。フィールドワーク前は、資料収集に基づく仮説設定を行い、フィールドワーク後は、振り返りと獲得された知見の整理を行うことで政策研究の拡がりや深度を深めます。成果報告会の前などは時間外にグループワークを伴う場合があります。

2022年度は、前期に担当教員が研修のため不在となることや新型コロナウイルスの影響等によりフィールド活動が円滑に実施できない場合は、プログラムを簡素化するが政策事例研究や政策分析などの机上検討に変更します。

実践的なプロジェクト活動を行うことで、地域政策の現状と課題を知り、洞察力と実践的な政策提案能力を涵養することを目的とします。

(到達目標)

【技能】

実践的な政策研究活動・調査活動をするために必要な情報を収集、分析することができる。

【コミュニケーション力】

ゼミにおいて積極的に議論をしながら、協働して社会の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

公共的問題への関心とキャリア意識を持ち続け、社会問題の解決へ向けて取り組む姿勢を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で、適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

標準的な推進プロセスを示します。

1. オリエンテーション
2. プロジェクトの企画設計① - 目的と方法
3. 事前検討-政策研究テーマ
4. 事前検討-対象地域の選定
5. プロジェクトの企画設計② - プロジェクトのテーマと対象地の決定
6. プロジェクトの企画設計③ - グループ分け
- 7-9. 実証研究の事前学習 - 調査対象の政策研究と調査仮説の設定
- 10-12. フィールド調査の準備-役割分担、工程設計
- 13-15. フィールド調査の実施 (夏休み期間を想定)

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 調査活動、ディスカッションへの主体的参画、役割分担、成果達成への貢献 100%
- ・ 活動に参加しない者(フィールド活動当日に体調不良により欠席する場合を除く)、受講態度がよくなく指導教員の指導に従わない者は単位認定の対象外で、成績評価で「-」と表示します。

政策実践プロジェクトII【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業外学習として、演習内容に沿って自主的な事前事後学習を行うほか、適宜、課題を与えるので、決められた期日までに準備してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンラインに切り替えます。
- ・ 無断欠席、理由のない遅刻、ゼミ中の私語、無関心などの逸脱行動は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。教員の指導に従わない行動や受講態度が良くない場合は、参加を認めません。
- ・ 地域活性化やまちづくりに興味をもち、前向きに取り組む学生を歓迎します。
- ・ なお、授業計画はプロジェクトの内容や進捗により柔軟に対応します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 当科目は、SDGsの「8 働きがいも 経済成長も」「11 住み続けられるまちづくりを」「17 パートナーシップで目標を達成しよう」の目標に広く関連しています。

キーワード /Keywords

政策実践プロジェクトII 【昼】

担当者名 /Instructor 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM380M		○		△	◎
科目名	政策実践プロジェクトII				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

政策実践プロジェクトIIは、演習IIと併せて実施します。フィールドワークの対象として、「多文化共生プロジェクト」を実施しているNGOや公的機関、性的マイノリティの権利擁護を進めている団体などを考えています。なお、他のゼミとの合同で実施することもあります。

実践的なフィールドワークによって、自治体あるいはNGO、在日外国人による多文化共生の取り組みや現状、課題を知り、具体的な政策提案能力を養うことが目的です。

【到達目標】

技能：実践的な政策研究活動・調査活動をするために必要な情報を収集、分析することができる。

コミュニケーション力：ゼミにおいて積極的に議論をしながら、協働して社会の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

自立的行動力：公共的問題への関心とキャリア意識を持ち続け、社会問題の解決へ向けに取り組む姿勢を有している。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 フィールドワークの説明と候補場所
- 第3回 フィールドワークの予備調査①
- 第4回 フィールドワークの予備調査②
- 第5回 フィールドワークの実施①
- 第6回 フィールドワークの実施②
- 第7回 フィールドワークについての議論①
- 第8回 フィールドワークについての議論②
- 第9回 調査レポートの作成
- 第10回 各人からの報告①
- 第11回 各人からの報告②
- 第12回 各人からの報告③
- 第13回 全体報告
- 第14回 まとめ①
- 第15回 まとめ②

成績評価の方法 /Assessment Method

調査や議論への参加(40%)、報告(40%)、調査への貢献(20%)。

なお、フィールドワークや外部ゲストを招請した講演会などに複数回不参加の場合は「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィールドワークの対象に関する事前学習、事後の報告のための報告や議論の準備は必ず行ってください。

履修上の注意 /Remarks

理由のない遅刻や欠席は認めません。

政策実践プロジェクトII 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

【SDGs】目標の 1、5、10に主に関連しています。

キーワード /Keywords

卒業研究【昼】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM410M			△	○	◎
科目名	卒業研究				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業では、教員の指導の下、各個人の設定したテーマについて、研究レポートを執筆・完成させます。扱うテーマは原則、政治理論（政治思想史を含む）もしくは政策に関わるものとしませんが、学生の興味・関心にそって、それら以外であっても、出来る限り幅広いテーマを扱えるよう努力します。授業は、それぞれが進めてきた研究を教員に報告し、それに対してフィードバックを与える形式をとります。また、中間成果発表の場では、学生が互いに研究の状況を報告しあい、他人の研究を批判的に考察する目を養います。要望や必要によっては合宿を行うこともあります。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【1学期】

第1/2回 研究の進め方
第3/4回 テーマ発表
第5/6回 研究報告I
第7/8回 研究報告II
第9/10回 研究報告III
第11/12回 中間成果発表I
第13/14回 中間成果発表II
第15回 中間成果発表III

【2学期】

第16/17回 研究報告IV
第18/19回 研究報告V
第20/21回 研究報告VI
第22/23回 レポートの引用形式の復習
第24/25回 レポートの仕上げI
第26/27回 レポートの仕上げII
第28/29回 レポートの仕上げIII
第30回 最終確認

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート：100%
(レポートを提出しない場合には、「評価不能(-)」となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にその回に報告すべき研究の進捗状況をまとめてくること。また授業で指摘されたことに基づき、適宜研究とレポート執筆を進めてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究【昼】

担当者名 /Instructor 上條 諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM410M			△	○	◎
科目名	卒業研究				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現代民主政治に関する卒業研究の指導を行う。テーマに関しては、民主主義諸国の政治に関わるものなら幅広く歓迎するが、教員の専門上、民主主義体制における政治エリート（議員、執政長官、官僚など）とその集団（政党など）の分析が中心的なテーマとなる。
卒業研究の最終目標（最終課題）は、各自の関心に則って選んだテーマに関する先行研究レビュー（Literature Review）の執筆である。
具体的には、1学期ではまず、各人が関心に基づいて選んだ研究領域における重要文献の購読と並行して、文献リストの作成を行う。2学期は作成した文献リストに基づいて、その分野の現況を紹介する報告を行ってもらい、この報告を基に最終課題を執筆してもらう。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】公共政策課題や学術的課題について、自らの専門から論理的に思考し、自らの見解を表現することができる。

【コミュニケーション力】積極的に議論し、自分の見解の質を高め、それを論理的に伝えることができる。

【自立的行動力】公共性のある研究課題に関心を持ち続け、研究の知識をその後の社会生活に活かす姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

各人が必要な文献・資料を収集すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

戸田山和久(2012)『新版 論文の教室-レポートから卒論まで』NHKブックス
小笠原喜康(2018)『最新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 1学期 >

第1回 オリエンテーション

第2回 構想報告

第3-14回 文献講読/文献リスト作成

第15回 文献リストの確認

< 2学期 >

第16-17回 研究報告

第18-25回 修正、追加の文献の講読

第26-27回 初稿報告

第28-29回 修正と議論

第30回 形式の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への貢献 (30%)、卒業研究の質 (70%)

*正当な理由なく3回以上欠席した場合は「評価不能(一)」とする。

卒業研究【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告準備のみならず、分析や論文執筆も授業時間外がメインになる。上記のスケジュールを参考に計画的に進めること。

履修上の注意 /Remarks

「卒業論文」の履修希望者の有無によってスケジュールが変更される可能性がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / MIYAKE HIROYUKI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM410M			△	○	◎
科目名	卒業研究				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

『卒業研究』の到達目標として、下記の事項があげられるが、それら3つをきちんと確認したうえで、改めてそれを達成するために、1年から3年まで演習科目や講義科目で習って来た内容を中心として、自らが興味を持つ事柄をテーマに設定する。そのテーマに沿った文献や論文などの資料を読み合わせ、討論することによって、『卒業研究』の中身を可視化できる。『卒業研究』及び『卒業論文』は、大学時代の学習の集大成であることきちんと理解し、積極的な取り組み。

【思考・判断・表現力】公共政策課題や学術的課題について、自らの専門から論理的に思考し、自らの見解を表現することができる。

【コミュニケーション力】積極的に議論し、自分の見解の質を高め、それを論理的に伝えることができる。

【自立的行動力】公共性のある研究課題に関心を持ち続け、研究の知識をその後の社会生活に活かす姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

旺文社編 『レポート・論文の書き方』旺文社、2015年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

市子みどり編 『資料検索入門～レポート・論文を書くために』慶應義塾大学出版会、2014年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 『卒業研究』とは何か?の討論方式で考える	第2回 『レポート・論文の書き方』第1章心構えの読解と共有
第3回 『レポート・論文の書き方』第2章 レポートの書き方	第3章 論文の書き方
第4回 『レポート・論文の書き方』付録 文献・資料の表記の仕方	
第5回 『資料検索入門』第1章 レポート・論文を書く	第6回 『資料検索入門』第2章 情報の種類と評価
第7回 『資料検索入門』第3章 資料検索の実際	第8回 『資料検索入門』第4章 統計資料の種類と入手方法
第9回 『資料検索入門』第5章 資料を入手するには	第10回 『資料検索入門』付録 検索の手引き
第11回 考えた題材・狙いの各自発表 3人	第12回 考えた題材・狙いの各自発表 3人
第13回 考えた題材・狙いの発表 4人	第14回 考えた章構成の発表 3人
第15回 考えた章構成の発表 3人	第16回 考えた章構成の発表 4人
第17回 ゼミ論前半部分の発表 2人	第18回 ゼミ論前半部分の発表 2人
第19回 ゼミ論前半部分の発表 2人	第20回 ゼミ論前半部分の発表 2人
第21回 ゼミ論前半部分の発表 2人	第22回 ゼミ論前半部分の発表に関する全体討論
第23回 ゼミ論後半部分の発表 2人	第24回 ゼミ論後半部分の発表 2人
第25回 ゼミ論後半部分の発表 2人	第26回 ゼミ論後半部分の発表 2人
第27回 ゼミ論後半部分の発表 2人	第28回 ゼミ論後半部分の発表に関する全体討論
第29回 ゼミ論完成直前の再確認 5人	第30回 ゼミ論完成直前の再確認 5人

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な発表・討論への参加度：30% 資料検索能力テスト：30% ゼミ論の完成：40%
 評定不可の{-}は、出席を行っていない場合は本科目の履修意思がないと判断した場合に付すこともある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、きちんと教科書を読んできて、討論に備え、事後には、全員で授業で共有したことに関するノートを作成する

履修上の注意 /Remarks

他の学生の発表の際にも、耳を傾け、重要な点を自らのゼミ論作成に活かす。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就活の時期と一時重なっているものの、うまくバランスをとって、授業にも積極的に出よう

キーワード /Keywords

大学生時代の学習の集大成、ゼミ論、社会人への準備

卒業研究【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM410M			△	○	◎
科目名	卒業研究				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

政策が地域社会や個人、そして特定集団に及ぼす影響を理解・分析し、解決策を見出す能力（政策形成能力）を高める。また、環境、住民とのかかわりなど、幅広い視点から、政策とそのあり方に関して議論・事例の調査を行う。そのための研究調査の方法などを詳しく勉強し、卒業研究として仕上げる。

卒論テーマの例：SDGsのエネルギー・食べ物・水問題・気候危機政策
都市再生過程と市民参加、環境モデル都市関連の聞き取り調査
自治体の環境政策、再生エネルギー促進政策とその政策過程
環境ガバナンスの比較研究、
SNS普及と若者の政治意識、
メディアと環境、環境心理、
スポーツを活用した地域活性化、
文化と観光政策、自然災害の防災対策の分析、
母子家庭における貧困

(到達目標)

- 【思考・判断】公共政策課題や学術的課題について、自らの専門から論理的に思考し、論文作成を通じて自らの議論を展開することができる。
- 【コミュニケーション力】積極的に議論し、自分の見解の質を高め、それを論理的に伝えることができる。
- 【自立的行動力】公共性のある研究課題に関心を持ち続け、卒業論文過程で獲得した知識をその後の社会生活に活かす姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

- 『新版 大学生のためのレポート・論文術』(小笠原喜康著 講談社 2009年 ¥756)
- 『社会調査法入門』(盛山和夫著 有斐閣 2004年 ¥2,415)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『フィールドワークの技法-問いを育てる 仮説をきたえる』(佐藤郁哉著 新曜社 2002年 ¥3,045)
- 『考えることの科学』(市川伸一著 中公新書 1997年 ¥693)
- 『公共事業の正しい考え方』(井堀利宏著 中公新書 2001年 ¥735)
- その他

卒業研究【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テーマの検討と理解
- 3回 卒業研究のテーマについて報告I
- 4回 卒業研究のテーマについて報告II
- 5回 調査計画の発表I
- 6回 調査計画の発表II
- 7回 卒業研究のテーマと問題意識の検討I
- 8回 卒業研究のテーマと問題意識の検討II
- 9回～17回 関連論文の考察
- 18回 卒業研究のテーマの調査方法I
- 19回 卒業研究のテーマの調査方法II
- 20回 卒業研究のテーマの調査方法III
- 21回 卒業研究のテーマの調査方法IV
- 22回～27回 卒業研究の作成指導
- 28回 パワーポイントによるプレゼンテーションI
- 29回 パワーポイントによるプレゼンテーションII
- 30回 まとめ・評価

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートと議論 (40%)、卒業研究 (60%)
レポート未提出の場合に「評価不能 (-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前課題を学習支援フォルダに挙げるので、毎回参照し準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

調査方法論、価値と科学、個人・市場・国家の関係、制度と行為、変数

卒業研究【昼】

担当者名 /Instructor 檀原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM410M			△	○	◎
科目名	卒業研究				

※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

授業の概要 /Course Description

地方自治体の公共政策の研究を中心とした卒業研究の指導を行います。テーマはおおよそ以下のようになります。

1. 超高齢人口減少社会のまちづくり、中心市街地の活性化、空き屋問題、限界集落等の過疎地域などの活性化、若者活躍社会の構築、買い物弱者の問題など、まちづくりを中心としたテーマ。
2. 子どもの貧困、高齢者(介護)政策、ヤングケアラーなどの問題を中心とした社会保障に関連するテーマ。
3. NPO、ソーシャルビジネスなど市民社会論に関連するテーマ

テーマは以上のような領域が中心となりますが、「地方自治体の公共政策」をはじめ、上記のテーマに関連する領域のテーマであれば構いません。

(到達目標)

【思考・判断・表現】公共政策課題や学術的課題について、自らの専門から論理的に思考し、卒業研究を通じて自らの議論を展開することができる。

【コミュニケーション力】積極的に議論し、自分の見解の質を高め、それを論理的に伝えることができる。

【自律的思考力】公共性のある研究課題に関心を持ち続け、卒業研究を進める過程で獲得した知識をその後の社会生活に活かす姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

基本的に利用しない。学生の研究テーマに応じて、適宜指示いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

学生の研究テーマに応じて、適宜指示いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

学生の理解の進捗状況によって変わりますが、年間の授業計画はおおよそ以下のようになります。

基本的に学生の報告を中心にして卒業研究の演習を進めていきます。報告内容に応じて、卒業研究に必要な内容を補充説明し、必要な文献、調査等を指示いたします。また、ゼミ生との議論を通じて研究を進展させていくやり方で進めていきます。また、必要に応じて添削指導などの個人指導も行いたいと考えています。

1学期は、受講生の就職活動の状況に応じてゼミを進めていきます。状況によっては、各ゼミ生が指導可能な日に個別指導を行うようにしたいと思えます。

(受講生の就職状況によって、授業計画は変更することがあります。)

第1～2回 卒業研究の進め方、テーマの絞り方などについて

第3～4回 論文の書き方(引用の仕方等の確認)

第5～6回 テーマの設定

第7～12回 研究報告

第13～14回 テーマの再検討および今後の研究についての検討

第15回 まとめ

第16回 2学期の進め方について(オリエンテーション)

第17～25回 研究報告

第26～27回 論文の書き方の確認

第28～29回 必要に応じた卒業研究(論文)の添削とコメント・書き直し

第30回 最終的なまとめ

卒業研究【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における研究発表等(60%) および卒業研究によって作成したレポート等40%で評価します。

演習に全く参加せず、レポートも提出していない場合には「評価不能(一)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告者は必ず事前に準備して指定されたフォーマットで報告書を作成して報告してください。また、報告者の報告を聞く側も報告者の発表について必ずコメントをするように心がけてください。論文の書き方などについての授業を行った場合には、必ず復習して、卒業論文の執筆に活かすようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM410M			△	○	◎
科目名	卒業研究				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

社会保障制度、公共サービスの民営化・民間委託に関する研究を行います。年金、医療、介護、保育、障害者福祉（就労支援・作業所）、指定管理者制度やPFIなどのテーマに関心を持っている人を歓迎します。
受講生は、所定の時間（開講期間における金曜日4限を予定）に報告を行い、研究成果を卒業研究として提出しなければなりません。

教科書 /Textbooks

自らの研究に必要な文献・資料を、受講生が自分自身で考え、収集する必要があります。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方、成績評価などについての注意事項説明。必ず出席すること。
- 第2回～第8回 研究計画発表1回目
- 第9回～第15回 研究計画発表2回目
- 第16回 卒業研究提出にあたっての注意事項説明。必ず出席すること。
- 第17回～第23回 研究報告1回目
- 第24回～第30回 研究報告2回目

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業研究の内容評価・・・40% 報告内容の評価・・・60%
第16回以降においては、原則として、欠席1回につき、最大10点程度減点

* 所定の時間（開講期間における金曜日4限を予定）に報告が困難な場合は、報告日時の変更を事前に申し出ること。

一度も出席しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自らの報告の際には、十分な時間を確保し、準備すること。他の受講生の研究分野にも関心を持ち、事前に新聞やインターネットで基本的な知識を得ておくことが望ましい。報告終了後は、他の受講生と積極的に意見交換し、次回の報告に反映させてほしい。

履修上の注意 /Remarks

授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。
資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

特になし。

卒業研究【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM410M			△	○	◎
科目名	卒業研究				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

以下のようなテーマを中心に（ただしこれに限らない）国際比較政治分析を行う論文の指導を行う。

- ・ 民族問題やエスノポリティクス
- ・ 政党政治の比較分析
- ・ 現代ヨーロッパ政治
- ・ 民主政と独裁政（の変動）...etc.

テーマに関する漠然とした記述ではなく、

- ・ ある政治現象が発生する原因や背景、あるいは、
 - ・ ある政治現象がもたらす影響や結果について
- 実証的に検証する形式の論文を執筆する。

論文執筆が目的のゼミであるため、「卒業論文」未履修者であっても論文執筆が単位取得条件である。成績評価方法も参照されたい。「卒業論文」履修者の場合は当該論文が「卒業論文」としても評価対象となる。

教科書 /Textbooks

各人の論文テーマに応じ、教員から推薦するのみならず、自ら見出す必要がある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各人の論文テーマに応じ、教員から推薦するのみならず、自ら見出す必要がある。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

前期の指導の応答を反映させて、夏休み中に第1草稿を執筆し、休み明け前に提出する。後期は当該草稿をもとに指導を行い、年明け前に第2草稿を提出する。第2草稿は、ほぼ卒論としての体裁を備えていることを理想とする。第2草稿に対するコメント・指導を踏まえて、最終稿を用意し卒論として提出する。

1. インタロダクション, 担当決め
- 2 - 3. 卒論第1構想の報告と議論
- 4 - 5. 研究計画の立案
- 6 - 10. 必要資料のリサーチ・報告・議論
- 11 - 15. 第1草稿に向けての追加リサーチ・報告・議論
- 16 - 17. 第1草稿の報告と議論
- 18 - 21. 議論を受けての修正と報告
- 22 - 25. 第2草稿に向けてのリサーチ・報告・議論
- 26 - 27. 第2草稿報告
- 28 - 29. 最終原稿への修正と報告
30. 提出締切

成績評価の方法 /Assessment Method

演習参加 (30%) と論文のクオリティ (70%) に基づいて評価する。
(ただし海外インターンなどの場合、「参加」は個別応答などを含み広く定義する)

論文未完成・未提出の場合は「D」となり、成績評価不能「一」とはならない。

卒業研究【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

隔週程度ごとに何かしらの短い報告を行い、それに対して指導・課題を与えるため、翌週にそれを踏まえた報告を行う。この繰り返しが原則ではあるが、履修者のバランスや事情等を考慮して、臨機応変に対応する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

参加者の関心にも依存しますがSDGs1, 2, 5, 8, 10, 16, 17あたりのテーマが扱われることが多いです。

キーワード /Keywords

卒業研究【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 舞 / Mai Yoshida / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM410M			△	○	◎
科目名	卒業研究				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

卒業研究は、大学入学時から政策科学科の学生として学んできたことの集大成となります。卒業研究レポートでは、自身が選択したテーマについて、問題を提起し、仮説を立て、科学的調査データを以て、根拠を示すことが求められます。そして、それらの解釈を論理的に、他者に伝えること、そのために、主体的に調査研究と執筆活動を行い、様式やルールに沿って論文を書くことが求められます。毎回の授業では、受講生が中心となって、報告とディスカッションを行います。後半は、年内に草稿を完成させることを目標に、個別指導を行います。中間報告と最終報告では、3年生と4年生合同で行う予定です。

{DP 3 思考・判断・表現力} 公共政策課題や学術的課題について、自らの専門から論理的に思考し、自らの見解を表現することができる。
{DP 4 コミュニケーション力} 積極的に議論し、自分の見解の質を高め、それを論理的に伝えることができる。
{DP 5 自立的行動力} 公共性のある研究課題に関心を持ち続け、研究の知識をその後の社会生活に活かす姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

テキストは特に指定しない。授業開始後に個別の文献を指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 石井一成『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』2011, ナツメ社.
- 上野千鶴子『情報生産者になる』2018, ちくま新書.

卒業研究【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回「卒業研究」について
- 第2回卒業研究のテーマ設定と問題関心について報告
- 第3回研究スケジュールおよび調査対象についての確認
- 第4回過去の卒業研究のレビューと議論① テーマと問題関心
- 第5回過去の卒業研究のレビューと議論② 研究構成
- 第6回受講生の研究構想発表と議論① テーマ設定と問題関心
- 第7回受講生の研究構想発表と議論② 問題関心と仮説
- 第8回受講生の研究構想発表と議論③ 関連文献
- 第9回受講生の研究構想発表と議論④ レポートの構成
- 第10回受講生の調査と事前準備：調査対象と調査法
- 第11回受講生の調査と結果報告、コメント①
- 第12回受講生の調査と結果報告、コメント②
- 第13回受講生の調査と結果報告、コメント③
- 第14回卒業研究に必要な文献資料紹介と議論①
- 第15回卒業研究に必要な文献資料紹介と議論②
- 第16回卒業研究に必要な文献資料紹介と議論③
- 第17回中間報告
- 第18回卒業研究の進捗報告と実証分析①
- 第19回卒業研究の進捗報告と実証分析②
- 第20回卒業研究の進捗報告と結論の検証①
- 第21回卒業研究の進捗報告と結論の検証②
- 第22回卒業研究の進捗報告と個別指導①
- 第23回卒業研究の進捗報告と個別指導②
- 第24回卒業研究の進捗報告と個別指導③
- 第25回受講生の研究発表と議論①
- 第26回受講生の研究発表と議論②
- 第27回受講生の研究発表と議論③ 形式確認、修正
- 第28回受講生の研究発表と議論④ 完成稿の最終確認
- 第29回卒業研究報告：プレゼンテーション&質疑応答
- 第30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度(質疑応答)...20%、研究報告...20%、卒業論文...60%
 ※5回以上の無断欠席、卒業研究レポートの課題が未提出の場合は「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

研究テーマに関係するフィールド調査、文献調査は、授業時間外に各自が行うことになります。受講生には、毎回の授業でA4 2枚程度、前回授業からの研究の進捗状況をまとめて報告してもらいます。事後学習として、授業で指摘された点を卒業研究レポートに反映させることができるように整理をしてください。

履修上の注意 /Remarks

12月末には第一次草稿を提出できるように、早くから準備しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

研究をする上で、調査したことや、考察したことを、世に返す(アウトプット)することは、もっとも大切な作業だと考えています。4年間の大学生活の集大成として、これまでの学びを、誰に向けて、どのようにアウトプットするのが、考えていきましょう。

キーワード /Keywords

卒業研究【昼】

担当者名 /Instructor 黒石 啓太 / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM410M			△	○	◎
科目名	卒業研究				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

演習形式で卒業研究のとりまとめを行う。

(到達目標)

DP5 自立的行動力：公共性のある研究課題に関心を持ち続け、研究の知識をその後の社会生活に活かす姿勢が身についている。

DP4 コミュニケーション力：積極的に議論し、自分の見解の質を高め、それを論理的に伝えることができる。

DP3 思考・判断・表現力：公共政策課題や学術的課題について、自らの専門から論理的に思考し、自らの見解を表現することができる。

教科書 /Textbooks

適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【授業の進め方など】
- 2回 卒業研究とは①【卒業研究に向けた姿勢】
- 3回 卒業研究とは②【卒業研究のまとめ方】
- 4回 卒業研究とは③【卒業研究のテーマ(リサーチクエスト)と構成】
- 5回 「問題関心・構想」の発表①【前半】
- 6回 「問題関心・構想」の発表②【後半】
- 7回 「問題関心・構想」についてのコメント・議論
- 8回 参照すべき文献・資料の紹介
- 9回 先行研究・参考文献等の使い方
- 10回 調査研究結果の活用方法の検討
- 11回 作成スケジュールの検討・作成①【前半】
- 12回 作成スケジュールの検討・作成②【後半】
- 13回 中間報告①【前半】
- 14回 中間報告②【後半】
- 15回 中間報告についてのコメント・議論
- 16回 進捗報告①【前半】
- 17回 進捗報告②【後半】
- 18回 卒業研究の方向性の検討
- 19回 文献リストの検討
- 20回 各章概要(骨子)の報告①【前半】
- 21回 各章概要(骨子)の報告②【後半】
- 22回 各章概要(骨子)についてのコメント・議論
- 23回 論旨の一貫性についての検討①【前半】
- 24回 論旨の一貫性についての検討②【後半】
- 25回 各卒業研究の一貫性についてのコメント・議論
- 26回 卒業研究体裁の確認①【前半】
- 27回 卒業研究体裁の確認②【後半】
- 28回 最終報告①【前半】
- 29回 最終報告②【後半】
- 30回 全体の総括・講評

卒業研究【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業研究への姿勢・態度...50%

卒業研究の評価...40%

※正当と認められる理由なく最終報告を行わなかった場合には、「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：報告等にあたっては十分な事前準備を行うこと。

事後学習：教員およびメンバーからの指摘を踏まえ、必要な修正などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM410M			△	○	◎
科目名	卒業研究				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

「卒業研究」で扱うテーマの共通項は、「実証的な分析を通じて考察する行政・地方自治（特に地方自治体における行政活動・制度・政策・組織等）」で、この範囲内であれば、後は原則自由にリサーチクエストを設定できます。ここでの実証的な分析とは、定量的（データ分析など）・定性的（聞き取りなど）な手法のいずれか、あるいは両方を含む方法論を使い、一次情報を使って論究をすすめることを指します。2・3年次の演習での個人研究（ゼミ論）を発展させることを念頭においていますが、新たな研究課題を設定することも可とします。授業（演習）は、各自の卒業研究のテーマや分析手法に関連した文献の紹介や輪読を含む、ゼミ生の研究報告と質疑応答が中心となります。また12月20日頃までに「卒業研究レポート」草稿を完成させ、1月中にブラッシュアップすることを目標に、ゼミ生それぞれに対して、個別の成果物（研究レポート）の作成指導・添削も行っていきます。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】

公共政策課題や学術的課題について、自らの専門から論理的に思考し、自らの見解を表現することができる

【コミュニケーション力】

積極的に議論し、自分の見解の質を高め、それを論理的に伝えることができる

【自立的行動力】

公共性のある研究課題に関心を持ち続け、研究の知識をその後の社会生活に活かす姿勢が身についている

教科書 /Textbooks

- 石黒圭（2012）『論文・レポートの基本』日本実業出版社
- 伊藤修一郎（2022）『政策リサーチ入門増補版：仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会
- 酒井聡樹（2007）『これから卒論・レポートを書く若者のために』共立出版
- 戸田山和久（2012）『新版論文の教室：レポートから卒論まで』NHKブックス

その他、適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 菊池誠ほか（2011）『もうダメされないための「科学」講義』光文社新書
 - 久米郁男（2013）『原因を推論する：政治分析方法論のすゝめ』有斐閣
 - 近藤克則（2018）『研究の育て方：ゴールとプロセスの「見える化」』医学書院
 - 酒井聡樹（2015）『これから論文を書く若者のために：究極の大改訂版』共立出版
 - 名古屋大学教育学部附属中学校・戸田山和久（2014）『はじめよう、ロジカル・ライティング』ひつじ書房
- その他、適宜指示します。

卒業研究【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス：今後のスケジュール、卒業研究にあたって（1）
- 2回 卒業研究にあたって（2）各自のテーマの確認
- 3回 研究報告（1）進捗状況と研究方法を中心に①
- 4回 研究報告（2）進捗状況と研究方法を中心に②
- 5回 研究報告（3）進捗状況と研究方法を中心に③
- 6回 研究手法について（1）実証分析の方法
- 7回 研究手法について（2）想定する方法論の確認
- 8回 文献報告（1）各自の研究に直結・関連する文献の紹介①
- 9回 文献報告（2）各自の研究に直結・関連する文献の紹介②
- 10回 文献報告（3）各自の研究に直結・関連する文献の紹介③
- 11回 研究のふり返り（1）現状の課題を抽出する
- 12回 研究のふり返り（2）アイデアを出し合う・スケジュールを確認する
- 13回 研究報告（4）仮説と実証分析の結果を中心に①
- 14回 研究報告（5）仮説と実証分析の結果を中心に②
- 15回 研究報告（6）仮説と実証分析の結果を中心に③

- 16回 研究のふり返り（3）足りない情報（文献・データ等）を確認する
- 17回 研究のふり返り（4）批判し合う・執筆のスケジュールを確認する
- 18回 卒業研究レポート作成にあたって（3）構成、先行研究・参考文献の確認
- 19回 卒業研究レポート作成にあたって（4）仮説の設定と検証、Q&Aの一致（序論と結論）
- 20回 卒業研究レポート作成にあたって（5）結論と含意、課題の示し方
- 21回 研究報告（7）結論の提示①
- 22回 研究報告（8）結論の提示②
- 23回 研究報告（9）結論の提示③
- 24回 草稿の修正にあたって
- 25回 卒業研究レポートを要約する
- 26回 研究報告会（1）
- 27回 研究報告会（2）
- 28回 研究報告会（3）
- 29回 卒業研究の講評
- 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究報告20%、議論への参加（質疑応答）20%、成果物としての卒業研究60%

※遅刻・無断欠席厳禁、度重なる場合は減点対象、無断欠席4回以上の場合は - 評価（評価不能）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業外学習については、事前学習としては主に文献の読み込み・資料の作成、事後学習としては報告で得られたコメントの整理、社会調査やフィールドワークの実施と分析、卒業研究レポートの執筆等を想定しています。

履修上の注意 /Remarks

行政学・地方自治、特に自分が研究したいテーマおよび用いたい分析方法に関連する科目を履修済みであることが望ましいです。また、研究報告を中心とするゼミ生同士の議論への積極的な参加はもとより、卒業研究レポート執筆と完成への強い意志、意欲、および情報を収集し、文献を読み込み、結論に至る根拠は何であるのかを深く考察する姿勢を強く求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私自身の経験でもあるのですが、卒業研究で扱うテーマが、図らずも仕事になったり、思いがけず一生をかけて向き合う課題になったりすることもあり得ます。趣味的でもよし、憤りでもよし、自分にとって「いま一番興味がある」「気になって仕方ない」など、取り組むにあたって、苦しみながらも楽しめるテーマや分析方法を選択してもらいたいと思っています。

リサーチエスチョンに対する一定の解を出せたとしても、自分を心底納得させるのは大変難しいことです。しかしこの「卒業研究レポート」執筆という研究過程を経ることで、（限定的であろうとも）すっきり気持ちよく大学を飛び立ちませんか。そのサポートをするのが指導教員の役割のひとつと考えています。

またSDGs（特に7・12・15など）の観点から、レジユメ・資料等はすべてMoodle and/or Teams にアップするものとします。

キーワード /Keywords

卒業研究【昼】

担当者名 /Instructor 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM410M			△	○	◎
科目名	卒業研究				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

3年次の演習II、IIIで作成したゼミ論文をもとに卒業研究を行う。卒業研究の成果物は卒業論文とする。卒業研究の共通テーマは、地方創生や文化観光政策など地域の魅力や価値創出に向けた政策研究が中心である。

2022年度は担当教員の研修の関係で、後期にペア科目として実施するが、前期も適宜オンライン等で対応する。

まず、卒業論文の基本構想を再検討した後、論文の目的、研究仮説と論証方法、先行研究レビュー、獲得された調査研究内容、結論の妥当性を適宜精査し、政策研究調査の実施と論文執筆活動を推進する。中間報告を経て11月末に完全原稿第1稿の提出を行う。ゼミでの討議、担当教員の修正指示等に基づき、1月末に卒業研究の成果物としての卒業論文の完成を目指す。

指導方法は、個人指導とゼミの併用が基本であるが、公務員試験や就職活動など受講者の状況に配慮した指導を行っている。

個人指導は、受講生が行う論文作成の具体的指導及び参照すべき図書、文献等の提示を行う。

ゼミは、卒業論文の進捗、研究指導をゼミ生で共有しながら進めるものである。

いずれも担当教員との綿密な連携のもと、指導内容に基づく論文の加筆修正を行うことが求められる。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】

公共政策課題や学術的課題について、自らの専門から論理的に思考し、自らの見解を表現することができる。

【コミュニケーション力】

積極的に議論し、自分の見解の質を高め、それを論理的に伝えることができる。

【自律的行動力】

公共性のある研究課題に関心をもち続け、研究の知識をその後の社会生活に活かす姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

・ 特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・ 特に指定しない。なお、論文作成に参考となる論文・文献等は別途指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(4月初旬 卒業論文構想の発表)

(~7月上旬 卒論アウトラインの完成後、卒論題目の提出)

(9月末 卒業論文ドラフト完)

11月末 卒業論文完全原稿(第1稿)の提出

12月~ 担当教員の指導等に基づき随時、卒業論文の推敲、修正

1月上旬 卒業論文第2稿の提出

1月中~下旬 卒業論文の完成、担当教員の確認後、提出を許可

成績評価の方法 /Assessment Method

・ 論文作成 100%

・ 一度も研究指導を受けない者、卒業論文を提出しない者、不正行為を行った者は単位認定の対象外で、成績評価で「-」と表示します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 卒業論文の完成に向けて、指導教員の指導に従って論文の執筆・修正を行う必要がある。

卒業研究【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンラインに切り替える。
- <履修条件>
- ・ 2年次に演習I、3年次に演習II、IIIをいずれも履修していること。
 - ・ ゼミ論文の執筆など卒業論文に向けた個人研究を相当程度進めており、4月初旬に卒業論文構想を提示できること。
 - ・ 田代が担当する「都市経済論」「都市政策論」「都市マネジメント論」を履修済み、あるいは履修中であること。
 - ・ 完成度の高い卒業論文（先行研究レビュー、研究仮説の設定、論理性、オリジナリティ等）を執筆する意欲と基礎的能力が求められる。
 - ・ 履修にあたっては、事前に面接を受けたうえで承諾を得ていること。
 - ・ 指導教員と連絡を取らない、指導に従わないなど受講態度が不誠実であったり、許可なく卒業論文を提出した場合は単位を授与しない。
 - ・ 無断欠席や理由のない遅刻は厳禁とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究【昼】

担当者名 /Instructor 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM410M			△	○	◎
科目名	卒業研究				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

卒論研究では、アジア諸国の政治や外交、社会、民族に関するテーマ、あるいは多文化共生に関するテーマを主に扱いますが、他のテーマであっても指導は可能なので、遠慮なく相談してください。

スケジュールは受講生と相談の上で決めますが、第一学期は卒論あるいは卒業研究レポートの構想に沿った文献の輪読と議論、短いレポートの執筆や報告会が中心、第二学期は、具体的な章立を進めながら卒論あるいは卒業研究レポートを完成させます。

必要や要望があれば、合宿や集中授業を行います。

【到達目標】

思考・判断・表現力：公共政策課題や学術的課題について、自らの専門から論理的に思考し、論文作成を通じて自らの議論を展開することができる。

コミュニケーション力：積極的に議論し、自分の見解の質を高め、それを論理的に伝えることができる。

自立的行動力：公共性のある研究課題に関心を持ち続け、卒業論文過程で獲得した知識をその後の社会生活に活かす姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上で決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生と相談の上で決定します。

卒業研究【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【1学期】

第1/2回 研究の進め方・論文の書き方
第3/4回 テーマ発表
第5/6回 研究報告I
第7/8回 研究報告II
第9/10回 研究報告III
第11/12回 中間成果発表I
第13/14回 中間成果発表II
第15回 中間成果発表III

【2学期】

第16/17回 研究報告IV
第18/19回 研究報告V
第20/21回 研究報告VI
第22/23回 論文の引用形式の復習
第24/25回 論文の仕上げI
第26/27回 論文の仕上げII
第28/29回 論文の仕上げIII
第30回 最終確認

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文あるいは卒業研究レポート100%
なお、卒業研究論文未提出の場合は「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自分の進捗状況に応じて、事前に必要文献を精読してください。
個別指導の後には、自ら短いレポートなどを書いて、論文を仕上げていく努力をしてください。

履修上の注意 /Remarks

【履修条件】

積極的に文献を読んで、議論や報告が出来る人。
論文の書き方を習熟していない場合は、注や参考文献の書き方を含めて指導を行います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

【SDGs】目標の3、5、10に主に関連しています。

キーワード /Keywords

政策実践プロジェクトⅢ【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM381M		○		△	◎
科目名	政策実践プロジェクトⅢ				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

政策が国、市場、地域社会に及ぼす影響、価値配分、環境、住民とのかかわりなど、幅広い視点から、政策とそのあり方に関して議論・事例の調査を行う。そのための実習調査の方法などを詳しく勉強し、レポートを作成・プレゼンテーションを行う。

政策調査対象の例；低炭素社会関連の取り組み

- スマートシティ・コンパクトシティ政策
- 水俣市の環境モデル都市関連の聞き取り調査
- 自然再生、地域再生事業
- 環境を活かすまちづくり（欧米・韓国・日本の比較）
- （環境）政策と社会的ジレンマ
- SDGsとエネルギー政策
- 再生エネルギー、文化、観光、国際交流をテーマとした地域活性化政策
- 人口減少地域の地域活性化
- 地域連携による活性化（福岡県糸島市の大学、地域、企業、自治体の協力体制の事例研究）
- 母子家庭の女性貧困、子供の貧困、空き家問題
- 韓国ソウル所在大学との政策合同発表会
- 国内大学との政策合同ゼミと発表会など

教科書 /Textbooks

- 『環境学の技法』（石弘之著 東京大学出版会 2002年 ¥3,360）
- 『社会調査法入門』（盛山和夫著 有斐閣 2004年 ¥2,415）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『フィールドワークの技法-問いを育てる 仮説をきたえる』（佐藤郁哉著 新曜社 2002年 ¥3,045）
- 『考えることの科学』（市川伸一著 中公新書 1997年 ¥693）
- 『公共事業の正しい考え方』（井堀利宏著 中公新書 2001年 ¥735）
- その他

政策実践プロジェクトIII 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テーマの検討と理解、テーマの決定
- 3回 新聞記事、資料集めと討論
- 4回 調査計画の発表
- 5回 調査計画の発表
- 6回 テーマと問題意識の検討I
- 7回 テーマと問題意識の検討II
- 8回 グループごとの調査方法I
- 9回 グループごとの調査方法II
- 10回 グループごとの調査方法III
- 11回 地域専門家の招待
- 12回 現地調査
- 13回 レポート作成・パワーポイントによるプレゼンテーションI
- 14回 レポート作成・パワーポイントによるプレゼンテーションII
- 15回 まとめ・評価

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートと発表 (80%)、授業への貢献 (20%)
レポート未提出の場合に「評価不能 (-)」となります

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

ゼミ生の活動・授業内容・事前課題については、
学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること

私の開講している「演習III」とあわせて受講すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

調査方法論、価値と科学、個人・市場・国家の関係、制度と行為、変数、説明

政策実践プロジェクトⅢ【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM381M		○		△	◎
科目名	政策実践プロジェクトⅢ				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

本ゼミにおける政策実践プロジェクトの目的は、①地方公共政策を研究する学生が必要とする基本的なフィールドワーク等の知識や調査方法を身につけること、さらに②実際に調査した内容に基づき政策提言をし、地域社会に貢献することにあります。

そのため、本年度は、第1に、北九州市における超高齢コミュニティ及び町内会・自治会等の調査あるいは商店街の来街者調査を行い、アンケート調査の設計からインタビューの仕方などを身につけてもらいます。特にアンケート調査で重要となるワーディングについては学生相互の話し合いを行いしっかりと学んでもらいます。

第2に、政策コンペなどを通して、地域社会の問題を解決するための調査から政策提言へといたる一連の作業を学んでいただきます。そして、具体的な政策提言の手法を習得してもらいます。

到達目標)

【技能】実践的な政策研究活動・調査活動をするために必要な情報を収集、分析することができる。

【コミュニケーション力】ゼミにおいて積極的に議論をしながら、協働して社会の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動】公共の問題への関心とキャリア意識を持ち続け、社会問題の解決へ向けて取り組む姿勢を有している。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大谷信介ほか編著(2013)『新・社会調査へのアプローチ論理と方法一』ミネルヴァ書房。

辻新六・有馬昌宏(1987)『アンケート調査の方法一実践ノウハウとパソコン支援一』朝倉書店。

伊藤修一郎(2022)『政策リサーチ入門一仮説検証による問題解決の技法一(増補版)』東京大学出版会。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 入門
- 第2回 なぜ、調査する必要があるのか考える
- 第3回 調査設計(1)-調査対象を決める
- 第4回 調査設計(2)-調査方法【質的調査】
- 第5回 調査設計(3)-調査方法【量的調査】
- 第6回 調査設計(4)-調査票を作成する
- 第7回 調査設計(5)-サンプリング等
- 第8回 社会調査に関する文献の輪読(1)
- 第9回 社会調査に関する文献の輪読(2)
- 第10回 現地調査
- 第11回 現地調査-補充調査
- 第12回 調査結果の集計
- 第13回 調査結果の分析・検討
- 第14回 調査結果をもとめる
- 第15回 調査報告書の作成

成績評価の方法 /Assessment Method

調査・報告書作成等への貢献度... 100 %

プロジェクトに全く参加していない場合には「評価不能(一)」となります。

政策実践プロジェクトIII 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず準備（予習）をしてから調査等には参加して下さい。また調査等の終了後には、必ず調査内容等を整理し、報告書作成ができるようしておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

政策実践プロジェクトⅢ【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM381M		○		△	◎
科目名	政策実践プロジェクトⅢ				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

年金、医療、介護、保育、障害者福祉（就労支援・作業所）といった社会保障関連の政治・行政・政策に関心を持っている人を歓迎します。「公共施設」「公共性」をテーマにして、実践的な活動を行います。政策実践プロジェクトⅢでは、公共施設で働く人や、社会問題の解決のために活動する人に焦点をあてます（図書館、刑務所、フリースクールなど）。公共施設の抱える問題や社会問題を理解したうえで、そこで働くことになったきっかけや、働きがい、これからの夢などをインタビューして報告書を完成させてください。

事前に担当教員とじっくり相談し、承諾を得たうえで受講してください。

（到達目標）

【技能】実践的な政策研究活動・調査活動をするために必要な情報を収集、分析することができる。

【コミュニケーション能力】ゼミにおいて積極的に議論をしながら、協働して社会の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】公共的問題への関心とキャリア意識を持ち続け、社会問題の解決へ向けて取り組む姿勢を有している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 公共サービスに関する文献研究
- 第2回 図書館、刑務所、フリースクールなどに関する文献研究
- 第3回 調査の計画
- 第4回 訪問調査①
- 第5回 訪問調査②
- 第6回 訪問調査③
- 第7回 訪問調査④
- 第8回 訪問調査⑤
- 第9回 訪問調査⑥
- 第10回 企画の検討①
- 第11回 企画の検討②
- 第12回 関係団体との調整
- 第13回 事業の実施①
- 第14回 事業の実施②
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

調査・活動における貢献度・・・80% 調査・活動に関する報告・・・20%

教員が指定する調査・活動（もしくは受講生自身が企画した調査・活動）への一定時間以上の参加が単位認定の要件となる。一定時間以上参加しない受講生については、レポート提出等による救済措置を行わない。調査・活動に参加する意思がない人は受講しないように。

活動実績がまったくない場合は、評価不能（-）とします。

政策実践プロジェクトIII 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

図書館や刑務所などに関心をもっておいください。調査・活動終了後、その内容をなるべく早い段階で詳細に記録しておいでください。

履修上の注意 /Remarks

資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。
グループでの調査・活動にあたっては、日程の調整が必要になる。日頃からスケジュールの管理を適切に行っておいでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

特になし。

政策実践プロジェクトⅢ【昼】

担当者名 吉田 舞 / Mai Yoshida / 政策科学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM381M		○		△	◎
科目名	政策実践プロジェクトⅢ				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

この授業は政策実践プロジェクトⅡでの学習を踏まえた上で行います。日本で暮らすアジアの移住者が抱える問題はしばしばクローズアップされますが、労働者の母国でも、海外出稼ぎは国を支える主要な政策と位置づけられ、海外出稼ぎによる送金は、経済政策の中心的な財源の一つとなっています。授業では、日本の移民政策と、アジアの国々の経済開発（発展）や都市計画との関係性について考えていきたいと思えます。新型コロナウイルスの状況にもよりますが、状況が許せば、フィリピンでのスタディツアー（NGO、多国籍企業、スクオッター、先住民村落など）を行いたいと考えています。これらのプロジェクトを通して、知識の吸収、技量、技術、日常生活への応用実践といった能力を養います。また、最終的には報告書の作成を通して、ゼミ論や卒業論文の執筆につなげてもらいたいと考えています。

{ 思考・判断・表現力 }

社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。

{ コミュニケーション力 }

意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。

{ 自立的行動力 }

公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 日下渉『反市民の政治学：フィリピンの民主主義と道徳』2013、世界思想社
- 吉田舞『先住民の労働社会学：フィリピン市場社会の底辺を生きる』2018、風響社
- ニール・スミス『ジェントリフィケーションと報復都市：新たな都市のフロンティア』原口剛訳、2014、ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス：授業の説明
- 第2回政策実践プロジェクトⅡの振り返り（卒論を考えながら）①
- 第3回政策実践プロジェクトⅡの振り返り（卒論を考えながら）②
- 第4回文献講読：先行のフィリピン研究について
- 第5回文献講読：先行のフィールド調査の事例
- 第6回スタディツアーの準備① プロジェクト内容と企画
- 第7回スタディツアーの準備② 都市開発・政策についての事前学習
- 第8回スタディツアーの準備③ 観光開発・政策についての事前学習
- 第9回フィリピンの大学との交流にて発表するテーマ学習①【テーマ選定】
- 第10回フィリピンの大学との交流にて発表するテーマ学習②【調査設計】
- 第11回フィリピン・スタディツアーの実施
- 第12回ツアー終了後の振り返り
- 第13回報告書作成① 進捗報告と議論
- 第14回報告書作成② 担当個所の修正と議論
- 第15回まとめ＝スタディツアーの報告書作成に向けた討論

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の質問や討議における積極性・授業への姿勢（60%）、レジュメ・プレゼン・レポート内容（40%）

※ 授業を5回以上欠席した場合、期末レポート未提出の場合は「評価不能（-）」となります。

政策実践プロジェクトIII 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回のテーマについて関連する記事や文献を前もって収集すること。
事後学習として、各回の議論のポイントをまとめること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容は受講生の人数や、問題関心、コロナの感染状況次第で変更することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コロナの状況から、スタディツアーがかなわなかった場合は、オンラインでの交流および国内のスタディツアーを模索します。

キーワード /Keywords

参加型、スタディツアー、企画とファシリテーション、フィリピン、都市開発、観光開発

政策実践プロジェクトⅢ【昼】

担当者名 /Instructor 黒石 啓太 / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM381M		○		△	◎
科目名	政策実践プロジェクトⅢ				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

公共政策は、地域の公共的な課題解決に向けた取組みですが、これを企画・立案したり、分析・評価することには一定の能力が必要です。課題を把握し、その原因を探求し、必要な取組みを体系的に整理して実施しなければなりません。そこで、この授業では、主に身近な地域を事例としながら課題把握のための手法や調査結果の分析について学びます。

(到達目標)

- DP5 自立的行動力：公共の問題への関心とキャリア意識を持ち続け、社会問題の解決へ向けて取り組む姿勢を有している。
- DP4 コミュニケーション力：ゼミにおいて積極的に議論をしながら、協働して社会の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- DP2 技能：実践的な政策研究活動・調査活動をするために必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【演習の進め方とルール】
- 2回 地域の課題と活動主体(「公共私」の特徴と役割分担)
- 3回 証拠に基づく政策立案(EBPM)の考え方と事例
- 4回 調査研究方法の特徴【量的調査と質的調査】
- 5回 調査の設計①【対象と手法の選択】
- 6回 調査の設計②【問題意識の整理と調査項目の検討】
- 7回 調査の準備①【問題意識の整理】
- 8回 調査の準備②【対象・内容の整理】
- 9回 調査の実施①【前半】
- 10回 調査の実施②【後半】
- 11回 調査研究レポートの作成①【調査結果の精査】
- 12回 調査研究レポートの作成②【論点の抽出・一般化の検討】
- 13回 実施報告①【前半】
- 14回 実施報告②【後半】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加意欲、積極的な発言...60%

調査研究レポート...40%

※正当と認められる理由なく自身の担当報告を行わなかった場合には、「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：各回の授業で次回取り扱う内容を説明するので、これに関する基本的な準備を行ってきてください。

事後学習：調査等終了後には、メモ等を整理し記録をつけ、報告のための準備を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

政策実践プロジェクトIII 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業はSDGsの「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

政策実践プロジェクトⅢ【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM381M		○		△	◎
科目名	政策実践プロジェクトⅢ				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

本実習は、横山担当の演習Ⅲとペアで行います。動物行政・動物政策の分野から研究したいテーマを設定し、リサーチエスションに従って聞きとり、アンケートなどの実践的な調査を行い、分析し、結果・結論を報告することを目的とします。受講生の希望・関心によって、公的な機関の視察や現地調査といった活動も視野に入れ、適宜、必要となる調査方法・分析方法の講義を盛り込んでいく予定です。調査実習そのものの重要性もさることながら、得られた生のデータを分析し、自分たちで設定した疑問に答えを出し、それを報告する、という一連の作業過程を通じて、リサーチに関するスキルのアップをはかりたいと考えています。

(到達目標)

【技能】

実践的な政策研究活動・調査活動をするために必要な情報を収集、分析することができる。

【コミュニケーション力】

ゼミにおいて積極的に議論をしながら、協働して社会の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

公共的問題への関心とキャリア意識を持ち続け、社会問題の解決へ向けに取り組む姿勢を有している。

教科書 /Textbooks

テーマに従って適宜指示、また必要に応じてレジュメ・資料等をMoodle and/or Teamsに掲載します。
(SDGs[特に7・12・15など]の観点から、紙媒体でのレジュメ・資料等の配布はいたしません。)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

テーマに従って、適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 グループでの調査テーマの検討・設定
- 3回 グループでの調査テーマの検討・設定
- 4回 調査計画の作成・調査にむけての準備(事前調査・先行研究の検討など)
- 5回 調査計画の作成・調査にむけての準備(事前調査・先行研究の検討など)
- 6回 調査の実施
- 7回 調査結果の報告と議論
- 8回 追加・補足調査
- 9回 追加・補足調査
- 10回 調査結果の分析
- 11回 結論と課題の検討
- 13回 調査結果のまとめ
- 14回 調査結果の報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

調査・議論への参加度合い70%、調査結果の報告30%

※無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象、調査結果の報告がない場合は - 評価(評価不能)とします。

政策実践プロジェクトIII 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては分析方法の確認（社会調査・統計分析・聞き取りの作法など）や報告資料の作成等、事後学習としては分析結果の報告に対するコメント整理等を想定しています。

履修上の注意 /Remarks

受講生の人数にもよりますが、忙しい日程で調査を行うことが予想されます。時間外での下調べや準備等を厭わないという覚悟を持った参加者を歓迎します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目は、特にSDGsの目標11（住み続けられるまちづくりを）と関連しています。

キーワード /Keywords

政策実践プロジェクトⅢ【昼】

担当者名 /Instructor 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM381M		○		△	◎
科目名	政策実践プロジェクトⅢ				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

本演習は、演習Ⅲと併せて実施します。政策実践プロジェクトには、学生の自主的なテーマ設定に基づく調査活動と、教員による指定プロジェクトがありますが、いずれもフィールド調査を基本に考えています。

プロジェクトの推進は、グループワークにより行いますが、2年生と合同実施する場合があります。対象地が遠距離の場合、宿泊を伴う場合がありますので留意してください。また、飲食費などフィールドワークにかかる経費の一部は負担いただきます。

教員指定プロジェクトを実施する際は、連携する地方自治体に対して政策提案を伴う成果報告会を行うことがあります。フィールドワーク前は、資料収集に基づく仮説設定を行い、フィールドワーク後は、振り返りと獲得された知見の整理を行うことで政策研究の拡がりや深度を深めます。成果報告会の前などは時間外にグループワークを伴う場合があります。

2022年度は、前期に担当教員が研修のため不在となることや新型コロナウイルスの影響等によりフィールド活動が円滑に実施できない場合は、プログラムを簡素化するか政策事例研究や政策分析などの机上検討に変更します。

実践的なプロジェクト活動を行うことで、地域政策の現状と課題を知り、洞察力と実践的な政策提案能力を涵養することを目的とします。

(到達目標)

【技能】

実践的な政策研究活動・調査活動をするために必要な情報を収集、分析することができる。

【コミュニケーション力】

ゼミにおいて積極的に議論をしながら、協働して社会の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

公共的問題への関心とキャリア意識を持ち続け、社会問題の解決へ向けて取り組む姿勢を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で、適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

標準的な推進プロセスを示します。

1-2. フィールド調査の振り返り(記録作成、ディスカッション)

3-4. 政策課題の検討

5. 政策提案技法

6-8. 政策アイデアに関する討議

9. 政策アイデアの評価

10-11. 政策提案の精査、プレゼンテーション資料の作成

12-13. 成果報告会の準備、リハーサル

14-15. 政策報告会の開催、記録の作成

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 調査活動、ディスカッションへの主体的参画、役割分担、成果達成への貢献 100%
- ・ 活動に参加しない者(フィールド活動当日に体調不良により欠席する場合を除く)、受講態度がよくなく指導教員の指導に従わない者は単位認定の対象外で、成績評価で「-」と表示します。

政策実践プロジェクトIII 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業外学習として、演習内容に沿って自主的な事前事後学習を行うほか、適宜、課題を与えるので、決められた期日までに準備してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンラインに切り替えます。
- ・ 無断欠席、理由のない遅刻、ゼミ中の私語、無関心などの逸脱行動は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。教員の指導に従わない行動や受講態度が良くない場合は、参加を認めません。
- ・ 地域活性化やまちづくりに興味をもち、前向きに取り組む学生を歓迎します。
- ・ なお、授業計画はプロジェクトの内容や進捗により柔軟に対応します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 当科目は、SDGsの「8 働きがいも 経済成長も」「11 住み続けられるまちづくりを」「17 パートナーシップで目標を達成しよう」の目標に広く関連しています。

キーワード /Keywords

政策実践プロジェクトⅢ【昼】

担当者名 /Instructor 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM381M		○		△	◎
科目名	政策実践プロジェクトⅢ				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

政策実践プロジェクトⅢは、演習Ⅲと併せて実施します。政策実践プロジェクトⅡ同様に、フィールドワークの対象として、在日外国人支援や「多文化共生プロジェクト」を実施しているNGOや公的機関を考えています。ゲストを招請することもあります。

実践的なフィールドワークによって、自治体あるいはNGO、在日外国人による多文化共生の取り組みや現状、課題を知り、具体的な政策提案能力を養うことが目的です。

【到達目標】

技能：実践的な政策研究活動・調査活動をするために必要な情報を収集、分析することができる。

コミュニケーション力：ゼミにおいて積極的に議論をしながら、協働して社会の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

自立的行動力：公共的問題への関心とキャリア意識を持ち続け、社会問題の解決へ向け取り組む姿勢を有している。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 フィールドワークの説明と候補場所
- 第3回 フィールドワークの予備調査①
- 第4回 フィールドワークの予備調査②
- 第5回 フィールドワークの実施①
- 第6回 フィールドワークの実施②
- 第7回 フィールドワークについての議論①
- 第8回 フィールドワークについての議論②
- 第9回 調査レポートの作成
- 第10回 各人からの報告①
- 第11回 各人からの報告②
- 第12回 各人からの報告③
- 第13回 全体報告
- 第14回 まとめ①
- 第15回 まとめ②

成績評価の方法 /Assessment Method

調査や議論への参加(40%)、報告(40%)、調査への貢献(20%)。

なお、フィールドワークや外部ゲストを招請した講演会などに複数回不参加の場合は「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィールドワークの対象に関する事前学習、事後の報告のための報告や議論の準備は必ず行ってください。

政策実践プロジェクトIII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

理由のない遅刻や欠席は認めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

【SDGs】目標の 1、5、10に主に関連しています。

キーワード /Keywords

卒業論文【昼】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
STH410M			△	○	◎
科目名	卒業論文				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業では、教員の指導の下、卒業論文を執筆・完成させます。扱うテーマは政治理論（政治思想史を含む）もしくは政策に関わるものとなりますが、出来る限り幅広いテーマを扱えるよう努力します。授業は、それぞれが進めてきた研究を教員に報告し、それに対してフィードバックを与える形式をとります。また、中間成果発表の場では、学生が互いに研究と論文の執筆状況を報告しあい、他人の研究を批判的に考察する目を養います。要望や必要によっては合宿を行うこともあります。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【1学期】

- 第1/2回 研究の進め方・論文の書き方
- 第3/4回 テーマ発表
- 第5/6回 研究報告I
- 第7/8回 研究報告II
- 第9/10回 研究報告III
- 第11/12回 中間成果発表I
- 第13/14回 中間成果発表II
- 第15回 中間成果発表III

【2学期】

- 第16/17回 研究報告IV
- 第18/19回 研究報告V
- 第20/21回 研究報告VI
- 第22/23回 論文の引用形式の復習
- 第24/25回 論文の仕上げI
- 第26/27回 論文の仕上げII
- 第28/29回 論文の仕上げIII
- 第30回 最終確認

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文：100%
(卒業論文を提出しない場合には、「評価不能(-)」となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にその回に報告すべき研究の進捗状況をまとめてくること。また授業で指摘されたことに基づき、適宜研究と論文執筆を進めてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文【昼】

担当者名 /Instructor 上條 諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
STH410M			△	○	◎
科目名	卒業論文				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現代民主政治を分析する卒業論文の指導を行う。テーマに関しては現代民主政治に関する因果的な問いを扱うものであれば幅広く受け入れるが、以下のうち少なくとも一つに当てはまることが望ましい。

- ①先進民主主義国における政治制度を対象とするものであること
- ②先進民主主義国における政治エリート（議員、執政長官、官僚など）及びその集団（政党）を対象とするものであること
- ③日本政治を対象とするものであること
- ④数理分析の手法を用いた理論的検討 and/or 計量分析の手法を用いた実証を行うものであること

（到達目標）

【思考・判断・表現力】公共政策課題や学術的課題について、自らの専門から論理的に思考し、自らの見解を表現することができる。

【コミュニケーション力】積極的に議論し、自分の見解の質を高め、それを論理的に伝えることができる。

【自立的行動力】公共性のある研究課題に関心を持ち続け、卒業論文過程で獲得した知識をその後の社会生活に活かす姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

各人が必要な文献・資料を収集すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

戸田山和久(2012)『新版 論文の教室-レポートから卒論まで』NHKブックス

小笠原喜康(2018)『最新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書

卒業論文【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールに則って運営するので、 μ 切等を厳密に守ることが求められる。

まず5月の連休前までに研究計画書を提出すること。その後については、夏休みに主たる分析が行えるように1学期の日程を設定する。すなわち、①数理分析を用いた理論的分析のみを行う場合は、テーマの設定、先行研究レビューとモデルの設定まで、②実証まで行う場合は、テーマの設定、先行研究レビュー、理論的検討、および実証のリサーチデザインまでを前期のうちに報告してもらう。

1学期の指導を受けて、夏休み中に第1稿を執筆し、休み明けまでに提出すること。2学期は第1稿の内容をもとに報告をしてもらい、そこでの議論を反映させ年内に第2稿を提出してもらう。第2稿は、分析の内容は確定しており体裁を整えるだけで提出できるようなものであることが望ましい。最後に引用や注などの形式の確認を行い、最終稿を用意し卒論として提出する。

< 1学期 >

- 第1回 オリエンテーション、担当決め
- 第2-3回 構想報告
- 第4-5回 研究計画書執筆
- 第6-10回 先行研究レビュー（+理論的検討）報告
- 第11-15回 モデルの設定 or リサーチデザイン報告

< 2学期 >

- 第16-17回 第1稿報告
- 第18-25回 修正と議論
- 第26-27回 第2稿報告
- 第28-29回 修正と議論
- 第30回 形式の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への貢献 (30%)、卒業論文の質 (70%)

*正当な理由なく3回以上欠席した場合は「評価不能(—)」とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告準備のみならず、分析や論文執筆も授業時間外がメインになる。上記のスケジュールを参考に計画的に進めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
STH410M			△	○	◎
科目名	卒業論文				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

政策が地域社会や個人、そして特定集団に及ぼす影響を理解・分析し、解決策を見出す能力（政策形成能力）を高める。また、環境、住民とのかかわりなど、幅広い視点から、政策とそのあり方に関して議論・事例の調査を行う。そのための研究調査の方法などを詳しく勉強し、卒業論文として仕上げる。

卒業論文テーマ例：SDGsのエネルギー・食べ物・水問題・気候危機政策
都市再生過程と市民参加、環境モデル都市関連の聞き取り調査
自治体の環境政策、再生エネルギー促進政策とその政策過程
環境ガバナンスの比較研究、
SNS普及と若者の政治意識、
メディアと環境、環境心理、
スポーツを活用した地域活性化
スマートシティ・コンパクトシティ政策
海外の環境政策（日本との比較）
文化と観光政策、自然災害の防災対策の分析、母子家庭における女性の貧困

（到達目標）

【思考・判断】公共政策課題や学術的課題について、自らの専門から論理的に思考し、論文作成を通じて自らの議論を展開することができる。

【コミュニケーション力】積極的に議論し、自分の見解の質を高め、それを論理的に伝えることができる。

【自立的行動力】公共性のある研究課題に関心を持ち続け、卒業論文過程で獲得した知識をその後の社会生活に活かす姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

『新版 大学生のためのレポート・論文術』（小笠原喜康著 講談社 2009年 ¥756）
『社会調査法入門』（盛山和夫著 有斐閣 2004年 ¥2,415）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『フィールドワークの技法-問いを育てる 仮説をきたえる』（佐藤郁哉著 新曜社 2002年 ¥3,045）
○ 『考えることの科学』（市川伸一著 中公新書 1997年 ¥693）
○ 『公共事業の正しい考え方』（井堀利宏著 中公新書 2001年 ¥735）
その他

卒業論文【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テーマの検討と理解
- 3回 卒業論文のテーマについて報告I
- 4回 卒業論文のテーマについて報告II
- 5回 調査計画の発表I
- 6回 調査計画の発表II
- 7回 卒業論文のテーマと問題意識の検討I
- 8回 卒業論文のテーマと問題意識の検討II
- 9回～17回 関連論文の考察
- 18回 卒業論文のテーマの調査方法I
- 19回 卒業論文のテーマの調査方法II
- 20回 卒業論文のテーマの調査方法III
- 21回 卒業論文のテーマの調査方法IV
- 22回～27回 卒業論文の作成指導
- 28回 パワーポイントによるプレゼンテーションI
- 29回 パワーポイントによるプレゼンテーションII
- 30回 まとめ・評価

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートと発表 (40%)、授業への貢献 (60%)
レポート未提出の場合に「評価不能 (-)」となります

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前課題を学習支援フォルダに挙げるので、毎回参照し準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

調査方法論、価値と科学、個人・市場・国家の関係、制度と行為、変数

卒業論文【昼】

担当者名 /Instructor 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
STH410M			△	○	◎
科目名	卒業論文				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

3年次の演習II、IIIで作成したゼミ論文をもとに、必修科目である卒業研究の成果物として卒業論文を執筆する。卒業論文のテーマは、地方創生や文化観光政策など地域の魅力や価値創出に向けた政策研究が中心である。2022年度は担当教員の研修の関係で、後期にペア科目として実施するが、前期も適宜オンライン等で対応する。まず、卒業論文の基本構想を再検討した後、論文の目的、研究仮説と論証方法、先行研究レビュー、獲得された調査研究内容、結論の妥当性を適宜精査し、政策研究調査の実施と論文執筆活動を推進する。中間報告を経て11月末に完全原稿第1稿の提出を行う。ゼミでの討議、担当教員の修正指示等に基づき、1月末に卒業研究の成果物としての卒業論文の完成を目指す。指導方法は、個人指導とゼミの併用が基本であるが、公務員試験や就職活動など受講者の状況に配慮した指導を行っている。個人指導は、受講生が行う論文作成の具体的指導及び参照すべき図書、文献等の提示を行う。ゼミは、卒業論文の進捗、研究指導をゼミ生で共有しながら進めるものである。いずれも担当教員との綿密な連携のもと、指導内容に基づく論文の加筆修正を行うことが求められる。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】

公共政策課題や学術的課題について、自らの専門から論理的に思考し、論文作成を通じて自らの議論を展開することができる。

【コミュニケーション力】

積極的に議論し、自分の見解の質を高め、それを論理的に伝えることができる。

【自律的行動力】

公共性のある研究課題に関心をもち続け、卒業論文過程で獲得した知識をその後の社会生活に活かす姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。なお、論文作成に参考となる論文・文献等は別途指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (4月初旬 卒業論文構想の発表)
- (~7月上旬 卒論アウトラインの完成後、卒論題目の提出)
- (9月末 卒業論文ドラフト完)
- 11月末 卒業論文完全原稿(第1稿)の提出
- 12月~ 担当教員の指導等に基づき随時、卒業論文の推敲、修正
- 1月上旬 卒業論文第2稿の提出
- 1月中~下旬 卒業論文の完成、担当教員の確認後、提出を許可

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・論文作成 100%
- ・一度も研究指導を受けない者、卒業論文を提出しない者、不正行為を行った者は単位認定の対象外で、成績評価で「-」と表示します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

卒業論文の完成に向けて、指導教員の指導に従って論文の執筆・修正を行う必要がある。

卒業論文【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンラインに切り替える。

<履修条件>

- ・ 2年次に演習I、3年次に演習II、IIIをいずれも履修していること。
- ・ ゼミ論文の執筆など卒業論文に向けた個人研究を相当程度進めており、4月初旬に卒業論文構想を提示できること。
- ・ 田代が担当する「都市経済論」「都市政策論」「都市マネジメント論」を履修済み、あるいは履修中であること。
- ・ 完成度の高い卒業論文（先行研究レビュー、研究仮説の設定、論理性、オリジナリティ等）を執筆する意欲と基礎的能力が求められる。
- ・ 履修にあたっては、事前に面接を受けたうえで承諾を得ていること。
- ・ 指導教員と連絡を取らない、指導に従わないなど受講態度が不誠実であったり、許可なく卒業論文を提出した場合は単位を授与しない。
- ・ 無断欠席や理由のない遅刻は厳禁とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 当科目は、SDGsの「8 働きがいも 経済成長も」「11 住み続けられるまちづくりを」「17 パートナーシップで目標を達成しよう」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

卒業論文【昼】

担当者名 /Instructor 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
STH410M			△	○	◎
科目名	卒業論文				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

卒論指導では、アジア諸国の政治や外交、社会、民族に関するテーマ、あるいは多文化共生に関するテーマを主に扱いますが、他のテーマであっても指導は可能なので、遠慮なく相談してください。

スケジュールは受講生と相談の上で決めますが、第一学期は卒論の構想に沿った文献の輪読と議論、短いレポートの執筆や報告会が中心、第二学期は、具体的な章立を進めながら卒論を完成させます。

必要や要望があれば、合宿や集中授業を行います。

【到達目標】

思考・判断・表現力：公共政策課題や学術的課題について、自らの専門から論理的に思考し、論文作成を通じて自らの議論を展開することができる。

コミュニケーション力：積極的に議論し、自分の見解の質を高め、それを論理的に伝えることができる。

自立的行動力：公共性のある研究課題に関心を持ち続け、卒業論文過程で獲得した知識をその後の社会生活に活かす姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上で決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生と相談の上で決定します。

卒業論文【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【1学期】

第1/2回 研究の進め方・論文の書き方
第3/4回 テーマ発表
第5/6回 研究報告I
第7/8回 研究報告II
第9/10回 研究報告III
第11/12回 中間成果発表I
第13/14回 中間成果発表II
第15回 中間成果発表III

【2学期】

第16/17回 研究報告IV
第18/19回 研究報告V
第20/21回 研究報告VI
第22/23回 論文の引用形式の復習
第24/25回 論文の仕上げI
第26/27回 論文の仕上げII
第28/29回 論文の仕上げIII
第30回 最終確認

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文 100%
なお、卒業論文未提出の場合は「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自分の進捗状況に応じて、事前に必要文献を精読してください。
個別指導の後には、自ら短いレポートなどを書いて、論文を仕上げていく努力をしてください。

履修上の注意 /Remarks

【履修条件】

積極的に文献を読んで、議論や報告が出来る人。
論文の書き方を習熟していない場合は、注や参考文献の書き方を含めて指導を行います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

【SDGs】目標の3、5、10に主に関連しています。

キーワード /Keywords

卒業論文【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
STH410M			△	○	◎
科目名	卒業論文				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

以下のようなテーマを中心に（ただしこれに限らない）国際比較政治分析を行う論文の指導を行う。

- ・ 民族問題やエスノポリティクス
- ・ 政党政治の比較分析
- ・ 現代ヨーロッパ政治
- ・ 民主政と独裁政（の変動）...etc.

テーマに関する漠然とした記述ではなく、

- ・ ある政治現象が発生する原因や背景、あるいは、
 - ・ ある政治現象がもたらす影響や結果について
- 実証的に検証する形式の論文を執筆する。

（卒業論文を履修できるのは共通ルールに基づく [GPA2.4以上の学生のみ] ）

教科書 /Textbooks

各人の論文テーマに応じ、教員から推薦するのみならず、自ら見出す必要がある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各人の論文テーマに応じ、教員から推薦するのみならず、自ら見出す必要がある。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

前期の指導の応答を反映させて、夏休み中に第1草稿を執筆し、休み明け前に提出する。後期は当該草稿をもとに指導を行い、年明け前に第2草稿を提出する。第2草稿は、ほぼ卒論としての体裁を備えていることを理想とする。第2草稿に対するコメント・指導を踏まえて、最終稿を用意し卒論として提出する。

1. イントロダクション, 担当決め
- 2 - 3. 卒論第1構想の報告と議論
- 4 - 5. 研究計画の立案
- 6 - 10. 必要資料のリサーチ・報告・議論
- 11 - 15. 第1草稿に向けての追加リサーチ・報告・議論
- 16 - 17. 第1草稿の報告と議論
- 18 - 21. 議論を受けての修正と報告
- 22 - 25. 第2草稿に向けてのリサーチ・報告・議論
- 26 - 27. 第2草稿報告
- 28 - 29. 最終原稿への修正と報告
30. 提出締切

成績評価の方法 /Assessment Method

「卒業論文」の単位は論文のクオリティ（100%）のみに基づいて評価する。[前提科目の「卒業研究」の単位は参加状態も含めて評価する]

論文が完成しなかった場合、提出されなかった場合、成績評価不能「一」となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

隔週程度ごとに何かしらの短い報告を行い、それに対して指導・課題を与えるため、翌週にそれを踏まえた進捗報告を行う。この繰り返しは原則ではあるが、履修者のバランスや事情等を考慮して、臨機応変に対応する。

卒業論文【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

参加者の関心にも依存しますがSDGs1, 2, 5, 8, 10, 16, 17あたりのテーマが扱われることが多いです。

キーワード /Keywords

卒業論文【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
STH410M			△	○	◎
科目名	卒業論文				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業では、卒業論文を完成させることを最大の目的にして、主に学生の研究報告と教員によるコメント、添削指導を中心にして進めていきます。ゼミでは、基本的に学生による研究報告と報告に対する質疑応答という形式をとります。

卒論のテーマは地方自治体の公共政策を中心にして以下のようなテーマを考えています。①まちづくり、特に超高齢社会のまちづくり・中心市街地の空洞化・コミュニティの再生をはじめとするまちづくり政策、②人口減少問題、縮小都市[幸福に老いて縮む都市]の問題、空き家問題、③(子どもの)貧困問題、④高齢者介護政策、⑤買い物弱者問題、⑥市民社会(NPO)論、コミュニティ・ビジネス、⑦格差社会論、などです。

(到達目標)

【思考・判断・表現】公共政策課題や学術的課題について、自らの専門から論理的に思考し、論文作成を通じて自らの議論を展開することができる。

【コミュニケーション力】積極的に議論し、自分の見解の質を高め、それを論理的に伝えることができる。

【自立的思考力】公共性のある研究課題に関心を持ち続け、卒業論文過程で獲得した知識をその後の社会生活に活かす姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

学生の研究テーマに応じて、適宜指示いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

学生の研究テーマに応じて、適宜指示いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

学生の理解の進捗状況によって変わりますが、年間の授業計画はおおよそ以下のとおりです。

第1～2回 卒論(研究)の進め方、テーマの絞り方などについて

第3～4回 論文の書き方(引用の仕方等の確認)

第5～6回 テーマの設定

第7～12回 研究報告

第13～14回 テーマの再検討および今後の研究についての検討

第15回 まとめ

第16回 2学期の進め方について(オリエンテーション)

第17～25回 研究報告

第26～27回 論文の書き方の確認

第28～29回 卒論の添削とコメント・書き直し

第30回 最終的なまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

基本的には、卒業論文(80%)によりますが、それ以外にも研究発表等(20%)も成績評価に加えていきます。

卒業論文を提出していない場合には「評価不能(一)」となります。

卒業論文【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告者は必ず事前に準備して指定されたフォーマットで報告書を作成して報告してください。また、報告者の報告を聞く側も報告者の発表について必ずコメントをするように心がけてください。論文の書き方などについての授業を行った場合には、必ず復習して、卒業論文の執筆に活かすようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

卒業論文【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
STH410M			△	○	◎
科目名	卒業論文				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

社会保障制度、公共サービスの民営化・民間委託に関する卒業論文作成を行います。年金、医療、介護、保育、障害者福祉（就労支援・作業所）、指定管理者制度やPFIなどのテーマに関心を持っている人を歓迎します。
受講生は、所定の時間（開講期間における金曜日4限を予定）に計4回の報告を行い、研究成果を卒業論文（12,000字以上）として提出しなければなりません。就職活動・公務員試験などを理由とする負担軽減には一切応じません。

教科書 /Textbooks

自らの研究に必要な文献・資料を、受講生が自分自身で考え、収集する必要があります。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方、成績評価などについての注意事項説明。必ず出席すること。
- 第2回～第8回 受講生報告1回目
- 第9回～第15回 受講生報告2回目
- 第16回 卒業論文提出にあたっての注意事項説明。必ず出席すること。
- 第17回～第23回 受講生報告3回目
- 第24回～第30回 受講生報告4回目

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文の内容評価・・・40% 報告内容の評価・・・60%

* 所定の時間（開講期間における金曜日4限を予定）に報告が困難な場合は、報告日時の変更を事前に申し出ること。

一度も出席しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自らの報告の際には、十分な時間を確保し、準備すること。他の受講生の研究分野にも関心を持ち、事前に新聞やインターネットで基本的な知識を得ておくことが望ましい。報告終了後は、他の受講生と積極的に意見交換し、次回の報告に反映させてほしい。

履修上の注意 /Remarks

授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。
資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

特になし。

卒業論文【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
STH410M			△	○	◎
科目名	卒業論文				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

私が指導する「卒業論文」で扱うテーマの共通項は、「実証的な分析を通じて考察する行政・地方自治（特に地方自治体における行政活動・制度・政策・組織等）」で、この範囲内であれば、後は原則自由にリサーチクエストを設定できます。ここでの実証的な分析とは、定量的（データ分析など）・定性的（聞き取りなど）な手法のいずれか、あるいは両方を含む方法論を使い、一次情報を使って論究をすすめることを指します。2・3年次の演習での個人研究（ゼミ論）を発展させることを念頭においていますが、新たな研究課題を設定することも可とします。授業（演習）は、各自の卒業論文のテーマや分析手法に関連した文献の紹介や輪読を含む、ゼミ生の研究報告と質疑応答が中心となります。また12月20日頃までに草稿を完成させ、1月中にブラッシュアップすることを目標に、ゼミ生それぞれに対して、個別の論文の執筆指導・添削も行っています。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】

公共政策課題や学術的課題について、自らの専門から論理的に思考し、論文作成を通じて自らの議論を展開することができる。

【コミュニケーション力】

積極的に議論し、自分の見解の質を高め、それを論理的に伝えることができる。

【自立的行動力】

公共性のある研究課題に関心を持ち続け、卒業論文過程で獲得した知識をその後の社会生活に活かす姿勢が身についている

教科書 /Textbooks

- 石黒圭（2012）『論文・レポートの基本』日本実業出版社
- 伊藤修一郎（2022）『政策リサーチ入門増補版：仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会
- 酒井聡樹（2007）『これから卒業論文・レポートを書く若者のために』共立出版
- 戸田山和久（2012）『新版論文の教室：レポートから卒業論文まで』NHKブックス

その他、適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 菊池誠ほか（2011）『もうダメされないための「科学」講義』光文社新書
 - 久米郁男（2013）『原因を推論する：政治分析方法論のすゝめ』有斐閣
 - 近藤克則（2018）『研究の育て方：ゴールとプロセスの「見える化」』医学書院
 - 酒井聡樹（2015）『これから論文を書く若者のために：究極の大改訂版』共立出版
 - 名古屋大学教育学部附属中学校・戸田山和久（2014）『はじめよう、ロジカル・ライティング』ひつじ書房
- その他、適宜指示します。

卒業論文【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス：今後のスケジュール、論文作成にあたって（1）
- 2回 論文作成にあたって（2）論文構成、各自のテーマの確認
- 3回 研究報告（1）進捗状況と研究方法を中心に①
- 4回 研究報告（2）進捗状況と研究方法を中心に②
- 5回 研究報告（3）進捗状況と研究方法を中心に③
- 6回 研究手法について（1）実証分析の方法
- 7回 研究手法について（2）想定する方法論の確認
- 8回 文献報告（1）各自の研究に直結・関連する文献の紹介①
- 9回 文献報告（2）各自の研究に直結・関連する文献の紹介②
- 10回 文献報告（3）各自の研究に直結・関連する文献の紹介③
- 11回 研究のふり返り（1）現状の課題を抽出する
- 12回 研究のふり返り（2）アイデアを出し合う・スケジュールを確認する
- 13回 研究報告（4）仮説と実証分析の結果を中心に①
- 14回 研究報告（5）仮説と実証分析の結果を中心に②
- 15回 研究報告（6）仮説と実証分析の結果を中心に③

- 16回 研究のふり返り（3）足りない情報（文献・データ等）を確認する
- 17回 研究のふり返り（4）批判し合う・執筆のスケジュールを確認する
- 18回 論文作成にあたって（3）論文構成、先行研究・参考文献の確認
- 19回 論文作成にあたって（4）仮説の設定と検証、Q&Aの一致（序論と結論）
- 20回 論文作成にあたって（5）結論と含意、課題の示し方
- 21回 研究報告（7）結論の提示①
- 22回 研究報告（8）結論の提示②
- 23回 研究報告（9）結論の提示③
- 24回 草稿の修正にあたって
- 25回 論文を要約する
- 26回 研究報告会（1）
- 27回 研究報告会（2）
- 28回 研究報告会（3）
- 29回 卒業論文の講評
- 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究報告20%、議論への参加（質疑応答）20%、成果物としての卒業論文60%
※遅刻・無断欠席厳禁、度重なる場合には減点対象、無断欠席4回以上は - 評価（評価不能）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業外学習については、事前学習としては主に文献の読み込み・資料の作成、事後学習としては報告で得られたコメントの整理、社会調査やフィールドワーク、卒業論文の執筆等を想定しています。

履修上の注意 /Remarks

行政学・地方自治、特に自分が研究したいテーマおよび用いたい分析方法に関連する科目を履修済みであることが望ましいです。また、研究報告を中心とするゼミ生同士の議論への積極的な参加はもとより、卒業論文執筆と完成への強い意志、意欲、および情報を収集し、文献を読み込み、結論に至る根拠は何であるのかを深く考察する姿勢を強く求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私自身の経験でもあるのですが、卒業論文で扱うテーマが、図らずも仕事になったり、思いがけず一生をかけて向き合う課題になったりすることもあり得ます。趣味的でもよし、憤りでもよし、自分にとって「いま一番興味がある」「気になって仕方ない」など、取り組むにあたって、苦しみながらも楽しめるテーマや分析方法を選択してもらいたいと思っています。
リサーチエスチョンに対する一定の解を出せたとしても、自分を心底納得させるのは大変難しいことです。しかしこの「卒業論文」執筆という研究過程を経ることで、（限定的であろうとも）すっきり気持ちよく大学を飛び立ちませんか。そのサポートをするのが指導教員の役割のひとつと考えています。
またSDGs（特に7・12・15など）の観点から、レジユメ・資料等はすべてMoodle and/or Teams にアップするものとします。

キーワード /Keywords

卒業論文【昼】

担当者名 吉田 舞 / Mai Yoshida / 政策科学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
STH410M			△	○	◎
科目名	卒業論文				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

大学入学時から政策科学科の学生として学んできたことの集大成が卒業論文です。卒業論文では、自身が選択したテーマについて、問題を提起し、仮説を立て、科学的調査データを以て、根拠を示すことが求められます。そして、それらの解釈を論理的に、他者に伝えること、そのために、主体的に調査研究と執筆活動を行い、様式やルールに沿って論文を書くことが求められます。毎回の授業では、受講生が中心となって、報告とディスカッションを行います。後半は、年内に草稿を完成させることを目標に、個別指導を行います。中間報告と最終報告は、3年生と4年生が合同で行う予定です。

{DP3 思考・判断・表現力} 公共政策課題や学術的課題について、自らの専門から論理的に思考し、論文作成を通じて自らの議論を展開することができる。

{DP4 コミュニケーション力} 積極的に議論し、自分の見解の質を高め、それを論理的に伝えることができる。

{DP5 自立的行動力} 公共性のある研究課題に関心を持ち続け、卒業論文過程で獲得した知識をその後の社会生活に活かす姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

テキストは特に指定しない。論文執筆の過程で個別の文献を指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○石井一成『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』2011, ナツメ社。

○上野千鶴子『情報生産者になる』2018, ちくま新書。

卒業論文【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回「卒業論文」について
- 第2回卒業論文のテーマ設定と問題関心について報告
- 第3回研究スケジュールの設定
- 第4回過去の卒業論文のレビューと議論① テーマと問題関心
- 第5回過去の卒業論文のレビューと議論② 論文構成
- 第6回受講生の論文構想発表と議論①テーマ設定
- 第7回受講生の論文構想発表と議論②問題関心と仮説
- 第8回受講生の論文構想発表と議論③文献報告
- 第9回受講生の論文構想発表と議論④論文構成
- 第10回調査対象と調査法、調査の事前準備について
- 第11回受講生の調査と結果報告、コメント①
- 第12回受講生の調査と結果報告、コメント②
- 第13回受講生の調査と結果報告、コメント③
- 第14回卒業論文に必要な文献資料紹介と議論①
- 第15回卒業論文に必要な文献資料紹介と議論②
- 第16回卒業論文に必要な文献資料紹介と議論③
- 第17回中間報告①
- 第18回受講生による卒業論文執筆の進捗報告と個別指導①
- 第19回受講生による卒業論文執筆の進捗報告と個別指導②
- 第20回受講生による卒業論文執筆の進捗報告と個別指導③
- 第21回受講生による卒業論文執筆の進捗報告と個別指導④
- 第22回受講生による卒業論文執筆の進捗報告と個別指導⑤
- 第23回受講生による卒業論文執筆の進捗報告と個別指導⑥
- 第24回中間報告②
- 第25回受講生の草稿発表と議論①
- 第26回受講生の草稿発表と議論②
- 第27回論文推敲と議論①
- 第28回論文推敲と議論② 形式確認、修正
- 第29回論文推敲と議論③ 完成稿の最終確認
- 第30回 卒業論文報告会：プレゼンテーション&質疑応答

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度(質疑応答)...20%、研究報告...20%、卒業論文...60%
※5回以上の無断欠席、卒業論文未提出の場合は「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

研究テーマに関係するフィールド調査、文献調査は、授業時間外に各自が行うことになります。受講生には、毎回の授業でA4 2枚程度、前回授業からの研究の進捗状況をまとめて報告してもらいます。事後学習として、授業で指摘された点を卒業論文に反映させることができるように整理をしてください。

履修上の注意 /Remarks

12月末には第一次草稿を提出できるように、早くから準備しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

調査したことや、考察したことを、世に返す(アウトプット)することは、研究をする上で、もっとも大切な作業だと考えています。4年間の大学生活の集大成として、これまでの学びを、誰に向けて、どのようにアウトプットするのか、考えていきましょう。

キーワード /Keywords

卒業論文【昼】

担当者名 /Instructor 黒石 啓太 / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
STH410M			△	○	◎
科目名	卒業論文				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

演習形式で卒業論文の作成を行う。

(到達目標)

DP5 自立的行動力：公共性のある研究課題に関心を持ち続け、卒業論文過程で獲得した知識をその後の社会生活に活かす姿勢が身についている。

DP4 コミュニケーション力：積極的に議論し、自分の見解の質を高め、それを論理的に伝えることができる。

DP3 思考・判断・表現力：公共政策課題や学術的課題について、自らの専門から論理的に思考し、論文作成を通じて自らの議論を展開することができる。

教科書 /Textbooks

適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

卒業論文【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【授業の進め方など】
- 2回 卒業論文の書き方①【論文とは】【論文執筆に向けた姿勢】
- 3回 卒業論文の書き方②【論文執筆の作法とルール】
- 4回 卒業論文の書き方③【論文のテーマ（リサーチエスション）と構成の考え方】
- 5回 「問題関心・構想」の発表①【前半】
- 6回 「問題関心・構想」の発表②【後半】
- 7回 「問題関心・構想」についてのコメント・議論
- 8回 参照すべき文献・資料の紹介
- 9回 先行研究・参考文献等の使い方
- 10回 調査研究結果の活用方法の検討
- 11回 執筆スケジュールの検討・作成①【前半】
- 12回 執筆スケジュールの検討・作成②【後半】
- 13回 中間報告①【前半】
- 14回 中間報告②【後半】
- 15回 中間報告についてのコメント・議論
- 16回 進捗報告①【前半】
- 17回 進捗報告②【後半】
- 18回 論文章構成の検討
- 19回 文献リストの検討
- 20回 各章概要（論文骨子）の報告①【前半】
- 21回 各章概要（論文骨子）の報告②【後半】
- 22回 各章概要（論文骨子）についてのコメント・議論
- 23回 論旨の一貫性についての検討①【前半】
- 24回 論旨の一貫性についての検討②【後半】
- 25回 各論文の一貫性についてのコメント・議論
- 26回 論文体裁の確認①【前半】
- 27回 論文体裁の確認②【後半】
- 28回 最終報告①【前半】
- 29回 最終報告②【後半】
- 30回 全体の総括・講評

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文作成への姿勢・態度...50%

卒業論文の評価...50%

※正当と認められる理由なく最終報告を行わなかった場合には、「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：報告等に当たっては十分な事前準備を行うこと。

事後学習：教員およびメンバーからの指摘を踏まえ、必要な修正などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / MIYAKE HIROYUKI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
STH410M			△	○	◎
科目名	卒業論文				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

大学入学時から政策科学の学生として学んできたことの集大成が卒業論文です。1年から3年の終わりまで、政策入門、調査、評価などの様々な政策の分野を学習してきました(きちんとやっておくこと!!)。また、三宅ゼミでプロジェクト実践も行いました。卒業論文を書くにあたって留意してほしいのは、テーマを決定し、論理展開を考え、必要な文章で表現していくことです。

しかし、テーマ決定一つとっても簡単ではありません。というのも、決定するのに時間がかかり過ぎたり、絞り切られていないものもあるからです。次の段階に移って、章構成を的確に行うのであれば、論理的思考が必要となってきます。1～3年までに培ってきた能力を武器にして頑張りましょう。日ごろから問題意識を持って、様々な観察・インタビューをしていてください。テーマ決定や文献資料作成は3年の2学期に行っていることだけを付け加えておきます。

【思考力・判断・表現力】公共政策課題や学術的課題について、自らの専門から論理的に思考し、論文作成を通じて自らの議論を展開することができる。

【コミュニケーション力】積極的に議論し、自分の見解の質を高め、それを論理的に伝えることができる。

【自立的行動力】公共性のある研究課題に関心を持ち続け、卒業論文過程で獲得した知識をその後の社会生活に活かす姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

その都度必要に応じて配布予定。

旺文社編 『資料検索入門～レポート・論文を書くために』慶應義塾大学、2014年、1200円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

* 石井一成 『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』ナツメ社、2011年、1188円

* 田中幸夫 『卒論執筆のためのWord活用術』講談社、2012年、880円

* 北九州市立大学三宅ゼミ論集編集委員会 『2021(令和3)年度北九州市立大学法学部政策科学科三宅ゼミ活動報告書』北九州市立大学、2022年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 授業の概要説明	2回 卒業論文とは何かを考える
3回 受講生によるテーマの設定の吟味	4回 対象・方法論の確定
5回 各受講生の論文構想発表 1 と議論	6回 各受講生の論文構想発表 2 と議論
7回 各受講生の論文構想発表 3 と議論	8回 調査方法を考える
9回 各受講生の調査方法と内容の発表 1 と議論	10回 各受講生の調査方法と内容の発表 2 と議論
11回 各受講生の調査方法と内容の発表 3 と議論	12回 各受講生の調査方法と内容の発表 4 と議論
13回 事例学習：インドの環境問題と環境教育の実態	14回 事例学習：バン格拉デシュ・ダカ市の廃棄物管理
15回 事例学習：北九州市監島プロジェクト	16回 各自の調査結果報告 1 と議論
17回 各自の調査結果報告 2 と議論	18回 各受講生の調査結果報告 3 と議論
19回 各自の調査結果報告 4 と議論	20回 各受講生の論文に必要な文献資料紹介 1 と議論
21回 各受講生の論文に必要な文献資料紹介 2 と議論	22回 各受講生の論文に必要な文献資料紹介 3 と議論
23回 各受講生の論文に必要な文献資料紹介 4 と議論	24回 中間講評
25回 各受講生の草稿発表 1 と議論	26回 各受講生の草稿発表 2 と議論
27回 各受講生の草稿発表 3 と議論	28回 各受講生の草稿発表 4 と議論
29回 最後の全体討論	30回 まとめ

卒業論文【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への日常的な態度 30% 卒業論文の内容 ... 70%
{ - }は、授業への参加が極端に少ない場合に限り、授業参加意欲がないとみなし、付すものである。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、卒論に関する文献・資料を読んでおくこと、また、調査に関わる手引書・文献を熟読してください。事後学習は、授業で指摘された点を卒論に反映させることができるように整理をしてください。

履修上の注意 /Remarks

様々なものが調査材料になります。自らのスタイルに合わせ、予習復習を怠らずにやってください。実践活動からも何らかのヒントがあると思います。そこをよく見抜きましょう。最終的には一人一人の指導になるので、早くから準備しておいてください。12月末には第一次草稿を提出できるように。。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

集大成として卒業論文を完成させるにあたってかなりの苦労があると思います。大学時代の良い思い出になるでしょう。頑張ってください。図書館も新しくなり、勉強するには最適です。足を運びましょう。そして、良書はどんどん読みましょう。履修上の注意にも書きましたが、できるだけ早く準備しててください。

キーワード /Keywords

大学生活の集大成、こだわり探し、テーマ設定、論理展開、調査

政治学 【昼】

担当者名 /Instructor 上條 諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS100M	◎	○	△		
科目名	政治学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本講義は、政治の基本的な仕組み・ルールである「政治制度」の紹介を通じて、政治学の基礎的な概念を学び、日本やその他の民主主義諸国の政治に対する見方を養うことをその目的とします。

より具体的には、導入として政治そして民主主義とは何かということについて考えたいので、①政治制度にはどのようなものがあり、その違いが民主政治の在り方にどのような影響を与えるかについて学ぶ中で、政治学の基礎的な知識を身に着けること、②政治“学”の知識を蓄えるにとどまらず、そうして学んだ政治制度の知識に基づいて日本や各国の実際の政治について考察する力を身に着けることを目指していきます。

(到達目標)

【知識】 政治制度についての基礎的な知識を身につけている。

【技能】 各国の政治制度の理解に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】 制度設計の観点から社会的諸問題を論理的に検討し、その解決策について自らの意見を表現することができる。

教科書 /Textbooks

建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史 (2008) 『比較政治制度論』有斐閣アルマ

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

レイプハルト, アーレント (粕谷裕子, 菊池啓一訳) (2014) 『民主主義対民主主義 (原著第2版) 』勁草書房

久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝 (2011) 『政治学 (補訂版) 』有斐閣

砂原庸介・稗田健志・多湖淳 (2015) 『政治学の第一歩』有斐閣ストゥディア

政治学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN：政治とはなんだろうか
【権力】【政治と経済】【公共財】
- 第2回 政治制度：民主主義というルール、民主主義のルール
【体制論】【本人-代理人関係】【合理的選択制度論】
- 第3回 選挙制度：政治家はどう選ばれるか
【小選挙区制】【大選挙区制】【比例代表制】【混合制】
- 第4回 執政制度①：トップリーダーに何ができるか
【執政長官】【議院内閣制】【大統領制】【半大統領制】
- 第5回 政党システム：政治の勢力図
【二大政党制】【多党制】【デュヴェルジエの法則】【ダウズモデル】
- 第6回 政党組織：政治のチーム・マネジメント
【議会政党】【議会外政党】【集権-分権】【党内民主主義】
- 第7回 執政制度②：執政制度のヴァリエーション
【議院内閣制の多様性】【大統領制の多様性】【半大統領制の多様性】
- 第8回 議会制度：政策を審議する
【立法過程の効率性】【立法過程の開放性】【二院制】
- 第9回 中央地方関係：自治と画一性
【単一国家】【連邦国家】【地方分権】
- 第10回 行政官僚制：民意と専門性
【能力・専門性】【官僚の政治的統制】【官僚の自律性】
- 第11回 政治制度から日本を眺める①：55年体制
【55年体制】【中選挙区制】【派閥】
- 第12回 政治制度から日本を眺める②：政治改革以後
【選挙制度改革】【小選挙区比例代表並立制】【行政改革】【政権交代】
- 第13回 政治制度から世界を眺める
【多数決型（ウエストミンスター型）民主主義】【コンセンサス型民主主義】
- 第14回 国際制度：政府のない世界の政治制度
【主権国家】【集団安全保障】【グローヴァル・ガヴァナンス】
- 第15回 政治学方法論：数理分析を中心に
【数理分析】【ゲーム理論】【ナッシュ均衡】【公共財ゲーム】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：100%
(オンラインの場合 期末レポート：100%)

*期末試験不受験(オンラインの場合は期末レポート不提出)の場合は「評価不能(一)」とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の中から次回授業に該当する部分を探して読み、疑問点・よくわからなかった点はどこかを考えてみたくて講義に参加(オンラインの場合は講義動画の視聴を)してください。事後学習については以下の履修上の注意の内容を参照してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・教科書は専門用語を多く含んだ「政治学の言葉」で書かれています。それに対して講義(オンラインの場合講義動画)ではできる限りかみくだいて説明するよう努めますので、各回授業への取り組みが講義の理解にとって極めて重要です。復習時に、教科書の内容が理解できるか、「自分の言葉」で説明できるか確認してみてください。
- ・教科書の該当部分、スライド内で引用した文献の出典は教員のホームページにて示します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義は政治学の学習の入り口に位置づけられるものですが、その後に履修するであろう「発展的な」科目に比して平易というわけではありません。むしろ、政治の基本的な仕組み/ルールである「政治制度」という切り口から、政治という複雑な営みについて体系的・学問的に考えるための一つの見方を提供する高度な内容であるといえます。大学での知的生活における早い段階で触れつつも、それを咀嚼・理解して自分のものとするために何度も戻ってくる、そういう価値のある内容を提供できればと思います。

キーワード /Keywords

民主政治 政治制度 本人-代理人関係 合理的選択制度論

政治過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 上條 諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS210M	◎	○	△		
科目名	政治過程論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

政治過程論とは、“市民が選挙で投票をしたり、デモをしたりすることによって政治家に働きかけを行い、それを受けて政治家や官僚が政策を決定・実施し、その政策を受けて市民が再び投票などを行う”、といったような政治が機能する過程を、理論的・実証的に分析する政治学の一分野です。本講義では、後述するように政治過程を「入力過程」と「出力過程」に大きく分けて解説していくことで政治過程論における基礎的な概念を身に付け、民主主義体制における政治過程の概形を把握することをその目的とします。

より具体的には、まず前半では、政治過程を理論的・実証的に分析するとは一体どのような営みなのかということを考えたのち、有権者や利益団体といった市民からなる集団が実際に政治的決定を行う政治エリートに働きかけを行う「入力過程」を扱います。後半では、議員や官僚といった政治エリートたちが政策を決定・実施することで我々市民の生活に影響を与える「出力過程」を扱います。

(到達目標)

【知識】政治過程に関する専門的な知識を身につけている。

【技能】政治的意思決定の理解に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】政治過程論の観点から、政治現象について論理的に検討し、自らの見解を表現することができる。

教科書 /Textbooks

松田憲忠・岡田浩編 2018. 『よくわかる政治過程論』ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊藤光利・田中愛治・真淵勝 2000. 『政治過程論』有斐閣アルマ

建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史 2008. 『比較政治制度論』有斐閣アルマ

山田真裕 2016. 『政治参加と民主政治』東京大学出版会

谷口将紀 2015. 『政治とマスメディア』東京大学出版会

政治過程論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
【政治過程論】【民主主義】【政治システム論】
- 第2回 権力
【権力】【非決定権力】【予測的対応】【観察同値問題】
- 第3回 政治学方法論入門
【因果関係】【理論と実証】【数理分析】【計量分析】
- 第I部 入力過程
- 第4回 政治参加
【投票参加】【投票外政治参加】
- 第5回 投票行動
【政策投票】【コロンビアモデル】【ミシガンモデル】【業績投票】
- 第6回 選挙制度
【多数代表制】【比例代表制】【混合制】
- 第7回 利益団体
【利益団体と圧力団体】【多元主義】【ネオ・コーポラティズム】
- 第8回 マスメディア
【メディア効果論】【プライミング】【フレーミング】
- 第II部 出力過程
- 第9回 政党
【政党システム】【政党組織】【選挙制度と政党】
- 第10回 執政制度とリーダーシップ
【議院内閣制】【大統領制】【拒否権プレイヤー】
- 第11回 議会制度と立法過程
【変換型とアリーナ型】【委員会型と本会議型】【日本の国会】
- 第12回 政策決定過程
【(完全)合理性と限定合理性】【ゴミ缶モデル】【アリソンの3モデル】
- 第13回 官僚制と政策ネットワーク
【官僚優位論と政党優位論】【官僚の政治的統制】【鉄の三角形】
- 第14回 政策実施と政策評価
【実施のギャップ】【第一線公務員論】【政策評価と行政評価】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：100%

*期末試験不受験の場合は「評価不能(一)」とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の中から次回授業に該当する部分を探して読み、疑問点・よくわからなかった点はどこかを考えてみたくて講義に臨んでください。
事後学習については以下の履修上の注意の内容を参照してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・本講義では基礎的な事項の効率的な定着を図るために教科書を指定していますが、講義では教科書の内容に追加・補足をします。講義中のノートテイキング及び復習を重視してください。
- ・スライド内で引用した文献は教員のホームページにて出典を示します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では公務員試験などを念頭に置いて、先端的な分析ではあまり有用とはみなされていないような古典的な概念なども多く紹介します。しかしここで試験のための単なる暗記ゲームに堕してしまうのは非常にもったいないですから、どういった点が分析上の欠点となりうるのか、それでもなお現実の政治の一面をよく捉えているといえる部分はないのかなど色々思索をしてみましょう。言論空間はすでに無用な概念でいっぱいですから、むやみに新しい名前を付けたり、使えるものをみだりに捨ててしまったりしないという工口な知的態度を共に身につけていきましょう。

キーワード /Keywords

政治過程 入力過程と出力過程

西洋政治史【昼】

担当者名 /Instructor 村上 悠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS111M	◎	○	△		
科目名	西洋政治史			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業では、18世紀から20世紀前半までのヨーロッパ政治の展開を扱います。イギリス産業革命、フランス革命の展開を確認したうえで、ドイツ史を中心に、ヨーロッパ各国の政治の展開、相互の影響、第二次世界大戦へと至る過程を対象とします。過去の事象をただ知るのではなく、それが「なぜ」起きたのかという因果関係や、当事者の意図を理解することに重点を置いて、ヨーロッパの歴史を検討します。加えて、市民が政治の主体となる自由民主主義体制の形成と変容について、政治学の基本的な理解枠組みを用いながら検討していきます。

この講義の到達目標は次の通りとなります。

- 【知識】 西洋政治史に関する基礎的な知識を身につけている。
- 【技能】 西洋政治史の理解に必要な情報を収集、分析することができる。
- 【思考・判断・表現力】 西洋政治史について総合的に思考し、自らの考えや意見を表現することができる。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は使用しません。授業に際しては、レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 篠原一 『ヨーロッパの政治—歴史政治学試論』 東京大学出版会、1986年9月刊 (3,200円 + 税)。
 - 杉本稔編 『西洋政治史』 弘文堂、2014年02月刊 (2,000円 + 税)。
 - R・A・ダール著、高島通敏・前田脩訳 『ポリアーキー』 岩波文庫、2014年10月刊 (1,080円 + 税)。
 - 岡義武 『国際政治史』 岩波現代文庫、2009年9月刊 (1,480円 + 税)。
- その他、適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス、近代ヨーロッパの歴史と政治史について
2. イギリス産業革命(1)：産業革命とイギリス議会主義
3. イギリス産業革命(2)：資本主義と社会主義
4. フランス革命(1) 食糧危機と民衆の騒乱
5. フランス革命(2) 革命の進展とナポレオン
6. フランス革命(3) ウィーン体制の確立
7. ドイツ帝国の展開(1)：ドイツ帝国の誕生
8. ドイツ帝国の展開(2)：ドイツ帝国の政治と社会
9. ドイツと世界大戦(1)：第1次世界大戦と革命
10. 戦間期の世界：ヴェルサイユ体制とワシントン体制
11. 戦間期のドイツ(1)：ヴァイマル期の政治と社会
12. 戦間期のドイツ(2)：社会主義の脅威とナチズム
13. ドイツと世界大戦(2)：第2次世界大戦の勃発
14. ドイツと世界大戦(3)：大戦の終焉と東西世界の分断
15. まとめ：福祉国家の成立

成績評価の方法 /Assessment Method

期末筆記試験(100%)で行います。
期末筆記試験は自筆のノートやメモの持ち込みを許可します。

なお、5回以上欠席された方は「評価不能(一)」となりますので、ご注意ください。

西洋政治史 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回授業時に次回のテーマとキーワードを提示するので、それを基に、情報収集や関連項目等の事前学習を行ってください。
授業終了後は復習を必ず行い、授業で配布したレジュメや、各自がとったノートなどを見直し、要点をまとめ、知識の定着を行ってください。
自筆で作成したノートは筆記試験に際して持ち込み可能なので、作成を推奨します。

履修上の注意 /Remarks

初回授業の際に授業の進行や、成績評価について説明するので履修予定者は留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政党政治論 【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS211M	◎	○	△		
科目名	政党政治論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義では政党政治の諸相について、①政党間の競争②政党内の個々の議員の行動、の双方を基軸にして、国際比較と実証性を重視しつつ検討します。現代民主主義の政治は政党を中心として展開しており、政策形成を理解するためにも政党政治の分析能力が必要です。それは、企業を知らずして現代経済を理解できない事と似ているかもしれません。政党システム論と政党組織論の双方に依拠し、適宜事例を踏まえつつ（必ずしも日本とは限りません）、現代民主主義に関する理論や分析視座の習得を目指します。

受講者はこの授業を通じて、1. 政党システム論の基礎を習得し、国や地方自治体によって違う政党システム・議会状況の違いが、その国や地方自治体の政治・行政の展開にどのような影響を与えるのか、自ら批判的に検討できるようになる；2. 一市民あるいは一専門家として、議会状況の特徴や差異を自分自身で指標として算出でき、選挙制度によって異なる議席配分や定数配分を計算できるようになる；3. 政党組織論の基礎を習得し、国や地方自治体によって違う選挙制度との相互関係の中で、議員のインセンティブ構造と行動に変化が現れることを理解する（ひいては将来、一市民や一専門家として彼ら代理人とともに仕事をできるための予備知識を身に付けておく）ことが求められます。

本学ディプロマポリシー上の到達目標は「政党・議会・選挙に関する専門的知識を身に付けている」「国や地域の政党政治の特徴を算出・数値化でき」「政治過程を通じた社会問題の解決を思考し探求できる」となっており、そのためにも上記の3要件を満たすことが期待され、またそれが成績評価と授業設計の基盤をなすものと理解してください。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません。授業資料はこちらで用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 川人貞史・吉野孝・平野浩・加藤淳子(2011)『現代の政党と選挙(新版)』有斐閣
- 待鳥聡史(2018)『民主主義にとって政党とは何か』ミネルヴァ書房
- 待鳥聡史(2015)『政党システムと政党組織』東京大学出版会
- 砂原庸介(2015)『民主主義の条件』東洋経済新報社

政党政治論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションならびに政党と民主主義について。本講義全体の位置づけやゴールを説明し、本講義の主題であるところの政党と民主主義の関係について、そもそもいかなる機能を果たしているのか、歴史的な否定論に言及しつつも、プロフェッショナルな観点からはポジティブな効果や機能がいくつかあることを理解する。マティソンの【多元主義】的民主主義観や、政党の機能論、民主的統制との関連が重視される。
2. 政党と政府形成①：政党の定義や多義的な側面について理解する。政党は選挙を媒介とした合法的手段を中心に政策主張を展開する政組織でもある。その一つの機能は政府形成機能にあり一国の政治を左右する。様々な政党（やその政策・立ち位置）のデータベースの代表例としての「比較マニフェストプロジェクト（CMP）」を知り、民主政治への含意を理解する。【政党と政策についての課題提出あり】
3. 政党と政府形成②：CMPを通じ、世界に様々な政党があることを知り、またその政治の展開にどのような影響を与えたのか知見を広める。日本を事例に政党政策位置の理解を深め、政党間競争や連立形成が各政党の政策位置やそれに規定される政党間距離に影響を受けるということを理解する。
4. 政党と政府形成③：議会の政党間競争が重要なのは、それが最終的に多数派形成の基盤となり実現する/しない政策が決まるからである。議会多数派形成にかんする連立形成理論とくに最少勝利連合の概念について理解し、仮想的な状況で形成されうる多数派を自ら予想できるようになる（このことは現実とのギャップを見出した時に、「何が理論と違う状況をもたらしたのか」という個別の現実政治の個性を理解することにもつながる）。ここでは、政党の数も重要であることが理解される。
5. 政党システム①：議会で競争する存在としての政党ならびに、その全体的な競争状況を表すものとしての政党システム（政党制）概念について理解する。古典的かつ質的なサルトリーの分類論を理解したのち、より近代のかつ量的な指標としての有効政党数を紹介し、その計算方法を習得する。【政党システムについての課題提出あり】
6. 政党システム②：提出課題から政党システムの多様性を理解する。そこから、なぜ国や地域や時代によって政党システムは異なり変化するのかへと問を深める。説明要因として古典的な「凍結仮説」（社会構造的説明）と、選挙制度の効果とくにM+1ルールについて理解する。日本や地方自治体の選挙結果をもとに、制度の効果についての実証的知見を身につける。
7. 政党システム③：有効政党数に対する制度要因をさらに追及し、様々な政治制度がその国の政党間競争に与える影響について理解する。選挙制度だけではなく、その国の執政制度も影響を与える事をしり、さらに同じ比例代表でも算出方法「ドント式」「サン＝ラゲ式」「ヘア方式」等によって異なる議席数となることを、実際の算出方法の習得と併せて実感する。最終的には有権者の投票行動とつながることに理解を広げる。
8. 政党と有権者①：政党は単に政策提示のみによって選挙を勝ち抜くのではなく、組織として固定的支持基盤を形成したり、過去の業績に基づいて支持を集める。業績投票も重要である。それを媒介する利益団体とは何で、政党に対してどのように働きかけるのか、理解を広げる。【政党と利益団体の接触に関する課題提出あり】
9. 政党と有権者②：課題から、人々の政治家に対するインプット方法はさまざまであることを理解する。しかし、現実の政治展開を見た際に、そのように政党が有権者や利益団体から様々なインプットを受けつつも、その意向を重視したり軽視したりすることがある。逆説明責任や利益媒介の在り方に関する理論に基づき、そのメカニズムの理解を深める。
10. 政党と有権者③：政党が有権者や利益団体の意向にグラデーションを付けるように、有権者の側も複数の政党の中から投票先を選択する（あるいは選択しないという選択を行う）。そもそもどのように有権者は投票先を決定し、またその際にどのような情報環境や政治経済的背景が影響を与えているのか、理解を深める。
11. 政党という組織①：政党も一つの組織であり、その内部に様々な人間や利害や理念を抱えている。政党の中で存在する個々の議員の意見の多様性がいかなる形態をとるか理解する。すなわち、政党の「一体性party cohesion」や「政党規律party discipline」の問題である。特に党首選出を題材に、ルールの違いが政党組織の違いに与える影響を理解する。【政党執行部と議員についての課題提出あり】
12. 政党という組織②：課題提出を受けて、政党という組織と各議員によって異なる異論や議論がどのように処理されたのか理解を深める。この際、大統領制と議院内閣制で政党内部の議論の可視化には差異があり、またそれは委員会制・本会議制によっても異なってくる。関連して、日本を中心に党の中の政務調査会や総務会がどのような機能を果たしているか理解する。
13. 政党という組織③：個々の議員が政党に従属したり反旗を翻したりするのは何故か、個々の議員の資質ではなく、制度（特に選挙制度）との連関で理論的に分析できるようになる。日本の場合は小選挙区制と比例代表制の差異だけではなく中選挙区制の効果理解が必要であり、また同じ比例代表制でも拘束名簿と非拘束名簿で、議員のいづくインセンティブは真逆といってよいほどに変わることを理解する。
14. 講義内容理解の定着：政党組織論を中心とした第10-13回の講義内容の定着を図る。授業進度の回復・休講/補講の対応・イベント授業との調整は、この回（に相当する回）を用いて調整する。
15. 2022年度は参議院選挙がこの時期に予定されており、授業内容をもとに現実政治の分析を試みる。ただしシラバス記入段階では正確な投票日が未定のため、授業日まで投票がなされなかった場合には、別途対応を検討する。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中に行う4回の小課題：40%（各回：未提出0点，可5点，優10点で評価）
- ・ 期末試験：60%（テークホームイグザムになる可能性あり）

政党政治論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

この他、時節の政治的状況を用いた授業積極参加措置に対し、プラスの加点措置を取る可能性があります。詳細は第1回授業でアナウンスします。

小課題提出なし+期末試験未受験の場合、評価不能「一」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業最後に次回内容を予告しますので適宜予習してきてください。講義レジュメは講義前にアップロードいたします。全4回の小課題を提出する予定です。これらはmoodle上で締め切りを設定し実施します(また次回授業で活用します)。

また、事前事後学習とは座学だけではなく、本講義の知見を念頭におきつつ、様々な書籍や新聞を読解したり、マスメディアやネット等での政治報道に触れて自身の見解を形成することも含みます。政党や議員の行動を報ずるTV番組などを見て考えを深めることも広義の事前事後学習時間に含まれます。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 昨年までと授業形式を大幅に変えます。既履修者の意見を参考にせず、本シラバスを履修選択の参考資料にしてください。
- ・ 図表をスライドに投影しつつ、レジュメを基礎として授業を進行します。講義レジュメは講義前にアップロードいたします[スライドは授業後の場合もあります]
- ・ 政治学/政治過程論を履修し単位習得済である学生の知識レベルを念頭に授業を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDG16, 政党・選挙・比較政治学・実証政治学

現代政治思想 【昼】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS212M	◎	○	△		
科目名	現代政治思想			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

私たちが政治や政策について語る時、それは常に、政治と社会はいかにあるべきかということについてのビジョンに基づいています。このビジョンを背景から支える価値を理論化するのが、政治思想の役割です。政治のビジョン・価値は多様であり、それらが互いに異なる政治上の立場を支持することで、現実政治のダイナミズムが生まれます。この授業は、履修者が政治や社会に関する多様な思想を理解した上で、価値と現実の緊張関係から生まれる様々な政治現象をこの観点から分析・理解できるようになることを目指します。

(到達目標)

【知識】現代政治思想に関する専門的な知識を総合的に身につけている。

【技能】現代政治思想の理解に必要な情報を収集、分析できる。

【思考・判断・表現力】現代政治思想の観点から、社会的諸問題について論理的に考え、自らの意見を発信することができる。

教科書 /Textbooks

Moodleを用いてレジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『現代政治理論 (新版)』 (川崎修・杉田敦 編、有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 政治とは何か
- 第2回 権力とは何か (1) 【権力の種類】
- 第3回 権力とは何か (2) 【意図と権力】 【構造と権力】
- 第4回 リベラリズムの基礎 (1) 【自然権】 【功利主義】 【人格発展】
- 第5回 リベラリズムの基礎 (2) 【適者生存】 【ニュー・リベラリズム】
- 第6回 リベラリズムの発展と批判 【福祉国家】
- 第7回 自由とは何か (1) 【二つの自由】 【自律】
- 第8回 自由とは何か (2) 【共同体】 【共和主義】
- 第9回 自由とは何か (3) 【権力と自由】
- 第10回 平等と正義 (1) 【ロールズの正義論】
- 第11回 平等と正義 (2) 【リバタリアニズム】
- 第12回 平等と正義 (3) 【コミュニタリアニズムと美徳の政治】
- 第13回 平等と正義 (4) 【資源の平等と運の平等】
- 第14回 平等と正義 (5) 【潜在能力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート：100%

(期末レポートを提出しない場合には、「評価不能 (-)」となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、該当回のパワーポイントを通読しておくこと。また講義の内容を適宜ノートに取り、授業後にはノートとパワーポイントをもとに復習すること。(質問は授業後などに受け付けています。)

現代政治思想 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代日本政治の基礎にある価値観とは「どのようなものであるか」、また、「どのようなものであるべきなのか」、本授業においてともに考えていくことができれば幸いです。

* この授業はSDGsの以下の目標に関連しています：

「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」「ジェンダー平等を実現しよう」「働きがいも 経済成長も」「人や国の不平等をなくそう」「平和と公平をすべての人に」

キーワード /Keywords

政策理論特講 【昼】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS213M	◎	○	△		
科目名	政策理論特講		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この講義は、コンテンツツーリズム、特に今全国的に着目されている“アニメ聖地巡礼”を題材にして、学術的なスキルを身につけながら、なぜアニメが地域と関わるようになったか、アニメを通じた地域づくりのあり方を理論的な視点から、批判的、客観的に考察し、アニメ聖地巡礼の本質とまたその歴史的变化を分析します。“アニメ聖地巡礼”は観光の分野で理解されがちですが、実はとても奥が深い現象です。基本的な文献を熟読した上で、今この聖地巡礼が社会にもたらしていること、その効果と限界を理解します。特に力を入れるのは、事例研究です。具体的に事例を見ながら、生じた現象、成功の条件、変化の可能性、限界などを歴史的に追い、アニメ聖地巡礼の現象を深く理解しようという狙いがあります。

教科書 /Textbooks

岡本健編著『コンテンツツーリズム研究 増補改訂版』（2016年、福村出版）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

アニメの旅人『日本アニメ史入門』（2021年、彩流社）他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 アニメ聖地巡礼の理解【歴史】
- 第3回 アニメ聖地巡礼の理解【基本的枠組み】
- 第4回 教科書の内容議論【テキスト第1部】【ホスト・ゲスト論】
- 第5回 教科書の内容議論【テキスト第2部】【旅行行動】【アクター】【トライアングルモデル】
- 第6回 事例研究第1回【90年代から2000年代初期】【究極超人あーる】【セーラームーン】【耳をすませば】
- 第7回 事例研究第2回【90年代から2000年代初期】【エヴァンゲリオンがもたらしたもの】
- 第8回 事例研究第3回【2000年代初期】【聖地巡礼の原型の誕生】【おねがい☆ティーチャー】【ひぐらしのなく頃に】
- 第9回 事例研究第4回【2000年代後期：一つの到達点】【らき☆すた】【あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない】
- 第10回 事例研究第5回【京アニと聖地巡礼】【けいおん!】【氷菓】【Free!】【響け！ユーフォニアム】
- 第11回 事例研究第6回【PA WORKSのパワー】【花咲くいろは】【true tears】【色づく世界の明日から】【白い砂のアクアトープ】
- 第12回 事例研究第7回【成熟へ】【輪廻のラグランジェ】【ガールズ&パンツァー】【君の名は。】
- 第13回 事例研究第8回【成熟と変化】【ラブライブ!】【結城友奈は勇者である】【ラブライブ!サンシャイン!!】
- 第14回 事例研究第9回【成熟と変化】【ゾンビランドサガ】【宇宙よりも遠い場所】【戦翼のシグルドリーヴァ】【邪神ちゃんドロップキック】
- 第15回 デスティネーションマーケティングの可能性と課題【デスティネーションマーケティング】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加を求めますが、小テスト（50%）と期末レポート(50%)で評価します。
最後のレポートを提出しなかった場合に評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の議論と事例研究では、講義の前に必ず教科書と付随の論文資料を読んできてもらいます。特に事例研究では追加資料を読まないで議論になりません。講義の開始の際にはMoodleに事前に論文資料をあげておきます。また対象となる作品を知らないと全く議論ができませんので、事前に簡単に基本的に合法的な方法でどんな作品かを確認しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

事前事後の復習が非常に重要な科目です。とりわけ事前学習は力を入れましょう。

政策理論特講 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「あつまれ アニメ大好きっ子(^o-)-☆」というノリではありますが、アニメを通じて地域づくりのあり方を考えるという趣旨は外さないように講義を行います。基本かなりマニアックですが、あまりアニメに詳しくない方にも受講していただけるように工夫をしています。

キーワード /Keywords

アニメ聖地巡礼 コンテンツツーリズム

政治思想史【昼】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS215M	◎	○	△		
科目名	政治思想史			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

近年、世界各国で民主主義の機能不全が言われていますが、そもそも民主主義的な政治はどのような経緯で生まれてきたのでしょうか。この授業では、民主主義を作り出してきた欧米諸国の人々の「政治や社会に関するものの見方・考え方（政治思想）」に着目し、民主主義を可能にした西洋の政治思想とはどのようなものかを歴史を通じて学んでいきます。また、日本において西洋の民主主義的な政治思想を導入しようとした幕末以来の試みを学び、西洋と日本の状況の違いを考えます。これらを通じて、今後の世界、特に日本社会において、よりよい民主主義的政治に必要なことは何かを、受講者が自ら考えられるようになることを目指します。

(到達目標)

【知識】政治思想史に関する専門的な知識を体系的に身につけている。

【技能】政治思想史の理解に必要な情報を収集、分析できる。

【思考・判断力・表現力】政治思想史の観点から、社会的諸事象について論理的に考え、自らの見解を発信することができる

教科書 /Textbooks

Moodleを用いてレジユメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 政治思想とは何か
- 第2回 ヨーロッパ中世の世界観・社会観(1)【グレゴリウス改革】
- 第3回 ヨーロッパ中世の世界観・社会観(2)【法の支配】【存在のヒエラルヒー】
- 第4回 「特殊」の発展
- 第5回 ルネサンス・国家理性・主権
- 第6回 宗教改革の時代
- 第7回 ホッブズの社会契約論
- 第8回 ロックの社会契約論
- 第9回 文化芸術の発展とルソー
- 第10回 ルソーの社会契約論
- 第11回 フランス革命後の展開と保守主義
- 第12回 江戸幕府の崩壊と福沢諭吉の政治・社会観
- 第13回 丸山真男の超国家主義論
- 第14回 丸山真男の古層論
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート：100%

(期末レポートを提出しない場合には、「評価不能(-)」となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

該当回のパワーポイントを事前に通読し、予習しておくこと。また授業内容をノートにまとめ、授業後にはノートとパワーポイントをもとに復習してください。(質問は授業後などに受け付けています。)

政治思想史 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

民主主義社会が真つ当に成立する歴史的条件を考え、今後の社会のあり方を構想できる力を身に付けてほしいと思います。

* この授業はSDGsの以下の目標に関連しています：
「平和と公平をすべての人に」

キーワード /Keywords

行政学 【昼】

担当者名 /Instructor 黒石 啓太 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PAD100M	◎	○	△		
科目名	行政学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

今日の私たちの生活は、行政の諸活動と切っても切れない関係にあります。しかし、行政がどのようなものであり、どのような活動を行っているのかを把握し、理解することは容易ではありません。そこで、本講義では、行政の機構や活動に関する基本的な知識を提供し、受講者がこれらをもとに、現実の社会の動きについて自らの意見を持てるような進进行を心がけます。

(到達目標)

- DP3 思考・判断・表現力：行政学について、総合的、論理的に思考して解決策を探索し、自分の考えや判断を明確に表現することができる。
- DP2 技能：行政についての分析に必要な情報を収集、分析することができる。
- DP1 知識：行政学に関する幅広い知識を総合的に身につけている。

教科書 /Textbooks

伊藤正次・出雲明子・手塚洋輔（2016）『はじめての行政学』有斐閣
 ※講義は、上記教科書を基本として行うが、適宜関連する事項を補足しながら行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西尾勝（2001）『行政学（新版）』有斐閣
 ※このほか、参考となる文献は適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【授業の進め方など】
- 2回 政治と行政の関係性
- 3回 行政の発展と福祉国家
- 4回 官僚制の形成と発展
- 5回 行政学の形成と展開
- 6回 議院内閣制と中央省庁
- 7回 中央省庁の組織と再編
- 8回 中央地方関係をめぐる理論
- 9回 国家公務員の制度と改革
- 10回 地方公務員の制度と改革
- 11回 国と自治体の意思決定過程
- 12回 国と自治体の予算編成過程
- 13回 行政改革と地方分権
- 14回 公共サービス提供主体の多様化
- 15回 「危機」と行政

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (試験では、単純な知識に加え、習得した知識を活かして現実の事象を検討・分析する能力を問う予定である。)
 ※学期末試験を受験しなかった場合には、「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書および参考書の関連箇所を通読する。
 事後学習：関連するニュースに触れ、自分の意見を整理する。

行政学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

できるだけ身近なニュース等を事例として取り上げ、知識と実践の両面を踏まえた授業を心がけます。
この授業はSDGsの「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

行政組織論 【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PAD210M	◎	○	△		
科目名	行政組織論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

企業・大学・政府・町内会・ボランティア団体など、私たちの周りには多種多様な組織が存在しています。私たち自身が所属する組織、私たちが享受できるサービス供給を行う組織、日々の暮らしを支えるインフラを整備する組織、現代社会において、「組織」というものからの影響を受けずに生活することは不可能と言ってよいでしょう。また1990年代以降の日本の中央省庁や地方自治体といった行政活動の著しい変化は、民間の経営手法の影響を大きく受けた結果である、という指摘があります。これらのことから、公的な部門を中心とした組織論を学ぶことは、行政組織のみならず、複雑な社会の在り様を理解する一助になると考えられます。特に政策の形成・決定・実施・評価という各過程における主要な行為者となる場合が多い行政組織に着目することは、過去から現在までの公共政策や地方自治の変化を知り、実態への洞察を深めることにもつながります。講義全体のキーフレーズは、「組織論を通じてみるひとと社会」、組織を形成する個人の意識・行動にも言及していきます。

(到達目標)

【知識】

組織に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】

社会の問題発見・解決に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】

組織について、学際的・論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えを適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要に応じ、レジュメ・資料等をMoodleに掲載します。
(SDGs[特に7・12・15など]の観点から、紙媒体でのレジュメ・資料等の配布はいたしません。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑田耕太郎・田尾雅夫(2010)『組織論：補訂版』有斐閣アルマ
 - 曾我謙悟(2016)『現代日本の官僚制』東京大学出版会
 - 田尾雅夫(2012)『現代組織論』勁草書房
 - 田尾雅夫(2015)『公共マネジメント：組織論で読み解く地方公務員』有斐閣ブックス
 - スティーブン・P・ロビンズ[高木晴夫訳](2009)『組織行動のマネジメント：入門から実践へ』ダイヤモンド社
 - 石原俊彦・山之内稔(2011)『地方自治体組織論』関西学院大学出版会
- その他、適宜紹介します。

行政組織論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス
2回	組織の定義と概念
3回	組織と環境・組織構造
4回	官僚制(1) 誕生と変容
5回	官僚制(2) 原則と逆機能
6回	日本の行政組織(1) 官吏と公務員、国家公務員法・地方公務員法
7回	日本の行政組織(2) 任用と身分、行政改革
8回	中間テスト
9回	中間テストの解説と復習、日本の行政組織(3) 地方公務員制度の変遷
10回	ストリート・レベルの官僚制、組織文化
11回	組織におけるリーダーシップ
12回	ひとのモチベーション
13回	組織における学習
14回	行政サービスを担う組織
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト20%、期末試験80%

※遅刻入室は厳禁、度重なる場合には減点対象、期末試験受けなかった場合は - 評価(評価不能)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時間外の学習として、事前にこのシラバスをよく読んで全体の流れと個々の回のつながりを意識できるようにしておくこと、事後は(中間テストを実施する予定であるため)授業で配布したレジユムを見返すなど、適宜振り返りの作業を行うことをおすすめします

履修上の注意 /Remarks

受講するにあたって、特別に必要なことはありません。「行政組織」を軸に、組織の歴史的な流れや社会的な背景、あるいは組織のリーダーや構成員のモチベーションといった人間の意識・行動に関することを交えつつ、学んでいきます。本講義で扱うこれらについては、「行政学」「地方行政改革論」「公共経営論」「公共政策論」などの科目と合わせて履修することで、みなさんの理解はさらに深まるものと考えています。なお講義の進行状況により、上記スケジュールを変更することがあります(特に中間テストの実施日については、授業中にアナウンスする予定なので要注意)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目は、特にSDGsの目標11(住み続けられるまちづくりを)と関連しています。

キーワード /Keywords

政策規範論 【昼】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC110M	◎	○	△		
科目名	政策規範論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

政策の作成と実施によって、社会の諸問題に適切に対処する際には、様々な価値観に基づいて「あるべき未来の社会」が構想されます。このような価値観の理論を、政策規範理論と呼びます。そもそも政策にできること・できないことを了解した上で、政策を支える価値観の理論を理解することが、最終的な授業の目的です。

授業では、まず、政策に期待できることの可能性と限界を学びます。その上で、現代の政策の規範理論として最も参照されることの多い、リベラルな平等・リバタリアニズム・共和主義の基礎理論を学びます。そして、現代日本の具体的な問題について、これらの立場からどのような政策の提案が可能かを考えていきます。

なお、リベラルな平等・リバタリアニズム・共和主義などの価値観の理論は一括して「正義論」と呼ばれる分野ですが、それらの展開のされ方は政治学的なもの、哲学的なもの、法学的なものまで含めてさまざまです。この授業では、机上の空論は避け、あくまで政策上の実践の観点から、これらの理論を使いこなせるようになることを目指します。

(到達目標)

【知識】政策規範に関する専門的な知識を総合的に身につけている。

【技能】政策規範の理解に必要な情報を収集、分析できる。

【思考・判断力・表現力】政策規範の観点から、社会的問題について適切な解決策を論理的に考え、自らの意見を発信することができる。

教科書 /Textbooks

Moodleを用いてレジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 政策規範論へのイントロダクション
- 第2回 政策の構造と価値
- 第3回 社会設計と政策
- 第4回 デモクラシーと政策
- 第5回 功利主義と政策
- 第6回 功利主義への批判
- 第7回 リベラルな平等の基礎理論I 【不平等の意味】
- 第8回 リベラルな平等の基礎理論II 【正義の二原理】
- 第9回 リベラルな平等の展開 【財産所有のデモクラシー】
- 第10回 リバタリアニズムの基礎理論I 【最小国家論】
- 第11回 リバタリアニズムの基礎理論II 【自己所有権】
- 第12回 共和主義の基礎理論 【共同体と美德】
- 第13回 日本の貧困問題
- 第14回 貧困問題への政策構想
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート：100%

(期末レポートを提出しない場合には、「評価不能(-)」となります。)

政策規範論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、該当回のパワーポイントを通読しておくこと。また講義の内容を適宜ノートに取り、授業後にはノートとパワーポイントをもとに復習すること。(質問は授業後などに受け付けています。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

政策には様々な価値観が織り込まれています。その仕組みや内容を学び取り、現代の日本において、実りある政策論議がどのように可能か、考えてみてください。

* この授業はSDGsの以下の目標に関連しています：

「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」「ジェンダー平等を実現しよう」「働きがいも 経済成長も」「人や国の不平等をなくそう」「平和と公平をすべての人に」

キーワード /Keywords

公共政策論【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC211M	◎	○	△		
科目名	公共政策論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにあります。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにします。また、本講義では、公共政策研究の第一歩ともいえる「問題発見能力」の涵養に力を入れたいと考えています。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えています。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのです。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えています。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからです。受講生には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどのような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通してそうした問題意識をもつことを望んでいます。

(到達目標)

【知識】公共政策を学ぶ上で必要となる基礎的な知識を身につけている。

【技能】公共政策を考察する上で必要な情報を収集し、分析することができる。

【思考・判断・表現力】公共政策について、複眼的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。毎回、プリント教材を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する予定です。とりあえず以下のものを挙げておきます。

秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉(2010)『公共政策学の基礎』有斐閣。

伊藤修一郎(2022)『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法—(増補版)』東京大学出版会。

ユージン・バーダック著、白石賢司ほか訳(2012)『政策立案の技法—問題解決を「成果」に結び付ける8つのステップ—東洋経済新報社。

阿部彩(2008)『子どもの貧困—日本の不平等を考える—』岩波書店。

阿部彩(2014)『子どもの貧困II—解決策を考える—』岩波書店。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および本講義の目的
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命(社会起業家論)
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策、ダストレスチヨークと障害者
- 4回 子どもの貧困(1)・・・貧困とは何か、子どもの貧困とは何か
- 5回 子どもの貧困(2)・・・日本における子どもの貧困を考える
- 6回 子どもの貧困(3)・・・学歴と子どもの貧困：大学生の状況は？
- 7回 子どもの貧困(4)・・・比較の視座から考える子どもの貧困
- 8回 子どもの貧困(5)・・・子どもの貧困対策大綱と子どもの貧困の解決策、剥奪指標について
- 9回 子どもの貧困(6)・・・社会実験(ペリー就学前プロジェクト)とまとめ
- 10回 介護保険(1)・・・導入
- 11回 介護保険(2)・・・現状分析
- 12回 介護保険(3)・・・問題点とその検討(「介護離職」「ミッシング・ワーカー」等の問題も含む)
- 13回 介護保険(4)・・・介護保険の改革
- 14回 ヤングケアラーの問題
- 15回 まとめ～シルバーデモクラシーと若者政策～

公共政策論【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50 %、授業貢献度など...50%。毎回講義の終了後、コメント用紙を配布し、講義内容に対する質問・意見のある学生には書いてもらい成績評価に加えることにします。

期末レポートを提出していない場合には「評価不能(一)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に際しては前もって配布した教材の指定箇所等を予習(事前学習)して授業に参加するようにして下さい。また、授業中に配布したレジュメや論文等の教材の復習を必ず行うようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

本年度は授業内容を若干変更する予定です。また、「シルバー・デモクラシーと若者政策」等をはじめ講義内容については、学生の理解度や講義の進捗状況などに応じて変更する可能性があります。第1回目の講義で説明する予定ですので必ずご参加ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しないと何も始まりません。担当者もそれなりの準備をして授業にのぞみますので、授業には必ず出席するようにして下さい。この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

公共政策、社会起業家、子どもの貧困、介護保険、超高齢社会。

政策過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC212M	◎	○	△		
科目名	政策過程論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

政策現象に関する理解と政策知識の取得

- ①政策学の範囲とその目的、公私の問題、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)
- ②政策の分類 (Lowiによる分類)・ 政策の便益と費用 (J.Q.Wilson)について知ってもらう。

政策過程に関する専門知識の取得：

- ①政策の決定 (Elite論・ 多元主義論とIssue Network・ 制度論と合理的決定：Path dependence・ Idea・ Game theory etc.・ ゴミ箱決定Garbage Can Model、無意思決定Non-Decision Making, Agenda-Setting, Joining of Issues & Streams、政策の窓 [Policy Window]) や政策実施・ 調整 (Policy Learning &Changes)、そして政策終了・ 評価について学習する。
- ②政策過程におけるアクターの参加 (首相・ 内閣・ 官僚・ 国会・ 首長・ 専門家組織・ 世論とメディア・ 裁判・ NPO・ 国際機構)とその構造 (補助金・ Rent-Seekingのような利益誘導型政治・ 首相の Leadership、集権的政策決定システム・ 官僚[Downs・ Niskanenの官僚利益追求論・ 政府間関係]について理解してもらう。

(到達目標)

- 【知識】政策問題をめぐる政治・ 政策過程の知識を修得している。
- 【技能】政策分析に関するスキルを身につけている。
- 【思考・ 判断】政策過程に関する知識を深め、政策事例を分析し、説明する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

- 『政策過程論』 (早川純貴他著 学陽書房 2004年 ¥ 2,730)
- 『公共政策学の基礎 新版』 (秋吉貴雄・ 伊藤修一郎・ 北山俊哉著 有斐閣ブックス 2015年 ¥ 2,730)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『現代日本の政策過程』 (中野実著 東京大学出版会 1992年 ¥ 2,940)
- 『政治過程論』 (伊藤光利・ 真淵勝・ 田中愛治著 有斐閣 2000年 ¥ 2,625)
- 『日本政治の政策過程』 (中村昭雄著 芦書房 2011年 ¥ 3,568)
- 『政策過程分析入門 第2版』 (草野厚著 東京大学出版会 2012年 ¥ 2,625)

政策過程論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業や本の紹介など
- 2回 政策の対象、政策の必要性、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)、費用と利益、政策の種類など
- 3回 政策参加者、政策資源 (事例：川辺川ダムの決定を巡る各アクターの利害関係、DVD)
- 4回 政策過程の理論1 (政策過程論・ Elite論・ 多元主義論とIssue Network・ 制度論と合理的決定 Path dependence・ Idea・ Game theory etc.)
- 5回 政策過程と事例分析1 (新聞、インターネットで検索した事例分析)
- 6回 政策過程の理論2 (アジェンダ形成・ ゴミ箱決定Garbage Can Model・ 政策の窓)
- 7回 政策過程の理論3 (無意思決定論、相互浸透理論など)
- 8回 政策過程と事例分析2 (新聞、インターネットで検索した事例分析)
- 9回 政策事例のポスター発表
- 10回 政策実施、政策調整 (実施過程の政策変数、官僚と国会、集権的政策システム・ Top-Down Approach & Street Bureaucracy Approach)
- 11回 政府間関係と自治体の政策 (政府間関係、利益誘導政治、地方の変革・ 事例：名古屋市)
- 12回 本のレポート発表
- 13回 政策終了・ 政策評価と市民参加
- 14回 SDGsのエネルギー・ 食べ物・ 水問題・ 気候危機政策など政策事例を選び、政策過程の分析
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

本のレポート 30%、 ポスター 30%、 期末試験 40%
(本のレポート発表・ ポスター発表をしない場合は、期末試験を受けることができず「評価不能 (-)」となります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前課題・ 事後学習内容については学習支援フォルダに挙げるので、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共政策、政策問題、社会的ジレンマ、政策の決定、実施、政策調整、終了、利益・ 価値、制度、アクター、選択、メディアの役割、ガバナンス、市民社会、ネットワーク。

政策評価論 【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年 /Credits 2単位 /Semester 2学期 / 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC310M	○	◎	△		
科目名	政策評価論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、政策評価について、学部レベルで理解しておくべき基礎的な知識を提供することにあります。ただし、基礎的といっても評価研究は、理解しづらいところもあるので、そのつもりで参加するようにして下さい。

講義では、第一に、アメリカを中心とした評価研究や評価手法を分析・検討します。その際、「セオリー評価」あるいは「ロジック・モデル」を中心として説明を行い、次に説明する「行政評価」の基礎的な知識を提供することにします。（前半7回、榎原担当）

第二に、現代日本で最も頻繁に行われている行政評価とその問題点を検討し、今後の日本における行政評価のあり方や新しい評価手法についてみていくことにします。（後半8回、横山担当）

(到達目標)

【知識】 政策評価に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】 政策評価に必要な情報を収集し、分析することができる。

【思考・判断・表現力】 政策評価について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切に表現することができる。

教科書 /Textbooks

教科書は使いません。ほぼ、毎回プリント教材を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石原俊彦編著 (2005) 『自治体行政評価ケーススタディ』 東洋経済新報社。

○龍慶昭・佐々木亮 (2004) 『「政策評価」の理論と技法』 多賀出版。

○安田節之・渡辺直登 (2008) 『プログラム評価研究の方法』 新曜社。

○古川俊一・北大路信郷 (2004) 『新版・公共部門評価の理論と実践—政府から非営利組織まで—』 日本加除出版株式会社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入-「評価」とは何か？

第2回 「実験としての改革」-アメリカのプログラム評価の古典の意味するものは何か？！

第3回 政策過程の中の評価-評価はいつ行うのか-

第4回 セオリー評価 (ロジック・モデル)

第5回 より複雑なロジック・モデルについて

第6回 プロセス評価

第7回 前半のまとめ-ロジック・モデル再考 (NPOとの関連も含めて)

第8回 「行政評価」とは何か？

第9回 先進事例の検討-三重県を中心に

第10回 事務事業評価の考察-公開されている評価結果の比較・検討

第11回 「評価結果」の評価

第12回 評価者に必要なものとは何か？

第13回 評価システムを支える外部評価制度？(1)-地方自治体での外部評価の実際

第14回 評価システムを支える外部評価制度？(2)-第三者による評価がもたらすもの

第15回 小テスト・後半のまとめ-行政評価総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート35%、小テスト35%、授業貢献度...30%。 授業に出席しない学生には単位は与えない (単位修得は不可能です) ののでそのつもりで履修して下さい。

*それぞれの教員が課すレポート提出していない (あるいは小テストを受けていない) 場合には、「評価不能 (-)」となります。

政策評価論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布するプリント教材の復習を必ず行って下さい。また、授業に際しては前もって教材の指定した箇所を予習して授業に参加するようにして下さい。毎回の講義の復習をしない学生は授業についていくことが難しくなるので十分に注意して下さい。

履修上の注意 /Remarks

履修に際しては、行政学、地方自治論、公共政策論、自治体政策研究などの講義を受講しておくことがのぞましい。授業の進め方をはじめ履修にあたって重要となることを述べるので、第1回目の講義には必ず出席して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

評価、セオリー評価、ロジック・モデル、アウトプット、アウトカム、行政評価、業績測定（パフォーマンス・メジャーメント）

都市環境論 【昼】

担当者名 吉田 舞 / Mai Yoshida / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC111M	◎	○	△		
科目名	都市環境論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業は「環境未来都市」北九州市に居住・通学する人間として、それにふさわしい生活態度や行動に連動させていくといった実践力を養うことを目的としています。本授業では、まず、自らの生活における環境意識を分析し、授業に臨みます。本授業では、「都市環境と生活」という視点から、特に近隣のアジア諸国で起きている環境にかかわる問題を取り上げ、そこで生活している人々が抱える問題などを考察します。さらに、これら問題の背景を、グローバルな観点から学ぶことを通して、日本で暮らす自分たちの<地続き>の問題として考察することを目指します。これにより、私たち自身が持続可能な都市生活を続けるためにも、本分野を生涯にわたって学習するという姿勢に連動することを望みます。

- { 知識 } 都市で生活する上で基礎となる知識を最低限身に着けている。
- { 技能 } 持続可能な都市を作る上での技能を獲得する。
- { 思考・判断・表現力 } 持続可能な都市の一員として政策に積極的に関与できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 石井正子『甘いバナナの苦い現実』2020, コモンズ。
- 鶴見良行『バナナと日本人』1982, 岩波新書。
- 長田華子『990円のジーンズがつくられるのはなぜ?』2016, 合同出版。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回「都市環境論」の授業内容とねらい：簡単な環境意識度チェック【環境意識】
- 第2回グローバル化と都市環境【気候変動と私たち】
- 第3回途上国の都市環境問題【途上国と日本】
- 第4回フェミニズムの立場からみる環境問題【ジェンダーと環境】
- 第5回生活と水を考える：世界の水事情【安全な水】
- 第6回フィリピンの庶民バスが消える？コロナと大気汚染【大気汚染】
- 第7回フィリピンのゴミ山から考える私たちの暮らし【途上国と廃棄物】
- 第8回私たちが寄付した古着はどこに行く？【ファッションと環境】
- 第9回自然災害における危険とリスク【防災とコミュニティ】
- 第10回バナナと日本人：エシカルバナナと日本企業【食と農】
- 第11回ドキュメンタリー「スマホの真実」から考える【環境破壊】
- 第12回環境保全に取り組む人々とグローバルな連帯【環境保全運動】
- 第13回北九州市の環境の現状【北九州市】
- 第14回エコツーリズムと環境保全【エコツーリズム】
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト/課題/ワークシート50%、期末試験50%

※ 授業を5回以上欠席した場合、期末試験未受験者は「評価不能(-)」となります。

都市環境論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各種メディアを通じて提供される国内外の時事問題に関する情報に関心に向け、その概要を把握すること。

履修上の注意 /Remarks

受講生の人数や理解度、問題関心によって授業の内容が変更されることがあります。
私語厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な授業への参加を期待します！

キーワード /Keywords

都市環境、生活、途上国、グローバル化

都市計画概論 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC218M	◎	○	△		
科目名	都市計画概論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義では、都市計画に関する重要事項を広範囲に取り上げ、その基本的事項について具体的な事例を交えながら概説し、都市計画の目的である良好な市街地形成を実現するための体系・手法を学びます。建築・土木分野の馴染みのない専門用語も多数出てきますが、国内外の先進的な取り組み等を紹介しながら分かりやすく解説します。

(到達目標)

- 【知識】都市計画に関する幅広い知識を総合的に理解している
- 【技能】都市調査に必要な情報を収集、分析することができる
- 【思考・判断】都市計画について総合的に思考し、自分の考えや意見を明確に表現することができる

教科書 /Textbooks

なし(適宜、レジュメや参考資料を配付)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 萩島哲編『新建築学シリーズ10 都市計画』朝倉書店、1999年
- 都市計画教育研究会編『都市計画教科書第3版』彰国社、2001年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス / 都市計画の概念と社会的役割【都市問題】、【利害関係】
- 2回 歴史上の都市計画・都市デザイン【中世都市】、【近代都市計画】
- 3回 都市計画の法体系と都市の基本計画【総合計画】、【都市計画マスタープラン】
- 4回 土地利用の概念【土地利用計画】、【人口配分】
- 5回 用途地域制度と土地利用計画の実現【都市計画区域】、【市街化区域】、【用途地域】
- 6回 コンパクトシティの実現【集約型都市構造】、【コンパクトシティ】
- 7回 都市の再開発手法と事例【土地区画整理事業】、【市街地再開発事業】
- 8回 住環境整備の手法と事例【建築協定】、【地区計画】、【土地利用規制】
- 9回 都市の交通計画【パーソントリップ】、【交通需要予測】、【交通需要管理】
- 10回 都市の歩行者空間と公共交通【街路】、【トランジットモール】
- 11回 都市計画の支援ツールと都市調査【データベース】、【GIS】、【数量化理論】
- 12回 ドイツにおける持続可能なまちづくり【サステナブル】【カーシェアリング】【ユニバーサルデザイン】
- 13回 都市景観と景観まちづくり【視点場】、【景観法】、【景観計画区域】
- 14回 住民参加のまちづくり【ワークショップ】、【市民参加】、【地域運営】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% レポート等...20% 期末試験...60%

- ・10回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
- ・期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

都市計画概論【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の資料を事前にMoodleにUPするので予習をすること。(必要な学習時間の目安は60分)
授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は60分)

新聞、TVなどの報道で都市計画・まちづくりに関する情報はあふれています。常にこのような情報に接して、情報収集に努めてください。また学習した事項を意識しながら、日常的に生活している市街地について自分なりにどのようなまちづくりをしていくべきかを考えてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

まちづくり、都市計画

福祉国家論 【昼】

担当者名 狭間 直樹 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC112M	◎	○	△		
科目名	福祉国家論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会保険・公的扶助を中心に日本の福祉国家の特徴とそのあり方を考えます。テーマは次の2つです。①日本の社会保険・公的扶助の制度概要・政策動向（どのような課題があり、どのような解決策が議論されているのか？）、②日本の社会保険の特徴（諸外国と比較してどのような特徴があると言えるか？）。なるべく身近な事例から、これらのテーマを考えていくのが、この講義のねらいです。

（到達目標）

【知識】社会保障制度を総合的に理解している。

【技能】社会保障制度を利用するうえで必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】社会保障制度について論理的に思考して解決策を探索し、自分の意見を明確に発信することができる。

（授業方法）

原則として、対面授業により実施する予定です。新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより変更となることもあります。大学の掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

レジュメは講義当日の教室にてB4判で配布します。前回、前々回分のレジュメに限り、再配布します。講義後一週間を目処に、レジュメの空所部分を紹介した動画（5分程度）をMoodleに掲載する予定です。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介した図書や資料が参考文献となります。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回「福祉国家とは」 個人の責任、国家の責任
- 第2回「自由と平等の規範」 自由主義、社会主義
- 第3回「社会保障の行財政」 社会保障の行政組織、社会保障給付費
- 第4回「年金保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第5回「年金保険」 財政悪化
- 第6回「年金保険」 空洞化（無年金・低年金）
- 第7回「年金保険」 世代間格差
- 第8回「年金保険」 世代内格差
- 第9回「年金保険」 改革の論点
- 第10回「医療保険」 年金と共通する問題
- 第11回「医療保険」 診療報酬をめぐる問題
- 第12回「生活保護」 原理・原則
- 第13回「生活保護」 扶助の種類
- 第14回「生活保護」 健康で文化的な最低限度の生活
- 第15回「福祉国家の類型」 3つの福祉国家

福祉国家論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験(筆記試験)・・・100%

新型コロナウイルス感染状況の収束が見通せないため、今年度の授業では出欠の確認をしません。
欠席による減点はありません。

試験は空所補充問題と論述問題で構成されます。レジュメ、講義中に示したスライド、映像などから出題されます。
13回目ぐらいの講義で、試験範囲などについてお知らせする予定です。

新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより、レポート課題提出に変更される場合もあります。
大学の掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

学期末試験を受験しなかった場合(もしくはレポート課題を提出しなかった場合)は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

年金や医療のしくみについて関心をもっておいってください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

履修上の注意 /Remarks

9時20分までに入室してください。ご協力をおねがいします。

私語厳禁。繰り返し注意してもやめない人や授業態度が悪い受講生には、期末試験得点から減点したり、単位を認定しない場合がある。

授業時間中におけるパソコン・携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影などを禁止する。

レジュメや録音・録画した講義内容・講義動画を他人に譲渡・送信したり、インターネット上などで公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特になし。

政策計量分析 【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC223M	○	◎	△		
科目名	政策計量分析			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業の目的は、政策科学の研究のために必要なスキルのひとつである、統計処理・データ解析の方法を習得し、受講生が統計的な手法を用いた分析を行えるようになることです。「数値で表現できるのは量的なものだけ?」「数字が意味するものは?」「データを構築するってどういうこと?どうやって??」を出発点に、統計の基本的な概念や様々な分析手法、およびその特性などを学びながら、実際のデータを用いて統計的な解析を行うという、講義・実習の両形式から成る実践的な授業となります。なお、具体的には暮らしに関わる様々な数値や実際の社会調査の結果等、実データを主として用いる予定です。

また統計分析の手法を身に付けるという目的のほか、「調査・統計処理の結果」として世の中にあふれる数字をどのように見るべきなのか、その一助となる授業にしたいと考えています。

実習ではSPSSという統計パッケージを使用することを想定しており、ソフトの数量に限りがあるため、受講者数を制限する場合があります。受講希望者は掲示に注意を払い、必ず初回のガイダンスに出席してください。

(到達目標)

【知識】

政策分析に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】

社会の問題発見・解決に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】

社会の諸問題について、学際的・論理的に思考して解決策を探索し、専門の見地から自分の考えを適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

適宜指示、また必要に応じてレジュメ・資料等をMoodleに掲載します。

(SDGs[特に7・12・15など]の観点から、紙媒体でのレジュメ・資料等の配布はいたしません。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 石村光資郎・石村貞夫(2021)『SPSSによる統計処理の手順第9版』東京図書
 - 今井耕介(2018)『社会科学のためのデータ分析入門(上)・(下)』岩波書店
 - 佐伯胖・松原望編(2000)『実践としての統計学』東京大学出版会
 - ジューディア・パール(2009)『統計的因果推論：モデル・推論・推測』(黒木学 訳)共立出版
 - 中室牧子・津川友介(2017)『原因と結果の経済学：データから真実を見抜く思考法』ダイヤモンド社
 - 増山幹高・山田真裕(2004)『計量政治分析入門』東京大学出版会
 - 松田憲忠・竹田憲史(2012)『社会科学のための計量分析入門：データから政策を考える』ミネルヴァ書房
 - 村瀬洋一ほか(2007)『SPSSによる多変量解析』オーム社
- その他、適宜指示します。

政策計量分析 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【情報リテラシー】【統計的因果推論】【因果効果】
- 2回 統計の基礎(1)【データの種類】【変数】【尺度水準】【母集団と標本】
- 3回 統計の基礎(2)【データの視覚化】【度数分布表】【記述統計量】
- 4回 推定と検定【信頼区間】【統計的有意性】【帰無仮説】【有意水準】
- 5回 クロス分析【複数の変数の関係性】
- 6回 相関分析【複数の変数の関係性】【相関関係】
- 7回 中間テスト
- 8回 回帰分析(1)【因果関係の想定】【単回帰分析】【係数】
- 9回 回帰分析(2)【重回帰分析】【多重共線性】
- 10回 回帰分析(3)【ロジスティック回帰分析】【確率】
- 11回 主成分分析【指標】
- 12回 クラスタ分析【分類】
- 13回 統計分析の結果を用いた論文の書き方
- 14回 授業で扱った手法の復習とその他の手法の紹介
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト20%、期末試験80%

※遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象、期末試験を受けない場合は - 評価(評価不能)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時間外の学習について、事前にまずこのシラバスをよく読み理解すること、また事後は(中間テストのほか課題を出す予定ですので)授業後にレジュメを見直すなどして、分析の仕方や結果の解釈に関する復習を行うことをおすすめします。

履修上の注意 /Remarks

本授業では統計の基礎から講義・実習を行いますので、履修しておくべき科目等は特にありませんが、「政策科学入門II」(2019年度以前入学生にとっては「政策分析入門」)等、量的な分析の基礎・統計分析を扱う科目を履修済みであれば理解はより深まります。情報処理教室での授業となるので、受講生は各自、学内のパソコンを使用できるように(ログインできるように)しておいて下さい。

受講希望者が多数の場合には、受講者数調整を行う場合があります。これについては初回のガイダンスにて説明しますので、履修したい学生は4月上旬の受講申告期間に履修登録をしたうえ、必ず第1回目の授業にご出席ください(どうしても初回ガイダンスに出席できないという場合には事前にメールにて横山まで連絡をすること)。また受講者数調整について、およびその結果については随時掲示板にも貼り出します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義半分、実習半分の授業となります。

実習を行うため、受講生の人数等によって多少スケジュールを変更する場合があります(特に中間テストについては講義中に実施日の決定等についてアナウンスしますので注意してください)。

統計ソフトを使って実際に分析を行うという、専門科目のなかでも少々特異な授業となりますが、その分、みなさんに分析の面白さ、統計の便利さと怖さを少しでも多く体感してもらえるのではと思っています。

この科目は、特にSDGsの目標11(住み続けられるまちづくりを)と関連しています。

キーワード /Keywords

外国文献研究 A 【昼】

担当者名 /Instructor チョウ ピンピン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM391M	◎		△	○	
科目名	外国文献研究 A				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

「チベット高原にいる人々」が授業のテーマとなっています。受講生は英語のテキストを読んで、内容を理解し、議論、自身の意見を述べることが求められます。

- (1) チベット高原の概要について理解します。
- (2) チベット高原における人々の生活について理解を深めます。
- (3) この本の著者の目から見るチベットの人々の暮らしを探ります。
- (4) 本を読んでから、私達はチベット高原の人々の生活に関して、どのように思うかを考え、自分の意見を述べます。
- (5) 本に書かれていない内容について講義中に説明します。

(到達目標)

- 【知識】国際問題についての幅広い知識を総合的に身に付ける。
- 【思考・判断・表現力】国際問題について総合的に思考し、解決策を探求し、英語で発信することができる。
- 【コミュニケーション力】国際問題や外交問題を友人と議論・協働し、解決に向けて取り組む姿勢を身に付ける。

教科書 /Textbooks

Goldstein, C. M. & B. M. Cynthia 1990. 『Nomads of Western Tibet-The survival of a way of life.』 The University of California Press

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 河口慧海2015 『チベット旅行記』講談社
- 渡辺一枝2000 『私のチベット紀行』集英社
- 岩尾一史、池田巧編2021 『チベットの歴史と社会』臨川書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「Our arrival in nomad country」
- 第3回 「The ChangTang and nomadic pastoralism」
- 第4回 「Nomads, lords, and estates in the traditional society」
- 第5回 「The nomadic economy and the cycle of annual migration」
- 第6回 「Pasture allocation and reallocation」
- 第7回 「horses and the hay cutting trip」
- 第8回 「Livestock in the pastoral community」
- 第9回 「Herders and daily herding」
- 第10回 「Diet」
- 第11回 「The salt trek」
- 第12回 「Hunting」
- 第13回 「The nomads become part of China:The 1959 uprising」
- 第14回 「全体議論」
- 第15回 「まとめ」

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の輪読、授業中の議論などの平常点 (100%) によって評価します。
担当する部分の翻訳と発表をしていない場合は「評価不能 (-)」となります。

外国文献研究A 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

輪読する内容を事前に予習し、わからない単語や専門用語を調べておいてください。

履修上の注意 /Remarks

欠席が多い場合はマイナス評価となるので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

チベット高原は標高が高くて、特にチャンダン草原は最後の秘境の地だといわれています。この授業を通して、チベット高原の神秘的なベールを開いて、その姿を探ります。

キーワード /Keywords

チベット、牧畜経済、遊牧、ハンティング、チャンダン

政策調査論 【昼】

担当者名 吉田 舞 / Mai Yoshida / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会を調査する方法は「社会調査法」として科学的に確立されています。なかでも参与観察、インタビュー、資料分析等を扱う質的調査においては、調査者が、人びとが生活する社会に接近するため、繊細な技術と高度な倫理観が必要となります。本授業では、みなさんが質的調査における方法論および調査倫理を理解し、今後の演習や卒業論文の執筆調査などで直接使える実践的な質的調査法のテクニックを習得することを目的とします。具体的には、各手法の事例研究を通じて、実践の方法を紹介していきます。また、それらを通じて獲得した知識を実践に生かすため、授業課題では、皆さんにインタビューやフィールドワークを行ってまいります。

DP1知識：政策調査に関する基礎的な知識を身につけている。

DP2技能：社会の問題発見・解決に必要な情報を収集、分析することができる。

DP3思考：社会の諸問題について、学際的・論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えを適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。必要に応じてレジュメや資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岸政彦, 石岡文昇, 丸山里美著『質的社会調査の方法』有斐閣, 2016年.
- 前田拓也ほか著『最強の社会調査入門: これから質的調査をはじめるときのために』ナカニシヤ出版, 2016年.
- 見田宗介著『まなごしの地獄』河出書房新社, 2008年.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回人と社会を知る方法(1) 社会調査の種類と特徴
- 第2回人と社会を知る方法(2) 質的調査と量的調査
- 第3回人と社会を知る方法(3) まなごしの地獄
- 第4回行ってみる(1) ズボンの尻を汚せ! シカゴ学派の都市研究
- 第5回行ってみる(2) 行きずりのフィールドワーカー・「見え方」を見つめなおす
- 第6回行ってみる(3) 調査の始め方・フィールドへの入り方【フィールドエントリ】
- 第7回行ってみる(4) 事例研究: マニラのストリートに生きる人たち
- 第8回やってみる(1) 記録/記憶する【フィールドノート】
- 第9回やってみる(2) 「観察」をすること【参与観察】
- 第10回聞いてみる(1) インタビューの種類とテクニック【インタビュー】
- 第11回聞いてみる(2) ライフヒストリーとライフストーリー【生活史法】
- 第12回聞いてみる(3) 調査者としての「私」、と当事者としての「私」【当事者研究】
- 第13回分析する(1) データ整理と解釈: たしかなデータとは?
- 第14回分析する(2) データ整理と解釈: 事実と真実
- 第15回調査の終わり方: 社会調査における3つの知【調査倫理】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート 50%、平常点(課題・ワークシート) 50%

※ 授業を5回以上欠席した場合、期末レポート未提出は「評価不能(-)」となります。
また、他の受講生や調査対象者に迷惑となる行為を行った場合も「評価不能(-)」とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題の一環として、授業時間外に、インタビューやフィールドワークを課すことがあります。

履修上の注意 /Remarks

私語厳禁

政策調査論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

今日、どのような業種で働いても調査とは無縁ではありません。調査に関する科学的な視点と姿勢をこの授業で獲得し、ゼミ、研究で実践してください。また、社会にはたくさんの「調査結果」が氾濫しています。この授業で獲得する調査リテラシーをもって自主的に判断できるようになることを願います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク、参与観察、インタビュー

政治文化論 【昼】

担当者名 /Instructor 上條 諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS110M	○	△	◎		
科目名	政治文化論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

現代の民主主義諸国の多くに共通する低投票率などの現象を以て、現代には「政治不信」が蔓延している、などといわれることがあります。我々はもはや民主政治という統治の手法に対して信頼がおけなくなっているのでしょうか。日常的な「文化」という言葉の語感とはやや異なるかもしれませんが、このような我々市民が政治というものに対して持つ見方や考え方のことを「政治文化 (political culture)」と呼びます。本講義では、こうした意味での政治文化について考えていきます。

より具体的には、まず前半では、政治文化に対する古典的な理解を紹介したのち、より広い観点から、有権者が政治に対してどのように態度を形成するのか、また、特定の政治的態度や知識をもつ有権者がどのように行動するのか、といったことを検討する政治行動論と呼ばれる分野の概説を行います。後半では、有権者の政治への見方に関連するさまざまなトピックを扱っていきます。有権者がもはや政治に信頼を置けなくなったとするならば、それはなぜなのでしょう。政治という営みに根本的に困難があるのか、選挙というものがうまく機能していないのか、あるいは我々有権者と政治エリートとの分断がもはや甚だしくなりすぎたのか。様々な角度から、我々有権者からみた政治、というものに接近していきます。

(到達目標)

【知識】政治文化に関する幅広い知識を身につけている。

【技能】有権者の行動/態度形成の理解に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】政治的諸問題の解決において有権者がどの程度役割を果たしうるのかについて論理的に検討し、自らの意見を表現することができる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

前半については

飯田健・松林哲也・大村華子 2015. 『政治行動論-有権者は政治を変えられるのか』有斐閣ストウディア

後半については多岐にわたるため各回で適宜指示します。

政治文化論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
【政治文化】【比較政治文化研究】【政治文化論アプローチへの批判】
- 第I部 政治行動論
- 第2回 民意と政治的知識
【民意】【政治知識量】【ヒューリスティックス】
- 第3回 党派性とイデオロギー
【政党帰属意識】【右派と左派】【無党派】
- 第4回 政治的社会化と政治的価値観
【政治的社会化】【脱物質主義的価値観】
- 第5回 投票参加と集合行為
【calculus of voting】【投票しないパラドックス】【集合行為】
- 第6回 投票行動と有権者の合理性①
【政策投票】【有権者の合理性】【コロンビアモデル】【ミシガンモデル】
- 第7回 投票行動と有権者の合理性②
【業績投票】【経済投票】
- 第II部 各論的トピック
- 第8回 集合的意思決定
【中位投票者定理】【カオス定理】【structure-induced equilibria】
- 第9回 アカウンタビリティ
【選挙の規律効果】【選挙の選択効果】【迎合 (pandering)】
- 第10回 政治腐敗
【政治腐敗 (汚職) の要因論】【汚職対策機関】
- 第11回 民主主義の質と政府の質
【フリーダムハウスとV-dem】【QoGプロジェクト】
- 第12回 ポピュリズム
【ポピュリズム】【ポピュリズムと党派性】【ポピュリズムの合理的説明】
- 第13回 ソーシャル・キャピタル
【ソーシャル・キャピタル論】【橋渡し型】【結束型】
- 第14回 代議制民主主義のオルタナティブ
【直接民主主義】【熟議民主主義】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：100%

*期末試験不受験の場合は「評価不能（－）」とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半については参考文献の中から次回授業に該当する部分を探して読み、疑問点・よくわからなかった点はどこかを考えてみてください。講義の復習に加えて、参考文献のうち関心を持ったものを読んでみて下さい。

履修上の注意 /Remarks

スライド内で引用した文献は教員のホームページにて出典を示します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者の方の中には「政治なんてどうでもいいよ!」という方もおられると思います。(ではなぜこんな学部に来てこんな講義をとっているのだという疑問も成り立たないではありませんが、私自身がさしたる理由も関心もなく法学部、そして政治学に流れ着いた学生でした)。もちろん、(いろんな考え方がありますが)民主政治というのは全ての人が全身全霊を込めて政治に対して愛を以て取り組まなければ機能しないというものでもありませんから、それはそれで一つの見識というものです。しかしせっかくご縁があったのですから、さて、ではなんで政治なんてどうでもいい、というような考えに行きついたのか、一緒に少し考えてみませんか。

キーワード /Keywords

政治文化 政治行動論 政治不信

地方自治論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒石 啓太 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PAD211M	○	△	◎		
科目名	地方自治論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

私たちの生活の切っても切り離せない地方自治ですが、その全体像を把握し今後のあり方を展望するためには、一定の知識が必要となります。本講義では、受講生が地方自治の基本的な制度や運用を理解したうえで、現実社会における地方自治や自治体のあり方について、自らの意見を持てるよう多角的な観点から講義を行います。

(到達目標)

- DP3 思考・判断・表現力：地方自治について、総合的、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を論理的に表現することができる。
- DP2 技能：地方自治の分析に必要な情報を収集、分析することができる。
- DP1 知識：地方自治に関する基盤となる知識を体系的に身につけている。

教科書 /Textbooks

幸田雅治編 (2018) 『地方自治論 変化と未来』 法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大森彌・大杉覚 (2019) 『これからの地方自治の教科書』 第一法規
今川晃・牛山久仁彦編著 (2020) 『自治・分権と地方行政』 芦書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【授業の進め方など】
- 2回 地方自治制度の基礎
- 3回 地方自治の歴史①【戦前の地方自治】
- 4回 地方自治の歴史②【地方制度の戦後改革】
- 5回 地方自治の歴史③【戦後地方自治のあゆみ】
- 6回 自治体の種類と権能
- 7回 自治体の長と議会 (二元的代表制)
- 8回 住民と自治体行政の関係 (住民との協働)
- 9回 地方分権改革の意義と到達点
- 10回 「平成の大合併」と自治体
- 11回 国・都道府県・市町村の関係 (政府間関係)
- 12回 広域連携と大都市制度
- 13回 自治体職員の制度と運用
- 14回 自治体行政と公共サービスの多様性
- 15回 「危機」と自治体

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (試験では、単純な知識に加え、習得した知識を活かして現実の事象を検討・分析する能力を問う予定である。) ※学期末試験を受験しなかった場合には、「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：地方自治に関するニュースに触れ、今日の社会における地方自治の論点を探る。
事後学習：参考書等の関連箇所を読み、授業内容の理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

政治学関連科目、行政学関連科目も合わせて履修することを推奨する。

地方自治論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地方自治論は、政治家や地方公務員をめざす人だけの学問ではありません。多様な自治体の全体像を学び、自らの地域のことを考える契機となるような授業運営を心がけます。
この授業はSDGsの「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

地方行政改革論【昼】

担当者名 /Instructor 黒石 啓太 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PAD310M	○	△	◎		
科目名	地方行政改革論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義では、行政学や地方自治論の基礎的な理解をもとに、現実の自治体が直面している課題やこれへの取組みについて、事例を挙げながら検討していく。現実の自治体行政の動きとこの背景にある制度・理論に基づき、どのような改革的な取組みが構想されているのかを学んでいく。

(到達目標)

- DP3 思考・判断・表現力：地方行政改革について、複眼的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや判断を論理的に表現することができる。
- DP2 技能：地方行政改革の分析に必要な情報を収集、分析することができる。
- DP1 知識：地方行政の改革に関する専門的応用的な知識を体系的に身につけている。

教科書 /Textbooks

受講生の関心等に応じて適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の関心等に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (授業の進め方など)
- 2回 地域コミュニティとまちづくり
- 3回 市民参加と協働
- 4回 「地域おこし協力隊」と地域社会
- 5回 「ふるさと納税」と自治体
- 6回 防災・危機管理と自治体
- 7回 人口減少と地方創生①【契機と国の施策体系】
- 8回 人口減少と地方創生②【地方創生をみる視点】
- 9回 人口減少と地方創生③【自治体の先進的な取組み】
- 10回 感染症対応と自治体①【政府間関係】
- 11回 感染症対応と自治体②【法と自治体】
- 12回 感染症対応と自治体③【行政の冗長性と連携】
- 13回 自治体職員をめぐる論点と改革
- 14回 自治体財政をめぐる論点と改革
- 15回 自治体の意思決定をめぐる論点と改革

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート...100%
※学期末レポートを提出しなかった場合には、「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：地方自治や自治体の取組みに関するニュースに触れ、今日の社会における論点を見つける。
事後学習：授業内で紹介した文献や資料に触れ、授業内容の理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

地方行政改革論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業はSDGsの「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

地域統合論 【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS214M	○	△	◎		
科目名	地域統合論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

日本人を母にもつオーストリア貴族クーデンホフ・カレルギーが「汎ヨーロッパ」(1923)を著してからおよそ100年が経つ。その後、ヨーロッパ政治は国境を越えた地域統合を進めてきたように見える。しかし一方で、近年の欧州政治の状況が示すように、ナショナリズムをめぐる論点、移民・難民をめぐる論点、新たな政治勢力の台頭は顕著である。世界は均質にまじりあっているわけではない。この論点は、これからの日本や東アジアの政治を見る上でも重要な視点になるだろう。

地域統合が進むときには、統合を目指す利害と統合に反発する利害のせめぎあいが起こる。単なる経済的利害だけではなく、人の政治的信念や心理もここには影響を与える。ナショナリズムという問題を改めて深く問い直すところから始め、地域の事例としてと欧州の戦後政治についての理解を深め、国内マイノリティの統合に関する政治経済的ダイナミズムや理論を学ぶことを通じ、地域統合が抱える成果や問題点を考察する。

本講義の受講者は、1) 国内政治と国際政治の相互関係、とくにナショナリズム・自由貿易理論・2レベルゲームに関する基礎的理解を理解・説明できるようになり、2) 国境より小さな単位の地域主義と国内統合の問題に関する、諸事例の知識やその制度的介入についての基礎を持ち、3) 国境より大きな単位への地域統合と国内政治の具体例である欧州統合およびその拡大について、種々の国々の基礎的な歴史・事例・具体例について基礎的な知識をもち説明できるようになる、ことが求められる。

本学ディプロマポリシー上の到達目標は「国際政治・地域政治の基礎的知識を身につけている」「多様な地域現象の情報を外国語で収集・処理できる」「国内政治と国際政治の相互関係を複眼的に思考できる」となっており、そのためにも上記の3要件を満たすことが期待され、またそれが成績評価と授業設計の基盤をなすものと理解されたい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。参照が必要な事項については各回の授業内で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

(どの本のどの章が、どの授業の回の参考資料となるかについて、初回授業で説明します)

- 塩川伸明『民族とネイション』岩波書店、2008
- 森井裕一『ヨーロッパの政治・経済入門』有斐閣、2014
- 久保慶一他『比較政治学の考え方』ミネルヴァ書房、2016
- 中村民雄『EUとは何か』信山社、2016
- 奥野良知編『地域から国民国家を問い直す』明石書店、2019
- 中井遼『欧州の排外主義とナショナリズム』新泉社、2021

地域統合論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションとして科目の位置づけや授業予定について解説する。欧州を事例として地域の中にある価値感や文化の多様性に関する理解を深め、それらを政治的・公的意思決定プロセスにおいて統合することが必然的に含む課題について問題意識を共有する
2. ナショナリズム①：ナショナリズムの一般理論について解説する。文化的単位と政治的単位の一貫を目指す原則としてのナショナリズムについて、ゲルナーやアンダーソンによる基礎的な理論とその背景を学び、ナショナリズムのもつ多様性や、隣接する諸概念（愛国心やナショナルプライド）との重複と差異について、政治学や社会学の実証研究の知見から理解を深める。【課題提出あり】
3. ナショナリズム②：ナショナリズムと政治的な左右の枠組みについて考える。ナショナリズムは右派的な概念と結び付けられることが多い一方で、歴史的には左翼の主張するイデオロギーであることもあった。欧州統合を事例としつつ、政治的な左右と、ナショナルな態度にはどのような連関があるのか、データ分析をもとに理解を深める。
4. ナショナリズム③：ナショナリズムと民主主義 / 権威主義あるいはリベラリズムとの問題を考える。ナショナリズムは権威主義的な思想と結び付けられることもあるが、同時に民主主義の基盤でもある。この論点に関して、着目すべき事例を紹介しつつ、政治学におけるデータ分析等からの知見を加味して検討を深める。【課題提出あり】
5. ナショナリズム④：国際化とナショナリズムの変質について理解する。グローバル化は各国のナショナリズムを時代遅れにしたのではなく、それをむしろ変質・多様化させただけである可能性を検討する。伝統的なナショナリズムの姿は確かに減少したが、地域主義的なナショナリズムや、国家を横断するようなナショナリズム、あるいは反移民のような保護主義型ナショナリズムはむしろ増していることを理解し、それぞれのナショナリズムのタイプ間の相互関係を理解する。
6. 欧州統合①：欧州統合発足を例に国家を超える地域統合のメカニズムを理解する。政治的境界より大きな地域への統合の事例として、欧州統合を取り扱う。特に最初の欧州統合（ECSC・EEC）の発足について説明し、単にアイデンティティや欧州という共通文化が統合の推進材料だったのではなく、具体的な利害の考慮があったことを理解する。
7. 欧州統合②：欧州統合の拡大過程を理解する。英国を例に、地域統合拡大メカニズムと国内地域主義暴発の事例を知る。イギリスや周辺北欧諸国の欧州統合参加過程について理解する。参加有無の判断が分かれた背景の一つに、国内産業の差異・多様性・統合との利益均衡の問題があったことを理解する。あわせて多文化国家イギリスの国内地域主義運動（特に北アイルランド問題）を学習し、それにどのような対応がとられたかを知る。【課題提出あり】
8. 欧州統合③：統合の南欧・中欧への拡大を事例に経済格差と統合の軋轢を理解する。経済的後進に統合を広げることは、既存加盟国の一部世論との間に軋轢を生む。それがどのような構造の問題であるか、構造基金・結束基金という介入はどのような意味を持つのか理解する。スイス・オーストリアの欧州統合参加の判断の別れの原因を、国内背景の差異から理解する。スイス国内の地域主義問題を知る。
9. 欧州統合④：欧州統合の東欧への拡大を事例にきわめて異質な社会を統合する困難を理解する。2004-7年のEU拡大が新興民主国・旧共産圏への地域統合拡大という意味で質量ともに重大な拡大であった事を学ぶ。加盟国・被加盟国の政治経済的な利害構造を学び、対応措置を知り、今日の欧州政治にたいしても持つ含意を理解する。旧共産圏ではないものの、このタイミングで参加したキプロスの内戦・地域主義・分断状況を事例に、国内地域主義の問題を理解する。
10. マイノリティ統合①：欧州以外の地域を含めて、国内マイノリティが含まれる地域の自治独立運動と国家統合の相互関係について理解を深める。基礎的な国家成立要件を手掛かりに、国内において主権や統合が確立されているというのはいかなる状況なのか理解する。対外的主権と対内的主権の境界にズレが生じているケースともいえる未承認国家の問題や事例を通じて、先述の問題をより深く理解する。
11. マイノリティ統合②国内の地域的多様性統合の失敗ともいえる内戦を論ずる。政治的境界内部での、多様性や地域主義の統合が失敗した究極のケースが内戦である。内戦とは何かを理解し、その原因を理解した上で、制度的介入の例として連邦制も含めた議論を行う。【課題提出あり】
12. マイノリティ統合③移動してやってくるマイノリティに対する政治的態度の源泉を理解する。欧州諸国での反移民態度や右翼政党支持の原因を理解する。特に政党支持を中心に検討する。人が他者を排斥しようとするのは、失業や貧困といった単純な経済的動機だけではなく、よりソシオトロピックな懸念によるもの大きいことを示す。
13. マイノリティ統合④移動してやってくるマイノリティに対する政治的態度の源泉を理解する。欧州諸国での反移民態度や右翼政党支持の原因を理解する。特に反移民感情を中心に検討する。人が他者を排斥しようとするのは、失業や貧困といった単純な経済的動機だけではなく、よりソシオトロピックな懸念によるもの大きいことを示す。
14. 世界の地域統合枠組みと自由貿易-体制について理解を深める。自由貿易に関する政治経済学上の理論を知り、グローバル化の中における民主主義と国民国家の問題と関連させた大枠の議論（ロドリックのトリレンマ）についても理解する。
15. ここまでの内容理解を振り返り知識の定着を図る。内容について振り返り、知識の習熟を図る。授業進行のイレギュラー、休講/補講による補填の調整、他クラスとの合同授業企画などの場合、この時間（に相当する枠）を充てることで、授業進行を調整する。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業途中4回の小課題 40%（1回につき、未提出/不可0点、可5点、優10点で評価）
- ・ 期末筆記試験 60%（テークホークイグザムorオンラインになる可能性あり）

小課題提出なし+期末試験未受験の場合、評価不能「一」となります。

地域統合論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回，次回授業時の範囲にあたる文献を指定するので，それらを参照して予習する事。授業スライドはmoodleにアップする。なお，授業を通じてトータル4回の小課題提出があります（事後学習，もしくは次回授業の事前学習を兼ねていることが多いです）。

本科目の特質上，固有の政治的事実や固有名詞が頻繁に登場し，また実践科目である以上それらの知識を前提に次回授業が組み立てられていくことも想定されることから，特にそれらの知識を中心に復習に励むことを強く推奨する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

SDGs10, 16, 17に関連します

キーワード /Keywords

アジア地域社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / MIYAKE HIROYUKI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC222M	○	△	◎		
科目名	アジア地域社会論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

アジア諸国は、第2次世界大戦後、多くの国々が植民地支配から抜け出し、今世紀に入り、政治・経済・社会面で大きく変化している。また、私たちにあっては、通信技術の発達や航空運賃の廉価から、外国に出かけることは難しくなくなってきた。言葉の壁も、性能がいいポータブルな翻訳機を使えば、乗り越えられるようになった。よって、アジア諸国との結びつきが格段に容易になった。本授業は、気軽にアジアに出かけたり、また、アジア諸国の人々を迎え入れたりすることができるように、お隣の韓国と講師の研究対象国でもあるバングラデシュに焦点をあて、授業を進めたい。

本授業を通じて、知識としてアジア諸国の社会構造などの基礎的知識を獲得し、アジア諸国に出かけ、人々と交流、もしくは、定住外国人と共生できる技能を身につけることができる。さらに、アジア諸国の社会の在り方を総合的に理解・発信することで、自らの今後の生活や仕事を豊かにすることが可能となる。

教科書 /Textbooks

園田茂人『アジアの国民感情～データが明かす人々対外認識』中公新書、2020年、968円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○三宅博之『開発途上国の都市環境-バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年
 沖浦和光他編『アジアの身分制と差別』解放出版社、2004年
 金栄勲『韓国人の作法』集英社新書、2010年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「アジア地域社会論」の紹介～韓国とバングラデシュに焦点を当てて
- 第2回 アジア諸国の政治・経済・社会の概説
- 第3回 韓国映画『ラブストーリー（原題：クラシック）』前半の鑑賞
- 第4回 韓国映画『ラブストーリー（原題：クラシック）』後半の鑑賞と内容説明
- 第5回 韓国の現代史の紹介
- 第6回 韓国社会の特徴～少子高齢化と移民社会の到来
- 第7回 韓国社会の特徴～学歴社会と就職難
- 第8回 韓国社会の特徴～SDGsやESDに積極的に取り組む地域紹介→スタディ・ツアーを通して
- 第9回 バングラデシュの歴史（政治と経済）
- 第10回 バングラデシュの社会～各宗教の紹介と地域社会でのイスラーム教の信仰
- 第11回 バングラデシュの都市と農村の発展と問題
- 第12回 バングラデシュの地理と環境問題
- 第13回 バングラデシュの社会発展への取り組み～日本人の若者による（イク・マトラとマザー・ハウス）
- 第14回 韓国とバングラデシュとで遊ぼう～今までの授業を聞いての振り返り＝グループ・ディスカッション
- 第15回 「アジア地域社会論」のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む日常的な姿勢：30%、小課題の提出：30%、レポート：40%
 成績評価での{ }は、小課題の提出が全くなされていない、レポートが提出されていない場合に付される。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業の最初と最後に教員から様々な説明や指示が行われるので、それに基づいて、復習と予習をする。

アジア地域社会論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、できるだけ多く、グループ・ディスカッションを入れ、自らが考えるという授業をするので、積極的に参加する姿勢を持つこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

今までに誰も経験しなかった新型コロナウイルスの感染拡大で、外国には行けないが、行けるようになったら、好奇心をもっと旺盛にして、アジア諸国や他の地域にも出かけてほしい。

キーワード /Keywords

アジア 社会 社会発展 SDGs教育 韓国 バングラデシュ

応用政策特講 【昼】

担当者名 /Instructor 湯川 勇人 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PAD214M	△	◎	○		
科目名	応用政策特講			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

近代の日本外交について、基礎的な知識を得るとともに、外交文書や外交官の個人文書を読み、その政策決定過程について学びます。

- ・ 到達目標
- 【知識】 政策実践に関する応用的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。
- 【技能】 政策実践の理解に必要な情報を収集、分析することができる。
- 【思考・判断・表現力】 具体的な政策を通じて、複眼的論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

五百旗頭真編『日米関係史』有斐閣、2008年
入江昭『日本の外交』中央公論社、1966年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：明治期日本の外交①～日本の近代化と対外関係～
- 第2回：明治期日本の外交②～日清戦争と日本～
- 第3回：明治期日本の外交③～日露戦争と日本～
- 第4回：大正期日本の外交①～第一次世界大戦と日本～
- 第5回：大正期日本の外交②～第一次世界大戦期の日米関係～
- 第6回：大正期日本の外交③～ワシントン会議と日本～
- 第7回：戦間期日本の外交①～国際協調時代の日本外交～
- 第8回：戦間期日本の外交②～日中戦争へ至る日本外交～
- 第9回：戦間期の日本外交③～太平洋戦争に至る日本外交～
- 第10回：終戦に至る日本の外交①～大東亜共栄圏と日本の戦後構想～
- 第11回：終戦に至る日本の外交②～対ソ工作～
- 第12回：終戦に至る日本の外交③～原爆・ソ連参戦・聖断～
- 第13回：戦後日本の外交①～占領下の日本～
- 第14回：戦後日本の外交②～吉田ドクトリン～
- 第15回：戦後日本の外交③～戦後日本の安全保障構想～

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート試験・・・50%
日常の授業への取り組み・・・50%
期末レポート未提出の場合に「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

高校レベルの日本史（特に近現代）の知識があると受講しやすいです。

履修上の注意 /Remarks

応用政策特講 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本外交 日本政治 政策決定 外交文書

対外政策論 【昼】

担当者名 李 鍾成 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC213M	○	△	◎		
科目名	対外政策論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

国際秩序は世界中の諸国家の対外政策の融合体であり、対外政策の分析は国際政治学ではミクロな考察に該当します。国際社会において国家が自国の利益を最大化するために行う対外政策を考察することは、国際関係と世界政治を有機的に理解するための基礎になります。また、国際社会の一員として日本や主要国の対外政策を理解することは、現代を生きる我々にとって重要な作業です。この授業では、国家の対外政策はどのような要因で行われるのか、また国家の対外政策の決定過程はどのような視角で把握し説明することができるのかを学ぶことを目標としています。具体的には、外交政策の基本概念、分析の視角、そして事例分析の三点を意識しつつ、外交政策に対する基本的な枠組みについて解説します。

授業の方法は講師による講義を基本としますが、授業中に小テスト（クイズや質疑応答）を行うことがあります。また、各回の講義について、履修学生の意見・感想・質問等をミニツツペーパーに記述してもらい、次回にそれに対するコメントや意見交換などを行います。

教科書 /Textbooks

指定教科書はないが、毎回の授業中にプリントを配布し、場合によっては1次資料などを紹介します。また、参考文献は講義中に随時紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- James N. Rosenau, "Pre-theories and Theories of Foreign Policy," in R. Barry Farrell (ed.), Approaches to Comparative and International Politics, Northwestern University Press, 1966.
- Halford Mackinder, "The geographical pivot of history". The Geographical Journal, 1904, 23, pp. 421-37.
- J. Goldstein and R. Keohane eds., Ideas and Foreign Policy: Beliefs, Institutions, and Political Change, Cornell University Press, 1993.
- K. Waltz, Man, The State and War, Columbia University Press, 1959.
- R. Jervis, "Do Leaders Matter and How Would We Know?" Security Studies, 22, 2, 2013.
- R. Putnam, "Diplomacy and Domestic Politics : The Logic of Two-Level Game," International Organization, Vol.42 No.3(Summer 1988), pp.427-460.
- Tim Marshall, "Prisoners of Geography: Ten Maps That Tell You Everything You Need to Know About Global Politics,"(Elliott & Thompson Limited, 2016).
- グレアム・アリソン、フィリップ・ゼリコウ著 / 漆嶋稔訳『決定の本質：キューバ・ミサイル危機の分析』（日経BP社、2016年）
- 坂野正高『現代外交の分析-情報・政策決定・外交交渉』（東京大学出版会、2013）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.ガイダンス：国際政治学と対外政策の関係について
- 2.対外政策の基本概念1：地政学と対外政策論
- 3.対外政策の基本概念2：地政学と対外政策論2 + 政策決定要因1
- 4.対外政策の基本概念3：政策決定要因2
- 5.対外政策の分析視角：Rosenau's pre-theories
- 6.対外政策の分析視角：行動主義と対外政策分析モデル
- 7.対外政策の分析視角3：ゲーム理論と対外政策1
- 8.対外政策の分析視角4：ゲーム理論と対外政策2
- 9.事例研究1：アメリカの対外政策
- 10.事例研究2：日本の対外政策
- 11.事例研究3：日米関係をめぐる政策決定の過程
- 12.事例研究4：中国の対外政策
- 13.事例研究5：韓国の対外政策と日韓関係
- 14.事例研究6：環境問題をめぐる国際レジームと主要国の対応
- 15.まとめ

対外政策論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- 定期試験60%
授業貢献度(ミニッツペーパー+小テスト): 40%
- ・定期試験では到達目標を中心に評価します。
 - ・出席回数が10回未満の場合、また定期試験に応じなかった場合、「評価不能(-)」となりますので、ご注意ください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前: テレビ、新聞などで国際政治と国際事情に関する情報に常に接する。(30分)
授業中に指定される文献を読んで予習しておく。(30分)
高校の日本史、世界史の教科書の近現代史を事前に読む。(30分)
事後: 毎回、配布される授業レジュメに目を通し、用語や略語の意味を中心に授業を整理しておく。(60分)

履修上の注意 /Remarks

- 毎回の授業が終わってから、必ず復習を行ってください。
授業マナーを必ず守ってください(私語など、講義の進行や他の学生の受講を妨げる行為を慎む)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学問というのは、最初は難しく感じられますが、それが理解できたときの喜びを味わうために、挑んでみる価値があると思います。宜しくお願いします。

キーワード /Keywords

対外政策、政策決定要因、ゲーム理論、政策分析

自治体政策研究【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年 /

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC214M	○	△	◎		
科目名	自治体政策研究			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

現代日本の地方自治体における公共政策を考える上で、①人口減少社会の到来、②少子高齢化、③巨額の財政赤字、④家族構成の変容（単身世帯の急増）、といった問題は避けて通れない重要課題です。本講義では、「超高齢人口減少社会」をキーワードに、①コンパクトシティ、②中山間地域の限界集落、③都市の限界コミュニティ、④小さな自治体（地方）は消滅するのか？、⑤移住政策・関係人口等、といった視点から地方自治体を分析・検討し、これから地方自治体が直面する（あるいは直面している）政策課題について、先進的取り組みを含めて考えていくことにします。

また、「超高齢人口減少社会」の問題を考えるに際しては、様々なレベルでの「担い手」の問題が極めて重要になります。受講生は上記の問題とともに社会の「担い手」について本講義を通して考えてください。

(到達目標)

【知識】地方自治体の公共政策に関する、基礎的な知識を身につけている。

【技能】地方自治体の公共政策について、必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】地方自治体の諸問題について総合的に思考して解決策を探索し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。毎回、プリント教材（レジュメおよびリーディング・テキスト）を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 鈴木浩『日本版コンパクトシティ - 地域循環型都市の構築』（学陽書房、2007年）。
- 大野晃『山村環境社会学序説 - 現代山村の限界集落化と流域共同管理』（農山漁村文化協会、2005年）。
- 大野晃『限界集落と地域再生』（高知新聞社、2008年）。
- 芳賀祥泰編著『福祉の学校』（エルダーサービス、2010年）。
- 山下祐介『限界集落の真実-過疎の村は消えるのか？-』（ちくま書房、2012年）。
- 藤山浩『田園回帰1%戦略-地元にとり戻す-』（農山漁村文化協会、2015年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起と本講義の目的-超高齢人口減少社会の到来
- 2回 人口減少期のまちづくり-コンパクトシティ構想の検討
- 3回 富山市のコンパクトシティ構想-串とお団子のコンパクトシティ構想
- 4回 紫川マイタウンマイリバー整備事業
- 5回 限界集落(1)-限界集落とは何か
- 6回 限界集落(2)-限界集落の事例の検討
- 7回 限界集落(3)-綾部市の「水源の里」条例
- 8回 限界集落(4)-限界集落の再生、「集落支援員制度」、「地域おこし協力隊」等の検討
- 9回 北九州市及び大都市の局地的高齢化
- 10回 都市の「限界コミュニティ」-限界コミュニティとは何か？
- 11回 限界コミュニティとその再生
- 12回 団地の超高齢化、買い物難民(買い物弱者)を考える
- 13回 都市郊外の超高齢化と地縁組織
- 14回 小さな自治体は消滅するのか？-島根県海士町から考える-
- 15回 まとめ

自治体政策研究【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 授業貢献度...50%

* 「一」は、期末レポートを提出していない場合につきます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に際しては前もって配布した教材の指定箇所等を予習（事前学習）して授業に参加して下さい。また、授業中に配布したレジュメや論文等の復習を必ず行うようにしていただきたい。

受講生の数に応じて、どの教室にするかを決めますので、第1回目の講義にはなるべく参加するようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しなければ何もはじまりません。授業には必ず参加してください。

この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」「陸の豊かさを守ろう」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

人口減少社会、超高齢化、コンパクトシティ、限界集落、限界コミュニティ、買い物難民（買い物弱者）、超高齢社会の担い手

都市経済論 【昼】

担当者名 /Instructor 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC113M	○	△	◎		
科目名	都市経済論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

人口減少・高齢化、都市間競争の激化など都市を巡る課題は深刻さを増しています。本講義は、都市の経済的問題を軸としながらも、地域経済と社会との共創性、環境経済や文化経済など都市（地域）政策との関係性にも言及します。

講義では、まず、都市がおかれた現状と課題を概観した後、都市の形成や構造、都市の成長と衰退など都市経済の基礎理論に関する理解を深めます。次に、地域経済が活性化するとはどういうことが、域内産業の特性との関連で見えていきます。

さらに、都市の空間特性が企業行動にどのような影響を与えているのかを検討し、都市の魅力の向上など経済活性化に向けた新しい事業創造の動きを捉えるほか、都市経済の実際として、商店街活性化と観光振興を取り上げます。

本講義を通して、都市経済に関する基礎的な理解を行うほか、分析能力、政策提案能力を身につけることを目的とします。

(到達目標)

【知識】

都市経済に関する基礎的な専門知識を身につけている。

【技能】

都市経済に関する情報を収集し、分析することができる。

【思考・判断・表現力】

都市経済に関係する現象を説明するとともに、理論的、学術的な知見を踏まえた解決策を探索し、自分の意見を論理的に表現できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。Moodle等で適宜、学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 田代洋久(2022)『文化力による地域の価値創出 - 地域ベースのイノベーション理論と展開』水曜社
 - 中村良平(2014)『まちづくり構造改革』日本加除出版
 - 川端基夫(2013)『立地ウォーズ 改訂版』新評論
 - 小長谷一之(2005)『都市経済再生のまちづくり』古今書院
- その他、適宜講義の中で紹介します。

都市経済論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 本講義の目的と概要
2. 競争の激化と地域格差の拡大
3. 都市の経済的課題
4. 都市の社会的課題
5. 都市はなぜできるのか? - 都市の発展
6. 都市空間の形成 - 都市システム
7. 都市の成長と衰退① - 土地利用、都市の内部構造
8. 都市の成長と衰退② - 都市の発展段階モデル
9. 地域経済活性化と産業構造① - 域外マネーの獲得と域内経済循環
10. 地域経済活性化と産業構造② - 基盤産業と非基盤産業
11. 立地戦略と都市経済① - 場所の価値
12. 立地戦略と都市経済② - 立地創造
13. 都市経済の実際① - 商店街活性化
14. 都市経済の実際② - 観光振興とまちづくり
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 受講レポート50%、期末レポート50%
- ・ 一回も受講レポートを提出しない者、期末レポートを期限内に所定の方法で提出しない者（期末試験を受験しない者）、不正行為を行った者は単位認定の対象外で、成績評価で「-」と表示します。
- ・ 新型コロナウイルスの発生状況等により、期末レポートは期末試験に変更する可能性があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始までにMoodleによりレジュメを配布するので、プリントして事前学習をしてください。
授業終了後は事後学習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンデマンド方式に切り替えます。
- ・ 遅刻、私語、食事は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。
講義中、教員の指導に従わない行動をとった場合、退室していただきます。
- ・ 教員の許可を得ない講義の撮影、録音は厳禁です。
- ・ 受講レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
- ・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 担当教員は、経済系シンクタンクと地方自治体での政策実務経験を有し、「地域資源の活用による地域創造と都市魅力の形成」を専門としています。
「地方創生」に関する理解を深めるためにも、都市経済の状況と戦略に関する洞察は不可欠です。
- ・ 本講義と関連する図書を刊行しました。参考図書としてあげておきます。
- ・ 当科目は、SDGsの「8 働きがいも 経済成長も」「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」「11 住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

都市マネジメント論 【昼】

担当者名 /Instructor 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PAD213M	○	△	◎		
科目名	都市マネジメント論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

人口減少社会、少子・高齢化の進展、都市間競争の拡大など、都市を取り巻く環境変化は著しく、かつ深刻な状況にある。地方消滅の危機が深刻化する中、漫然とした都市経営はもはや許されず、持続的な都市社会の構築に向けて、効率的な都市運営、地域社会のガバナンス、都市の魅力の向上などの戦略的な都市マネジメントが不可欠となる。

本講座では、都市マネジメントが求められる背景、行政システムに関する基礎的な知識、NPM、ガバナンスとパートナーシップ、地域課題へのビジネス手法の活用、地域資源の活用による地域創造など、今後の都市マネジメントの方向性に関する理解とともに、学際的、多角的な思考能力と構造的な理解力、政策提案能力を身につけることを目的とする。

(到達目標)

【知識】

都市マネジメントに関する専門的な知識を幅広く身につけている。

【技能】

都市マネジメントに関する情報を収集し、分析することができる。

【思考・判断・表現力】

都市マネジメントの状況を説明するとともに、ガバナンスやパートナーシップを駆使した政策展開や地域創造の意義を探索し、自分の意見を論理的に表現できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。Moodle等で適宜、学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 田代洋久(2022)『文化力による地域の価値創出 - 地域ベースのイノベーション理論と展開』水曜社
- 吉田民雄(2003)『都市政府のマネジメント』中央経済社
- 宮脇淳(2012)『図解 財政のしくみ ver.2』東洋経済新報社
- ・ 秋吉貴雄他(2015)『公共政策学の基礎 新版』有斐閣
- ・ 秋吉貴雄(2017)『入門 公共政策学』中央公論新社
- ・ その他、講義の中で適宜紹介します。

都市マネジメント論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 都市のマネジメント
2. 都市の現状と課題
3. 都市の成長と都市マネジメント
4. 地方自治制度
5. 地方財政制度
6. 地方自治体の諸制度
7. 地方公務員の人材マネジメント
8. 地方行財政改革
9. 公共部門の民営化
10. 公共施設・空間のマネジメント
11. ガバナンスとパートナーシップ
12. ビジネス手法の活用による地域課題の解決
13. 企業と社会の関わりと市民事業への支援
14. 地域資源の活用による地域創造
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 受講レポート50%、期末レポート50%
- ・ 一回も受講レポートを提出しない者、期末レポートを期限内に所定の方法で提出しない者（期末試験を受験しない者）、不正行為を行った者は単位認定の対象外で、成績評価で「-」と表示します。
- ・ 新型コロナウイルスの発生状況等により、期末レポートは期末試験に変更する可能性があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始までにMoodleによりレジュメを配布するので、プリントして事前学習をしてください。
授業終了後は事後学習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンデマンド方式に切り替えます。
- ・ 遅刻、私語、食事は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。
講義中、教員の指導に従わない行動をとった場合、退室していただきます。
- ・ 教員の許可を得ない講義の撮影、録音は厳禁です。
- ・ 受講レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
- ・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 担当教員は、経済系シンクタンクと地方自治体での政策実務経験を有することから、都市マネジメントのポイントと行政、企業、住民の協働の実際をわかりやすく解説します。都市政策論と併せて受講されることをお勧めします。
- ・ 本講義と関連する図書を刊行しました。参考図書としてあげておきます。
- ・ 当科目は、SDGsの「11 住み続けられるまちづくりを」「17 パートナーシップで目標を達成しよう」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

都市政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC219M	○	△	◎		
科目名	都市政策論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

グローバル化や人口減少社会が深刻化する中、多くの都市では、経済分野、社会分野、環境分野をはじめとする多彩な政策課題が存在する。本講義では、「都市」についての基本的な理解や都市の現状と課題、都市政策の手法等を概観した後、地域産業政策、地域コミュニティ政策、安全安心まちづくり、空き家対策、環境政策、文化観光政策などの様々な政策分野の状況と政策展開の実際を学んでいく。

都市政策に関する表層的な理解にとどまらず、歴史的変遷や都市のダイナミズム、多重性・多層性を有する都市政策の構造的な理解、政策提案能力を身につけることを目的とする。

また、脅威となっている大規模地震災害や新型コロナウイルスに対する政策についても言及する予定である。

(到達目標)

【知識】

都市政策に関する専門的な知識を幅広く身につけている。

【技能】

都市政策に関する情報を収集し、分析することができる。

【思考・判断・表現力】

都市政策の現状を説明し、都市政策課題の解決に向けた学際的なアプローチを探索し、自分の意見を論理的に表現できる。

教科書 /Textbooks

・特に指定しません。Moodle等で適宜、学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 田代洋久(2022)『文化力による地域の価値創出 - 地域ベースのイノベーション理論と展開』水曜社
- 石原武政・西村幸夫編(2010)『まちづくりを学ぶ - 地域再生の見取り図』有斐閣
- 秋吉貴雄他(2015)『公共政策学の基礎 新版』有斐閣
- ・ 秋吉貴雄(2017)『入門 公共政策学』中央公論新社
- ・ その他、講義の中で適宜紹介します。

都市政策論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 都市政策とはなにか
2. 人口減少と都市政策課題
3. 都市政策の変遷と都市ビジョン
4. 都市政策と政策手法 (1) - 政策の構造化
5. 都市政策と政策手法 (2) - 政策手法とプロセス
6. 地域産業政策
7. 社会保障制度と少子化対策
8. 地域コミュニティと市民活動
9. 安全安心のまちづくり
10. 社会資本の老朽化と空き家対策
11. 環境創造と持続可能性
12. インバウンドと観光まちづくり
13. 都市文化政策と文化創造
14. 町並み景観の保存と活用
15. まとめ

※新型コロナウイルスの状況が落ち着けば、「政策展開の実際」ということでゲスト講師を招聘することも考えています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 受講レポート50%、期末レポート50%
- ・ 一回も受講レポートを提出しない者、期末レポートを期限内に所定の方法で提出しない者（期末試験を受験しない者）、不正行為を行った者は単位認定の対象外で、成績評価で「-」と表示します。
- ・ 新型コロナウイルスの発生状況等により、期末レポートは期末試験に変更する可能性があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始までにMoodleによりレジュメを配布するので、プリントして事前学習をしてください。
授業終了後は事後学習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンデマンド方式に切り替えます。
- ・ 遅刻、私語、食事は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。
講義中、教員の指導に従わない行動をとった場合、退室していただきます。
- ・ 教員の許可を得ない講義の撮影、録音は厳禁です。
- ・ 受講レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
- ・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 担当教員は、地方自治体での豊富な政策実務経験を有することから、都市政策の理論と実際をわかりやすく解説します。都市マネジメント論と併せて受講されることをお勧めします。
- ・ 本講義と関連する図書を刊行しました。参考図書としてあげておきます。

・ 当科目は、SDGsの「8 働きがいも 経済成長も」「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」「11 住み続けられるまちづくりを」「12 つくる責任 つかう責任」「15 陸の豊かさを守ろう」「17 パートナリーシップで目標を達成しよう」の目標に広く関連しています。

キーワード /Keywords

環境政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC216M	○	△	◎		
科目名	環境政策論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

人間と社会経済、人間と環境・自然との関係について理解し、原因を分析する（分析能力の習得）。

- ① 日本における環境問題と歴史、環境問題の特性と環境問題の要素（環境、社会構造と制度、技術、自然、人口）について理解する。
- ② われわれの日常生活・消費がもたらす環境への影響とその関係についても考えてみる。
- ③ 地球温暖化、コロナ感染症と気候変動、国家間移動、放射能の大気汚染について理解し原因を分析する。
- ④ 環境問題の変化：産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題について考え、環境政策を比較、考察する。
- ⑤ 環境問題におけるグローバルな要素、ローカルな要素について考え、環境政策を比較分析する。
- ⑥ SDGsのエネルギー（原子力、再生エネルギー）・食べ物・水問題・気候危機政策と生活の関係について考え、持続可能なエネルギー政策を形成する（再生エネルギーと地域活性化）。
- ⑦ アメリカ、ドイツ、韓国、中国の環境政策を比較調査する。

（到達目標）

- 【知識】 環境問題に関する理解を深め、その対策に必要な専門的な知識を修得している。
- 【技能】 環境関連の試験や資格に必要な情報やスキルを身につけている。
- 【思考・判断】 環境問題における多様な観点や利害関係を理解し、問題解決力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『環境政策論』（森 晶寿・孫 穎・竹歳 一紀・在間 敬子著 ミネルヴァ書房 2014年 ¥3,240）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『再生可能エネルギーの政治経済学』（大島堅一著 東洋経済新報社 2010年 ¥3,990）
- 『環境問題の社会史』（飯島伸子著 有斐閣 2000年 ¥2,310）
- 『自動車の社会的費用』（宇沢弘文著 岩波新書 1974年 ¥735）
- 『環境保護の法と政策』（山村恒年著 信山社 2006年 ¥7,748）
- 『環境共同体としての日中韓』（東アジア環境情報発信所著 集英社 ¥735）
- 『欧州のエネルギーシフト』（脇坂紀行著 岩波新書 2012年 ¥840）

環境政策論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業や本の紹介など(自分の環境概念について、書いてもらう)
- 2回 公害、環境(問題)とその構造(被害者、加害者等)
環境問題の特性とその構造(環境、社会構造と制度、技術、自然=資源、人口)
- 3回 環境問題と社会的ジレンマ
環境権、環境政策の特徴1(日本、アメリカ、ドイツとEU、韓国、中国、SDGs)
- 4回 各国の環境組織、予算 利害関係者とアクター
- 5回 環境権、環境政策の特徴2(日本、アメリカ、ドイツとEU、韓国、中国、SDGs)
- 6回 環境政策の手段(間の比較分析)1: 補助金、賦課金、税金、規制、取引権、買い上げ等
- 7回 環境政策の手段(間の比較分析)2: 道路有料化、都市計画、スマートシティ等
- 8回 ポスター発表会
- 9回 自治体の環境政策(環境計画、公害防止規制、横だし、上乗せの条例等)、環境自治体
- 10回 廃棄物はどこにいくのか(アジアへ、私の食卓へ、そして体へ)
- 11回 自動車と道路、ダイオキシン問題、大気汚染
- 12回 SDGsとエネルギー政策
- 13回 企業の環境対策とISO、環境ビジネス
- 14回 水・川・ダムによる水資源、干潟、地域再生
- 15回 本の発表とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

本のレポート 20%、ポスター発表30%、期末試験 50%
(本のレポート・ポスター発表をしない場合は、期末試験を受けることができず「評価不能(-)」となります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前課題・事後学習内容については学習支援フォルダに挙げるので、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

以前、ゼミ生と一緒に、小倉駅で、原発事故とエネルギーに関するアンケートを取った。その調査では、「電力量に対する認識の差」、「原発事故等に関する話し合いの有無」、「参加意志にみえる政治参加システム」について興味深い傾向が読み取れた。ある高校生は、迷うことなく、電力不足に引き続き、原発必要論にマルを付けた。こういう傾向は、女性より男性の方に多く、若いほど電力不足論に票を入れている。これに対し、「40代」の「女性」の方では、電力は不足なんかしない(原発なくても)と答えた。同じ時間軸にいる人々のなかでも、現況を把握するのに、これほどの差が出る。これは、な～ぜ～!!
あなたは、どう思う？

では、エネルギーで地域経済を支えるって本当!!
また、エネルギーナシで生活できないって、だったら、地域エネルギーで就職もできるの??

キーワード /Keywords

環境、環境問題、社会的ジレンマ、環境政策(政策手段)、環境影響、国際環境問題、産業公害型環境問題、都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題、地域エネルギーと原子力。

途上国開発論 【昼】

担当者名 吉田 舞 / Mai Yoshida / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC215M	○	△	◎		
科目名	途上国開発論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本授業では、グローバル化と途上国開発という視点から、社会を読み解く視点や方法を修得します。具体的には、担当教員がこれまでフィリピンと日本で行ってきたフィールドワークの事例を中心に、グローバル化のなかでの都市（国）づくりが、そこに暮らす人々にどのような影響を及ぼしているのかについて考えます。そのために、都市で生活する人々の経済、社会、政治、政策などさまざまな側面について理解していきます。後半は、グローバルな「開発」を念頭に、私たちの生活に身近な問題について、メディア資料などを通して理解する力を養います。

- { 知識 } 途上国の政治経済の現状を理解している
- { 技能 } 途上国の政治経済上の情報を入手し、分析できる
- { 思考・判断・表現力 } 途上国の持続可能な開発に理解を示し、積極的に支援する

教科書 /Textbooks

特に指定しません。必要に応じてレジュメや資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 日下渉『反市民の政治学：フィリピンの民主主義と道徳』2013, 世界思想社.
- 山口恵子ほか『グローバル化のなかの都市貧困』2020, ミネルヴァ書房.
- 吉田舞『先住民の労働社会学：フィリピン市場社会の底辺を生きる』2018, 風響社.
- ニール・スミス『ジェントリフィケーションと報復都市：新たな都市のフロンティア』原口剛訳, 2014, ミネルヴァ書房.
- 長田華子『バン格拉デシュの工業化とジェンダー：日系縫製企業の国際移転』2014, 御茶の水書房.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス：今「途上国」でなにが起きているのか【コロナと途上国】
- 第2回開発とはなにか：開発概念の検討【開発と貧困】
- 第3回フィリピンにおける開発研究の歴史的経緯【植民地経験と近代化】
- 第4回グローバル化と都市開発① ギグ・エコノミーと渋滞問題【ジェントリフィケーション】
- 第5回グローバル化と都市開発② スクオッターと強制撤去【住居問題】
- 第6回グローバル化と都市開発③ 美化政策と路上の人びと【ホームレスの国際比較】
- 第7回グローバル化と都市開発④ 美化政策と物売りの人びと【公共空間の利用と階層化】
- 第8回グローバル化と都市開発⑤ 都市統治と道徳的イデオロギー【近代的都市づくり】
- 第9回グローバル化と地域開発① 先住民の生業と労働【観光開発】
- 第10回グローバル化と地域開発② 資本主義のハビトゥス【価値変容】
- 第11回グローバル化と地域開発③ 包摂・排除される人々【開発政策】
- 第12回日本からアジアをみる①990円のジーンズのカラクリ：映画『True cost』から考える【ファストファッション】
- 第13回日本からアジアをみる② 途上国開発と移民労働者【出稼ぎ労働者】
- 第14回日本からアジアをみる③ 「国際貢献」と外国人受け入れ政策【経済連携】
- 第15回まとめ：開発と援助

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト50%、課題レポート20%、ワーク 30%

※ 授業を5回以上欠席した場合、期末試験未受験者は「評価不能(-)」となります。

途上国開発論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各種メディアを通じて提供される国内外の時事問題に関する情報に関心に向け、その概要を把握すること。

履修上の注意 /Remarks

受講生の人数や問題関心などにより授業内容を一部変更することがあります。私語厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています！

キーワード /Keywords

途上国、開発、路上、生活と仕事

福祉政策論 【昼】

担当者名 狭間 直樹 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC217M	○	△	◎		
科目名	福祉政策論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会福祉サービス（高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉サービスなど）の制度概要と政策動向を解説し、その日本の特質を考えます。政府体系（政治行政関係、中央地方関係、政府民間関係）や行政管理など行政学・政策科学の視点から、社会福祉サービスの現状と課題を考えます。

（到達目標）

【知識】社会福祉サービスについて基礎的な知識を身につけている。

【技能】社会福祉サービスを利用するうえで必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】社会福祉サービスの課題について論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を明確に発信することができる。

（授業方法）

原則として、対面授業により実施する予定です。新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより変更となることもあります。大学の電子掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

レジュメは講義当日の教室にてB4判で配布します。前回、前々回分のレジュメに限り、再配布します。講義後一週間を目処に、レジュメの空所部分を紹介した動画（5分程度）をMoodleに掲載する予定です。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介した図書や資料が参考文献となります。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「社会福祉の意味」
- 第2回 「社会福祉の行財政」 社会福祉の専門機関
- 第3回 「社会福祉の行財政」 社会福祉の民間組織
- 第4回 「高齢者福祉と介護保険」 介護保険のしくみ、在宅・施設サービス
- 第5回 「高齢者福祉と介護保険」 介護サービスと民間企業
- 第6回 「高齢者福祉と介護保険」 介護は社会化されたか？
- 第7回 「児童福祉」 児童福祉のサービス
- 第8回 「児童福祉」 保育所改革（公立保育所民営化など）
- 第9回 「児童福祉」 保育所改革（幼保一体化）
- 第10回 「児童福祉」 児童虐待
- 第11回 「児童福祉」 少子化対策。男女共同参画をめぐる議論
- 第12回 「障害者福祉」 障害の定義
- 第13回 「障害者福祉」 障害者福祉のサービス
- 第14回 「障害者福祉」 障害者の雇用
- 第15回 まとめ

福祉政策論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験(筆記試験)・・・100%

新型コロナウイルス感染状況の収束が見通せないため、今年度の授業では出欠の確認をしません。
欠席による減点はありません。

試験は空所補充問題と論述問題で構成されます。レジュメ、講義中に示したスライド、映像などから出題されます。
13回目ぐらいの講義で、試験範囲などについてお知らせする予定です。

新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより、レポート課題提出に変更される場合もあります。
大学の電子掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

学期末試験を受験しなかった場合(もしくはレポート課題を提出しなかった場合)は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

福祉サービスについて関心をもっておいください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

履修上の注意 /Remarks

13時20分までに入室してください。ご協力をおねがいします。

私語厳禁。繰り返し注意してもやめない人や授業態度が悪い受講生には、期末試験得点から減点したり、単位を認定しない場合がある。

授業時間中におけるパソコン・携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影などを禁止する。

レジュメや録音・録画した講義内容・講義動画を他人に譲渡・送信したり、インターネット上などで公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特になし。

公共経営論 【昼】

担当者名 狭間 直樹 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PAD212M	○	△	◎		
科目名	公共経営論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この講義では、公共経営（パブリック・マネジメント）という考え方をもとに、政府と民間の関係という視点から、様々な公共サービス分野の改革動向を学びます。公共サービスの民営化・民間委託を中心に、市場原理・企業の経営手法を取り入れた公共サービス改革の可能性と問題点を考えます。

（到達目標）

- 【知識】公共サービスの民営化・民間委託について基礎的な知識を身につけている。
- 【技能】公共サービスの課題を理解するうえで必要な情報を収集、分析することができる。
- 【思考・判断・表現力】公共サービスの課題について論理的に思考して解決策を探索し、自分の意見を明確に発信することができる。

（授業方法）

原則として、対面授業により実施する予定です。新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより変更となることもあります。大学の掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

レジュメは講義当日の教室にてB4判で配布します。前回、前々回分のレジュメに限り、再配布します。講義後一週間を目処に、レジュメの空所部分を紹介した動画（5分程度）をMoodleに掲載する予定です。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介した図書や資料が参考文献となります。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「新公共経営の理論」 NPM (New Public Management)
- 第2回 「新公共経営の理論」 能率と責任、政策手法
- 第3回 「教育編①図書館」 図書館のしくみ
- 第4回 「教育編②図書館」 指定管理者制度
- 第5回 「教育編③図書館」 PFI
- 第6回 「教育編④図書館」 PFIの問題点
- 第7回 「教育編⑤学校」 学校のしくみ
- 第8回 「教育編⑥学校」 学校選択制
- 第9回 「公共事業編①」 道路のしくみ
- 第10回 「公共事業編②」 道路公団民営化
- 第11回 「公共事業編③」 道路の必要性
- 第12回 「公共事業編④」 入札改革
- 第13回 「公共サービス従事者編①」 特殊法人、天下りをめぐる議論
- 第14回 「公共サービス従事者編②」 非正規職員
- 第15回 「まとめ」

公共経営論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験(筆記試験)・・・100%

新型コロナウイルス感染状況の収束が見通せないため、今年度の授業では出欠の確認をしません。
欠席による減点はありません。

試験は空所補充問題と論述問題で構成されます。レジュメ、講義中に示したスライド、映像などから出題されます。
13回目ぐらいの講義で、試験範囲などについてお知らせする予定です。

新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより、レポート課題提出に変更される場合もあります。
大学の掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

学期末試験を受験しなかった場合(もしくはレポート課題を提出しなかった場合)は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

* 図書館や学校、道路に関心をもっておいください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

履修上の注意 /Remarks

13時20分までに入室してください。ご協力をおねがいします。

私語厳禁。繰り返し注意してもやめない人や授業態度が悪い受講生には、期末試験得点から減点したり、単位を認定しない場合がある。

授業時間中におけるパソコン・携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影などを禁止する。

レジュメや録音・録画した講義内容・講義動画を他人に譲渡・送信したり、インターネット上などで公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特になし。

NPO論【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 狭間 直樹 / 政策科学科
黒石 啓太 / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC114M	○	△	◎		
科目名	NPO論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかという点必ずしもそうとはいえないのではないのでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。本講義は、①3人の担当する教員による講義、②NPO関係者を招いての講演会（8回程度予定）、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものにしたいと考えています。

* 『北九州NPOハンドブック（第6版）』作成プロジェクトを進めておりますので、興味のある方はぜひご参加ください。

（到達目標）

- 【知識】NPOに関する基礎的な知識を身につけている。
- 【技能】NPOについて必要な情報を収集し、分析することができる。
- 【思考・判断・表現力】NPOについて複眼的に思考し、自分の考えや意見を表現することができる。

教科書 /Textbooks

使用しない予定。担当教員がその都度、プリント教材を配布する等、指示します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 榎原真二編集代表『北九州NPOハンドブック [第5版]』(2010年)。
- 坂本治也編『市民社会論-理論と実証の最前線-』(法律文化社、2017年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入及びNPOの基礎知識(1)-講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など
- 2回 NPOの基礎知識(2)
- 3回 第1回NPO講演会
- 4回 福祉NPO(1)
- 5回 第2回NPO講演会
- 6回 福祉NPO(2) -社会福祉法人
- 7回 第3回NPO講演会
- 8回 NPOを考える視点(1)
- 9回 第4回NPO講演会
- 10回 第5回NPO講演会
- 11回 NPOを考える視点(2)
- 12回 第6回NPO講演会
- 13回 NPOを考える視点(3)
- 14回 第7回NPO講演会
- 15回 第8回NPO講演会

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度 ... 50% レポート... 50%

期末レポートを提出しなかった場合には「評価不能(一)」となります。

NPO論【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

それぞれの担当教員の指示にしたがって前もって指定箇所を読む等をして授業に参加してください。また、各教員が授業中に配布したレジюме等の教材の復習を必ず行うようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

第1回の講義で授業の進行および成績評価について説明しますので必ずご視聴ください。また、授業計画は学生の理解によって変更することがありますのでご了承ください。

本年はやむを得ない理由から、授業のスケジュールを変更せざるを得ない可能性があります。こうした事情をご了承のうえご参加下さいますようお願いいたします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

NPO、NGO、福祉NPO、アドボカシー、ミッション、寄付

政策実務特講 【昼】

担当者名 /Instructor 雪松 直子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC220M	△	◎	○		
科目名	政策実務特講			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本授業では、職員を雇用するなど、有給で継続的に事業を行なっているNPOなどの非営利組織について、その背景と特徴、経営上の工夫について、実際のケース（事例）を中心に取り扱いながら進めていきます。

一般的な企業等が行う営利事業では、利益をあげることが求められ、収益や資本が増大することを基準に評価されますが、NPO等の非営利組織は、利益は事業継続のための手段であり、事業が社会にどれだけの影響を与え、変化を起こすことができたか、どれだけの市民が関心を寄せ、参画したかに価値を見出します。

そのため、非営利事業の経営の現場には、さまざまな指標があり、自分と社会との接点を考えること、対話や合意形成の技術、社会における自分の役割を整理することなど、これからの社会人としても必要な要素を多く含んでいます。

それらを、講師が経営するNPO法人アカツキ・またアカツキのコンサルティング支援先であった実際のケースを参考にし、時にゲスト講師の力も借りながら、皆さんと一緒に学びます。

本授業内では学生の到達目標、また成績の評価基準として、知識の量や回答の優秀性よりも、「社会と自分のつながりを想像する力」「自分の意見を持ち言語化する力」の2点を重視します。

到達目標

【知識】非営利組織・ソーシャルビジネスに関する専門的な知識を体系的に身につけている。

【技能】非営利組織・ソーシャルビジネスについて必要な情報を収集し、分析することができる。

【思考・判断・表現力】非営利組織・ソーシャルビジネスについて総合的に思考し、自分の考えや意見を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

岡田斗司夫 『「世界征服」は可能か?』 筑摩書房 2007年 ¥780 (税別)
他、適宜プリント等を使用します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：オリエンテーション / NPO法人の基礎振り返り
- 2回：市民運動からソーシャルビジネスへの歴史とこれから
- 3回：全国の社会的事業モデル紹介
- 4回：非営利とファンドレイジングの意義
- 5回：「悪の秘密結社」に見るビジョンとミッション
- 6回：「世界征服」というイノベーション
- 7回：非営利事業者ゲストによるケース紹介(1) 【営利からの転向】
- 8回：非営利事業者ゲストによるケース紹介(2) 【行政との協働】
- 9回：非営利事業者ゲストによるケース紹介(3) 【日常の事務体制】
- 10回：コミュニケーション・情報共有とは
- 11回：非営利事業に対する経営支援の現状と課題
- 12回：非営利事業の経営ケース・スタディ(1) 【人材と会議】
- 13回：非営利事業の経営ケース・スタディ(2) 【分析と戦略】
- 14回：非営利事業の経営ケース・スタディ(3) 【広報と営業】
- 15回：全体の振り返りと共有

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...60% 日常の授業への取り組み...40%

連絡なく試験を欠席した場合、「評価不能(一)」となります

政策実務特講 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 事前学習については、次回講義で取り上げるケースの団体を紹介しますので、基礎的な事業内容をインターネットなどで調べておいてください。
- ・ 事後学習については、その日学んだ内容について、一人ではなく友人や家族と共有し、意見交換することで、自分の考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ この授業は「NPO論」で学べる知識をベースに進めます。
- ・ 授業の中では、たびたびグループワークの時間を設けます。社会に「必ず正しい答え」というものではありません。常識に縛られずに、自由に自分の意見を考えてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんの中には、今まで非営利組織との関わりはなかったと感じる人もいるかもしれませんが。しかし、皆さんの日常にある、家族という小さな単位のものから、地域の自治会、部活やサークルなどにも、授業で紹介する取り組みや、非営利組織の経営を活かすことができます。

この授業を通して皆さんのこれからの生活や仕事を考えた時、NPOなどの非営利組織の役割も視野に入れ、一市民としての考えを持てることを期待しています。

キーワード /Keywords

非営利組織 経営 ソーシャルビジネス NPO 寄付 ファンドレイジング 評価

外国文献研究B 【昼】

担当者名 /Instructor 朝倉 拓郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM392M	△		◎	○	
科目名	外国文献研究B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、英語圏の読者向けに書かれた日本政治の入門書を講読することを通じて、日本政治の基本的な事柄についてあらためて学び直すことである。これに加えて、文献講読によって得られた知見に基づいて現在の日本の政治状況について参加者どうして議論を行い、理解を深めていく。

(到達目標)

- 【知識】 政策理論に関する知識や分析力を修得している。
- 【思考・判断・表現力】 政策について多様な観点から考え、論理的に説明できる力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】 政策事例に関する議論を通じ、コミュニケーション能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

Ian Neary, The State and Politics in Japan, Second Edition, Polity Press, 2019.
講義で使用する部分は、コピーを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

参加者の確認、第2回以降の授業の進め方についての説明を行う。
時間の制約上、テキストをすべて読むことはできないので、参加者の関心等を考慮して読む範囲を決定する。
したがって、以下の授業計画はあくまで参考である。

- 第2回～第3回 戦後政治史
- 第4回～第6回 日本政治の構造
- 第7回～第9回 外交・安全保障政策
- 第10回～第12回 経済・産業政策
- 第13回～第15回 社会・福祉政策

成績評価の方法 /Assessment Method

事前学習の達成度 (50%)、講義での報告・議論への参加度 (50%) によって総合的に評価する。
なお、5回以上欠席した場合は評価不能 (-) とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：あらかじめ決められた範囲を読み訳文を作成する。
報告担当者は、訳文をプリントアウトして、授業開始前に参加者にコピーを配布する。
- 事後学習：事前学習で作成した訳文を見直し、講義で得られた理解を定着させる。

履修上の注意 /Remarks

無断欠席は厳禁である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講を考えている学生は、必ず初回のガイダンスに参加すること。

キーワード /Keywords

日本政治、55年体制、自民党、日米安保体制、政治改革

アジアのイスニシティ政策【昼】

担当者名 徳安 祐子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC224M	○	△	◎		
科目名	アジアのイスニシティ政策		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

20世紀は「国民国家の時代」といわれる。「国民国家」とは、領域と主権を備えた国家の中に住んでいる人々が国民の一体性の意識（ナショナル・アイデンティティー）を共有している国家のことであり、この国民国家を創る営みを、歴史上ほとんどの国家が行ってきた。しかし、それは同時に、国内の少数民族（あるいは少数エスニック・グループ）の排除、もしくは多数派への統合や強制的な同化を意味していた。

この授業では、東南アジアの国々が、国民国家を創る営みの中でどのように少数民族を処遇してきたのか、あるいは多数派はその過程でどのように変容したのか（しなかったのか）、そして少数民族はそのなかでどのように生きてきたのかを考察する。さらに、21世紀の現在、「国民国家」が抱える問題点や課題も考える。

事例として、ラオスを中心に、インドネシア、マレーシア、ベトナム、タイ、ミャンマーを取り上げる予定である。

到達目標

- 【知識】アジアの民族問題や国家建設についての幅広い知識を総合的に身に付けている。
- 【技能】アジアの民族問題の理解に必要な情報を収集し、分析することができる。
- 【思考・判断・表現力】アジアの民族問題について学際的・複眼的に分析し、解決策を探索し、論理的に発信することができる。

教科書 /Textbooks

清水一史・田村慶子・横山豪志（編著）『東南アジア現代政治入門』改訂版、ミネルヴァ書房、2018年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ベネディクト・アンダーソン（白石隆・白石さや訳）『想像の共同体：ナショナリズムの起源と流行』書籍工房早山、2007年。
その他、授業時に適宜知らせる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の説明、用語の定義と説明
- 第2回 東南アジアの国民統合（1）【国民国家建設】
- 第3回 東南アジアの国民統合（2）【民族と宗教】
- 第4回 インドネシアの国民統合政策
- 第5回 マレーシアの国民統合政策
- 第6回 ベトナムの国民統合政策（1）【国民国家建設】
- 第7回 ベトナムの国民統合政策（2）【少数民族政策】
- 第8回 タイの国民統合政策（1）【国民国家建設】
- 第9回 タイの国民統合政策（2）【少数民族政策】
- 第10回 ミャンマーの国民統合政策（1）【国民国家建設】
- 第11回 ミャンマーの国民統合政策（2）【少数民族政策】
- 第12回 ラオスの国民統合政策（1）【国民国家建設】
- 第13回 ラオスの国民統合政策（2）【少数民族政策】
- 第14回 ラオス山地民と民族間関係
- 第15回 ラオス山地民の生活と文化

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 60%、日常の授業への取り組み 40%
6回以上欠席した場合、および、期末試験を受験しなかった場合は評価不能（－）とします。

アジアのエスニシティ政策【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後には、教科書の該当ページ(あるいは章)を精読し、参考文献を図書館から借りるなどして読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日ごろからニュースなどを見て、世界で起きている民族問題などの政治的な問題に目を向けましょう。

キーワード /Keywords

国民国家、民族、エスニシティ、国家建設

法学総論【昼】

担当者名 /Instructor 林田 幸広 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW100M	○	○	◎		
科目名	法学総論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのキャリアマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業は1年次・第一学期に配当されていることからわかるように、法学部の専門科目を学ぶにあたって必要な基礎知識や基本的な法学の考え方を習得するための科目です。各分野の法律は個々バラバラにあるわけではなく、それらを貫く背景や考え方をもっています。そうしたいわば「太い幹」を概説することが授業の中心におかれます。この授業を通して受講者が①法学の全体像を大まかにでもイメージできるようになること、②この先に学ぶ個別の法律がその全体といかなる関係にあるのかを意識できるようになること。大きくこの二点を本講義のねらいとします。以下に到達目標も示します。

(到達目標)

- 【知識】法学の初歩的な知識を身につけている
- 【技能】法学的アプローチを行うための基礎的な技法を身につけている
- 【思考・判断・表現力】社会的な問題に対し、法的に考え判断することができる

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。授業はテーマごとに配布するレジュメをもとに進めます。各回の内容やテーマに関連した文献が紹介できる場合には、授業の中でお伝えします。なお、最新の六法を各自で持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 伊藤正己・加藤一郎編、『現代法学入門〔第4版〕』、有斐閣双書、2005年。
- 稲正樹ほか、『法学入門』、北樹出版、2019年。
- 中山竜一、『ヒューマンニティーズ 法学』、岩波書店、2009年。
- 三ヶ月章、『法学入門』、弘文堂、1982年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス&イントロ：実年齢の変更は裁判で認められる(べき)か…【法化社会】
- 2回 法の目的①：もしも法がなかったら?…【法の支配】と【法治主義】
- 3回 法の目的②：法が法である条件は?…【法と道徳】、【法と強制】
- 4回 法の目的③：法は正義の味方ではない…【法における正義】
- 5回 立憲主義①：個人を起点に社会秩序を考える理由…【社会契約論】
- 6回 立憲主義②：もしボデイガードが殴ってきたら?…【国家=権力】の両義性、【違憲審査】
- 7回 立憲主義③：多数決で決めてはいけないもの…【民主主義】、【公/私】の区別
- 8回 法の体系①：さまざまな分類…【法の位階】、【公法/私法】、【実体法/手続法】
- 9回 法の体系②：民事と刑事、原理から見る「守備範囲」…【私的自治】、【国家刑罰権】
- 10回 法の体系③：賛成ですが/反対ですが、それはなぜですか?…【死刑制度】
- 11回 法の体系④：近代法から現代法へ…【法の機能】から法体系を俯瞰する
- 12回 裁判と法①：裁判の種類と関連性…【裁判制度】、【裁判手続】
- 13回 裁判と法②：法解釈と思考法…【要件-効果】
- 14回 裁判と法③：選ばれたらどうします?…【国民の司法参加】
- 15回 授業のまとめ

法学総論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業に関連した小課題のできばえ…………… 30%
- ・ 授業全体の内容についての理解度をはかる定期試験… 70%
- ・ 定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】：配布プリントを確認し、意味の分からない言葉を調べ、疑問箇所をピックアップしておいてください。
- 【事後学習】：授業後、講義内容を自身で振り返るようにしてください。概念の内容だけでなく、概念どうしのつながりを理解してください。

履修上の注意 /Remarks

法(学)には、たいてい原則のようなものが備わっています。しかし同時に例外的な考えをとることも少なくありません。この授業で扱うのは体系的な考え方ですので、受講者はまず原理や原則を着実に理解するようにしてください。そしてそのうえで、各分野の例外的な考えや細かい考えに繋げていってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほとんどの学生が横並びに同じスタートラインを切れるところが法学の「強み」だと思います。臆することなく、着実なスタートをしましょう。

いうまでもなく法学は、社会的公正さという私たちの社会の基礎となる(べき)秩序を構想します。よってこの授業はSDGsのなかでもとりわけ「10. 人や国の不平等をなくそう」の目標に関連しています

キーワード /Keywords

法の目的、法の機能

法社会学【昼】

担当者名 林田 幸広 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW211M	○	○	◎		
科目名	法社会学			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

法社会学は、実定法解釈学とは異なる視角から、法 / 規範現象を観察・分析し、言語化する学問です。
みなさんが普段学んでいる法解釈学が、法システムの「内部」に関する学知だとするならば、ひとまず法社会学は、法システムをその「外部」から観察していく学知であるといえ、法や社会規範が、社会の中で、いかなる意味や機能を纏っているのかにつき、多様なアプローチを用いつつ考察していくのが大きな特徴です。

「自明 (= 当たり前)」と思っていたことでも、ちょっとだけ視点をずらせば、まったく違った見え方になる—こういった経験は、多少なりとも、みなさんお持ちではないでしょうか。それと同じように、法社会学というメガネを通して眺めてみれば、日々の現実が、実は、さまざまな仕組みの複雑な関係の上にして多分に「偶発的に」成立していることが見えてきます。本講義を通じて、まずはこの「自明性を相対化する思考」 (= 別様でもありえた / ありえる視点) を実感していただければと思います。

でもそれは、社会の裏側を知るためでも黒幕 (!) の存在を暴くためでもありません。ましてや、他人を批判・非難して自己満足するためのものでもありません。わたしたちの社会のなかで生じる現象は、どんな些細なことであれ、決して一枚岩ではないことを知ること、そして現実への単純な意味づけを求めてしまいがちな自分自身の感性をリフレクシヴに高めていくこと、さらにそうした現実に応答しうるための柔軟な思考を磨くこと、これらをみなさんが日々主体的に実践していくことをいくらかでもお手伝いできれば、本講義の目的の大半は達成されたこととなります。

もし私たちの社会が単純明快に見えるとすれば (ちなみに「実は裏で○×が糸を引いている！」類の陰謀観もまた、ある意味究極の明快さ = 単純さを持ってますよね)、それを自明視させている「仕掛け」こそが問われるべきでしょうし、ひょっとしてそれは観察者自身のメガネが曇っているからなのかもしれません。

目先の効用・有効性とは距離をとった地点から、法的・社会的現象を理論的に思考する。「何でそんなことを考える必要があるのか」「決まりきっているのではないか」という地点を「あえて」踏み越え / 追い込み考えてみる。そんな知的 / 時間的余裕をもてるからこそ「大学生の特権」だとすれば、本講義はまさにその「特権」を最大限に行使してゆく、ということになるのでしょうか。このように、講義のねらいはいささか抽象的です。少なくとも、定型の正しい情報の教授 / 暗記をすればよしとする向きにはまったく！期待に沿えないと思います。ポイントは、講義を聴き終えた時に「多様で柔軟な思考」のノリや勘どころをどのくらい「実感」できるか—ですが最終的には、それはみなさん方一人ひとりの日常「実践」にかかっています。

受講生には、こうした法社会学的思考の多元性やその意義を理解してもらい、それを以って法解釈学的な知見を豊饒化してもらおうとともに、日々の生活の中での問題発見・問題構築の力を養っていくことを望んでいます。

さしあたり、「役に立つ / 立たない」、「よい / わるい」、「自明 (フツー) / ヘン」といった背髄反射的に立ち現れる枠組みを横に置いて、社会の規範現象を分析できるようになることをねらいとします。以下に到達目標も示しておきます。

(到達目標)

【知識】法社会学に関する基礎的な知見を身につけている

【技能】法社会学的な分析に求められる基本的な情報を収集・整理することができる

【思考・判断・表現力】法社会学の基礎的知見を通じて課題を発見し、解決策や代替案を表現できる

教科書 /Textbooks

使用しません。テーマごとにレジユメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

林田幸広 / 土屋明広 / 小佐井良太 / 宇都義和編、『作動する法 / 社会』、ナカニシヤ出版、2021年。
そのほかは講義中に指示します。

法社会学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(講義の進め方等についての説明)
- 2回 法社会学的観察とは何か(1)【法システムの「内部」と「外部」】という視点
- 3回 法社会学的観察とは何か(2)【法社会学的アプローチの多元性】
- 4回 法社会学的観察とは何か(3)【法社会学の学問的出自と歴史的系譜】
- 5回 社会秩序の根拠は何か(1)法学における【秩序問題】
- 6回 社会秩序の根拠は何か(2)社会学における【秩序問題】
- 7回 現代社会における法の機能(1)【法機能】の多元化
- 8回 現代社会における法の機能(2)【現代法化論】の両義性
- 9回 フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽(1)【フリーライダー問題】の「かたち」
- 10回 フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽(2)【「正解」の出ない社会問題】への対処例と悩みどころ
- 11回 フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽(3)【ゲーム理論】を援用した対処とその問題
- 12回 現代法化社会を考える(1)法と【権力】
- 13回 現代法化社会を考える(2)法と【リスク】
- 14回 現代法化社会を考える(3)法と【主体】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業で扱ったテーマに関連した課題への取り組み…30%
 - ・ 全編論述式の定期試験…70%
- (より詳しくは初回講義時に説明しますので必ず出席してください)
※定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：プリントが事前に配布される際には、それに目を通し、自分なりに概要や流れを掴んでおくこと。意味の分からない語句については自分なりに調べたうえで授業に臨むこと。
事後学習：授業終了後には、配布されたレスポンスペーパーに、その回のコメントや感想などを書いてください。その際、なぜそう考えるのかの理由と、考えに伴って新たに生まれてくる(ハズの)問いを自分なりの言葉で説明するように心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

抽象的・論理的思考を厭わないでください。いっけん「あたりまえなこと」を前に、それが「なぜ/いかにして」あたりまえになっているのかを、折に触れて考えるようにしてください。
初回の講義において、講義の運営方法や評価方法、そして法社会学という学問分野の「ノリ」の一端を紹介しますので、必ず出席の上お聞き逃しの無いように願います。そのうえで、あなた自身が本講義にどのように取り組んでいくのかにつき、自己決定してください(この場合の自己決定には自己責任が伴います)。なお、補助資料(プリント)を配布することがありますが、再配布(増刷)はいたしませんので、その都度の配布時に受けとるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、法学の隣接科目に興味があり抽象思考を厭わない方々を歓迎します。逆に、(授業)理解と(情報)暗記を同一視される向きには全くそくいません(蛇足ながら、この点前もって強くお伝えしておきます)。(唯一の)正解にたどり着かないと不安な方は、不安になるばかりだと思えます。そんな授業です。

キーワード /Keywords

法思想史【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW210M	○	○	◎		
科目名	法思想史		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本講義では、古代から中世、近代を経て現代に至る西洋法思想の伝統をたどることにより、法と正義をめぐる基礎的な視座を探究する。具体的には、「自然法論と法実証主義」という伝統的な法思想上の思考枠組や現代正義論との関連などを意識しながら、各時代の代表的な法思想家の説をとりあげ検討することによって、その探究のための手掛かりを得ることとする。各時代の代表的な法思想との対比によって、現代に生きるわれわれが有している法的思考様式の特徴を捉えたいうえでそれを相対化することもまた、可能となるであろう。

(到達目標)

【知識】法思想史に関する知識を体系的に身につけている。

【技能】法思想史の理解に必要な情報を収集・分析・整理することができる。

【思考・判断・表現力】法思想史の理解を通じて課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際には、適宜レジュメや資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

下記の参考書のうち、酒匂一郎『法哲学講義』（成文堂、2019年）については、講義の中で適宜言及したいと考えている。入手可能であれば、参考書として理解に役立つと思われる。

酒匂一郎『法哲学講義』（成文堂、2019年）

○深田三徳、濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想 第2版』（ミネルヴァ書房、2015年）

○田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史[第2版]』（有斐閣、1997年）

○三島淑臣『法思想史[新版]』（青林書院、1993年）

長谷部恭男『法とは何か 法思想史入門』（河出ブックス、2015年）

瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

○竹下賢・角田猛之・市原靖久・桜井徹編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）

○中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店、2000年）

○F・ハフト『正義の女神の秤から』（木鐸社、1995年）

法思想史【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 法思想史とは
- 第2回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想史① ~ J・ロックの自然権論
- 第3回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想史② ~ 近代的自然法論
- 第4回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想史③ ~ 古典的自然法論(トマス・アキナスなど)
- 第5回 法思想史とは(中間考察) ~ 「法典論争」(サヴィニーなど)
- 第6回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想史④ ~ ケルゼンの純粋法学
- 第7回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想史⑤ ~ ハートの法の概念: J・オースティンとハート
- 第8回 「法と正義」をめぐる法思想史① ~ J・ロールズの功利主義批判: ペンサムやミルとの関連から
- 第9回 「法と正義」をめぐる法思想史② ~ J・ロールズの正義論
- 第10回 「法と正義」をめぐる法思想史③ ~ R・ノージックのリバタリアニズム: J・ロールズとの関連から
- 第11回 「法と正義」をめぐる法思想史④ ~ R・ノージックのリバタリアニズム: J・ロックとの関連から
- 第12回 「法と正義」をめぐる法思想史⑤ ~ R・ドゥオーキンの権利論
- 第13回 「法と正義」をめぐる法思想史⑥ ~ R・ドゥオーキン(裁判と法解釈)
- 第14回 「法と正義」をめぐる法思想史⑦ ~ 共同体主義: アリストテレスとの関連から
- 第15回 法思想史のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前には、テキストの巻末の索引を利用しながら該当箇所を読み、予習すること。講義後には、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

「現代正義論」を1年次に受講していれば、より理解しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの「10.人や国の不平等をなくそう、16.平和と公正をすべての人に」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

自然法論 法実証主義 正義論 権利論

日本国憲法原論【昼】

担当者名 山本 健人 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW120M	○	○	◎		
科目名	日本国憲法原論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義では、憲法学及び日本国憲法の基礎的知識を学ぶことで、その全体像を把握することを目的とします。
とりわけ、今後憲法学を深めていく上で、躓きやすいポイントや最重要と思われる点に絞って講義します。

(到達目標)

【知識】憲法学および近代立憲主義に関する基礎的知識を身につける。

【技能】憲法学および近代立憲主義を歴史的または社会的問題と結びつける基礎的な技法を身につける。

【思考・判断・表現力】憲法学および近代立憲主義に関する課題を発見し、法的または政治学的思考に基づいた判断を行うことができるようになる。

教科書 /Textbooks

片桐直人＝井上武史＝大林啓吾『一步先への憲法入門』（有斐閣、2021年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法〔第7版〕』（岩波書店、2019年）
- 新井誠＝曾我部真裕＝佐々木くみ＝横大道聡『憲法I・II〔第2版〕』（日本評論社、2021年）
- 上田健介＝尾形健＝片桐直人『憲法判例50！〔第2版〕』（有斐閣、2020年）
- 長谷部恭男ほか『憲法判例百選I・II〔第7版〕』（有斐閣、2019年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス・憲法とは何か①—憲法の基礎
- 第2回 憲法とは何か②—近代立憲主義・日本国憲法の基本原理
- 第3回 日本国憲法史・天皇制
- 第4回 平和主義
- 第5回 統治機構①—国会 / 立法権
- 第6回 統治機構②—内閣 / 行政権
- 第7回 統治機構③—裁判所 / 司法権
- 第8回 統治機構④—地方自治制度
- 第9回 人権総論①—人権の理念と憲法上の権利
- 第10回 人権総論②—憲法上の権利の射程
- 第11回 人権総論③—憲法上の権利の限界と違憲審査の方法
- 第12回 人権各論①—国家からの自由
- 第13回 人権各論②—国家による自由・国家への自由
- 第14回 人権各論③—包括的基本権
- 第15回 憲法の改正

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70% + 小テスト30%
期末試験を受験しなかった場合は評価不能(－)とします

日本国憲法原論【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画や講義の進行を参考に、指定教科書の次回講義該当部分を予め読んでおくこと。
また、各回の内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの5「ジェンダー平等を実現しよう」、10「人や国の不平等をなくそう」、16「平和と公平をすべての人に」という目標に関連しています。

キーワード /Keywords

憲法総論、基本的人権、統治機構

憲法人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 中村 英樹 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW220M	◎	○	○		
科目名	憲法人権論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

- 〈到達目標〉
- 【知識】 憲法学の人権論に関する知識を体系的に身につけている
 - 【技能】 憲法学の人権論に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
 - 【思考・判断・表現力】 憲法学の人権論に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

憲法学の中の、人権論といわれる分野を学ぶ。

本科目ではまず、憲法（特に立憲主義憲法）でさまざまな「人権」が保障されている理由を、人権という概念をめぐる思想史、憲法史、権利の体系論などの総論的内容を通じて学ぶ。次に、「自由権」「社会権」など類型化された憲法上の権利の検討へと進む。その際には、「なぜ表現の自由は特に手厚い保障が必要とされるのか」「なぜ現代国家は社会権の保障を必要とするのか」といった原理的考察を重視する（判例の詳細な検討は「憲法訴訟論」に譲る）。

以上の内容を学ぶことで、人権が「憲法上の権利」として保障されていることの意義、具体的適用のあり方、社会における問題状況等への理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

斎藤一久・堀口悟郎 編『図録 日本国憲法 第2版』（弘文堂、2021年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 新井誠ほか『憲法II 人権 第2版』（日本評論社、2021年）
- 芦部信喜『憲法 第7版』（岩波書店、2019年）
- 長谷部恭男『憲法 第7版』（新世社、2018年）
- 安藤高行ほか『新・エッセンス憲法』（法律文化社、2017年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人権とは何か①-近代国家と人権
- 第2回 人権とは何か②-人権思想の歴史
- 第3回 人権（憲法上の権利）の類型
- 第4回 権利の制約原理：公共の福祉
- 第5回 包括的基本権（幸福追求権）
- 第6回 平等権①-憲法の求める平等
- 第7回 平等権②-具体的事例
- 第8回 思想・良心の自由
- 第9回 信教の自由
- 第10回 表現の自由①-優越的地位
- 第11回 表現の自由②-さまざまな制限と違憲審査
- 第12回 経済的自由
- 第13回 社会権
- 第14回 参政権
- 第15回 国家賠償請求権と損失補償請求権

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる定期試験による（100％）。

定期試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とする。

憲法人権論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画やレジメを参考に、指定教科書や参考図書の次回講義該当部分をあらかじめ読んでおくこと。
授業で使ったパワーポイントは動画にして一定期間公開する予定なので、事後学習に活用すること。

履修上の注意 /Remarks

「日本国憲法原論」をあらかじめ履修しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基本的人権 憲法上の権利

この授業は、SDGsの5「ジェンダー平等を実現しよう」、10「人や国の不平等をなくそう」、16「平和と公平をすべての人に」という目標に関連しています。

憲法機構論 【昼】

担当者名 /Instructor 中村 英樹 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW221M	◎	○	○		
科目名	憲法機構論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

〈到達目標〉

【知識】 憲法学の統治機構論に関する知識を体系的に身につけている

【技能】 憲法学の統治機構論に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】 憲法学の統治機構論に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

日本国憲法が定めている国家の統治権行使の仕組み、すなわち統治機構について概説する。

本科目ではまず、国民主権、民主主義（民主制）、権力分立といった統治機構の基本原則を整理して理解する。その上で、立法権を担当する国会、行政権を担う内閣、司法権を担う裁判所を中心に、憲法およびその具体化法（憲法附属法）が国家の統治の仕組みをどのように定めているか、その下でどのような運用が行われているかを具体的に学ぶ。

以上の内容を学ぶことで、統治機構の全体構造や各国家機関の相互関係を理解することを目指す。

また、現実の政治過程などへの関心も喚起するような内容としたい。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業科目です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴することが求められます。

あらかじめMoodleからレジュメをダウンロードした上で、各回の音声入りパワーポイント動画を視聴してください。

教科書 /Textbooks

斎藤一久・堀口悟郎 編『図録 日本国憲法 第2版』（弘文堂、2021年）

※ただし、同書の初版である『図録 日本国憲法』（弘文堂、2018年）をすでに持っている方は、そちらを使っても結構です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○新井誠ほか『憲法I 総論・統治 第2版』（日本評論社、2021年）

○芦部信喜『憲法 第7版』（岩波書店、2019年）

○安藤高行ほか『新・エッセンス憲法』（法律文化社、2017年）

○安念潤司 編著『論点日本国憲法 第2版』（東京法令出版、2014年）

憲法機構論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 総論 -全体の導入
- 第2回 国民主権と民主主義
- 第3回 象徴天皇制
- 第4回 内閣(国の行政組織)① -内閣と行政権
- 第5回 内閣(国の行政組織)② -議院内閣制
- 第6回 内閣(国の行政組織)③ -内閣と行政各部
- 第7回 内閣(国の行政組織)④ -内閣の運営と責任
- 第8回 国会① -国会の地位
- 第9回 国会② -衆議院と参議院
- 第10回 国会③ -国会の活動
- 第11回 国会④ -国会議員
- 第12回 国会⑤ -政党と会派
- 第13回 裁判所① -司法権と裁判所
- 第14回 裁判所② -違憲審査制
- 第15回 地方自治

成績評価の方法 /Assessment Method

中間課題×2回(30%) + 期末試験または期末レポート(70%)による。
対面試験が可能な場合は期末試験を実施し、対面試験が不可能な場合は期末レポートを課します。

中間課題を一度も提出しなかった場合は、評価不能(一)とします。
中間課題を提出していても、定期試験を受験しなかった、または期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画やレジユメを参考に、指定教科書や参考図書の次回講義該当部分をあらかじめ読んでおくこと。
また、国会や内閣等の動向、注目の裁判などの報道に関心を持ち、講義内容と関連づけて考察すること。

履修上の注意 /Remarks

「日本国憲法原論」を受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国民主権 民主主義 権力分立 国会 内閣 裁判所 地方自治

この授業は、SDGsの5「ジェンダー平等を実現しよう」、10「人や国の不平等をなくそう」、16「平和と公平をすべての人に」という目標に関連しています。

憲法訴訟論 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 健人 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW320M	◎	○	○		
科目名	憲法訴訟論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、憲法学のうち憲法訴訟論と呼ばれる領域について、最高裁判所による日本国憲法に関する問題の判断方法及びそれに対する学説による整理を学習することを目的とする。

(到達目標)

【知識】 憲法訴訟または憲法判例に関する実践的知識を身につけている。

【技能】 憲法訴訟または憲法判例において法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

【思考・判断・表現力】 憲法訴訟または憲法判例における課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

小山剛『憲法上の権利の作法〔第3版〕』（尚学社、2016年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 木下昌彦責任編集『精読憲法判例〔人権編〕』（弘文堂、2018年）
- 木下昌彦責任編集『精読憲法判例〔統治編〕』（弘文堂、2021年）
- 横大道聡編『憲法判例の射程〔第2版〕』（弘文堂、2020年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：憲法問題の考え方
- 第2回 裁判所と司法権
- 第3回 違憲審査制度・憲法判断の方法
- 第4回 消極的権利①：基本判例（薬事法事件と泉佐野市民会館使用不許可事件）の読解
- 第5回 消極的権利②：保護領域と制限
- 第6回 消極的権利③：制限の正当化
- 第7回 積極的権利①：基本判例（堀木事件ほか）の読解
- 第8回 積極的権利②：裁量縮減・裁量統制
- 第9回 包括的基本権
- 第10回 平等権
- 第11回 選挙権・選挙制度
- 第12回 政教分離
- 第13回 司法権の限界
- 第14回 司法的救済の諸問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題30% + 期末試験70%
期末試験を受験しなかった場合は評価不能（－）とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の該当頁及び関連判例を予め読んでおくこと

履修上の注意 /Remarks

憲法訴訟論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの5「ジェンダー平等を実現しよう」、10「人や国の不平等をなくそう」、16「平和と公平をすべての人に」という目標に関連しています。

キーワード /Keywords

憲法訴訟、違憲審査

行政法総論【昼】

担当者名 /Instructor 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW222M	◎	○	○		
科目名	行政法総論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

行政法とは、主として、国や地方公共団体の活動をコントロールするさまざまな法の総称です。本講義では、行政法の基礎理論、行政の行為形式、行政手続や情報公開といった諸制度について概説します。そのうえで受講者が、行政法の基本的知識を修得することを目的とします。

(到達目標)

【知識】行政法学の作用法および組織法に関する知識を体系的に身につけている。

【技能】行政法学の作用法および組織法に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

【思考・判断・表現力】行政法学の作用法および組織法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の講義で指示します。

行政法総論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、行政法とは
- 第2回 行政法の基本原則(1)【法律による行政の原理】
- 第3回 行政法の基本原則(2)【行政法の一般原則】
- 第4回 行政組織(1)【行政組織の概念】
- 第5回 行政組織(2)【国、地方の行政組織】
- 第6回 行政立法(1)【法規命令】
- 第7回 行政立法(2)【行政規則】
- 第8回 行政行為(1)【行政行為の概念、類型】
- 第9回 行政行為(2)【行政行為の効力】
- 第10回 行政行為(3)【行政行為の瑕疵】
- 第11回 行政行為(4)【職権取消しと撤回】
- 第12回 行政行為(5)【行政行為の附款】
- 第13回 行政裁量(1)【行政裁量の概念】
- 第14回 行政裁量(2)【裁量の存否】
- 第15回 行政裁量(3)【裁量審査】
- 第16回 中間レポート
- 第17回 行政契約
- 第18回 行政指導
- 第19回 行政計画
- 第20回 行政の実効性確保手段(1)【行政上の強制執行】
- 第21回 行政の実効性確保手段(2)【行政罰】、即時強制
- 第22回 行政調査
- 第23回 行政手続(1)【行政手続の意義】
- 第24回 行政手続(2)【申請処分手続と不利益処分手続】
- 第25回 行政手続(3)【手続の瑕疵の効果】
- 第26回 行政情報(1)【情報公開制度】
- 第27回 行政情報(2)【情報公開争訟】
- 第28回 行政情報(3)【公文書管理制度、個人情報保護制度】
- 第29回 公法と私法
- 第30回 期末レポート

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート80%、中間レポート20%
※期末レポートおよび中間レポートを提出しなかった場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義後に、授業内容を復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの目標3,10,11,16に関連しています。

キーワード /Keywords

行政争訟法 【昼】

担当者名 /Instructor 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW223M	◎	○	○		
科目名	行政争訟法			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

行政法総論において勉強した「法律による行政の原理」などの、国民の権利を守るための原理は、行政救済法と呼ばれる領域によってその実効性を確保されます。

行政争訟法では、違法行為の是正を行政自身に求める行政上の不服申立てと、裁判所に求める行政訴訟につき概説し、多くの裁判例を通じて、どのようにして私人が違法な行政活動から救済されるかについて理解してもらいます。

(到達目標)

【1 知識】

行政法学の救済法のうち行政争訟に関する知識を体系的に身につけている。

【2 技能】

行政法学の救済法のうち行政争訟に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

【3 思考・判断・表現力】

行政法学の救済法のうち行政争訟に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

村上裕章『スタンダード行政法』（有斐閣、2021）2,970円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※いずれも授業開始までに新版が出ていればそちらを用いること。

予習復習用に

中原茂樹『基本行政法[第三版]』（日本評論社、2018）3,740円

板垣勝彦『公務員を目指す人に贈る行政法教科書』（法律文化社、2019）2,750円

判例集として

宇賀克也ほか『行政判例百選II [7版]』（有斐閣、2017）2,530円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスー行政法総論と行政争訟
- 第2回 行政上の不服申立て
- 第3回 処分性(1)——処分性の概念
- 第4回 処分性(2)——近時の判例における処分性
- 第5回 原告適格(1)——原告適格の判断基準
- 第6回 原告適格(2)——近時の判例
- 第7回 訴えの利益
- 第8回 その他の訴訟要件、取消訴訟の審理
- 第9回 取消訴訟の判決 小テスト(予定)
- 第10回 執行停止制度
- 第11回 無効等確認訴訟、不作為の違法確認訴訟
- 第12回 義務付け訴訟
- 第13回 差止訴訟
- 第14回 当事者訴訟
- 第15回 まとめ

行政争訟法 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト20%、期末試験80%
期末試験を受験しなかった場合、成績評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において行政訴訟の判例を学ぶが、当該事件において問題となった条文を事前に読み込むことなく授業を理解するのは不可能に近い。事前にレジュメのアップロードを行うので、ぜひ条文を参照したうえで各判例を検討しておいてほしい。

履修上の注意 /Remarks

行政法総論を履修していることを前提とする。
また民事訴訟法の科目を履修していることは、本科目の理解において助けになる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

判例をかなりの数扱うことになるため、予習を必ず行うこと。

※この授業はSDGs目標10,11に関連しています。

キーワード /Keywords

処分性、原告適格、訴えの利益 当事者訴訟、実効的権利救済

国家補償法【昼】

担当者名 鈴木 崇弘 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW224M	◎	○	○		
科目名	国家補償法				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

行政の諸活動により私人に被害が生じた場合に金銭等の給付により救済する制度を国家補償という。この国家補償は、原因となる行政の諸活動が違法か適法かにより国家賠償と損失補償に分かれる。この国家賠償と損失補償につき、本講義で解説をする。この解説をもとに、受講者が、国家補償の構造につき理解することを目的とする

(到達目標)

【知識】国家補償に関する知識を体系的に取得する。

【技能】行政法令を解釈・適用する能力を取得する。

【思考・判断・表現力】国家補償における論点につき法的思考に基づき分析する能力を取得する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない(講義のベースは、高木光『行政法』(有斐閣、2015年)である)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

大橋洋一『行政法II〔第4版〕』(有斐閣、2021年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 行政救済法、国家補償法とは
- 第02回 国家賠償法1条の基本構造
- 第03回 広義説
- 第04回 不法行為法と国家賠償法
- 第05回 公権力発動要件欠如説、職務行為基準説
- 第06回 不作為
- 第07回 立法及び司法活動の違法
- 第08回 営造物責任
- 第09回 営造物責任
- 第10回 費用負担者、民法との関係
- 第11回 損失補償
- 第12回 損失補償
- 第13回 損失補償
- 第14回 国家補償の谷間
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%

試験では、①法令の正確な解釈並びに行政法理論及び裁判例の分析、②問題になりうる事象に対して救済が与えられ得るか、を問う。

期末試験を受験しなかった場合は評価不能(－)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の該当箇所の読み込みと授業後の復習。各回4時間相当

履修上の注意 /Remarks

憲法、行政法総論を履修していることが望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDG s の目標3,10,11,16に関連する。

キーワード /Keywords

刑法総論【昼】

担当者名 /Instructor 富川 雅満 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW230M	◎	○	○		
科目名	刑法総論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

刑法は、犯罪と刑罰に関する学問領域である。その中でも、刑法総論は、各犯罪に共通する論点を扱う領域で、個別の犯罪類型に関する固有の論点を扱う刑法各論とは、網目の縦系と横系のような関係にある。とりわけ、刑法総論は、犯罪の体系に関わる学問領域であるから、刑法総論を通して学修することで、刑法の全体像を把握することになる。

(到達目標)

【知識】刑法総論に関する基本的な知識を体系的に習得している。

【技能】刑法各論に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を習得している。

【思考・判断・表現力】刑法総論に関する法的問題を発見し、その問題に対する判断を表現する基本的な能力を習得している。

教科書 /Textbooks

教科書は、各自、自分にとって理解しやすいもの、使いやすいものを選ぶと良い。

参考として、以下の2冊を推奨するほか、その他の教科書についても初回授業で紹介を行う予定である。

大塚裕史＝十河太郎＝塩谷毅＝豊田兼彦『基本刑法I総論〔第3版〕』（日本評論社、2019年）

只木誠『コンパクト刑法総論』（新世社、2018年）

後者の方が初学者向けであり、講義予習に一読するには適しているが、講義後の復習や発展的な問題について学ぶには少し物足りない。

なお、レジュメはMoodleを通じて配布する予定である。各自DLした上で、受講してほしい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

判例学習用参考書

○十河太郎＝豊田兼彦＝松尾誠紀＝森永真綱『刑法総論判例50!』（有斐閣、2016年）

○佐伯仁志＝橋爪隆『刑法判例百選I 総論〔第8版〕』（有斐閣、2020年）

前者が初学者向けであり、極めて平易である。後者の難易度は高いが、発展的な問題に触れるには適している。

そのほかの判例学習用参考書、事例検討学習用参考書については、講義初回で紹介する。

刑法総論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 刑法の基本体系
- 第2回 因果関係の基礎
- 第3回 不作為犯の基礎
- 第4回 故意、錯誤の基礎(1)：故意論、具体的事実の錯誤
- 第5回 故意、錯誤の基礎(2)：抽象的事実の錯誤、その他の錯誤
- 第6回 過失の基礎
- 第7回 違法論・違法性阻却事由の概要
- 第8回 正当防衛の基礎
- 第9回 緊急避難の基礎
- 第10回 未遂犯の基礎(1)：実行の着手論
- 第11回 未遂犯の基礎(2)：不能犯論、中止犯論
- 第12回 共犯の基礎(1)：共犯の概要、間接正犯
- 第13回 共犯の基礎(2)：共同正犯
- 第14回 共犯の基礎(3)：狭義の共犯
- 第15回 責任能力の理論と実情
- 第16回 ケーススタディ「刑法総論の基礎篇」
- 第17回 因果関係の発展問題
- 第18回 故意の発展問題
- 第19回 錯誤の発展問題
- 第20回 過失の発展問題
- 第21回 正当防衛の発展問題
- 第22回 責任論の発展問題
- 第23回 実行の着手論の発展問題
- 第24回 中止犯論の発展問題
- 第25回 共犯の発展問題(1)
- 第26回 共犯の発展問題(2)
- 第27回 共犯の発展問題(3)
- 第28回 罪数論
- 第29回 刑罰論
- 第30回 罪刑法定主義

ただし、履修者の理解度等の理由により、講義の順番を変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(100%)
定期試験を受験しなかった場合は評価不能(一)とする。
なお、新型コロナウイルスの感染状況に応じて、定期試験をレポート等に代替することがある。
詳細は、初回講義にて説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・事前学習
内容：講義で扱うテーマについて、教科書等を一読。
目的意識：テーマの概要を把握。理解できない点を事前に把握。
- ・事後学習
内容：講義中に取ったノートをまとめ直すほか、内容について教科書等と照らし合わせる。
目的意識：知識の定着化。理解できている点と理解できていない点の整理。
予習・講義・復習を通じて、理解できなかった点については、担当教員に相談してもらえれば、さらなる理解へのアドバイスを行う。

履修上の注意 /Remarks

講義形式で行うが、担当教員が提示した質問に対して、受講者に回答してもらうことがよくある。
講義では条文を参照することが多いため、六法を持っていくなど、条文をその場で確認できるようにしておくこと。その他の資料については、レジュメを配布する予定であるが、レジュメを事後的に読むだけでは、講義内容を十分に理解することは難しい。受講者自身が効果的に復習するためにも、受講者は担当教員による解説をノートにまとめていくことが必要である。したがって、ノートテイキングができる準備をして、受講することが求められる。なお、やむを得ない事情によりノートテイキングに困難がある者については、担当教員に個別に相談してもらえれば、対応の方法を協議する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

刑法総論は抽象的な議論が多いことに加え、各テーマの関連性が強いので、理解に難しいところがある。まずは、刑法総論の全体像を把握しておくことが良いであろう(講義も、同一テーマを基礎編と応用編に分けて、全体像の把握ができるように計画している)。わからないポイントも、そのほかのテーマを学修することでわかることがある。まずは、刑法の全体像を把握するように努めてほしい。
質問については随時受け付けている。遠慮なく、担当教員を学修に「使って」ほしい。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 刑法総論

社会法総論 【昼】

担当者名 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW140M	○	◎	○		
科目名	社会法総論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

社会法は、私たちの日々の生活や職業活動を支える重要な法領域です。社会法として捉えられるのは、主として労働法と社会保障法であり、本講義では、これら2領域の基本的な問題について学びます。
講義では、具体的事例を挙げながら、労働者が労働する過程で起こる諸問題（労働法領域）や、私たちが生活する上で生じる諸問題（社会保障法領域）に、法がどのように関わるのかについて、理解を深めます。
(到達目標)
【知識】社会法の意義を理解し、労働法及び社会保障法に関する基礎的知識を身につけている
【技能】社会法（特に労働法及び社会保障法）を学ぶための基礎的スキルを身につけている
【思考・判断・表現力】社会法学（特に労働法及び社会保障法）に関する基礎的な課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

特に指定しません。適宜、レジュメ・資料等を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

予定は以下の通りですが、順序等につき変更の可能性もあります。

- 第1回 イントロダクション～社会法とは？
- 第2回 労働法上の当事者
- 第3回 労働契約の締結過程と成立
- 第4回 労働条件決定システム
- 第5回 賃金に関する規制
- 第6回 労働時間に関する規制
- 第7回 年次有給休暇・休業に関する規制
- 第8回 労働契約の終了
- 第9回 労災保険①【労災補償制度の意義・沿革、労災保険の仕組み】
- 第10回 労災保険②【業務災害】
- 第11回 労災保険③【通勤災害、保険給付の内容】
- 第12回 労災民訴
- 第13回 雇用保険①【雇用保険制度の意義・沿革、適用関係、求職者給付】
- 第14回 雇用保険②【その他の給付、雇用保険二事業、求職者支援】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート・100%
期末レポートを提出しなかった場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：配布資料に目を通すこと。
事後学習：文献等を読み、授業で扱った内容を理解すること。学習した内容をまとめ、知識を定着させること。

履修上の注意 /Remarks

社会法総論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの「1. 貧困をなくそう」「3. すべての人に健康と福祉を」「5. ジェンダー平等を実現しよう」「8. 働きがいも経済成長も」「10. 人や国の不平等をなくそう」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

社会サービス法【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW242M	○	◎	○		
科目名	社会サービス法			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「社会サービス法」という枠組みとして、主に、医療、社会福祉サービスに関する基本的な構造を理解し、そこで露呈する理論的な諸問題について「法的」視点からの概観・検討を行う。

近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「社会サービス法」領域においても、次世代育成戦略に伴う子ども子育て支援関連法や障害者総合支援法の制定、障害者分野と介護保険との統合問題、福祉領域における契約制度導入による危険負担の変化など、制度の根本的改革が行われたことによる問題も多く出現してきており、また、医療保障をめぐっても増大する国民医療費の負担に各制度がどのように対応すべきであるのかなど積み残された課題も多い。

本講義では、まず第一に、各制度を概観し仕組みを理解することが必要であるが、制度自体を知ることが目的ではなく、その知識を前提に具体的な法的紛争が生じた場合に「法」はどのように対処することになるのかを知ることに主眼がある。

(到達目標)

【知識】 社会サービス法領域に関する知識を体系的に身につけている

【技能】 社会サービス法領域における課題の解決に必要な法令を解釈・適用するための基礎的技能を身につけている

【思考・判断・表現力】 社会サービス法領域における課題に対し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず配布レジюмеで進行予定。レジюмеは、Moodleで事前配布する。

ただし、本講義において用いる諸法律の条文を用意する必要がある。かなり多くの法律が必要となるため、社会保障関連法が掲載されている六法を使用することを推奨する(当該六法等必要な情報は、初回講義時に指示するので必ず出席すること)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しないが、必要に応じて講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義の進行計画としては、おおよそ以下のように予定しているが、受講者の理解・反応等を見ながら進度を調整することもある。

- 第1回 インTRODクション～「社会サービス法」とは？
- 第2回 医療保険の保険関係(保険者・被保険者)
- 第3回 保険医療の仕組み①～保険医療機関と保険医
- 第4回 保険医療の仕組み②～保険医療関係における問題
- 第5回 医療保険の保険給付
- 第6回 医療保険の財政
- 第7回 高齢者の医療保障
- 第8回 医療供給体制に関する法制
- 第9回 社会福祉の法体系とその展開
- 第10回 社会福祉の給付方式
- 第11回 サービス利用の法律関係
- 第12回 福祉サービスの提供体制
- 第13回 権利擁護システム
- 第14回 不服申立制度
- 第15回 まとめ

社会サービス法【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、期末試験の成績のみで評価する(期末試験...100%)。

* 期末試験未受験者は「Z」評価とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

(事前学習) 配布されたレジюмеに目を通し、疑問点を抽出する。

(事後学習) 学習した内容を振り返り、知識を定着させる。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 「社会保障法」としての一体的な理解をするためには、「所得保障法」との同時受講が望ましい。
- ・ 応用科目としての性格が非常に強いので、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目(憲法・民法・行政法領域)を履修していることが望ましい。特に他学部・他学科生にとってはより高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。そのため、これら基礎科目の履修を終えた3年次以降に履修するとより理解しやすくなる。
- ・ 授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義は、SDGs 1(貧困をなくそう)、3(すべての人に健康と福祉を)、10(人や国の不平等をなくそう)及び16(平和と公平をすべての人に)の目標と関連しています。

キーワード /Keywords

所得保障法 【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW243M	○	◎	○		
科目名	所得保障法			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「所得保障法」という枠組みとして、年金、公的扶助（生活保護）等についての基本的な構造理解、「法的」諸問題の概観・検討を行う。

近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「所得保障法」領域においても、年金制度の統合問題や財政負担問題等についての検討も行なわれているし、ニュースでも話題になった生活保護の不正受給や保護基準の問題なども議論となっている。

本講義では、単なる制度の概観だけにとどまらず、「法的」角度からの社会保障への理解を深める。

(到達目標)

【知識】 所得保障法領域に関する知識を体系的に身につけている

【技能】 所得保障法領域における課題の解決に必要な法令を解釈・適用するための基礎的技能を身につけている

【思考・判断・表現力】 所得保障法領域における課題に対し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず配布レジュメで進行予定。

レジュメはMoodleを利用して事前配布する予定。

ただし、関連する諸法律の条文を用意する必要がある。その際、社会保障関連法が掲載されている六法を使用することを推奨する（当該六法等必要な事項は、初回講義時に指示するので必ず出席すること）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しないが、必要に応じ講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

大まかには以下のような予定で進行するが、受講者の反応や希望等により前後・変更することもある。

- 第1回 インTRODクシヨン～「所得保障法」とは？
- 第2回 公的年金保険の構造
- 第3回 公的年金保険の保険関係
- 第4回 公的年金保険の保険給付①（老齢給付・障害給付）
- 第5回 公的年金保険の保険給付②（遺族給付）
- 第6回 公的年金保険の保険給付③（年金給付の調整・離婚分割）
- 第7回 公的年金保険の財政及び不服申立
- 第8回 公的年金制度と私的年金制度
- 第9回 我が国における公的扶助制度、生活保護制度の基本原則①（生保1・2条）
- 第10回 生活保護制度の基本原則②（生保4条）
- 第11回 生活保護実施に関する4つの原則
- 第12回 保護の種類と方法
- 第13回 保護の実施機関とプロセス
- 第14回 不服申立制度
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として期末試験のみで評価する（期末試験...100％）。

* 期末試験未受験者は「Z」評価とする。

所得保障法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (事前学習) 配布されたレジュメに目を通し、疑問点を抽出する。
- (事後学習) 学習した内容を振り返り、知識を定着させる。

履修上の注意 /Remarks

- ・「社会保障法」としての体系的な理解のためには、「社会サービス法」との同時受講が望ましい。
- ・応用科目としての性格が非常に強いため、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目(憲法・民法・行政法領域)を履修していることが望ましい。特に他学部・他学科生にとってはより高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。そのため、これら基礎科目の履修を終えた3年次以降に履修するとより内容を理解することができると思われる。
- ・授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義は、SDGs 1 (貧困をなくそう)、10 (人や国の不平等をなくそう) 及び16 (平和と公平をすべての人に) の目標と関連しています。

キーワード /Keywords

雇用関係法 【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW240M	○	◎	○		
科目名	雇用関係法		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

労働法は、一般に、個別的労働関係法（雇用関係法）、集团的労働関係法（労使関係法）、労働市場法に分類されます。この授業では、個々の労働者と使用者の関係を規律する法分野である個別的労働関係法を中心に学びます。

本講義の目的は、個別的労働関係法に関する知識の修得、論点について一定の法的判断を行う能力を身につけること、現代的な課題に対する関心を高めることにあります。講義では、労働契約の成立、展開、終了という労働契約の展開過程に沿って重要論点を検討します。

（到達目標）

【知識】雇用関係法領域に関する知識を体系的に身につけている

【技能】雇用関係法領域における課題の解決に必要な法令を解釈・適用するための基礎的技能を身につけている

【思考・判断・表現力】雇用関係法領域における課題に対し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

野田進＝山下昇＝柳澤武編『判例労働法入門（第7版）』（有斐閣・2021年）3,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

予定は以下のとおりですが、順序等につき変更する可能性もあります。

- 第1回 イントロダクション（労働法の役割）
- 第2回 労働法上の当事者
- 第3回 労働契約の成立
- 第4回 労働契約上の権利・義務
- 第5回 就業規則と労働契約
- 第6回 賃金
- 第7回 労働時間、休憩・休日と年次有給休暇
- 第8回 人事異動・配転・出向
- 第9回 労働契約の変更
- 第10回 休業・休職
- 第11回 安全衛生と労災補償
- 第12回 懲戒
- 第13回 労働契約の終了（解雇、退職とその他の法律関係）
- 第14回 非典型雇用（パート、有期、派遣労働）
- 第15回 雇用平等、労働者の自由と人権

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト（2回）・・・100%

小テストを2回とも受けなかった場合、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：次回の授業内容について、教科書の該当箇所を読むこと。

事後学習：判例や文献を読み、授業で扱った内容を理解すること。学習した内容をまとめ、知識を定着させること。

雇用関係法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「社会法総論」を先に受講すれば、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの「1. 貧困をなくそう」「3. すべての人に健康と福祉を」「5. ジェンダー平等を実現しよう」「8. 働きがいも経済成長も」「10. 人や国の不平等をなくそう」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

労使関係法 【昼】

担当者名 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW241M	○	◎	○		
科目名	労使関係法		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

労働法は、一般に、個別的労働関係法（雇用関係法）、集团的労働関係法（労使関係法）、労働市場法に分類されます。この授業では、労働組合と使用者の関係を規律する法分野である集团的労働関係法を中心に学びます。

本講義の目的は、集团的労働関係法に関する知識の修得、論点について一定の法的判断を行う能力を身につけること、現代的な課題に対する関心を高めることにあります。

(到達目標)

【知識】労使関係法領域に関する知識を体系的に身につけている

【技能】労使関係法領域における課題の解決に必要な法令を解釈・適用するための基礎的技能を身につけている

【思考・判断・表現力】労使関係法領域における課題に対し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

野田進＝山下昇＝柳澤武編『判例労働法入門（第7版）』（有斐閣・2021年）3,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

予定は以下のとおりですが、順序等につき変更する可能性もあります。

第1回 イントロダクション

第2回 労組法上の当事者

第3回 労働組合の組織と運営

第4回 団体交渉

第5回 労働協約①【労働協約の成立、労働協約と労働契約】

第6回 労働協約②【労働協約の拡張適用、労働協約の更新と終了】

第7回 団体行動序説

第8回 組合活動

第9回 争議行為①【争議行為の保障、正当性】

第10回 争議行為②【争議行為と賃金、正当性のない争議行為の責任】

第11回 争議行為③【ロックアウト、労働争議の調整】

第12回 不当労働行為①【不当労働行為制度の意義と目的、不利益取扱い、正当な理由のない団交拒否】

第13回 不当労働行為②【支配介入、複数組合並存下の不当労働行為、賃金・昇格差別の立証】

第14回 不当労働行為③【救済】

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(2回)・・・100%

小テストを2回とも受けなかった場合、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：次回の授業内容について、教科書の該当箇所を読むこと。

事後学習：判例や文献を読み、授業で扱った内容を理解すること。学習した内容をまとめ、知識を定着させること。

履修上の注意 /Remarks

前期開講の「雇用関係法」を事前に履修しておくことが望ましいです。

労使関係法 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの「8.働きがいも経済成長も」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

国際法Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW250M	○	◎	○		
科目名	国際法Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
 国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

到達目標は、

【知識】 国際法に関する知識を体系的に身につけている

【技能】 国際法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】 国際法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

となります。

具体的には、

- 国際法とは何を指すのか、慣習国際法の問題も含め、説明できる、
- 国際法がどのように作られるのか、その定立のプロセスを法制度として、説明できる、
- 締結された国際約束が国内社会でどのように取り扱われているのか、また国際約束の目的の実現のために国際社会が国内社会に対してどのように働きかけているのか、説明できる、
- 国際法における任意規範と強行規範の議論を、条約の無効の問題も含め、説明できる、
- 国際法への違反があった場合、どのような責任が発生するのか、紛争を処理するためにどのような国際制度があるのか、力による解決は認められるのか、それらの課題も含め、説明できる、とします。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税

位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年） 1500円+税

Moodleにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

国際法I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り，国内社会における国際法」

- 第2回 条約の締結
- 第3回 条約への留保
- 第4回 条約の効力
- 第5回 条約の国内適用

第II部「特別法と一般法」

- 第6回 条約と第三国
- 第7回 慣習国際法の成立
- 第8回 慣習国際法の法典化
- 第9回 条約の無効

第III部「国際社会における秩序の維持」

- 第10回 国際責任の成立
- 第11回 国際責任の追及と解除
- 第12回 紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止
- 第13回 自衛権
- 第14回 国際司法裁判所(ICJ)

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

予習（事前学習課題）、復習（事後学習課題）および学期末試験で評価します。

予習（事前学習）課題...16.5% 復習（事後学習）課題...21.5% 学期末試験...62.0%

なおボーダーラインにあるときは、その他のアサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

学期末試験を受験しなかった場合には、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習、復習を前提とした講義を展開します。

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。

また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

詳細は、北方ムードルの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。

国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】、【SDGs_Goal 16】

国際法Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW251M	○	◎	○		
科目名	国際法Ⅱ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
 国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

到達目標は、

【知識】国際法に関する知識を体系的に身につけている

【技能】国際法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】国際法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

となります。

具体的には、

- 国家システム(state system)の現状と課題を把握し、説明できる、
- 国際社会における主権国家の機能や役割を正しく理解し、説明できる、
- 国益、共通利益、国際社会の公益について、自らの問題として、積極的に考えることができる、
- 国家の基本的権利や義務の議論を正しく理解し、説明できる、
- 個人が国際法においてどのように取り扱われてきているか、その主体性について説明できる、
- 領域に対する国家の権限を正しく理解し、説明できる、とします。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税

位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年） 1500円+税

学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

国際法II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」

第2回 国家と国家承認

第3回 政府承認

第4回 国家の基本的権利

第5回 国家の基本的義務

第II部「国際法主体としての個人」

第6回 人権の国際的保障：枠組み・基準設定

第7回 人権の国際的保障：監視・技術支援

第8回 国際犯罪

第9回 国際刑事裁判所(ICC)

第III部「陸・海・空と国際法」

第10回 陸と国際法：領土取得の権原

第11回 陸と国際法：領域主権

第12回 海と国際法：海上交通

第13回 海と国際法：海洋資源

第14回 空と国際法

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

予習(事前学習)課題、復習(事後学習)課題、学期末試験で評価します。

予習(事前学習)課題...16.5% 復習(事後学習)課題...21.5% 学期末試験...62.0%

なおボーダーラインにあるときは、その他のアサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

学期末試験を受験しなかった場合には、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習、復習を前提とした講義を展開します。

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。

また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

詳細は北方モジュールの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

キーワード /Keywords

【国家の要件】 【承認】 【国家の基本的権利・義務】 【領域】 【個人】 【管轄権の競合と調整】 【国際法によるコントロール】 【SDGs_Goal16】

民法総則【昼】

担当者名 丸山 愛博 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW161M	◎	○	○		
科目名	民法総則			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

民法は、日常生活の法といわれることがあります。つまり、日常生活に関わる法律であると。もっとも、日常生活と一口に言っても、そこでは様々なことが行われています。ですから、民法は、具体的にどの部分に関わるのかが疑問に感じられるでしょう。この点について、民法は①家族関係、②財産、③契約に関係するとされています。なんだか漠然とした答えですが、民法は広く日常生活に関係しているというイメージを持って頂ければそれで十分です。

このように広い対象を規律する法律が民法ですから、その条文の数はかなり多く(1050条!)、それゆえに5つの大きなまとまり(「編」という)に分けられています。その第一編が「総則」であり、「総則」には、続く第二編「物権」と第三編「債権」とに共通するルールが定められています。この「総則」(1条~169条)がこの講義で扱う範囲となります。

この講義では、民法典の全体像をしっかりと把握した上で、民法総則が扱っているルールを正確に理解し、基本的な法解釈ができるようになることを目的とします。願わくは、解釈の面白さに目覚めて欲しいと思います。

なお、この講義は、原則としてオンライン(動画を各自で視聴する方式)で実施します。各動画に簡単なクイズを付けて、それへの解答を以て出席確認とします。

(到達目標)

【知識】民法学の民法総則に関する知識を体系的に身につけている

【技能】民法学の民法総則に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現】民法学の民法総則に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

佐久間毅ほか『民法I総則(第2版補訂版)』(有斐閣リーガルクエスト、2020年)2600円+税
適宜レジュメも配布します

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library:○)

佐久間毅『民法の基礎1総則(第5版)』(有斐閣、2020年)3100円+税

○潮見佳男=道垣内弘人『民法判例百選①総則・物権(第8版)』(有斐閣、2018年)2200円+税

○大村敦志=道垣内弘人編『解説民法(債権法)改正のポイント』(有斐閣、2017年)3200円+税

○山野目章夫『民法概論1民法総則』(有斐閣、2017年)3200円+税

○山本敬三『民法講義I総則(第3版)』(有斐閣、2011年)4500円+税

民法総則【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回ガイダンス、民法の意義
 第2回民法の基本原則、民法総則とは
 第3回人①（権利能力、意思能力）
 第4回人②（行為能力、未成年者）
 第5回人③（成年後見制度、任意後見）
 第6回人④（住所、不在者、失踪宣告）
 第7回法人①（法人総論）
 第8回法人②（法人の対外関係、権利能力なき社団）
 第9回物
 第10回法律行為①（定義、意義）
 第11回法律行為②（成立、解釈）
 第12回法律行為③（法律行為の有効性判断）
 第13回意思表示①（意思表示の構造、心裡留保）
 第14回意思表示②（通謀虚偽表示）
 第15回意思表示③（錯誤）
 第16回意思表示④（詐欺・強迫による意思表示、消費者契約法）
 第17回代理①（代理総論、成立要件）
 第18回代理②（無権代理）
 第19回代理③（無権代理人の責任、無権代理と相続）
 第20回代理④（代理権授与表示による表見代理）
 第21回代理⑤（権限外行為の表見代理）
 第22回代理⑥（代理権消滅後の表見代理）
 第23回無効・取消し
 第24回条件・期限、期間
 第25回時効①（時効総論、正当化根拠）
 第26回時効②（取得時効）
 第27回時効③（消滅時効）
 第28回時効④（時効の完成猶予・更新）
 第29回時効⑤（時効の援用、時効利益の放棄）
 第30回民法改正について（債権法改正、成人年齢引下げ）

成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポートと期末レポートの2回のレポートで評価します。
 各レポートの配点は50点ずつです。
 2回のレポート提出が必須であり、いずれか一方又は双方のレポートが未提出の場合は、成績評価は「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に教科書の該当頁を一読してから講義に出席してください。
 事後には、論点を中心に、とりわけ、判例の理論構成に注意して講義ノートを作成してください。

履修上の注意 /Remarks

講義を視聴する際には、手元に六法と教科書をご用意ください。
 スライドに条文を載せることは、原則として行いません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

上で述べたように、総則には、物権編と債権編に共通するルールが定められていることから抽象度が高いために、初学者には難しく感じられるかもしれません。具体例を多く取り上げるなどの工夫をして講義を進めますので、辛抱強くコツコツと学習に取り組んでください。

キーワード /Keywords

民法総則、権利の主体、法律行為、意思表示、代理、時効

物権法 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW260M	◎	○	○		
科目名	物権法		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この授業では、民法第2編「物権」（民法175条～398条の22）のうち、「担保物権法」の授業で取り扱う内容を除いた部分について講義を行う。全15回の講義を通して、物権法の基本的事項に関する知識と法解釈の技能を身につけてもらうことが、この授業の目的である。

(到達目標)

【知識】民法学の物権法に関する知識を体系的に身につけている

【技能】民法学の物権法に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】民法学の物権法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

淡路剛久ほか『民法II-物権（第4版補訂）』（有斐閣Sシリーズ，令和元年） 本体1,900円＋税
このほか、Moodle上で適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選 総則・物権（第8版）』（有斐閣，平成30年） 本体2,200円＋税
このほか、必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス，序論(1)【物権の意義と性質】
- 第2回 序論(2)【物権の種類，物権の客体】，物権の優先的効力
- 第3回 物権的請求権，物権の変動
- 第4回 不動産物権変動における公示(1)【公示方法としての登記，「対抗」の意義】
- 第5回 不動産物権変動における公示(2)【登記を必要とする物権変動】
- 第6回 不動産物権変動における公示(3)【第三者の範囲，登記の手続】
- 第7回 動産物権変動における公示
- 第8回 動産物権変動における公示（続き），立木等の物権変動と明認方法，物権の消滅
- 第9回 占有権(1)【意義，占有の成立と態様】
- 第10回 占有権(2)【占有権の取得，占有の効果，占有権の消滅】
- 第11回 所有権(1)【意義，所有権の内容，相隣関係，所有権の取得】
- 第12回 所有権(2)【共有，建物の区分所有】
- 第13回 地上権，永小作権
- 第14回 地役権
- 第15回 入会権，まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...10%，期末レポート...90%
期末レポートを提出しなかった場合は，評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この授業では予習を行う必要はないが，授業終了後は必ず復習を行い，理解を定着させること。

履修上の注意 /Remarks

民法入門・民法総則を受講済みであることが望ましい。
授業中に条文を参照することができるように，受講時には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を手元に用意しておくこと。

物権法 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の授業で分からないことは放置せず、メール等を利用して積極的に質問して欲しい。
また、新型コロナウイルスの接触感染を予防するとともに、SDGsの「つくる責任 つかう責任」「陸の豊かさを守ろう」を達成するための取り組みとして、この授業における資料の配布は極力Moodle上で行う。

キーワード /Keywords

民法 物権

担保物権法 【昼】

担当者名 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW261M	◎	○	○		
科目名	担保物権法			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業では、民法第2編「物権」（民法175条～398条の22）に規定されている担保物権（典型担保）及び民法典に規定がない担保物権（非典型担保）について講義を行う。全15回の講義を通して、担保物権法の基本的事項に関する知識と法解釈の技能を身につけてもらうことが、この授業の目的である。

（到達目標）

【知識】民法学の担保物権法に関する知識を体系的に身につけている

【技能】民法学の担保物権法に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】民法学の担保物権法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

淡路剛久ほか『民法II－物権（第4版補訂）』（有斐閣Sシリーズ，令和元年） 本体1,900円＋税
このほか，Moodle上で適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

近江幸治『民法講義III 担保物権（第2版補訂）』（成文堂，平成19年） 本体3,300円＋税 ○
道垣内弘人『担保物権法 第4版』（有斐閣，平成29年） 本体3,200円＋税 ○
潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選I 総則・物権（第8版）』（有斐閣，平成30年） 本体2,200円＋税
このほか，必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス，担保物権とは何か？
- 第2回 留置権
- 第3回 先取特権
- 第4回 質権
- 第5回 抵当権(1)【抵当権の意義，設定，被担保債権・目的物の範囲】
- 第6回 抵当権(2)【物上代位】
- 第7回 抵当権(3)【抵当権の実行】
- 第8回 抵当権(4)【第三取得者の保護，抵当権の侵害】
- 第9回 抵当権(5)【抵当権の処分，消滅，共同抵当】
- 第10回 抵当権(6)【法定地上権】
- 第11回 抵当権(7)【根抵当権】
- 第12回 非典型担保とは何か？，譲渡担保(1)【譲渡担保の意義】
- 第13回 譲渡担保(2)【譲渡担保権の設定，効力】
- 第14回 譲渡担保(3)【譲渡担保権の実行，消滅】，所有権留保
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...10%，期末レポート...90%
期末レポートを提出しなかった場合は，評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この授業では予習を行う必要はないが，授業終了後は必ず復習を行い，理解を定着させること。

担保物権法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

物権法を受講済みであることが望ましい。
授業中に条文を参照することができるように、受講時には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を手元に用意しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の授業で分からないことは放置せず、メール等を利用して積極的に質問して欲しい。
また、新型コロナウイルスの接触感染を予防するとともに、SDGsの「つくる責任 つかう責任」「陸の豊かさを守ろう」を達成するための取り組みとして、この授業における資料の配布は極力Moodle上で行う。

キーワード /Keywords

民法 担保物権

債権総論【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW262M	◎	○	○		
科目名	債権総論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

私たちの生活においては、常に何らかの債権が発生している（例えば、スーパーで買い物をした場合など）。この講義では、債権について一般的に規定している「債権総論」と呼ばれる部分について講じる。債権総論分野の諸問題について学習することで、法的な分析や論理的思考に基づいて解決方法を提示することができるようにならねばならない。また、債権総論分野の諸問題を学習することで、民法と（現代）社会とのつながりも再確認できるはずである。

21世紀に入って、債権法の改正が民法学専門家の間で話題となっていたところ、2017（平成29）年5月に、ついに改正法が成立し、2020年4月1日より施行されている。これは、120年に一度と言われるほどの大改正である。従って、この新民法（債権法）を学ばないわけにはいかないのであるが、他方で、大改正後の現行民法を知るためには、大改正前の民法及び判例について一定の知識が必要であることも事実である。そこで、大改正前民法にもきちんと触れながら、現行民法について考えてゆきたい。

この授業は、教室での対面方式で実施することが、一応、予定されている。

到達目標

- 【知識】民法学の債権総論に関する知識を体系的に身につけている
- 【技能】民法学の債権総論に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
- 【思考・判断・表現力】民法学の債権総論に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

特定の一書をいわゆる「教科書」として使用することは、ない。従って、特定の書籍の販売は、ない。しかし、学習上、有意義な書籍については、開講時に紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『有斐閣Sシリーズ 民法III 債権総論 第4版』、有斐閣、2018年5月、本体価1,900円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回(週) 1, ガイダンス、民法典債権編の概観、2, 債権とは何か(物権との違い)
- 2回(週) 3, 民法典に「債権総則」は必要か、4, 債権に基づく妨害排除請求の可否、第三者による債権侵害
- 3回(週) 5, 債務と責任、特定物債権、6, 種類債権、利息債権
- 4回(週) 7, 履行の強制、8, 債務不履行(履行遅滞、履行不能)
- 5回(週) 9, 債務不履行(不完全履行)、安全配慮義務は必要か、10, 帰責事由の問題
- 6回(週) 11, 債務不履行の現代的問題(履行拒絶、説明義務違反等)、12, 損害賠償の範囲
- 7回(週) 13, 損害賠償の調整、14, 受領遅滞
- 8回(週) 15, 債権者代位権、16, 債権者代位権の転用
- 9回(週) 17, 詐害行為取消権の法的性質・要件、18, その効果
- 10回(週) 19, 債権の消滅一般、弁済、20, 債権者らしい者に対する弁済
- 11回(週) 21, 相殺の要件、22, 差押えと相殺
- 12回(週) 23, 債権の譲渡性、債権譲渡の対抗要件(対債務者)、24, 債権譲渡の対抗要件(対第三者)
- 13回(週) 25, 異議を留めない承諾、26, 多数当事者の債権関係
- 14回(週) 27, 連帯債務、不真正連帯債務は必要か、28, 保証債務
- 15回(週) 29, 債権法改正のその他の議論、30, まとめ

債権総論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

持ち込み一切不可の定期試験(60分)……100%の予定であるが、新型コロナウイルス問題の終息が見えてこない状況にあるため、現時点で確定的なことは何も言えない。確定次第、Moodle上で、必ず通知するので、それをきちんと見ること。

「-」(パー)については、指定された成績評価方法に参加しなかった場合に、「-」(パー)となる。例えば、レポートが成績評価方法として指定された場合に、そのレポートを指定の方法で提出しなかったときに、「-」(パー)となる。指定の方法で提出したが、その内容が不合格と判定される場合に、「D」となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、講じる箇所について、法文と参考書(債権総論の本であれば、何でも良い)の該当箇所を読むことが望ましい。予習をすることはもちろん大事ではあるが、むしろ、内容が難しいので、講義で触れた点についての復習を心がけることをお勧めする。重点的に復習すべき箇所は、毎回の講義で示す。さらに、時間があれば、講義で触れた裁判例の判決原文を読むと良いであろう。目安の時間としては、毎回、予習20分、復習70分である。

履修上の注意 /Remarks

俗に言うレジユメ等は、一切、配布しない。板書もしないので、とにかく自分で、ノートや教科書に担当者が話したことを書くべきである。「民法総則」及び「物権法」が履修済である方が、理解しやすい。また、「債権各論1及び2」、「担保物権法」、家族法(親族・相続)も併せて学習することを勧める。

受講期間を通して授業外学習に積極的に取り組むこと。
この講義では、講義中の写真撮影及び録音は厳禁である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

上記

キーワード /Keywords

債権、債権法改正、民法改正

地方自治法 【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW321M	◎	○	○		
科目名	地方自治法				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

「地方自治」は本来われわれの生活に身近な存在である。授業においては、まず地方自治に関する法制度の原理と仕組みの概要を把握することがねらいである。さらに国と地方公共団体との役割分担と相互関係、それらを前提とした諸問題の発見・分析と解決方法についての基礎的能力を養い、社会における問題について法的観点から関心を高めることを目標とする。

到達目標

DP1 知識 地方自治法に関する知識を体系的に身につけている。

DP2 技能 地方自治に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

DP3 思考・判断・表現力 地方自治に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

宇賀克也 『地方自治法概説【第9版】』（有斐閣、2021年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中川義朗編 『これからの地方自治を考える』（法律文化社、2010年）

磯部力ほか編 『地方自治判例百選[第4版]』（有斐閣、2013年）

地方自治法【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 地方自治の基礎理論 (1)
地方自治の意義、わが国における地方制度の沿革
- 第 2回 地方自治の基礎理論 (2)
地方自治に関する法源
- 第 3回 地方公共団体の種類
自治権の本質、地方公共団体の種類
- 第 4回 地方公共団体の事務
地方公共団体の事務、事務の分類、事務の配分
- 第 5回 地方公共団体の権能
憲法による権能付与、自治組織権、自治行政権、自治立法権
- 第 6回 地方公共団体の機関 (その 1)
憲法の規定、地方議会、地方議会議員
- 第 7回 地方公共団体の機関 (その 2)
執行機関、長の地位と権限、執行機関の多元性、長と議会との関係
- 第 8回 住民の権利義務
住民の権利、選挙権、直接請求権、参加権、住民の義務
- 第 9回 国と地方公共団体との関係 (その 1)
相互関係のあり方、国又は都道府県の関与等、係争処理の仕組み、国又は都道府県の関与に関する訴訟
- 第 10回 国と地方公共団体との関係 (その 2)
自治財政権、事務配分と財源配分、財政調整制度、補助金
- 第 11回 住民監査請求 (その 1)
地方公共団体の監査制度、外部監査、住民監査請求と事務監査請求
- 第 12回 住民監査請求 (その 2)
住民監査請求の要件、住民監査請求の手続、住民監査請求の対象、監査の実施と勧告
- 第 13回 住民訴訟 (その 1)
住民訴訟の意義、住民訴訟の沿革と性質、財務会計行為と先行行為、出訴期間
- 第 14回 住民訴訟 (その 2)
住民訴訟の審理過程、職員の賠償責任、損害賠償請求権を放棄する議決
- 第 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80% レポート (課題) 20%

定期試験を受けない場合 (定期試験に代わるレポートを提出しない場合を含む。) には評価不能 (ー) とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配付した資料等に十分目を通しておくこと。
指示した点については事後に確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

憲法学(統治機構論) および行政法総論を履修していることが望ましい。
授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キーワード /Keywords

民法入門【昼】

担当者名 丸山 愛博 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW160M	○	○	◎		
科目名	民法入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この授業は、民法の全体像について概説します。

民法は、①家族関係、②財産、③契約に関係します。要するに、民法は、日常生活に関わる法律です。このように規律対象が広いことから、民法典は、1050条もあり、5つの大きなまとまり（「編」という）に分けられています。すなわち、第1編「総則」、第2編「物権」、第3編「債権」、第4編「親族」及び第5編「相続」です。

この授業で扱う範囲は、第1編～第5編までの全てです！僅か15回で民法典の全てを取り上げるのですから、授業内容は各編における基礎的な事項に限られます。つまり、この授業では、民法学における基礎的な知識を身に付けつつ、民法学の全体像を理解し、延いては、1年次の2学期以降に行われる民法に関する講義がより理解しやすくなることを目的とします。

なお、この講義は、オンライン（動画を指定した期限までに各自で視聴する方法）で行います。各動画には簡単なクイズが付いており、それへの解答を以て出席確認とします。

（到達目標）

【知識】民法学の全体像に関する基礎的な知識を身につけている

【技能】民法学を学ぶための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現】民法学に関する基礎的な課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

河上正二『鳥瞰 民法（全）』（信山社、2021年）1700円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

潮見佳男『民法(全) 第2版』（有斐閣、2019年）4600円＋税

新井誠＝岡伸浩『民法講義録（改訂版）』（日本評論社、2019年）5800円＋税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス、民法と民法典、日本民法典の編纂
- 第2回日本民法典の編纂（続き）、民法総則（民法の構成）
- 第3回民法総則（民法の構成、民法総則編の内容概観）
- 第4回民法総則（民法総則編の内容概観〔完〕）
- 第5回物権法（物権とは、物権編の内容概観）
- 第6回物権法（物権編の内容概観〔完〕）
- 第7回債権法（債権とは、債権総則編の内容概観、債権の保全・実現）
- 第8回債権法（債権の保全・実現〔続き〕、契約法）
- 第9回債権法（契約法〔続き〕）
- 第10回債権法（契約法〔続き〕）
- 第11回債権法（契約法〔完〕、事務管理、不当利得）
- 第12回債権法（不法行為）、家族の法（家族関係と身分法）
- 第13回家族の法（家族関係と身分法〔続き〕、婚姻）
- 第14回家族の法（親子、扶養）、相続の法（相続、法定相続）
- 第15回相続の法（法手相続〔続き〕、遺言相続）

民法入門【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポートと期末レポートの2回のレポートで評価します。
各レポートは、50点満点です。
なお、1回以上レポートを提出しなかったときは、成績評価は「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、教科書の該当頁を一読してから講義に出席してください。
事後に、各動画のクイズに回答してください。クイズが難しい又は自信を以て解答ができない場合は、動画を見直して復習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

動画視聴の際には、手元に六法と教科書をご用意ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

動画を溜めないように、計画的に視聴してください。質問などは、各回のクイズに記入欄がありますので、そちらにご記入ください。翌週以降の動画内でできる限り回答するように心掛けます。

キーワード /Keywords

民法総則、物権法、債権法、家族法、相続法、民法の全体像

債権各論I【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年 /

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW263M	◎	○	○		
科目名	債権各論 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

わが国の民法典は、その第三編 債権 第二章～第五章（民法521条～同法724条の2）において、「債権の発生原因」である、①契約、②事務管理、③不当利得、および④不法行為に関する規定群を設けている。

本講義では、これらのうち、①（契約）の大部分について解説する。具体的には、「契約総論」と呼ばれる部分全部（同法521条～548条の4）および「契約各論」と呼ばれる部分のうち、賃貸借契約までの部分（同法549条～622条の2）を講義対象とする（※以降の契約および上記②～④については「債権各論II」で扱われる。）。

本講義では、上記「契約総論（民法典が定める13種類の“典型契約”に共通するルール・規範を定めている部分）」および「契約各論」中、賃貸借契約までの部分につき、各法制度の基本構造およびこれらの規律を定める重要条文に関わる解釈（論）について要点を絞った解説を加えることで、「債権の発生原因」である「契約」という法制度が現代社会において、どのような機能を実際に果たしているか（2020〔令和2〕年4月1日施行の改正民法〔債権法〕、すなわち、現行民法についていえば、どのような機能をこれから果たすことになるか。）について、理解を深めてもらいたい。

契約という法制度は、我々の日常生活の一部を形成していると言っても過言ではない。たとえば、コンビニでおにぎり1個を買ったということは、そのおにぎり1個についての売買契約が締結され、そこから発生する債務（そのおにぎり1個の引渡しおよび代金支払い）が履行されたということになる。よって、受講生諸君には、“日常生活の身近な問題”として民法・契約法を受け止めてもらいたい。

ところで、民法・債権法に関しては、周知の通り、2017（平成29）年5月、「民法の一部を改正する法律案」が国会で可決・成立し、同年6月に改正民法が公布され、新法（改正民法〔債権法〕）が2020（令和2）年4月1日から施行されている。本講義では、旧法となった「改正前民法」の規律にも留意するが、原則として、現行法たる「平成29年民法（債権関係）改正法」＝現行民法を軸に解説を行う。よって、教科書も完全に新法対応のものを指定している。この点、留意されたい。ただし、改正前民法（旧法）からその内容が大きく変わった諸制度（条文）については、新・旧両制度の要点についても解説を加える。

※最後に、この科目の到達目標は下記の通りである。

【「債権各論I」到達目標】

DP1 知識：民法学の契約に関する知識を体系的に身につけている。

DP2 技能：民法学の契約に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

DP3 思考・判断・表現力：民法学の契約に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

1) 山野目 章夫『民法概論4 債権各論』（有斐閣、2020年）；定価（3,800円＋税）

※債権各論全体をカバーする体系書であるから、3年次1学期に受講する（であろう）「債権各論II」の教科書ないし参考書としても使える。

2) 最新版（年度）の小型六法は必携。

※上記「2点セット」を必ず購入・持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※参考書や学習用判例教材等については、配布レジユメの【文献案内】欄で適宜紹介する。ただし、判例学習という点で、○窪田 充見＝森田 宏樹（編）『民法判例百選II 債権 [第8版]（別冊ジュリスト238号）』（有斐閣、2018年）；定価（2,300円＋税）は教科書指定こそしないが、指定教科書と併せて勉強してもらいたい。本講義では、重要判例につき、同百選ないしその他の判例学習教材等のコピーをレジユメ（別紙）として配布する予定である。

債権各論I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※レジュメを配布するが、教科書等での予・復習は必須である。レジュメは補助教材に過ぎないことに注意されたい。
 ※以下、各項目・単元において、改正前民法（旧法）の内容についても、可能な限り、適宜、解説を加える。
 ※以下の計画・内容は、受講人数や全体の理解度等により若干修正される可能性がある。
 ※本講義は、受講人数（一定人数を上回った場合）または新型コロナウイルス感染拡大状況により、遠隔授業（Microsoft streamに講義動画アップするオンデマンド方式など）に変更となる可能性がある。よって、受講生諸君は、moodle等でこまめに情報収集・確認に努められたい。

- 第1回：序論（債権各論Iの講義範囲、債権総論と債権各論の関係、債権の発生原因としての契約、事務管理、不当利得、および不法行為略説、ならびに、平成29年民法〔債権関係〕改正について）
 第2回：契約総論①；序説（契約自由の原則とその修正、契約の種類・分類）
 第3回：契約総論②；契約の成立、申込みと承諾（の意思表示）、契約の成立時期、定型約款（論）民法548条の2～同548条の4略説
 第4回：契約総論③；契約の効力（1）「原始的不能」の考え方の改正・変容、同時履行の抗弁（権）
 第5回：契約総論④；契約の効力（2）危険負担（改正前民法との相違、反対給付の履行拒絶権構成）
 第6回：契約総論⑤；契約の効力（3）第三者のためにする契約、契約上の地位の移転（民法539条の2・概論）
 第7回：契約総論⑥；契約の解除（意義、法定解除の要件、契約解除制度の改正前民法からの変更点）
 第8回：契約総論⑦（完）；契約の解除のつづき（解除の効果を中心に解説）
 ※中間レポート論題発表（予定）
 第9回：契約各論①；契約の分類の復習、財産権移転型契約（1）贈与（意義・成立要件・効果・特殊の贈与）
 第10回：契約各論②；財産権移転型契約（2）売買（意義・成立要件〔売買の一方の予約、解約手付〕、売買の効力）
 第11回：契約各論③；売買のつづき（契約不適合に基づく売主の担保責任〔改正前民法における瑕疵担保責任についても解説する。〕）
 第12回：契約各論④；売買（完）（他人物売買、その他の担保責任、危険の移転、買戻し）、財産権移転型契約（3）交換
 第13回：契約各論⑤；財産権利用型（貸借型）契約（1）消費貸借
 第14回：契約各論⑥；財産権利用型（貸借型）契約（2）賃貸借（※以下、借地借家法概説的内容を含む。賃貸借の意義・成立〔敷金〕・賃貸借の効果）
 第15回：契約各論⑦（完）；賃貸借のつづき（賃貸人の地位の移転〔契約上の地位の移転・再論〕・賃貸借の終了）、財産権利用型（貸借型）契約（3）使用貸借&本講義の“まとめ”と「債権各論II」への展望

成績評価の方法 /Assessment Method

※期末定期試験の成績【60分（持込条件は「すべて可」。改正民法〔＝現行民法〕の基礎知識を中心に、論述形式（事例問題&一行問題）で問う方式。）】……80%
 ★新型コロナウイルス感染拡大状況により、対面での期末定期試験に替えて、「オンデマンド非同時進行型期末定期試験」を実施する場合がある。その場合は追って詳細をアナウンスする。
 ※中間レポート（遠隔授業となった場合は、「課題研究」の一部とする。）の成績【1,200字程度】……20%
 上記の合算（100%）で評価する。
 【成績評価において「評価不能（一）」となる基準】正当な理由なく期末定期試験を受験しなかった場合、中間レポート提出の有無・内容の出来等に関係なく「評価不能（一）」とする。ただし、新型コロナウイルス感染や濃厚接触者該当、その他、病気・けが、または忌引きなどによる欠席を除く（追試・追レポート該当者になる場合。）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】指定教科書につき、あらかじめ熟読すべき箇所・頁等を指示（レジュメに記載）するので、次回（次週）講義までに熟読し、疑問点などをノートにまとめてくること。講義途中、数名を指名し、まとめた内容（疑問点など）を口頭で発表してもらう予定である（加点要素とする。）。なお、この予習に必要な学習時間の目安は90分である。
 【事後学習】講義の理解度を確保するため、不定期に、ミニッツ・ペーパーを配布し、次週講義時に記入したものを提出してもらう予定である（加点要素とする。）。内容は、当該回で学んだ内容の復習を兼ねた簡単な○×問題である。期末定期試験や中間レポートのヒントにもなっている？かもしれない。なお、この復習に必要な学習時間の目安は45分である。

履修上の注意 /Remarks

「民法入門」および「民法総則」を履修済みであれば、本講義の理解はより確実なものとなろう。さらに、「物権法」や「債権総論」も履修済みであれば、本講義の理解は一層深まるであろう。逆に、これらの科目をまったく履修していない場合、本講義の理解はきわめて困難なものとなろう。よって、自学修でよいから、「民法総則」、「物権法」、および「債権総論」の内容をフォローしておくことを勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

オフィス・アワー等（メール等での質問なども含む。）も利用して、積極的に質問してほしい。また、教科書（基本書）選びも勉強の内。指定教科書以外にも、図書館蔵書や書店等で「債権各論」の様々な文献を紐解いてみよう！

キーワード /Keywords

債権の発生原因、契約、契約総論、契約各論、典型契約、契約自由の原則、定型約款、解除、財産権移転型契約（贈与・交換・売買）、財産権利用型（貸借型）契約（消費貸借・使用貸借・賃貸借）、平成29年民法（債権関係）改正法（＝現行法）の規律と改正前民法下の判例の位置づけ

債権各論II【昼】

担当者名 /Instructor 平山 也寸志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW264M	◎	○	○		
科目名	債権各論II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

我が国民法典における第3編債権編第2章契約の章の第8節雇用、第9節請負、第10節委任、第11節寄託（以上、役務供給契約）、第12節組合、第13節終身定期金、第14節和解という債権発生原因としての前掲の各契約類型と法定債権の発生原因としての第3章事務管理、第4章不当利得、第5章不法行為を対象とする。
本授業では、上記の各制度についての解説を行う。

教科書 /Textbooks

特に共通の教科書を用いる予定はない。ただし、以下に挙げたものなどを本授業では主として参照する予定である。下記に挙げたものやそれ以外でもよいので、本授業の対象となる上記の制度を含むいずれかを授業の進行に合わせて予習・復習の際に読むこと。
下記の①のは、近く改訂の予定があるとのことである。②、④は、1冊で、本授業の対象をカバーする。③は、法定債権を他書で補う必要がある。
①潮見佳男『基本講義 債権各論I』（新世社、第3版、2017）、同『基本講義 債権各論II 不法行為法』（新世社、第4版、2021）
②山野目章夫『民法概論4 債権各論』（有斐閣2020）
③中田裕康『契約法』（有斐閣、新版、2021）
④田井義信『ユーリカ民法4 債権各論』（法律文化社、2018）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

下記の①は、改正前民法下での判例教材である。②は、2020年4月から施行されている改正民法の下で、改正前民法下での判例が、今後、どのように展開するか、その可能性を検討する本である。本授業の対象となる部分は少ないが、考え方を学ぶためには参考になる。
○①松本恒雄・潮見佳男『判例プラクティス民法II債権』（信山社、2010）
②伊藤進『改正民法[債権法]における判例法理の射程』（第1法規、2020）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、対面講義形式が遠隔授業の他の講義形式に変更になる可能性があります。

第1回 ガイダンス 授業全体の概観、平成29年民法（債権関係）改正の概要の説明。
第2回 雇用契約
第3回 請負契約
第4回 委任契約（1）
第5回 委任契約（2）任意後見契約
第6回 寄託契約
第7回 組合契約
第8回 終身定期金契約、和解契約
第9回 契約のまとめ
第10回 事務管理
第11回 不当利得
第12回 不法行為（1）不法行為制度の概観
第13回 不法行為（2）一般不法行為の要件・効果
第14回 不法行為（3）特殊的不法行為、共同不法行為等
第15回 授業のまとめ

債権各論II【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

主として期末定期試験による（100%の予定）。
なお、受講生の皆さんの出席状況によっては、日常の授業への取り組みを加点事由（10%程度）とすることがある。
期末試験を受験しなかった場合は評価不能（－）とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】教科書を読むなどして予習すること。
【事後学習】授業内配布資料、図書館所蔵の関連文献や教科書を読むなど。

履修上の注意 /Remarks

裁判所や法務省などのHPにアクセスすると、判例情報や民法（債権関係）改正の資料を手軽に見ることができます。また、民法等の条文もe-govなどで見ることができます。これらの資料も必要に応じて併せて利用すると便利です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

共に学びましょう。

キーワード /Keywords

債権発生原因、債権各論、役務提供契約、法定債権、事務管理、不当利得、不法行為

人間環境地理学【昼】

担当者名 野井 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV240M	◎				
科目名	人間環境地理学【環】				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

環境問題の原因は、人間の自然への誤った関わり方にあると考えられています。そのため、環境問題の正しい理解には、まず、人間と自然の関わりについて考えることが必要です。人間と自然の関わりには様々なものがありますが、この授業では、「自然の猛威」を通じて人間と自然の関わりについて考えます。同時に、自然の猛威がもたらす災害と防災・減災についても考えます。ここ数年、地球温暖化によって様々な自然の猛威の脅威が特に高まっています。私たち人間が、自然そのものを改変していつていることを考える必要があります。

私たちは、豊かで穏やかな自然を安息と感じ、荒れ狂う自然を猛威と感ずますが、穏やかな自然も荒れ狂う自然も共に自然の営みです。私たちはそのような自然の営みの中で、生活していることも、想像してみましょう。

この授業の目標は、以下の通りです。

人間と自然の関係の基礎的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につける。

人間と自然の関係の問題意識を持ち、主体的に学習できる。

(到達目標)

【知識】自然と人間の関わりに関する専門的な知識を体系的かつ総合的に理解している。

教科書 /Textbooks

ありません。授業中に適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 志岐常正著「災害と防災」本の泉社, 2018年, 1980円
- 高橋和雄編著「災害伝承：命を守る地域の知恵」古今書院, 2014年, 3080円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自然の中の私たち 【自然の猛威が私たちの住む場所を作っている】
- 2回 自然の猛威とはなにか 【人間の環境としての自然の猛威】
- 3回 自然の猛威の分類 【自然の猛威にはどのようなものがあるか】
- 4回 地球上の自然の猛威の概要1 【プレートテクトニクス】
- 5回 地球上の自然の猛威の概要2 【地震と火山噴火】
- 6回 地球上の自然の猛威の概要3 【気象災害】
- 7回 生物災害と疫病 【疫病は歴史的に激しい恐怖と社会の混乱をもたらした。それは現代も変わらない。】
- 8回 干ばつと砂漠化 【地球上で最も被害が大きい災害の一つは干ばつである】
- 9回 日本は災害の国 【日本列島では様々な自然の猛威が繰り返しやってくる】
- 10回 島原大変 【噴火・地震・崩壊・津波が複合した日本列島の宿命のような歴史災害】
- 11回 火山の巨大噴火 【巨大噴火は非常に大きな被害をもたらす破局的な噴火である】
- 12回 火山の噴火と気候変動 【火山噴火は気候変動に関わっている】
- 13回 火山噴火の文明への影響 【火山噴火は人間に歴史上大きな影響を与えた】
- 14回 巨大地震と津波 【東日本大震災のような巨大地震は繰り返し発生する】
- 15回 まとめ【自然を正しく理解し、うまく付き合っていく必要がある】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 90% 小レポートまたは小テスト... 10%

試験(定期試験)を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

人間環境地理学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自然の猛威に関するテレビ番組、ウェブ情報、新聞記事、書籍などが、ここ数年特に多く発信されています。事前にそれらの情報を見たり読んだりしておきましょう。授業後はノートを整理し、配付されたプリントを再度よく読んで、将来的に使える形で整理しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然の猛威 地震 プレートテクトニクス 火山噴火 疫病 災害 防災 減災 自然との共生

生態人類学【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ANT200M	◎		○		
科目名	生態人類学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

人間の多様性について幅広く考えることで、他者の価値観を理解しよう。キーワードは差異と共感。

人間の文化の多様性はどこから生まれてくるのだろうか。この授業では人類学と生態学の知識を援用しながら、多様な環境における人類の適応と社会システムについて考察を進める。

たとえばテーマの一つとして取り上げるのは人間の「食」である。人は食べ物を手に入れるためにどんな行動をおこなってきたのか、視覚や味覚に関する認知能力の進化、そして多様な食文化の基本にあるもの。味覚を攪乱させる現代社会の添加物や化学物質。食に興味がある人おもしろいのが好きな人はどうぞ。

フィールドワークの感覚を身につけるために、ドキュメンタリー映像をみて、そこから問題提起をします。次にその問題について資料を集めてきてもらいます。これらの資料をもとにディスカッションを行います。

この授業の主な到達目標は、人間関係に関する専門的知識の習得のみならず、自分から課題を発見し実践の中でそれを考えることができるようになることです。ほかの人と考えを交換する討論も楽しみましょう。

(到達目標)

【知識】

人間と自然の関わりを理解し、文化や社会と環境との関係を総合的に理解できる。

【思考・判断・表現力】

講義の中でおこなわれる議論に参加し適切に発言することができる。

教科書 /Textbooks

講義中にみるドキュメンタリー映像
「ヒューマン なぜヒトは人間になれたのか」NHKスペシャルほか。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

以下はほんの一部である

- 「生態人類学を学ぶ人のために」秋道 智彌、市川 光雄、大塚 柳太郎(編) 世界思想社
- 「イブの7人の娘たち」ブライアン・サイクス(ヴィレッジブックス)
- 「ヒューマン なぜヒトは人間になれたのか」NHKスペシャル取材班
- 「人間らしさとはなにか? 人間のユニークさを明かす科学の最前線」マイケル・S. ガザニガ: インターシフト
- 「共感の時代へ 動物行動学が教えてくれること」フランス・ドゥ・ヴァール: 紀伊國屋書店

生態人類学 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

人類学に関係のふかい人間の営みに関する研究について、受講者の興味に応じて「食」「性」「死」「遊び」「宗教」のような感じで、おおよそ3回くらいひとつの単元にして討論をおこなう。討論の深度によって、日程は柔軟に変更する。

- 第1講 課題のテーマと講義の概要。受講者の分担決め
- 第2講 課題1の問題提起
- 第3講 課題1のプレゼンテーション
- 第4講 課題1のディスカッション
- 第5講 課題2の問題提起
- 第6講 課題2のプレゼンテーション
- 第7講 課題2のディスカッション
- 第8講 課題3の問題提起
- 第9講 課題3のプレゼンテーション
- 第10講 課題3のディスカッション
- 第11講 課題4の問題提起
- 第12講 課題4のプレゼンテーション
- 第13講 課題4のディスカッション
- 第14講 総論
- 第15講 最終討論

成績評価の方法 /Assessment Method

すべての回の発表とディスカッションをもとにした自己評価の発表を総合的に審査する 100%
最終討論の自己評価の審査に参加しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

提示されたテーマに関して資料をあたりまとめてきてください。毎回講義の前後にイメージトレーニングし、自分なりに議論の進め方を改善してみましょう。

履修上の注意 /Remarks

ほかの人の意見をきき、理解し、自分の意見を発言できること。それは思考をすすめるとてもよい経験になります。難しい事はありません新しい考えが生まれてくる現場を楽しみながら参加して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いろいろな意見を交わすことは楽しい。その過程を通して人間とは何かを考え、多様な他者の価値観を理解することも人間関係学科でこの講義をおこなう重要な理由です。

キーワード /Keywords

フィールドワーク
人類学
環境
他者理解

日本の歴史と社会【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HIS210M	◎	○	○		
科目名	日本の歴史と社会				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

「江戸時代」は我々にとって最も「日常的な歴史」になっていますが、それゆえにそこには多くの誤解や先入観がまかり通っています。江戸時代は260年間続きましたが、その間変化がなかったわけではありません。18世紀の中頃の社会の変化によって、その前半と後半では一つの時代とはいえないほど大きく社会と経済が変化をしています。また同じ時代でも武士と町人や農民の庶民では身分が違えば社会や言葉も違ってきます。それはまだ「日本」や「日本人」という近代の概念が成立する以前の社会なのです。ここでは女性の地位や農村の社会を中心に「江戸時代」という時代を検証してみたいと思います。

(到達目標)

【知識】近世史の論点に関する専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】歴史の実証に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】近世史の論点について、論理的に思考して解決策を探索し、専門的見地から自分の考えやを論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 脇田晴子編『日本女性史3 近世』(吉川弘文館1982年)
- 近世女性史研究会編『論集近世女性史』(吉川弘文館1986年)
- 脇田晴子編『ジェンダーの日本史 下』(東京大学出版会1995年)
- 高木侃『三下り半-江戸時代の離婚と女性たち-』(平凡社1987年)
- 高木侃『三下り半と縁切寺』(講談社〔現代新書〕1992年)
- 網野善彦『無縁・公界・楽』(平凡社1978年)
- 山本英二『慶安の触書は出されたか』(山川出版社〔日本史リブレット〕2002年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 【近世】という時代
- 3回 【三行半】を読み直す①江戸時代の女性の地位
- 4回 【三行半】を読み直す②江戸時代の離婚
- 5回 【三行半】を読み直す③離婚理由と再婚許可文言
- 6回 『【女大学】』と『和俗童子訓』①作者と成立時期
- 7回 『【女大学】』と『和俗童子訓』②貝原益軒と女子教育
- 8回 【好色物】と女性の社会進出
- 9回 【縁切寺】の歴史
- 10回 【慶安御触書】を読み直す①荘園制と太閤検地
- 11回 【慶安御触書】を読み直す②幕藩領主財政と幕政・藩政の改革
- 12回 【慶安御触書】を読み直す③榎本宗次説
- 13回 【慶安御触書】を読み直す④「百姓身持書」と丸山雍成説
- 14回 【慶安御触書】を読み直す⑤神崎直美・木崎弘美論争
- 15回 【慶安御触書】を読み直す⑥山本英二説

日本の歴史と社会【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート...50% 筆記試験...50%
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にシラバスの授業計画を確認しておくこと。
事後にノートの整理をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

シラバス・プリント・参考文献をよく読んでおくこと。
第1回の授業で受講上の重要事項の説明と注意を行います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Professional English I 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG431M	○	◎	○		
科目名	Professional English I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

The course gives students an opportunity to read about and discuss a variety of businesses, as well as other types of organizations such as NGOs. We will look at businesses operating around the world (such as Disney and Toyota), consider different corporate cultures, and read about styles of business leadership, as well as different approaches to design, branding, innovation, marketing, and customer service. The latter part of the course gives students a chance to think about planning and creating a small business. Most course work—reading, discussion, written exercises—will be conducted in class. Readings will be supplemented by videos on selected topics.

教科書 /Textbooks

Texts provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Erin Meyer. The Culture Map. Decoding How People Think, Lead and Get Things Done Across Cultures. Public Affairs. 2016.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction – The changing business environment
- 2 回 Tradition and Adaptation – Toyota
- 3 回 Innovation – Dyson
- 4 回 Customer service – Singapore Airlines
- 5 回 Affordability and style – Uniqlo
- 6 回 Design and the Apple philosophy
- 7 回 Marketing – Shiseido
- 8 回 Leisure and gaming – The Nintendo story
- 9 回 Work environment: The happy employee - Google
- 10 回 Business visionaries – Walt Disney
- 11 回 Global Contexts: Doing business in China
- 12 回 How to start a business: creating a store.
- 13 回 Setting up an NGO
- 14 回 The future of business: EV, VR, SDGs, OC, Clouds
- 15 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- Participation 25%
- Writing Assignments 25%
- Report 25%
- Final test 25%

Please note that credit will not be awarded in event of four or more absences.

Professional English I 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should review and be familiar with previous week's material

履修上の注意 /Remarks

The class offers students maximum opportunity to read and talk about various topics related to world of business and the international contexts in which business is conducted today.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Reading and related exercises will be done mostly in class. Weekly attendance is expected.

キーワード /Keywords

Professional English II 【昼】

担当者名 /Instructor リーサ ハンズバーガー / Lisa M. Hunsberger / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG432M	○	◎	○		
科目名	Professional English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

This course will focus primarily on presentations and public speaking in a professional setting. Effective presentation design begins with an understanding of the purpose of the presentation, the audience to whom it will be delivered, and the context under which it will be delivered. In this course, you will learn the steps towards creating and delivering an effective professional presentation using a range of features available in most desktop presentation software. You will also work on sharpening your public speaking skills –eye contact, use of gestures, managing nervousness, etc– through mini exercises throughout the course.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 – Introduction
 Week 2 – Show & Tell
 Week 3 – The art of public speaking
 Week 4 – Presentation design ABCs
 Week 5 – Design features of presentation software
 Week 6 – Practice activity 1
 Week 7 – Revisiting public speaking
 Week 8 – English in professional contexts
 Week 9 – Presenting in professional contexts
 Week 10 – Preparation for practice activity 2
 Week 11 – Practice activity 2
 Week 12 – Putting it all together
 Week 13 – Preparation for final project
 Week 14 – Day 1 of final project
 Week 15 – Day 2 of final project

(This schedule and its contents are subject to change.)

Professional English II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

(Tentative)

Class participation & in-class assignments: 20%

Practice activities: 40% (2 x 20%)

Final Project: 40%

In conjunction with Kitakyushu University guidelines, please note the following:

1. If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (—).
5回以上欠席した場合は、評価不能(—)とします。
2. If you do not complete your work yourself or if you plagiarise any part of your work, you will receive a failing grade (—).
自分で課題を完成させない場合、または課題の一部を剽窃した場合は、評価不能(—)とします。
3. If you do not complete more than 75% of your assignments, you will receive a failing grade (—).
課題の75%以上を完了できなかった場合、不合格となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- Taking notes during class is mandatory, and students are required to keep a vocabulary notebook in which they will write new words for to study and practice throughout the course.
- Students must review their notes and complete all assignments before each class.
- Key to becoming an effective public speaker and presenter is working avidly on self-improvement. Consequently, some activities may be recorded for students to use to track their own progress throughout the course.

履修上の注意 /Remarks

Laptops and desktop computers are preferred for use in this course, and though it isn't mandatory, students with laptops are invited to bring them to class. Students may use either PowerPoint or Apple's Keynote to do their presentations, but they must choose the desktop presentation software with which they are most familiar.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I look forward to teaching you!

キーワード /Keywords

Presentation, Public Speaking, Professional, English

教職論 【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職論は、通常の場合、4年間の教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流、ベテラン教員の講演と意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探究する。
また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類 - 1 に該当する科目である。

到達目標 教職という仕事に関する基本的な知識を理解している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教育に求められる実践的指導力と学校ボランティア体験の意義(外部講師の報告)
3. 教員に求められる資質 その1 共感的理解と対話力
4. 今日の教員に求められる役割と職務内容について(講師 森恵美先生)
5. 教員に求められる資質その2 生徒指導と学級経営(学級づくり) - 実践報告を手がかりに
6. 教員に求められる資質その3 教科指導と授業づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
7. チーム学校と専門職との連携 その1 「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
8. チーム学校と専門職との連携 その2 被虐待・貧困状況にある子どもと家族への支援
9. 教員に求められる資質その4 特別活動と学級づくり(本学出身の教員の報告と意見交流)
10. 学級づくりに関するグループワーク
11. 現代社会における学校教育の課題 その1 セクシュアルマイノリティの生徒と学校づくり
12. 現代社会における学校教育の課題 その2 部活動・体罰問題を考える。
13. 現代社会における学校教育の課題 その3 「道徳教育」をめぐる問題を考える。
14. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み(本学出身の中学校教員の報告と意見交流)
15. 全体のまとめと課題の説明

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 50点、レポート試験50点
出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
(6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

教職論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席し、毎回のミニレポートを提出してもらうことを前提にして進めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

到達目標

教育に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：教育の関係：教育のモデル・家族・学校
- 2回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 3回 発達課題と教育支援：思春期・青年期
- 4回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 5回 教育思想②：日本の教育思想
- 6回 教育史①：西洋の教育史
- 7回 教育史②：日本の教育史
- 8回 学ぶ意欲と教育指導
- 9回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 10回 学校の制度：学校体系
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小課題等) 40%

最終課題(試験) 60%

* 感染症拡大の状況等によってはレポート課題に切り替えることもある。これについては授業中に改めて指示する。

* 3分の2以上の出席が最終課題(試験)受験資格

* 6回以上欠席した場合や最終課題(試験)を受験しなかった場合は原則評価不能(-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。

発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育原理【夜】

キーワード /Keywords

教育心理学【夜】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子ども理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

<到達目標>

【知識】教育現場に生かすための教育心理の基礎（学習理論や教授法等）を幅広く理解している。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「I類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

適宜レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

教育心理学【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。
- 第2回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。
- 第3回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。
- 第4回：【学習③】学習における動機づけについて学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。
- 第5回：【学習④】学習における原因帰属理論について学ぶ。また、原因帰属と動機づけの関連性についても学ぶ。
- 第6回：【学習⑤】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。
- 第7回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。
- 第8回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。
- 第9回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。
- 第10回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。
- 第11回：【教授法①】発見学習や有意義受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。
- 第12回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。
- 第13回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。
- 第14回：【応用②】知能の定義や考え方の変遷について学ぶ。また、教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。
- 第15回：【応用④】教育心理学的観点から、子ども理解を深めるとともに、特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援についても学ぶ。
- 最終試験

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート・・・40%
最終試験・・・60%

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）
（6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能（-）とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワークを行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

教育社会学【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 1学期
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から学校教育と学校をめぐるとして、国内外の動向も紹介しながら、政策・実践課題について考えていきます。あわせて、子どもや子どもをめぐるとして社会変化についても理解を深めていきます。

日本については近年の様々な課題や政策動向など状況の変化について理解を深めます。

国外については日本との比較を念頭に置きながら、少子化への対応や、教育への考え方、取り組みの違いなどを理解し、社会全体で子どもを育成していく視点の重要性、教育の役割について説明します。

学校教育と家庭教育、社会教育（地域教育）の連携や協働についても具体的事例を取り上げながら理解を深めていきます。また、自然災害に対する子どもの安全を含めた、子どもの安全への対応についても事例を取り上げて考えます。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】

教育に関する社会学的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション ー教育に関する社会学とは
- 第2回学校をめぐるとして近年の動向 ー初等教育
- 第3回学校をめぐるとして近年の動向 ー中等教育
- 第4回子どもをめぐるとして社会の変化 ー少子高齢化、地域・社会の変容
- 第5回諸外国の子ども・子育ての動向 ー家族支援、教育支援
- 第6回諸外国の教育 ー学校教育
- 第7回諸外国の教育 ー青少年の社会参加・参画
- 第8回日本における教育政策・改革の動向
- 第9回子どもの生活の変化と指導の課題 ー家族、少子化
- 第10回子どもの生活の変化と指導の課題 ー孤食、栄養と食育
- 第11回子どもの生活の変化と指導の課題 ーメディアと遊び
- 第12回子どもの生活の変化と指導の課題 ー社会性、自主性
- 第13回学校と地域の連携 ー地域の変化、学校と地域の連携・協働、開かれた学校づくり
- 第14回学校や子ども活動での子どもの安全
- 第15回子どもの生活安全、交通安全、災害安全

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート・・・30%、課題レポート・・・70%
6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

子どもや教育に関する情報収集を行い、統計や社会動向、社会の反応などを踏まえて、予習に関しては授業時の小レポートに、復習に関しては課題レポートに記載すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

教職や社会教育主事資格の関連科目とあわせて受講すると、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実践的な取り組みを視聴覚教材を活用しながら紹介します。

キーワード /Keywords

公教育制度、地域、連携、協働、学校安全

教育課程論【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

概要

教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

到達目標

教育課程に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

- ①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。

プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するもの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 教育課程の基本原則 (1) カリキュラムとは
- 第 2回 教育課程の基本原則 (2) カリキュラムの類型
- 第 3回 教育課程の変遷と学習指導要領
- 第 4回 学力と教育課程 (1) 教育課程設計の前提となる「力」
- 第 5回 学力と教育課程 (2) 学習状況調査の影響
- 第 6回 諸外国の教育課程
- 第 7回 教育課程の編成 (1) 教科教育
- 第 8回 教育課程の編成 (2) 教科外教育
- 第 9回 学習環境のデザイン
- 第10回 教育課程の評価
- 第11回 教育課程の開発
- 第12回 カリキュラム・マネジメントと学校改善
- 第13回 今日の課題と教育課程 (1) 異文化理解
- 第14回 今日の課題と教育課程 (2) ESD
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小課題等) 40%

最終課題 (試験) 60%

* 感染症拡大の状況等によってはレポート課題に切り替えることもある。これについては授業中に改めて指示する。

* 3分の2以上の出席が最終課題 (試験) 受験資格

* 6回以上欠席した場合や最終課題 (試験) を受験しなかった場合は原則評価不能 (-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。

発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育指導論【夜】

担当者名 /Instructor 船原 将太 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、それをもとに、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。そのために講義の前半では、私たちが日ごろ行っている些細な「正しさについての判断」を検討し、この判断の妥当性が形成される歴史的過程を追っていくこととなる。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する著名な教材の分析を行うとともに、実際に指導する場面を想定し、学習指導案の作成などを行っていく。このことより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかるものとする。

本科目の到達目標は、道徳教育指導に必要な基本的な知見を身につけているものとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。各回、必要な資料を配布し、これをもとに講義を実施する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の際に、適宜提示するものとする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、道徳とは何か
- 第2回：社会における「正しさの基準」について
- 第3回：道徳教育の変遷①ー戦前
- 第4回：道徳教育の変遷②ー戦後
- 第5回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
- 第6回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
- 第7回：道徳教育の現代的課題①(グループ討論)
- 第8回：道徳教育の現代的課題②(グループ討論)
- 第9回：道徳教育の現代的課題③(グループ討論)
- 第10回：道徳教育の現代的課題④(グループ討論)
- 第11回：道徳科の学習指導案の作成方法
- 第12回：道徳教育の教材研究①
- 第13回：道徳教育の教材研究②
- 第14回：指導案作成
- 第15回：道徳教育の今日的な意義について

成績評価の方法 /Assessment Method

学習指導案：50%
コメントシート：20%
小テスト：30%
出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能(-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動・キャリア教育論【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業の概要

本講義の主な内容は以下のとおりである。

1. 文科省の中学校及び高等学校の学習指導要領・特別活動の目標と内容について
2. 学級活動や学校行事、生徒会活動を通じた「人間関係形成」「社会参加」「自己実現」の課題と方法
3. 特別活動の取り組みを進めていくための教職員の共同や家庭・地域との連携の課題と方法
4. 学校における進路指導、キャリア教育の位置づけと学校教育全体を通じたキャリア教育の課題
5. 職場体験学習などの体験活動を通じたキャリア教育の意義と進め方
6. キャリアカウンセリングの基本的な課題と方法について

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

到達目標 文科省の学習指導要領「特別活動」の課題と方法についての基本的な知識を修得している。

教科書 /Textbooks

文科省 中学校学習指導要領解説「特別活動編」 東山書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社

○文部科学省 中学校キャリア教育の手引き

○見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店

○キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画

- 1回 特別活動の目標と内容
- 2回 教育課程の中での特別活動の位置づけと各教科との関連
- 3回 学級活動の目標と内容
- 4回 学級活動の実際 その1 中学校の取り組み
- 5回 学級活動の実際 その2 高等学校の取り組み
- 6回 学級活動における対立解決プログラムの取り組み
- 7回 学校行事の目標と内容
- 8回 学校行事の実際
- 9回 生徒会活動の目標と内容
- 10回 生徒会活動の実際
- 11回 キャリア教育の課題について
- 12回 今日の若者の就労問題とキャリア教育の課題
- 13回 北九州キャリア教育研究会 夢授業の取り組み(講師 北九州キャリア教育研究会 木原大助さん)
- 14回 キャリアカウンセリングの課題と方法(ポートフォリオの活用を含む)
- 15回 中学校におけるキャリア教育の取り組み

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30点

キャリア教育に関する学習指導案 15点、対立の調停のシナリオ 15点

期末試験 40点

本授業は原則としてすべての授業回に出席して、課題を提出してもらうことが原則です。

出席について、3分の2以上の出席が最終レポート試験受験資格とします。)

(6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とします。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この授業では多くのグループワークと意見発表の機会を設け、教師としての実践的な指導力の育成を目指します。
大変かと思いますが、よろしくお願いします。

特別活動・キャリア教育論【夜】

履修上の注意 /Remarks

遅刻に対しては厳しく対応するので、十分に注意すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の目標、学級活動、生徒会活動、学校行事、キャリア教育

教育の方法と技術・総合的な学習の時間の指導法【夜】

教育の基礎的理解に関する科目等
必修科目

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）といった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業理論やICT教育の求められる背景を講義する。また学校ごとに特色ある「総合的な学習の時間」について、その内容の取り扱いや目標のあり方を理解し、各教科との関連を踏まえて捉えるようにする。

そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

到達目標

【知識】これからの子ども達に求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、技術、情報機器及び教材の活用に関する基本的知識を身につけている

教科書 /Textbooks

新しい時代の教育方法 改訂版 (2019 有斐閣アルマ)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 (平成29年3月告示 文部科学省)
高等学校学習指導要領 (平成30年告示 文部科学省)
他にも授業内で随時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：西洋における教育思想と教育方法の歴史
 - 第3回：日本における教育改革と教育方法の歴史
 - 第4回：現代教育方法学の論点と課題
 - 第5回：子どもは何を学ぶのか・学習とは何か
 - 第6回：「学力」について考える・学力とは何か
 - 第7回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
 - 第8回：教育の道具・素材・環境を考える
 - 第9回：何をどう評価するのか・評価と評定・基準と規準
 - 第10回：教科外活動を構想する
 - 第11回：授業研究・授業をいかに捉えるか
 - 第12回：総合的な学習の意義と課題
 - 第13回：総合的な学習の指導計画と取り扱い
 - 第14回：教師の専門性・専門職性
 - 第15回：まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ 30%
発表・レジュメ作成・・・ 20%
最終試験・課題レポート・・・ 50%
出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料（レジュメ）を作成してもらう。
また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

講義の3分の2以上の出席が試験受験の前提となる。
欠席の際は、連絡を入れるようにしましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

総合的な学習の時間は、各学校や地域ごとに特色ある活動を行っています。どのような実態があるかを考えるためには、他者との交流や対話的な学びが不可欠です。

能動的・積極的な姿勢を身に着けていきましょう。

キーワード /Keywords

生徒指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業の概要

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や発達障害、セクシュアルマイノリティ等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

到達目標 生徒理解と生徒指導に対する基本的な知識を修得している。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」
楠凡之 「虐待・いじめ 悲しみから希望へ」 高文研

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テキスト

参考書・参考資料等

桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画

- 1回 生徒指導の意義と目的 - 子どもたちの自己存在感を育むために
- 2回 生徒指導における個別指導と集団指導、積極的生徒指導と生活指導
- 3回 教育相談と生徒指導、不登校問題と生徒指導
- 4回 教育課程と生徒指導 その1 - 教科教育と生徒指導
- 5回 教育課程と生徒指導 その2 - 総合的な学習の時間、道徳教育と生徒指導
- 6回 教育課程と生徒指導 その3 - 学級づくりを通じた生徒指導
- 7回 生徒指導に関する法制度等(第7章他)
- 8回 生徒指導における規範意識の醸成をめぐる諸問題(ゼロトレランスの問題も含めて)
- 9回 生徒指導における体罰問題を考える - 家父長制的学校観を乗り越えるために
- 10回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と性教育の課題
- 11回 性被害児童・生徒に対する理解と支援
- 12回 生徒指導における関係諸機関の連携
- 13回 青少年の自殺予防の取り組み
- 14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その1 学校での支援
- 15回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その2 関係諸機関との連携

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40点、課題レポート20点、期末レポート40点
出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
(6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」のテキストはしっかり読み込んで内容を修得しておくこと。

生徒指導論【夜】

履修上の注意 /Remarks

全学の教職課程履修学生の必修科目ではありますが、人間関係学科の学生で、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの仕事に関心がある学生にも対応した内容になっているので、積極的に履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活指導、生徒指導の3機能、積極的生徒指導と消極的生徒指導、児童虐待問題

教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 山下 智也 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、学校での教育相談の意義、生徒の問題行動の理解、教育相談の理論と技法（積極的傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を習得する。

また、不登校やいじめ、発達障害、非行、自傷・自殺、虐待等、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて検討するとともに、教育相談の組織的な体制づくりや関係諸機関との連携の課題を考察する。

<到達目標>

【知識】教育相談の意義を理解し、関連する専門的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】教育相談に関する知識を元に、適切な支援の道筋を見出すことができる。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「II類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

虐待 いじめ 悲しみから希望へ 楠凡之（著） 高文研
その他、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

生徒指導提要 文部科学省
Next教科書シリーズ 教育相談 津川律子、山口義枝、北村世都（著） 弘文堂
子どものこころの支援 連携・協働ワークブック 前川あさみ（編著） 金子書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：本講義のオリエンテーション、教育相談の歴史
 - 第2回：学校における教育相談の現代的意義と課題
 - 第3回：教育相談とカウンセリング（カウンセリングマインドの理解も含む）
 - 第4回：子どもの問題行動の意味（子ども理解も含む）
 - 第5回：教育相談の実際①（発達障害、不登校、いじめ等）
 - 第6回：教育相談の実際②（非行、自傷・自殺、虐待等）
 - 第7回：教育相談の基本的な理論の修得（来談者中心療法等）
 - 第8回：教育相談の基本的なスキル①（受容、傾聴、共感的理解、開かれた質問等）
 - 第9回：教育相談の基本的なスキル②（感情の明確化、共感的応答、直面化等）
 - 第10回：教育相談に役立つ心理的支援①（アサーション、ブリーフセラピー等）
 - 第11回：教育相談に役立つ心理的支援②（行動療法、認知行動療法等）
 - 第12回：教育相談に役立つ心理的支援③（ストレスコーピング、ストレスマネジメント等）
 - 第13回：教育相談のための連携と協働①（保護者との相談、学内での体制づくり等）
 - 第14回：教育相談のための連携と協働②（関係諸機関との連携）
 - 第15回：本講義全体のまとめ
- 最終試験

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート 40%
最終試験 60%
(出席について、原則として3分の2以上の出席を最終試験受験資格とする。)
(6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

教育相談【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等を行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

教育相談、いじめ、不登校、虐待

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けての事前指導として、実習校実習に求められる指導能力の獲得に取り組む。その課題は以下の通りである。

1. 教育実習生としての基本的な心構え、社会的責任の自覚
2. 学習指導に求められる基本的な理論・知識・技術など
3. 生徒指導・学級経営に求められる基本的な理論・知識・技術など

到達目標

- ・教育実習(実習校実習)に臨み、学習指導や生徒指導などの基本的な知識を身につけている。
- ・教育実習(実習校実習)に臨み、学習指導や生徒指導などの基本的な技能を身につけている。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「III類-3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』(756円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

高野和子・岩田康之共編 「教育実習」 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
教育実習及び教員採用に向けての力量形成の課題
- 2回 教育実習生の1日
- 3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)
- 4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)
- 5回 学級づくりと学級経営案(合同授業)
- 6回 特別活動の模擬授業について(4年生の実演)
- 7回 教科教育の模擬授業について(4年生の実演)
- 8回 子どもの問題行動と生徒指導(外部講師の講演)
- 9回 教科の模擬授業(合同授業)
- 10回 特別活動の模擬授業 その1
- 11回 特別活動の模擬授業 その2
- 12回 学級づくりの実際(外部講師の講演)
- 13回 教育相談のロールプレイ
- 14回 教科に関するフィールドワーク(合同授業)
- 14回 学級経営・学級づくりの実際(外部講師の講演)
- 15回 全体のまとめと教育実習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(60%) 学習指導案(特活、教科)などの提出物の評価(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業での学習内容については必ず教育実習ノートに清書をおこなうこと。
(授業中に実習ノートに記入することは決してしないこと)

模擬授業の前には必ず指導案を作成し、十分な準備をしてから模擬授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業は全回出席が原則。万一、やむを得ない事情で欠席した場合にはすみやかに教職資料室で補講を受け、学習内容を実習ノートに記載すること。

一回でも欠席し、補講を受けてその内容の学習を行っていない場合には、授業の単位が出ないこともあるので十分に留意すること。
新型コロナウイルス感染症の拡大にによる授業方法の変更などがある場合はアナウンスするのでよく掲示を見ておくこと。

教育実習 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は実習校実習の約半年前に行われる授業であり、これまでの教職課程の授業科目や学校現場体験、指導体験を基盤にして、実習校実習に必要な実践的指導力の修得をめざす科目です。
皆さんには半年後に迫っている実習校実習に向けて、真摯な態度で授業に臨むことを期待します。

キーワード /Keywords

模擬授業、実践的指導力

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 / 4年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

この科目は、教職課程履修ガイドのカリキュラムマップの「III-4」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 オリエンテーション 【勤務】 【連絡】
 - 2回 中学校における教育実習に関する諸注意(外部講師による講演)
 - 3回 高等学校における教育実習に関する諸注意(外部講師による講演)
 - 4回 教育実習に向けての課題の整理(教科の授業、生徒指導、特別支援教育)
 - 5回 実習校実習② 【教育実習指導】
 - 6回 実習校実習③ 【教育実習指導】
 - 7回 実習校実習④ 【教育実習指導】
 - 8回 実習校実習⑤ 【教育実習指導】
 - 9回 実習校実習⑥ 【教育実習指導】
 - 10回 実習校実習⑦ 【教育実習指導】
 - 11回 実習校実習⑧ 【教育実習指導】
 - 12回 実習校実習⑨ 【教育実習指導】
 - 13回 実習校実習⑩ 【教育実習指導】
 - 14回 実習校実習⑪ 【教育実習指導】
 - 15回 教育実習反省会と教職総合演習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習 1 などの復習と、前回までの指導内容・確認事項をチェックしておく。
事後は、教育実習の反省点と自己教育の課題(学習指導、生徒指導)を教育実習ノートに記載すること。

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 /Class クラス 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める。

この科目は、教職課程履修ガイドのカリキュラムマップの「III類-4」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 オリエンテーション 【勤務】 【連絡】
 - 2回 中学校における教育実習に向けての諸注意(外部講師の講演)
 - 3回 高等学校における教育実習に向けての諸注意(外部講師の講演)
 - 4回 教育実習に向けての課題の整理(学習指導、生徒指導、特別支援教育)
 - 5回 実習校実習② 【教育実習指導】
 - 6回 実習校実習③ 【教育実習指導】
 - 7回 実習校実習④ 【教育実習指導】
 - 8回 実習校実習⑤ 【教育実習指導】
 - 9回 実習校実習⑥ 【教育実習指導】
 - 10回 実習校実習⑦ 【教育実習指導】
 - 11回 実習校実習⑧ 【教育実習指導】
 - 12回 実習校実習⑨ 【教育実習指導】
 - 13回 実習校実習⑩ 【教育実習指導】
 - 14回 実習校実習⑪ 【教育実習指導】
 - 15回 教育実習反省会(実習校実習の反省点の整理と教職実践演習の課題)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習1や前回までに内容の復習
事後は、扱った内容を教育実習ノートに記載する

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと
教育実習2と同様です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育実習2と同時履修(教育実習の時間数の単位換算のため)。
教育実習3のみ受講の場合は教育実習2で指示が行われることがあるので、教職掲示板や教育実習2の内容を確認するようにしてください。

キーワード /Keywords

教職実践演習 (中・高) 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業のねらい

本授業では、在学中に学んだ教職に関する総合的な知見と教育実習で得られた教科指導等の基礎的指導力をもとに、教職課程履修のプロセスで見えてきた自己の資質能力の現段階の達成度と課題をそれぞれ把握させ、実践的指導力を発揮する教員としての最低限の資質能力についての確認と定着を図る。

授業内容としては、主に、①教員としての使命感、責任感、教育的愛情 ②教師に求められる社会性と対人関係能力、③生徒理解と学級経営、④教科指導、の4つの領域において、自分自身の自己教育の課題を踏まえた学習を進めるとともに、「教員としての最低限の資質」の獲得に向けての各個人で自己教育の課題を設定し、その成果について発表する取り組みを進める。

本科目の到達目標は以下の通りである。

- ① 教師に求められる使命感、責任感、コンプライアンスの能力を身につけている。
- ② 教職員や保護者と連携、協同していくために必要な対人関係能力を身につけている。
- ③ 生徒指導と学級経営に必要な知識と指導力に身につけている。
- ④ 専門教科及び道徳に関する授業をしていくための基礎的な知識と指導力に身につけている。

なお、本授業は「教職に関するカリキュラムマップ」で、Ⅲ類の4 に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

適宜、ワークシート、レジュメ、資料などを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーションとプレゼンテーション方法の説明
- 2回 教師の使命感、責任、教育的愛情に関するグループワーク
- 3回 生徒とのコミュニケーション能力を高めるためのグループワーク
- 4回 教員に求められる対人関係能力に関するグループワーク
- 5回 地域・保護者との連携に関するグループワーク
- 6回 教科の模擬授業 その1 三つの教科に分かれての模擬授業とグループワーク(中学校)
- 7回 教科の模擬授業 その2 三つの教科に分かれての模擬授業とグループワーク(高等学校)
- 8回 教科の模擬授業 その3 三つの教科に分かれての模擬授業と講師からのコメント
- 9回 学級経営案の報告と検討(教育実習1との合併授業)
- 10回 生徒指導に関するケーススタディ(グループ討論)
- 11回 保護者理解に関するグループワーク その1
- 12回 保護者理解に関するグループワーク その2
- 13回 学校現場でのフィールドワークの報告 その1(教科教育を中心に) 教育実習1との合併授業
- 14回 学校現場でのフィールドワークの報告 その2(教科外教育、生徒指導を中心に)
- 15回 学校現場でのフィールドワークの報告 その3(特別ニーズ教育を中心に)
全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学級経営案 20% フィールドワークレポート 20%
毎回のノートと期末レポート 60% で評価する。
なお、授業を欠席し、補講を受けていない回があれば、10%の減点になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業内容についてはきっちりとノートにまとめて一冊に綴じ合わせておくこと。
模擬授業やフィールドワークの報告には十分な準備をして臨むこと

教職実践演習 (中・高) 【夜】

履修上の注意 /Remarks

本授業が始まるまでに、自己評価シートを記入し、教員としての最低限の資質を獲得していくうえでの自己教育の課題を明確化しておくこと。
。 毎回の授業内容については必ず教職実践演習ノートにまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目はこれまでの教職課程のすべての学習の総決算と言える科目です。
卒業後に教員への道を歩む人だけでなく、他の進路を選択した人も、教員免許状を取得する社会的責任を自覚して、最後まで真摯な態度で授業に臨んでもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教員としての最低限の資質、自己教育力

特別支援教育論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業での概要は以下の通りである。
 ①特別な支援を必要とする子どもの障害特性や心身の発達を理解するとともに、特別な支援を必要とする子どもの教育課程と支援方法について、その背後にあるインクルーシブ教育の理念も踏まえて検討する。
 ②貧困や虐待的な養育環境に置かれている子どもや外国にルーツを持つ子ども、セクシュアルマイノリティの子どもなど、多様な「特別なニーズ」を持つ子どもの抱える問題への理解と支援の課題を考察する。
 ③ 学校での福祉教育や職場体験などで求められる社会福祉施設入所者に対する理解と援助の在り方について、とりわけ認知症の高齢者の問題やその支援の課題について学習する。

到達目標 特別なニーズを持つ子ども、特別支援教育に関する基礎的な知見を修得している。

教科書 /Textbooks

楠 凡之 2012 「自閉症スペクトラム障害の子どもへの援助と学級づくり」 高文研

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文科省特別支援学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画

1. オリエンテーション + 昨年度のテキスト感想レポートの紹介
2. 特別支援教育の教育制度と教育課程
3. 発達障害・軽度知的障害の子どもに対する理解と援助
4. 自閉スペクトラム症の当事者研究
5. 外国にルーツを持つ子どもへの理解と支援 その1 日本語学習支援の取り組み
6. 外国にルーツを持つ子どもへの理解と支援 その2 学力問題とアイデンティティ問題に視点をあてて
7. セクシュアルマイノリティの子ども・青年の抱える生きづらさについて
8. 性の多様性が尊重される学級づくりの課題
9. 肢体不自由・重度心身障害児・者についての理解と支援 (外部講師)
10. 知的障害の特別支援学校での教育実践と支援の留意点(外部講師)
11. 学校における福祉教育の課題 - 高齢者・認知症の問題に視点をあてて(外部講師)
12. 被虐待児に対する理解と指導 - 不安定な愛着の問題に視点をあてて
13. インクルーシブ教育と集団づくり その1 小学校
14. インクルーシブ教育と集団づくり その2 中学校
15. インクルーシブ教育と集団づくり その3 高等学校
全体のまとめ

注 この中の第9回目から第11回目までの授業は「介護等体験事前指導」の授業を兼ねます。
 なお、この4回の事前指導とは別に「介護等体験事前説明会」を7月の中旬に実施します。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート20点(+ボーナス点)、平常点40点(+ボーナス点)、期末レポート 40点
 (6回以上欠席した場合や期末レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とします。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストは早めに読んでレポートにまとめて提出すること。
 介護等体験に行く学生は、9回目から11回目の内容を介護等体験ノートにまとめること。

履修上の注意 /Remarks

特別支援教育論は2019年度入学の学生から、教職課程の学生の必修科目になっています。
 ただし、9回目から11回目の授業については、2018年度以前入学生の「介護等体験事前指導」との合同の授業となる点、ご了解いただきたい。

特別支援教育論【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は全学の教職課程の学生の必修授業であると同時に、人間関係学科の専門教育科目、地域創生学群のスクールソーシャルワーカー課程の専門科目を兼ねています。
そのような多様な興味・関心や背景を持つ学生同士の中での学び合いを期待しています。

キーワード /Keywords

特別支援教育、特別なニーズ、自閉スペクトラム症、セクシュアルマイノリティ、外国にルーツを持つ子ども

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】発達心理学に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』 ミネルヴァ書房 ¥2750

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」

その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問か
- 第2回 胎児期・乳児期の赤ちゃんの発達【知覚】
- 第3回 乳児期の赤ちゃんの認知と言語の発達【認知、言語】
- 第4回 赤ちゃんのもつ能力と生後1年間の変化について
- 第5回 乳児期の人との関係のはじまりについて【発達早期のコミュニケーション】
- 第6回 愛着の形成【愛着、内的作業モデル】
- 第7回 愛着の形成【成人の愛着、愛着の世代間伝達】
- 第8回 まとめ と レポート課題1
- 第9回 乳幼児期のコミュニケーション発達【共同注意】
- 第10回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【表象、心の理論】
- 第11回 児童期における思考の深まり【論理的思考、メタ認知】
- 第12回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第13回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第14回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第15回 まとめ と レポート課題2

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 20% レポート課題 ... 80%

6回以上欠席した場合やレポート課題(2回)を提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくること。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導【夜】

担当者名 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えて考える。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】発達における障害とその支援に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児の心理と指導について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 視覚障害について
- 第6回 聴覚障害について
- 第7回 知覚障害の理解と支援
- 第8回 まとめ・レポート課題1
- 第9回 姿勢・運動の障害について
- 第10回 知的障害について
- 第11回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第12回 発達障害について①【自閉スペクトラム症】
- 第13回 発達障害について②【注意欠如多動症・限局性学習症】
- 第14回 家族支援・地域支援について
- 第15回 まとめ・レポート課題2

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポート含む) ... 20% レポート課題 ... 80%
6回以上欠席した場合やレポート課題(2回)を提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、各自予習してくる。また、授業終了後には配布プリント等を用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯学習学【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、学校教育以外の社会教育（家庭教育を含む）、それを踏まえた学校教育を含む生涯学習の基礎的内容について説明します。その意義や歴史的背景、法制度、国内外の動向について理解を深め、社会教育施設（公民館、図書館、博物館等）の役割・状況についても考えます。

「学習権宣言」で述べられた、成り行き任せの客体から、自らの歴史つくる主体へ、という意味と、それを支援する専門性という視点から、生活課題や地域課題の解決に向けた教育・学習について理解を深めます。

そのことを通して、社会教育、学習活動の支援についての基礎的能力を養います。

授業に含まれる事項は以下の通りです。生涯学習の意義、学習者の特性と学習の継続発展、生涯学習と家庭教育、生涯学習と学校教育、生涯学習と社会教育、生涯学習社会における各教育機能相互の連携と体系化、生涯学習社会の学習システム、生涯学習関連施策の動向、社会教育の意義、社会教育と社会教育行政、社会教育の内容、社会教育の方法・形態、社会教育指導者、社会教育施設の概要、学習情報提供と学習相談の意義等

なお、この科目は、社会教育主事や学芸員資格の必修、教職課程の選択であり、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】

生涯学習に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- 雑誌『月刊 社会教育』旬報社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』日本青年館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 生涯学習・社会教育の意義
- 第2回 生涯学習ボランティア -学習への支援と学習成果の活用-
- 第3回 社会教育の内容・方法・形態-学級・講座の企画
- 第4回 成人教育の国際的動向 -日本の特質と学習権-
- 第5回 社会教育と生涯学習関連の法制度
- 第6回 社会教育の歴史と発展-生涯学習関連施策の動向
- 第7回 社会教育行政と事業 -学習相談、サービス、学習情報の提供
- 第8回 社会教育施設 -地域公民館
- 第9回 公民館の実践 -社会教育と地域づくり
- 第10回 社会教育指導者と事業の連携・発展
- 第11回 社会教育施設-博物館
- 第12回 社会教育施設と生涯学習施設
- 第13回 社会教育施設-図書館
- 第14回 図書館、博物館における学習・グループ活動
- 第15回 住民の力量形成と地域づくり -家庭教育・学校教育・社会教育の連携-

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート...70% 課題レポート...30%
6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に、これまでや次回、今後の講義テーマ・内容について案内するので、その指示に従い準備してのぞむこと

履修上の注意 /Remarks

学芸員資格や社会教育主事資格として受講する場合、必修科目の基本科目としてこの授業を先に受講するか、他の関連科目とあわせて受講すると、資格科目の理解が深まります。教職に関する科目として受講する場合、学校との連携、学校教育以外の教育活動を意識して受講すると視野が広がります。専門科目として受講する場合、権利としての社会教育・生涯学習という視点で考えると、理解が深まります。

生涯学習学 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公民科教育法 A 【夜】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現在の公民科教育の位置づけや他社会科学科目との関連について理解し、教育方法論や授業理論について学習することで、公民科科目における理論と実践に関する能力の育成を目指す。また、現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材開発につなげる。

〈到達目標〉

- ・ 公民科教育の位置づけや他社会科学科目との関連に関する理論と実践に関する基礎的な知識を有している。
- ・ 現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材開発につなげることの意義と課題について理解している。
- ・ 公民科の教員に必要な基本的知識や資質、学習指導要領における公民科の教育課程における位置づけと役割について理解している。
- ・ 学習指導案の作成やグループでの討論を通して、今、求められる当該教科の実践指導のあり方を習得している。
- ・ 教授活動に必要なとされる具体的な技能や方法を扱い、理論的かつ実践的に考えていくことができる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- ・ 「高等学校学習指導要領解説 公民編」文部科学省（平成30年告示）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 二谷貞夫・和井田清司 編 『中等社会科の理論と実践』 学文社 2007
- ・ 東京都高等学校公民科「倫理」「現代社会」研究会 編 『新科目「公共」「公共の扉」をひらく授業事例集』 清水書院 2018
- ・ 他に授業で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 教育の目的と公民科の扱い
 - 第2回：学習指導要領と改訂のポイント
 - 第3回：公民科授業の構成 年間計画と単元計画
 - 第4回：公民科科目の取り扱いと内容 公共（現代社会）
 - 第5回：公民科科目の取り扱いと内容 倫理
 - 第6回：公民科科目の取り扱いと内容 政治経済
 - 第7回：公民科科目における持続可能な開発のための教育
 - 第8回：公民科の授業づくり 教材研究・教材活用・グループワークについて
 - 第9回：公民科の授業づくり 学習評価と授業評価・生徒観について
 - 第10回：公民科の授業づくり 授業研究・授業記録を読む（1）実践と省察
 - 第11回：公民科の授業づくり 授業研究・授業記録を読む（2）主体的・対話的で深い学びについて
 - 第12回：単元計画と学習指導案1 指導案の作成と留意点
 - 第13回：単元計画と学習指導案2 年間計画と指導案作成
 - 第14回：授業指導案作成
 - 第15回：授業指導案作成・社会科教師に求められる資質・能力
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ 30%
- 最終試験・・・ 30%
- 学習指導案作成・・・ 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習 学習指導要領解説を読み込んでおく
- 事後学習 講義で扱った内容について振り返り、実践と理論について考察する

履修上の注意 /Remarks

- 課題や発表について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
- 出席は10回以上している事が単位認定試験を受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディスカッションをとり入れるため、積極的な参加を望む。

公民科教育法 A 【夜】

キーワード /Keywords

公民科教育法B 【夜】

担当者名 /Instructor 吉村 義則 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、公民科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。

◎到達目標

- ・ 公民科教育の位置づけや他社会科学科目との関連に関する理論と実践に関する発展的な能力を有している。
- ・ 現代社会（公共）・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材を開発することができる。
- ・ 公民科の教員に必要な基本的知識や資質、学習指導要領における公民科の教育課程における位置づけと役割を踏まえて学習指導案を作成することができる。
- ・ 学習指導案の作成やグループでの討論を通して、今、求められる公民科教育の実践指導のあり方を習得している。
- ・ 教授活動に必要なとされる具体的な技能や方法を十分に踏まえた授業を展開できる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

「高等学校学習指導要領解説 公民編」文部科学省（平成30年告示）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 イン트로ダクション
- 第 2回 新学習指導要領における公民科の位置づけ
- 第 3回 社会科学的手法について
- 第 4回 シティズンシップと公民科教育
- 第 5回 授業実践及びICT活用による教科指導について
- 第 6回 学習指導案作成上の留意点
- 第 7回 学習指導案の作成
- 第 8回 模擬授業（参加型授業の展開）
- 第 9回 模擬授業（資料活用法、オリジナル教材の作成）
- 第 10回 模擬授業（公共）
- 第 11回 模擬授業（政治・経済）
- 第 12回 模擬授業（倫理）
- 第 13回 模擬授業（社会参加の授業理論）
- 第 14回 模擬授業（主権者教育）
- 第 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ◎授業への参加・貢献度（出席・意見発表・質疑等） 70%
- ◎模擬授業の際に提出する指導案 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ◎教材研究や指導案の準備については適宜打ち合わせ等を行う。

履修上の注意 /Remarks

- ◎積極的な授業参加が望まれる（授業後に感想用紙提出）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然史へのいざない【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)
柳川 勝紀 / Katsunori YANAGAWA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0001F	◎		○		○
科目名	自然史へのいざない				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

北九州市は化石の一大産地であり、多様で豊かな自然に囲まれた都市であるとともに、古くより交通の要衝として栄えてきた。本科目は北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）を舞台とした、学芸員および北方・ひびきの両キャンパスの教員によるオムニバス講義である。多様な生命をはぐくんできた地球の歴史、そして人間の歴史に関する基礎的な知識を身に付けながら、学芸員や教員のそれぞれの分野の最先端のトピックについて学習し、北方・ひびきの両キャンパスの交流を通して、より多角的な視点から自然と歴史について学ぶ。

到達目標

- 【知識】 自然史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 自然史についての考え方をを用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】 自然史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。関連のテーマに関して積極的に情報を仕入れ、自ら学び続けることができる。

本講義はほぼ遠隔授業（ライブもしくはオンデマンド）です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。なお、ライブ授業の回であっても、録画したものを後から視聴し、課題に取り組むことができます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義のテーマは下記の通り。

[ラ] ライブ授業、[オ] オンデマンド配信授業、[対] 対面授業、()内は担当者、【 】はキーワード

- 1回 [ラ] ガイダンス (日高)
- 2回 [ラ] 生命の起源を探る (柳川) 【極限環境】 【微生物】
- 3回 [オ] 植物を鍵とした生物間相互作用 (真鍋) 【共生】 【食物連鎖】
- 4回 [オ] 北九州市周辺の地質と化石の多様性について (太田) 【化石】 【ジオパーク】
- 5回 [オ] 博物館を楽しむ：いのちのたびで知る脊椎動物進化 (大橋) 【恐竜】 【脊椎動物】
- 6回 [オ] 鳥類の生態と進化 (中原) 【適応放散】 【進化的軍拡競争】
- 7回 [オ] 海産無脊椎動物の行動生態学 (竹下) 【無脊椎動物】
- 8回 [オ] 多様性生物学と進化 (養島) 【進化】 【生物多様性】
- 9回 [オ] アンモナイトの古生物学 (御前) 【古生態学】 【異常巻アンモナイト】
- 10回 [オ] 水辺の隣人、両生類の多様性と保全 (江頭) 【絶滅危惧】 【ホットスポット】
- 11回 [対] 博物館見学 (日高)
- 12回 [ラ] 人新世におけるヒトと植物の関係 (河野) 【人新世】 【科学史】
- 13回 [ラ] 北九州の近代史 (藤田) 【軍都】 【SDGs未来都市】
- 14回 [ラ] 課題研究・ぼけっとミュージアム (日高)
- 15回 [ラ] まとめ (日高)

自然史へのいざない【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 60%
- ・ 授業への積極的取り組み (質問・ディスカッション等) 20%
- ・ 博物館見学レポート 10%
- ・ まとめレポート 10%

上記の提出が全くない場合は、評価不能 (ー) です。※北方生のみ、ひびきの生除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前にキーワードについて自分で調べておくこと。

事後学習：授業中に与えられた課題に沿って学習し、Moodle (e-learning システム) で提出すること。

<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第11回は12月3日 (土) 午後3限または4限に博物館にて見学の予定。
 - ・ 博物館までの交通費は自己負担。保険加入 (学研災など) の状況を確認しておくこと。
 - ・ 第14回はグループワークを行うのでできるだけライブで参加すること。
- 第1回に詳細について説明するので必ず参加 (視聴) すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：

13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

生命と環境【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0100F	◎		○		○
科目名	生命と環境				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

到達目標

- 【知識】多様な生命とそれを生み出した環境を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】多様な生命とそれを生み出した環境について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

※本講義は遠隔(オンデマンド)授業で行います。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)990円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-------------------------------|-----------------|
| 1回 ガイダンス(日高・中尾) | |
| 2回 自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾) | 【物質の単位】【自然科学】 |
| 3回 自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾) | 【元素】【原子】【超新星爆発】 |
| 4回 自然科学の基礎(3)生命と分子(日高) | 【DNA】【タンパク質】 |
| 5回 生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高) | 【種】【学名】【系統樹】 |
| 6回 生物の多様性(2)ウイルスは生物か(日高) | 【ウイルス】 |
| 7回 生物の多様性(3)単細胞生物と多細胞生物(日高) | 【細胞膜】【共生説】 |
| 8回 生物の多様性(4)生態系と進化(日高) | 【食物連鎖】【絶滅】【進化】 |
| 9回 生物の多様性(5)多様な生命(日高) | 【生物多様性】 |
| 10回 遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高) | 【突然変異】【遺伝学】 |
| 11回 遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高) | 【有性生殖】【減数分裂】 |
| 12回 科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾) | 【血液型】【星座】 |
| 13回 科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾) | 【太陽活動】【地球温暖化問題】 |
| 14回 科学的な方法とは(3)人類の起源(日高) | 【ミトコンドリア】 |
| 15回 質疑応答とまとめ(日高) | |

生命と環境 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 70%
 - ・ 授業への積極的取り組み（質問・ディスカッション等） 20%
 - ・ まとめレポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能(一)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

生命科学入門 【夜】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0200F	◎		○		○
科目名	生命科学入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約37兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで(1)体はどのような物質からできているか、(2)遺伝子は体の何をどのように決めているのか、(3)細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、(4)体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

到達目標

- 【知識】生命科学を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】生命科学の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】生命科学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

※本講義は遠隔（オンデマンド）授業で行います。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|----------------------|---------------------|
| 1回 | ガイダンス | |
| 2回 | 体を作る物質(1)細胞の構成成分 | 【多糖・脂質・タンパク質・核酸】 |
| 3回 | 体を作る物質(2)食物分子と代謝 | 【酵素】【触媒】 |
| 4回 | 体を作る物質(3)遺伝物質DNA | 【二重らせん】 |
| 5回 | 体を作るしくみ(1)遺伝子が働くしくみ | 【RNA】【セントラルドグマ】 |
| 6回 | 体を作るしくみ(2)遺伝子でできること | 【ゲノム】【体質】【遺伝病】 |
| 7回 | 体を作るしくみ(3)発生と分化 | 【転写因子】【クローン】【iPS細胞】 |
| 8回 | 細胞の社会(1)そのとき染色体は | 【細胞周期】【染色体異常】 |
| 9回 | 細胞の社会(2)細胞のコミュニケーション | 【受容体】【シグナル分子】 |
| 10回 | 細胞の社会(3)社会の反逆者・がん | 【がん遺伝子】 |
| 11回 | 関連ビデオ鑑賞 | |
| 12回 | 体を守るしくみ(1)寿命と老化 | 【早老症】【テロメア】 |
| 13回 | 体を守るしくみ(2)免疫とウイルス | 【ウイルス】【抗体】 |
| 14回 | 体を守るしくみ(3)私たちと微生物 | 【腸内細菌】 |
| 15回 | 質疑応答・まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 70%
 - ・ 授業への積極的取り組み(質問・ディスカッション等) 20%
 - ・ まとめレポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能(-)です。

生命科学入門 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodle (e-learning システム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。
遠隔授業の予定です。詳細については第1回目にMoodle上で説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
3. すべての人に健康と福祉を

安全保障論【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
世界(地球)科目

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS111F	◎		○		○
科目名	安全保障論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連	

授業の概要 /Course Description

安全保障について多角的に検討する授業です。中盤からは防衛問題が中心となります。安全保障・防衛に関心がある受講者はもちろんですが、もともとあまり関心がない、全く知らない、という受講者でも理解できるように丁寧な解説を心がけます。ぜひ、受講してください。

動画は、各回、編集カットをほどこし、BGMやテロップを付け、youTube仕様で配信します。なるべく楽しく学習できるような動画を作りたいと思っています。

到達目標

- 【知識】安全保障を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】安全保障上の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】安全保障に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は15回で、1回45～60分程度、動画視聴してもらいます。以下は、昨年度配信した動画タイトルですが、今年度は、多少、整理します。(19タイトルありますが、19回授業があるわけではありません)

- ガイダンス / 安全保障の考え方その1 (抑止について)
- 安全保障の考え方その2 (国際環境について)
- 安全保障とは何か / 専守防衛と日本
- 安全保障と外交
- 自衛隊の海外派遣
- 安全保障の非軍事的な側面
- 日米同盟と自衛隊
- 自衛隊の任務
- 防衛出動 / 存立危機事態と集団的自衛権
- 海上警備行動
- 企画動画
- 安全保障流の地図の読み方
- スクランブル
- 弾道ミサイル防衛 (BMD)
- イージス・アショアと代替

成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行います。
小テスト(6回)100%、ただし、小テストの実施回数は若干前後する可能性があります。

※小テストを一度も受験していない場合、もしくはその総合得点が0点の場合、「評価不能(-)」となります。

安全保障論【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので、質問や感想がある場合、書き込んでください。また、動画のコメント欄も活用できます。

頻繁に小テストがあるので、何回でも動画を視聴して、理解することが事後学習ですが、関連動画の視聴もお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、面白い動画づくりを心がけます。

キーワード /Keywords

国際社会と日本【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL004F	◎		○		○
科目名	国際社会と日本				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

戦後日本政治史を講じる。

[到達目標]

【知識】国際社会と日本の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】国際社会と日本の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】国際社会と日本のあり方に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

この講義はメディア授業です。毎週、決められた時間にMoodleから受講してください。教科書の他、必要な資料をMoodleにアップすることがあります。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)、定価税込み2,160円を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 戦後日本外交の構図
- 3回 占領下日本の外交1【日本国憲法】【占領改革】
- 4回 占領下日本の外交2【サンフランシスコ講和】【日米安保条約】
- 5回 独立国の条件1【自主外交】【二大政党制】
- 6回 独立国の条件2【日米安保条約改定】
- 7回 経済大国外交の原型1【高度経済成長】
- 8回 経済大国外交の原型2【沖縄復帰】
- 9回 自立的協調の模索1【テタント】
- 10回 自立的協調の模索2【石油危機】
- 11回 「国際国家」の使命と苦悩1【日米同盟】
- 12回 「国際国家」の使命と苦悩2【経済摩擦】
- 13回 冷戦後の外交1【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 冷戦後の外交2【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% テスト 50%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
- ・ レポートと試験のどちらか一方でも、受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照合しながら、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

グローバル化する経済【夜】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN001F	◎		○		○
科目名	グローバル化する経済				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題に取り組むことが求められます。

（到達目標）

【知識】グローバル化する経済を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断】グローバル化する経済について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【行動力】グローバル化社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション－グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【保護貿易】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【経済連携協定】
- 4回 企業の海外進出と立地（1）【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地（2）【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動の関係について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 グローバル化とファイナンス(1)【金融市場】【外国人投資家】
- 9回 グローバル化とファイナンス(2)【資産運用】【行動ファイナンス】
- 10回 比較文化心理学（1）【文化と認知】
- 11回 比較文化心理学（2）【文化と感情】
- 12回 国際労働移動（1）【日本における外国人労働者の受け入れ】【賃金決定理論の基礎】
- 13回 国際労働移動（2）【移民と所得分配】【移民の移動パターン】【移民の経済的同化】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とする。

グローバル化する経済【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
世界(地球)科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントはMoodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDG 8. 働きがい・経済成長

アカデミック・スキルズI【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1学期未修得者再
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の2点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。

(到達目標)

- 【技能】 大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】 異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への取り組み（課題・レポートを含む） … 100%
ただし、情報リテラシー（情報モラル、情報セキュリティ、文書作成、表計算、グラフ）の必須課題に合格しなければならない。なお、課題やレポート等の提出が全くない場合は、評価不能（-）です。

アカデミック・スキルズI【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

情報社会への招待【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF100F		◎	○		
科目名	情報社会への招待		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は【遠隔】授業（オンデマンド配信など）です。授業動画を視聴するための環境を準備するか、大学内施設を利用するようにしてください。

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

(到達目標)

【技能】情報社会を正しく理解するために必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】情報社会の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

情報社会への招待【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどのようにして情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置, 出力装置, 解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU, メモリ, 記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション, 文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換, パケット交換, LAN, IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン, Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権, コンテンツのデジタル化, クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

以上の観点から評価した結果が「0点」の場合は「評価不能(一)」と表示されます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます(必要な学習時間の目安は予習60分, 復習60分)。

その他, ICTに関するニュースを視聴するなど, 日常的, 能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ, SDGs 4. 質の高い教育を, SDGs 8. 働きがい・経済成長, SDGs 9. 産業・技術革命, SDGs 10. 不平等をなくす, SDGs 17. パートナリーシップ

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 福田 恭介 / Kyosuke Fuikuda / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY003F			◎	○	○
科目名	現代人のこころ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

現代を生きているわれわれの「こころ」について考えていきます。「こころ」というと、通常は、笑ったり、悲しんだり、怒ったりといったことを引き起こしているものと思いがちです。

「こころ」を科学的に調べるにはどうすればいいのでしょうか？医療現場のように血液を採集してその人の「身体の状態」はわかっても、その人の「こころ」までがわかるわけではありません。

「こころ」は目に見えるものではないので、「こころ」を知るために心理学では行動を観察することから始めます。観察する対象は、行動だけでなく、質問にハイ・イエで答える単純なものから、実験室でモニター画面を見て答えてもらったり、そのときの身体の反応を測ったりするものまでさまざまです。心理学の研究者は、さまざまな側面からどうすれば「こころ」のしくみが明らかになるか実験や研究を続けています。

「こころ」はそれだけではありません。目の前のテーブルに置かれたリンゴを見て指さすこと、これも「こころ」が引き起こしているものです。なぜなら、目の網膜に映ったリンゴを、目の網膜の中にあるものではなく、あそこのテーブルの上にあるものと判断しているからです。さらに、リンゴは真っ赤で、噛むと口中に果汁が染みわたり、美味しそうだと思うこと、これも「こころ」の一部です。

こういった基礎的な面を明らかにした上で、「こころ」の問題で苦しさや困難を抱えている人たちを支援していこうとするのです。この授業では、さまざまな側面から「こころ」がどのように見えるのかについて考えていきます。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代人のこころを取り巻く諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自立的行動力】現代人のこころを取り巻く課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

遠隔授業が必要になった場合は、インターネットで北九大Moodleに接続し、そこにある授業資料をよみ、授業動画を視聴した後、授業に対する所定のコメントを翌日まで提出することが求められます。授業動画については、資料内に記載されたウェブサイト (URL) をクリックすることで視聴できます。

教科書 /Textbooks

教科書はとくに指定しませんが、レポートを書くには下記の参考書を読むことで理解が深まります。

現代人のこころ【夜】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 行場次朗・箱田裕司(2014)新・知性と感性の心理 - 認知心理学最前線 - 福村出版
- 福田恭介(2018)ペアレントトレーニング実践ガイドブック - きっとうまくいく。子どもの発達支援 あいり出版
- 神奈川LD協会編(2006)ふしぎだね!?LD(学習障害)のおともだち ミネルヴァ書房
- 丸野俊一・子安増生(1998)子どもが「こころ」に気づくとき ミネルヴァ書房
- 三浦麻子・佐藤博(2018)なるほど!心理学観察法 北大路書房
- 奥村隆 息子と僕のアスペルガー物語 <https://gendai.ismedia.jp/list/serial/okumura>
- 諏訪利明・安倍陽子編(2006)ふしぎだね!?自閉症のおともだち ミネルヴァ書房
- 諏訪利明・安倍陽子編(2006)ふしぎだね!?アスペルガー症候群「高機能自閉症」のおともだち ミネルヴァ書房
- 高山恵子編(2006)ふしぎだね!?ADHD(注意欠陥多動性障害)のおともだち。 ミネルヴァ書房
- やまだようこ(1987)ことばの前のことば 新曜社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: 序論：心理学とは：さまざまな「こころ」の側面
- 2: 知覚1：ものが見えるとは？
- 3: 知覚2：色はなぜ見える？
- 4: 知覚3：形はなぜ見える？
- 5: 知覚4：先天性盲人の開眼手術後の知覚世界
- 6: 目1：目の動きを観察して「こころ」を探る
- 7: 目2：まばたきを観察して「こころ」を探る
- 8: 注意1：どうして騒がしい中でも会話ができるのか？
- 9: 注意2：意外と見落としやすい注意の機能
- 10: 記憶1：数秒間の記憶によってストーリーは作られる
- 11: 記憶2：昔の記憶は忘れることはない
- 12: 発達1：「こころ」どのように芽生えてくる？
- 13: 発達2：「こころ」はどのようにして人とやりとりできる？
- 14: 発達3：発達に苦手さを抱えるのはなぜ？
- 15: まとめ：いろいろな「こころ」の側面

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のコメント(15回)：30点
レポート(1回)：30点
期末試験：40点

6回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：Moodleにあげた資料を読み、資料内のURLをクリックして動画を視聴してください。
事後：授業で取り上げた内容についてコメントを書いてください。

レポート：指定した参考書の中からもっとも関心のある領域を読んで、所定の書式のレポートに5,000字程度で要約し、200字程度のコメントを書いてください。図書館には1冊しか配架していないので生協で購入してください。レポートを書くのは前期で1回限りです。書式やメ切については最初の授業で紹介いたします。

履修上の注意 /Remarks

1. 授業を聞いて毎回コメントを書いてもらいます(事後学習)。
2. 次の授業時間、書かれたコメントの一部には回答したいと思います。
3. 配付資料やコメントへの回答には、関連する本やウェブサイトを紹介いたしますので、それに目を通すと理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に積極的に参加できるようないろいろな仕掛けを用意したいと思います。

キーワード /Keywords

知覚, 目の動き(眼球運動, 瞳孔運動, 瞬目), 選択的注意, 注意の見落とし, 短期記憶, 長期記憶, ワーキングメモリ, 心の発達, 発達障害

社会哲学入門 【夜】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR110F			◎		
科目名	社会哲学入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

社会哲学とは、平たく言えば、「社会って何なの？」に答える学問です。哲学の一つのヴァリエーションです。西洋の哲学は、2500年以上も前に始まったと言われます。そのあいだに、社会の形もさまざまに変化してきました。今日の社会は、大戦以前の社会とは違いますよね。社会の変化に応じて、哲学が提示する答え（理論）も変化してきました。それでは、これまでにはどんな社会があり、哲学はそれをどのように説明してきたのでしょうか？この問いを考えていくのが本講義です。

今年度は、まずは、社会の構成要素である「人間」と「共同体」を、西洋哲学の歴史を辿りつつ考えます。これは基礎編ですね。次に、現代に目を移し、現代に特有の社会的な事象とそれに答える哲学的理論（ジェンダー論、フェミニズム論、優生思想、正義論など）を見ていき、私たちが直面する社会のあり方とそこに潜む問題を考察します。こっちは、応用編です。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》哲学的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ ○プラトン『国家』(上下), 岩波文庫
- ・ 重田園江『社会契約論 ホッブズ、ヒューム、ルソー、ロールズ』, ちくま新書
- ・ S. サリー『ジュディス・バトラー』, 青土社
- ・ 米本昌平『優生学と人間社会』, 講談社現代新書
- ・ ○植村邦彦『市民社会とは何か 基本概念の系譜』, 平凡社新書
- ・ 神島裕子『正義とは何か』, 中公新書

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

社会哲学入門 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン：哲学って何？
- 第2回 【古代】人間って何？①：（プラトン、アリストテレス）
- 第3回 【古代】共同体って何？①：（プラトン、アリストテレス）
- 第4回 【中世】人間って何？②：（アウグスティヌス）
- 第5回 【中世】共同体って何？②：（アウグスティヌス）
- 第6回 【近代】共同体って何？③：（ホッブス、ロック、ルソー）
- 第7回 【近代】人間って何？③：（カント）
- 第8回 【近代】資本主義って何？（マルクス）
- 第9回 【現代】公共性って何？（ハーバーマス）
- 第10回 【現代】正義って何？（ロールズ）
- 第11回 【現代】ケアって何？
- 第12回 【現代】優生思想って何？
- 第13回 【現代】フェミニズムって何？
- 第14回 【現代】ジェンダーって何？
- 第15回 確認テスト

*（ ）の中は、その回に扱う主な思想家ですが、それ以外の思想家も扱います。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の小テスト 65%
- ・ 確認テスト 35%

* 小テストを4回欠席した場合は、評価不能（ - ）となります。
* 確認テストを受験しない場合も、評価不能（ - ）となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、小テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクション（導入）ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります（今までそうでしたので）。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学、社会哲学

文化を読む【夜】

担当者名 /Instructor 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科, 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター
 生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科, 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科
 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT001F			◎		○
科目名	文化を読む				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

文化を研究するうえで、解釈する＝読む行為は、分野をこえる基本的な営みである。本講義では、さまざまな人間の表現をとりあげて、人文的な知見からどのようにそれが読み解けるのかを示していく。文学研究、宗教研究、異文化間教育といった専門的知見から、その基本的な知識と方法を提示してみたい。“いま”、“ここ”にいる“わたし”にとって、異文化は時空をこえてひろがっている。そのことに鋭敏になるための気づきを用意するので、受講者は文化を読み解く柔軟な視点・姿勢を獲得してほしい。

◎表象

人間は情報を共有するために様々なメディアを通じた表現活動をおこなう。本講義ではそれを、表象(representation)とよび、理解と誤解の源泉として位置付けてみよう。本講義では、イメージとして生み出される表象をとりあげて、歴史社会的な文脈のなかで読み解いてみたい。

◎宗教

宗教は文化の重要な構成要素であり、人間社会の価値観と密接な関係にある。我々にとってなじみ深い神道を取り上げ、他宗教との比較の観点を交えながらわかりやすく講義したい。

◎日本近現代文学および出版文化

日本の文学・出版物とはいえ、読めばわかるというものではない。明治・大正・昭和時代ともなれば、もはや異文化である。同時代の文化について学びながらテキストと対話する基本姿勢を身につけてもらいたい。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】文化について多様な考え方を理解し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

特定のテキストは使用しない。授業担当者が必要に応じて資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が適宜指示する。

文化を読む【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 表象概念の説明
- 第3回 表象を読む①描かれた〈日本人〉-明治期風刺画をとりあげて-
- 第4回 表象を読む②描かれた〈日本〉-ジャポニズムの流行をとりあげて-
- 第5回 表象を読む③演じられた〈日本人〉-オペラ『蝶々夫人』をとりあげて-
- 第6回 表象を読む④演じられた〈日本人〉-近代から現代へ-
- 第7回 表象を読む⑤演じられた〈日本人〉-大衆文化のなかの自画像-
- 第8回 表象を読む⑥自己表象としての〈日本〉〈日本人〉-オリンピックを例として-
- 第9回 神社の成立① 神社建築成立以前の神社
- 第10回 神社の成立② 神社の成立年代
- 第11回 日本の神 -神教との比較を通して
- 第12回 罪・戒律・禁忌
- 第13回 乙-「陽だまりの詩」の解釈
- 第14回 幕末・明治の出版物（西南戦争風刺画を知る）
- 第15回 幕末・明治の出版物（西南戦争風刺画を読み解く）

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート=100%（表象、宗教、文学に関する3つのレポートすべてを提出しなければ、評定不可で成績は「-」とする）
各回において、課題コメントの提出によって出席（視聴）を確認する。提出状況は成績に加味される。なお、成績評価の方法、レポート・課題の提出方法については、担当教員ごとに注意事項など指示が出されることがあるので、それにしたがうこと。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習については、授業担当者が講義中に指示する。
事後学習は、各回の授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

私語など、講義を妨げる行為は厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修等に関する質問は、コーディネーターの河内に質問すること。
講義内容に関する質問は、各回の授業担当教員に質問すること。

キーワード /Keywords

日本近現代文学、宗教、メディア

現代正義論【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR003F			◎		
科目名	現代正義論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代社会における正義の問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

(遠隔授業)

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想 第2版』（ミネルヴァ書房、2015年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

現代正義論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ～ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ～ 本講義の概観
- [第3回～第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ～ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ～ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ～ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ～ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ～ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ～ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ～ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ～ ノージックのリパタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ～ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ～ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ～ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ～ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

SDGs10. 不平等をなくす SDGs16. 平和と公正 ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

倫理思想史【夜】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR005F			◎		
科目名	倫理思想史		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

倫理学って何でしょうか？倫理学とは、私たちが行為する際の規範や義務、行為の指標となる善悪の指針、あるいは、振る舞いのために身に着けるべき性格などを探究する学問です。みなさんは大切な約束をやぶり罪悪感を覚えたことがあるでしょうか。なぜ約束をやぶることは悪いのか（あるいは、なぜ約束を守るべきなのか）、倫理学はそんな問いに答えようとしています。

倫理学の始まりは、古代ギリシアにあると言われ、その後も西洋を中心に発展してきた学問で、約2500年もの歴史があります。本講義では、その歴史を踏まえた上で、基礎的な倫理学を、いくつかの種類（義務論、功利主義、徳倫理学、メタ倫理学）に分類して紹介します。つづいて、現代社会において私たちが直面している倫理的（道徳的）問題を考察する応用倫理学を紹介します。応用の倫理学は、そのまま「応用倫理学」と呼ばれ、安楽死/尊厳死、中絶、環境破壊、ケアの問題などのより身近な問題を扱います。さまざまな行為の原理を知ってもらい、より善い人生を歩む糧にさせていただくことが、本講義の目的となります。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》倫理思想史における課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 柘植尚則編『入門・倫理学の歴史 24人の思想家』, 梓出版社
- ・ 柘植尚則『プレップ倫理学』, 弘文堂
- ・ ○中島義道『悪について』, 岩波新書
- ・ 品川哲彦『倫理学入門-アリストテレスから生殖技術、AIまで』, 中公新書
- ・ 見玉聡『実践・倫理学: 現代の問題を考えるために』, 勁草書房

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

倫理思想史【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 【基礎】倫理学って何？
- 第3回 【基礎】義務論って何？(カント)
- 第4回 【基礎】功利主義って何？(ベンタム、ミル)
- 第5回 【基礎】徳倫理学って何？(プラトン、アリストテレス、マッキンタイア)
- 第6回 【基礎】メタ倫理学って何？
- 第7回 【確認テスト①】
- 第8回 【応用】討議倫理学って何？(ハーバーマス)
- 第9回 【応用】生命医療倫理学って何？①
- 第10回 【応用】生命医療倫理学って何？②
- 第11回 【応用】環境倫理学って何？(ネス)
- 第12回 【応用】動物倫理学って何？(シンガー、レーガン)
- 第13回 【応用】ケアの倫理って何？(ギリガン、キテイ)
- 第14回 【応用】情報倫理学って何？
- 第15回 【確認テスト②】

* ()の中は、その回に扱う主な思想家です。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 確認テスト① 50%
- ・ 確認テスト② 50%

* いずれかの確認テストを受験しなかった場合は、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクション(導入)ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります(今までそうでしたので)。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学

戦争論 【夜】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS210F	○		◎		○
科目名	戦争論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

人類の歴史にとり、戦争とは何なのかを深く考えるのがテーマです。戦争形態の変化を歴史の進行に沿って考察していきます。

コロナ対応で、完全に動画配信となります。退屈にならないよう、動画作成に当たって、しっかりと編集カットを行い、BGM、テロップ付きのYouTube仕様で配信するつもりです。(シミュールです。)

到達目標

- 【知識】人間と戦争との関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】人間と戦争との関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回45~60分程度(予定)の動画を視聴してもらいます。以下、昨年度に配信した動画タイトルのリストです。今年度は、多少整理したり、よりパワーアップした新作も作りたいです(できれば)。

- 1 ガイダンス / 戦争から何を学ぶのか
- 2 ホモサピエンスと戦争の起源その1(サルからヒトへ)
- 3 ホモサピエンスと戦争の起源その2(ネアンデルタール人、文明化、戦いの始まり)
- 4 「戦争」の始まり(国家の誕生と絶対主義)
- 5 フランス革命と近代戦
- 6 ナショナリズムの時代と戦争
- 7 厭戦感情と世界大戦
- 8 総力化した戦争
- 9 総力化した戦争その2(塹壕戦の恐怖)
- 10 イデオロギー、プロパガンダ、戦争
- 11 アメリカ的戦争観の影響
- 12 全面化した戦争
- 13 企画動画
- 14 原爆開発と投下
- 15 核兵器と抑止

成績評価の方法 /Assessment Method

1~3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行う。
小テスト(6回)100%、ただし、小テスト実施回数は若干前後する可能性がある。

※小テストを一度も受験していない場合、もしくはその総合得点が0点の場合、「評価不能(-)」となります。

戦争論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので質問はそちらに書き込んでください。また動画のコメント欄に書き込むこともできます。

頻繁に小テストがあるので、動画を何度も見てもらえると事後学習になりますし、勝手に授業とは関係なく「関連動画」が表示されますので、それも参考にしてください。

履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、動画内容を工夫したいと思います。

キーワード /Keywords

市民活動論 【夜】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE001F	○			◎	○
科目名	市民活動論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしなが授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。

「SDGs」の目標の中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

（到達目標）

【知識】市民活動を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション】他者と協働して、市民活動に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【行動力】市民活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 検討の枠組みについて
- 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
- 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
- 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
- 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
- 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
- 8回 市民活動の<再生>② - 市民
- 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
- 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
- 11回 中間まとめ
- 12回 北九州市における市民活動のうねり
- 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
- 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
- 15回 全体まとめ

※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

市民活動論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 50%
期末試験... 50%

※最終レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合があります。その際の積極的な参加が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

地域福祉論 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW011F	○			◎	○
科目名	地域福祉論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

- ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂 等を含む）について理解する。
- ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。
- ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

（到達目標）

【知識】 地域福祉を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション力】 他者と協働して、地域福祉に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】 地域福祉に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

坂本毅啓（2022）『地方の地域福祉論』大学教育出版、2,800円＋税（予定価格）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 志賀信夫・ 畠中亨（2016）『地方都市から子どもの貧困をなくす 市民・行政の今とこれから』旬報社 1,400円＋税
 - 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座6 地域福祉と包括的支援体制』中央法規 2,900円＋税
 - 難波利光・ 坂本毅啓編（2017）『雇用創出と地域-地域経済・福祉・国際視点からのアプローチ-』大学教育出版 2,400円＋税
- その他、適宜授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域福祉の基本的考え方と理念【構造的アプローチ、機能的アプローチ】
- 2回 地域福祉の発展過程1【セツルメント運動、シーボーム報告、グリフィス報告】
- 3回 地域福祉の発展過程2【高齢化、社会福祉八法改正、非貨幣的ニード】
- 4回 地域福祉の理念【人権尊重、社会連帯】
- 5回 地域福祉の理念【ノーマライゼーション、福祉コミュニティ】
- 6回 地域包括ケアと地域共生社会【地域包括ケア、多機関協働、生活困窮者自立支援】
- 7回 地域のとらえ方と福祉圏域【コミュニティ、圏域、アソシエーション】
- 8回 コミュニティソーシャルワークの考え方【チームアプローチ、ニーズ】
- 9回 コミュニティソーシャルワークの方法【地域福祉計画、ケアマネジメント】
- 10回 貧困と地域福祉活動【社会福祉協議会、貧困の連鎖】
- 11回 障害者と地域福祉活動【総合支援法、成年後見制度、QOL】
- 12回 高齢者と地域福祉活動【地域包括支援センター、民生委員、社会福祉法人】
- 13回 女性と地域福祉活動【子育て支援、一人親家庭】
- 14回 子どもと地域福祉活動【児童館、保護司】
- 15回 災害と地域福祉活動【非常時や災害時における法制度、福祉避難所、災害ボランティア】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に指示する課題の提出・・・40% 期末試験・・・60%
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、教科書や参考文献の講義内容に関する箇所を読み込んだり、関連する情報の収集などを行って下さい。
事後学習としては、講義で学んだことを通して、自分の住んでいる地域について調べたり、新聞等の記事に書かれている地域福祉に関するニュースについて調べて考察をしてください。授業中に課題が出た場合は、必ず取り組むようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

この科目は、基盤教育科目として開講される科目ですが、地域創生学群において社会福祉士養成課程における科目「地域福祉の理論と方法」に含まれる科目のひとつ(もうひとつは地域創生学群専門科目の「コミュニティワーク論」)でもあります。2019年度以降の地域創生学群入学生で、社会福祉士国家試験受験資格取得を希望される場合は、この科目の履修が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これからも地域で生活をしていくための教養として、「福祉のまちづくり」について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

SDGs1.貧困をなくそう、SDGs3.健康と福祉を、SDGs4.不平等をなくす、SDGs11.まちづくり、福祉のまちづくり、少子高齢化、子どもの貧困、コミュニティソーシャルワーク、社会福祉士

メンタル・ヘルス【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY001F					◎
科目名	メンタル・ヘルス				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

授業のねらい、テーマ

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルなタフさがなければ生活人としての活動は難しい世相である。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされ、ストレスに関連した多くの疾病に見舞われる危険も多くなっている。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。

本講義では一般的な心理学やアドラー心理学や森田療法を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的かつ発達の視点からとらえ日々の生活と人生を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。またメンタルに関連するソーシャルヘルス（社会的健康）やSDGs（持続可能な開発目標）にも触れる。具体的には青年期と成人期の心の健康（SDGs 3）や平和と暴力（SDGs 16）をテーマに持続可能な豊かな社会を求めよう行動するかを皆で考える授業である。

（到達目標）【自立的行動力】自分自身の心の健康に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人生」中島俊介 編著 ナカニシヤ出版 2017 定価2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「森田療法」 岩井 寛 著 講談社現代新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール

- 第1回 メンタルヘルスとは……メンタルヘルスの歴史・最近の推移・受講上の注意
- 第2回 心の健康と人生……人間の発達・社会と心理学・生涯発達の理論
- 第3回 胎児・乳幼児のこころの健康……胎児の能力・誕生の危機・乳児の課題
- 第4回 幼児期・学童期の心の健康……自律と積極性・しつけ・勤勉性と劣等感
- 第5回 思春期の心理学……思春期の特徴とその対応。適応の困難さと向き合う
- 第6回 青年期……同一性（アイデンティティ）の心理・LGBTの理解
- 第7回 若い成人期……親密性の発達。働く上でのメンタルヘルス
- 第8回 ライフスタイル診断とこころの健康……うつ病・神経症など
- 第9回 発達障害についての理解 1…ADHD・LD・アスペルガーなどの基本的知識
- 第10回 発達障害についての理解 2…実際の対応の仕方、留意点
- 第11回 成人期の心の健康……生きがい・職場の心理学
- 第12回 老年期の心の健康……高齢者と認知症の心理
- 第13回 平和と暴力 1……社会的健康を阻害する暴力
- 第14回 平和と暴力 2……人権と対話の文化を・SDGs（持続可能な開発目標）の理解
- 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回の授業への参加熱意と態度(40%)②定期試験もしくは期末課題レポート(60%)
(注意:「評価不能」について。認められた事由のない欠席回数が総授業回数の過半数を超える場合と期末定期試験を認められた事由なしに受験しなかった場合は「評価不能」とします。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にすることが大切だと考える。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に対する質問や感想を小片紙に書いてもらうので積極的な姿勢で毎回の授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

SDGs 3「健康と福祉」、SDGs 16「平和と公正」に強い関連がある。

ミクロ経済学I【夜】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN113M	○	◎	○		
科目名	ミクロ経済学 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。具体的に、本講義は、「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を深めることを目的とする。

(到達目標)

【知識】ミクロ経済学に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】ミクロ経済分析を行うのに必要なスキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】ミクロ経済の諸問題について、思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済(○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社(○)
- ・ J. E. スティグリッツ(藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：「ミクロ経済学」とは
- 2回 【市場メカニズム】(復習)、経済学と数学など
- 3回 需要、供給、および政府の施策(1)：【価格規制】
- 4回 需要、供給、および政府の施策(2)：【課税】
- 5回 市場と厚生(1)：【余剰】
- 6回 市場と厚生(2)：市場の【効率性】
- 7回 需給分析の応用(1)：【価格規制の余剰分析】
- 8回 需給分析の応用(2)：【課税の余剰分析】
- 9回 市場と企業行動(1)：【生産】【費用】【長期と短期】
- 10回 市場と企業行動(2)：【限界分析】【限界収入】【限界費用】
- 11回 市場と企業行動(3)：【利潤最大化】、供給曲線の導出
- 12回 様々な【市場構造】
- 13回 ミクロ経済学の展開(1)：【市場メカニズムの限界】
- 14回 ミクロ経済学の展開(2)：「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

ミクロ経済学I【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

- ・ 「経済学入門A・B」の授業内容を十分に理解しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 学生証を持参すること

キーワード /Keywords

- ・ 経済学的考え方、市場均衡、比較静学、余剰分析、市場の効率性、市場構造、限界分析

ミクロ経済学Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年次
単位 /Credits 2単位 2単位
学期 /Semester 1学期 1学期
授業形態 /Class Format 講義 講義
クラス /Class 2年 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN210M	○	◎	○		
科目名	ミクロ経済学Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本講義は、「ミクロ経済学Ⅰ」もしくは「ミクロ経済学」（旧カリ科目）の内容をベースにし、ミクロ経済学の基礎的な知識をより深く理解することを目的とする。具体的に、ここでは、消費者行動の理論と生産者行動の理論を中心に、個別経済主体の最適行動の決定から出発するミクロ経済学の論理と基本的分析手法を理解する。

(到達目標)

- 【知識】ミクロ経済学に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。
- 【技能】ミクロ経済分析を行うのに必要なスキルを身につけている。
- 【思考・判断・表現力】ミクロ経済の諸問題について、思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学Ⅰミクロ編』東洋経済(○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社(○)
- ・ J. E. スティグリッツ(藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：経済と経済分析手法
- 2回 ミクロ経済学と数学：微分・積分
- 3回 家計の理論【消費者行動の理論】(1)：消費と選好、効用
- 4回 家計の理論【消費者行動の理論】(2)：無差別曲線、予算線
- 5回 家計の理論【消費者行動の理論】(3)：【最適消費の決定】と需要曲線の導出など
- 6回 家計の理論【消費者行動の理論】(4)：需要の決定要因
- 7回 【消費者行動の理論】とその応用
- 8回 企業の理論【生産者行動の理論】(1)：企業の目的、生産、費用、利潤
- 9回 企業の理論【生産者行動の理論】(2)：等量曲線、等費用線
- 10回 企業の理論【生産者行動の理論】(3)：【最適生産の決定】と供給曲線の導出など
- 11回 【生産者行動の理論】とその応用
- 12回 市場と市場の効率性(1)：【パレート最適】
- 13回 市場と市場の効率性(2)：「厚生経済学」の基本的考え方
- 14回 ミクロ経済学再考、展開
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

ミクロ経済学II 【夜】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 新カリの受講者は「ミクロ経済学I」の授業内容を、また旧カリ(中級ミクロ経済学)の受講者は、「ミクロ経済学」の授業内容を十分に理解しておくとともに高校レベルの数学(微分・積分)の基礎的な知識について復習しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 学生証を持参すること

キーワード /Keywords

- ・ 消費者行動理論、生産者行動理論、パレート最適、厚生経済学

マクロ経済学Ⅰ【夜】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN114M	○	◎	○		
科目名	マクロ経済学Ⅰ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその運動のメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、その主要目的は景気循環や経済成長といった諸現象の解明にある。この講義では、マクロ経済学の基礎理論の解説を通じて、一国の景気の良し悪しを決定する要因は何か、株価などの資産価格の水準やその変動を規定する要因は何か、といった問題に対する理解を深めることを目的とする。

(到達目標)

【知識】マクロ経済学に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】マクロ経済分析に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】マクロ経済について、論理的に思考して解決策を探索し、専門の見地から自分の意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(1) 【金融取引と金融市場】
- 3回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(2) 【株式の適正価値】
- 4回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(3) 【割引現在価値計算】
- 5回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(4) 【割引現在価値計算】【債券】【リスクと流動性】
- 6回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(5) 【資産価格バブル】【楽観的期待】【投機的取引】
- 7回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(6) 【バブルと資源配分】
- 8回 GDPとマクロ経済循環(1) 【GDP】【付加価値】【最終財】
- 9回 GDPとマクロ経済循環(2) 【三面等価】【貯蓄投資バランス】
- 10回 GDPとマクロ経済循環(3) 【GDPデフレーター】
- 11回 ケインズの不況理論(1) 【GDPギャップ】【ベビーシッター組合の寓話】【45度線分析】
- 12回 ケインズの不況理論(2) 【均衡の安定性】【比較静学】
- 13回 ケインズの不況理論(3) 【貯蓄のパラドックス】【乗数効果】
- 14回 ケインズの不況理論(4) 【財政の3機能】【財政政策】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題：25%、期末試験：75%

(期末試験を受験しなかった場合、評価不能(-)とする)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習を欠かさず行うこと。授業の理解に有益な読書や映像視聴などを行うこと。

マクロ経済学I【夜】

履修上の注意 /Remarks

経済学は「積み重ねの学問」なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学II 【夜】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN211M	○	◎	○		
科目名	マクロ経済学II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学Iに引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。講義の前半では、ケインズ的な短期モデル (=45度線モデルやIS-LMモデル) を説明し、不況のメカニズムや財政・金融政策の役割について理解を深める。講義の後半では、長期の経済成長モデルについて説明し、一国の経済成長の原動力や経済成長のメカニズムなどを学ぶ。

(到達目標)

【知識】マクロ経済学に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】マクロ経済分析に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】マクロ経済について、論理的に思考して解決策を探索し、専門の見地から自分の意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 45度線モデル(1) 【経済循環図】【45度線モデル】【均衡GDP】
- 3回 45度線モデル(2) 【財政政策】【ケインズの財政政策の問題点】
- 4回 流動性選好理論(1) 【資産選択】【貨幣と債券】【流動性】
- 5回 流動性選好理論(2) 【貨幣供給】【貨幣需要】【均衡利子率】
- 6回 流動性選好理論(3) 【中央銀行】【公開市場操作】
- 7回 中央銀行と金融政策(1) 【中央銀行の目的と機能】【公開市場操作】【ハイパワードマネー】
- 8回 中央銀行と金融政策(2) 【貨幣乗数】【アベノミクス】
- 9回 仮想通貨について 【貨幣の条件】【仮想通貨と地域通貨】【ネットワークの外部性】
- 10回 IS-LMモデル(1) 【IS曲線】【LM曲線】
- 11回 IS-LMモデル(2) 【財政・金融政策】【クライディングアウト】
- 12回 経済成長理論(1) 【マクロ生産関数】【成長会計】
- 13回 経済成長理論(2) 【新古典派成長理論】【収束】
- 14回 経済成長理論(3) 【内生的成長理論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題：25%， 期末試験：75%
(期末試験を受験しなかった場合、評価不能(-)とする)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習を欠かさず行うこと。授業の理解に有益な読書などを行うこと。

マクロ経済学II 【夜】

履修上の注意 /Remarks

経済学は「積み重ねの学問」なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域経済【夜】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN232M	◎		○		○
科目名	地域経済		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

今日地域経済を取り巻く環境は大きく変化している。経済のグローバル化を基軸として、経済活動の空間的範囲が大幅に見直されていることが原因である。コロナ禍という大きな変化に直面した現在こそ、事象の体系的理解と長期的な視点とが必要となる。本講義では主に以下の3つの論点を学習する。

1. 地域経済を理解する枠組みとして「地域構造論」を学ぶ。
2. 地域構造を高度化する諸要因を学ぶ。
3. ポスト・コロナの今日における地域経済の諸問題を考える。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村大樹『空間的情報流と地域構造』原書房、2004年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域経済とは(講義の概要)
- 2回 地域構造論概説【地域構造】
- 3回 地域構造の高度化①【産業構造】
- 4回 工業化の進展【重化学工業化】【高加工度化】
- 5回 第3次産業の拡大①【サービス経済化】
- 6回 第3次産業の拡大②【情報化】
- 7回 地域構造の高度化②【空間的情報流】
- 8回 企業内分業の進展①【工場立地】【オフィス立地】
- 9回 企業内分業の進展②【都市システム】
- 10回 一体型国土構造の形成【一軸一極】
- 11回 コンピュータ・ネットワークと市場【市場の広がり】
- 12回 市場の世界化【金融市場】【物財市場】【労働市場】
- 13回 地域経済をめぐる今日の諸問題【地方消滅】【地方創生】
- 14回 ポストコロナの地域経済【コロナ禍】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニレポート ... 50%(計) 期末試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講後に講義の流れを再確認しておくこと。
また、事前に公開する資料に目を通しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

「経済地理学」を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどで「の地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は「地域経済特講」「地域政策」の基礎となっている。

地域経済【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論I【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN224M	◎	○	○		
科目名	国際経済論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、自由貿易交渉、貿易摩擦、海外直接投資など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。

<本講義の概要>

- 1、国家間の貿易の発生する仕組みや貿易の利益など伝統的な貿易理論を学ぶ。
- 2、輸入関税、輸出補助金など貿易政策の経済効果を部分均衡分析を用いて学ぶ。
- 3、地域貿易協定締結の経済的影響について理解する。

<本講義の主な到達目標>

- 1、国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
- 2、貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
- 3、グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大川昌幸著『コア・テキスト国際経済学』（第2版）（新世社）
石川城太他著『国際経済学をつかむ（第2版）』（有斐閣）
石井安憲他著『入門・国際経済学』（有斐閣）
阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』（有斐閣アルマ）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リカード・モデル（1）【絶対優位】【比較優位】
- 3回 リカード・モデル（2）【貿易パターン】【相対価格の決定】
- 4回 リカード・モデル（3）【貿易の利益】
- 5回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（1）【要素賦存】【要素集約度】
- 6回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（2）【要素賦存と生産】【貿易パターン】
- 7回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（3）【財価格と要素価格】【要素価格均等化】
- 8回 部分均衡分析【消費者余剰】【生産者余剰】
- 9回 貿易政策の分析（1）【輸入関税】
- 10回 貿易政策の分析（2）【輸入数量制限】
- 11回 貿易政策の分析（3）【輸出補助金】【輸出自主規制】
- 12回 貿易政策の分析（4）【有効保護】
- 13回 地域貿易協定（1）【自由貿易協定】【関税同盟】
- 14回 地域貿易協定（2）【貿易創出効果】【貿易転換効果】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り組み 30% 期末試験 70%

国際経済論I 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回予習・復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』（日本評論社）を参照されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論特講」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

比較優位、要素賦存、貿易政策、自由貿易協定

国際経済論II 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN225M	◎	○	○		
科目名	国際経済論特講			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、自由貿易交渉、貿易摩擦、海外直接投資など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。

<本講義の概要>

- 1、貿易政策（主に大国のケース）の経済効果を学ぶ。
- 2、国際労働移動、海外直接投資が起こる理由と経済的影響について学ぶ。
- 3、貿易政策と環境政策のお互いに与える影響を理解する。

<本講義の主な到達目標>

- 1、国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
- 2、貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
- 3、グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』（有斐閣アルマ）
大川昌幸著『コア・テキスト国際経済学』（第2版）（新世社）
石川城太他著『国際経済学をつかむ（第2版）』（有斐閣）
石井安憲他著『入門・国際経済学』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 貿易政策の分析基礎（1）【消費者余剰】【生産者余剰】
- 3回 貿易政策の分析基礎（2）【貿易の利益】
- 4回 貿易政策の経済分析（1）【輸入関税政策】
- 5回 貿易政策の経済分析（2）【最適関税】【近隣窮乏化】
- 6回 貿易政策の経済分析（3）【輸入数量制限】
- 7回 貿易政策の経済分析（4）【輸出補助金】
- 8回 生産要素の国際移動（1）【限界生産物】【労働所得】【資本所得】
- 9回 生産要素の国際移動（2）【海外直接投資】
- 10回 生産要素の国際移動（3）【国際労働移動】
- 11回 貿易と環境（1）【貿易政策から環境への影響】
- 12回 貿易と環境（2）【排出権取引】
- 13回 貿易と環境（3）【環境政策から貿易への影響】
- 14回 貿易と環境（4）【外部不経済】【ピグー税】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り組み 30% 期末試験 70%

国際経済論II 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回予習・復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学、国際経済論Iをすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済論Iの履修済みが望ましい。

キーワード /Keywords

貿易政策、最適関税、国際労働移動、海外直接投資、貿易と環境

財政学 【夜】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN320M	◎	○	○		
科目名	財政学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業では基本的な財政の仕組みと制度、財政の問題に関して経済学的視点から議論します。内容としては財政の基本的な役割である「資源配分機能」、「再分配機能」、「景気安定化機能」について学びます。この3つの政府の役割と政策の在り方について経済理論を用いて正しく理解し、説明できることを目標とします。用いる経済理論はミクロ経済学やマクロ経済学の基本的なモデルの応用です。経済学を勉強していない人にも毎回配るレジュメにベースに基本的な内容から説明していきます。

(到達目標)

【知識】 財政に関して専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】 財政問題の基礎的な分析を行う理論的手法を身につけている。

【思考・判断】

財政問題について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『財政学をつかむ』 畑農鋭矢 林正義 吉田浩 著 有斐閣
- 『公共経済学』 林正義 小川光 別所俊一郎 著 有斐閣アルマ
- わかる！ミクロ経済学 - レクチャーとエクササイズ - 篠原総一 著 有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション：財政の役割
- 2 財政の仕組み
- 3 租税の概観と財政収支について
- 4 価格メカニズムと資源配分および所得分配
- 5 市場と資源配分の効率性① 【効率性の基準：効用水準とパレート基準の考え方】
- 6 市場と資源配分の効率性② 【純粋交換経済における競争市場】
- 7 社会厚生と再分配政策
- 8 公共財① 【公共財とは何か】
- 9 公共財② 【公共財の自発的供給と非効率性】
- 10 公共財③ 【公共財の最適供給条件とリンダールメカニズムについて】
- 11 1 景気変動と経済成長について 【「セイの法則」と「ケインズの有効需要」】
- 12 景気安定化機能の役割
- 13 財政政策の乗数効果
- 14 演習
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験もしくは期末レポートのどちらかで100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として参考文献の指定箇所を一読しておいてください。予習の目安は30分です。

事後学習として配布資料・プリントの内容の復習と練習問題を解いておいてください。復習の目安は50分です。

財政学 【夜】

履修上の注意 /Remarks

- 1) 主に配布資料・プリントの復習を十分に行って次回の授業に臨むようにしてください。
- 2) 配布資料・プリントはMoodleから各自でダウンロードできます。
- 3) わからないところはどんどん質問に来てください。毎回必ず質問に来られる学生さんもおられます。練習問題の答えを教えてくださいといった申し出には応じれないことがあります。それ以外の講義内容に関する質問には必ず応じます。
- 4) 授業にほとんど出席しないで試験に臨んでもおそらく試験に対応できませんので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の基本的な考え方、分析方法、財政学のエッセンスを一度に習得できるところがこの授業の売りです。
財政学と財政学特講はセットで履修することをお勧めします。

キーワード /Keywords

財政

財政学特講【夜】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN321M	◎	○	○		
科目名	財政学特講				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業ではマクロ経済の中で議論される財政政策について講義します。講義の前半では政府が主に景気安定化対策として行う財政政策とその有効性について学びます。バブルの崩壊やリーマンショックなど国内外の経済ショックによって経済の潜在的な活動水準が低下したときに、景気安定化としての財政政策には経済全体の有効需要を作用し、失業やGDPを潜在的な水準に戻すという重要な役割があります。しかし、この財政政策の有効性について疑問視する考え方もありますのでそれについても議論したいと思います。後半では公債（政府の債務）の償還問題や公的年金制度の問題といった世代をまたいだ長期の財政問題について基本的な考え方を学びます。少子高齢化社会のなかで国の財政と公的年金制度をどう持続していくのかという問題に対して経済学的視点から議論します。この講義の到達目標は①景気安定化政策、②政府債務の問題、③少子高齢化と公的年金制度の問題について経済理論を用いて正しく理解し、説明できることです。

（到達目標）

【知識】現代の主要な財政問題に関して専門的な知識を体系的に身につけている。

【技能】現代の主要な財政問題の分析を行う理論的手法を身につけている。

【思考・判断】

財政問題について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『財政学をつかむ』 畑農鋭矢 林正義 吉田浩 著 有斐閣
- マンキュー マクロ経済学 I 入門編 と II 応用編 N. グレゴリー・マンキュー (著), 足立英之 (翻訳), 地主敏樹 (翻訳), 中谷武 (翻訳)
- マクロ経済学 二神孝一 堀敬一 (著) 有斐閣
- 公共経済学 林正義・小川光・別府俊一郎 (著) 有斐閣アルマ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 インTRODクシヨN : マクロ経済政策と財政
- 2 45度線モデルと乗数効果
- 3 乗数効果 : 公債発行と均衡財政
- 4 IS-LMモデル 財・サービス市場の均衡 / 貨幣市場の均衡
- 5 財政政策と金融政策 (IS-LM分析からのインプリケーション)
- 6 財政政策の効果とその有効性① (政策ラグや政策当局の政策運営の観点から)
- 7 長期の経済モデル①家計による異時点間の最適化行動
- 8 長期の経済モデル②企業行動 / 金融市場 / 資本蓄積
- 9 財政政策の効果とその有効性② (リカード=バローの中立命題について)
- 10 財政赤字/累積国債残高の問題点
- 11 財政の持続可能性
- 12 財政再建の議論
- 13 公的年金の財政方式
- 14 少子高齢化と年金収支率
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験もしくは期末レポートのどちらかで評価します。評価割合100%

財政学特講 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として参考文献の指定箇所を一読しておいてください。予習の目安は30分です。
事後学習として配布資料・プリントの内容の復習と練習問題を解いておいてください。復習の目安は50分です。

履修上の注意 /Remarks

- 1) 主に配布資料・プリントの復習を十分に行って次回の授業に臨むようにしてください。
- 2) 配布資料・プリントはMoodleから各自でダウンロードできます。
- 3) わからないところはどんどん質問に来てください。毎回必ず質問に来られる学生さんもおられます。練習問題の答えを教えてくださいといった申し出には応じれないことがあります。それ以外の講義内容に関する質問には必ず応じます。
- 4) 授業にほとんど出席しないで試験に臨んでもおそらく試験に対応できませんので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の基本的な考え方、分析方法、財政学のエッセンスを一度に習得できるところがこの授業の売りです。
財政学と財政学特講はセットで履修することをお勧めします。

キーワード /Keywords

財政

経営戦略論【夜】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS211M	◎	○	○		
科目名	経営戦略論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

現代社会は企業によって成り立っており、企業経営の成否は死活問題です。それでは企業は、競合他社のひしめく市場に身をおいて、どのように利益を上げ、生存を図っているのか。それを決定づける要因が経営戦略です。本講義では「戦略とは何か」という理解に立ちながら、経営戦略に関する基本的な理論、実践について考察していきます。

(到達目標)

【知識】

経営戦略に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】

経営戦略に関する諸問題を体系的に理解することができる。

【思考・判断・表現力】

経営戦略に関連する諸問題について論理的に思考し、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学（第3版）』有斐閣、2019年、2970円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

浅羽茂・牛島辰男著『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年(○)

ジェイ・B・バーニー(岡田正大訳)『企業戦略論』(上・中・下)ダイヤモンド社、2003年(○)。

沼上幹+一橋MBA戦略ワークショップ『戦略分析ケースブック Vol.2』東洋経済新報社、2012年。

C.I.バーナード(山本保次郎・田杉競・飯野春樹訳)『[新訳]経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年(○)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 経営戦略とは?① 【戦略という概念】【意思決定と戦略】【戦略的要因】
- 第3回 経営戦略とは?② 【経営戦略の概念】【経営戦略の2つのレベル】【経営戦略論史】
- 第4回 事業戦略① 【3つの基本戦略】
- 第5回 事業戦略② 【イノベーションとは何か】
- 第6回 事業戦略③ 【コスト・リーダーシップ戦略】
- 第7回 事業戦略④ 【差別化戦略】
- 第8回 事業戦略⑤ 【集中戦略】
- 第9回 企業戦略① 【多角化戦略】
- 第10回 企業戦略② 【PPM】
- 第11回 企業戦略③ 【持続的競争優位】【コア・コンピタンス】
- 第12回 企業戦略④ 【イノベーションを生み出す組織】
- 第13回 企業戦略⑤ 【資金調達戦略】【株主戦略】
- 第14回 企業戦略⑥ 【ドメイン】【破壊的技術】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...60% 小テスト...40%

なお、小テスト・学期末試験をまったく受験していない場合は、評価不能(-)とします。

経営戦略論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前に、テキストの該当箇所をしっかりと熟読してください。講義後、テキストおよびレジュメによって復習し、また自分なりに他の事例がないか調べてください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)
なお、適宜、レポート課題を出します。
また該当箇所の参考文献をよく読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて、臨機応変に進めていきたいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

【意思決定】 【目的と環境】 【事業戦略】 【企業戦略】 【競争優位】

都市環境論 【夜】

担当者名 吉田 舞 / Mai Yoshida / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC111M	◎	○	△		
科目名	都市環境論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業は「環境未来都市」北九州市に居住・通学する人間として、それにふさわしい生活態度や行動に連動させていくといった実践力を養うことを目的としています。本授業では、まず、自らの生活における環境意識を分析し、授業に臨みます。本授業では、「都市環境と生活」という視点から、特に近隣のアジア諸国で起きている環境にかかわる問題を取り上げ、そこで生活している人々が抱える問題などを考察します。さらに、これら問題の背景を、グローバルな観点から学ぶことを通して、日本で暮らす自分たちの<地続き>の問題として考察することを目指します。これにより、私たち自身が持続可能な都市生活を続けるためにも、本分野を生涯にわたって学習するという姿勢に連動することを望みます。

- { 知識 } 都市で生活する上で基礎となる知識を最低限身に着けている。
- { 技能 } 持続可能な都市を作る上での技能を獲得する。
- { 思考・判断・表現力 } 持続可能な都市の一員として政策に積極的に関与できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 石井正子『甘いバナナの苦い現実』2020, コモンズ。
- 鶴見良行『バナナと日本人』1982, 岩波新書。
- 長田華子『990円のジーンズがつくられるのはなぜ?』2016, 合同出版。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「都市環境論」の授業内容とねらい：簡単な環境意識度チェック【環境意識】
- 第2回グローバル化と都市環境【気候変動と私たち】
- 第3回途上国の都市環境問題【途上国と日本】
- 第4回フェミニズムの立場からみる環境問題【ジェンダーと環境】
- 第5回生活と水を考える：世界の水事情【安全な水】
- 第6回フィリピンの庶民バスが消える？コロナと大気汚染【大気汚染】
- 第7回フィリピンのゴミ山から考える私たちの暮らし【途上国と廃棄物】
- 第8回私たちが寄付した古着はどこに行く？【ファッションと環境】
- 第9回自然災害における危険とリスク【防災とコミュニティ】
- 第10回バナナと日本人：エシカルバナナと日本企業【食と農】
- 第11回ドキュメンタリー「スマホの真実」から考える【環境破壊】
- 第12回環境保全に取り組む人々とグローバルな連帯【環境保全運動】
- 第13回北九州市の環境の現状【北九州市】
- 第14回エコツーリズムと環境保全【エコツーリズム】
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト/課題/ワークシート50%、期末試験50%

※ 授業を5回以上欠席した場合、期末試験未受験者は「評価不能(-)」となります。

都市環境論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各種メディアを通じて提供される国内外の時事問題に関する情報に関心に向け、その概要を把握すること。

履修上の注意 /Remarks

受講生の人数や理解度、問題関心によって授業の内容を変更することがあります。
私語厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な授業への参加を期待します！

キーワード /Keywords

都市環境、生活、途上国、グローバル化

法学総論【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW100M	○	○	◎		
科目名	法学総論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

わが国の主要な法律である憲法、民法、刑法の特徴や基本原則についてお話しするとともに、法の一般的な特性や構造、その機能についても講義します。法の存在や仕組みを知り、判例を通じた法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得することを目的としています。

(到達目標)

- 【知識】 法学の初歩的な知識を身につけている
- 【技能】 法学的アプローチを行うための基礎的な技法を身につけている
- 【思考・判断・表現力】 社会的な問題に対し、法的に考え判断することができる

教科書 /Textbooks

佐藤幸治 = 鈴木茂嗣 = 田中成明 = 前田達明著『法律学入門 第3版補訂版』有斐閣 2008年 2,200円(税込み)
レジュメや資料も必要に応じてその都度配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中川善之助著泉久雄補訂『[補訂版] 法学』日本評論社 1985年
- 三ヶ月章著『法学入門』弘文堂 1981年
- 星野英一著『法学入門』有斐閣 2010年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 民法の世界① 【私的自治の原則】 【契約】
- 第3回 民法の世界② 【自然人】 【法人】 【所有権】
- 第4回 民法の世界③ 【過失責任】 【損害賠償】
- 第5回 民法の世界④ 【夫婦】 【親子】
- 第6回 刑法の世界① 【罪刑法定主義】 【犯罪】
- 第7回 刑法の世界② 【刑罰】 【刑事手続き】
- 第8回 憲法の世界① 【国民主権】 【基本的人権】
- 第9回 憲法の世界② 【権力分立】 【国会】 【裁判所】
- 第10回 法の仕組みと運用① 【法の特性】 【道徳】 【法の機能】
- 第11回 法の仕組みと運用② 【裁判規範】 【法源】
- 第12回 法の仕組みと運用③ 【裁判所】 【判例】
- 第13回 法の仕組みと運用④ 【法の適用】 【事実】 【法律要件】
- 第14回 法の仕組みと運用⑤ 【法の解釈】 【類推解釈】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度・・・10% レポート・・・30% 定期試験・・・60%
定期試験を受験しなかった場合は評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義に臨む際は、事前にレジュメや参考文献の該当部分を読んでおいてください。事後は、講義内容や資料、紹介する参考文献を参照しながら、問題点ごとにノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

講義には六法を持参してください。法学部以外の受講生には、池田真朗他編『法学六法'22』信山社（1,100円）をおすすめします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会規範 道徳 公法 私法 憲法 民法 刑法 裁判所 判例 裁判所

日本国憲法原論【夜】

担当者名 山本 健人 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW120M	○	○	◎		
科目名	日本国憲法原論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義では、憲法学及び日本国憲法の基礎的知識を学ぶことで、その全体像を把握することを目的とします。とりわけ、今後憲法学を深めていく上で、躓きやすいポイントや最重要と思われる点に絞って講義します。

(到達目標)

【知識】憲法学および近代立憲主義に関する基礎的知識を身につける。

【技能】憲法学および近代立憲主義を歴史的または社会的問題と結びつける基礎的な技法を身につける。

【思考・判断・表現力】憲法学および近代立憲主義に関する課題を発見し、法的または政治学的思考に基づいた判断を行うことができるようになる。

教科書 /Textbooks

大林啓吾 = 小林裕紀編『ケースで学ぶ憲法ナビ〔第2版〕』（みらい、2021年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○斎藤一久 = 堀口悟郎『図録 日本国憲法〔第2版〕』（弘文堂、2021年）

○新井誠 = 曾我部真裕 = 佐々木くみ = 横大道聡『憲法I・II〔第2版〕』（日本評論社、2021年）

○上田健介 = 尾形健 = 片桐直人『憲法判例50!〔第2版〕』（有斐閣、2020年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス・憲法とは何か①—憲法の基礎
- 第2回 憲法とは何か②—近代立憲主義・日本国憲法の基本原理
- 第3回 日本国憲法史・天皇制
- 第4回 平和主義
- 第5回 統治機構①—国会 / 立法権
- 第6回 統治機構②—内閣 / 行政権
- 第7回 統治機構③—裁判所 / 司法権
- 第8回 統治機構④—地方自治制度
- 第9回 人権総論①—人権の理念と憲法上の権利
- 第10回 人権総論②—憲法上の権利の射程
- 第11回 人権総論③—憲法上の権利の限界と違憲審査の方法
- 第12回 人権各論①—国家からの自由
- 第13回 人権各論②—国家による自由・国家への自由
- 第14回 人権各論③—包括的基本権
- 第15回 憲法の改正

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70% + 小テスト30%

期末試験を受験しなかった場合は評価不能(－)とします

日本国憲法原論【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画や講義の進行を参考に、指定教科書の次回講義該当部分を予め読んでおくこと。
また、各回の内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの5「ジェンダー平等を実現しよう」、10「人や国の不平等をなくそう」、16「平和と公平をすべての人に」という目標に関連しています。

キーワード /Keywords

憲法総論、基本的人権、統治機構